

平成25年度  
(2013)

# 授 業 概 要

(専門科目シラバス)



Faculty of Engineering  
The University of Tokushima

徳島大学工学部

全学科(昼間)

キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction to Career Planning (1)] … 全学科/田中/1年・前期 ……………	1
キャリアプラン入門Ⅱ [Introduction to Career Planning (2)] … 全学科/田中/1年・後期 ……………	1
キャリアプランⅠ [Career Planning (1)] … 全学科/田中/2年・前期 ……………	2
キャリアプランⅡ [Career Planning (2)] … 全学科/田中/2年・後期 ……………	2
短期インターンシップ [Short-Term Internship] … 全学科/山野 他/3年・前期 ……………	3
キャリアプランⅢ [Career Planning (3)] … 全学科/田中/4年・後期 ……………	3
知的財産事業化演習 [Seminar on Industrialization of Intellectual Property] … 全学科/ 出口 他/3又は4年・前期……………	4
知的財産の基礎と活用 [Intellectual Property] … 全学科/工学部教務委員長 他/3又は4年・前期 ……	4
ニュービジネス概論 [Introduction to New Business] … 全学科/工学部副教務委員長/4年・前期 ……	5
福祉工学概論 [Introduction to Well-being Technology for All] … 全学科/藤澤 他/2年・3年・4年・前期…	5
アイデア・デザイン創造 [Creation of idea and design] … 全学科/出口 他/2年・前期 ……………	5
自主プロジェクト演習 1 [Exercise of Autonomy Project 1] … 全学科(光応用工学科を除く)/ 藤澤 他/1年・通年……………	6
自主プロジェクト演習 2 [Exercise of Autonomy Project 2] … 全学科(光応用工学科を除く)/ 藤澤 他/2年・通年……………	6
自主プロジェクト演習 3 [Exercise of Autonomy Project 3] … 全学科(光応用工学科を除く)/ 藤澤 他/3年・通年……………	7
初級技術英語 [Basic Technical English] … 全学科/ Koinkar /1年・後期 ……………	7
中級技術英語 [Technical English] … 全学科/ Koinkar /2年・前期 ……………	8
上級技術英語 [Advanced Technical English] … 全学科/ Koinkar /2年・後期 ……………	8
実用技術英語 [Practical Technical English] … 全学科/ Koinkar /3年・前期……………	8
英語プレゼンテーション技法 [Scientific Presentation Skills] … 全学科/ Koinkar /3年・後期 ……	9
プロジェクトマネジメント基礎 [Project Management Fundamentals] … 全学科(光応用工学科を除く)/ 藤澤 他/1年・前期……………	9
工業基礎数学 [Industrial Basic Mathematics] … 全学科/非常勤/1年・前期……………	10
工業基礎英語 [Industrial Basic English] … 全学科/非常勤/1年・前期……………	10
工業基礎物理 [Industrial Basic Physics] … 全学科/非常勤/1年・前期……………	11
職業指導 [Vocational Guidance] … 全学科/非常勤/4年・前期……………	11

開講学期	1年・前期	時間割番号	5101010
科目分野	キャリア教育科目		
選必区分	必修		
科目名	キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction to Career Planning (1)]		
担当教員	田中 徳一 [Tokuichi Tanaka], クラス担任, 非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	全学科
授業の目的	技術者を取巻く今日の社会環境について講義し、技術者を目指す新入生諸君が自立的で有意義な学生生活を構築するとともに将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う。また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。		
授業の概要	まず特任教員により、授業ガイダンスおよび web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある。次いで、特任教員、各学科関連教員および非常勤講師等が、順次、工学、技術者、企業、社会等ならびにそれらの関係に関する講義を行う。また受講者はそれらを踏まえて自らの夢を描くとともに技術者としてのライフプランを作成する。第 8,12,15 回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。 なお各回の学習内容の要点等は web 版キャリア学習ポートフォリオに記入し、授業終了後に学科教員のチェックを受ける。		
キーワード	キャリア学習ポートフォリオ, 社会人基礎力, 技術者, 社会, 企業, ライフプラン		
到達目標	技術者と社会の係わりについて理解するとともに、キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。		
授業の計画	6 技術者の論理	11 企業を取り巻く環境の変化(2)	
1 ガイダンス	7 技術者と企業	12 企業とその戦略/レポート 2/3	
2 キャリア学習ポートフォリオ利用法	8 企業と使命/レポート 1/3	13 技術者としての先輩の話をお聞き	
3 求められる社会人基礎力(基礎編)	9 社会の仕組み	14 ライフプラン作成/レポート 3/3	
4 求められる社会人基礎力(応用編)	10 企業を取り巻く環境の変化(1)	15 総括授業・アンケート	
5 新聞を使って「考える力」を養う			
教科書	特に指定なし。		
参考書	授業中に適宜プリント等を配布する。		
成績評価の方法	到達目標の達成度を、3回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点(70 点満点)の平均点とポートフォリオ評点(30 点満点)の合計が 60 点以上を合格とする。		
再試験の有無	なし		
受講者へのメッセージ	必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。		
JABEE 合格	達成		
学習教育目標との関連	達成		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中 徳一:(Tel:656-9320, E-mail:t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) 田中 徳一:E-mail:t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp		
備考			

開講学期	1年・後期	時間割番号	5101020
科目分野	キャリア教育科目		
選必区分	必修		
科目名	キャリアプラン入門Ⅱ [Introduction to Career Planning (2)]		
担当教員	田中 徳一 [Tokuichi Tanaka], クラス担任, 非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	全学科
授業の目的	各種職業について知るとともに自らの立ち位置ならびに適性を把握する。コミュニケーション技法を学び、キャリアプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と能力を養う。また、経済新聞から様々な情報収集のしかたを学ぶ。		
授業の概要	まずいろいろな職業(業種と職種)について学び、次いでコンピテンシーの意義を学び、Web 版キャリア学習ポートフォリオに各自が目標とするコンピテンシーを設定する。次に自己分析ならびに基礎学力把握演習により現時点における適正と基礎学力を把握する。つづいてキャリアプラン作成を体験するとともに、経済新聞から企業の実力ならびに戦略等、情報の取り方を学ぶ。第 7,11 回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。総括授業では2年次以降のキャリア教育科目(選択科目)に関する説明が行われる。 なお各回の学習内容の要点等を web 版キャリア学習ポートフォリオに記入し、授業終了後に学科教員のチェックを受ける。		



<b>キーワード</b>	職業, キャリアプラン, ライフプラン, 適性把握, 新聞, コンピテンシー, SPI 試験																
<b>到達目標</b>	様々な職業, ならびに自らの適性と希望する職業に必要な能力等を把握するとともに, キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。																
<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td>1 ガイダンス</td> <td>8 コミュニケーション(1)</td> </tr> <tr> <td>2 いろいろな職業・業種</td> <td>9 コミュニケーション(2)</td> </tr> <tr> <td>3 コンピテンシーの意義と考え方</td> <td>10 キャリアプラン体験講座(1)</td> </tr> <tr> <td>4 適性・基礎学力把握演習(1)</td> <td>11 キャリアプラン体験講座(2)/レポ(2/2)</td> </tr> <tr> <td>5 適性・基礎学力把握演習(2)</td> <td>12 経済新聞の読み方</td> </tr> <tr> <td>6 適性・基礎学力把握演習(3)</td> <td>13 新聞から会社の実力を知る</td> </tr> <tr> <td>7 適性・基礎学力把握演習(4)/レポ(1/2)</td> <td>14 新聞から会社の戦略を知る</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15 総括授業・アンケート</td> </tr> </table>	1 ガイダンス	8 コミュニケーション(1)	2 いろいろな職業・業種	9 コミュニケーション(2)	3 コンピテンシーの意義と考え方	10 キャリアプラン体験講座(1)	4 適性・基礎学力把握演習(1)	11 キャリアプラン体験講座(2)/レポ(2/2)	5 適性・基礎学力把握演習(2)	12 経済新聞の読み方	6 適性・基礎学力把握演習(3)	13 新聞から会社の実力を知る	7 適性・基礎学力把握演習(4)/レポ(1/2)	14 新聞から会社の戦略を知る		15 総括授業・アンケート
1 ガイダンス	8 コミュニケーション(1)																
2 いろいろな職業・業種	9 コミュニケーション(2)																
3 コンピテンシーの意義と考え方	10 キャリアプラン体験講座(1)																
4 適性・基礎学力把握演習(1)	11 キャリアプラン体験講座(2)/レポ(2/2)																
5 適性・基礎学力把握演習(2)	12 経済新聞の読み方																
6 適性・基礎学力把握演習(3)	13 新聞から会社の実力を知る																
7 適性・基礎学力把握演習(4)/レポ(1/2)	14 新聞から会社の戦略を知る																
	15 総括授業・アンケート																
<b>教科書</b>	適宜資料等を配布する。																
<b>参考書</b>	授業中に適宜紹介する。																
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度を, 2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点(70点満点)の平均点とポートフォリオ評点(30点満点)の合計が60点以上を合格とする。																
<b>再試験の有無</b>																	
<b>受講者へのメッセージ</b>	必ず出席し, レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。																
<b>JABEE合格</b>																	
<b>学習教育目標との関連</b>																	
<b>WEB ページ</b>																	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中 徳一(Tel:656-9320, E-mail:t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) E-mail:t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp																
<b>備考</b>																	

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5101030										
<b>科目分野</b>	キャリア教育科目												
<b>選必区分</b>	選択												
<b>科目名</b>	キャリアプラン I [Career Planning (1)]												
<b>担当教員</b>	田中 徳一 [Tokuichi Tanaka], 非常勤講師												
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科										
<b>授業の目的</b>	自分のキャリアデザインにあった仕事をリサーチするための素養を養うとともに, 就職活動において不可欠な日本語力, コミュニケーション力およびプレゼンテーション力の向上を図る。												
<b>授業の概要</b>	まず徳島大学の進路情報と合わせて就職環境の変化など, 就職環境全般の知識を習得する。次に種々の分野の職業人によるジョブリサーチ講座が実施される。次いで, 就業力に重要な日本語力, コミュニケーション力を向上させるための演習を実施する。またアクティブラーニングの一環として, 経済新聞を用いて情報収集・取りまとめをするとともに, 全員の前でプレゼンテーションを行う。第 9,15 回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。なお各回の学習内容の要点等は web 版キャリア学習ポートフォリオに記入し, 授業終了後にキャリア教育担当教員のチェックを受ける。												
<b>キーワード</b>	ジョブリサーチ, 日本語力, コミュニケーション力, プレゼンテーション力												
<b>先行/科目</b>	『キャリアプラン入門 I [Introduction to Career Planning (1)]』(1.0) 『キャリアプラン入門 II [Introduction to Career Planning (2)]』(1.0)												
<b>到達目標</b>	ジョブリサーチのための素養, ならびに就業力に最低限必要な日本語力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を身に付けるとともに, キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。												
<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td>6 ジョブリサーチ講座(1)</td> <td>11 コミュニケーション演習</td> </tr> <tr> <td>7 ジョブリサーチ講座(2)</td> <td>12 発表用資料整理・分析取り纏め</td> </tr> <tr> <td>8 発表資料進捗確認・指導</td> <td>13 プレゼンテーション演習(1)</td> </tr> <tr> <td>9 ジョブリサーチ講座(3)/レポ(1/2)</td> <td>14 プレゼンテーション演習(2)</td> </tr> <tr> <td>10 日本語力(エントリーシート)演習</td> <td>15 プレゼンテーション演習(3)/レポ(2/2)</td> </tr> </table>	6 ジョブリサーチ講座(1)	11 コミュニケーション演習	7 ジョブリサーチ講座(2)	12 発表用資料整理・分析取り纏め	8 発表資料進捗確認・指導	13 プレゼンテーション演習(1)	9 ジョブリサーチ講座(3)/レポ(1/2)	14 プレゼンテーション演習(2)	10 日本語力(エントリーシート)演習	15 プレゼンテーション演習(3)/レポ(2/2)		
6 ジョブリサーチ講座(1)	11 コミュニケーション演習												
7 ジョブリサーチ講座(2)	12 発表用資料整理・分析取り纏め												
8 発表資料進捗確認・指導	13 プレゼンテーション演習(1)												
9 ジョブリサーチ講座(3)/レポ(1/2)	14 プレゼンテーション演習(2)												
10 日本語力(エントリーシート)演習	15 プレゼンテーション演習(3)/レポ(2/2)												
<b>教科書</b>	特に指定なし。												
<b>参考書</b>	授業中に適宜プリント等を配布する。												

<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度を, レポート2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評価の合計(100点満点)が60点以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	1)必ず出席し, レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。2)この授業の受講に必要な「先行/科目」規定について, 編入学性は対象となりません。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中 徳一(Tel:656-9320, E-mail:t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) E-mail:t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 13:00~14:00
<b>備考</b>	1)受講者が多い場合は最初の授業時に受講者調整を行いますので, 初回授業の2日前までに, 必ず履修登録を済ませておいてください。登録されていない場合は, 受講できないことがあります。2)副教材で自己負担(2千程度)をお願いする場合があります。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5101040														
<b>科目分野</b>	キャリア教育科目																
<b>選必区分</b>	選択																
<b>科目名</b>	キャリアプラン II [Career Planning (2)]																
<b>担当教員</b>	田中 徳一 [Tokuichi Tanaka], 非常勤講師																
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科														
<b>授業の目的</b>	各種の職場見学を通して社会に触れるとともに, 就職情報の収集方法を会得する。また, 先輩のキャリアデザイン形成やその実践活動を学ぶことでジョブリサーチプラン作成能力を養う。PBL 講義では, 現在の社会におけるジェンダーを巡る諸問題について理解し, なぜ男女共同参画社会が必要なのか, どうすれば男女共同参画社会が実現できるのかについて考える。また, 自らエンパワメントする。さらに, 卒業後社会に出てからワーキングライフを送るうえで重要となる課題解決の基礎を習得する。さらに, 高い視点に立ったグローバル人材育成を目指す。																
<b>授業の概要</b>	まず徳島大学の進路情報と合わせて就職環境の変化など, 就職環境全般の知識を習得する。続いて “社会体験・職場見学実習”, “自己分析表現技法”, “先輩の体験に学ぶ”の順に実施される。“社会体験・職場見学実習”では, 各種のイベント・ボランティアへの参加やバス等で近隣の企業等へ出向き, 職場見学を実施する。“自己分析・表現技法”では, 自己PR・エントリーシートの捉え方・作成技法を学ぶ。“先輩の体験に学ぶ”では主に4年生に自らの就職活動体験を紹介してもらうと同時に直接アドバイスを受ける。第 7,10,14 回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。なお各回の学習内容の要点等は web 版キャリア学習ポートフォリオに記入し, 授業終了後にキャリア教育担当教員のチェックを受ける。PBL 講義では, 男女共同参画社会におけるライフ・プランの形成を支援するために, ワーク・ライフ・バランス(WLB)を軸として, 現代の課題の捉え方, 考え方を学ぶ。事例を通じて, 仕事, 家庭生活, 地域活動, 自己啓発など, 仕事と豊かな生活の両立を考える機会をもつ。また, グローバル人材育成につなげる。																
<b>キーワード</b>	社会体験, 職場見学, 企業説明会, 先輩の体験, ジョブリサーチプラン PBL(課題解決型授業), 男女共同参画, エンパワメント, グローバル																
<b>先行/科目</b>	『キャリアプラン入門 I [Introduction to Career Planning (1)]』(1.0) 『キャリアプラン入門 II [Introduction to Career Planning (2)]』(1.0)																
<b>到達目標</b>	まず就職環境全般の知識を習得するとともに, 社会体験実習, 自己分析, 先輩の体験, を学ぶことでジョブリサーチプラン作成方法を身に付ける。キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。PBL の少人数グループ学習では具体的な課題について洞察, 観察, 対話, 反省, という過程で①固定的性別役割分担意識が根深くあることに理解を深め, 課題発見を見つける②自分たちの人生を過ごすには, これからの社会をどう作っていくのかの方向性を見出す③グループ内での討議や全体発表を通し, 自らエンパワメントする																
<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td>問題提起(1)</td> <td>ループワーク(5)</td> </tr> <tr> <td>6 社会体験・職場見学実習(2)/PBL 講義:グローバル人材(2)</td> <td>10 就職情報収集演習(3)/PBL 講義:グループ発表(6)</td> </tr> <tr> <td>7 社会体験・職場見学実習(3)レポ(1/2)/PBL 講義:グループワーク(3)</td> <td>11 先輩の体験に学ぶ(1)</td> </tr> <tr> <td>8 就職情報収集演習(1)/PBL 講義:グループワーク(4)</td> <td>12 先輩の体験に学ぶ(2)</td> </tr> <tr> <td>9 就職情報収集演習(2)/PBL 講義:グループワーク(4)</td> <td>13 先輩の体験に学ぶ(3)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14 先輩の体験に学ぶ(4)/レポ(2/2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15 総括授業・アンケート</td> </tr> </table>	問題提起(1)	ループワーク(5)	6 社会体験・職場見学実習(2)/PBL 講義:グローバル人材(2)	10 就職情報収集演習(3)/PBL 講義:グループ発表(6)	7 社会体験・職場見学実習(3)レポ(1/2)/PBL 講義:グループワーク(3)	11 先輩の体験に学ぶ(1)	8 就職情報収集演習(1)/PBL 講義:グループワーク(4)	12 先輩の体験に学ぶ(2)	9 就職情報収集演習(2)/PBL 講義:グループワーク(4)	13 先輩の体験に学ぶ(3)		14 先輩の体験に学ぶ(4)/レポ(2/2)		15 総括授業・アンケート		
問題提起(1)	ループワーク(5)																
6 社会体験・職場見学実習(2)/PBL 講義:グローバル人材(2)	10 就職情報収集演習(3)/PBL 講義:グループ発表(6)																
7 社会体験・職場見学実習(3)レポ(1/2)/PBL 講義:グループワーク(3)	11 先輩の体験に学ぶ(1)																
8 就職情報収集演習(1)/PBL 講義:グループワーク(4)	12 先輩の体験に学ぶ(2)																
9 就職情報収集演習(2)/PBL 講義:グループワーク(4)	13 先輩の体験に学ぶ(3)																
	14 先輩の体験に学ぶ(4)/レポ(2/2)																
	15 総括授業・アンケート																

<b>教科書</b>	特に指定なし。
<b>参考書</b>	授業中に適宜プリント等を配布する。
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度を、2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点の合計(100点満点)が60点以上を合格とする。PBL講義では、到達目標の達成度を、出席して討論に参加、グループ内の発表分担への参加より評価する。また、レポートを評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	1)必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。 2)この授業の受講に必要な「先行/科目」規定は、編入学性は対象となりません。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中 徳一(Tel:656-9320, E-mail:t.tanaka@career.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) E-mail:t.tanaka@career.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1)受講希望者が定員を超える場合は受講者調整を行いますので、初回授業の2日前までに必ず履修登録を済ませておいて下さい。登録されていない場合は、受講できないことがあります。 2)副教材で自己負担(2千円程度)をお願いする場合があります。 2)PBL方式による授業は、演習形式で行うため、受講者数(上限30名)に制限を設ける。受講者調整が行われる場合、調整結果については最初の授業時に発表します。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5101050
<b>科目分野</b>	キャリア教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	短期インターンシップ[Short-Term Internship]		
<b>担当教員</b>	山野 明美 [YAMANO AKEMI], 非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	全学科
<b>授業の目的</b>	①働くことの意義を実感する②学外研修において実社会の現状を把握する ②職場でのビジネス・コミュニケーション及びマナーの重要性を認識する ③仕事に対する責任感と緊張感を体験する		
<b>授業の概要</b>	①インターンシップとは、企業・行政機関・公益法人・団体等における実習・研修的な就業体験を通じて、自らの将来計画におけるキャリア・デザインについて考える授業である。②前半では、学外研修の準備としてのコミュニケーション・マナー、守秘義務等法律知識等を修得する。また、各種企業からゲストスピーカーを招聘し、社会人・企業人として望まれる人材ならびに学生の見方について学ぶ。③後半では、7月～9月の間に、各自5日間程度の学外研修を受ける。④社会の一員としてのマナーや責任感や厳しさを体験することにより、自己啓発の機会を得る。		
<b>キーワード</b>	学外研修、ビジネス・コミュニケーション、ビジネス・マナー、キャリア・デザイン		
<b>先行/科目</b>	『キャリアプラン入門Ⅰ[Introduction to Career Planning (1)]』(1.0)、『キャリアプラン入門Ⅱ[Introduction to Career Planning (2)]』(1.0)、『キャリアプラン入門Ⅰ[Introduction to Career Planning (1)]』(1.0)、『キャリアプラン入門Ⅱ[Introduction to Career Planning (2)]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	①事前学習により、社会人として必要なマナーとビジネス・コミュニケーションを理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。		
<b>授業の計画</b>	8.事前学習:お礼状や報告書の作成法指導(レポート) 9.学外研修:(1)仕事内容や業務の流れの説明、日誌作成 10.学外研修:(2)研修、日誌(授業コメント)作成 11.学外研修:(3)研修、日誌(授業コメント)作成 12.学外研修:(4)研修、日誌(授業コメント)作成 13.学外研修:(5)研修、日誌(授業コメント)作成 14.学外研修:(6)研修、日誌(授業コメント)作成 15.学外研修:(7)講評とまとめ(報告書)		
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	初回講義時に、テキストとして本学作成の「インターンシップ・ハンドブック」を配布する予定。		

<b>成績評価の方法</b>	事前学習(1～8回)で出席を2/3未満の場合は成績評価の対象にならない。到達目標の達成度を、小テスト(30点):レポート(30点):報告書(40点)により評価する。なお、学外研修先の評価も参考とする。合計(100点満点)が60点以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	なし
<b>受講者へのメッセージ</b>	キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱを履修していること(編入生は除外)。事前学習(1～8回)を受講しなければ学外研修を受けることができない。学外研修の日誌をポートフォリオの授業コメント欄に記載しておき、それを参考にポートフォリオの報告書を完成させる。レポートおよび報告書は提出締切厳守。学外研修の日程と集中講義の日程が重ならないように注意しておく。学外研修先は、就職支援センター紹介・学科紹介および自由応募先のいずれかとする。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山野明美 部屋番号:キャリア教育推進室 Tel:088-656-9321 (メールアドレス) yamano@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	インターンシップに参加する際には、何を学びたいのか、何を中心課題とするのかなどの具体的な視点や課題をもって臨むこと。また、「知っている」「わかる」から「できる」姿勢で臨む。一例として「あいさつ」がある。つまり、物事に取り組む際の主体性の発揮とコミュニケーション力(発信力・傾聴力)の強化を図ること。さらに、課題発見・発想力強化に役立つことができるようにする。「短期インターンシップ」を通じて、得たいものは何か、思い浮かんだ言葉やキーワードを文字でマッピングしてみる。安易な取り組みに成果は期待できない。就職したい企業、希望の職種、必要な能力は何か。インターンシップは、それを探る機会となる。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5101060
<b>科目分野</b>	キャリア教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	キャリアプランⅢ[Career Planning (3)]		
<b>担当教員</b>	田中 徳一 [Tokuichi Tanaka], 非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科
<b>授業の目的</b>	大学での就職活動およびキャリア学習の総括を行うとともに自らの体験を後輩に伝えることを通じてより高いレベルのコミュニケーションならびにプレゼンテーション力を養成する。		
<b>授業の概要</b>	まず各自の就職活動体験レポートを作成する。またそれに基づいて、自らの就職活動体験を後輩に伝えるためのPPTを作成し、それをを用いて第10～13回の「キャリアプランⅡ」の体験伝承セミナーにおいて、自らの体験を紹介するとともに後輩のキャリアプラン作成ならびに就職活動等に関してアドバイスをを行う。第5,8回の授業時にそれぞれレポートを提出する。		
<b>キーワード</b>	就職活動体験、体験伝承、キャリア学習ポートフォリオ		
<b>到達目標</b>	キャリア学習および就職活動の総括を行い自らの体験を後輩に伝えることができるとともに、キャリア学習ポートフォリオを完成させる。		
<b>授業の計画</b>	6. 体験伝承資料作成(1) 1. ガイダンス 2. 就職活動体験レポート作成(1) 3. 就職活動体験レポート作成(2) 4. 就職活動体験レポート作成(3) 5. 就職活動体験レポート作成(4)レポート1	7. 体験伝承資料作成(2) 8. 体験伝承資料作成(3)レポート2 9. 体験伝承演習 10. 体験伝承演習	11. 体験伝承セミナー(1) 12. 体験伝承セミナー(2) 13. 体験伝承セミナー(3) 14. 体験伝承セミナー(4) 15. キャリア学習ポートフォリオまとめ
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度を、2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点の合計(100点満点)が60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	1)必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。 2)この授業の受講に必要な「先行/科目」規定について、編入学性は対象となりません。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			



<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中 徳一(Tel:656-9320, E-mail:t.tanaka@career.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) E-mail:t.tanaka@career.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 13:00~14:00
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3又は4年・前期	<b>時間割番号</b>	5101110
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	知的財産事業化演習[Seminar on Industrialization of Intellectual Property]		
<b>担当教員</b>	出口 祥啓 [Yoshihiro Deguchi] , 工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科

**授業の目的** 知的財産を活用する方法の基礎を理解するとともに、実際のアイデア、デザインを創出する方法について、特許、デザイン特許コンテストを題材とした演習で修得する。

**授業の概要** 科学技術創造立国を目指す我が国において、知的財産の活用が、行政・産業界・大学・研究所にとって不可欠であるとの認識に立ち、その活用法を、知的財産の創出という観点から修得する。

**キーワード** 創造力、知的財産、特許法、意匠法

**到達目標** 知的財産を自ら創出する意義を理解し、その方法の基礎について、各自のテーマで修得する。

<b>授業の計画</b>	第9回 講師講演
第1回 知的財産の取得方法の基礎(特許コンテスト、デザイン特許コンテストの説明)	第10回 知的財産創出演習(1) 特許(アイデア) または意匠(デザイン)
第2回 特許概論、意匠概論(アイデア創出方法)	第11回 知的財産創出演習(2) 特許(アイデア) または意匠(デザイン)
第3回 アイデアの具体化	第12回 知的財産創出演習(3) 特許(アイデア) または意匠(デザイン)
第4回 特許調査	第13回 成果発表(1) 特許(アイデア) または意匠(デザイン)
第5回 着眼点の明確化1 特許調査を踏まえたアイデア・デザイン創出	第14回 成果発表(2) 特許(アイデア) または意匠(デザイン)
第6回 着眼点の明確化2 新規性、創作非容易性判断	第15回 講師コメントを反映した資料作成
第7回 構成の具体化1 特許調査を踏まえたアイデア・デザインの具体化	
第8回 構成の具体化2 新規性、創作非容易性判断	

**教科書** 事例に応じて紹介する。

**参考書** アイデアは考えるな/柳澤大輔:日経 BP 社, 2009, ISBN:4822247813 ・知的創造のヒント/外山 滋比古:筑摩書房, 2008, ISBN:4480091777  
中山信弘著「知的所有権」日刊工業新聞社, 柳澤大輔著「アイデアは考えるな」特許庁編「これからは日本も知的創造時代」通商産業調査会

**教科書・参考書に関する補足情報** パテントコンテスト、デザイン特許コンテスト関連資料を活用する。特許調査には、特許庁のデータベース IPDL を使用する。

**成績評価の方法** 到達目標が達成されているかを知的財産創出に関する発表(30点)及びレポート(60点:コンテスト出願書類)で評価し、60%以上(コンテストに応募可能なレベル)であれば合格とする。

**再試験の有無** 原則として再評価は行わない。

**受講者へのメッセージ** 教室での14時間の座学と16時間の演習(アイデア、デザインコンテストへの出願資料作成)とで構成するので、これらのコンテストに参加できることが条件となる。また、受講希望者が多い場合は、抽選によって受講者を決めることがある。コンテストに入賞した場合、表彰式への参加(東京、費用はコンテスト主催者負担)、実際の特許、意匠出願を行うものとする(コンテストの規定を順守)。

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** (B)90%, (H)10%に対応する。

<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/DAV/lecture/127976/">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/DAV/lecture/127976/</a>
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 出口 祥啓(機械棟523号室、088-656-7375) (メールアドレス) ydeguchi@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:00-17:00

<b>備考</b>	【授業時間】22.5時間、【自己学習時間】(予習復習)11.25時間 (授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である)
-----------	---

<b>開講学期</b>	3又は4年・前期	<b>時間割番号</b>	5101120
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	知的財産の基礎と活用[Intellectual Property]		
<b>担当教員</b>	工学部教務委員長, 森本 恵美 [Emi Morimoto] , 工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	全学科

**授業の目的** 知的所有権制度を理解し、知的所有権の保護と制度の活用の重要性を各種の事例を基に理解するとともにその活用法の基礎を修得する。

**授業の概要** 科学技術創造立国を目指す我が国において、知的所有権の保護と制度の活用が、行政・産業界・大学・研究所にとって不可欠であるとの共通認識を持つ必要性を説くとともに、知的所有権制度の概要と、その活用法を、企業の特許戦略、特許侵害事件などの事例を紹介しつつ講義し、学生が将来、企業・大学・研究所などへ進んだ場合に知っておくべき知的所有権に関する基礎知識の修得をはかる。

**キーワード** 知的財産、特許法、知的財産の保護と活用

**到達目標** 1. 知的財産権の概念についての理解を深める。  
2. 特許法、商標法、意匠法、著作権法について理解する。  
3. 知的財産の活用法の基礎について理解する。

<b>授業の計画</b>	8. 特許発明と特許権侵害(事例)
1. 知的所有権とは	9. 知的所有権の管理とその活用
2. 知的所有権制度の概要(著作権)	10. 特許明細書の読み方・特許は明細書を中心に動く
3. 知的所有権制度の概要(商標)	11. 技術者が知っておくべき実務知識・特許法上の留意事項
4. 知的所有権制度の概要(意匠)	12. 技術開発の現場における知的財産(メーカーの実例)
5. 知的所有権制度の概要(実用新案)	13. 研究と特許権侵害(製薬企業の実例)
6. 知的所有権制度の概要(商標)	14. 学生・研究生として共同研究にかかわるとは(研究開発、インターンシップと知的財産)
7. 知的所有権制度の概要(特許)	15. レポート課題・書式・提出方法の説明等(教務委員長)

**教科書** 教科書:講師が作成したテキスト等を用いる。

**参考書** 参考資料:知的財産管理技能検定 <http://www.kentei-info-jp-edu.org/> 独立行政法人 工業所有権情報・研修館編産業財産権標準テキスト(総合編)

**成績評価の方法** 講義による評価:到達目標が各々達成されているかを試験70%、講義への取り組み状況30%で評価し、平均で60%あれば合格とする。  
学部で「知的財産の基礎と活用」を履修した学生は、大学院にて「知的財産論」を履修しても単位取得はできない。ただし「国家資格・知的財産管理技能検定(3級)」を受験し、合格した者は、当該科目として単位を取得できる。国家資格取得による単位の取得は学部で「知的財産の基礎と活用」の履修の有無を問わない。なお、受験日より6ヵ月以内に合格通知と採点表を持参の上、森本まで申し出ること。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 延べ6日間程度の集中講義となり、各集中講義には全時間の出席を要する。夏休み期間中(8月~9月末)に集中講義として開講するので、その期の9月末日修了・卒業を予定する学生が修了・卒業に必要な単位として履修することは避けるようにすること。成績は例年後期1月頃に開示される。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連**

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 学務係:オフィスアワー:月曜~金曜:8時30分から17時15分 森本恵美:創成学習開発センター3階 088-656-7619(内線5109) emi@tokushima-u.ac.jp オフィスアワー:月曜~木曜:14時から17時 (オフィスアワー) 学務係:月曜から金曜:8時30分から17時15分 森本恵美:月曜から木曜:14時から17時
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	4年・前期	時間割番号	5101130
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択(機械工学科は「要件外」)		
科目名	ニュービジネス概論[Introduction to New Business]		
担当教員	工学部副教務委員長		
単位数	2	対象学生・年次	全学科
授業の目的	ニュービジネスとは、新しいアイデアや専門的な知識・技術を駆使して創造的に展開される事業を意味する言葉であり、その主たる担い手はベンチャーと呼ばれる企業である。この授業の目的は、受講生がベンチャー企業を起業するために必要とされる知識、ノウハウ、そしてスピリットを提供することにある。		
授業の概要	活力ある日本社会の再生が求められている。こうした要請を受け、政府は平成 14～16 年度にかけて「大学発ベンチャー3 年 1000 社計画」を実施し、その目標はほぼ達成されたが、今後も継続的に起業家教育を推進していくことの重要性には変わりはない。この授業は、こうした認識にもとづいて、徳島県及び公益財団法人とくしま産業振興機構が支援して開設された『とくしま経営塾「平成成長久館」起業力養成講座』である。		
キーワード	ベンチャービジネスを起業するために必要な知識を習得するとともに、ビジネスプランを作成できるようになることを目標とする。		
到達目標	ベンチャービジネスを起業するために必要な知識を習得するとともに、ビジネスプランを作成できるようになることを目標とする。		
授業の計画	5. 資金調達と資本政策	11. ビジネスプラン作成のポイント	
1. ガイダンス	6. 間接金融	12. 製品開発と知的財産権	
2. 基調講演「ベンチャービジネス 成功の秘訣」(仮題)	7. 直接金融	13. ビジネスプラン作成実習(1)	
3. 独立型ベンチャー成功のための理論	8. 経営戦略とマーケティング	14. ビジネスプラン作成実習(2)	
4. 会社法	9. 企業会計の基礎知識	15. 筆記試験	
	10. 会社経営の基礎	16. ビジネスプラン発表会	
教科書	毎回レジュメを配付する。		
参考書	授業時間に数冊紹介する。		
成績評価の方法	到達目標の達成度を筆記試験(60%)とビジネスプランの提出(40%)で評価し、60%以上の評点を合格とする。成績は評点を100点満点に換算して算定する。また、筆記試験およびビジネスプランの提出は、開講された授業の3分の2以上出席した受講生にのみ認めるものとする。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	遅刻や授業中の私語は厳禁とする。悪質な場合は、退場処分とし、以後の受講を認めない場合もあるので、くれぐれも注意すること。講師の都合により、多少変更の可能性がある。		
JABEE合格	JABEE合格		
学習教育目標との関連	学習教育目標との関連		
WEB ページ	WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会副委員長 工学部		
備考	1. この授業では、毎回第一線で活躍されている実務家やアドバイザーを講師として招き、専門家の立場から理論プラス実践に役立つ知識の提供を行う。また、この授業は主に「起業」のための知識を提供するものであるが、その内容は一般企業や研究所、自治体などへの就職をめざす者にとっても十分役立つものとなっている。		

開講学期	2年又は3年又は4年・前期	時間割番号	5101140
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	福祉工学概論[Introduction to Well-being Technology for All]		
担当教員	藤澤 正一郎, 佐藤克也, 他 [Shoichiroh Fujisawa, Katsuya Sato]		
単位数	2	対象学生・年次	全学科
授業の目的	我々の身近な生活を支える様々な機器や環境の中に含まれる工学技術のうち、いろいろなハンディキャップを伴う条件下でも使いやすく安全を確保する技術を、人に優しい技術として紹介し、その万人に対する延長線上に福祉工学技術の一端があることを理解させる。また、各障害者個人に合わせた機器を紹介し、福祉工学技術のもう一端には、特化された技術があることも理解させる。		

授業の概要	本講義では、人間の生活全体を支える工学技術を、高齢化による機能の低下や障害によるハンディキャップを軽減させる様々な技術(ハイテクならびにローテク)やアプローチを例にとり、広い視点から概観する。		
キーワード	支援技術、障害者、高齢者、福祉機器		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機能の低下や障害によらず、全ての人が利用できる技術や機器、環境があることを理解させる。</li> <li>2. 特別なサポートを必要とする人々のための技術や機器、環境があることを理解させる。</li> <li>3. 人に優しい工学技術について考える機会を持たせる。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス:講義の進め方, 受講の心構え</li> <li>2. 支援科学技術:個人への対応と万人への対応(Universal Design)</li> <li>3. 移動・移乗</li> <li>4. 排泄</li> <li>5. 身障者スポーツ</li> <li>6. 高齢者の生活環境</li> <li>7. 就労</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 生活自立と支援技術(米国の場合)</li> <li>9. 技術による支援, 人による支援</li> <li>10. 技術:障害への適合, 環境への適合, 人間への適合</li> <li>11. 知的障害者と運動機能障害者の支援</li> <li>12. 視覚障害者と聴覚障害者の支援</li> <li>13. 最新の技術:その 1</li> <li>14. 最新の技術:その 2</li> <li>15. まとめ:心のバリアー, エンジニアとして</li> </ol>	
教科書	教科書		
参考書	「明日を創る」・E&C プロジェクト「バリアフリーの商品開発 2」・山田尚勇他「コンピュータと人間の共生」・後藤芳一編「バリアフリーのための福祉技術入門」		
成績評価の方法	講義への取り組み状況と、毎回提出させるレポートにより評価する。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	受講者へのメッセージ		
JABEE合格	レポート内容を100%で評価し、その平均点が60%以上であれば合格とする。		
学習教育目標との関連	本学科の教育目標の3(6), 4(3)に10%, 4(1), 4(2), 5(3), 6(3)にそれぞれ20%対応する。		
WEB ページ	WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 藤澤 正一郎		
備考	1. 出席点とレポート評価との割合は4:6とするが、欠席者のレポートは成績評価しない。		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5101210
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	アイデア・デザイン創造[Creation of idea and design]		
担当教員	出口 祥啓, 森本 恵美 [Yoshihiro Deguchi, Emi Morimoto]		
単位数	2	対象学生・年次	全学科
授業の目的	知的財産に対する関心を深め、アイデア創出の目標設定を明確にする。企業ニーズや知的財産に関する調査活動を通してものづくりと社会の関係性を理解する。		
授業の概要	個人のアイデア、プロジェクト活動やグループワーク、企業のニーズの内容を「新規性」「有用性」「独自性」等のあるアイデア・デザインに高め、特許・意匠調査、デザイン特許・意匠調査等に応募する。		
キーワード	創造性、独自性、知的財産、ものづくり		
関連科目	『知的財産事業化演習[Seminar on Industrialization of Intellectual Property]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アイデア・デザインの創造過程を習得する。</li> <li>2. 自分自身のアイデア・デザインを「新規性」「有用性」「独自性」等のある内容にブラッシュアップする能力を習得する。</li> <li>3. 「新規性」「有用性」「独自性」等を書面とできる表現力を習得する。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パテントコンテスト、デザインパテントコンテストの説明</li> <li>2. 特許概論(アイデア創出方法)</li> <li>3. 意匠概論(デザイン創出方法)</li> <li>4. アイデア・デザインの創出</li> <li>5. 特許・意匠調査</li> <li>6. 特許・意匠調査を踏まえた新規性の判断</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 特許・意匠調査を踏まえた独自性の判断</li> <li>8. 特許・意匠調査を踏まえた着眼点の明確化</li> <li>9. 技術的根拠の書面化</li> <li>10. 特許・意匠調査内容のまとめ</li> <li>11. アイデア・デザインの具体的構成内容の記載</li> <li>12. アイデア・デザインの新規性、独自性(進歩性、創作非容易性)の記載</li> </ol>	

13. アイデア・デザインの具体的構成の図面化 14. アイデア発表会 15. デザイン発表会	16. 講師コメントを反映した最終資料作成(パテントコンテスト、デザインパテントコンテスト応募資料)
<b>教科書</b> 適宜資料を配布。参考書として「産業財産権標準テキスト」(工業所有権情報・研修館)を使用。	
<b>参考書</b>	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 適宜資料を配布。参考書として「産業財産権標準テキスト」(工業所有権情報・研修館)を使用。	
<b>成績評価の方法</b> 創出したアイデア・デザインの「新規性」(従来のアイデア・デザインと比較し、新しい項目が織り込まれているか)を50%、「有用性」「独自性」(従来のアイデア・デザインとの差別化事項)を25%、書面の表現力を25%で評価する。なお、提出レポートを原則パテントコンテスト・デザインパテントコンテストに応募するものとする。	
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> コンテストに参加できることが条件となる。また、受講希望者が多い場合は、抽選によって受講者を決めることがある。コンテストに入賞した場合、表彰式への参加(東京、費用はコンテスト主催者負担)、実際の特許、意匠出願を行うものとする(コンテストの規定を順守)。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)90%, (H)10%に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 出口 祥啓(機械棟 523 号室,088-656-7375,ydeguchi@tokushima-u.ac.jp) 森本 恵美(イノベーションセンター3 階、memi@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ydeguchi@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:00-17:00
<b>備考</b>	【授業時間】22.5 時間、【自己学習時間】11.25 時間 (授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である)

<b>開講学期</b>	1年・通年	<b>時間割番号</b>	5101220
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	自主プロジェクト演習1[Exercise of Autonomy Project 1]		
<b>担当教員</b>	藤澤 正一郎, 日下 一也 [Shoichiroh Fujisawa, Kazuya Kusaka]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科(光応用工学科を除く)
<b>授業の目的</b>	グループによるプロジェクトの立案, 計画, 実施, 評価を通じて, 学生の自主性, 自発的探究力, 問題解決能力および表現力を育成し, プロジェクトを完遂できることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	プロジェクトを実施するグループは, 2 人以上の学生およびテクニカルアドバイザーとなる教員で構成する。創成学習開発センターでの審査に合格となったプロジェクトのみ, 以降の活動を実施可能とする。プロジェクト活動中は, 毎回個人毎にテクニカルアドバイザーに報告書を提出するとともに, プロジェクト毎に創成学習開発センターに定期的に報告書を提出する。プロジェクトの最後には, 最終報告会を実施する。なお, プロジェクト活動の実施回数は, 15回以上になる場合がある。		
<b>キーワード</b>	プロジェクト活動, プロジェクトマネージメント		
<b>先行/科目</b>	『プロジェクトマネジメント基礎[Project Management Fundamentals]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『アイデア・デザイン創造[Creation of idea and design]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. グループによって自主的にプロジェクトを立案し, プロジェクト遂行のための適切な期間, 内容, 予算を計画する。 2. 計画に従って, プロジェクトを実施し, その内容をテクニカルアドバイザーや創成学習開発センターに報告する。 3. プロジェクトの内容を随時評価し, 必要に応じて改善する。 4. プロジェクトを完遂し, 最終報告会にて, 目標の達成度等を報告する。		
<b>授業の計画</b>	6回目 プロジェクト活動: 関連事項の調査	12回目 プロジェクト活動: 製作物の評価	
1回目 プロジェクトマネジメント概説	7回目 プロジェクト活動: 設計	13回目 プロジェクト活動: 製作物の改良	
2回目 プロジェクトマネジメント実習	8回目 プロジェクト活動: 試作	14回目 プロジェクト活動: 最終評価	
3回目 プロジェクトの立案・計画書の作成 (センターに報告書提出)	9回目 プロジェクト活動: 試作品の評価	15回目 プロジェクト活動のまとめ・最終報告書作成	
4回目 プロジェクト審査会	10回目 プロジェクト活動: 設計の見直し	16回目 最終報告会	
5回目 プロジェクト活動: 具体的な計画の立案 (センターに報告書提出)	11回目 プロジェクト活動: 製作 (センターに報告書提出)		

<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	テクニカルアドバイザーにより適宜, 示される。
<b>成績評価の方法</b>	プロジェクト報告書(各個人毎にテクニカルアドバイザーに提出):50%, プロジェクトの達成度(グループ毎に創成学習開発センターへ提出する報告書):15%, 最終報告会でのグループ毎のプレゼンテーション:35%
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	● 「授業の計画」は, ものづくりをテーマにしたプロジェクトを想定しているが, プロジェクトの内容に応じて, この計画と異なっても構わない。ただし, 「プロジェクトマネジメント概説」, 「プロジェクトマネジメント実習」, 「プロジェクト審査会」および「最終報告会」は必ず実施(参加)すること。また, 実施回数は, 15回以上とする。 ● プロジェクト審査会にてプロジェクトの申請が認められない場合は, 不合格になる場合がある。 ● プロジェクトの実施期間に関わらず, 当該年度に開催される創成学習開発センターのリーダー会等には必ず出席すること。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	本科目は, 1年生のみ履修可能。

<b>開講学期</b>	2年・通年	<b>時間割番号</b>	5101230
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	自主プロジェクト演習2[Exercise of Autonomy Project 2]		
<b>担当教員</b>	藤澤 正一郎, 日下 一也 [Shoichiroh Fujisawa, Kazuya Kusaka]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科(光応用工学科を除く)
<b>授業の目的</b>	グループによるプロジェクトの立案, 計画, 実施, 評価を通じて, 学生の自主性, 自発的探究力, 問題解決能力および表現力を育成する。プロジェクトを完遂し, その内容を外部に公表する。		
<b>授業の概要</b>	プロジェクトを実施するグループは, 2 人以上の学生およびテクニカルアドバイザーとなる教員で構成する。創成学習開発センターでの審査に合格となったプロジェクトのみ, 以降の活動を実施可能とする。プロジェクト活動中は, 毎回個人毎にテクニカルアドバイザーに報告書を提出するとともに, プロジェクト毎に創成学習開発センターに定期的に報告書を提出する。プロジェクトの最後には, 最終報告会を実施する。なお, プロジェクト活動の実施回数は, 15回以上になる場合がある。		
<b>キーワード</b>	プロジェクト活動, プロジェクトマネージメント		
<b>先行/科目</b>	『プロジェクトマネジメント基礎[Project Management Fundamentals]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『アイデア・デザイン創造[Creation of idea and design]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. グループによって自主的にプロジェクトを立案し, プロジェクト遂行のための適切な期間, 内容, 予算を計画する。 2. 計画に従って, プロジェクトを実施し, その内容をテクニカルアドバイザーや創成学習開発センターに報告する。 3. プロジェクトの内容を随時評価し, 必要に応じて改善する。 4. プロジェクトを完遂し, 最終報告会等において, 目標の達成度等を外部に公表する。		
<b>授業の計画</b>	6回目 プロジェクト活動: 試作 (センターに報告書提出)	11回目 プロジェクト活動: 製作物の改良 (センターに報告書提出)	
1回目 プロジェクトの立案・計画書の作成	7回目 プロジェクト活動: 試作品の評価 (センターに報告書提出)	12回目 プロジェクト活動: 最終評価 (センターに報告書提出)	
2回目 プロジェクト審査会	8回目 プロジェクト活動: 設計の見直し	13回目 プロジェクト活動のまとめ	
3回目 プロジェクト活動: 具体的な計画の立案 (センターに報告書提出)	9回目 プロジェクト活動: 製作 (センターに報告書提出)	14回目 最終報告会資料作成	
4回目 プロジェクト活動: 関連事項の調査	10回目 プロジェクト活動: 製作物の評価 (センターに報告書提出)	15回目 最終報告会	
5回目 プロジェクト活動: 設計	11回目 プロジェクト活動: 製作物の改良 (センターに報告書提出)	16回目 予備日	
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	テクニカルアドバイザーにより適宜, 示される。		
<b>成績評価の方法</b>	プロジェクト報告書(各個人毎にテクニカルアドバイザーに提出):50%, プロジェクトの達成度(グループ毎に創成学習開発センターへ提出する報告書):15%, 最終報告会でのグループ毎のプレゼンテーション(外部公表):35%		



<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> ● 「授業の計画」は、ものづくりをテーマにしたプロジェクトを想定しているが、プロジェクトの内容に応じて、この計画と異なっても構わない。ただし、「プロジェクト審査会」と「最終報告会」は必ず実施(参加)すること。また、実施回数は、15回以上とする。 ● プロジェクト審査会にてプロジェクトの申請が認められない場合は、不合格になる場合がある。 ● プロジェクトの実施期間に関わらず、当該年度に開催される創成学習開発センターのリーダー会等には必ず出席すること。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	本科目は、2年生のみ履修可能。

<b>開講学期</b>	3年・通年	<b>時間割番号</b>	5101240
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	自主プロジェクト演習3[Exercise of Autonomy Project 3]		
<b>担当教員</b>	藤澤 正一郎, 日下 一也 [Shoichiroh Fujisawa, Kazuya Kusaka]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科(光応用工学科を除く)
<b>授業の目的</b>	グループによるプロジェクトの立案, 計画, 実施, 評価を通じて, 学生の自主性, 自発的探究力, 問題解決能力および表現力を育成する。プロジェクトを完遂し, その内容について外部評価を受ける。		
<b>授業の概要</b>	プロジェクトを実施するグループは, 2人以上の学生およびテクニカルアドバイザーとなる教員で構成する。創成学習開発センターでの審査に合格となったプロジェクトのみ, 以降の活動を実施可能とする。プロジェクト活動中は, 毎回個人毎にテクニカルアドバイザーに報告書を提出するとともに, プロジェクト毎に創成学習開発センターに定期的に報告書を提出する。プロジェクトの最後には, 最終報告会を実施する。なお, プロジェクト活動の実施回数は, 15回以上になる場合がある。		
<b>キーワード</b>	プロジェクト活動, プロジェクトマネジメント		
<b>先行/科目</b>	『プロジェクトマネジメント基礎[Project Management Fundamentals]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『アイデア・デザイン創造[Creation of idea and design]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. グループによって自主的にプロジェクトを立案し, プロジェクト遂行のための適切な期間, 内容, 予算を計画する。 2. 計画に従って, プロジェクトを実施し, その内容をテクニカルアドバイザーや創成学習開発センターに報告する。 3. プロジェクトの内容を随時評価し, 必要に応じて改善する。 4. プロジェクトを完遂し, 最終報告会や学会発表等において, 目標の達成度等について外部評価を受ける。		
<b>授業の計画</b>	6回目 プロジェクト活動:試作 11回目 プロジェクト活動:製作物の改良	7回目 プロジェクト活動:最終評価 12回目 プロジェクト活動:最終評価	
1回目 プロジェクトの立案・計画書の作成 (センターに報告書提出)	2回目 プロジェクト審査会 7回目 プロジェクト活動:試作品の評価 (センターに報告書提出)	3回目 プロジェクト活動:設計の見直し 8回目 プロジェクト活動:設計のまとめ 13回目 最終報告会資料作成 14回目 最終報告会 15回目 最終報告会	
2回目 プロジェクト審査会 7回目 プロジェクト活動:試作品の評価 (センターに報告書提出)	3回目 プロジェクト活動:具体的な計画の立案 9回目 プロジェクト活動:製作 (センターに報告書提出)	4回目 プロジェクト活動:関連事項の調査 10回目 プロジェクト活動:製作物の評価 16回目 予備日	
3回目 プロジェクト活動:具体的な計画の立案 (センターに報告書提出)	4回目 プロジェクト活動:関連事項の調査 10回目 プロジェクト活動:製作物の評価 16回目 予備日		
4回目 プロジェクト活動:関連事項の調査 10回目 プロジェクト活動:製作物の評価 16回目 予備日	5回目 プロジェクト活動:設計		
5回目 プロジェクト活動:設計			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	テクニカルアドバイザーにより適宜, 示される。		
<b>成績評価の方法</b>	プロジェクト報告書(各個人毎にテクニカルアドバイザーに提出):50%, プロジェクトの達成度(グループ毎に創成学習開発センターへ提出する報告書):15%, 最終報告会や学会発表等でのグループ毎のプレゼンテーション(外部評価):35%		
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b> ● 「授業の計画」は、ものづくりをテーマにしたプロジェクトを想定しているが、プロジェクトの内容に応じて、この計画と異なっても構わない。ただし、「プロジェクト審査会」と「最終報告会」は必ず実施(参加)すること。また、実施回数は、15回以上とする。 ● プロジェクト審査会にてプロジェクトの申請が認められない場合は、不合格になる場合がある。 ● プロジェクトの実施期間に関わらず、当該年度に開催される創成学習開発センターのリーダー会等には必ず出席すること。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	本科目は、3年生のみ履修可能。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5101310
<b>科目分野</b>	STC関連科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	初級技術英語[Basic Technical English]		
<b>担当教員</b>	Koinkar Pankaj Madhukar [KOINKA PANKAJI MADOKA]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科
<b>授業の目的</b>	This course aims to increase the student's ability to understand and discuss professional materials in English.		
<b>授業の概要</b>	The general objectives of the course include: 1. Developing students' reading and listening skills for academic, professional purposes 2. Assisting students' ability to speak English in real-life situations 3. Helping students develop ability to understand English in various contexts. 4. Increase students' knowledge of English vocabulary, especially words of a technical and scientific nature.		
<b>キーワード</b>	Technical English, Vocabulary, Scientific		
<b>到達目標</b>	1. Develop English skills for academic and professional purposes 2. Acquire greater vocabulary to communicate in technical English 3. Improve listening skills 4. Enhance the ability to better understand spoken English		
<b>授業の計画</b>	6. Comparisons 2 7. Writing 1 8. Writing 2 9. Reports 10. Transition Words 1	11. Transition Words 2 12. Other Scientific/Technical Vocabulary 13. Checking and Confirming 14. Presentations 15. Presentations	
1. Check-up 2. Numbers 1 3. Numbers 2 4. Counting 5. Comparisons 1			
<b>教科書</b>	"Presenting Science," (Second Edition), 2008, Macmillan LanguageHouse.		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	The overall grade will be based on class participation, a mid-term, presentations and homework assignments.		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	This course is a compulsory one for Nichia STC students. If you are not a Nichia STC student and want to attend this class, please contact a coordinator in your department for getting permission for your attendance.		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) コインカー パンカジ		
<b>備考</b>			



開講学期	2年・前期	時間割番号	5101320
科目分野	STC関連科目		
選必区分	選択		
科目名	中級技術英語[Technical English]		
担当教員	Koinkar Pankaj Madhukar [KOINKA PANKAJI MADOKA]		
単位数	1	対象学生・年次	全学科
<b>授業の目的</b> The aim of the course is to enhance reading, writing, speaking and listening skills. Another goal is to establish a firm foundation for students to present their knowledge to others, in English.			
<b>授業の概要</b> The primary focus will be the development of English skills: listening comprehension, reading, writing, and speaking. A key objective will be to increase and broaden knowledge of technical and scientific vocabulary. The final result; students should be able to produce English presentations, especially science-related presentations. The emphasis of the course content is intended to strengthen and expand both comprehension and expressive abilities. It is anticipated that this will include improving the basic aspects of clear writing: basic grammar, vocabulary, and recurring patterns of typical sentence structures.			
<b>キーワード</b> Technical English, テクノロジー, English presentations			
<b>到達目標</b> 1. To develop vocabulary, sentence formations, and presentation principles of communication in order to establish a firm foundation for public speaking and technical presentations, in English. 2. To develop English skills: listening comprehension, speaking, reading and writing.			
<b>授業の計画</b> 1. Conventions of English 1 2. Conventions of English 2 3. Vocabulary: correct spelling 4. Vocabulary: how to communicate to an English-speaking person the spelling of a word or phrase, homonyms, synonyms, acronyms, and commonly misspelled or misunderstood English words. 5. Noun and verb agreement 1 6. Noun and verb agreement 2 7. Reading skills 1 8. Reading skills 2 9. Various types of Writing 1 10. Various types of writing 2 11. Important points in public speaking 1 12. Important points in public speaking 2 13. How to describe something or someone: commonly used adjectives, phrases and words that describe location. phrases and words that describe the frequency of occurrence or the unique qualities of a thing, a process, or research 14. How to compose communication: letters of acceptance, letters of inquiry, for example. 15. Electronic forms of communication (E-mail), telephone conversations, how to cite internet sources of information, plagiarism.			
<b>教科書</b> "Presenting Science, " (Second Edition), 2008, Macmillan LanguageHouse.			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> Grades will be based on class participation, a mid-term, presentations and homework assignments.			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> This subject is a compulsory for Nichia STC students. If you are not a Nichia STC student and want to attend this class, please contact a coordinator in your department for getting permission for attendance.			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)		(学生用連絡先) コインカー パンカジ	
<b>備考</b>			

開講学期	2年・後期	時間割番号	5101330
科目分野	STC関連科目		
選必区分	選択		
科目名	上級技術英語[Advanced Technical English]		
担当教員	Koinkar Pankaj Madhukar [KOINKA PANKAJI MADOKA]		
単位数	1	対象学生・年次	全学科

<b>授業の目的</b> The aim of the course is to enhance reading, writing, speaking and listening skills. Another goal is to establish a firm foundation for students to present their knowledge to others, in English.			
<b>授業の概要</b> The primary focus will be the development of English skills: listening comprehension, reading, writing, and speaking. A key objective will be to increase and broaden knowledge of technical and scientific vocabulary. The final result: students should be able to produce English presentations, especially science-related presentations. The emphasis of the course content is intended to strengthen and expand both comprehension and expressive abilities. It is anticipated that this will include improving the basic aspects of clear writing: basic grammar, vocabulary, and recurring patterns of typical sentence structures.			
<b>キーワード</b> Technical English, テクノロジー, English presentations			
<b>到達目標</b> 1. To develop vocabulary, sentence formations, and presentation principles of communication in order to establish a firm foundation for public speaking and technical presentations, in English 2. To develop three English skills: listening comprehension, speaking, reading and writing.			
<b>授業の計画</b> 1. Technical Vocabulary 2. Foreign words and phrases, Prefixes 3. Accuracy in using words 4. Common spelling problems, Simple language 5. Avoiding unnecessary words, Jargon 6. Usage of Technical words: Different grammatical forms of the same word 7. Words: Synonyms, Spelling 8. Measuring units 9. Cause and effect 10. Comparing-contrasting 11. Descriptions: Stating a problem, describing situation and change 12. Choice of words 13. Graphs and diagrams 14. Expressing ideas and opinions 15. Analysis			
<b>教科書</b> "Presenting Science, " (Second Edition), 2008, Macmillan LanguageHouse.			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> Grades will be based on class participation, a mid-term, presentations and homework assignments.			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> This subject compulsory for Nichia STC students. If you are not a Nichia STC student and want to attend this class, please contact a coordinator in your department for getting permission for your attendance.			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)		(学生用連絡先) コインカー パンカジ	
<b>備考</b>			

開講学期	3年・前期	時間割番号	5101340
科目分野	STC関連科目		
選必区分	選択		
科目名	実用技術英語[Practical Technical English]		
担当教員	Koinkar Pankaj Madhukar [KOINKA PANKAJI MADOKA]		
単位数	1	対象学生・年次	全学科
<b>授業の目的</b> This course is designed to help student to acquire the basic skills and knowledge required for scientific writing.			
<b>授業の概要</b>			
<b>キーワード</b> Technical Writing			
<b>到達目標</b> 1. To get ability to know the journalistic nuts and bolts of scientific writing 2. To get ability to discuss what science is, how to write a research paper, 3. To get ability to review topics of scientific importance 4. To get ability to distinguish central concepts from details in structuring scientific writing 5. To get ability to organize and present ideas logically 6. To get ability to write documents used in the sciences and engineering			

<b>授業の計画</b>		9. Tips on writing Results, Discussions, Conclusions, Acknowledgements and References
1. Basics of Scientific writing: Introduction to writing in the sciences and the challenges of scientific writing	2. Grammar and punctuation	10. Visuals and their conventions
3. The differences between scientific writing and other forms of writing	4. Describe several kinds of scientific writing and the purpose for each	11. Writing for Publication: Grammar review of scientific research paper
5. Avoid common errors in scientific writing	6. Troublesome words and Commonly confused words	12. Writing clearly and directly : Write precise and clear sentences and paragraphs
7. Getting to the point: Components of a research paper	8. Tips on writing Titles, Abstracts, and Introduction, Experimental Procedure	13. Improving scientific writing : Revise for clarity and effectiveness
		14. Correcting grammatical flaws in sample texts
		15. Ethics and scientific writing Fabrication, plagiarism, common knowledge, attributing authorship
		16. Identify and correct common writing problems, Final revision questions and discussion
<b>教科書</b> S. Bailey, ``Academic writing: A Practical guide for students'' Nelson Thornes Ltd (2003) Robert A. Day, Barbara Gastel, ``How to write and publish a scientific paper'',		
<b>参考書</b>		
<b>成績評価の方法</b> The overall grade will be based on the mid-term and final examinations and homework assignments.		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>		
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) コインカー パンカジ	
<b>備考</b>		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5101350
<b>科目分野</b>	STC関連科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	英語プレゼンテーション技法[Scientific Presentation Skills]		
<b>担当教員</b>	Koinkar Pankaj Madhukar [KOINKA PANKAJI MADOKA]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科

<b>授業の目的</b> The focus of this class is the development of communication and presentation skills.	
<b>授業の概要</b>	
<b>キーワード</b> oral presentaion, question and answer	
<b>到達目標</b>	
1. How to deliver a speech or a presentation in a professional environment	
2. The basic steps necessary to develop a clearly understood presentation	
3. How to prepare the content of a presentation or speech	
4. Practical experience in public speaking	
5. The fundamentals of communicating while using good "body language"	
<b>授業の計画</b>	4. Exercise with fundamentals of presentations
1. Fundamentals of Presentations(I): An easy yet effective "three-step" approach to preparing either an oral or a written presentation.	5. The importance of body language
2. Fundamentals of Presentations(II): An easy yet effective "three-step" approach to preparing either an oral or a written presentation.	6. Using effective body language to communicate with the target audience
3. Fundamentals of Presentations(III): An easy yet effective "three-step" approach to preparing either an oral or a written presentation.	7. Pronunciation practice (I): stress (accent) and enunciation
	8. Pronunciation practice(II): stress (accent) and enunciation
	9. How to incorporate visual aids and other media into the presentation; when and how to use the chalkboard
	10. How to incorporate visual aids and other media into the presentation; when to use a power point presentation (PPP)

11. How to evaluate the quality of a presentation as a means of improving one's own skill in delivering a successful presentation	15. Exercise for question and answer
12. Presentation exercises	16. Depending on the interests of the students enrolled in the course other possible topics to be covered could also include, for example: using the internet to conduct research, how to cite internet sources of information, what to avoid when using the internet for research purposes
13. The importance of time: beginning on time and ending on time	
14. The place and role of question and answer sessions: how to prepare and how to answer questions from the audience	
<b>教科書</b> Presenting Science: A Technical English Course for Engineering Majors. (Second Edition). 2008. Macmillan LanguageHouse.	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> examination (40%) and presentation exercise (60%)	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 日亜 STC 学生は必ず受講すること。日亜 STC 学生でない学生がこの科目を受講する場合は自分の学科のコーディネータに連絡し受講許可を受けること。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) コインカー パンカジ
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	1年又は2年・前期	<b>時間割番号</b>	5101360
<b>科目分野</b>	STC関連科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	プロジェクトマネジメント基礎[Project Management Fundamentals]		
<b>担当教員</b>	藤澤 正一郎, 日下 一也 [Shoichiroh Fujisawa, Kazuya Kusaka]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	全学科(光応用工学科を除く)
<b>授業の目的</b> ある課題(毎年変更)を達成するためのプロジェクトを企画・実践することで、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力(前に踏み出す力, 考え抜く力, チームで働く力)を身につける。また、プロジェクトを企画・実践するために必要なプロジェクトマネジメント能力を習得する。			
<b>授業の概要</b> ある課題(毎年変更)を達成するためのプロジェクトを立ち上げて取り組む。課題例として、「〇〇をキーワードに新商品, 新システム, 新サービスの開発を行う」, 「〇〇をキーワードにしたイベントの企画を行う」, 「教員や企業から募集した現実の課題を解決する方法を提案する」, 「自分たちの夢を実現させる新規プロジェクトを立ち上げる」などであり, 5, 6 人のグループで課題解決に向けてプロジェクトの実行計画を作成して実践する。			
<b>キーワード</b> プロジェクトマネジメント, ファシリテーション, プレインストーミング, グループ活動, コミュニケーション			
<b>関連科目</b> 『自主プロジェクト演習1[Exercise of Autonomy Project 1]』(0.5) 『自主プロジェクト演習2[Exercise of Autonomy Project 2]』(0.5) 『自主プロジェクト演習3[Exercise of Autonomy Project 3]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. グループ活動の中で自らの意見を述べ、仲間の意見を理解する能力を身につける。			
2. 課題の抽出および解決する能力を身につける。			
3. プロジェクトの立ち上げから終結までを計画して実行する能力を身につける。			
4. 成果を公の場で発表する能力を身につける			
<b>授業の計画</b>		5回目	プレゼンテーションの手法(PowerPoint の作り方, 発表の仕方)
1回目	チーム作り(グループでのアイデアの出し方とまとめ方, プレインストーミング, KJ 法)	6回目	プロジェクト予備審査会(プロジェクトテーマの審査)
2回目	プロジェクトマネジメント概論(プロジェクトの立ち上げと計画書作成)	7回目	プロジェクト計画(リスクマネジメント)
3回目	ファシリテーション概論(合意形成型会議のやり方)	8回目	プロジェクト計画(マイルストーンの決定)
4回目	プロジェクトの立ち上げ(テーマ決定, プロジェクト申請書作成)	9回目	プロジェクト計画(工程表の作成)
		10回目	プロジェクト審査会
		11回目	プロジェクトの実施 1

12回目 プロジェクトの実施 2	15回目 プロジェクト報告会
13回目 プロジェクトの実施 3	16回目 プロジェクト終結
14回目 プロジェクトの実施 4	
<b>教科書</b> 特になし	
<b>参考書</b> 世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント/G. マイケル・キャンベル/著, サニー・ペーカー/著, 中嶋秀隆/訳, 総合法令出版, 2011, ISBN:9784862802637 演習と実例で学ぶプロジェクトマネジメント入門 = Learning Project Management through Practice and Example/飯尾淳 編著, 中川正樹 監修, ソフトバンククリエイティブ, 2012, ISBN:9784797367706 エンジニアリング・ファシリテーション : 話し合いをうまくまとめるコミュニケーション・スキル/大石加奈子 著, 森北出版, 2011, ISBN:9784627973312 「会議ファシリテーション」の基本がイチから身につく本 : リーダーシップも話術も不要!/釘山健一 著, すばる舎, 2008, ISBN:9784883997039 ファシリテーション・リーダーシップ : チーム力を最強にする技術/ジョージ・エックス 著, ジェネックスパートナーズ 訳, ジェネックスパートナーズ, ダイアモンド社, 2004, ISBN:4478360707	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> プリントを配布	
<b>成績評価の方法</b> 毎回提出する個人活動報告書30%, 計画書10%, 申請書10%, 報告書10%, 報告会におけるプレゼンテーション評価10%, 成果物評価30%とし, 60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 無	
<b>受講者へのメッセージ</b> 本実習ではグループ活動の中でいかに自分をアピールできるかが重要となる。受け身の姿勢ではなく, 能動的(積極的)に実習に参加しなければならない。	
<b>JABEE合格</b> 「成績評価」と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 藤澤 正一郎:(エコ棟7階704室, Tel:088-656-7537) 日下 一也:(M322, 088-656-9442) (メールアドレス) 藤澤 正一郎:s-fuji@eco.tokushima-u.ac.jp 日下 一也:kusaka@me.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5101910
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	工業基礎数学[Industrial Basic Mathematics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科
<b>授業の目的</b> 工学を学ぶために必要不可欠となる微分・積分の基礎的な内容について理解を図り, さらに基本的な手法や計算技術を確実に習得することを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 1変数関数および多変数関数の微分・積分について, 基礎的な内容を中心に講義する。また, 理解を深めるために, 問題演習を随時行う。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> 各回の講義では, 定義・定理の内容を把握するために, 具体的な関数の微分・積分の問題演習を行う。演習を通して定義・定理を確実に理解し, 別の場面でそれらを活用できる能力を身につけてもらいたい。			
<b>授業の計画</b>			
1. 微分の定義	6. 不定形の極限值	12. 定積分	
2. 多項式の微分	7. テイラーの定理とマクローリン展開	13. 図形の面積	
3. 三角関数の微分	8. 増減と極値	14. 立体の体積	
4. 指数・対数関数の微分	9. 不定積分	15. 期末考査	
5. 高次導関数	10. 置換積分	16. 考査の解説とまとめ	
11. 部分積分			
<b>教科書</b> 各回の講義で資料を配付する。			
<b>参考書</b> 特に指定しない。			

<b>成績評価の方法</b> 第4・8・11回の講義でレポートの課題を提示する。3回のレポートと期末考査の成績に, 出席状況を加味して評価し, 60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> なし	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(A:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 吉川 隆吾
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5101920
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	工業基礎英語[Industrial Basic English]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	全学科
<b>授業の目的</b> 現代の国際言語である英語でのコミュニケーション能力の養成を計り, 正確な英語の発声や発音を理解し, 習得しつつ, 基礎的な英語の語彙力, 読解力, リスニングを高めることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 英語と日本語の発声や発音の相違点を理解し, 基本的な発音記号を正確に発音する練習を重ねる。又, TOEIC 対策テキストやプリントを用いて文法的基礎事項の復習をしつつ, 科学技術分野で頻出の語彙や表現を増やす。リスニング CD を使用した練習問題を通して, 必要な情報を効率的に掴み, 簡単な会話文で応答する活きた英語力を養成する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> 1. 基本的な発音記号を読み, 正確に発音できる力とリスニング力を高める。 2. 文法的基礎事項を理解し, 簡単な会話文に慣れる。 3. 科学技術分野で頻出の語彙を増し, 読解力を高める。			
<b>授業の計画</b>			
1. オリエンテーション母音と子音の違い(以下, TOEIC 対策の教科書にしたがって進めるが, 随時, 語彙プリント, 発音やリスニング教材, 参考資料を使用する)	8. Unit7. 不定詞, 時制の一致 子音, 摩擦音	9. Unit8. 現在分詞, 過去分詞, 主語動詞の呼応, 動名詞, 子音, 破擦音	
2. Unit1. 名詞, 代名詞, 現在形, 母音について復習	10. Unit9. 仮定法, 子音, [h]	11. Unit10. 関係詞, 注意すべき前置詞, 子音, 鼻音	
3. Unit2. 冠詞, 未来形, 二重母音と発音ルール(マジック e)	12. Unit11. 等位接続詞, 相関接続詞, 子音, [r]	13. Unit12. 従位接続詞, 倒置, 子音, 半母音	
4. Unit3. 形容詞, 過去形, 子音, 無声音と有声音のペア	14. Unit13. 語彙		
5. Unit4. 副詞, 進行形, 子音, 破裂音とその特徴	15. 期末考査 (リスニングテストを含む)		
6. Unit5. 完了形, 比較, 助動詞, 受動態	16. Unit14. 語彙, 期末考査の返却とまとめ		
7. Unit6. 動詞の種類, 子音, 摩擦音			
<b>教科書</b> はじめての新 TOEIC テスト 光富 省吾, 池田 裕子, 高橋 美知子 編著 朝日出版社			
<b>参考書</b> 英語の発音が正しくなる本 鷲見由理 著 ナツメ社			
<b>成績評価の方法</b> 出席状況, 発音, 発声の積極性, 小テスト, リスニング力, 期末考査等により総合的に評価し60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> なし			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(A:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0073		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐々木 和代		
<b>備考</b>	1. 光応用工学科卒業生には, TOEIC400 点以上が求められている。積極的に受験してスコア向上に努めること。		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5101930
科目分野	学部共通科目		
選必区分	要件外		
科目名	工業基礎物理[Industrial Basic Physics]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	全学科
授業の目的	物理学の法則をその原理原則に基づき理解		
授業の概要	力学・波動・電磁気学について、ごく初歩的分野を解説する。(講義)		
キーワード			
到達目標	物理の諸公式をいくつかの設問を通じて習得する		
授業の計画	1. 等加速度直線運動	6. 仕事とエネルギー	12. オームの法則・キルヒホッフの法則
2. 重力による運動	7. 力学的エネルギー	7. 力学的エネルギー	13. 磁場・クーロンの法則
3. 運動と力・運動の法則	8. 等速円運動・単振動・波動	8. 等速円運動・単振動・波動	14. 電流と磁場・ローレンツ力
4. 剛体にはたらく力	9. 音波・光波	9. 音波・光波	15. 電磁誘導・交流
5. 運動量と力積	10. 静電気力・電場と電位差	10. 静電気力・電場と電位差	16. 試験
	11. コンデンサー(電気容量)	11. コンデンサー(電気容量)	
教科書	なし		
参考書	高等学校で使用する物理の教科書		
成績評価の方法	講義への出席状況と講義毎の小プリント(50%)及び最終に行う試験(50%)にて評価し60%以上を合格とする。		
再試験の有無	なし		
受講者へのメッセージ	なし		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	本学科学習・教育目標(A: ◎)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 左近 隆義		
備考	1. 講義の最終日に試験を実施するので、毎回の復習を欠かさず行うこと。		

開講学期	4年・前期	時間割番号	5101950
科目分野	学部共通科目		
選必区分	要件外		
科目名	職業指導[Vocational Guidance]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	4	対象学生・年次	全学科
授業の目的	生涯発達・Career Developingとしての人間観・職業観を確立し、個人及び工業高校教師として必要な職業指導・カウンセリング能力を習得する。		
授業の概要	生涯発達・Career Developingとしての人間観・職業観を確立すべく、学際的見地から職業指導・キャリア・カウンセリングの目的・課題・理論・展開方法・技法を論述する。併せてキャリア確立上必須の種々の能力開発を実践指導し、習得を図る。		
キーワード			
到達目標	職業指導・キャリア・カウンセリングの目的・課題・理論・展開方法・技法などを理解し、種々の能力開発の理論と実践スキルを習得し、高校教師として基礎的指導能力に習熟する。		
授業の計画	1. 未来論 4 つのシナリオについて理解・新しいパラダイムの認識深化	6. 職業興味:欲求と行動、適応と不適応の理解	
2. 職業指導の歴史的発展・日米の比較を通しその目的・定義・諸理論の理解	3. 実践的なキャリアカウンセリングの理論と方法の理解	7. アセスメントの実際:性格検査法の理解	
3. 実践的なキャリアカウンセリングの理論と方法の理解	4. 高校生のためのキャリアガイダンスの理解	8. ビデオ教材学習:「今を生きる」・・・理想の教師・高校生との交流とは	
4. 高校生のためのキャリアガイダンスの理解	5. 個人の具有性のアセスメント:人格、性格・個性の理解	9. 就職に必要な所要性能のアセスメント:就職・産業人の理解	
5. 個人の具有性のアセスメント:人格、性格・個性の理解		10. 理想の組織とは:官僚制組織の長所・短所、システム4の理解	

11. マネジメント・スキルの理解:科学的管理法・HR理論・ハーバード理論	20. 能力開発:学習心理学・認知心理学上特に学習条件や記憶モデルの理解
12. 管理能力とは:生徒や部下をやる気にさせるリーダーシップ理論の理解	21. IC法・記憶術・速読術演習
13. カウンセリング理論:定義・カウンセリングマインドの理解	22. 創造力育成のための発想法の諸理論・技法の理解:NM法の理論・方法
14. カウンセリング技法の理解・演習	23. ワークショップ:NM法にてアイデア創出のためのソフト作成・提出
15. コミュニケーションスキルの理解:「職業観について」の小論文テスト	24. 問題解決法としてのKJ法の目的・意義・技法の理解
16. 能力開発:生涯発達心理学に基づき、ライフキャリアステージ意義の理解	25. ワークショップ1:具体的問題解決のためにテーマの決定・ラベル作り
17. エリクソン・ニーチェ・佐藤一斎・OECDなどの発達課題・ステージ理解	26. ワークショップ2:名札作り・構造配置位置決定
18. 井上富雄の人生計画表を参考に、自分の「人生60年計画表」を考案	27. ワークショップ3:貼り付け・島作り第一段階～第三段階、完成
19. ワークショップ:「人生60年計画表」を完成・提出	28. 提出したKJ法のプレゼンテーション会
	29. ディベートの重要性の理解とノウハウを理解
	30. ワークショップ4:ディベートコンテストを実施
教科書	講師によるプリント教材資料配付
参考書	参考書・必読書については、講義中に適宜講師が紹介。
成績評価の方法	
再試験の有無	
受講者へのメッセージ	自己啓発・自己変革を自覚して履修すべし
JABEE合格	
学習教育目標との関連	
WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 坂野 信義
備考	1. 「面白くてためになり、そして思い出に残る」講義が目標。 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。





## 建設工学科(昼間)

測量学 [Surveying] … 建設工学科(昼間)／非常勤／1年・前期	14
測量学実習 [Surveying Practice] … 建設工学科(昼間)／渡邊 他, 非常勤／1年・前期	14
建設基礎解析演習 [Fundamental Analysis for Civil Engineering] … 建設工学科(昼間)／橋本 他, 蔣 景彩／1年・前期	15
学びの技 [Skills for Self-Learning] … 建設工学科(昼間)／山中 他／1年・前期	15
構造力学1 [Structural Mechanics 1] … 建設工学科(昼間)／野田／1年・後期	16
構造力学2 [Structural Mechanics 2] … 建設工学科(昼間)／野田／2年・前期	16
構造力学3 [Structural Mechanics 3] … 建設工学科(昼間)／長尾／2年・前期	17
情報処理 [Data Processing] … 建設工学科(昼間)／田村 他／1年・後期	17
微分方程式1 [Differential Equations (I)] … 建設工学科(昼間)／香田／2年・前期	18
土の力学1 [Soil Mechanics 1] … 建設工学科(昼間)／渦岡／2年・前期	18
もの作り創造材料学 [Materials for Construction] … 建設工学科(昼間)／上田／2年・前期	18
水の力学1 [Hydraulics 1] … 建設工学科(昼間)／中野 他／2年・前期	19
水の力学2 [Hydraulics 2] … 建設工学科(昼間)／武藤 他／2年・前期	19
計画の論理 [Planning Theory] … 建設工学科(昼間)／近藤／2年・前期	20
環境を考える [Fundamental Environmental Study] … 建設工学科(昼間)／上月 他／2年・前期	20
土の力学2 [Soil Mechanics 2] … 建設工学科(昼間)／渦岡／2年・後期	20
建設の歴史とくらし [History of Civil Works and Human Living] … 建設工学科(昼間)／真田 他／2年・後期	21
建設創造実験実習 [Civil and Environmental Engineering Laboratory] … 建設工学科(昼間)／渦岡 他, 近藤 光男, 長尾 文明, 中野 晋, 成行 義文, 山中 英生, 上野 勝利, 蔣 景彩, 鈴木 壽, 田村 隆雄, 滑川 達, 野田 稔, 真田 純子, 渡邊 健, 山中 亮一／3年・前期	21
建設創造設計演習 [Civil and Environmental Engineering Design Exercise] … 建設工学科(昼間)／近藤 他／3年・後期	22
建設基礎セミナー [Fundamental Seminar on Civil and Environmental Engineering] … 建設工学科(昼間)／工学部建設工学科教員／1年・前期	22
キャリアプラン演習 [Exercise for Career Plan] … 建設工学科(昼間)／橋本／3年・前期	22
プロジェクト演習 [Practice on Civil Engineering Projects] … 建設工学科(昼間)／工学部建設工学科教員／3年・後期	23
技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics for Civil Engineering] … 建設工学科(昼間)／滑川 他, 非常勤／3年・前期	24
卒業研究 [Undergraduate Research Work] … 建設工学科(昼間)／建設工学科教員／4年・通年	24
複素関数論 [Complex Analysis] … 建設工学科(昼間)／今井／2年・後期	25
確率統計学 [Probability and Statistics] … 建設工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／2年・前期	25
微分方程式2 [Differential Equations (II)] … 建設工学科(昼間)／香田／2年・後期	25
解析力学 [Mechanics] … 建設工学科(昼間)／岸本／2年・後期	26
数値解析 [Numerical Analysis] … 建設工学科(昼間)／竹内／3年・前期	26
ベクトル解析 [Vector Analysis] … 建設工学科(昼間)／水野／3年・前期	26
工業物理学及び実験 [Laboratory in General Physics] … 建設工学科(昼間)／岸本／3年・後期	27
応用構造力学 [Applied Structural Mechanics] … 建設工学科(昼間)／成行／2年・後期	27
応用構造力学演習 [Applied Structural Mechanics Exercise] … 建設工学科(昼間)／成行／2年・後期	28
土の力学演習 [Soil Mechanics] … 建設工学科(昼間)／鈴木／2年・後期	28
コンクリート工学 [Concrete Technology] … 建設工学科(昼間)／渡邊／2年・後期	28
構造解析学及び演習 [Structural Analysis and Exercise] … 建設工学科(昼間)／三神／3年・前期	29
地盤工学 [Geotechnical Engineering] … 建設工学科(昼間)／上野／3年・前期	29
材料・構造力学 [Reinforced Concrete Mechanics] … 建設工学科(昼間)／橋本 他／3年・前期	30
振動学及び演習 [Structural Dynamics and Exercise] … 建設工学科(昼間)／野田／3年・前期	30

地震工学 [Earthquake Engineering] … 建設工学科(昼間)／三神／3年・前期	31
鋼構造 [Steel Structures] … 建設工学科(昼間)／成行／3年・前期	31
耐震工学 [Earthquake Engineering] … 建設工学科(昼間)／三神／3年・後期	32
コンクリート構造及びメンテナンス [Concrete Structure and Maintenance] … 建設工学科(昼間)／上田 他／3年・後期	32
社会基盤プロジェクト [Infrastructure Projects] … 建設工学科(昼間)／渦岡／3年・後期	33
建築構造計画 [Structural Design] … 建設工学科(昼間)／成行・非常勤／3年・後期	33
水の力学3及び演習 [Hydraulics (3) and Exercise] … 建設工学科(昼間)／中野 他, 武藤 裕則／2年・後期	33
生態系の保全 [Ecosystem Conservation] … 建設工学科(昼間)／鎌田／2年・後期	34
計画の数理 [Planning Theory] … 建設工学科(昼間)／滑川／2年・後期	34
沿岸域工学 [Coastal Zone Engineering] … 建設工学科(昼間)／中野／3年・前期	35
都市・交通計画 [Urban & Transport Planning] … 建設工学科(昼間)／山中 他／3年・前期	35
資源循環工学 [Resources Circulatory Engineering] … 建設工学科(昼間)／山中 他／3年・前期	35
景観デザイン [Landscape Design] … 建設工学科(昼間)／真田／3年・前期	36
参加型デザイン [Participatory Design] … 建設工学科(昼間)／真田／3年・前期	36
河川工学 [River Engineering] … 建設工学科(昼間)／武藤 他／3年・後期	37
計画プロジェクト評価 [Project Evaluation Methods for Infrastructure Planning] … 建設工学科(昼間)／近藤 他／3年・後期	37
環境生態学 [Environmental Ecology] … 建設工学科(昼間)／河口／3年・前期	38
地域の防災 [Regional disaster management] … 建設工学科(昼間)／中野 他／3年・後期	38
緑のデザイン [Design of Green Space] … 建設工学科(昼間)／鎌田 他／3年・後期	38
応用測量学 [Applied Surveying] … 建設工学科(昼間)／非常勤／1年・後期	39
景観工学概論 [Landscape and Infrastructure Design] … 建設工学科(昼間)／真田／2年・前期	39
プログラミング技法及び演習 [Programming Methodology and Exercise] … 建設工学科(昼間)／三神 他／2年・後期	40
建設マネジメント [Construction Business Management] … 建設工学科(昼間)／滑川／2年・後期	40
建設の法規 [Administration of Public Works] … 建設工学科(昼間)／非常勤／3年・後期	41
専門外国語 [Foreign Language for Engineering] … 建設工学科(昼間)／A／3年・後期	41
生産管理 [Production Control] … 建設工学科(昼間)／非常勤／4年・後期	42
労務管理 [Personnel Management] … 建設工学科(昼間)／非常勤／4年・後期	42
生態系修復論 [Restoration Ecology] … 建設工学科(昼間)／河口 他／3年・前期	42
環境計画学 [Environmental Design] … 建設工学科(昼間)／山中 他／3年・後期	43
合意形成技法 [Consensus Building Methods] … 建設工学科(昼間)／山中／3年・後期	43
建築計画1 [Architectural Planning 1] … 建設工学科(昼間)／非常勤／2年・後期	44
建築法規 [Introduction of Building Code] … 建設工学科(昼間)／非常勤／3年・前期	44
建築環境工学 [Architectural Environmental Engineering] … 建設工学科(昼間)／非常勤／4年・前期	44
建築設備工学 [Building Service Engineering] … 建設工学科(昼間)／非常勤／4年・前期	45
建築史 [History of Architecture] … 建設工学科(昼間)／渡辺／3年・前期	45
建築物のしくみ [Introduction of Architecture] … 建設工学科(昼間)／非常勤／2年・前期	45
建築製図1 [Drawing for Architecture 1] … 建設工学科(昼間)／非常勤／2年・後期	46
建築製図2 [Drawing for Architecture 2] … 建設工学科(昼間)／非常勤／3年・前期	46
建築設計製図1 [Design and Drawing for Architecture] … 建設工学科(昼間)／非常勤／3年・後期	47
CAD演習 [Practice on Computer Aided Design and Drawing] … 建設工学科(昼間)／非常勤／3年・前期	47
建築設計製図2 [Design and Drawing for Architecture 2] … 建設工学科(昼間)／渡辺／4年・前期	47
まちづくり論 [Town Planning] … 建設工学科(昼間)／渡辺／4年・前期	48
建築計画2 [Architectural Planning 2] … 建設工学科(昼間)／非常勤／3年・後期	48
建築施工 [Building Production and Construction Management] … 建設工学科(昼間)／非常勤／4年・後期	49



開講学期	1年・前期	時間割番号	5111010
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	測量学[Surveying]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 社会活動の基盤を支える多くの土木構造物の建設を計画し、設計し、施工するとき、その基礎資料となるのは、正確な測量から得られた地図である。その地図作製のための学問が測量学である。そこで、以下のような項目について、修得できるよう講義する。1. 測量に用いる器械器具の構造・使用法・検査およびその調整法 2. 野外での測量作業の方法および野帳の記入法 3. 測定結果を計算し、その精度を調べ、また測量結果によって地図を作り、さらに面積・容積などを計算する方法			
<b>授業の概要</b> 測量では、距離、角度、高低差が測定の要素であり、その測定器械、測定法について講義する。そして、地図を作製するために、上の測量方法を応用して、骨組測量、細部測量へと発展させ、測定値の調整計算・面積計算を行い、地図を作製する方法を述べる。			
<b>キーワード</b> 測量の基準、測量法、平板測量、トランシット測量、水準測量、GPS 測量			
<b>関連科目</b> 『測量学実習[Surveying Practice]』(0.5)、『応用測量学[Applied Surveying]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. 測量方法として、距離測量、平板測量、トラバース測量、水準測量、および GPS 測量を理解する。また、計算法として、経緯距法と面積・容積計算法を理解修得する。			
<b>授業の計画</b>			
1. ガイダンス・測量学概論	6. 角測量・多角測量 4	12. 誤差及び最小二乗法 1	
2. 距離測量	7. 角測量・多角測量 5	13. 誤差及び最小二乗法 2	
3. 角測量・多角測量 1	8. 角測量・多角測量 6	14. 平板測量・地形測量	
4. 角測量・多角測量 2	9. GPS 測量	15. 三角測量・三辺測量	
5. 角測量・多角測量 3	10. 水準測量 1	16. 期末試験	
11. 水準測量 2			
<b>教科書</b> 森 忠次著「改訂版測量学 1 基礎編」丸善を使用するが、そのみでは十分理解できないと思われる部分については、プリントを配布し補助資料とする。			
<b>参考書</b> 参考書は授業中においてその都度紹介される。			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が達成されているかを、途中の小テスト(20%)と期末試験(80%)の総合評価とし、60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> この教科目を履修するには、数学、幾何学、および、図学の知識が基礎となる。そこで、これまでの教育課程において履修した数学等の基礎知識を復習し、充分身に付けておくこと。また、この教科目は建設工学の全ての基礎となるものであり、建設工学の専門科目の最初に学ぶものであるため、最初からしっかりと理解しながら修得を心がけて受講すること。本講義は、「測量学実習」と対をなすものであり、実習を行うことにより一層の理解が可能となる。そして、その内容は「応用測量学」とつながっていく。また、この科目の取得は、卒業後の「測量士補」、「測量士」の資格条件となる。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の 3(2)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0001		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 神田 幸正 吉田 哲也		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5111020
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	測量学実習[Surveying Practice]		
担当教員	渡邊 健, 上野 勝利, 滑川 達, 工学部非常勤講師 [Takeshi Watanabe, Katsutoshi Ueno, Susumu Namerikawa]		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 以下の「測量学」における講義目的・目標について実習を通じて理解を深める。1. 測量に用いる器械・機具の使用法等、2. 野外での測量作業の方法および野帳の記入法、3. 内業として、測定結果を計算し、精度を調べ、製図を行う。		
<b>授業の概要</b> 1. GPS 測量 GPS 測量の観測計画ならび測量作業に習熟し、調整計算ならびに成果物の作成方法を修得する。2. トランシット・トラバース測量および経緯距計算測量において最も重要な器械であるトータルステーションの使用法を修得し、トラバース測量を行う。その測定結果を調整計算し、精度を調べ、面積計算も行う。そして、トラバースの製図を行う。3. トータルステーションを用いた地形測量を行う。測量機械に習熟するとともに成果物の作成方法を学ぶ。4. スタジア測量および水準測量 現場に即するように交互水準を含んだ、路線水準測量を行う。それら測点間の距離をスタジア測量により求め、上の水準測量の結果を調整する。		
<b>キーワード</b> GPS、トラバース測量、水準測量、スタジア測量、細部測量		
<b>先行科目</b> 『測量学[Surveying]』(1.0)		
<b>関連科目</b> 『応用測量学[Applied Surveying]』(0.5)		
<b>到達目標</b>		
1. GPS 測量の観測計画ならび測量作業に習熟し、調整計算ならびに成果物の作成方法を修得すること。		
2. トータルステーションの使用法とトラバース測量ならびに細部測量の測量作業に習熟し、野帳への記録方法、誤差の評価方法、ならびに成果物の作成方法を修得すること。		
3. レベルとスタッフの操作方法ならびに水準測量とスタジア測量の測量作業に習熟し、野帳への記録方法、誤差の評価方法、ならびに成果物の作成方法を修得すること。		
<b>授業の計画</b>		
1. ガイダンス・GPS 測量説明	6. トータルステーション多角測量	12. TS 細部測量内業・レポート 3
2. GPS 基準点測量	7. トラバース調整計算・製図	13. スタジア測量
3. GPS 基準点測量内業・レポート 1a	8. トラバース調整計算・製図	14. 水準測量
4. GPS 基準点測量	9. トラバース調整計算・製図:レポート 2	15. 水準測量・スタジア測量内業
5. GPS 基準点測量内業:レポート 1b	10. TS 細部測量	16. 内業レポート 4
11. TS 細部測量		
<b>教科書</b> 最新測量入門／浅野繁喜、伊庭仁嗣:実教出版、2008. 12、ISBN:978-4-407-31693、機器の操作方法、測量方法など記載されており、実習に必須。 基礎シリーズ 最新測量入門 新訂版 実教出版 ISBN978-4-407-31693-3 測量学で指定された教科書		
<b>参考書</b> 測量学の授業中において紹介される。		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 教科書は実習を実施するうえで必須なので、必ず購入のこと。		
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 の達成度をレポート 1a とレポート 1b の割合を 1:1 として算出した評価点が 60%以上をクリア条件とする。到達目標 2 の達成度をレポート 2 とレポート 3 の割合を 1:1 として算出した評価点によって評価し、60%以上をクリアとする。到達目標 3 の達成度をレポート 4 によって評価し、60%以上をクリアとする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は到達目標 1～3 の評点の重みをそれぞれ 25, 50, 25%として算出する。		
<b>再試験の有無</b> 当該年度に再評価は行わない。不合格者は不合格部分について翌年度に履修する事。		
<b>受講者へのメッセージ</b> 実習は班を編制して行うので、班員同士よく協力して、各自の責任を果たすこと。また野外で行われるので、各自種々の危険に対して十分に注意する事。具体的には、サンダル履きでの実習参加は認めない。また帽子等を着用し、日射病に注意する事。		
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の 3(2)に 100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0002	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡邊 健(A506 号室,088-656-7320) 上野 勝利(A402 号室,088-656-7342) 滑川 達:滑川達(A401 号室, Tel:088-656-9877) 河口 洋一(A308 088-656-9025)  (メールアドレス) 渡邊健:watanabe@ce.tokushima-u.ac.jp 上野勝利:ueno@ce.tokushima-u.ac.jp 滑川達:namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp 河口 洋一:kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp	
<b>備考</b>	1.	

開講学期	1年・前期	時間割番号	5111030
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	建設基礎解析演習[Fundamental Analysis for Civil Engineering]		
担当教員	橋本 親典, 岡岡 良介, 野田 稔, 蔣 景彩 [Chikanori Hashimoto, Ryosuke Uzuoka, Minoru Noda, Jiang Jing-Cai]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 本科目は、大学教育への導入科目と位置づけられ、高校までにおいて学習した数学と力学の基礎的事項に関する理解度を深めるとともに、専門分野で取り扱う事項と関連付けた演習を行って、1年後期以降に開講される専門科目の履修を容易にする。

**授業の概要** 学期初頭、高校の教科書を参考に講義担当者が作成した数学と力学に関する問題集それぞれ No.1～6 および No.1 と 2 を配布し、授業方法や成績評価方法などについて説明する。次の授業では、授業前試験としてこの配布した問題集から数学3問と力学1問の試験を実施する。その次の授業から、各単元ごとに演習を行う。各単元は連続した3回の講義時間で消化する。ここで、第1回講義時間には、その前半に出題の前半部分について意図や解法を解説したのちテスト形式の解答演習を行う。第2回講義時間には、前回の解答演習の採点・添削結果を返却したのち、出題の後半部分について意図や解法を解説する。また、単元全体の問題に関する質問に答える。ついで、第3回講義時間には、当該単元の全問題を対象にした小テストを行う。さらに、数学の6単元あるいは力学の2単元が終了した次の授業で、それぞれに関する問題の全体を出題対象にした全般試験を実施する。以上のようにして合計8単元の授業と試験が終了した段階で成績評価を行い、合格判定と点数決定を行う。このあと、数学を不合格となった者には数学の全般試験の再試験を実施する。また、力学を不合格となった者には力学の全般試験の再試験を実施する。そのあと、数学と力学のどちらかの再試験を不合格となった者を対象に、再々試験を課し、この成績で合格判定と成績評価を行う。なお、数学の再試験、力学の再試験ならびに数学または力学の再および再々試験を受けない者は、自主的な学習時間とする。

**キーワード** 基礎代数学、基礎微積分、基礎力学

到達目標	No.	到達目標
	1	工学基礎科学として、高校までで学習した数学、特に代数学と微積分を中心とした理論について、その本質を理解するとともに応用力を身につけている。
	2	工学基礎科学として、高校までで学習した力学の理論について、その本質を理解するとともに応用力を身につけている。

回	大項目	中項目	内容
1	ガイダンス		本演習の目的やスケジュールについて配布資料を用いて説明する。
2	授業前試験		数学 No.1～6 および力学 No.1 と 2 から数学3題と力学1題に関して試験を行う。
3	数学 No.1	微分の基礎と応用	前半の演習解答
4	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
5	数学 No.1	微分の基礎と応用	小テスト
6	数学 No.2	積分の基礎と応用	前半の演習解答
7	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
8	数学 No.2	積分の基礎と応用	小テスト
9	数学 No.3	代数関数と図形	前半の演習解答
10	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
11	数学 No.3	代数関数と図形	小テスト
12	数学 No.4	三角関数、指数関数、対数関数とベクトル	前半の演習解答
13	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
14	数学 No.4	三角関数、指数関数、対数関数とベクトル	小テスト
15	数学 No.5	確率	前半の演習解答
16	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
17	数学 No.5	確率	小テスト
18	数学 No.6	統計	前半の演習解答
19	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
20	数学 No.6	統計	小テスト

21	数学全般試験		数学 No.1～6 の演習問題を対象とした試験
22	力学 No.1	ベクトルと微分による運動表現	前半の演習解答
23	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
24	力学 No.1	ベクトルと微分による運動表現	小テスト
25	力学 No.2	基本的な力学問題	前半の演習解答
26	〃	〃	演習解答の返却・後半の説明
27	力学 No.2	基本的な力学問題	小テスト
28	力学全般試験		力学 No.1 と 2 の演習問題を対象とした試験
29	数学全般試験の再試験		数学全般試験の不合格者対象の再試験(合格者は自主学習)
30	力学全般試験の再試験		力学全般試験の不合格者対象の再試験(合格者は自主学習)
31	数学・力学全般試験の再々試験		数学および力学全般試験の再試験のどちらか1つを不合格になった者対象の再々試験(合格者は自主学習)
32	授業評価アンケート		

**教科書** 講義時に担当者が独自に作成した講義資料を配布する。

**参考書** 高校で学習した数学と物理の教科書。

**成績評価の方法** 到達目標 1 および 2 の達成度を、解答演習、小テスト、全般試験の割合を 3:3:4 として算出される評点により評価し、評点  $\geq 60\%$  をクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標 1, 2 の評点を 3:1 の重みで加重平均して算出する。

**再試験の有無** 再試験受験者の可否は、評点  $\geq 60\%$  をクリア条件とするが、成績は一律に 60 点とする。

**受講者へのメッセージ** 本講義は、高校までの学習成果を確認するとともに、大学教育のために若干のレベルアップ行うものであるから、受講者は高校で用いた教科書を十分に復習・理解したうえで授業に臨む必要がある。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習と 1 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。また、成績不振者に対しては、授業評価アンケート実施前に特別に数学および力学個別に再試験を実施する場合がある。

**JABEE 合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** 本科目は本学科の教育目標の 3(1)に、100%対応する。

<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0003">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0003</a>
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 橋本 親典:建設棟 5 階 505 号室, TEL 088-656-7321 野田 稔:野田 稔(A514, Tel: 088-656-7323) 蔣 景彩:建設棟3階311号室 TEL 088-656-7346 岡岡 良介:岡岡良介(A401, Tel: 088-656-7345) (メールアドレス) 橋本 親典:chika@ce.tokushima-u.ac.jp 野田 稔:noda@ce.tokushima-u.ac.jp 蔣 景彩:jiang@ce.tokushima-u.ac.jp 岡岡 良介:uzuoka@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 橋本 親典:毎週月曜日 PM.4:20～5:50<昼間コース>, PM.6:00～7:30<夜間主コース>建設棟 5 階 505 室 野田 稔:年度ごとに学科の掲示を参照すること 蔣 景彩:毎週月曜日 PM.2:30-PM.4:30 建設棟3階311号室 岡岡 良介:前期:水曜日 16:20-17:50, 後期:月曜日 12:50-14:20
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	1年・前期	時間割番号	5111040
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	学びの技[Skills for Self-Learning]		
担当教員	山中 英生, 真田 純子 [Hideo Yamanaka, Junko Sanada]		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 大学における専門科目の履修に必要な基礎的な学習スキルを理解するとともに、自ら実践できる基礎的能力を身につける。	
<b>授業の概要</b> 本講は以下の3内容で構成される。(1) 学習を支援するための図書・行政資料・インターネット資料などの利活用方法について講述と体験学習を行う。(2) 地域フィールド情報を調査・分析・整理するための方法を説明し、基礎的能力を養成する体験学習を行う。(3) 整理した資料を適切に文章化し、レポート作成する方法について説明し、その基礎力を養う体験学習を実施する。	
<b>キーワード</b> 資料調査法、フィールド調査法、図書館・Web 利用法、レポート作成法	
<b>先行/科目</b> 『大学入門講座(工・建設)』[Introduction to University Education]』(1.0)	
<b>到達目標</b> 1. 地域フィールド情報を調査・分析・整理するための方法について基礎的能力を習得する。(2-3回) 2. レポートの内容・構成を把握し、レポートの読解方法および書き方を習得する。(4-5回) 3. 図書・行政資料・インターネット資料などの利活用方法について基礎的能力を習得する。(6-8回)	
<b>授業の計画</b> 1. 授業目的、内容、授業計画、大学での学び方の基礎(配布資料) 2. 現地踏査の方法、地域フィールド情報の読み方(地形図の基礎) 3. 地形図の入手、読図 演習レポート 4. 読みやすい文章構成、分かりやすい文章の書き方 5. レポートの読解、構成の把握 演習レポート 6. 資料収集学習:資料収集とその整理方法 一図書・雑誌検索 7. 資料収集学習:資料収集とその整理方法 一書籍をよみ、まとめる 8. 資料収集学習:資料収集とその整理方法 一インターネット活用	
<b>教科書</b> 必要に応じて講義時にプリントを配布する。	
<b>参考書</b> 理科系の作文技術 中公新書624/木下是雄:中央公論新社, 1981, ISBN:4121006240 「学びの技」はじめの一步/徳島大学工学部	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 授業時に資料を配付する。	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標1, 2, 3の達成度はそれぞれ演習レポート評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標1-3の評点の重みをそれぞれ30%,40%,30%として算出する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標 2(3)に30%, 4(1)に40%, 5(2)に30%それぞれ対応する。	
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0004">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0004</a>
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 山中 英生 A410 088-656-7350 真田 純子 A411 088-656-7578 (メールアドレス) 山中 英生 yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp 真田 純子 sanajun@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示板を参照のこと。
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5111050
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	構造力学1[Structural Mechanics 1]		
<b>担当教員</b>	野田 稔 [Minoru Noda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 安全な構造物を設計するための基礎として、力と変形の記述法および両者の関係について学ぶ。この講義では、一連の構造力学の基礎科目として、作用する荷重を構造物がどのように支えているかを支点反力、断面力の求め方を理解して、簡単な構造物に作用する外力、内力を求められる力をつける。			
<b>授業の概要</b> 本講義では、構造力学の基本事項である、(1)力の釣合いによる未知力の計算、(2)トラスの部材力やはりの断面力などの内力の計算、について理解し、基礎知識を身につける。理解を深めるため、適宜演習問題を課して応用力を養成する。(1)力の釣合いを使った支点反力の計算、(2)力の釣合いを使った内力の計算の各テーマが終了する毎に2回の到達度確認試験を実施する。			

<b>キーワード</b> 力の釣合い式、支点反力、部材力、断面力	
<b>到達目標</b> 1. 力学の基礎に力の釣合いがあることを理解し、力やモーメントの釣合いから簡単な構造物の支点反力などを求めることができる。(1回~9回) 2. トラスの部材力やはりの断面力などの内力を求め、断面力図を描くことができる。(10回~16回)	
<b>授業の計画</b> 1. 構造物の成り立ちと理想化、力の単位 2. 力の性質 3. 力のモーメント 4. 力の釣合い 5. 構造物の支持 6. 構造物の安定と静定 7. 支点反力 8. 断面力 9. 中間試験 10. トラスの部材力(1)節点法 11. トラスの部材力(2)断面法 12. トラスの部材力(3)応用 13. はりの断面力 14. 断面力図(1)せん断力図 15. 断面力図(2)曲げモーメント図 16. 期末試験	
<b>教科書</b> 構造力学. 上/崎元達郎:森北出版, 1991. 9, ISBN:4627425104	
<b>参考書</b> 静定構造力学/高岡宣善:共立出版, 1999. 3, ISBN:4320074025 力学の構造物への応用/星谷勝:鹿島出版会, 1976. 1, ISBN:4306020975 詳解構造力学演習/彦坂照, 崎山毅, 大塚久哲:共立出版, 1981. 1, ISBN:4320073428	
<b>成績評価の方法</b> 各到達目標の達成度を、到達度確認試験により評価し、各目標の達成度が全て60%以上を合格とする。成績は、到達目標1, 2の評点の重みを、それぞれ50%,50%として算出する。	
<b>再試験の有無</b> 中間試験、期末試験の両方が不合格となった場合は、再受講とする。中間試験、期末試験のいずれかが合格の場合、不合格となった試験について、期間中に1度再試験を実施する。再試験で合格できなかった場合は、再受講とする。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業中に私語をしないこと。質問をすることを心掛ける。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標 3(2)に100%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0005">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0005</a>
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 野田 稔(A514, Tel: 088-656-7323, E-mail: noda@ce.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) noda@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5111060
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	構造力学2[Structural Mechanics 2]		
<b>担当教員</b>	野田 稔 [Minoru Noda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 安全な構造物を設計するための基礎として、力と変形の記述法および両者の関係について学ぶ。この講義では、一連の構造力学の基礎科目として、影響線、応力とひずみの関係について理解し、簡単な構造物について、反力、はりの断面力、トラスの部材力の影響線を求め、内部に生じる応力を求めることができる力をつける。			
<b>授業の概要</b> 本講義では、構造力学1に引き続いて、構造力学の基本事項である、(1)影響線、(2)応力とひずみ、曲げ部材の応力について理解し、基礎知識を身につける。理解を深めるため、適宜演習問題を課して応用力を養成する。(1)影響線の計算、(2)応力の表現の各テーマが終了する毎に2回の到達度確認試験を実施する。			
<b>キーワード</b> 影響線、曲げ応力、せん断応力、フックの法則、モールの応力円			
<b>到達目標</b> 1. 影響線の意味を理解し、支点反力、はりの断面力、トラスの部材力の影響線を描くことができる。(1回~8回) 2. フックの法則を理解し、平面応力状態に対するモールの応力円が描ける。(9回~16回)			
<b>授業の計画</b> 1. 反力の影響線 2. はりの断面力の影響線(1) 3. はりの断面力の影響線(2) 4. はりの断面力の影響線(3) 5. トラスの部材力の影響線(1) 6. トラスの部材力の影響線(2) 7. 中間試験 8. 応力と変形、フックの法則 9. はりの曲げ応力 10. 断面諸量(1) 11. 断面諸量(2) 12. はりのせん断応力 13. 平面応力状態 14. モールの応力円 15. 期末試験 16. 試験解説・まとめ			



<b>教科書</b>	構造力学. 上/崎元達郎:森北出版, 1991. 9, ISBN:4627425104
<b>参考書</b>	静定構造力学/高岡宣善:共立出版, 1999. 3, ISBN:4320074025 力学の構造物への応用/星谷勝:鹿島出版会, 1976. 1, ISBN:436020975 詳解構造力学演習/彦坂熙, 崎山毅, 大塚久哲:共立出版, 1981. 1, ISBN:4320073428
<b>成績評価の方法</b>	各到達目標の達成度を, 到達度確認試験により評価し, 各目標の達成度が全て 60%以上を合格とする。成績は, 到達目標 1, 2 の評点の重みを, それぞれ 50%,50%として算出する。
<b>再試験の有無</b>	中間試験と期末試験のいずれか一方が合格の場合, 不合格となった試験を対象に再試験を行う。それでも不合格となった場合は, 再受講とする。
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中に私語をしないこと, 質問をすることを心掛ける。
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標 3(2)に 100%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0005
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 野田 稔(A514, Tel: 088-656-7323, E-mail: noda@ce.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) noda@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5111070
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	構造力学3[Structural Mechanics 3]		
<b>担当教員</b>	長尾 文明 [Fumiaki Nagao]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	安全な構造物を設計するための基礎として, 力と変形の記述法および両者の関係について学ぶ。この講義では, 一連の構造力学の基礎科目として, はりの変形と長柱の座屈荷重および短柱に作用する応力度を求められる力をつける。		
<b>授業の概要</b>	本講義では, 構造力学 1, 構造力学 2 に引き続いて, 構造力学の基本事項である, (1)はりの変形, (2)柱の力学について理解し, 基礎知識を身につける。理解を深めるため, 適宜演習問題を課して応用力を養成する。各単元終了後, 次回の授業の最初に 30 分の到達度確認試験(小テスト)を実施する。		
<b>キーワード</b>	はりの弾性曲線, 弾性荷重法, 不静定構造, 座屈, 長柱, 短柱		
<b>先行/科目</b>	『構造力学1[Structural Mechanics 1]』(1.0), 『構造力学2[Structural Mechanics 2]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. はりの変形を理解し, 変形の適合条件を使って, 簡単な不静定構造物を解くことができる。(1 回~7 回) 2. 柱に関する基礎知識を習得し, 柱の応力状態を求められる。(8 回~15 回)		
<b>授業の計画</b>	6. 変形の適合条件 7. 不静定構造物の解法 8. 柱の種類と破壊 9. 小テスト 3, 長柱の座屈 10. 座屈荷重と応力度・偏心荷重を受け る長柱の座屈	11. 小テスト 4, 短柱に作用する応力度 12. 短柱の中立軸 13. 小テスト 5, 断面の核 14. 断面の核 15. 小テスト 6, 総合演習 16. 期末試験(2 回までの再小テスト)	
<b>教科書</b>	崎元達郎著, 「構造力学(上)」森北出版		
<b>参考書</b>	講義中に必要に応じて紹介する。また, 補足説明用資料や演習問題等はプリントを配布し, 解説する。なお, 参考書を以下に示す。高岡宣善, 白木渡著「静定構造力学」共立出版, 星谷勝「力学の構造物への応用」鹿島出版会, 彦坂熙, 崎山毅, 大塚久哲「詳解構造力学演習」共立出版		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1 の達成度を, 小テスト 1~3 より算定される評点により評価し, 評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標 2 の達成度を, 小テスト 4~6 より算定される評点により評価し, 評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし, 成績は, 到達目標 1, 2 の評点の重みを, それぞれ 50%, 50%として算出する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	数回の授業ごとに小テストを実施するので, 毎回の予習・復習は欠かせないこと。なお, 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の 3(2)に 100%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0008
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 長尾 文明 (オフィスアワー) 建設工学科掲示板参照のこと
<b>備考</b>	1. 数回の授業ごとに小テストを実施するので, 毎回の予習・復習は欠かせないこと。なお, 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5111080
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	情報処理[Data Processing]		
<b>担当教員</b>	田村 隆雄, 蔣 景彩 [Takao Tamura, Jiang Jing-Cai]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	パソコンによる科学技術計算への入門として, データの入出力や簡単な数値計算プログラムの意味が理解できること, さらに例題を参考にしながら応用プログラムが作成できることを目指す。		
<b>授業の概要</b>	建設工学のあらゆる分野においてパソコンは重要な役割を果たしている。またこれまで大型電子計算機のみで行われてきた大規模な科学技術計算の多くがパソコンで手軽に行えるようになってきた。パソコンによる科学技術計算への入門として, FORTRAN プログラミングについての演習を行う。本講義では, その日に学習するプログラミングの要点と例題が説明された後, 数題の簡単な課題が出され, 受講者 1 人 1 人が実際にプログラミング演習を行うことにより進められる。		
<b>キーワード</b>	フォートラン, プログラミング		
<b>到達目標</b>	1. FORTRAN プログラムの実行内容が理解できる。 2. 例題を参考に応用プログラムが作成できる。		
<b>授業の計画</b>	6. 配列 p.54-p.78 7. プログラミング記述試験 1 p.2-p.5 8. プログラミング実技試験 1 9. 文関数と組込み関数 p.80-p.93 10. 関数副プログラム p.96-p.107 11. 引数を持つサブルーチン副プログラ ム p.110-p.123	12. 引数を持たないサブルーチン副プログラム p.126-p.138 13. 文字処理 p.140-p.146 14. ファイル p.148-p.161 15. プログラミング記述試験 2 16. プログラミング実技試験 2	
<b>教科書</b>	わかりやすい FORTRAN プログラミング/小林孝史 [ほか]共著:オーム社, 1998, ISBN:9784274131592 FORTRAN77 入門-改訂版-, 浦 昭二編, 培風館		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1 の達成度を, プログラミング記述試験 1 と 2 の割合を 1:1 として算出される評点により評価し, 評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標 2 の達成度を, プログラミング実技試験 1 と 2 の割合を 1:1 として算出される評点により評価し, 評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし, 成績は, 到達目標 1 と 2 の評点の重みをそれぞれ 50%として算出する。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は特に実施しない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。演習課題の提出をもって出席とする。		
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の 3(1)に, 100%対応する。			
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0006		
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 田村隆雄 A414, 088-656-9407 蔣 景彩 建設棟3階311号室 TEL 088-656-7346 (メールアドレス) 田村 隆雄 tamura@ce.tokushima-u.ac.jp 蔣 景彩 jiang@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 特に設けません。研究室に居れば随時対応します。		
<b>備考</b>			

開講学期	2年・前期	時間割番号	5111090
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
担当教員	香田 温人 [Atsuhito Kohda]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	微分方程式の解法を修得し、さらに工学の諸分野に現われる微分方程式の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	微分方程式の理論は数理工学的な現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。		
キーワード	一般解, ラプラス変換		
到達目標	定数係数線形微分方程式の解法が理解できる。ほぼ全ての授業時間が関係する。		
授業の計画	6. ラプラス変換の性質	12. 連立系と高階方程式	
1. 定数係数線形同次微分方程式	7. 解法の例	13. 2次元の連立系	
2. 高階方程式の解空間, 一般解	8. 高階方程式のまとめと演習	14. 幾つかの具体例	
3. 2階方程式の場合	9. 行列の標準形と微分方程式	15. 期末試験	
4. 非同次微分方程式	10. ベクトル値関数	16. 総括	
5. 演算子法の導入	11. 定数係数連立線形微分方程式		
教科書	理工系 微分方程式の基礎/長町・香田:学術図書出版社, 2009, ISBN:9784780601626		
参考書	微分方程式概論/神保秀一:サイエンス社 工科系のための微分方程式/杉山昌平:実教出版		
成績評価の方法	授業への取組み状況等(20%)と期末試験の成績(80%)を総合して行う。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本学科の教育目標の3(1)に100%対応している。		
WEB ページ	http://math0.pm.tokushima-u.ac.jp/lec-k/		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 香田温人(A211, kohda@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kohda@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 12:00~13:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5111100
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	土の力学1[Soil Mechanics 1]		
担当教員	岡岡 良介 [Ryosuke Uzuoka]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	地盤に係わる問題を力学的に解決するための土質力学に関する基本的事項を習得する。		
授業の概要	はじめに、土質力学を学習するために不可欠な土の基本的性質および土の締固めについて講義する。次に、地下水の地盤内の透水現象に関する基礎理論、粘土地盤の圧密沈下現象に関する基礎理論について講義する。		
キーワード	土の物理特性, 土の締固め, 透水, 圧密		
到達目標	1. 土質力学における土の基本的性質と土の締固めに関する基礎的な知識を習得する。 2. 土質力学における透水および圧密現象の基礎理論を理解し、簡単な境界値問題が解ける。		
授業の計画	6. 中間試験	8. 土木用高分子材料の性質とその適用・中間試験	
1. 授業概要, 土質力学の構成	7. 土中水, ダルシーの法則(pp.36-41)	9. 金属材料の種類, 性質とその適用	
2. 地盤の成因, 土の基本的物理量(pp.1-6)	8. 透水係数(pp.45-51)	10. 建築用高分子材料の種類, 性質とその適用	
3. 土の構造, 土の粒度分布(pp.7-10, 15-20)	9. 浸透の基礎方程式(pp.42-44)	11. アスファルトの種類とその性質の表し方	
4. コンシステンシー, 工学的分類(pp.10-14, 21-27)	10. 流線網(pp.52-56)	12. 混和材料およびフレッシュコンクリートの性質	
5. 土の締固め(pp.28-35)	11. 有効応力と浸透圧(pp.56-60)	13. 硬化コンクリートの主要な性質	
		14. 循環型社会と建設事業	
		15. 循環型社会における建設副産物の再資源化	
		16. 期末試験	
教科書	図説「わかる材料」土木・環境・社会基盤施設をつくる/宮川豊章:学芸出版社, 2011, ISBN:9784761524654		
参考書	岡田清, 六車照編「新版コンクリート工学ハンドブック」朝倉書店, 岡田清, 明石外世樹, 小柳洽著「新編土木材料学」国民科学社, 樋口芳朗, 辻幸和, 辻正哲著「建設材料学(第5版)」技法堂出版, 西林新蔵編「建設構造材料」朝倉書店		

12. 圧縮性の指標, 粘土と砂の圧縮性(pp.61-64)	15. 期末試験
13. 圧密理論(pp.65-70)	16. 試験解説と総括
14. 圧密試験, 圧密沈下予測など(pp.71-80)	
教科書	最新土質力学(第2版)/富田 武満ら:朝倉書店, 2003, ISBN:4254261454
参考書	土質力学/石原 研而:丸善, 2001, ISBN:4621049488 土質力学演習/岡 二三生:森北出版, 1995, ISBN:4627426607
教科書・参考書に関する補足情報	講義は教科書に沿って進めるが、記述が不十分な部分は講義・参考書で補うこと。
成績評価の方法	各到達目標の達成度を、中間試験および期末試験により評点を算出し、各到達目標の評点が60%以上を合格とする。成績は、到達目標1, 2の評点の重みをそれぞれ50%, 50%として算出する。
再試験の有無	それぞれの到達目標に対して、期末試験の後に再試験を実施する場合がある。
受講者へのメッセージ	微分方程式の基礎理論を理解できていると良い。
JABEE合格	【成績評価基準】と同一である。
学習教育目標との関連	本科目は本学科の教育目標の3(2)に100%対応する。
WEB ページ	徳島大学 LMS(i-Collabo)
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡岡良介(A401, Tel: 088-656-7345) (メールアドレス) uzuoka@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 前期:水曜日 16:20-17:50, 後期:月曜日 12:50-14:20
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 予習・復習では教科書の例題および演習問題に取り組むこと。

開講学期	2年・前期	時間割番号	5111110
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	もの作り創造材料学[Materials for Construction]		
担当教員	上田 隆雄 [Takao Ueda]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	構造物を建造するときには、必ず建設材料を使用する。この授業では、所要の性能をもった建設構造物の設計, 施工, 維持管理をするために必要な主な建設材料の種類とその特性を学習し、使用用途, 構造形式, 施工法と関連させた適切な材料の選定法, 使用法を学び、建設材料に関する基本的理論と演習課題を解ける知識を習得する。		
授業の概要	新設および維持管理における建設材料を適切に選択し、特性に応じた使用法を理解するために、建設材料の性能の表し方, 要求される性能を説明し、木材, 土石, アスファルト混合物, 金属材料, 高分子材料, コンクリート材料などについてその性能, 使用上の注意点などを講述し、建設材料に関する基礎知識とその応用力の養成を図る。また、循環型社会における建設材料としてのあり方を紹介する。		
キーワード	建設材料, 循環型資源, 天然材料, 人工材料		
到達目標	1. 建設材料としての、木材, 土石, 金属材料, 高分子材料の種類と主要な性質について理解し、要求性能との関係を説明できる。 2. アスファルトおよびコンクリートの基礎的知識を習得し、基本的要求性能と配(調)合との関係を説明できるとともに、循環型社会における建設材料としてあり方を説明できる。		
授業の計画	1. 授業のガイダンスと建設材料の役割と分類	8. 土木用高分子材料の性質とその適用・中間試験	
2. 建設材料の強さ, ひずみの意義とその表し方	3. 建設材料の変形, 耐久性, その他の性能の意義とその表し方	9. 金属材料の種類, 性質とその適用	
3. 建設材料の歴史・分類	4. 建築用木材の種類, 性質とその適用	10. 建築用高分子材料の種類, 性質とその適用	
4. 建築用石材の種類, 性質とその適用	5. 骨材の種類とその要求性能	11. アスファルトの種類とその性質の表し方	
5. 骨材の種類とその要求性能		12. 混和材料およびフレッシュコンクリートの性質	
		13. 硬化コンクリートの主要な性質	
		14. 循環型社会と建設事業	
		15. 循環型社会における建設副産物の再資源化	
		16. 期末試験	
教科書	図説「わかる材料」土木・環境・社会基盤施設をつくる/宮川豊章:学芸出版社, 2011, ISBN:9784761524654		
参考書	岡田清, 六車照編「新版コンクリート工学ハンドブック」朝倉書店, 岡田清, 明石外世樹, 小柳洽著「新編土木材料学」国民科学社, 樋口芳朗, 辻幸和, 辻正哲著「建設材料学(第5版)」技法堂出版, 西林新蔵編「建設構造材料」朝倉書店		

<b>成績評価の方法</b> 到達目標の2項目が達成されているかを試験70%と、各課題に対するレポート内容30%で評価し、到達目標に対してそれぞれ60%以上を合格とする。成績は、1及び2の到達目標の重みを、それぞれ50%として100点満点に換算して算出する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業内容に関する演習問題を配布し、中間試験および期末試験に合わせてこれらの演習問題をレポート課題として提出する。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目の85%は本学科の学習・教育目標の3(2)に、15%は同1(3)に、それぞれ対応する。	
<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上田 隆雄
<b>備考</b>	1. 授業時間中の教室への出入りは、特に理由がない限りできない。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5111120
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	水の力学1[Hydraulics 1]		
<b>担当教員</b>	中野 晋, 蔣 景彩 [Susumu Nakano, Jiang Jing-Cai]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 静水力学と完全流体の流れに関する基本事項を習得させる。			
<b>授業の概要</b> 河川, 海岸, 港湾, 上下水道の計画・設計の基礎となる水の力学のうち, 静水力学と完全流体の流れに関する基本事項を講義する。			
<b>キーワード</b> 流体の物性, 静水圧, ベルヌーイの定理, 運動量の法則			
<b>到達目標</b>			
1. SI単位と重力単位の両方を理解し, 活用できる。静水圧に関する計算ができる。 2. ベルヌーイの定理と運動量方程式を理解し, 計算ができる。			
<b>授業の計画</b>		6. 浮力と浮体の安定	12. 運動量の式
1. 水の性質とふるまい	7. 相対的静止流体中の圧力	13. 運動量の式の活用	
2. 次元と単位/精度と有効数字	8. 中間試験	14. さまざまな流れ	
3. 静水圧の性質	9. 中間試験の解説/流れの基礎・連続式	15. 期末試験	
4. 平面に作用する静水圧	10. ベルヌーイの式	16. 期末試験の解説	
5. 曲面に作用する静水圧	11. ベルヌーイの式の活用		
<b>教科書</b> 井上和也編:図説 わかる水理学, 学芸出版社			
<b>参考書</b> 鈴木幸一著:水理学演習, 森北出版			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標1は中間試験により評価し, 当到達目標は評点 $\geq 60\%$ をクリア条件とする。到達目標2は期末試験により評価し, 当到達目標は評点 $\geq 60\%$ をクリア条件とする。両目標がクリアされた場合に合格とし, 成績は各到達目標に対する評点の重みを50%, 50%として算出する。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> なし			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(2)に100%対応する。			
<b>WEBページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中野 晋(工学部 A310, Tel:088-656-7330) 蔣 景彩:建設棟3階311号室 TEL 088-656-7346 (メールアドレス) 中野 晋:nakano.susumu@tokushima-u.ac.jp 蔣 景彩:jiang@ce.tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5111130
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	水の力学2[Hydraulics 2]		
<b>担当教員</b>	武藤 裕則, 田村 隆雄 [Yasunori Mutoh, Takao Tamura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 建設工学では上水道やパイプライン等, 水路断面を流体が満たした状態で流れる流れ(管路)や, 下水道や河川等, 自由水面を有する流れ(開水路)の計画や設計を扱う。本講義ではこれらの設計に欠かせない管路の摩擦抵抗, および開水路の水面形について講義し, 計算手法を習得させる。			
<b>授業の概要</b> 河川, 海岸, 港湾, 上下水道の計画・設計の基礎となる水の力学のうち, 管路および開水路の水理に関する基本事項を講義する。			
<b>キーワード</b> 管路, 開水路, 摩擦抵抗, 水面形			
<b>先行科目</b> 『水の力学1[Hydraulics 1]』(1.0)			
<b>関連科目</b> 『水の力学3及び演習[Hydraulics (3) and Exercise]』(0.7) 『河川工学[River Engineering]』(0.5) 『沿岸域工学[Coastal Zone Engineering]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 摩擦抵抗則を理解し, 管路の流れの計算ができる(1回~8回)。 2. 開水路流れの水面形の概形を描くことができる(9回~16回)。			
<b>授業の計画</b>		9. 開水路流れの基本(用語と基礎式) p.84-p.97	
1. 管路の流れの基本(用語と基礎式) p.68-p.72	2. 摩擦損失 p.73-p.75	10. 等流とその計算 p.98-p.104	
3. 形状損失 p.75-p.78	4. 単線管路 p.79-p.85	11. エネルギー保存則, 比エネルギー p.105-p.109	
5. サイフォン p.82-p.85	6. 並列管・分岐管 p.86-p.90	12. 常流と射流, フルード数, エネルギー式 p.109-p.112	
7. 水力発電・ポンプ p.90-p.92	8. 中間試験	13. 運動量の保存則, 跳水 p.113-p.123	
		14. 不等流, 水面形の基本 p.124-p.128	
		15. 局所的な水面形 p.128-p.132	
		16. 期末試験	
<b>教科書</b> 図説わかる水理学/井上和也:学芸出版社, 2008. 9, ISBN:978-4-7615-2441-			
<b>参考書</b> 水理学演習/鈴木幸一:森北出版, 1990. 11, ISBN:4-627-42610-0			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標1の達成度を, 第1回~第8回に実施される小テストと中間試験で算出される評点により評価し, 評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。評点に対する小テストと中間試験の重みはそれぞれ40%と60%とする。到達目標2の達成度を, 第9回~第16回に実施される小テストと期末試験で算出される評点により評価し, 評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。評点に対する小テストと中間試験の重みはそれぞれ40%と60%とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし, 成績は, 到達目標1と2の評点の重みをそれぞれ50%として算出する。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 水の力学1を受講したことを前提として講義を行う。クォーター制で実施する。複数の小テストを実施する。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(2)に100%対応する。			
<b>WEBページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0012 (学生用連絡先) 武藤裕則(A415, Tel: 088-656-7329, E-mail: muto_yas@ce.tokushima-u.ac.jp) 田村隆雄(A414, Tel: 088-656-9407, E-mail: tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること		
<b>備考</b>	1. クォーター制科目(前期 クォーター後半)		



開講学期	2年・前期	時間割番号	5111140
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	計画の論理[Planning Theory]		
担当教員	近藤 光男 [Akio Kondoh]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 本科目は、土木・建設工学における計画分野の基礎科目である。社会基盤施設の定義と特徴、計画の策定過程、計画の目的と目標、計画における予測と評価の考え方や手法を理解し、社会資本施設整備計画の立案に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。

**授業の概要** 教科書に加え、関連資料や現実の社会基盤施設整備計画の事例を用い、講義形式でわかりやすく講述する。また、理解度を高めるために、各講義の最後には、おさらいのプリントを課す。

**キーワード** 社会基盤施設、計画における予測、計画における評価

**関連/科目** 『計画の数理[Planning Theory]』(0.5)

**到達目標** 社会基盤施設の定義と特徴、社会基盤整備計画の枠組みや策定過程が示せ、計画に必要な予測手法や評価手法について説明することができる。各回の授業内容は計画に記載のとおりである。授業を受講し、おさらいプリントをすべて提出した上で、その内容を復習することによって目標を達成させる(授業計画 1～16)。

<b>授業の計画</b>	8. 社会基盤整備の効果(おさらいプリント 7) 講義内容の予習・復習
1. ガイダンス:計画の論理を学ぶ理由	9. 計画の評価(おさらいプリント 8) 講義内容の予習・復習
2. 社会基盤施設とその特徴(おさらいプリント 1) 講義内容の予習・復習	10. 評価手法(おさらいプリント 9) 講義内容の予習・復習
3. 社会基盤施設整備の変遷(おさらいプリント 2) 講義内容の予習・復習	11. 産業連関分析(おさらいプリント 10) 講義内容の予習・復習
4. 計画の策定過程(おさらいプリント 3) 講義内容の予習・復習	12. 費用便益分析(おさらいプリント 11) 講義内容の予習・復習
5. 計画の目的と目標(おさらいプリント 4) 講義内容の予習・復習	13. 便益の計測手法(おさらいプリント 12) 講義内容の予習・復習
6. 計画における予測(おさらいプリント 5) 講義内容の予習・復習	14. 社会基盤整備の今後の課題
7. 需要予測手法(おさらいプリント 6) 講義内容の予習・復習	15. 期末試験
	16. 試験の返却と解説

#### 教科書

**参考書** 図説都市地域計画/青山吉隆:丸善, 2001. 10, ISBN:4-621-04932-1 土木計画学/河上省吾:鹿島出版会, 1991. 9, ISBN:4-306-02229-3

**成績評価の方法** 到達目標が達成されているかどうかを定期試験の評価点(100%)によって行う。評価点が60%以上を到達目標クリアの条件とする。ただし、おさらいプリントはすべて提出されていること。また、出席率が3分の2以上あること。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格** 「成績評価」と同一である。

**学習教育目標との関連** 本科目は、本学科の教育目標の3(2)に、100%に対応する。

<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0013
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 近藤光男, エコ 602, 088-656-7339, kondo@eco.tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) kondo@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 9:10 校時
<b>備考</b>	1. .特になし

開講学期	2年・前期	時間割番号	5111150
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	環境を考える[Fundamental Environmental Study]		
担当教員	上月 康則, 山中 亮一, 工学部非常勤講師 [Yasunori Kozuki, Ryoichi Yamanaka]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	政策、国土開発の変遷と関連を通じ、公害から地球環境問題に至る経緯、取組みや環境倫理について理解させ、環境破壊を起こさせない社会人、技術者となる基礎的な知識、考え方および取りまとめ方を習得させる		
<b>授業の概要</b>	これまでの環境の政策、国土開発の変遷と関連を整理し、公害から地球環境問題に至る経緯、取組み、さらに今後の環境問題に対する姿勢の基礎となる環境倫理を解説する。また自身が行動し、考えを文章に取りまとめる方法を指導する。		
<b>キーワード</b>	人と自然のかかわり、環境史、地球温暖化、環境倫理、地球サミット		
<b>到達目標</b>	1. 人と環境のかかわりの変遷や環境問題に関する基礎的な知識を習得している。(授業計画 1～15 および定期試験による)		
<b>授業の計画</b>	9. 環境倫理(環境家計簿をつける)	10. 特別講演・廃棄物問題(環境家計簿をつける)	11. 特別講演・海の環境問題(環境家計簿をつける)
1. ガイダンス(シラバス, 環境家計簿)	12. 特別講演・サンゴと生物多様性の危機(環境家計簿をつける)	13. 環境家計簿発表 1	14. 環境家計簿発表 2
2. 人と自然について(環境家計簿をつける)	15. 期末テスト	16. 講義のふりかえり, 質問, 総括	
3. なぜ自然を守る必要があるのか? (環境家計簿をつける)			
4. 環境史(地球誕生～古代中世)(環境家計簿をつける)			
5. 環境史(近代, 国土開発)(環境家計簿をつける)			
6. 公害(環境家計簿をつける)			
7. 地球サミットの歴史			
8. 地球温暖化(環境家計簿をつける)			
<b>教科書</b>	環境工学/住友, 村上, 伊藤:理工図書, ISBN:9784844607175 環境・循環型社会白書, http://www.env.go.jp/policy/haku		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1:期末試験を評価, 評点 $\geq$ 60%を当目標のクリア条件. 到達目標 2:環境家計簿の取組を評価, 評点 $\geq$ 60%を当目標のクリア条件. 成績:1, 2の評点の重みをそれぞれ 50%, 50%として算出		
<b>再試験の有無</b>	なし		
<b>受講者へのメッセージ</b>	なし		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の1(1)に30%, 1(2)に50%, 3(2)に20%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上月 康則:(総合実験棟(エコ棟), 505, 088-656-7335) 山中 亮一(やまなか りょういち):総合研究実験棟(エコ棟)504号室, TEL:088-656-7334 (メールアドレス) 上月 康則:kozuki@eco.tokushima-u.ac.jp 山中 亮一:yamanaka@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 上月 康則:火曜日 17:00～18:00 山中 亮一:火曜日 16:20～17:50		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111160
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	土の力学2[Soil Mechanics 2]		
担当教員	渦岡 良介 [Ryosuke Uzuoka]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 地盤に係わる問題を力学的に解決するための土質力学に関する基本的事項を習得する。

**授業の概要** はじめに、土のせん断強さなど土の基本的な力学特性について講義する。次に土のせん断破壊を扱う安定問題の中から、擁壁や山留め壁の設計で用いる土圧、構造物の基礎の設計で用いる支持力、盛土・切土の設計で用いる斜面の安定解析について講義する。

**キーワード** 土のせん断, 土圧, 支持力, 斜面安定

**先行/科目** 『土の力学1[Soil Mechanics 1]』(1.0)

**関連/科目** 『土の力学演習[Soil Mechanics]』(1.0)

**到達目標** 1. 土質力学における土の力学的性質(せん断)に関する基礎的な知識を習得する。

2. 土質力学における安定問題の基礎理論を理解し、簡単な境界値問題が解ける。

<b>授業の計画</b>	
1. 授業概要, 土質力学の構成, 土の力学1の復習	8. 中間試験
2. 地盤内の応力と変形(地盤内の応力)(pp.81-83)	9. ランキン土圧(pp.110-118)
3. 地盤内の応力と変形(モールの応力円, 変形)(pp.81-83)	10. クーロン土圧(pp.119-128)
4. 地盤内の応力と変形(有効応力, ダイレイタンスー)(pp.84-87)	11. 地表荷荷による地中の応力(pp.129-137)
5. 地盤の破壊と土のせん断強さ(pp.88-92)	12. 浅い基礎の支持力(pp.138-144), 深い基礎の支持力(pp.145-148)
6. 土のせん断試験(pp.93-101)	13. 直線すべり面の解析(pp.149-154)
7. 土のせん断特性(pp.102-109)	14. 円形すべり面の解析(pp.155-162)
	15. 期末試験
	16. 試験解説と総括
<b>教科書</b> 最新土質力学(第2版)/富田 武満ら:朝倉書店, 2003, ISBN:4254261454	
<b>参考書</b> 土質力学/石原 研而:丸善, 2001, ISBN:4621049488 土質力学演習/岡 二三生:森北出版, 1995, ISBN:4627426607	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 講義は教科書に沿って進めるが, 記述が不十分な部分は講義・参考書で補うこと。	
<b>成績評価の方法</b> 各到達目標の達成度を, 中間試験および期末試験により評点を算出し, 各到達目標の評点が60%以上を合格とする。成績は, 到達目標1, 2の評点の重みをそれぞれ50%, 50%として算出する。	
<b>再試験の有無</b> それぞれの到達目標に対して, 期末試験の後に再試験を実施する場合がある。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 予習・復習では教科書の例題および演習問題に取り組むこと。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価基準】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の3(2)に100%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	徳島大学 LMS (i-Collabo)
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渦岡良介(A401, Tel: 088-656-7345) (メールアドレス) uzuoka@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 前期:水曜日 16:20-17:50, 後期:月曜日 12:50-14:20
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111170
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	建設の歴史とくらし[History of Civil Works and Human Living]		
<b>担当教員</b>	真田 純子, 工学部非常勤講師 [Junko Sanada]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	建設技術の歴史と現状を認識し, 建設技術が人々の暮らしに果たしてきた役割と課題を知り, 建設技術が今後考慮していかなければならないことを考える力を身につける。		
<b>授業の概要</b>	建設事業を行う上で, 基礎となる考え方を身につけるために, 建設技術の発展と課題について, 人々の暮らしと関連づけて, 江戸時代以降, 主として, 明治時代から現代までの百数十年間を対象としてその概要を紹介する。建設技術の発展を理解することによって, 建設技術の特性, 社会特に日本社会における建設事業の役割や課題を知り, 議論を通して, 国際的な視点を含めた, 今後の建設技術のあり方を考える力を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	技術史, 人々の暮らし, 生産基盤施設, 土木技術		
<b>先行/科目</b>	『土の力学演習[Soil Mechanics]』(1.0), 『建築史[History of Architecture]』(1.0), 『水の力学1[Hydraulics 1]』(0.1)		
<b>関連/科目</b>	『計画プロジェクト評価[Project Evaluation Methods for Infrastructure Planning]』(0.3), 『沿岸域工学[Coastal Zone Engineering]』(0.5), 『河川工学[River Engineering]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 建設技術の発展の歴史とその役割について修得しているとともに, 現状の建設技術が抱える諸問題について認識を持ち, 自らの視点に立った解決策を説明できる。		
<b>授業の計画</b>	5. 橋の形態変遷史(4)今後の展望を考える意見交換会(松井)	8. 実験7	12. 実験11
1. 建設技術史を学ぶ意義, 明治初期と現在の比較(真田)	6. 徳島の発展と社会資本整備(1)(真田)	9. 実験8	13. 実験12
2. 橋の形態変遷史(1)橋の構造のいろは(松井)	7. 徳島の発展と社会資本整備(2)(真田)	10. 実験9	14. 実験13
3. 橋の形態変遷史(2)古代から現代まで(松井)	8. 徳島の発展と社会資本整備(3)(真田), レポート	11. 実験10	15. 実験14
4. 橋の形態変遷史(3)人のための橋を題材に			

<b>教科書</b>	特に用いない。授業ごとに資料を配付することがある。		
<b>参考書</b>	特に指定しない		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は, 提出されたレポート及び期末試験の割合を1:1として算出される評点により評価し, 評点が60%以上を合格とする。成績は, その評点を100点満点に換算して算定する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中に各自の意見を求めたり, 議論を行うことがあるので, 積極的に参加すること。また, レポートの課題は, 総合的なテーマとなるので, 自分で調べ, 考え, 自分の意見をまとめてレポートとして提出すること		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の学習・教育目標の6に100%に対応する。		
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0016		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 真田 純子 (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること。		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111180
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	建設創造実験実習[Civil and Environmental Engineering Laboratory]		
<b>担当教員</b>	渦岡 良介, 鎌田 磨人, 上月 康則, 近藤 光男, 長尾 文明, 中野 晋, 成行 義文, 山中 英生, 上野 勝利, 蔭 景彩, 鈴木 壽, 田村 隆雄, 滑川 達, 野田 稔, 真田 純子, 渡邊 健, 山中 亮一 [Ryosuke Uzuoka, Mahito Kamada, Yasunori Kozuki, Akio Kondoh, Fumiaki Nagao, Susumu Nakano, Yoshifumi Nariyuki, Hideo Yamanaka, Katsutoshi Ueno, Jiang Jing-Cai, Hisashi Suzuki, Takao Tamura, Susumu Namerikawa, Minoru Noda, Junko Sanada, Takeshi Watanabe, Ryoichi Yamanaka]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	建設工学に関する各種実験手法やマネジメント手法について習得し, それらを実務問題に応用するための能力を身につける。		
<b>授業の概要</b>	建設工学に関する実験・実習をグループで協力して行い, その過程および結果をレポートにまとめるとともに, ディスカッションを行う。		
<b>キーワード</b>	建造物デザイン, 地域環境マネジメント		
<b>到達目標</b>	1. 建設工学における基礎的な現象把握手法を習得するとともに, グループの中での役割を理解し, 協力して作業を遂行できる。		
<b>授業の計画</b>	4. 実験3	8. 実験7	12. 実験11
1. ガイダンス	5. 実験4	9. 実験8	13. 実験12
2. 実験1	6. 実験5	10. 実験9	14. 実験13
3. 実験2	7. 実験6	11. 実験10	15. 実験14
<b>教科書</b>	建造物デザイン系(構造部門):実験要領をまとめたプリントなど(ガイダンス時に配布する) 建造物デザイン系(土質部門):地盤工学会編「土質試験-基本と手引き」 建造物デザイン系(コンクリート部門):日本材料学会編「新建設材料実験」 地域環境マネジメント系:原則として, 課題ごとに資料が配付される。		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	レポート(80点満点)と自己および相互評価結果(20点満点)により評価し, 合計が60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	原則として, 遅刻・欠席・レポート未提出は認められない。建造物デザインスタディーズの学生は建造物デザイン系の実験演習を, 地域環境マネジメントスタディーズの学生は地域環境マネジメント系の実験実習を履修すること。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標の3(4)の80%, 4(3)の20%に対応する。		
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0033		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐藤 弘美 田村 隆雄 山中 亮一		

備考	1. 夜間主コース学生は、地域環境マネジメント系の実験実習の受講が可能です。
----	--

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111190
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	建設創造設計演習[Civil and Environmental Engineering Design Exercise]		
担当教員	近藤 光男, 山中 英生, 上月 康則, 鈴木 壽, 鎌田 磨人, 滑川 達, 渡辺 公次郎, 上田 隆雄, 田村 隆雄, 真田 純子, 長尾 文明, 山中 亮一 [Akio Kondoh, Hideo Yamanaka, Yasunori Kozuki, Hisashi Suzuki, Mahito Kamada, Susumu Namerikawa, Kojiro Watanabe, Takao Ueda, Takao Tamura, Junko Sanada, Fumiaki Nagao, Ryoichi Yamanaka]		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	実践的な建設技術者として建造物デザインまたは地域環境マネジメントを行っていく方法についての理解および技能を深め、応用力を身につける。		
授業の概要	○建造物デザイン系 1. 構造部門演習(道路橋合成桁の設計), 2. 土質部門演習(土圧を受ける鉄筋コンクリート建造物の設計), 3. コンクリート部門演習(鉄筋コンクリート T 形ばりの設計製図および耐久性設計)のうち 1 つを選択した上で個々の課題に取り組み, レポート等を提出する。○地域環境マネジメント系 1. 水系マネジメント演習, 2. 地域環境マネジメント演習のいずれかを選択した上で, 個々の課題に取り組みレポート等を提出する。		
キーワード	建造物デザイン, 地域環境マネジメント		
到達目標	1. 自らが有する知識・情報収集能力を用いて与えられた課題に主体的に取り組むことができ, その過程や結果をレポートにまとめる応用力を有している。		
授業の計画	4. 課題の演習 2	8. 課題の演習 6	12. 課題の演習 10
1. ガイダンス及び分野の選択	5. 課題の演習 3	9. 課題の演習 7	13. 課題の演習 11
2. 課題の設定	6. 課題の演習 4	10. 課題の演習 8	14. 課題の演習 12
3. 課題の演習 1	7. 課題の演習 5	11. 課題の演習 9	15. レポート及び作成資料等の提出
教科書	原則として, 課題ごとに資料が配付される。		
参考書	同上		
成績評価の方法	到達目標の達成度をレポート及び作成資料により評価し, 目標の達成度が 60%以上を合格とする。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	第 1 週目のガイダンスに必ず出席する。出席できない者は, 事前に連絡すること。建造物デザインスタディーズの学生は建造物デザイン系の演習を, 地域環境マネジメントスタディーズの学生は地域環境マネジメント系の演習を履修すること。		
JABEE 合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本学科の教育目標 3(4)に 100%対応する。		
WEB ページ	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0040">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0040</a>		
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上田 隆雄 田村 隆雄 近藤 光男 渡辺 公次郎 山中 英生 滑川 達 真田 純子 上月 康則 鎌田 磨人 長尾 文明 山中 亮一 上野 勝利		
備考	1.		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5111200
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	建設基礎セミナー[Fundamental Seminar on Civil and Environmental Engineering]		
担当教員	工学部建設工学科教員		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	自主的な学習意欲や学習能力を身につけるため, 課題に対して自主的に学習する。学生数名と担当教員 1 名との小人数でのセミナー, 現場や職場での実務者への訪問・ヒアリングを通じて, 建設工学の社会的使命, 技術者の姿を学ぶ。		

授業の概要	少人数セミナーでは建設工学の基礎やトピックスを題材に, 担当教員の指導のもとに自主的な作業や討論, 発表を行う。その過程でトピックスに関係する現場や職場を訪問し, 実務者にヒアリングや, 実際の現場を体験することで, 社会的使命や技術者の姿を学ぶ。		
キーワード	少人数セミナー, 創成学習, 環境と防災		
先行科目	『大学入門講座(工・建設)[Introduction to University Education]』(1.0)		
関連科目	『学びの技[Skills for Self-Learning]』(0.8)		
到達目標	1. 課題に対する調査, 実務者ヒアリングや現場での体験, グループ討議, とその整理・レポート作成を通じて, 自ら考える能力, 対話力, 文章力を身につける。 2. グループ発表を通して, 人にわかりやすいプレゼンテーションの方法について学ぶ。		
授業の計画	8. 実務者・現場訪問	9. 実務者・現場訪問の整理 レポートの提出	10. セミナー 課題に対する分析・提案・解決策の議論 1
1. ガイダンス 研究室への配属	11. セミナー 課題に対する分析・提案・解決策の議論 2	12. セミナー 発表会準備	13. セミナー 発表会準備
2. セミナー 小グループと指導教員の決定	14. 発表会	15. 発表会	
3. セミナー グループで進める課題の計画作り 課題内容と計画書の提出			
4. セミナー 課題に関する基礎調査 1			
5. セミナー 課題に関する基礎調査 2			
6. セミナー 課題に関する基礎調査 2 レポート提出			
7. 実務者・現場訪問の計画			
教科書	教科書		
参考書	教科書・参考書に関する補足情報 小人数セミナーでは担当教員から, 参考書, ホームページ, その他の資料等が示されることがある。		
成績評価の方法	到達目標 1 はセミナーグループで作成したレポートを評価する。到達目標 2 について発表会における審査評価点により評価する。各到達目標に対してそれぞれ 60%以上を合格とする。成績は, 到達目標 1, 2 それぞれを 60%, 40%として 100 点満点に換算して算定する。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	セミナーへの出席, レポート作成を欠かさず行うこと。やむを得ず欠席する場合は, 事前にグループの指導教員まで連絡すること。		
JABEE 合格	【成績評価】と同一とする。		
学習教育目標との関連	本学科の学習・教育目標の 2(1)に 30%, 同 2(2)及び 2(3)にそれぞれ 20%計 40%, 同 5(1)及び 5(2)にそれぞれ 15%計 30%に対応する。		
WEB ページ	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0056">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0056</a>		
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 少人数セミナー配属前はクラス担任に連絡すること。配属後は担当教員に連絡すること。 (メールアドレス) 山中 英生:yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp 真田 純子:sanajun@ce.tokushima-u.ac.jp 三神 厚:amikami@ce.tokushima-u.ac.jp 奥嶋 政嗣:okushima.masashi@tokushima-u.ac.jp		
備考			

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111210
科目分野	専門共通科目(必修)		
選必区分	必修		
科目名	キャリアプラン演習[Exercise for Career Plan]		
担当教員	橋本 親典 [Chikanori Hashimoto]		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	本演習は, 卒業生が講師となつて行われる職業指導ならびに種々の建設技術に関連する資料を収集, 分析することにより, 生涯設計を立案し, その生涯設計に基づいた 4 年次配属研究室の選択のための指導教員面接を通して, 建設技術者として自立するための就職意識を身につけることを目的とする。		



**授業の概要** 本演習は、毎年6月第1土曜日に開催される本学科卒業生の同窓会である美土利会総会に合わせて、複数の卒業生による職業指導を受けることにより、建設業務の計画と実施・マネジメントに関わる具体的な仕事の内容や現在の建設技術が抱える問題点を理解する。これらの情報に基づき、3年後期に開講するプロジェクト演習を受ける建設系研究室を決定するために、建設技術者あるいは研究者としての生涯設計を立案するための資料収集、分析および報告書の作成を行う。この報告書による生涯設計を希望研究室の教員の前で発表し、最終的に配属研究室を決定する。

**キーワード** 生涯設計, 就職, 技術者の職務, 美土利会

到達目標	No.	到達目標
	1	建設業務の計画と実施・マネジメントに関わる実務について知識を習得している。
	2	現状の建設技術が抱える諸問題について認識を有する。
	3	口頭ならびに文書による効果的なプレゼンテーションのために必要な日本語表現力を身につけている。

授業の計画	回	大項目	内容
	1	ガイダンス	ガイダンスならびに班分けと班長の選出
	2	美土利会の説明	本学科の同窓会(美土利会)組織ならびに活動状況を知る。
	3	職業指導の準備その1	班毎に職業指導を受けるための質問票作成用資料収集を行う。
	4	職業指導の準備その2	班毎に職業指導を受けるための質問票作成を行う。
	5	卒業生の職業指導その1	建設業およびコンサルタント業関係の卒業生の職業指導を受ける。
	6	卒業生の職業指導その2	製造業および公的機関関係の卒業生の職業指導を受ける。
	7	卒業生の職業指導その3	公務員および研究職関係の卒業生の職業指導を受ける。
	8	生涯設計立案その1	建設技術者としての生涯設計立案のための資料収集を行う。
	9	生涯設計立案その2	建設技術者としての生涯設計立案のための資料分析を行う。
	10	生涯設計立案その3	建設技術者としての生涯設計を立案する。
	11	研究室選択その1	生涯設計に基づく研究室選択方法の説明
	12	研究室選択その2	生涯設計に基づく研究室選択の調整
	13	教員面談その1	第1希望の研究室の教員との面談をする。
	14	教員面談その2	第2希望の研究室の教員との面談をする。
	15	教員面談その3	第3希望の研究室の教員との面談をする。
	16	所属研究室の決定	所属研究室の発表および授業評価アンケートの実施

**教科書** なし

**参考書** なし

**成績評価の方法** 到達目標の達成度は、生涯設計の立案書と面接資料で評価しその割合は、1:1とする。立案書の内容と面接資料は、到達目標1の観点から5点満点で評価する。評点が3点以上を到達目標1のクリア条件とする。到達目標2の達成度は、生涯設計の立案書と面接資料で評価しその割合は、1:1とする。立案書の内容と面接資料は、到達目標2の観点から5点満点で評価する。評点が3点以上を到達目標2のクリア条件とする。到達目標3の達成度は、指導教員の面接内容で5点満点で評価する。評点が3点以上を到達目標3のクリア条件とする。3つの到達目標をクリアした場合を合格として、成績は、到達目標1と到達目標2と到達目標3の評点の平均値を20倍して100点満点換算して算出する。

なお、成績に関係ないが、本演習科目の単位認定にあたっては、受講前1年以内のTOEICのスコアを有することが必須であり、もし、受験していない場合は、本演習科目履修中にTOEIC試験を受験し、そのスコアを提出しなければならない。なお、スコアの点数には条件はない。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 必要に応じてインターネット検索によって生涯設計を立案するための資料収集や調査研究を行うので、これらの技術を習得しておくこと。また、関連授業科目である「建設行政法」、「生産管理」、「労務管理」、「職業指導」等の受講を推奨する。また、就職や大学院進学において、TOEIC試験のスコアが大変重要視されている。1度は受験し、各自のスコアがどのくらいであるのかを知っておくことが必要である。

**JABEE合格** [成績評価] 同一とする。

**学習教育目標との関連** 本学科の教育目標の3(5)に40%, 5(2)に20%, 6(2)に40%対応する。

**WEBページ** <http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0062>

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 建設工学科3年生クラス担任
<b>備考</b>	第5~7回授業は、美土利会総会当日の午前中に複数の卒業生による集中講義として実施する。第13~16回授業は、選択研究室の教員による面接であるので、開講日時が学生毎で異なる。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111220
<b>科目分野</b>	専門共通科目(必修)		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	プロジェクト演習[Practice on Civil Engineering Projects]		
<b>担当教員</b>	工学部建設工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	<b>建設工学科(昼間)</b>

**授業の目的** 建設工学に関わる研究 調査プロジェクトについて、実際に基礎的知識の修得、資料収集・分析、報告・発表を行うことで、技術者としての基礎的素養を身につけることを目的とする。

**授業の概要** 各自、建設系研究室が示したプロジェクト・テーマから1つを選んで、教員の指導を受けて演習を行う。この演習は4年生に実施する卒業研究の準備としても位置づけられており、教員の指導のもとに、まとまった研究・調査を自主的に遂行し、その成果を公表・発表する能力を養うことが本演習の概要である。研究室ごとに計12グループに分かれる。具体的テーマ、演習内容については学期初めに発表される。

**キーワード** 情報収集力, 創造発想力, 論理的思考力, グループ活動, プレゼンテーション

**到達目標** 1 計画的実行能力とプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。すなわち、課題を発見するとともに、調査・分析・整理を通じて解決策を提案し、それを発表する能力を身につける。さらに、各自がチーム内での役割を認識してチームワークよく作業を行う能力、ならびに視覚プレゼンテーション機器を用いて口頭で効果的に発表できる能力を身につける。

**授業の計画**

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス研究グループ説明</li> <li>調査テーマの発掘1 プレゼンストーミング</li> <li>調査テーマの発掘2 項目の絞り込み, 評価・選択</li> <li>調査1 関連資料収集, ヒアリング, 文献収集など</li> <li>調査2 関連資料収集, ヒアリング, 文献収集など</li> <li>分析1 資料分析</li> <li>分析2 資料分析</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>解決策の提案1 プレゼンストーミング</li> <li>解決策の提案2 プレゼンストーミング</li> <li>調査・実験1 調査計画・実験計画</li> <li>調査・実験2 調査・実験実施</li> <li>調査・実験3 調査・実験の分析・整理</li> <li>総括 とりまとめ</li> <li>セミナー発表会準備</li> <li>発表会 相互評価</li> </ol> |
|---|---|

**教科書** なし

**参考書** 教員より参考書等が示されることがある。

**教科書・参考書に関する補足情報** 各指導教員より参考図書等の紹介あるいは関連資料の配布がなされる。

**成績評価の方法** 到達目標の達成度を、各グループの指導教員による参加状況と能力の評価点(70%), 能力に関する自己評価点(10%), グループ内での相互評価点(10%), ならびに発表会における発表内容に対する教員・学生の評価点(10%)の合計で評価し、総合評価100点満点中60点以上あれば到達目標をクリアしたとする。成績評価は総合評価点とする。

**再試験の有無** 再試験は実施されない。単位が未修得の場合は次年度に再履修する必要がある。

**受講者へのメッセージ** チーム内での各自の役割をしっかりと認識し、チームメイトに迷惑をかけることがないように、また各自がチームを牽引してゆく気概をもって取り組むこと。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科の教育目標の4(1)に20%, 4(2)に20%, 4(3)に30%, 5(1)に15%, 5(2)に15%それぞれ対応する。

<b>WEBページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0065">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0065</a>
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 建設工学科3年生クラス担任
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎日学習時間記録簿をつけ、週に1度指導教員のチェックを受けること。学習時間記録簿は発表会終了後指導教員に提出のこと。</li> <li>②成績評価は平常点のみ。</li> </ol>

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111230																		
科目分野	専門共通科目(必修)																				
選必区分	必修																				
科目名	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics for Civil Engineering]																				
担当教員	滑川 達, 工学部非常勤講師 [Susumu Namerikawa]																				
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)																		
授業の目的	環境・エネルギー・人口の諸問題をはじめとした地球規模の問題を抱え、人類の科学技術への依存度が益々高まる中で、科学技術を担う技術者に高い倫理観が求められている。本科目では、建設事業に携わる人々とその役割に関する概説を前提に、建設技術者としての倫理観を事例や討議を通して、地球の視点から多面的に考える能力を養う。特に、建設技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、そして建設技術者が社会に対して負っている責任について理解する。																				
授業の概要	本授業は、常勤1名および非常勤講師4名の合計5名の教員によって実施される。非常勤講師による授業には集中講義もある。(1)工学倫理および土木技術者の倫理綱領について講述し、いくつかの事例に対しても講義を行い、倫理問題の考え方を理解する(滑川・則武・新田担当)。(2)建設技術者および建設作業者の働き甲斐に着目し、建設技術が抱える現在の職業的問題点について講述し、いくつかの事例に対してグループ討議を行い、倫理問題の考え方を理解する(武藤担当)。(3)技術者倫理および歴史の中で公共事業と職業倫理との関係についても講述し、また、いくつかの事例に対してグループ討議を行い、倫理問題の考え方を理解する(星野担当)。																				
キーワード	土木工学倫理, 働きがい, 公共事業, 土木技術者の倫理規定, 土木学会																				
到達目標	1. 技術者が人間社会の発展と自然環境の保全に果たすべき役割と責任を理解する。 2. 技術が社会や自然におよぼす影響や効果についての知識を有する。 3. 技術者がもつべき人命尊重や環境配慮の倫理感について理解する。																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス及び土木工学倫理について:レポート1-①</td> <td>8. 建設技術者の職務特性</td> </tr> <tr> <td>2. 「スペースシャトルチャンレンジャー号の空中爆発事故」による事例学習:課題の説明および問題整理:レポート1-②</td> <td>9. 失敗事例集による事例検討とステークホルダ分析</td> </tr> <tr> <td>3. 仕様規定型思想に基づく許容応力度法と標準の精神について</td> <td>10. 利益相反・リーダーシップについて事例検討:レポート3</td> </tr> <tr> <td>4. 性能照査型思想に基づく限界状態設計法とこれからの技術者の責任について:レポート2</td> <td>11. 徳川家康と公共事業</td> </tr> <tr> <td>5. 建設業界における3R活動について</td> <td>12. 飲み水と寿命</td> </tr> <tr> <td>6. 建設技術者や作業者の働きがいについて</td> <td>13. 地球環境</td> </tr> <tr> <td>7. パートナーシップとは</td> <td>14. 実業務事例に基づく倫理問題演習(グループ別討議)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 実業務事例に基づく倫理問題演習(グループ別発表と解説):レポート4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>16. レポートの返却および授業評価アンケートの実施</td> </tr> </table>			1. ガイダンス及び土木工学倫理について:レポート1-①	8. 建設技術者の職務特性	2. 「スペースシャトルチャンレンジャー号の空中爆発事故」による事例学習:課題の説明および問題整理:レポート1-②	9. 失敗事例集による事例検討とステークホルダ分析	3. 仕様規定型思想に基づく許容応力度法と標準の精神について	10. 利益相反・リーダーシップについて事例検討:レポート3	4. 性能照査型思想に基づく限界状態設計法とこれからの技術者の責任について:レポート2	11. 徳川家康と公共事業	5. 建設業界における3R活動について	12. 飲み水と寿命	6. 建設技術者や作業者の働きがいについて	13. 地球環境	7. パートナーシップとは	14. 実業務事例に基づく倫理問題演習(グループ別討議)		15. 実業務事例に基づく倫理問題演習(グループ別発表と解説):レポート4		16. レポートの返却および授業評価アンケートの実施
1. ガイダンス及び土木工学倫理について:レポート1-①	8. 建設技術者の職務特性																				
2. 「スペースシャトルチャンレンジャー号の空中爆発事故」による事例学習:課題の説明および問題整理:レポート1-②	9. 失敗事例集による事例検討とステークホルダ分析																				
3. 仕様規定型思想に基づく許容応力度法と標準の精神について	10. 利益相反・リーダーシップについて事例検討:レポート3																				
4. 性能照査型思想に基づく限界状態設計法とこれからの技術者の責任について:レポート2	11. 徳川家康と公共事業																				
5. 建設業界における3R活動について	12. 飲み水と寿命																				
6. 建設技術者や作業者の働きがいについて	13. 地球環境																				
7. パートナーシップとは	14. 実業務事例に基づく倫理問題演習(グループ別討議)																				
	15. 実業務事例に基づく倫理問題演習(グループ別発表と解説):レポート4																				
	16. レポートの返却および授業評価アンケートの実施																				
教科書	土木学会土木教育委員会倫理教育小委員会編『土木技術者の倫理事例分析を中心として』丸善, 1200 円																				
参考書	『学びの技』はじめの一步(徳島大学工学部導入部教育テキスト)																				
成績評価の方法	到達目標1の達成度は、滑川が担当のレポート1-①と1-②及び則武担当のレポート1-③及び滑川が出題する期末試験で評価する。レポート1と期末試験(滑川出題)は8:2の割合で算出する評点として、評点が60%以上を到達目標1のクリア条件とする。到達目標2の達成度は、レポート2と武藤が出題する期末試験で評価する。レポート2と期末試験(武藤出題)は8:2の割合で算出する評点として、評点が60%以上を到達目標2のクリア条件とする。到達目標3の達成度は、レポート3と星野が出題する期末試験で評価する。レポート3と期末試験(星野出題)は8:2の割合で算出する評点として、評点が60%以上を到達目標3のクリア条件とする。3つの到達目標をクリアした場合を合格として、成績は、到達目標1と到達目標2と到達目標3の評点の平均値として算出する。																				
再試験の有無	再試験の有無																				
受講者へのメッセージ	必要に応じてインターネット検索により事例研究を行うので、これらの技術を習得しておくこと。また、関連授業科目である、「建設行政法」、「生産管理」、「労務管理」、「職業指導」等の受講を推奨する。予習・復習を行い、レポートは必ず期限内で提出すること。																				
JABEE合格	【成績評価】同一とする。																				
学習教育目標との関連	本学科の教育目標の1(1)に40%, 1(2)に30%, 1(3)に30%対応する。																				
WEB ページ	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0017">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0017</a>																				
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 滑川達(建設棟4階401, Tel:088-6569877, namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 年度毎に学科の掲示を参照すること																				
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解単位取得のために必要である。																				

開講学期	4年・通年	時間割番号	5111240																														
科目分野	専門共通科目(必修)																																
選必区分	必修																																
科目名	卒業研究[Undergraduate Research Work]																																
担当教員	建設工学科教員																																
単位数	8	対象学生・年次	建設工学科(昼間)																														
授業の目的	研究テーマを設定し、それを解明するための研究計画の立案、研究の実施、成果のとりまとめを指導教員のもとで遂行することによって、未知の問題解決能力を養う。また、その成果を口頭発表することで、プレゼンテーション能力の育成を図る。																																
授業の概要	各学生は、建設工学科ならびにエコシステム工学専攻の建設系研究室のいずれかの研究室に所属し、教員の直接指導のもとで、各自のテーマで研究し、その成果を卒業論文にまとめるとともに、口頭で発表する。なお、研究テーマは、研究室配属後、指導教員との討議によって決定する。																																
キーワード	研究, 卒業論文, 口頭発表																																
到達目標	各自の設定した研究テーマに対して、適切な研究計画を立案し、それに従って研究を遂行し、その結果を論文としてまとめることができるとともに、その成果を口頭で発表できる。																																
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>16. 実験, 調査, 解析(その5)</td> </tr> <tr> <td>2. 事前調査および研究テーマ設定(その1)</td> <td>17. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その5)</td> </tr> <tr> <td>3. 事前調査および研究テーマ設定(その2)</td> <td>18. 中間報告会準備(その1)</td> </tr> <tr> <td>4. 事前調査および研究テーマ設定(その3)</td> <td>19. 中間報告会準備(その2)</td> </tr> <tr> <td>5. 研究計画作成(その1)</td> <td>20. 中間報告会</td> </tr> <tr> <td>6. 研究計画作成(その2)</td> <td>21. 卒業論文作成(その1)</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画作成(その3)</td> <td>22. 卒業論文作成(その2)</td> </tr> <tr> <td>8. 実験, 調査, 解析(その1)</td> <td>23. 卒業論文取りまとめに関する討議, 検討(その1)</td> </tr> <tr> <td>9. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その1)</td> <td>24. 卒業論文作成(その3)</td> </tr> <tr> <td>10. 実験, 調査, 解析(その2)</td> <td>25. 卒業論文作成(その4)</td> </tr> <tr> <td>11. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その2)</td> <td>26. 卒業論文取りまとめに関する討議, 検討(その2)</td> </tr> <tr> <td>12. 実験, 調査, 解析(その3)</td> <td>27. 卒業論文作成(その5)</td> </tr> <tr> <td>13. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その3)</td> <td>28. 卒論発表会準備(その1)</td> </tr> <tr> <td>14. 実験, 調査, 解析(その4)</td> <td>29. 卒論発表会準備(その2)</td> </tr> <tr> <td>15. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その4)</td> <td>30. 卒論発表会</td> </tr> </table>			1. ガイダンス	16. 実験, 調査, 解析(その5)	2. 事前調査および研究テーマ設定(その1)	17. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その5)	3. 事前調査および研究テーマ設定(その2)	18. 中間報告会準備(その1)	4. 事前調査および研究テーマ設定(その3)	19. 中間報告会準備(その2)	5. 研究計画作成(その1)	20. 中間報告会	6. 研究計画作成(その2)	21. 卒業論文作成(その1)	7. 研究計画作成(その3)	22. 卒業論文作成(その2)	8. 実験, 調査, 解析(その1)	23. 卒業論文取りまとめに関する討議, 検討(その1)	9. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その1)	24. 卒業論文作成(その3)	10. 実験, 調査, 解析(その2)	25. 卒業論文作成(その4)	11. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その2)	26. 卒業論文取りまとめに関する討議, 検討(その2)	12. 実験, 調査, 解析(その3)	27. 卒業論文作成(その5)	13. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その3)	28. 卒論発表会準備(その1)	14. 実験, 調査, 解析(その4)	29. 卒論発表会準備(その2)	15. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その4)	30. 卒論発表会
1. ガイダンス	16. 実験, 調査, 解析(その5)																																
2. 事前調査および研究テーマ設定(その1)	17. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その5)																																
3. 事前調査および研究テーマ設定(その2)	18. 中間報告会準備(その1)																																
4. 事前調査および研究テーマ設定(その3)	19. 中間報告会準備(その2)																																
5. 研究計画作成(その1)	20. 中間報告会																																
6. 研究計画作成(その2)	21. 卒業論文作成(その1)																																
7. 研究計画作成(その3)	22. 卒業論文作成(その2)																																
8. 実験, 調査, 解析(その1)	23. 卒業論文取りまとめに関する討議, 検討(その1)																																
9. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その1)	24. 卒業論文作成(その3)																																
10. 実験, 調査, 解析(その2)	25. 卒業論文作成(その4)																																
11. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その2)	26. 卒業論文取りまとめに関する討議, 検討(その2)																																
12. 実験, 調査, 解析(その3)	27. 卒業論文作成(その5)																																
13. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その3)	28. 卒論発表会準備(その1)																																
14. 実験, 調査, 解析(その4)	29. 卒論発表会準備(その2)																																
15. 実験, 調査, 解析結果に関する討議, 検討(その4)	30. 卒論発表会																																
教科書	指導教員より適宜指示する。																																
参考書	指導教員より適宜指示する。																																
成績評価の方法	卒業論文最終提出時まで所定の時間数以上を論文作成のための学習時間として費やしていることを条件とする(ポートフォリオにより確認する)。到達目標の達成度を2名の教員による論文内容評価(75%, 内訳:自主学習能力30点, 専門知識20点, 問題解決能力20点, 説明能力5点)および教員・学生による発表会評価(25%, 内訳:説明能力25点)を実施し、両評価の評点の合計 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件ならびに本科目の合格条件とする。																																
再試験の有無	再試験の有無																																
受講者へのメッセージ	研究室教員の指導に従うこと																																
JABEE合格	【成績評価】と同一である。																																
学習教育目標との関連	本学科の学習・教育目標の2(1)~(3)に各10%, 3(4)に20%, 4(1)~(2)および5(1)~(3)に各々10%対応する。																																
WEB ページ	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0018">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0018</a>																																
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 建設工学科教務委員																																
備考	1. 指導教員の指示に従うこと。																																

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111250
科目分野	工学基礎系科目		
選必区分	専門選択A群		
科目名	複素関数論[Complex Analysis]		
担当教員	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微積分学を修得させる。		
授業の概要	微積分で扱う対象を複素数変数の関数にまで広げ、正則関数および有型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。		
キーワード	複素数, 正則, 留数, 極		
到達目標	1. 正則関数の基本的性質が理解でき、留数の概念の理解とその応用ができる。		
授業の計画	6. 初等関数	12. コーシーの積分公式	
1. 複素数	7. 複素関数の極限	13. 級数展開, テイラー展開, ローラン展開, 特異点, 極	
2. 複素平面	8. 複素微分, コーシー・リーマンの関係式	14. 留数定理	
3. オイラーの公式, ド・モアブルの公式	9. 正則関数, 等角写像	15. 実積分への応用	
4. 複素数の極限	10. 複素積分	16. 期末試験	
5. 複素関数	11. コーシーの積分定理		
教科書	初等関数論/林 一道:裳華房		
参考書	複素関数論/犬井鉄郎・石津武彦:東京大学出版会 初歩からの複素解析/香田温人・小野公輔:学術図書出版社 理工系の複素関数論/殿塚勲・河村哲也:東京大学出版会		
成績評価の方法	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本学科の教育目標の3(1)に100%対応している。		
WEB ページ			
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mail での問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) オフィスアワー:木曜 14:00～15:00		
備考			

開講学期	2年・前期	時間割番号	5111260
科目分野	工学基礎系科目		
選必区分	専門選択A群		
科目名	確率統計学[Probability and Statistics]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	確率的な現象の捉え方, 考え方を学ぶとともにデータを処理する際に使われる統計手法を習得することを目標とする。		
授業の概要	初めて数理統計を学ぶ初学者のために統計資料の整理から始めて、その資料の特徴の解析, さらに確率論の基礎と小数標本論の初歩を解説する。		
キーワード	平均, 分散, 回帰直線, 二項分布, 正規分布		
到達目標	1. 基本的な分布関数についての理解 2. 相関関係についての理解		

授業の計画	5. 相関係数	9. 基本的分布関数	13. 正規分布 I :定義
1. 変量と平均	6. 数学的確率	10. 平均の性質	14. 正規分布 II :応用
2. 分散, 標準偏差	7. 加法定理	11. 二項分布	15. 中心極限定理
3. チェビシェフの定理	8. 乗法定理	12. ポワソン分布	16. 期末試験
4. 相関関係, 回帰直線			
教科書	新訂 確率統計/高遠節夫・斎藤斉他:大日本図書		
参考書	統計学要論/青木利夫, 吉原健一:培風館 数理統計概論/越昭三:学術図書出版社		
成績評価の方法	講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し, 総合点 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	単位の取得をもってJABEE合格とする。		
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)			
備考			

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111270
科目分野	工学基礎系科目		
選必区分	専門選択A群		
科目名	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
担当教員	香田 温人 [Atsuhito Kohda]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	常微分方程式の安定性を理解し, 実際的な工学的問題に応用できるようにする。		
授業の概要	「微分方程式1」に続いて現代工学すべての基礎として重要な役割を果たしている連立常微分方程式系について解の性質, 特に安定性を講義する。		
キーワード	安定性		
到達目標	1)安定性と2)求積法が理解できる。11回までは目標1)に, その後は目標2)に関係する。		
授業の計画	6. 固有値と安定性	12. 完全微分方程式	
1. 変数係数連立線形方程式	7. 周期係数の方程式の安定性	13. 変数分離形と同次形	
2. 基本行列とロンスキアン	8. 振り子の運動	14. まとめと演習	
3. 周期係数の方程式	9. その他の例	15. 期末試験	
4. 周期係数の方程式の解	10. 存在定理と解の性質	16. 総括	
5. 相平面と解曲線	11. 非線形と2次元自律系		
教科書	理工系 微分方程式の基礎/長町・香田:学術図書出版社, 2009, ISBN:9784780601626		
参考書	微分方程式概論/神保秀一:サイエンス社 工科系のための微分方程式/杉山昌平:実教出版		
成績評価の方法	授業への取り組み状況等(20%)と期末試験の成績(80%)を総合して行う。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本学科の教育目標の3(1)に100%対応している。		
WEB ページ	http://math0.pm.tokushima-u.ac.jp/lec-k/		
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 香田温人(A211, kohda@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kohda@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 12:00～13:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		



開講学期	2年・後期	時間割番号	5111280
科目分野	工学基礎系科目		
選必区分	専門選択A群		
科目名	解析力学[Mechanics]		
担当教員	岸本 豊 [Yutaka Kishimoto]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	基礎物理学で学んだ質点のニュートン力学につなげて、質点系および剛体の力学、解析力学の初歩を修得させる。		
授業の概要	まず、質点の力学の基本的な事柄を整理し、質点系での運動量や角運動量の概念を解説する。ついで、それを発展させ、剛体のつりあいと運動の力学を説明する。次に、これらの力学的体系を一般化して取扱う手法として、解析力学の初歩を解説する。その過程の中で、機械力学をはじめ、材料力学、流体力学などの力学系科目の基礎原理が共通していることを習得する。		
キーワード	質点の力学、質点系の力学、解析力学		
到達目標	1. 質点系および剛体のつりあいと運動を理解する。(授業計画 1 から 6 に対応し、期末テストで評価) 2. 仮想仕事、ハミルトンの原理等、解析力学の初歩の概念を修得する。(授業計画 7 から 14 に対応し、期末テストで評価)		
授業の計画	6. 撃力が働く場合	12. 最小作用の原理	
1. 質点系の運動量、角運動量	7. 仮想変位の原理	13. ラグランジュの運動方程式(1)	
2. 剛体のつりあい	8. つりあいの安定と不安定	14. ラグランジュの運動方程式(2)	
3. 剛体の慣性モーメント	9. 変分法	15. 予備日	
4. 固定軸をもつ剛体の回転運動	10. ダランベールの原理	16. 期末試験	
5. 剛体の平面運動	11. ハミルトンの原理		
教科書	力学(三訂版)/原島鮮:裳華房, ISBN:9784785320201		
参考書	工学のための力学(上, 下)/ペアー/ジョンストン(長谷川節訳):ブレイン図書		
成績評価の方法	単位の取得:試験 70%(期末試験), 平常点 30%(授業への取り組み)として評価し、全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	基礎物理学の力学を履修しているものとする。微分積分の基礎知識を習得していることが望ましい。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A) 50%, (B)50%に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岸本 豊 (A202, 088-656-7548) (メールアドレス) yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp		
備考	1. 微分積分の基礎知識を要する。 2. 成績評価に対する[平常点]と[期末試験の成績]の割合は 3:7 とする。 3. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111290
科目分野	工学基礎系科目		
選必区分	専門選択A群		
科目名	数値解析[Numerical Analysis]		
担当教員	竹内 敏己 [Toshiki Takeuchi]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	工学の分野では、様々な現象を数理モデル化し、計算機を用いた数値計算によって現象の定量的および定性的解析を行うことが多い。企業活動における研究開発の場面においても、開発コストの削減や開発速度を上げるために計算機を用いたシミュレーションが盛んに行われている。本講義では、数値解析の基本的な考え方を習得するとともに、数値計算における基本的な手法を身につけることを目的とする。		
授業の概要	誤差などの数値計算における基礎的知識、補間・数値積分・非線形方程式や常微分方程式の数値解法等の基本的な数値計算法について、計算効率や精度に重点を置いて講義する。また、毎回講義の最後に演習問題を解く時間を設ける。		

キーワード	誤差、補間、数値積分、非線形方程式、常微分方程式、数値計算		
到達目標	1. 数値誤差について理解する。 2. 方程式の数値計算法を習得する。		
授業の計画	6. ラグランジュ補間	12. 非線形方程式:ニュートン法	
1. 数値計算の例	7. チェビシェフ補間	13. 連立非線形方程式に対するニュートン法	
2. 計算機における誤差	8. 数値積分の考え方	14. 常微分方程式:オイラー法	
3. 誤差伝播	9. 補間型積分則	15. 常微分方程式:ルンゲ・クッタ法	
4. 桁落ち	10. 高精度近似積分	16. 期末試験	
5. テイラー展開法	11. 非線形方程式:2 分法		
教科書	数値計算の基礎と応用 : 数値解析学への入門/杉浦洋:サイエンス社, 2009.12, ISBN:9784781912400 杉浦洋『数値計算の基礎と応用[新訂版]』サイエンス社		
参考書	数値解析/森正武:共立出版, 2002. 2, ISBN:4320017013		
成績評価の方法	期末試験を 70%, 講義への取り組み状況を 30%として評価し、全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習が、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 竹内敏己(工学部建設棟 A206, 088-656-7544) (メールアドレス) takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:00~17:00		
備考	授業で電卓(四則演算の機能)を使用するので用意しておくこと。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111300
科目分野	工学基礎系科目		
選必区分	専門選択A群		
科目名	ベクトル解析[Vector Analysis]		
担当教員	水野 義紀 [Yoshinori Mizuno]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	工学の解析で必要不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに、ベクトル場の解析学を通して古典力学、流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的な理解・運用を目標とする。		
授業の概要	ベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的効果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微分積分学を展開し、微分積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。		
キーワード	1. ベクトルの微積分 2. 勾配, 回転, 発散 3. ストークスの定理, グリーンの定理, ガウスの定理		
到達目標	1. ベクトルの演算, ベクトルの場の微分が理解できる。(授業計画 1~10 と対応し、期末試験で評価) 2. ベクトルの場の積分が理解できる。(授業計画 11~14 と対応し、期末試験で評価)		
授業の計画	5. 曲線	9. 回転	13. ガウスの定理
1. ベクトル	6. 曲面	10. 発散	14. 積分定理の応用
2. 内積	7. スカラー場, ベクトル場	11. ストークスの定理	15. 期末試験
3. 外積	8. 勾配	12. グリーンの定理	16. 総括
4. ベクトル関数			
教科書	ベクトル解析/鶴丸孝司・久野昇司・渡辺敏・志賀野洋:内田老鶴圃		
参考書	ベクトル解析演習/鶴丸孝司・久野昇司・渡辺敏・志賀野洋:内田老鶴圃		
成績評価の方法	期末試験 100%		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。		
JABEE合格	JABEE 合格は単位合格と同一とする。		

<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C: ◎)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水野 義紀(建設棟A204, E-mail:mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜 17時から18時		
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111310
<b>科目分野</b>	工学基礎系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択A群		
<b>科目名</b>	工業物理学及び実験[Laboratory in General Physics]		
<b>担当教員</b>	岸本 豊 [Yutaka Kishimoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 実験を通した物理学の基本概念の理解、および実験の基本事項の修得を目的として、基礎的な物理実験を行い、関連事項を指導する。

**授業の概要** 基本測定(統計処理)、力学(ボルダの振り子、角運動量)、物性(ヤング率、単剛性率、表面張力、粘性係数、抵抗の温度変化)、電磁気学(等電位線、磁気モーメント、静電容量、電磁誘導、ダイオード・トランジスタの特性、ホール効果)、熱(比熱、熱伝導率、温度伝導率)、波動(フレネルの複プリズム、分光器と回折格子)、原子物理学(スペクトル、光電効果、フランク・ヘルツの実験)よりテーマを選択し、3~4名ずつの班ごとに実験を行ない、レポートを作成・提出する。

**キーワード** 物理学実験

**到達目標** 実験を行う際の基本事項を修得し、実験を通して材料物性の基礎を理解する。

<b>授業の計画</b>	4. 実験第3回	8. 実験第7回	12. 実験第11回
1. オリエンテーション	5. 実験第4回	9. 実験第8回	13. レポート指導
2. 実験第1回	6. 実験第5回	10. 実験第9回	14. レポート指導
3. 実験第2回	7. 実験第6回	11. 実験第10回	15. まとめ

**教科書** 当実験のための教科書「物理学実験」を使用する。

**参考書**

**成績評価の方法** 規定回数以上の出席があり、レポートを期限内に提出した受講者に対し、レポートの提出状況・内容を評価し、総合で60%以上を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 実験レポートを各実験の次回の実験時に提出すること。チェック後再提出を指示する場合がある。その際は提出締め切りまでに提出すること。実験時の安全について受講者は十分に注意すること。

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** 本学科の教育目標の3(1)に100%対応している。

<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0025">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0025</a>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岸本 豊(A202, 088-656-7548) (メールアドレス) yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 実験機材の都合により、受講者数を制限することがある。本講義の受講は、予習により実験内容が理解されている事を前提とする。なお、実験時の安全について受講者各人は十分に注意すること。		

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111320
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	応用構造力学[Applied Structural Mechanics]		
<b>担当教員</b>	成行 義文 [Yoshifumi Nariyuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 「丸棒のねじり」・「静定ラーメン」ならびに「エネルギー法に基づく構造物の弾性変形算定法」等の理論を理解させるとともに、簡単な静定構造物の設計法を通して、静定構造力学の基礎知識を定着させるとともにその応用力を養成する。

**授業の概要** 授業は、原則として下記の【授業計画】に従って進められる。初回のガイダンス時にこれまでに学んだ構造力学(構造力学1~3)の理解度(講義関連)を確認するための基礎力診断テストを行う。次いで、「丸棒のねじり」、「静定ラーメン」、「エネルギー法に基づく構造物の弾性変形算定法」の順に授業が実施されるが、適宜、「ラーメン」、「はり」ならびに「トラス」の設計法についても講述する。また3回の確認テストと2回のレポートが課される。なお、本授業は「応用構造力学演習」と連動した内容となっている。

**キーワード** ねじり、静定ラーメン、仕事、ひずみエネルギー、仮想仕事の原理、カステリアノの定理、相反作用の定理、設計

**先行/科目** 『構造力学1[Structural Mechanics 1]』(1.0)、『構造力学2[Structural Mechanics 2]』(1.0)、『構造力学3[Structural Mechanics 3]』(1.0)

**関連/科目** 『構造解析学及び演習[Structural Analysis and Exercise]』(0.6)、『応用構造力学演習[Applied Structural Mechanics Exercise]』(1.0)、『鋼構造[Steel Structures]』(0.6)、『建設創造実験実習[Civil and Environmental Engineering Laboratory]』(0.3)、『建設創造設計演習[Civil and Environmental Engineering Design Exercise]』(0.3)

**到達目標** 1. 静定構造物の応力ならびに弾性変形等の算定法を身に付けるとともに構造物設計の基礎を修得する。(第1~16回)

<b>授業の計画</b>	9. 仕事とひずみエネルギー(pp.1-14) [復習:第5~8回の内容、予習:次回の内容]
1. ガイダンス/基礎力診断テスト [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	10. 仮想仕事の原理1(pp.1-38)(pp.29-38)/レポート1 [復習:今回の内容、予習:次回の内容]
2. 丸棒のねじり(プリント) [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	11. カステリアノの定理(pp.38-49)[復習:第9~10回の内容、予習:次回の内容]
3. 静定ラーメンの曲げモーメント(プリント) [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	12. 相反作用の定理(pp.50-57) [復習:今回の内容、予習:今回の内容]
4. 確認テスト1/解説 [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	13. 確認テスト3/解説 [復習:今回の内容、予習:今回の内容]
5. ラーメンの設計法(プリント) [復習:第1~4回の内容、予習:今回の内容]	14. トラス構造の設計法1(プリント) [復習:今回の内容、予習:今回の内容]
6. はりの応力とたわみ(プリント) [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	15. トラス構造の設計法2(プリント)/レポート2 [復習:第11~15回の内容]
7. はり構造の設計法(プリント) [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	16. 総括
8. 確認テスト2/解説 [復習:今回の内容、予習:今回の内容]	

**教科書** 不静定構造力学/高岡宣善 著、共立出版、2001、ISBN:4320074068

**参考書** 構造力学[上]/崎元達郎:共立出版、1991、ISBN:9784627425101 授業中に必要に応じて紹介する。

**教科書・参考書に関する補足情報** 講義資料ならびに関連情報はMoodleに順次アップされるので各自チェック・ダウンロードすること。

**成績評価の方法** 到達目標の達成度を、確認テスト(No.1~3, 20点×3)とレポート(No.1~2, 20点×2)の各評点の合計(100点満点)で評価し、合計評点60点を到達目標のクリア条件とする。また成績は合計評点とする。

**再試験の有無** 再試験は実施しない。単位が修得できなかった場合は次年度に改めて履修することが必要である。

**受講者へのメッセージ** 2/3以上の出席がなければ成績評価の対象とはならない。

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** 本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する。

<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0026">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0026</a>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 成行義文(A510, 088-656-7326) (メールアドレス) nariyuki@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10・11校時		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位修得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111330
科目分野	建造物デザイン系科目		
選必区分	専門選択B群		
科目名	応用構造力学演習[Applied Structural Mechanics Exercise]		
担当教員	成行 義文 [Yoshifumi Nariyuki]		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	比較的複雑な静定構造物の応力算定法ならびにエネルギー法に基づくそれらの弾性変形算定法等について演習、設計課題を通じて理解を深める。		
授業の概要	授業は、原則として下記の【授業計画】に従って進められる。初回のガイダンス時にこれまでに学んだ構造力学(構造力学1～3)の理解度(演習関連)を確認するための基礎力診断テストを行う。次いで、「丸棒のねじり」、「静定ラーメン」、「エネルギー法に基づく構造物の弾性変形算定法」の順に授業が実施されるが、適宜、「ラーメン」、「はり」ならびに「トラス」の設計について演習を行う。また2回の確認テストと4回のレポートが課される。なお、本授業は「応用構造力学」と連動した内容となっている。		
キーワード	ねじり、静定ラーメン、仕事、ひずみエネルギー、仮想仕事の原理、カスティリアノの定理、相反作用の定理、設計		
先行/科目	『構造力学1[Structural Mechanics 1]』(1.0)、『構造力学2[Structural Mechanics 2]』(1.0)、『構造力学3[Structural Mechanics 3]』(1.0)、『応用構造力学[Applied Structural Mechanics]』(1.0)		
関連/科目	『構造解析学及び演習[Structural Analysis and Exercise]』(0.6)、『鋼構造[Steel Structures]』(0.5)、『建設創造実験実習[Civil and Environmental Engineering Laboratory]』(0.3)、『建設創造設計演習[Civil and Environmental Engineering Design Exercise]』(0.3)		
到達目標	1. 静定構造物の応力ならびに弾性変形等を算定することができる。		
授業の計画	9. 仕事とひずみエネルギー [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
1. ガイダンス/基礎力診断テスト [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	10. 仮想仕事の原理/レポート3 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
2. 丸棒のねじり [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	11. カスティリアノの定理 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
3. 静定ラーメンの曲げモーメント [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	12. 相反作用の定理 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
4. 確認テスト1/解説 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	13. 確認テスト2/解説 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
5. ラーメンの設計1 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	14. トラスの設計1 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
6. ラーメンの設計2/レポート1 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	15. トラスの設計2/レポート4 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]		
7. はりの設計1 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	16. 総括		
8. はりの設計2/レポート2 [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]			
教科書	不静定構造力学/高岡宣善 著; 共立出版, 2001, ISBN:4320074068 9回以降:高岡宣善著「不静定構造力学」共立出版		
参考書	構造力学[下]/崎元達郎 著; 森北出版, 1993, ISBN:4627425201		
教科書・参考書に関する補足情報	補足説明用資料や演習問題プリント等は moodle(e-learning system)からダウンロードすること。		
成績評価の方法	到達目標の達成度を、確認テスト(No.1～2, 20点×2)とレポート(No.1～4, 15点×4)の各評点の合計(100点満点)で評価し、合計評点 60点を到達目標のクリア条件とする。また成績は合計評点とする。		
再試験の有無	再試験なし。		
受講者へのメッセージ	レポート提出の遅延は原則として認めない。2/3 以上の出席(11 回以上) がなければ成績評価の対象とはならない。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本科目は本学科の教育目標の 3(3)に、100%対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 成行(A510, Tel:088-656-7326) (メールアドレス) nariyuki@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10・11 校時, A510		
備考	1. 2時間の授業時間毎に1時間ずつの予習・復習をそれぞれ必ず行うこと。「構造力学1」、「構造力学2」、「構造力学3」および「応用構造力学」を受講しておくこと。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111340
科目分野	建造物デザイン系科目		
選必区分	専門選択B群		
科目名	土の力学演習[Soil Mechanics]		
担当教員	鈴木 壽 [Hisashi Suzuki]		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	土の力学 1 および土の力学 2 の講義に関する内容の演習問題が容易に解ける能力を習得させる。		
授業の概要	土の物理的性質、透水、圧密、せん断、土圧、地盤内応力と支持力、斜面の安定問題に関する演習を行う。		
キーワード	土の物理的性質、透水、圧密、せん断、土圧、地盤内応力と支持力、斜面の安定問題		
到達目標	1. 土の基本的な力学現象を計算できる能力を養う。2. 地盤の応用的な力学現象を計算できる能力を養う。		
授業の計画	1. 土の基本物理量の定義・公式	6. 沈下量の時間的変化	12. 半無限の地盤内応力
2. 計算問題・土の締固め	7. モール・クーロンの破壊基準	8. 破壊時の応力・強度定数の決定	13. 地盤の支持力問題
3. 全水頭・ダルシーの法則	9. 中間試験	10. ランキン土圧	14. 無限斜面の安定問題
4. 漏水量の問題・動水勾配	11. クーロン土圧		15. 円形すべり面の解析
5. 最終圧密沈下量の問題			16. 定期試験
教科書	最新土質力学/富田武満 他:朝倉書店, 2007, ISBN:978-4-254-26145 適宜プリントを配布		
参考書	土質力学/松岡 元:森北出版, 1999, ISBN:4-627-42651-8		
成績評価の方法	到達目標のクリア条件は評点 60%以上とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標 1 を中間試験で、到達目標 2 を定期試験で行い、それぞれの評点の重みを 50%, 50%として産出する。		
再試験の有無	再試験は本試験の可否発表後、1 週間以内に行う。再試験にも合格できなかった者は次年度の再受講が必要である。		
受講者へのメッセージ	到達目標テストは中間、定期試験と 2 回行う。		
JABEE合格	到達目標のクリア条件は評点 60%以上とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標 1 を中間試験で、到達目標 2 を定期試験で行い、それぞれの評点の重みを 50%, 50%として産出する。		
学習教育目標との関連	演習科目なので 3 回以上の欠席は認めない。		
WEB ページ	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0027		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 鈴木(A403, 088-656-7347, suzuki@ce.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) suzuki@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 午前 9:00～10:00 水曜日 午後 5:00～6:00		
備考	1. 演習授業で原則として欠席を認めないので、やむなく欠席をする場合は、事前に担当教員まで必ず連絡すること。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111350
科目分野	建造物デザイン系科目		
選必区分	専門選択B群		
科目名	コンクリート工学[Concrete Technology]		
担当教員	渡邊 健 [Takeshi Watanabe]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	近年、鉄鋼とともに社会基盤の建設材料として重要な構造材料であるコンクリート技術の進歩発展は目ざましいものがあり、品質向上と多様化が進み、新工法が開発されている。本講義では、良質なコンクリート構造物を作るために、重要なコンクリートの諸性質や施工の要点に関する基礎技術について講義し、レポートを実施する。建設工学の専門応用科目群の 1 分野である鉄筋コンクリート工学に関連する実務問題に正しく適用できる能力を養い、コンクリート工学に必要な基礎知識を修得させる。		
授業の概要	総論では、コンクリート工学の歴史的経緯および関連学協会の紹介をし、フレッシュコンクリートの性質と硬化コンクリートの性質では、最近の技術の動向を含めて、従来のコンクリート工学の内容について講義する。配合設計、製造、品質管理および施工に関しては、コンクリート標準示方書[施工編]に従い、説明していく。コンクリートの施工ならびに各種コンクリートの施工以降は、最近の技術の動向を紹介する。		
キーワード	フレッシュコンクリート、硬化コンクリート、コンクリートの配合設計、コンクリートの施工、特殊コンクリート		
先行/科目	『もの作り創造材料学[Materials for Construction]』(1.0)		



<b>関連/科目</b> 『材料・構造力学[Reinforced Concrete Mechanics]』(0.5)	
<b>到達目標</b> 1. コンクリート材料、フレッシュコンクリートの性質、硬化コンクリート性質および配合設計方法について理解する。 2. コンクリートの製造、品質管理および施工方法、各種コンクリートについて理解する。	
<b>授業の計画</b>	
1. ガイダンスおよび総論 :教科書 pp.1~8	8. コンクリートの配合設計:教科書 pp.109~121:レポート 2<コンクリート技術試験過去問から>中間試験(到達目標 1)
2. コンクリート用材料およびビデオ学習「骨材の品質とコンクリートの性質」:教科書 pp.9~56	9. コンクリートの製造:教科書 pp.122~132
3. フレッシュコンクリートの性質:「概説」から「フレッシュコンクリートのレオロジー」までおよびビデオ学習「生コンの素顔」:教科書 pp.57~63	10. コンクリートの品質管理と検査:教科書 pp.132~140:レポート 3<コンクリートの製造・品質管理に關しての課題>
4. フレッシュコンクリートの性質:「材料の分離」から「塩化物含有量の限度」まで:教科書 pp.64~70	11. コンクリートの施工:「概説」から「打込み」教科書 pp.141~151:ビデオ学習「コンクリートの打込み」
5. 硬化コンクリートの性質:「概説」から「弾性と塑性」までおよびビデオ学習「カチンカチンコンテスト」:教科書 pp.71~90	12. コンクリートの施工:「締固め」から「マスコンクリートの施工」まで 教科書 pp.151~180: ビデオ学習「欠陥を防ぐ5つのポイント」
6. 硬化コンクリートの性質:「体積変化」から「音響に対する性質」まで:教科書 pp.90~108:レポート 1<章末問題から>	13. 各種コンクリート:教科書 pp.182~193
7. コンクリートの配合設計:教科書 pp.109~121:練習問題配布	14. 各種コンクリート:教科書 pp.193~204 レポート 4<章末問題から>
15. 期末試験(到達目標 2)および授業評価アンケート	
<b>教科書</b> エースコンクリート工学/田澤栄一 編著.;朝倉書店, 2002, ISBN:4254264763 田澤栄一編者『エース コンクリート工学』朝倉書店	
<b>参考書</b> 小林一輔監修『コンクリート実務便覧』オーム社 日本コンクリート工学協会編『コンクリート便覧』技報堂 日本材料学会編『コンクリート混和材料ハンドブック』NTS	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 の達成度を、レポート 1 とレポート 2 の割合を 1:1 として算出される評点により評価し、レポート評価点と中間試験の評価点を 1:1 として評点を算出し、評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする。到達目標 2 の達成度を、レポート 3 とレポート 4 の割合を 1:1 として算出される評点により評価し、レポート評価点と期末試験の評価点を 1:1 として評点を算出し、評点が 60%以上を当目標のクリア条件とする。2 つの到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標 1 と到達目標 2 の評点の平均値として算出する。	
<b>再試験の有無</b> なし	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。レポートは必ず期限内に提出すること。	
<b>JABEE合格</b> [成績評価]同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の 3(3)100%に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡邊 健 「A506, Tel:088-656-7320」 (メールアドレス) watanabe@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 14:35~16:05<昼間コース>, 金曜日 18:00~19:30<夜間主コース>
<b>備考</b>	1. 日程によっては、中間試験の時期を変更する場合がある。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111360
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必修区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	構造解析学及び演習[Structural Analysis and Exercise]		
<b>担当教員</b>	三神 厚 [Atsushi Mikami]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	実在する建造物の多くは、力の釣り合い条件式のみでは解けない不静定な構造物である。この講義では、1, 2 年次に学んだ静定構造物の解析法を援用して、不静定なはり、ラーメン、トラス等を、力を未知量として解く方法(仮想仕事の原理を用いた応力法)、ならびに、変位を未知量として解く方法(たわみ角法、変位法)を理解させる。そして、簡単な不静定はり、ラーメンおよびトラスについては、手計算により、それらの反力及び断面力が計算できる能力を身に付けさせる。		
<b>授業の概要</b>	授業計画に沿って、前半には建造物の支点反力あるいは構成部材の断面力を未知量とした仮想仕事の原理による不静定はり、ラーメン、トラスの解析法(応力法) について講述し、後半には建造物の変位を未知量としたはり、ラーメンのたわみ角法による解析法(変位法) について講述する。そして、これら両解析法に対する理解を深め、応用力を養成するために、適宜例題の解説と演習を行い、宿題も課して、実際の問題に対する応用力の養成を図る。重要項目ごとに小テストを行うとともに、中間、期末テストを実施する。		

<b>キーワード</b>	不静定構造物、仮想仕事の原理による解法、不静定はり・トラス・ラーメンの解き方、たわみ角法の基本式、節点方程式・層方程式・角方程式、はり・ラーメンの解き方		
<b>到達目標</b>	1. 力を未知量とした仮想仕事の原理による不静定構造物の解析方法を理解し、簡単な不静定はり、ラーメン、トラスが手計算により解析できる。(1-8 回) 2. 変位を未知量としたたわみ角法による不静定構造物の解析方法を理解し、簡単な不静定はり、ラーメンが手計算により解析できる。(9-16 回)		
<b>授業の計画</b>	9. たわみ角法の基本式	10. たわみ角法の一般式	11. たわみ角法による不静定構造物の解法原理
1. ガイダンス、構造解析学の概要	12. たわみ角法による不静定はりの解析	13. たわみ角法による不静定ラーメンの解析	14. たわみ角法による不静定ラーメンの解析演習
2. 構造物の静定・不静定と安定・不安定	15. たわみ角法による解析方法のまとめ、期末テスト	16. 答案の返却とまとめ	
3. 仮想仕事の原理を用いた不静定はりの解析			
4. 仮想仕事の原理を用いた不静定はりの解析演習			
5. 仮想仕事の原理を用いた不静定ラーメンの解析			
6. 仮想仕事の原理を用いた不静定ラーメンの解析演習			
7. 仮想仕事の原理を用いた不静定トラスの解析			
8. 仮想仕事の原理による解析方法のまとめ、中間テスト			
<b>教科書</b>	構造力学(上)/崎元 達郎:森北出版, 1991, ISBN:978-4627425101 構造力学(下)/崎元 達郎:森北出版, 1993, ISBN:978-4627425200		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1 の達成度を、中間テストの点数と前半の平常点(小テストの点数)の割合を 4:1 として算出される評点により評価し、評点 60%以上を当目標のクリア条件とする。到達目標 2 の達成度を、期末テストの点数と後半の平常点(小テストの点数)の割合を 4:1 として算出される評点により評価し、評点 60%以上を当目標のクリア条件とする。到達目標 1 および 2 をクリアした場合を合格とし、成績は到達目標 1 と 2 の評点の重みを 50%:50% として算出する。		
<b>再試験の有無</b>	なし		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習・復習を行うこと。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は、本学科の教育目標 3(3)に 100% 対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 三神 厚 (A406, Tel:088-656-9193) (メールアドレス) amikami@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日: 14:30-17:30		
<b>備考</b>	受講に先立ち、構造力学の先行科目を十分復習しておくこと。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111370
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必修区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	地盤工学[Geotechnical Engineering]		
<b>担当教員</b>	上野 勝利 [Katsutoshi Ueno]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	土の力学 1,2 を既に履修している学生を対象に、地盤の破壊に関わる問題、すなわち土圧、地中の応力と地盤の支持力、斜面安定について学習する。授業内容の理解のために、適宜小テストを行いながら授業を進める。授業を通して地盤の工学的な知識と視点を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	地盤のせん断破壊に起因する安定問題について学習する。第 1~5 回は斜面の安定計算について、第 6~10 回は土圧について、第 11~15 回は支持力について学ぶ。		
<b>キーワード</b>	斜面安定、土圧、支持力		
<b>先行/科目</b>	『土の力学1[Soil Mechanics 1]』(1.0), 『土の力学2[Soil Mechanics 2]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『土の力学演習[Soil Mechanics]』(0.8), 『社会基盤プロジェクト[Infrastructure Projects]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 斜面の安全率を求めることができること。 2. 静止土圧、主動土圧、受働土圧の概念を理解し、それぞれの土圧を求めることができること。 3. 地中の応力と地盤の支持力を求めることができること。		



<b>授業の計画</b>		<b>8.</b> 土圧(3):クローン土圧
<b>1.</b> 斜面の安定(1):概説, 安定性の評価, 直線すべり面の解析	<b>9.</b> 土圧(4):擁壁の安定計算	<b>10.</b> 土圧(5):到達目標 2 の小テスト
<b>2.</b> 斜面の安定(2):安定係数による概略解析	<b>11.</b> 支持力(1)---各種基礎工法, サウンディング	<b>12.</b> 支持力(2)---浅い基礎の支持力
<b>3.</b> 斜面の安定(3):円形すべり面の解析 1	<b>13.</b> 支持力(3)---杭基礎の支持力	<b>14.</b> 支持力(4)---杭基礎の水平抵抗
<b>4.</b> 斜面の安定(4):円形すべり面の解析 2	<b>15.</b> 支持力(5)---到達目標 3 の試験	
<b>5.</b> 斜面の安定(5):到達目標 1 の試験		
<b>6.</b> 土圧(1):概説, 掘削時の土圧		
<b>7.</b> 土圧(2):ランキン土圧		
<b>教科書</b> 最新土質力学/冨田武満:朝倉書店, 2003. 11, ISBN:978-4-254-26145- 土の力学 1,2 に同じ.		
<b>参考書</b> ジオテクノート 地盤を探る(地盤工学会発行) 入門シリーズ 地盤工学会数式入門(地盤工学会発行)など		
<b>成績評価の方法</b> 到達目標に挙げた 3 項目が各々達成されているか, 対応する 3 回の小テストによって評価し, それぞれ 60%以上であれば合格とする. 各到達目標の成績に対する配分は, それぞれ 30%, 35%, 35%とする.		
<b>再試験の有無</b> 到達度に応じてレポートならびに口頭試験, あるいは再試験を行なう. 到達度が不十分と判断された学生は次年度に再履修を受けること.		
<b>受講者へのメッセージ</b> 土の力学 1, 2 を履修すること. 講義や試験には教科書, 定規, コンパス, 電卓を持参のこと.		
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同一とする.		
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の目的 3(2)に 100%対応する.		
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0030	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上野 勝利 (A402, 088-656-7342, E-mail:ueno@ce.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ueno@ce.tokushima-u.ac.jp	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111380
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	材料・構造力学[Reinforced Concrete Mechanics]		
<b>担当教員</b>	橋本 親典, 渡邊 健 [Chikanori Hashimoto, Takeshi Watanabe]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	現在の社会基盤整備を支えており, 鋼構造とともに建設構造物の主要な構成要素である鉄筋コンクリート構造物を, 合理的でかつ経済的に造ろうとする場合, 鉄筋コンクリート独特の力学に関する知識が要求される. 本講義では, 鉄筋コンクリート力学に関する基礎技術について講義し, レポートを実施する.		
	建設工学の専門応用科目群の 1 分野である鉄筋コンクリート工学に関連する実務問題に正しく適用できる能力を養い, 鉄筋コンクリート構造物の設計に必要な基礎知識を修得させる.		
<b>授業の概要</b>	鉄筋コンクリートの特徴ならびにコンクリートと鉄筋の力学的性質について講義し, 実際に設計に必要な曲げ耐力, 曲げと軸方向力に対する耐力, せん断耐力について, 力学的観点から理解させる. また, 曲げ応力度, ひび割れ幅等の設計項目についても言及する.		
<b>キーワード</b>	鉄筋コンクリート, 限界状態設計法, 曲げ耐力, 曲げ応力度, せん断耐力		
<b>先行/科目</b>	『もの作り創造材料学[Materials for Construction]』(0.5), 『コンクリート工学[Concrete Technology]』(1.0), 『構造力学1[Structural Mechanics 1]』(1.0), 『構造力学2[Structural Mechanics 2]』(0.5), 『構造力学3[Structural Mechanics 3]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 限界状態設計の概念を理解するために, 鉄筋コンクリートの特徴および鉄筋とコンクリートの応力ひずみ関係を理解し, 等価応力ブロックの算定方法, 鉄筋コンクリート部材の曲げ耐力の算定方法を習得する. 2. 鉄筋コンクリート部材の曲げ応力度と曲げひび割れ幅の算定方法, ならびに, 曲げと軸力を受ける部材の耐力およびせん断耐力の算定方法を習得する.		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンスおよび鉄筋コンクリートの特徴:教科書 pp.7~10 2. コンクリートおよび鉄筋の力学的性質:教科書 pp.11~22:レポート1<正規分布と安全係数の関係> 3. 限界状態設計法と部分安全係数(限界状態設計法の基本的考え):教科書 pp.23~26 4. 限界状態設計法と部分安全係数(部分安全係数の基本的考え):教科書 pp.26~30		

<b>5.</b> 断面の曲げ耐力(等価応力ブロック):教科書 pp.31~36:レポート2<等価応力ブロックの式の導出>	
<b>6.</b> 断面の曲げ耐力(曲げ耐力の算定式):教科書 pp.36~47	
<b>7.</b> 中間試験(到達目標 1:第 1 講~第 5 講まで範囲)	
<b>8.</b> 曲げ応力度:教科書 pp.87~94	
<b>9.</b> 曲げひび割れ幅に対する検討:教科書 pp.95~102	
<b>10.</b> 曲げと軸方向力に対する断面の耐力(基本的考え方):教科書 pp.48~53	
<b>11.</b> 曲げと軸方向力に対する断面の耐力(例題に基づく相互作用図の作成) :教科書 pp.54~58:レポート 3<相互作用図の作成問題>	
<b>12.</b> 曲げと軸方向力に対する断面の耐力(レポート3の解説):教科書 pp.54~58	
<b>13.</b> 棒部材のせん断耐力(斜めひび割れ発生時のせん断耐力の算定):教科書 pp.59~64	
<b>14.</b> 棒部材のせん断耐力(せん断補強鉄筋降伏時のせん断耐力の算定):教科書 pp.64~71	
<b>15.</b> せん断耐力と曲げ耐力の関係・構造物の破壊形式:レポート4<破壊形式に関する演習問題>	
<b>16.</b> 期末試験(到達目標 2:第 6 講, 第 8 講~第 15 講まで範囲)および授業評価アンケートの実施	
<b>教科書</b> 鉄筋コンクリート工学【三訂版】/岡村 甫:市ヶ谷出版社, 2000, ISBN:4870711532	
<b>参考書</b> コンクリート構造の基礎/二羽淳一郎:数理工学社, 2006, ISBN:4901683330	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 教科書は, 1~7 章および 10~11 章を講義で説明する. 他の章は, 3 年生後期の「コンクリート構造及びメンテナンス」および 3 年生後期の「建設創造設計演習(構造物)」の参考図書の一部で使用する.	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 の達成度を, レポート1とレポート2の割合を 1:1 として算出される評点により評価し, レポート評価点と中間試験の評価点を 1:1 として評点を算出し, 評点が 60%以上を等目標のクリア条件とする. 達目標 2 の達成度を, レポート3とレポート4の割合を 1:1 として算出される評点により評価し, レポート評価点と期末試験の評価点を 1:1 として評点を算出し, 評点が 60%以上を等目標のクリア条件とする. 2 つの到達目標をクリアした場合を合格とし, 成績は, 到達目標 1 と到達目標 2 の評点の平均値として算出する.	
<b>再試験の有無</b> 原則としてしない.	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である. レポートは必ず期限内に提出すること.	
<b>JABEE合格</b> [成績評価]と同一である.	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の 3(3)100%に対応する.	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 橋本 親典:建設棟 5 階 505 号室, TEL 088-656-7321 (メールアドレス) 橋本 親典:chika@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 橋本 親典:毎週月曜日 PM.4:20~5:50<昼間コース>, PM.6:00~7:30<夜間主コース>建設棟 5 階 505 室
<b>備考</b>	1. 中間試験の日程は, 講義の進捗と日程によって変動するので, 注意すること.

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111390
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	振動学及び演習[Structural Dynamics and Exercise]		
<b>担当教員</b>	野田 稔 [Minoru Noda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	1 本のバネに吊るされた錘の運動を詳細に分析することによって振動現象の本質を理解し, 2 自由度系に於けるモード解析法を学ぶことによって, 高層ビルや長大つり橋のような複雑な構造物の振動問題の解析へと発展させることができることを学ぶ.		
<b>授業の概要</b>	構造物の振動を単純な 1 自由度の物理モデルで表現して, 動的な力の平衡条件から運動方程式を導き, 自由振動, 強制振動の本質的な事項, すなわち固有振動数, 減衰, 動的応答倍率, 位相差, 過渡応答などについて考察して理解を深めると共に, 所要パラメーターの計算能力を養う. 次いで 2 自由度系の自由振動解析に於けるモードの存在とその特性について述べて振動解析法の概念を導入する. この手法を適用して任意の多自由度系の強制振動解析を行うことを理解し, 2 自由度系の強制振動解析の課題を課して計算させる. 毎回, 授業の最初に前回の授業項目の理解度を確認するための 20 分間の小テストを実施する.		
<b>キーワード</b>	自由振動, 強制振動, 1 自由度系, 多自由度系		

<b>到達目標</b> 1. 簡単な構造物の1自由度系モデルを作り、自由振動解析ができ、強制振動を受ける場合の定常応答、過渡応答の解を求め、その工学的応用についての知識を持つ(1-11回)。 2. 2自由度系を対象にして、振動形解析法による解析を行うことができる(12-16回)。	
<b>授業の計画</b> 1. 振動現象の種類と記述 2. 小テスト・1自由度系の自由振動; 運動方程式と解 3. 小テスト・エネルギー法; 固有振動数の近似解法 4. 小テスト・1自由度系の自由振動 2 5. 小テスト・1自由度系の減衰自由振動 1 6. 小テスト・1自由度系の減衰自由振動 2 7. 小テスト・1自由度系の強制振動 1 8. 小テスト・1自由度系の強制振動 2	<b>9. 小テスト・過渡振動</b> <b>10. 小テスト・不規則振動解析</b> <b>11. 中間試験</b> <b>12. 2自由度系の自由振動; 振動数方程式</b> <b>13. 小テスト・2自由度系の強制振動, ラグランジュの運動方程式</b> <b>14. 小テスト・振動形解析法(モーダルアナリシス)</b> <b>15. 小テスト・多自由度系の振動</b> <b>16. 期末試験</b>
<b>教科書</b> 入門建設振動学/小坪清真:森北出版, 1996. 1, ISBN:4627462808	
<b>参考書</b> 機械振動論/D.ハルトック著, 谷口修訳:コロナ社 工業振動学/S.チモシェンコ著, 谷下訳:コロナ社 土木構造物の振動解析/中井博, 小林治俊:森北出版, 1999. 5, ISBN:4627461828 建設系のための振動工学/吉原進:森北出版, 1990. 11, ISBN:4627464207	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標の2項目が達成されているかを毎回行う小テスト(50%)と到達目標毎に実施する中間試験または期末試験(50%)で評価し, 評点?60%をクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし, 成績は, 到達目標1と2の評点の重みをそれぞれ60%, 40%として算出する。	
<b>再試験の有無</b> 再試や翌年以降への点数の持ち越しなどは一切しない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 動力学の入門段階から講義と演習を行うが, 理解を深めるための受講生の自主的な取り組みが要求される。また, 毎回小テストを実施するので, 毎回の予習・復習は欠かせず行うこと。授業中に私語をしないこと。質問をすることを心掛ける。授業を受ける際には, 3時間の授業時間毎に2.5時間の予習と2.5時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(3)に100%対応している。	
<b>WEBページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0032
<b>連絡先(Eメールアドレ, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 野田 稔(A514, Tel: 088-656-7323, E-mail: noda@ce.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) noda@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111400
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	地震工学[Earthquake Engineering]		
<b>担当教員</b>	三神 厚 [Atsushi Mikami]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 耐震設計や地震防災で必要となる地震学・地震工学の基本概念について講述し, 構造物の耐震設計や地震防災に必要な地震学・地震工学の基本的な考え方を習得させる。			
<b>授業の概要</b> 地震工学の基本的な考え方を習得させるために, 地震の発生メカニズムに始まり, 地震動の性質, 地盤震動特性, 地震被害, 地震動の予測法などについて講義し, 耐震設計や地震防災で必要となる基礎知識並びに応用力を養成する。			
<b>キーワード</b> 地震動, 地盤震動, 地震被害, 地震動予測, 地震防災			
<b>到達目標</b> 地震と地震動の関係, 地震動の性質, 地盤震動特性, 地震被害, 地震動の予測など, 地震工学の基礎知識や基本的な考え方を習得する(1回~16回)。			
<b>授業の計画</b>	<b>6. 地震動の距離減衰特性</b>	<b>12. 地震動の指標値</b>	
<b>1. ガイダンス, 地震工学の概要</b>	<b>7. 等価震源距離の考え方</b>	<b>13. 構造物の地震被害</b>	
<b>2. 地震の性質</b>	<b>8. 地盤の震動</b>	<b>14. 地震動の予測手法</b>	
<b>3. 地震のメカニズム</b>	<b>9. 重複反射理論</b>	<b>15. 期末テスト</b>	
<b>4. 地震動の性質</b>	<b>10. 1自由度系の自由振動</b>	<b>16. 期末テスト答案の返却, 授業評価アンケート</b>	
<b>5. 強震観測と計測震度</b>	<b>11. 1自由度系の地震応答と地震応答スペクトル</b>		

<b>教科書</b>	地震工学概論/元田良孝, 萩原良二, 運上茂樹 共著; 森北出版, 2012, ISBN:9784627464728		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は, レポートと期末テストにより評価する。それぞれの重みを20%, 80%とし, 達成度が60%以上の者を合格とする。不合格となった場合には, 原則, 翌年に再受講するものとし, 再試験のみは認めない。授業中に良い質問, 指摘等をした場合には若干, 加減する点がある。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に, 100%対応する。		
<b>WEBページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレ, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 三神 厚(A406, Tel:088-656-9193) (メールアドレス) amikami@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 14:00-17:00		
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111410
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	鋼構造[Steel Structures]		
<b>担当教員</b>	成行 義文 [Yoshifumi Nariyuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> コンクリートとともに現代における土木・建築分野の代表的な建設材料である「鋼(こう)」を用いた構造物の設計・製作・施工等に関する基礎知識を習得させる。			
<b>授業の概要</b> 鋼構造物を構成する鋼材の諸特性ならびにそれらの接合方法について講述するとともに, 代表的な鋼構造物である鋼橋の桁の設計に関する基礎知識について解説する。			
<b>キーワード</b> 鋼, 溶接, 高力ボルト, 合成桁			
<b>先行/科目</b> 『構造力学1[Structural Mechanics 1]』(1.0), 『構造力学2[Structural Mechanics 2]』(1.0), 『構造力学3[Structural Mechanics 3]』(1.0), 『応用構造力学[Applied Structural Mechanics]』(0.8), 『応用構造力学演習[Applied Structural Mechanics Exercise]』(0.8)			
<b>関連/科目</b> 『もの作り創造材料学[Materials for Construction]』(0.5), 『材料・構造力学[Reinforced Concrete Mechanics]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. 鋼構造物の特徴, 構造用鋼材の力学的性質, 構造用鋼材の接合方法ならびに鋼桁・合成桁に関する基礎知識を修得する。(第1~16回)			
<b>授業の計画</b>	<b>9. 鋼材の腐食とその対策/設計強度と鋼種の選定(pp.41-48)</b> [復習:第1~8回, 予習:次回の内容]	<b>10. 中間試験/溶接とは(資料)</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	
<b>1. ガイダンス・SI単位数(pp.v-vi)</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	<b>2. 鋼構造の変遷と現状(pp.1-12)</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	<b>11. 溶接接合 1(pp.49-54)</b> [復習:今回の内容, 予習:今回の内容]	
<b>3. 構造物の要件と鋼構造の特徴(pp.13-22)</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	<b>4. 橋の紹介・橋梁メーカーの役割</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	<b>12. 溶接接合 2(pp.55-59,66)</b> [復習:今回の内容, 予習:今回の内容]	
<b>5. 鋼構造物のライフサイクル(pp.22-26)/維持管理/レポート1-1</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	<b>6. 構造用鋼材(pp.27-33)</b> [復習:今回の内容, 予習:今回の内容]	<b>13. 高力ボルト接合(pp.67-75)/レポート2-1</b> [復習:今回の内容, 予習:次回の内容]	
<b>7. 鋼材の静的強さ 1(pp.33-36)/レポート1-2</b> [復習:今回の内容, 予習:今回の内容]	<b>8. 鋼材の静的強さ 2/高性能鋼(pp.36-41)</b> [復習:今回の内容, 予習:今回の内容]	<b>14. 鋼桁の構成(pp.149-154)</b> [復習:今回の内容, 予習:今回の内容]	
		<b>15. 合成桁の原理(pp.210-215)/レポート2-2</b> [復習:第9~15回]	
		<b>16. 期末試験</b>	
<b>教科書</b> 鋼構造学/伊藤学:コロナ社, 1999. 5, ISBN:4339050687			



<b>参考書</b>	橋梁工学／菊地洋一・近藤明雅:オーム社 橋のなんでも小辞典(丸木橋から明石大橋まで)／渡邊英一:講談社
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	必要に応じて資料を配布する。また授業に関する連絡事項ならびにレポート課題等は、Moodle上に適宜アップされるので各自確認のこと。
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度を、レポートと試験(中間・期末)の比率を3:7として算出される評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を到達目標のクリア条件とする。成績は、評点を100点満点に換算する。
<b>再試験の有無</b>	再試験は実施されません。単位が修得できなかった場合は次年度再履修となります。
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位修得のために必要です。またレポート提出を忘れないこと。
<b>JABEE合格</b>	「成績評価」と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の学習・教育目標の3(3)に100%対応する。
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/N0024
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 成行(A510, 088-656-7326) (メールアドレス) nariyuki@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 10:11 校時, A510
<b>備考</b>	1. 第4回あるいは第5回の授業として、第一線で活躍中の技術者による特別講義を取り入れる場合もある。出席回数は成績評価に考慮されないが、2/3未満の出席回数の場合は成績評価の対象とはならない。授業はすべてパワーポイントを用いて行われる。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111420
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	耐震工学[Earthquake Engineering]		
<b>担当教員</b>	三神 厚 [Atsushi Mikami]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	耐震設計の基礎となる地震と地震動の性質、耐震設計の基本概念、動的解析法について講述し、耐震設計の根底に流れる基本的な考え方を習得させる。		
<b>授業の概要</b>	耐震設計の基本的な考え方を習得させるために、(1)地震と被害、(2)耐震設計の基本事項、(3)動的解析法について講義し、耐震設計を行う際に必要となる基礎知識並びに応用力を養成する。また、宿題を課して実力養成を図るとともに、中間テスト、期末テストを実施する。		
<b>キーワード</b>	地震被害、地震動、地盤震動、耐震設計、震度法、動的解析、モード解析、応答スペクトル		
<b>到達目標</b>	1. 耐震設計の基礎となる応答スペクトルとモード解析の考え方を理解し、構造物の地震応答を求める方法を身に付ける。(1回～8回) 2. 地震と地震動の関係、地震動の性質、地震による被害と対策など、耐震設計で必要となる基礎知識を修得するとともに、震度法、設計震度などの地震荷重の表現方法を修得する。(9回～16回)		
<b>授業の計画</b>	6. 多自由度系の強制振動	12. 震度法と地震時保有水平耐力法	
1. ガイダンス、耐震工学の概要	7. モード解析と地震応答スペクトル	13. 土木構造物の耐震設計	
2. 1自由度系の非減衰自由振動	8. 前半のまとめ、中間テスト	14. 建物の耐震設計	
3. 1自由度系の減衰自由振動	9. 構造物の地震被害	15. 後半のまとめ、期末テスト	
4. 1自由度系の強制振動	10. 地震動の性質	16. 答案の返却と解説	
5. 多自由度系の自由振動	11. 地盤の振動		
<b>教科書</b>	耐震工学入門／平井一男・水田洋司:森北出版, 2001, ISBN:978-4627464520		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標1の達成度は中間テストにより評価する。到達目標2の達成度は期末テストにより評価する。各到達目標の達成度がともに60%以上の者を合格とする。成績は、到達目標1と2の評点の重みを、それぞれ50%、50%として算出する。不合格となった到達目標の範囲については、原則、翌年に再受講するものとし、再試験のみは認めない。		
<b>再試験の有無</b>	なし		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習・復習を行うこと、宿題の提出をもって出席とする。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標3(3)に100%対応する。		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 三神 厚 (A406, Tel:088-656-9193) (メールアドレス) amikami@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日: 14:30-17:30
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111430
<b>科目分野</b>	建造物デザイン系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択B群		
<b>科目名</b>	コンクリート構造及びメンテナンス[Concrete Structure and Maintenance]		
<b>担当教員</b>	上田 隆雄 [Takao Ueda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	コンクリート構造の応用例として、プレストレストコンクリート構造物の設計・施工方法について理解するとともに、コンクリート構造物のメンテナンス技術に関する基礎的知識を身につけ、建設工学の専門応用科目群の1分野である鉄筋コンクリート工学に関連する実務問題に正しく適用できる能力を養う。		
<b>授業の概要</b>	本講は、次の2つの柱によって構成される。(1)プレストレストコンクリート構造の設計・施工(1～9回)では、鉄筋コンクリートの応用技術としてプレストレストコンクリートの構造形式の基本的な考え方について講義する。(2)コンクリート構造物のメンテナンス技術(10～15回)では、コンクリート構造物を適切にメンテナンスしていくために必要な知識について解説する。		
<b>キーワード</b>	プレストレストコンクリート、コンクリート構造の劣化と対策		
<b>到達目標</b>	1. プレストレストコンクリート構造の原理と、設計・施工方法に関する基礎事項を理解する。(1～9回) 2. コンクリート構造物を適切に維持管理するための基礎的知識を習得する。(10～15回)		
<b>授業の計画</b>	9. プレストレストコンクリート構造の施工(4):構造物の施工:レポート2	10. コンクリート構造物の維持管理技術(1):概説	
1. ガイダンス: プレストレストコンクリート構造の原理	11. コンクリート構造物の維持管理技術(2):点検・モニタリング手法:小テスト1	12. コンクリート構造物の維持管理技術(3):劣化メカニズム(鉄筋腐食による劣化):小テスト2	
2. プレストレストコンクリート構造の設計(1):概説	13. コンクリート構造物の維持管理技術(4):劣化メカニズム(コンクリート自身の劣化):小テスト3	14. コンクリート構造物の維持管理技術(5):補修・補強技術:小テスト4	
3. プレストレストコンクリート構造の設計(2):プレストレス力の変化	15. コンクリート構造物の維持管理技術(6):ライフサイクルマネジメント:小テスト5:レポート4		
4. プレストレストコンクリート構造の設計(3):限界状態設計法(曲げとせん断に対する挙動と理論)			
5. プレストレストコンクリート構造の設計(4):許容応力度設計法:レポート1			
6. プレストレストコンクリート構造の施工(1):概説			
7. プレストレストコンクリート構造の施工(2):材料の特性			
8. プレストレストコンクリート構造の施工(3):各種プレストレス工法			
<b>教科書</b>	講義時にプリントを配布する。		
<b>参考書</b>	岡村・前田「鉄筋コンクリート工学」市ヶ谷出版 横道英雄「コンクリート構造学」技報堂出版 藤井・小林「プレストレストコンクリート構造学」国民科学社 土木学会編「コンクリート標準示方書(維持管理編)」 土木学会メンテナンス工学連合小委員会編「社会基盤メンテナンス工学」東京大学出版会		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標1の達成度を、レポート1とレポート2の割合を1:1として算出される評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標2の達成度を、レポート3と5回の小テストの点数の割合を1:4として算出される評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標1と2の評点の平均値として算出する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業計画に記載した1と10、～15. は上田が担当し、2、～9. は中村が担当する(集中講義)。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 上田 隆雄		



備考	1. 止む無く欠席する場合は、事前に上田まで必ず連絡すること。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	---

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111440
科目分野	建造物デザイン系科目		
選必区分	専門選択B群		
科目名	社会基盤プロジェクト[Infrastructure Projects]		
担当教員	浜岡 良介, 工学部非常勤講師 [Ryosuke Uzuoka]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 社会基盤整備の大型プロジェクトに採用されている土木・建築構造物基礎の形式と、それらの施工法の技術を知識として身に付ける。

**授業の概要** 構造物基礎の形式とその造り方を知るところに重点を置き、そこに地盤工学がどのように生かされているかを講義する。特に大型プロジェクト建設時の記録映像を紹介し、必要に応じて実務者による講演を行う。

**キーワード** 社会基盤プロジェクト, 基礎, 地盤改良

**関連科目** 『土の力学1[Soil Mechanics 1]』(0.5), 『土の力学2[Soil Mechanics 2]』(0.5)

**到達目標** 社会基盤プロジェクトにおける土木・建築構造物基礎の形式と、それらの施工法の技術について理解する。

<b>授業の計画</b>	6. 空港・港湾	12. 基礎の耐震設計(外部講師)
1. 授業概要	7. 関西国際空港	13. 地盤改良
2. 構造物基礎の基本的事項	8. 高速道路(外部講師)	14. 演習
3. 本四連絡橋	9. 電力施設(外部講師)	15. 期末試験
4. 東京湾横断道路(概要・シールドトンネル)	10. 電力施設(外部講師)	16. 総括
5. 東京湾横断道路(人工島・橋梁)	11. 基礎の耐震設計(外部講師)	

**教科書** 教科書は特に指定しない。

**参考書** 目でみる基礎と地盤の工学/吉田巖 編著:技報堂出版, 1990, ISBN:4-7655-1496

**教科書・参考書に関する補足情報** 補足説明資料としてプリントを配付し、解説する。

**成績評価の方法** 出欠状況と到達目標の達成度をレポート(20点)及び期末試験(80点)により評価し、評点が60%をクリアした場合を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** なし

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** 本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する。

<b>WEB ページ</b>	徳島大学 LMS (i-Collabo)
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) A401, 088-656-7345 (メールアドレス) uzuoka@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 9, 10 講時
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111830
科目分野	建造物デザイン系科目		
選必区分	専門選択B群		
科目名	建築構造計画[Structural Design]		
担当教員	成行 義文, 工学部非常勤講師 [Yoshifumi Nariyuki]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 建築一般構造の構造設計に関する基礎的知識を習得する。

**授業の概要** 建築一般構造の構造計画, 構造計算手法を学び, 構造設計をする上での基礎的知識を学ぶ。授業は前半では鉄筋コンクリート造と鉄骨造を中心に構造全般への理解を深め, 後半では木質構造についての理解を深める。

**キーワード** 建築構造, 構造計画, 構造計算

<b>到達目標</b>
1. 建築一般構造の構造設計に関する基礎的事項について理解し, 説明できる。建築物の各種構造ごとの構造計算手法の概略を把握する。(1~7回)
2. 木質構造について, 基礎的な知識を習得する。(8~15回)

<b>授業の計画</b>	8. 木質構造概論
1. ガイダンス, 構造設計とはなにか(1)	9. 木材と木質材料, 木材物理
2. 構造設計とはなにか(2)	10. 部材の設計
3. 構造設計とはなにか(3)	11. 伝統木造建築の構造
4. 各種構造について(鉄筋コンクリート造, 鉄骨造, 木造)	12. 在来木造建築の構造
5. 地盤について	13. 木質構造の変遷史
6. 鉄骨の溶接	14. 木質構造の構造計画
7. 耐震診断と耐震補強(鉄筋コンクリート造)	15. 木質構造の耐震設計

**教科書** 未定

**参考書** 授業中に必要に応じて紹介する。また, 補足説明用資料や演習問題プリントを配布し, 解説する。

**成績評価の方法** 到達目標1はレポート①及び授業への参加内容を評価し, 到達目標2はレポート②及び③の結果を評価し, それぞれ60%以上をクリアとする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし, 成績は到達目標1, 2 の評価をそれぞれ50%として算出する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連**

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	2年・後期	時間割番号	5111460
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	水の力学3及び演習[Hydraulics (3) and Exercise]		
担当教員	中野 晋, 田村 隆雄, 蔭 景彩, 武藤 裕則 [Susumu Nakano, Takao Tamura, Jiang Jing-Cai, Yasunori Mutoh]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 水の力学1, 水の力学2の内容に対応した演習を行うことにより, 実際の問題への応用力を養成するとともに, 流れの数値計算法の基礎を理解させる。

**授業の概要** 水の力学1, 水の力学2で学んだ静水圧, ベルヌーイの定理, 運動量の定理, 管路路, 開水路の各分野について演習を行うことにより, 深い応用能力を身につけさせる。さらに流れの数値計算法の入門として1次元不等流計算などについて理解する。

**キーワード** 静水圧, ベルヌーイの定理, 運動量の定理, 管路路, 開水路, 数値解析

<b>到達目標</b>
1. 水の力学に関する応用演習能力を身につける。(1~10回)
2. 流れの数値解析手法の基礎を理解する。(11~16回)

<b>授業の計画</b>	9. 開水路の計算
1. 水の性質・相似則:小テスト1	10. 中間試験2
2. 静水圧:小テスト2	11. 開水路不等流の数値解析法
3. ベルヌーイの定理:小テスト3	12. Excelを用いた開水路不等流の計算演習
4. 運動量方程式:小テスト4	13. 開水路不等流のシミュレーションをしてみよう -課題の説明-
5. 中間試験1	14. 数値シミュレーション演習 チェック1
6. 流れの抵抗則	15. 数値シミュレーション演習 チェック2
7. 管路の計算	16. 数値シミュレーション結果の講評
8. 限界水深・等流水深	

<b>教科書</b>	講義時にプリントを配布する。
<b>参考書</b>	井上和也編:図説 わかる水理学, 学芸出版社
<b>成績評価の方法</b>	到達目標1の達成度は8回の小テストと2回の中間試験の割合を1:1として算出される評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標2の達成度はレポート課題の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。両目標がクリアされた場合に合格とし、成績は各到達目標に対する評点の重みを65%, 35%として算出する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	水の力学1, 水の力学2をともに履修していることが望ましい。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 中野 晋:工学部 A310, Tel:088-656-7330 武藤 裕則:A415, Tel: 088-656-7329 田村 隆雄:A414, Tel:088-656-9407 蔣 景彩 (メールアドレス) 中野 晋:nakano.susumu@tokushima-u.ac.jp 蔣 景彩:jiang@ce.tokushima-u.ac.jp 武藤 裕則:muto_yas@ce.tokushima-u.ac.jp 田村 隆雄:tamura@ce.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111470
<b>科目分野</b>	地域環境マネジメント系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択C群		
<b>科目名</b>	生態系の保全[Ecosystem Conservation]		
<b>担当教員</b>	鎌田 磨人 [Mahito Kamada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	健全な社会基盤を整備する上で、生態系を保全することがなぜ重要なのか、およびそれをどのような考えのもとで行っていくのかについて、基礎的な概念を身につける。		
<b>授業の概要</b>	生態系と人間の社会との関係をとらえながら、社会の発展によってもたらされた生物の多様性や生態系の危機的状況について解説する。そして、それらの問題の解決し、持続可能な社会を構築するにあたって技術者が果たしていくべき責任について考える。		
<b>キーワード</b>	生態系の価値, 生態系保全, 自然再生, ビオトープ		
<b>関連/科目</b>	『環境を考える[Fundamental Environmental Study]』(0.2), 『環境生態学[Environmental Ecology]』(0.8), 『緑のデザイン[Design of Green Space]』(0.8), 『生態系修復論[Restoration Ecology]』(0.8)		
<b>到達目標</b>	1. 持続可能な社会の創造を担う技術者を目指す者として、従来型の社会発展の論理によってもたらされた生態系や生物の多様性の危機的現状を認識し、健全な生態系を保全・修復していくことの必要性を自覚している。		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス:持続可能な社会 / (1)土木技術者の役割—持続可能な社会, (2)法的背景—生物多様性国家戦略等「環境」と「主体」 / (1)環境とは, (2)生物多様性とは, (3)生態系とは</li> <li>生物の多様性と連続性 / (1)地球上の生物種, (2)生物の分類と歴史, (3)何を守るべきか</li> <li>生態系の構造と機能 1 / (1)生態系の定義, (2)生態系の構造, (3)物質循環</li> <li>生態系の構造と機能 2 / (1)生態系サービス(公益的機能), (2)生態系の安定性と生物多様性</li> <li>生態系の破壊と生物多様性の減少 1 / (1)レッドデータブック, (2)植物の現状, (3)絶滅要因</li> <li>絶滅のプロセス 1 / (1)種の存続単位としての「個体群」, (2)個体群の維持と生活史</li> <li>絶滅のプロセス 2 / (1)個体群の成長</li> <li>絶滅のプロセス 3 / (1)個体群の衰退, (2)個体群の衰退要因</li> <li>生態系の分布と変化 / (1)徳島県の森林分布, (2)遷移</li> <li>撓乱と生物多様性の維持 / (1)撓乱, (2)撓乱と森林生態系, (3)撓乱と河川生態系</li> <li>生態系の再生 / (1)復元, 修復, 創出, 保全, (2)再生目標</li> <li>生態系の管理 1 / (1)生態系管理とは, (2)生態系管理に要求される要素</li> </ol>		

<b>14.</b>	生態系の管理 2 / (1)順応的管理, (2)合意形成
<b>15.</b>	期末試験
<b>16.</b>	試験の解説とふりかえり
<b>教科書</b>	生物保全の生態学/鷲谷いづみ:共立出版, 1999, ISBN:4320055292
<b>参考書</b>	保全生態学入門/鷲谷いづみ・矢原徹一:文一総合出版, 1996, ISBN:482993039X 保全生物学のすすめ 改訂版/ブリマック, R.B.・小堀洋美:文一総合出版, 2008, ISBN:4829901330 保全生物学, 生物多様性のための科学と実践/Pullin S (井田秀行ら訳):丸善, 2004, ISBN:4621074261
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は期末試験の評点により評価し、評点が60%以上を当目標のクリア条件とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	関連授業科目として、「環境生態学」、「緑のデザイン」、「生態系修復論」の受講を推奨する。
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の1(1)に50%, 1(2)に50%対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 鎌田 磨人(部屋番号:A306, 電話番号:088-656-9134) (メールアドレス)kamada@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること。
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111480
<b>科目分野</b>	地域環境マネジメント系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択C群		
<b>科目名</b>	計画の数理[Planning Theory]		
<b>担当教員</b>	滑川 達 [Susumu Namerikawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	社会資本・土木施設の計画立案および評価に不可欠な、土木計画学の基礎となる理論および手法についての基礎的な能力を身につける。		
<b>授業の概要</b>	確率・統計の基礎を講述するとともに、多変量解析における重要な一手法である回帰分析について詳しく講述する。また、数理計画法の重要な一分野である線形計画法について講述する。		
<b>キーワード</b>	確率統計, 多変量解析, 線形計画法		
<b>到達目標</b>	確率統計, 回帰分析, 多変量解析, 線形計画法に関する基礎的な能力を習得している。		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ガイダンス</li> <li>確率統計 1(いろいろな代表値)</li> <li>確率統計 2(いろいろな確率分布)</li> <li>確率統計 3(正規分布・標準化)</li> <li>確率統計 4(大数の法則・中心極限定理)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>確率統計 5(統計的推計)</li> <li>確率統計 6(統計的検定)</li> <li>回帰分析 1(最小二乗法)</li> <li>回帰分析 2(回帰式の評価)</li> <li>中間試験</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>多変量解析</li> <li>線形計画法 1(定式化)</li> <li>線形計画法 2(図解法)</li> <li>線形計画法 3(シンプレックス法)</li> <li>期末試験</li> </ol>
<b>教科書</b>	秋山孝正・上田孝行編著, すぐわかる計画数学, コロナ社		
<b>参考書</b>	吉川和広著土木計画学森北出版		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度を、中間試験、期末試験の評点によって評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。成績は、中間試験、期末試験の評点の重みをそれぞれ、60%および40%として算出する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	なし		
<b>JABEE合格</b>	成績評価」と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0043">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0043</a>		
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 滑川達(建設棟4階401, Tel:088-6569877, namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 年度毎に学科の掲示を参照すること		

備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	--

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111490
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	沿岸域工学[Coastal Zone Engineering]		
担当教員	中野 晋 [Susumu Nakano]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 沿岸部の災害や環境問題の現状を理解し、これらの問題に対応するために必要な流体物理現象の基礎事項について習得させる。

**授業の概要** 周囲を海で囲まれたわが国では常に津波や高潮などの沿岸災害の脅威にさらされている。一方、沿岸海域の開発や地球温暖化の進展は沿岸環境に重大な影響を与えている。このため、沿岸防災と環境保全の両立は21世紀の重要な課題とされている。この講義では沿岸部における諸問題を紹介した後、この問題に対応するために必要な流体物理現象について演習を交えて講義する。

**キーワード** 沿岸防災、沿岸環境、波、漂砂、海岸保全

**到達目標**

1. 沿岸防災・沿岸環境に関する問題の実態について理解する。(1~4回)
2. 海岸工学に関する基礎的知識を習得する。(5~15回)

<b>授業の計画</b>	9. 海の波の統計的性質
1. 津波災害	10. 中間試験(5~9回分)
2. 高潮・波浪災害:レポート課題1	11. 海岸構造物への波の作用
3. 沿岸環境-水質・生態系-	12. 漂砂と海浜形状
4. 沿岸環境-地球の温暖化- :レポート課題2	13. 海岸保全工法
5. 海の波の基礎的性質-波長、波速、水粒子速度-	14. 沿岸環境保全工法
6. 海の波の基礎的性質-波による質量輸送、波のエネルギー-	15. 期末試験(11~14回分)
7. 波の変形-浅水変形、屈折-	16. ふり返り・反省会
8. 波の変形-回折、海底摩擦、砕波-	

**教科書** 平山秀夫, 辻本剛三ほか著:海岸工学, コロナ社

**参考書** 特になし

**成績評価の方法** 到達目標1の達成度は2回のレポートの割合を1:1として算出される評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ で当目標のクリア条件とする。到達目標2を中間試験、期末試験の割合を1:1として算出される評点により評価し、当目標も評点 $\geq 60\%$ をクリア条件とする。2つの到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は到達目標1, 2の評点を重み30%, 70%として算出する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 関連授業科目として水の力学2を習得しておくことが望ましい。

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** 本科目は本学科教育目標の3(3)に100%対応する。

<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中野 晋(工学部 A310, Tel:088-656-7330) (メールアドレス) nakano.susumu@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111500
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	都市・交通計画[Urban & Transport Planning]		
担当教員	山中 英生, 近藤 光男 [Hideo Yamanaka, Akio Kondoh]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	都市計画の歴史、内容、手法、理論、交通計画の技法、理論、制度について講義し、都市および交通の計画に関する基礎的な知識を身につける。		
<b>授業の概要</b>	都市計画における土地利用計画、市街地整備、住環境整備、施設整備、地区計画に関する我が国の法制度、事業制度を整理して講述する。また、交通計画に関しては、需要分析のための基礎的な手法の理解、道路交通に関わる現象分析の手法、公共交通、結節点、交通管理計画、地区交通計画の手法と事例を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	都市計画、交通工学、道路工学		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市計画に関する基礎的な知識を修得する。(1~7回)</li> <li>2. 交通計画に関する基礎的な知識を修得する。(8~15回)</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	6. 地区計画	12. 公共交通計画 小テスト	
1. 都市計画の歴史	7. 地区計画	13. 交通需要管理 ITS	
2. 都市計画のためのマクロ分析 小テスト	8. 交通計画の概要	14. 地区交通計画 歩行者・自転車交通	
3. 土地利用計画	9. 交通需要分析 1	15. テスト(交通計画)	
4. 市街地整備事業	10. 交通需要分析 2 小テスト	16. テスト返却と総括授業	
5. 都市施設計画	11. 道路交通システム 小テスト		
<b>教科書</b>	新・都市計画概論/加藤晃・竹内伝史:共立出版, 2006, ISBN:4320074246		
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	授業時に資料を配付する。		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の2項目が達成されているかをレポート、小テストの評価(30%) 期末試験(70%) で評価し60%以上を各項目の達成クリアとして、2項目すべてを達成したものを合格とする。成績は目標1(50%), 目標2(50%)として算出する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	なし		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標の3(3)に100%に対応する。		
<b>WEBページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0045">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0045</a>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山中(A410, 088-656-7350) 近藤(エコ602, 088-656-7339) (メールアドレス) 山中(yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp) 近藤(kondo@eco.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 学科掲示を参照		
<b>備考</b>	1.		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111510
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	資源循環工学[Resources Circulatory Engineering]		
担当教員	山中 亮一, 上月 康則, 工学部非常勤講師 [Ryoichi Yamanaka, Yasunori Kozuki]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 都市と自然環境を循環する水の質と量を制御する自然および人工的な施設の役割と仕組みに関する知識を得る。また、自ら環境に配慮した生活を考え、行動する。

**授業の概要** 都市と自然環境を循環する水の量的・質的な変化を把握するための方法、および人工的な浄化施設の役割としくみを学ぶ。また、水資源を利用する際の利便性と環境への影響について考え、自ら環境に配慮した生活を実践し、その効果を検証する。

**キーワード** 水環境、水質、上水道、下水道、生態系、エコライフ

**到達目標**

1. 都市と自然環境を循環する水の質と量を制御する自然および人工的な施設の役割と仕組みを説明することができる(授業計画2-13回, 15-16回)
2. 自ら環境に配慮した生活を考え、行動し、評価する。(授業計画1, 14回, レポート)



<b>授業の計画</b>		9. 下水道(1):役割, 構成(復習レポート8)
1. ガイダンス, エコライフ演習課題について		10. 下水道(2):浄化方法(復習レポート9)
2. 水質の評価項目(1):溶存酸素, pH(復習レポート1)		11. 上水道(1):法律, 構成(復習レポート10)
3. 水質の評価項目:有機物(2)(復習レポート2)		12. 上水道(2):浄水方法(復習レポート11)
4. 水質の評価項目(3):にごり(復習レポート3)		13. 最新のトピックの紹介(復習レポート12)
5. 水質の評価項目(4):窒素, リン(復習レポート4)		14. テスト2, エコライフ演習(復習レポート13)
6. 水質の評価項目(5):富栄養化(復習レポート5)		15. エコライフ演習課題発表会(復習レポート14)
7. テスト1, エコライフ演習(復習レポート6)		16. テストの解説, 総括
8. エコライフ演習中間報告会(復習レポート7)		
<b>教科書</b>		
<b>参考書</b> 環境工学:持続可能な社会とその創造のために/佐友恒, 村上仁士, 伊藤禎彦, 上月康則, 西村文武, 橋本温, 藤原拓, 山崎慎一, 山本裕史:理工図書, 2007. 4, ISBN:978-4-8446-0717-環境白書		
<b>成績評価の方法</b> 目標①:テスト1と2(50点), 目標②:エコライフ演習(50点) 評価:目標①と②が6割以上で合格, かつ目標①と②の合計点を本科目の評点とする		
<b>再試験の有無</b> 再試験なし		
<b>受講者へのメッセージ</b> 環境を理解し適切に行動する能力を身につけることは, これから社会で活躍するために大変必要なことです. この講義では, このような素養を修得することを目的としています.		
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である.		
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の1(2)に65%, 3(3)に35%対応する.		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山中亮一(やまなか りょういち):総合研究実験棟(エコ棟)504号室, TEL:088-656-7334, E-Mail:yamanaka@eco.tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) yamanaka@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日, 14:35-17:50	
<b>備考</b>	1. 使用した資料などは指定するウェブサイトに掲載する. 2. 止む無く欠席する場合は, 事前に教員まで必ず連絡すること. 3. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111520
<b>科目分野</b>	地域環境マネジメント系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択C群		
<b>科目名</b>	景観デザイン[Landscape Design]		
<b>担当教員</b>	真田 純子 [Junko Sanada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 本講義の目的は, 都市環境や地域空間のデザインを行うための基礎的な考え方について概説し, 具体的なコースワークを通じて景観デザインにおける基礎的な考え方, 手法を学ぶことである.			
<b>授業の概要</b> 景観デザインの基礎知識, 設計手法について説明し, 風景体験や地域環境デザインの作業と発表を行う.			
<b>キーワード</b> 景観工学, 土木構造物			
<b>先行/科目</b> 『景観工学概論[Landscape and Infrastructure Design]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『参加型デザイン[Participatory Design]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 景観デザインの基礎知識とデザイン技法を理解する.			
<b>授業の計画</b>		8. 公園のデザイン	
1. ガイダンス, 景観デザインとは		9. 風景の表現方法	
2. 都市景観論		10. コースワーク	
3. ながめの成り立ち		11. 公園に関するレポート発表会①	
4. 都市景観に関するレポート発表会		12. 公園に関するレポート発表会②	
5. 地域環境と景観① 自然環境と景観		13. 景観デザインの現場① 道路・橋	
6. 地域環境と景観② 社会環境と景観		14. 景観デザインの現場② 港・公園	
7. 自然物と人工物		15. 景観デザインの現場③ 街並み	
<b>教科書</b> 景観用語辞典 彰国社 1998年 景観デザイン研究会著, 篠原修編			

<b>参考書</b> 風景学入門 中公新書 1982年 中村良夫著 景観の構造 技報堂出版 1975年 樋口忠彦著	
<b>成績評価の方法</b> 出欠状況とレポートの成績で評価し, 60点以上を合格とする. ただし, レポートが一つでもかかっている場合は不合格とする.	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業における体験が重要なので, 出席は欠かさないこと.	
<b>JABEE合格</b> 「成績評価」と同一である.	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(3)に100%に対応する.	
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0047
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 真田 純子
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111530
<b>科目分野</b>	地域環境マネジメント系科目		
<b>選必区分</b>	専門選択C群		
<b>科目名</b>	参加型デザイン[Participatory Design]		
<b>担当教員</b>	真田 純子, 工学部非常勤講師 [Junko Sanada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 美しく使いやすい土木施設や都市環境づくりを進めるための基礎的な技法を体得から理解する.			
<b>授業の概要</b> スライドなどを用い, 環境デザイン基礎理論, 事例やプロセスを説明し, 都市環境デザインの身近な事例についてグループごとに, ワークショップ形式でコンセプト作成力とデザイン力を養う実習等を行う.			
<b>キーワード</b> 景観工学, 都市計画			
<b>到達目標</b> 参加による環境デザインの技法としてWS 手法を理解し, 地域環境デザインコンセプトを作成できる能力を身につける.			
<b>授業の計画</b>		8. グループ発表 レポート課題	
1. ガイダンス(ワークの目的とWS 手法の理解)		9. 地域環境デザインの基礎	
2. 調査計画の策定		10. 地域デザインコンセプトプランニング レポート課題	
3. フィールドサーベイ		11. 地域デザインワーク1	
4. 課題の抽出 レポート課題		12. 地域デザインワーク2 レポート課題	
5. コンセプト・デザイン レポート課題		13. 地域デザインワーク エスキースチェック	
6. ゾーンプランニング レポート課題		14. 発表会1	
7. 詳細デザインプラン作成 レポート課題		15. 発表会2 レポート課題	
<b>教科書</b> なし			
<b>参考書</b> 鳴海・田端・榎原編:都市デザインの手法, 学芸出版. その他については講義時に紹介する.			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が達成されているかを, レポート課題(60%)発表会の評価結果(40%)で評価し, 60%以上を目標のクリアとし, クリアしたものを合格とする.			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 出席と授業中に実施するチームワークが評価の中心となる.			
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同一である.			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(3)に100%に対応する.			
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0049		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 真田 純子 喜多 順三 笠井 義文		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111540
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	河川工学[River Engineering]		
担当教員	武藤 裕則, 田村 隆雄 [Yasunori Mutoh, Takao Tamura]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 河川工学は安全で快適な川づくりに必要な学問である。まずその必要性を認識させるため、まず、わが国における河川の特性ならびに河川災害と水防の現状を紹介する。ついで、河川計画の基本となる計画流量の決定に必要な水文学の知見・技法を講述したのち、それを受ける河川堤防とその他の河川構造物の目的・機能を説明する。さらに、洪水流の1次元、2次元解析の基礎理論と数値解析技法および河川内における土砂移動(流砂)の諸特性とそれに伴う河床変動の追跡の基礎理論とその応用法についても概説する。以上により、河川の計画と管理の合理化に必要な基礎知識をもれなく習得させる。			
<b>授業の概要</b> 本講義は、学期の前・後半の2部構成としている。前半では、まず、ガイダンスとしてわが国における河川災害と水防の実情を紹介したのち、それらを抑止、軽減する河川計画の策定に必要な水文学の基礎と応用、さらには河川堤防と河川構造物の概要を解説する。後半では、はじめに河川洪水流の1次元・2次元解析法の基礎式に基づいて洪水流の諸特性とその数値計算法の基本を講述する。ついで、河川流域における土砂生産と輸送に起因する河川災害と土石流災害の実態を紹介したのち、その予測の基礎となる掃流砂量、浮遊砂量の計算法ならびに河床変動の数値計算法に関する基本事項を解説する。			
<b>キーワード</b> 河川災害、河川計画と基本高水、洪水流解析、河川の土砂災害、流砂量、河床変動			
<b>先行/科目</b> 『水の力学1[Hydraulics 1]』(1.0), 『水の力学2[Hydraulics 2]』(1.0), 『水の力学3及び演習[Hydraulics (3) and Exercise]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『生態系の保全[Ecosystem Conservation]』(0.3), 『生態系修復論[Restoration Ecology]』(0.3), 『地域の防災[Regional disaster management]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. 河川計画に係わる水文学の基礎および河川の構造を理解する 2. 河川流と流砂の性質とその基礎的な解析法を理解する			
<b>授業の計画</b>		9. 前半試験	
1. ガイダンス・我が国の河川と水害事情 pp.1-3	2. 河川工学における水文学の役割、流量推定の手順 pp.4-12	3. 地球上の水循環、日本の降水特性 pp.20-33	4. 流出現象とその特性 pp.33-35
5. 雨量の計算法 pp.32	6. 流量の計算法 pp.37-50	7. 堤防の種類・構造と護岸・根固め pp.149-156	8. その他の河川構造物 pp.157-161
9. 河川流の1次元解析法 pp.53-67	10. 河川流の2次元解析法 pp.68-70	11. 土砂の流送(流砂) pp.86-102	12. 河床変動 pp.102-115
13. 洪水防衛計画 pp.127-140	14. 生態環境に配慮した川づくり pp.163-182	15. 後半試験	
<b>教科書</b> 河川工学/川合茂:コロナ社, 2002. 1, ISBN:978-4-339-05506			
<b>参考書</b> 河川工学/室田明:技報堂出版, 1986. 9, ISBN:4-7655-1471-4 河川工学/高橋裕:東京大学出版会, 2008. 9, ISBN:978-4-13-062817			
<b>成績評価の方法</b> 前半試験と後半試験において各到達目標に対応する問題を均等のウエイトで出題し、総合成績として60%以上の到達率に達した場合に合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 通常の評価で不合格となった者には、再試験として次年度に行う前半試験と後半試験の受験を課し、60%をクリア条件とするが、評点は一律に60点とする。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 「水の力学1」と「水の力学2」を履修済みであることを前提に講義する。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する。			
<b>WEBページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0050		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 武藤裕則(A415, Tel: 088-656-7329, E-mail: muto_yas@ce.tokushima-u.ac.jp) 田村隆雄(A414, Tel: 088-656-9407, E-mail: tamura@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること		
<b>備考</b>	1. なし		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111550
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	計画プロジェクト評価[Project Evaluation Methods for Infrastructure Planning]		
担当教員	近藤 光男, 山中 英生, 奥嶋 政嗣 [Akio Kondoh, Hideo Yamanaka, Masashi Okushima]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 公共的なプロジェクトの計画においては、事前にその効果・影響を把握し、その望ましさを財政、経済、環境、厚生などの基準から評価がなされる。都市圏域での具体的な整備計画を対象に、プロジェクトを評価する方法について学ぶとともに、具体的な評価について資料収集・分析、報告・発表を行うことで、土木計画における基礎的素養を身につけることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 交通計画を対象として、プロジェクト評価に関わる基礎的な手法、事例を学習した上で、総合課題として主体的に交通政策を立案し、その効果を推計し、評価を遂行するとともに、その成果を発表する。その中で、推計法を習得するとともに、プロジェクト効果を評価する能力を養う。			
<b>キーワード</b> 四段階推計法、費用便益分析			
<b>到達目標</b> 交通需要推計の基礎的手法、プロジェクトの費用便益分析手法を利用できる能力を身につける。			
<b>授業の計画</b>			
1.	計画プロジェクトの評価方法 / パーソントリップ調査 クイズ1・計算演習課題1		
2.	交通需要推計(1)発生集中分析 クイズ2・計算演習課題2		
3.	交通需要推計(2)OD分布分析 クイズ3・計算演習課題3		
4.	交通需要推計(3)交通手段選択分析 クイズ4・計算演習課題4		
5.	交通需要推計(4)交通量配分 クイズ5・計算演習課題5		
6.	交通需要推計(5)交通量配分アルゴリズム クイズ6・計算演習課題6		
7.	総合演習 都市圏の交通プロジェクト策定 総合演習計算課題1		
8.	総合演習 交通機関分担量推計 総合演習計算課題2		
9.	プロジェクトの効果計測 クイズ7・計算演習課題7		
10.	総合演習 交通量配分/利用者便益算定 総合演習計算課題3		
11.	費用便益分析・財務分析 クイズ8・計算演習課題8		
12.	総合演習 費用便益分析 総合演習計算課題4		
13.	総合演習 代替案の再評価 総合演習計算課題5		
14.	総合演習 評価結果の整理と考察 総合演習計算課題6		
15.	総合演習 発表会(プロジェクト評価プレゼンテーション)		
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b> 都市交通プロジェクトの評価: 例題と演習/森杉寿芳, 宮城俊彦:コロナ社, 1996. 5, ISBN:4-339-05199-3 講義関連資料は学習支援システムLMS(i-collabo)にて公開する。			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が達成されているかを、復習問題(8回):5%, クイズ(8回):20%, 計算演習課題(8回):30%, 総合演習計算課題(6回):25%, 発表会:20%の割合で算出される評点により評価し、評点 $\geq$ 60%を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 実施しない			
<b>受講者へのメッセージ</b> 2時間の授業時間毎に1時間の予習(講義資料の事前印刷と確認など)・復習(計算演習課題など)に取り組むことが、授業の理解と単位取得のために必要である。講義資料はu-learningシステムにてダウンロードして印刷、持参すること(講義時には配布しない)。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する			
<b>WEBページ</b>	https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 奥嶋政嗣(エコ棟 603, 088-656-7340, okushima.masashi@tokushima-u.ac(no-spam).jp) (メールアドレス) 奥嶋政嗣:okushima.masashi@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 奥嶋政嗣:水曜日 9:00-10:30		
<b>備考</b>	1. 総合課題では、PCを利用する		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111560
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	環境生態学[Environmental Ecology]		
担当教員	河口 洋一 [Yoichi Kawaguchi]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	生態系を保全・管理していく上で必要な生態学の理論について、基礎的な概念を身につける。		
授業の概要	生態系の保全・管理に必要な概念として、1)「進化」の視点から、生物多様性の成り立ちについて、2)「自然界のネットワークとダイナミクス」の視点から、生物間相互作用がもたらす集団の挙動と種間の共進化、3)「環境の持つ機能」の視点から、多数の生物種が集まった群集の構造と動態、物質循環と生態系機能、環境保全、について解説する。		
キーワード	生態系保全、自然再生、ピオトープ、生態学的な論理		
先行/科目	『生態系の保全[Ecosystem Conservation]』(1.0)		
関連/科目	『緑のデザイン[Design of Green Space]』(0.5)、『生態系修復論[Restoration Ecology]』(0.5)		
到達目標	生態系を保全・管理していく上で必要な生態学の理論について、基礎的な概念を身につけている。		
授業の計画	<p>9. 生物間の競争 / 教科書 pp. 123-140</p> <p>10. メタ個体群 / 教科書 pp. 141-150</p> <p>11. 生物群集の共存機構 / 教科書 pp. 166-179</p> <p>12. 種生遷移と種の多様性 / 教科書 pp. 180-186</p> <p>13. 生態系の管理 / 教科書 pp. 211-226</p> <p>14. 迫り来る温暖化の危機</p> <p>15. 期末試験</p> <p>16. 試験の解説とふりかえり</p>		
1. 身近な生物とその環境 / 教科書 pp.1-12			
2. 多様な生物界-大進化 / 教科書 pp. 13-20			
3. 種の分化と適応放散 / 教科書 pp. 21-29			
4. 種分化の機構 / 教科書 pp. 30-41			
5. 生活史の適応進化 / 教科書 pp. 55-65			
6. 雄と雌はなぜいるのか / 教科書 pp. 66-83			
7. 植物の生理生態と適応戦略 / 教科書 pp. 84- 91			
8. 動物の行動と社会 / 教科書 pp. 101-117			
教科書	生態学入門 第2班/日本生態学会編:東京化学同人, 2012, ISBN:9784807907830		
参考書	生態学-個体・個体群・群集の科学/Begon Mら(堀道雄 監訳):京都大学学術出版会, 2003, ISBN:4-87698-606-1		
成績評価の方法	到達目標の達成度は期末試験の評点により評価し、評点が60%以上を当目標のクリア条件とする。		
再試験の有無	再試験では60%をクリア条件とするが、評点は一律に60点とする。		
受講者へのメッセージ	「生態系の保全」を受講済みであることを前提に講義する。関連授業科目として、「緑のデザイン」、「生態系修復論」の受講を推奨する。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本科目は本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 河口 洋一(308,088-656-9025,kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 金曜午後		
備考	<p>1. 授業では関係資料を配布し、映像も用いる。</p> <p>2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</p>		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111570
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	地域の防災[Regional disaster management]		
担当教員	中野 晋, 蔣 景彩, 田村 隆雄 [Susumu Nakano, Jiang Jing-Cai, Takao Tamura]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	各種の自然災害の防御・軽減と災害時の危機管理に向けた地域防災計画の合理化に必要な基礎知識を習得させる。		
授業の概要	学期前半は、①地震、②地盤、③土石流・泥流、④洪水・内水氾濫、⑤津波・高潮の災害について、過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生機構を解説するとともに、防災対策の基本事項を解説する。学期後半は、地域防災計画の沿革と現状を述べたあと、実効性のある計画策定を行う際に持つべき視点と留意点を解説する。		

キーワード	自然災害、地域防災計画、被災者救済、自主防災支援		
到達目標	<p>1. 種々の自然災害の特性と防災対策の基本を理解する。</p> <p>2. 地域防災計画の現状と計画策定上の要点を理解する。</p>		
授業の計画	<p>6. 土砂災害と防災対策</p> <p>11. リスクマネジメントと危機管理</p> <p>1. ガイダンス、最近の災害から</p> <p>7. グループワーク・土砂災害について考える</p> <p>12. 防災の法規</p> <p>2. 地震・津波災害の実態</p> <p>8. 洪水災害の実態</p> <p>13. 応急対応・復旧・復興対策</p> <p>3. 南海地震と防災対策</p> <p>9. 洪水災害と防災対策</p> <p>14. 減災(自主防災)</p> <p>4. グループワーク・南海地震について考える</p> <p>10. グループワーク・洪水災害について考える</p> <p>15. 減災(企業防災)</p> <p>5. 土砂災害の実態</p> <p>16. 期末試験</p>		
教科書	なし		
参考書	京都大学防災研究所編「防災計画論」、平成24年度版・防災士教本など		
成績評価の方法	到達目標1の達成度を、前半のグループ発表会の評点と後半試験の関連部分の評点により評価し、評点 $\geq$ 60%を当目標のクリア条件とする。到達目標2の達成度を後半試験の関連部分の評点により評価し、評点 $\geq$ 60%を当目標のクリア条件とする。2項目の到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、各到達目標の評点の重みをそれぞれ65%および35%として算出する。		
再試験の有無	再試験では60%をクリア条件とするが、評点は一律に60点とする。		
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本科目は本学科の教育目標の3(3)に、100%対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中野 晋(工学部 A310, Tel:088-656-7330) 蔣 景彩:建設棟3階311号室 TEL 088-656-7346 田村隆雄 (A414, Tel:088-656-9407) (メールアドレス) 中野 晋:nakano.susumu@tokushima-u.ac.jp 蔣 景彩:jiang@ce.tokushima-u.ac.jp 田村 隆雄:tamura@ce.tokushima-u.ac.jp		
備考	1. 分担方法は第1回講義で提示する。		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111580
科目分野	地域環境マネジメント系科目		
選必区分	専門選択C群		
科目名	緑のデザイン[Design of Green Space]		
担当教員	鎌田 磨人, 工学部非常勤講師 [Mahito Kamada]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	生態系としての緑地を、適切に配置・管理していくための基礎的な論理を身につける。		
授業の概要	適切な緑地配置、管理に必要な概念として、1)ピオトープの概念を紹介した上で、2)緑地管理の具体的なあり方について様々な場を対象に解説する。		
キーワード	緑地の保全・創造、生態系修復技術、ピオトープ		
関連/科目	『生態系の保全[Ecosystem Conservation]』(0.8)、『環境生態学[Environmental Ecology]』(0.8)、『生態系修復論[Restoration Ecology]』(0.7)		
到達目標	緑地を保全・管理していく上で必要な生態学の理論について、基礎的な概念を身につけている。		
授業の計画	<p>1. ガイダンス、とくしまピオトープ・プラン / (1)ピオトープとは、(2)目標とするピオトープ、(3)基本方針</p> <p>2. とくしまピオトープ・プラン 2 / (1)ピオトープネットワークの発展方針</p> <p>3. とくしまピオトープ・プラン 3 / (1)目標設定、(2)目標種の選定</p> <p>4. とくしまピオトープ・プラン 4 / (1)ミチゲーション、(2)公共事業とピオトープの保全、復元、創出</p> <p>5. とくしまピオトープ・プラン 5 / (1)モニタリングの重要性、(2)小テスト</p> <p>6. 海岸環境(海の景) / 海岸における緑の機能と現場事例(人工海岸の保全林整備/海浜公園プロポーザル) キーワード:海浜/海岸/波浪/潮風/強風/飛砂/採取/海浜レクリエーション/白砂青松/野生生物</p>		



7.	河川環境(川の景) / 河川における緑の機能と現場事例(中小河川の河川管理計画/中小河川改修工事への提言) キーワード:洪水/濁水/氾濫/攪乱/生産/流域/エコトーン/廃川敷/治水/利水/環境/野生生物
8.	森林環境(山の景) / 森林における緑の機能と現場事例(ブナ林再生事業/里山林再生事業) キーワード:現存植生/代償植生/潜在自然植生/自然遷移/天然更新/人為的作用/野生生物
9.	港湾環境(港の景) / 港湾における緑の機能と現場事例(港湾用地の緑地配置計画/漁港と人工干潟の共存) キーワード:流通/産業/創出環境/人と物の集積/陸海の結節部/臨海工場・新都市/野生生物
10.	道路環境(道の景) / 道路における緑の機能と現場事例(道路拡幅工事と緑化/街路の緑化) キーワード:視距/建築限界/横断構成/ネットワーク/バイパス/ロードキル/誘導植栽/野生生物
11.	施設環境(公の景) / 公共施設における緑の機能と現場事例(キャンパスの計画・設計/公園の設計) キーワード:多様な活動/人の交流/空間領域/整備と保全/特殊緑化/緑被率/建ぺい率/野生生物
12.	生活環境(個の景) / 住宅や事業所における緑の機能と現場事例(住宅庭園の設計/企業の活動) キーワード:趣味嗜好/多様な価値観/プライバシー/個人財産/住区・街区・協定/社会貢献/野生生物
13.	都市環境(街の景) / 河口・下流域を中心とした消費活動と環境整備の緑(緑の基本計画) キーワード:微気象緩和/風の道/緑地の保全と再生と創出/健全な水循環/緑地の配置/野生生物
14.	農村環境(里の景) / 中流域を中心とした生産活動と環境保全の緑(農村振興計画) キーワード:多面的機能/多自然居住地域/田園マスタープラン/二次的自然/鳥獣被害/野生生物
15.	緑のネットワーク / 上流域を核としたエコロジカルネットワークの緑(ビオトープネットワーク) キーワード:コア/バッファー/トランジション/ミティゲーション/保護・保全・修復/野生生物
16.	レポート提出と質疑応答(自由討議) / 緑地を保全・管理していく上で必要な留意点を生態的な観点から10項を列挙し、その内、5項について詳述する。(2000字以上3200字以内)
<b>教科書</b>	必要に応じて、資料を配布する。
<b>参考書</b>	ランドスケープ エコロジー／日本造園学会編:技報堂出版
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	
	「とくしまビオトープ・プラン」 <a href="http://www.pref.tokushima.jp/docs/2010101800117/">http://www.pref.tokushima.jp/docs/2010101800117/</a> 「生物多様性国家戦略2010」 <a href="http://www.env.go.jp/nature/biodic/nbsap2010/attach/01_mainbody.pdf">http://www.env.go.jp/nature/biodic/nbsap2010/attach/01_mainbody.pdf</a> <a href="http://www.env.go.jp/nature/biodic/nbsap2010/index.html">http://www.env.go.jp/nature/biodic/nbsap2010/index.html</a>
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は、小テストと期末試験を3:7として算出される評点により評価し、評点が60%以上を当該目標のクリア条件とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	「生態系の保全」を受講済みであることを前提に講義する。関連授業科目として、「環境生態学」、「生態系修復論」の受講を推奨する。
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 鎌田磨人(部屋番号:A306、電話番号:088-656-9134) (メールアドレス) kamada@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 年度ごとに学科の掲示を参照すること。
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5111590
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	応用測量学[Applied Surveying]		
<b>担当教員</b>	橋本 親典, 工学部非常勤講師 [Chikanori Hashimoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	高度情報化時代の要請により発展してきた空間データの測定原理とその利用法を知り、応用測量学を取り巻く理論・技術を学ぶ。次に、建設分野に関する測量、データ処理の概要と流れを習得する。本講義は、建設工学の専門基礎科目の1つである測量学に関連するものであり、基本的理論と基本的な演習課題を解ける知識を習得することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	技術革新・グローバル化により応用測量学は地球規模への学問に進展し、得られた空間データは多分野の重要な情報基盤となっている。その地球上の空間データの収集、計測方法および数値処理の基礎知識、リモートセンシング、地理情報システムについて講義する。次に、土木分野に関する汎地球測位システムの基礎知識、数値地形モデル、およびこれらの利用例について解説する。		

<b>キーワード</b>	空間データ、リモートセンシング、地理情報システム、汎地球測位システム、数値地形モデル		
<b>先行/科目</b>	『測量学[Surveying]』(1.0)、『測量学実習[Surveying Practice]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 空間データの収集方法、数値処理および利用方法を理解する。 2. 建設分野の測量に必要な基礎知識を理解する		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス-応用測量概要、空間情報工学の理念 2. 空間データの収集および計測方法 3. 空間データの数値処理(その1) 4. 中間試験(その1) 5. 空間データの数値処理(その2) 6. リモートセンシング 7. 地理情報システム 8. 中間試験(その2)	9. 中間試験(その1、その2)の返却および解説 10. 汎地球測位システムの基礎知識 11. 汎地球測位システムの利用 12. 期末試験(その1) 13. 数値地形モデル 14. 特別講義1:世界の建設事情と日本の建設業の今後 15. 特別講義2:最先端測量技術を用いた情報化施工 16. 期末試験(その2)および授業評価アンケートの実施	
<b>教科書</b>	改訂版 空間情報工学/村井俊治:日本測量協会, 2002, ISBN:9784889410600		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	2つの到達目標が達成されているか、毎回の試験(50%)によって評価し、前半2回の試験の合計、後半2回の試験の合計が、それぞれ60%以上であれば合格とする。各到達目標の成績に対する配分は50%ずつとする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験等は一切しない。各到達目標で不合格の場合は、次年度以降で再履修とする。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	この科目は卒業時の「測量士補」および測量後の「測量士」の資格取得条件となる。集中講義であるため、毎週の講義の予習・復習はできないが、毎回の集中講義の最終講義に確認試験を行うので、集中講義期間は復習を必ず行うこと。集中講義の日程は前期に学科の掲示板に発表するので確認すること。また、講義では教科書以外に電卓を持参すること。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標の3(2)100%に対応する。		
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0057">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0057</a>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 橋本 親典(A505, 088-656-7321, chika@ce.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) chika@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週月曜日 PM.4:20~5:50<昼間コース>、 PM.6:00~7:30<夜間主コース> 建設棟5階505室		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5111600
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	景観工学概論[Landscape and Infrastructure Design]		
<b>担当教員</b>	真田 純子 [Junko Sanada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本講義の目的は、景観のなりたちやさまざまな土木構造物の形、その意味を知り、国土空間における「人の作為」を認識でき、国土空間への関心と理解を深めることである。		
<b>授業の概要</b>	本講義では、景観工学の基礎であるながめのなりたちや、人々の暮らし方があらわれる景観、土木構造物の形やその特徴、意味について説明する。		
<b>キーワード</b>	景観工学、土木構造物		
<b>関連/科目</b>	『景観デザイン[Landscape Design]』(0.8)		
<b>到達目標</b>	土木工学の「現場」である国土と土木工学との関係を把握できる。		

<b>授業の計画</b>		8. 土木遺産をめぐる現状と課題その1
1. ガイダンス、景観工学とは		9. 土木遺産をめぐる現状と課題その2
2. ながめの成り立ち		10. 国土基盤施設のかたち①総論
3. 景観デザインの現場		11. 国土基盤施設のかたち②道路構造物(橋)
4. 都市景観の法制度と諸問題		12. 国土基盤施設のかたち③道路構造物(道路)
5. さまざまな公園と景観整備		13. 国土基盤施設のかたち④その他
6. コースワーク①(公園)		14. コースワーク②(橋)
7. 公園のコースワークに関するレポート発表会		15. 橋のコースワークに関するレポート発表会
<b>教科書</b> プリントを配布		
<b>参考書</b> 風景学入門 中公新書 1982年 中村良夫著 景観の構造 技報堂出版 1975年 樋口忠彦著		
<b>成績評価の方法</b> レポートおよび出席点で評価し、6割以上を合格とする。ただしレポートが一つでもかけている場合は不合格とする。		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業における体験が重要なので、出席は欠かせないこと。		
<b>JABEE合格</b> 「成績評価」と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(3)に100%に対応する。		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 真田 純子	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111610
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	プログラミング技法及び演習[Programming Methodology and Exercise]		
<b>担当教員</b>	三神 厚, 奥嶋 政嗣 [Atsushi Mikami, Masashi Okushima]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 建設工学に関連する科学技術計算を実施する上で必要となるプログラミング及び科学計算手法に関する知識の修得を目的とし、プログラミングによる問題解決能力を身につけることを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 建設工学に関連する科学技術計算でよく用いられる基本的な計算手法について講述し、それらの手法を使った科学技術計算プログラムの作成及び実行に関する演習を行う。			
<b>キーワード</b> 最小二乗法, 数値積分, 連立一次方程式の解法, 非線形最適化, シミュレーション技法			
<b>到達目標</b> 建設工学分野でよく用いられる数値解析手法を理解し、FORTRANを用いてプログラムを作成できること。			
<b>授業の計画</b>			
1. ガイダンス: 科学技術計算の工学的意義, レポートの作成法, 計算機の利用方法	8. 連立一次方程式(2): 後代入, レポート3	9. 逆行列	
2. データの入出力(OPEN文の復習)	10. 最急降下法による非線形関数の最小・最大化	11. 最尤推定法によるパラメータ推定, レポート4	
3. 実験データの直線近似	12. 一次元探索	13. 最短経路探索, レポート5	
4. 実験データの直線近似とばらつき, プログラムのサブルーチン化, レポート1	14. 乱数による確率分布の表現	15. 関数モデルのシミュレーション	
5. 数値積分(台形公式)	16. 確率モデルのシミュレーション, レポート6		
6. 数値積分(Simpson公式)			
7. 連立一次方程式(1): 前進消去			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b> FORTRAN77 入門-改訂版- / 浦昭二: 培風館, 1990, ISBN:978-4563013585			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標の達成度を6回のレポートで評価し(重みは同じ), 評価点が60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> レポート提出が遅れた場合には大幅に減点となる。			
<b>受講者へのメッセージ</b> レポート提出をかかさないと			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の3(1)に対応する。			

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 三神 厚(A406, Tel:088-656-9193) 奥嶋 政嗣(エコ 603, Tel:088-656-7340) (メールアドレス) amikami@ce.tokushima-u.ac.jp okushima@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日: 14:30-17:30
<b>備考</b>	1.

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111620
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	建設マネジメント[Construction Business Management]		
<b>担当教員</b>	滑川 達 [Susumu Namerikawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 建設事業の企画から竣工後の維持管理に至る一連のライフサイクルの流れを理解するとともに、それらをマネージしていくためのソフト技術に関する基礎的能力を身につける。			
<b>授業の概要</b> 本講は、次の3つの柱によって構成される。(1)建設マネジメント概論(1~4回)では、建設事業を推進させる一連のプロセスを概観するとともに、関連する各種の事業実施方式や契約制度について講述する。(2)我が国の公共調達制度改革の議論過程(5~8回)では、我が国の公共調達システムの歴史と特徴及びこれまでの制度改革に関する議論の経緯について代表的な論文2編を比較読解する。(3)工程マネジメント手法(9~14回)では、施工マネジメント業務の中核的業務として位置づけられる工程マネジメントに適用されている科学的手法について講述する。特に、PERT系ネットワーク手法を中心に、工程ネットワークの作成方法やそれに続くスケジュール計算方法について解説する。			
<b>キーワード</b> 建設事業, 公共調達制度, 工程マネジメント			
<b>到達目標</b>			
1.	建設事業推進に際するプロセス, 事業実施方式, 契約制度の基礎的知識を習得する。(1~4回)		
2.	我が国の公共調達制度改革に関する議論過程の基礎的知識を習得する。(5~8回)		
3.	工程マネジメントのための科学的手法の基礎的知識を習得する。(9~15回)		
<b>授業の計画</b>			
1. ガイダンス(1): 建設マネジメントを学ぶ理由			
2. 建設事業の進め方(1): 建設事業のフェーズ			
3. 建設事業の進め方(2): 建設プロジェクトの実施方式			
4. 建設事業の進め方(3): 工事発注に関わる諸方式: 目標1最終レポート			
5. 我が国の公共調達制度改革の議論過程(1): 金本論文を読む			
6. 我が国の公共調達制度改革の議論過程(2): 國島論文を読む			
7. 我が国の公共調達制度改革の議論過程(3): 金本論文と國島論文の比較			
8. 我が国の公共調達制度改革の現状とこれから 目標2最終レポート			
9. 工程マネジメント概説(1): プロジェクトマネジメントの思想			
10. CPM系ネットワーク手法(1): ネットワークプランニング(プロジェクトグラフとアロウダイアグラム)			
11. CPM系ネットワーク手法(2): ネットワークスケジューリング(結合点時刻)			
12. CPM系ネットワーク手法(3): ネットワークスケジューリング(クリティカルパス, リミットパス)			
13. CPM系ネットワーク手法(4): ネットワークスケジューリング(3点見積りPERT? 確率PERT)			
14. CPM系ネットワーク手法(5): ネットワークスケジューリング(資源を考慮したスケジューリング)			
15. EVMS			
16. 期末試験(工程マネジメント手法)			
<b>教科書</b> 講義時にプリントを配布する。			
<b>参考書</b> 秋山孝正・上田孝行編著: すぐわかる計画数学, コロナ社, 土木施工管理技術研究会編: ネットワークプランニング基礎編, 土木施工管理技術研究会, 池田將明著: 建設事業とプロジェクトマネジメント, 森北出版株式会社, 日本道路協会: 道路構造令の解説と運用, 丸善, 古田均等: 建設業界のためのデータモデル, 工学社,			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標1の達成度を、最終レポート1の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標2の達成度を、最終レポート2の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。到達目標3の達成度を期末試験の評点により評価し、評点 $\geq 60\%$ を当目標のクリア条件とする。すべての到達目標をクリアした場合を合格とし、成績は、到達目標1~3の評点の重みをそれぞれ30%、20%および50%として算出する。			
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b> 関連授業科目として、「建設の法規」、「生産管理」、「労務管理」、「職業指導」の受講を推奨する	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の 3(5)に、100%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/D0060
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 滑川達(建設棟 4 階 401, Tel:088-6569877, namerikawa@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 年度毎に学科の掲示を参照すること
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111630
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	建設の法規[Administration of Public Works]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 土木技術が対象とする社会基盤施設の計画・設計・建設にあたって、社会規範として定められた関係法令を学ぶことによって、適正かつ適法な建設事業の執行ができるよう基礎的な現行建設行政法を講義する。特に現代社会は、大きく技術に依存しているため、法令遵守、技術力の向上等、技術者の倫理の重要性を意図させる。			
<b>授業の概要</b> [1. 序論][2. 土地・国土形成等][3. 河川等防災関係][4. 道路等運輸関係][5. 都市整備関係][6. 環境関係][7. 建設業・労働安全・資格等]で建設事業に関する現行法令の概要を講義する。なお、建設行政、建設事業に関連する報道や社会的な問題があった場合は、その時は特に解説する。例えば河川行政への住民意見の反映、建設業法、独占禁止法違反、各地の大規模災害発生等々。			
<b>キーワード</b> 建設事業、関連法規			
<b>到達目標</b> 建設事業の遂行に必要な各種法令及び相互の関連性についての基礎的知識を習得する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 1.1 法律			
2. 1.2 行政組織, 1.3 公物			
3. 2.1 土地基本法, 2.2 国土形成法, 2.3 国土利用計画法, 2.4 土地収用法, 2.5 公有水面埋立法, 2.6 社会資本整備重点計画法			
4. 3.1 災害対策基本法, 3.2 河川法			
5. 3.3 砂防法, 3.4 地すべり等防止法, 3.5 急傾斜地災害防止法			
6. 3.6 土砂災害防止法, 3.7 海岸法, 3.8 水防法			
7. 4.1 道路法, 4.2 国幹道建設法, 4.3 高速自動車国道法			
8. 4.4 道路整備特措法, 4.5 高速道路株式会社法, 4.6 道路整備財特法			
9. 4.7 道路交通法, 4.8 港湾法, 4.9 空港法			
10. 5.1 都市計画法, 5.2 土地区画整理法			
11. 5.3 建築基準法①			
12. 5.3 建築基準法②			
13. 6.1 環境基準法, 6.2 騒音規制法, 6.3 振動規制法, 6.4 水質汚濁防止法, 6.5 大気汚染防止法, 6.6 自然環境保全法, 6.7 自然公園法, 6.8 瀬戸内環境特措法, 6.9 森林法, 6.10 環境影響評価法			
14. 6.11 循環型社会形成推進基本法, 6.12 廃棄物の処理及び清掃法, 6.13 リサイクル法, 6.14 建設リサイクル法			
15. 7.1 建設業法, 7.2 公共工事の入札・契約適正化法, 7.3 労働基準法, 7.4 労働安全衛生法, 7.5 資格関係法			
<b>教科書</b> 下記のような書籍があるが、法律は毎年改正され、また最近では社会情勢が急激に変化しているため、教科書として利用できない。従って、これらの書籍や法律の解説書等を参考に、300 ページのテキストを作って配付する。(1)建設行政 黒谷努、佐久間維美、中山拓、花岡信一共著 電気書院 (2)土木法律を楽しく学ぼう 阪神高速道路公団監修都市高速道路研究会編著 理工図書 (3) 新建設行政実務講座全 8 巻第一法規 (4) 建設法規の基礎岸本進 松山孝彦共著 工学出版			
<b>参考書</b> 六法全書をはじめ、建設小六法、道路法令総覧、河川六法、港湾六法、道路法解説、建設業法解説等がある。他に、国土交通省監修の道路ポケットブック、河川ハンドブック、都市計画ハンドブック等がある。これらの参考書は、何れも発行が 10 月前後で、テキストに新しいデータを記載することが難しい。			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が達成されているかを、最終レポートによって評価し、60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b> 法律用語や使い慣れない語句が出てくるので、学生の理解を深めるための方途を考えている。現在のところ、最新の資料を掲載した約 300 ページのテキストを配布する方法をとっている。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の 3(5)に、100%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 滑川達(412,Tel:088-656-9877) (オフィスアワー) 毎年度学科で掲示される表を参照のこと
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111640
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	専門外国語[Foreign Language for Engineering]		
<b>授業タイプ</b>	英語(その他)		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 技術者として最低限必要な技術英語の「読み」・「書き」能力の育成を図るとともに、技術に関する簡単な英会話ができる能力を養成する。			
<b>授業の概要</b> 外国人教師による Technical English に関する講義・演習ならびに技術に関する簡単な英会話演習。			
<b>キーワード</b> 技術英語、英会話			
<b>到達目標</b> 技術に関する英会話能力の向上と技術英語の基礎の修得。			
<b>授業の計画</b>			
1. SHORT Introduction	9. Lesson 8: Warning signs		
2. Lesson 1: First meeting and spelling	10. Lesson 9: Locating things		
3. Lesson 2: Saying what you want	11. Lesson 10: Suggesting solutions		
4. Lesson 3: E-mail addresses and telephone messages	12. Lesson 11: Work tasks		
5. Lesson 4: Describing controls, facilities and tests	13. Lesson 12: Explaining functions		
6. Lesson 5: Describing features, materials, shapes	14. Lesson 13: Reporting damage		
7. Lesson 6: Explaining what things do and dimensions	15. Lesson 14: Countries and nationalities		
8. Lesson 7: Tools and equipment	16. Final Examination		
<b>教科書</b> Tech Talk Elementary/Vicki Hollett: Oxford University Press			
<b>参考書</b> 授業中に適宜紹介する。			
<b>成績評価の方法</b> 期末試験の評点により評価し、評点 60%以上を合格とする			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 英和辞書を持参すること。開講コース学生のみ履修可能			
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同一			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科目は本学科の教育目標の 5(4)に 100%対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. ネイティブスピーカーに直に触れる絶好の機会である。		



開講学期	4年・後期	時間割番号	5111650
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	生産管理[Production Control]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	企業マネジメント(工業経営)の中で、「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する。		
授業の概要	「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに、企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する。		
キーワード			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産管理の各手法を概略理解する。</li> <li>2. 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 品質管理総論</li> <li>4. 工程管理総論</li> <li>5. 工程管理各論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 原価管理</li> <li>7. 安全管理, トヨタ生産方式</li> <li>8. 環境管理</li> </ol>	
1. 序			
2. 生産管理体系			
教科書	毎講義時に、プリントその他で提示する。		
参考書	「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ)」企業経営通信学院 「生産管理便覧」丸善		
成績評価の方法	毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点 60 点満点・白紙は不可)及びその試問正解点 40 点満点で、480 点以上を「可」とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	毎講義終了後、簡単な事前試問(3 問程度)について、解答ペーパーの提出を求める。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	4年・後期	時間割番号	5111660
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	労務管理[Personnel Management]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	企業のグローバル化による競争激化、企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加、正規社員の減少、従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題、労働トラブルの急増、少子高齢化時代の到来等これからの労務安全管理の諸問題について理解する。		
授業の概要	採用から退職までの労務安全衛生管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労務安全管理(ヒューマンスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。		
キーワード			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の労務安全衛生管理(ヒューマンスキル)の基本と重要性について認識する。</li> <li>2. 最新の労働環境の動向を理解する。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 就業規則</li> <li>4. 労働時間・休日・休暇</li> <li>5. 賃金・業務命令等の社内ルール</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 退職と解雇</li> <li>7. さまざまな働き方</li> <li>8. リスクアセスメント(安全衛生管理)</li> </ol>	
1. 労働基準法の概要			
2. 応募から入社までの基礎知識			
教科書	「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円		

参考書	「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会		
成績評価の方法	出席率, レポートの内容		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	授業の中でレポート(7 回程度)作成, 提出すること。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑村泰章		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111670
科目分野	専門共通科目(選択)		
選必区分	選択		
科目名	生態系修復論[Restoration Ecology]		
担当教員	河口 洋一, 鎌田 磨人, 工学部非常勤講師 [Yoichi Kawaguchi, Mahito Kamada]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)
授業の目的	劣化した生態系の修復を行ってゆくために必要な基本概念や、徳島県を始めとする各地で実施されている具体的な施策・事業を例に、その進め方を理解する。		
授業の概要	劣化した生態系の修復を行うにあたって、徳島県が進めようとしている施策, NPO や市民, コンサルタントの役割, 具体的な事例などについて、現場で活躍している講師が紹介する。		
キーワード	生態系の保全・修復, 徳島県の施策・事業, NPO の役割		
関連/科目	『生態系の保全[Ecosystem Conservation]』(0.5), 『環境生態学[Environmental Ecology]』(0.5), 『緑のデザイン[Design of Green Space]』(0.5)		
到達目標	健全な生態系を修復するために必要な考え方や基礎的な技術を理解している。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイドランスと徳島県・生物多様性地域戦略づくり / キーワード:生態系サービス, 持続的資源活用</li> <li>2. 徳島県の環境行政 1-環境政策の基本, 地球温暖化への対応, 環境に配慮した生活 / キーワード:地球環境問題, 温暖化</li> <li>3. 徳島県の環境行政 2-環境学習推進方針, 環境学習の具体的な取り組み / キーワード:環境教育, とくしま環境学習プラン</li> <li>4. 徳島県の環境行政 3-ドイツに学ぶ環境に優しい街づくり レポート出題 / キーワード:環境配慮型の都市, 住民参加</li> <li>5. 徳島県の森林が抱える問題と行政の取り組み / キーワード:人工林(スギ, ヒノキ植林), 中山間地域, 森林荒廃</li> <li>6. 徳島県の森林におけるシカによる被害とその対策 レポート出題 / キーワード:シカの増加, 食害, 林業・農業被害, 植生破壊</li> <li>7. 自然林再生事業における苗木生産と法面緑化 / キーワード:自然再生, 自然林, 地域性苗木潜在自然植生, エコロジー緑化</li> <li>8. 河川の生態系アセスメント / キーワード:川づくり, 環境影響評価河川工法, ビオトープ</li> <li>9. 土木事業と自然環境教育 レポート出題 / キーワード:環境アセスメント, ミチゲーション</li> <li>10. ススキの原っぱがあった頃の農村から学ぶべきもの / キーワード:里山, 循環型社会</li> <li>11. 梅酒・日本酒・カーボンオフセット等の環境ビジネスに関わる活動 / キーワード:生態系サービス, 6 次産業化</li> <li>12. レポートを使ったワークショップ レポート出題 / キーワード:合意形成, ステークホルダー</li> <li>13. 徳島県の環境配慮への取り組み(川編) / キーワード:住民協働, 合意形成, 河川整備計画</li> <li>14. 徳島県の環境配慮への取り組み(海編) / キーワード:地域連携, 合意形成, ワークショップ</li> <li>15. 徳島県の環境配慮への取り組み(山編) レポート出題 / キーワード:自然再生, 連携, 合意形成</li> <li>16. まとめと海外の自然再生の取り組み / キーワード:リストレーション, 水利用</li> </ol>		
教科書	必要に応じてプリント等を配布する。		
参考書	生物保全の生態学/鷲谷いづみ:共立出版, 1999, ISBN:4-320-05529-2 保全生態学入門/鷲谷いづみ・矢原徹一:文一総合出版, 1996, ISBN:9784829930397 保全生物学のすすめ/ブリマック, R.B.・小堀洋美:文一総合出版, 2008, ISBN:9784829901335 ランドスケープ エコロジー/日本造園学会編:技報堂出版, 1999, ISBN:4-7655-2125-7		

<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は、5つの内容に関する講義後に課されるレポートを用いて評価し(それぞれの重みは20%ずつ)、評点が60%以上を当目標のクリア条件とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	関連授業科目として、「生態系の保全」、「環境生態学」、「緑のデザイン」の受講を推奨する。
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/N0033">http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/N0033</a>
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 鎌田 磨人(A306,088-656-9134,kamada@ce.tokushima-u.ac.jp) 河口 洋一(A308,088-656-9025,kawaguchi@ce.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 鎌田:年度ごとに学科の掲示を参照すること。 河口:金曜午後
<b>備考</b>	1. 授業は夜間に行われる。 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 3. 本科目は「NPO 法人 徳島保全生物学研究会」によって提供される。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111680
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	環境計画学[Environmental Design]		
<b>担当教員</b>	山中 亮一, 上月 康則 [Ryoichi Yamanaka, Yasunori Kozuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	持続可能な社会の形成を目標とする環境計画の構造と手法について理解し、各人がその立案に関わり、活動できる基本的な能力を習得する。		
<b>授業の概要</b>	環境計画に係わる、環境問題の発生のしくみと歴史(授業計画2-6回)、国内外の環境法、環境経済、環境技術(授業計画7-14回)について、その詳細を講述するとともに、簡単な環境保全プログラムを自ら作成・実施し、評価する(授業計画1,15-16回、レポート)。		
<b>キーワード</b>	環境基本法、地球温暖化、廃棄物再利用、公害問題、生物多様性、エコライフ		
<b>到達目標</b>	1. 環境問題の環境基本計画の4つのキーワード(循環、共生、参加、国際的取り組み)と各種法律の関わりと国際政治の背景、環境計画に必要な概念や手法、技術について説明することができる。(授業計画1-14回) 2. 簡単な環境保全活動を作成・実施し、その評価を環境家計簿により行うことができる。(授業計画15-16回、レポート)		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス、日本の公害・環境汚染(復習レポート1) 2. 世界の公害・環境汚染(復習レポート2) 3. これからの環境問題(1)(復習レポート3) 4. これからの環境問題(2)(復習レポート4) 5. 中間試験、エコライフ演習発表準備 6. エコライフ演習中間発表(復習レポート5) 7. テスト返却、環境計画と環境技術1:環境政策と環境の価値(復習レポート6) 8. 環境計画と環境技術2:環境容量、環境影響評価手法など(復習レポート7) 9. 環境計画と環境技術3:エネルギー、環境監視、汚染制御技術など(復習レポート8) 10. 環境計画と環境技術4:地球環境政治、環境教育、環境倫理(復習レポート9) 11. これからの環境計画1:環境価値、政治(復習レポート10) 12. これからの環境計画2:最新の事例紹介(復習レポート11) 13. エコライフ演習最終発表会準備(復習レポート12) 14. 定期試験(復習レポート13) 15. エコライフ演習最終発表会(復習レポート14) 16. テスト返却、総括		
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>	環境工学：持続可能な社会とその創造のために／住友恒、村上仁士、伊藤禎彦、上月康則、西村文武、橋本温、藤原拓、山崎慎一、山本裕史:理工図書、2007.4、ISBN:978-4-8446-0717- 環境白書		

<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	教材はu-Learningにて提供する。
<b>成績評価の方法</b>	目標①:中間テストと期末試験(50点)、目標②:エコライフ演習(50点) 評価:目標①と②が6割以上で合格、かつ目標①と②の合計点を本科目の評点とする
<b>再試験の有無</b>	再試験なし
<b>受講者へのメッセージ</b>	環境に関する世界的な動向などを学び、自身の考え方に活かしてもらうための講義です。
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の1(2)に65%、3(3)に35%対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山中亮一(やまなか りょういち):総合研究実験棟(エコ棟)504号室, TEL:088-656-7334, E-Mail:yamanaka@eco.tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) yamanaka@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜, 14:35-17:50
<b>備考</b>	1. 止む無く欠席する場合は、事前に山中教員まで必ず連絡すること。昼間コース学生のJABEE合格は【成績評価】と同一である。 2. 使用した資料などは指定するウェブサイトに掲載する 3. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111690
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	合意形成技法[Consensus Building Methods]		
<b>担当教員</b>	山中 英生 [Hideo Yamanaka]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	社会的合意形成に関する基礎的知識の講述、合意形成技法に関する議事体験を通じて、合意形成のための基礎的技術を理解することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	社会的合意形成に関する基礎知識に関する講義およびコンセンサスビルディングおよび参加型計画手法の体験授業を行う。		
<b>キーワード</b>	都市地域計画、市民参加、建築計画		
<b>到達目標</b>	1. 1 集团的合意形成に関する基礎知識を身につける。(第1回～第6回) 2. 2 社会的合意形成手法の知識を身につける。(第7回～第15回)		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス、社会的合意形成に関わる事例 2. 合意形成の技法について 集団意思決定法 3. 合意形成プロデューサー WEB ラーニング No1～No3 4. 合意形成プロデューサー WEB ラーニング No. 4～No. 6 5. 合意形成プロデューサー WEB ラーニング No. 7～No. 10 6. 合意形成プロデューサー WEB ラーニング 復習 7. パブリックインボルブメント 8. 合意形成プロデューサー WEB ラーニング確認テスト	9. 交渉学と社会的合意形成 10. メディエーションとコンセンサスビルディング 11. 交渉ゲーム 12. PCM 手法の概要 13. PCM 手法 関係者分析、問題分析 14. PCM 手法 目的分析、プロジェクト選択 15. PCM 手法 PDM の作成 16. レポート提出	
<b>教科書</b>	なし		
<b>参考書</b>	実践!交渉学 いかにか合意形成を図るか ちくま新書/松浦正浩:ちくま書房、ISBN:4480065423 参加型社会の決め方/木下栄蔵・高野伸栄:近代科学社、ISBN:4764910438		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	授業時に資料を配付する。 合意形成プロデューサーの学習は科学技術振興財団 WEB ラーニングプラザ <a href="http://weblearningplaza.jst.go.jp/">http://weblearningplaza.jst.go.jp/</a> 「社会資本整備における市民合意形成コース」の WEB 教材を使用する。		
<b>成績評価の方法</b>	各到達目標毎にレポート、体験実習の評価点で評価し、総合評価100点満点で60点以上であれば到達目標をクリアしたとする。到達目標1(50%)、2(50%)で総合評価を算定する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			

<b>JABEE合格</b> 昼間コース学生の JABEE 合格は【成績評価】と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科の教育目標の 3(4)に 70%, 3(5)に 30%対応する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.ce.tokushima-u.ac.jp/lectures/N0023
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山中英生(A410,088-656-7350) (メールアドレス) yamanaka@ce.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 学科の掲示板を参照のこと。
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111700
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	建築計画1[Architectural Planning 1]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 建築物の設計を行うためには、そこで展開される人々の生活がうまく機能するような空間を計画することが必要である。本講義では、建築計画で用いる基礎的手法に加えて、各用途の建築物に関する計画論の概要を学ぶことで、建築設計に役立てるものである。

**授業の概要** 本講義では、住宅、業務施設、公共施設を事例に、その計画論と建築設計への応用について先進事例を交えながら説明する。

**キーワード** 建築計画、建築設計、施設計画

**先行/科目** 『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(1.0)

**関連/科目** 『建築計画2[Architectural Planning 2]』(0.5), 『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(0.5)

**到達目標** 住宅、業務施設、公共施設について、その計画手法の概要を理解する

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 住宅の計画 3	<b>12.</b> 公共施設の計画 2
<b>1.</b> ガイダンス	<b>7.</b> 住宅の計画 4	<b>13.</b> 公共施設の計画 3
<b>2.</b> 建築計画の基礎 1	<b>8.</b> 業務施設の計画 1	<b>14.</b> 建築物の再生計画 1
<b>3.</b> 建築計画の基礎 2	<b>9.</b> 業務施設の計画 2	<b>15.</b> 建築物の再生計画 2
<b>4.</b> 住宅の計画 1	<b>10.</b> 業務施設の計画 3	<b>16.</b> 試験
<b>5.</b> 住宅の計画 2	<b>11.</b> 公共施設の計画 1	

**教科書** 初めての建築計画/建築のテキスト編集委員会:学芸出版社

**参考書**

**成績評価の方法** 出欠状況と試験の成績で評価し、60 点以上を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同一

**学習教育目標との関連** 本科目は本学科の教育目標の 3(3)に 100%対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	<b>1.</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111720
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	建築法規[Introduction of Building Code]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	使いやすく、かつ安全な建築物に関する諸基準が定められた建築関連法規は、建築技術者が身につけるべき重要な知識である。本講義では、建築基準法およびその関連法規に関する基礎的知識を講述する。		
<b>授業の概要</b>	時間数の関係から、建築基準法を単体規定、集団規定に分け、最低限知っておくべき知識に限定して講述する。また、建築士法など関連法規および、運用のための制度規定についてもその概要を講述する。		
<b>キーワード</b>	法律、建築基準法、建築士法		
<b>関連/科目</b>	『建設の法規[Administration of Public Works]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	建築基準法とその関連法規について基礎的内容を理解する		
<b>授業の計画</b>	<b>4.</b> 建築基準法 単体規定 3(防火、設備)	<b>5.</b> 建築基準法 集団規定 1(道路と敷地、用途規制)	<b>6.</b> 建築基準法 集団規定 2(規模、高さ、日影、形態規制)
<b>1.</b> ガイダンス、建築関連法規とは、建築基準法 総則(面積、高さ、階数算定方法など)	<b>2.</b> 建築基準法 単体規定 1(居住環境)	<b>3.</b> 建築基準法 単体規定 2(構造計算、構造仕様)	<b>8.</b> 試験
<b>教科書</b>	イラストレーション/建築基準法(第3版)/高木 任之:学芸出版社 井上 建築関係法令集(平成 25 年度版)/建築法令研究会:井上書院		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	出欠状況、試験、レポートで評価し、60 点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同一		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の 3(5)に 100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	<b>1.</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5111730
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	建築環境工学[Architectural Environmental Engineering]		
<b>担当教員</b>	塚越 雅幸, 工学部非常勤講師 [Masayuki Tsukagoshi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 建物内で人間が快適な生活を送るためには、室内環境を整えることが必要となる。建築環境工学の基礎的事項を学ぶことにより、室内環境を良くするための基準や方法を理解する。

**授業の概要** 建築環境工学の基礎的事項である「温熱環境」、「空気環境」、「光・視環境」、「音環境」及び関連する建築法規・建築設備等について学ぶ。

**キーワード** 室内環境、建築設備

**先行/科目** 『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(1.0), 『建築計画1[Architectural Planning 1]』(0.5), 『建築計画2[Architectural Planning 2]』(1.0)

**関連/科目** 『建築設備工学[Building Service Engineering]』(1.0)

**到達目標** **1.** 建築環境工学が扱う「温熱環境」、「空気環境」、「光・視環境」、「音環境」に関する基礎的知識を習得する。  
**2.** 「建築法規」、「建築設備」等建築環境工学に関連する知識を習得する。

<b>授業の計画</b>	<b>7.</b> 光・視環境(2)	<b>13.</b> 建築環境工学の応用(1): 住宅性能表示制度における建築環境工学に関する事項
<b>1.</b> ガイダンス: 快適な室内環境とは・建築環境工学とは	<b>8.</b> 音環境(1)	<b>14.</b> 建築環境工学の応用(2): 建築環境工学に配慮した住宅の計画
<b>2.</b> 温熱環境(1)	<b>9.</b> 音環境(2)	<b>15.</b> まとめ
<b>3.</b> 温熱環境(2)	<b>10.</b> 中間まとめ	
<b>4.</b> 空気環境(1)	<b>11.</b> 建築環境工学関連事項(1): 建築環境工学に関連する建築法規	
<b>5.</b> 空気環境(2)	<b>12.</b> 建築環境工学関連事項(2): 建築環境工学に関連する建築設備	
<b>6.</b> 光・視環境(1)		

**教科書** 初めての建築環境/建築のテキスト編集委員会:学芸出版社



<b>参考書</b>	初学者の建築講座 建築環境工学／倉淵 隆:市ヶ谷出版社 住まいの環境 (図解住居学)／図解住居学編集委員会:彰国社 建築環境工学／山田 由紀子:培風館
<b>成績評価の方法</b>	レポート、小テスト及び授業への参加内容を評価し、評点が60%以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	他学科、他学部学生も履修可能。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同一
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 塚越 雅幸 A501,088-656-7349 (メールアドレス) 塚越 雅幸 mtsukagoshi@ce.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしながら授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5111740
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	建築設備工学[Building Service Engineering]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	建築物にとって建築設備は、衛生的で快適な室内環境を創造するために必要不可欠な機器である。建築設備には空気調和設備・換気設備、給排水・衛生設備、電気設備、消防設備等があり、その役割は、近年の建築物の高層化等によりますます大きくなっている。この講義では、空気調和・換気設備、給排水・衛生設備、電気設備、消防設備について、その基礎的事項を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	空気調和・換気設備、給排水・衛生設備、電気設備の基礎的事項を説明し、建築物に必要な設備機器全般について説明する。		
<b>キーワード</b>	空気調和設備、換気設備、給排水設備、衛生設備、電気設備、消防設備		
<b>先行/科目</b>	『建築環境工学[Architectural Environmental Engineering]』(1.0)、『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(1.0)、『建築計画1[Architectural Planning 1]』(1.0)、『建築計画2[Architectural Planning 2]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『建築施工[Building Production and Construction Management]』(1.0)、『建築法規[Introduction of Building Code]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	空気調和設備・換気設備、給排水・衛生設備、電気設備、消防設備の基礎知識を理解する		
<b>授業の計画</b>	9. 建築物における省エネルギー手法	10. 電気設備 受変電設備、電気配線	
1. ガイダンス、建築設備の果たす役割	11. 電気設備 動力設備、照明設備	12. 電気設備 発電設備、実際の建築への応用	
2. 建築設備概論	13. 消防設備 消火設備	14. 消防設備 防災防犯設備	
3. 空気調和・換気設備 空調方式	15. 試験	16. 答案の返却と解説、総括授業	
4. 空気調和・換気設備 換気設備			
5. 空気調和・換気設備 実際の建築への応用			
6. 給排水・衛生設備 給水設備、衛生器具			
7. 給排水・衛生設備 排水設備、配管材料			
8. 給排水・衛生設備 実際の建築への応用			
<b>教科書</b>	図とキーワードで学ぶ建築設備／飯野 秋成:学芸出版		
<b>参考書</b>	各回で適宜、指示する。		
<b>成績評価の方法</b>	出欠状況、試験の成績で評価し、60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	受講者は建築環境工学を必ず履修すること		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同一		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎(エコ 606,088-656-7612,kojiro@tokushima-u.ac.jp)		

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしながら授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
-----------	---

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111750
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	建築史[History of Architecture]		
<b>担当教員</b>	渡辺 公次郎 [Kojiro Watanabe]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	新たな建築物を創造するためには、過去、どのような提案が行われてきたのかを知ることが重要である。本講義では、日本と西洋に分け、近代を中心に建築物の歴史を学ぶことで、様式と技術の変化を知り、新たな創造につなげる基礎とする。		
<b>授業の概要</b>	まずは、日本と西洋の近代以前の建築史を概観し、それが近代に入りどのように変化し、現代につながっていったのかを解説する。		
<b>キーワード</b>	建築史、近代		
<b>先行/科目</b>	『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『建設の歴史とくらし[History of Civil Works and Human Living]』(1.0)、『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(0.5)、『建築計画1[Architectural Planning 1]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	過去の代表的な建築物の様式と特徴を理解する		
<b>授業の計画</b>	9. 答案の返却と解説、徳島の建築史	10. 日本建築史 1 近代以前の日本建築史	
1. ガイダンス、建築技術者と歴史	11. 日本建築史 2 お雇い外国人と日本人建築家の誕生	12. 日本建築史 3 様式建築とモダニズム	
2. 西洋建築史 1 近代以前の西洋建築史	13. 日本建築史 4 震災からの復興	14. 日本建築史 5 日本建築界からの発信	
3. 西洋建築史 2 産業革命と建築	15. 日本建築史試験	16. 答案の返却と解説、総括授業	
4. 西洋建築史 3 伝統様式からの脱却			
5. 西洋建築史 4 都市問題と建築			
6. 西洋建築史 5 近代建築			
7. 西洋建築史 6 巨匠の時代			
8. 西洋建築史試験			
<b>教科書</b>	コンパクト版建築史【日本・西洋】／『建築史』編集委員会編:彰国社		
<b>参考書</b>	適宜紹介する		
<b>成績評価の方法</b>	2回の試験を行い、合計60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義内容の理解のためには、多くの建築物を現地で見学することを推奨する。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の6に100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) kojiro@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしながら授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5111760
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	建築物のしくみ[Introduction of Architecture]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	建築一般の知識を学ぶことにより、建築学への理解、並びに実践的な内容に対する理解を深める。特に建築構造に関する基礎的知識を習得する。		

<b>授業の概要</b> 建築物はどのようなしくみで成り立っているのか、建築物の基本的機能とそれらを実現する各部分の造り方を学ぶ。建築物を造りあげるために、具体的にどのような材料を用い、どのような構法が採用されているかを平易に解説する。		
<b>キーワード</b> 建築構法、建築構造		
<b>到達目標</b> 1. 建築物の一般的な構造・材料・施工法・構法が理解できるようになることを目的とする。前半は、建築物の構造形式・荷重と外力・構造材料と構法・構造形式の変遷等についてその概要を理解する。後半では、現在一般的に用いられている構造種類(木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造など)ごとに、様々な部位の名称とその役割や特徴を具体的に理解する。		
<b>授業の計画</b>	6. 木造3:骨組と材料2	11. 鉄骨造1:地盤・基礎
1. 建築学とは(ガイダンス)	7. 木造4:屋根・外壁等	12. 鉄骨造2:骨組と材料
2. 基礎的建築用語の解説	8. 鉄筋コンクリート造1:地盤・基礎	13. 鉄骨造3:屋根・外壁等
3. 各種構法・施工手順の概要	9. 鉄筋コンクリート造2:ラーメン構造	14. その他の構造他:SRC造・組積造等
4. 木造1:地盤・基礎	10. 鉄筋コンクリート造3:屋根・外壁等	15. 学期末試験
5. 木造2:骨組と材料1		
<b>教科書</b> やさしい建築一般構造/今村仁美、田中美都:学芸出版社		
<b>参考書</b> 木造建築を見直す/坂本功:岩波新書 建築ビジュアル辞典:彰国社		
<b>成績評価の方法</b> 学期末試験と授業への参加内容を評価し、評点が60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>		
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎:エコ棟 606 号室 088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎:kojiro@tokushima-u.ac.jp	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5111770
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	建築製図1[Drawing for Architecture 1]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本講義では、木造戸建住宅を取り上げ、その建築に必要な図面を模写することで、建築製図と木構造の基礎を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	まず、建築活動における図面の役割と、製図道具の使い方について説明し、基本的な線などの作図の練習を行う。その後、木造2階建て住宅の図面を模写する。		
<b>キーワード</b>	建築製図、木造住宅、図面		
<b>到達目標</b>	木造住宅の図面を描き、内容を理解することができる。		
<b>授業の計画</b>	8. 立面図の模写	9. 矩計図の模写	10. 矩計図の模写
1. ガイダンス、図面の役割	9. 立面図の模写	10. 矩計図の模写	11. 基礎伏図の模写
2. 製図道具の説明および使い方、線・文字等の練習 1	10. 矩計図の模写	11. 基礎伏図の模写	12. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写
3. 線・文字等の練習 2、JIS表記法に基づいた作図の練習	11. 基礎伏図の模写	12. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	13. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写
4. 配置図兼1階平面図・2階平面図の模写	12. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	13. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	14. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写
5. 配置図兼1階平面図・2階平面図の模写	13. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	14. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	15. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写
6. 配置図兼1階平面図・2階平面図の模写	14. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	15. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写	
7. 立面図の模写	15. 1階床伏図の模写・2階床伏図 1階小屋伏図の模写		
<b>教科書</b>	初学者の建築講座 建築製図(第3版)/初学者の建築講座編集委員会:市ヶ谷出版		
<b>参考書</b>	コンパクト建築設計資料集成/日本建築学会編:丸善 数多く出版されている有名建築家の作品集、建築関連雑誌(新建築、GA等)を通じて情報収集するだけでなく、現地で多くの建築物を見学することを推奨する。		

<b>成績評価の方法</b>	出欠状況と全ての課題図面で評価し、60点以上を合格とする。トレース課題が仕上がっていないおよび未提出課題が一つでもある場合は不合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	担当講師より、授業で使用する必要な製図用具の購入を指示する。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標の3(4)に100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 河村 勝 A301,088-656-9706 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 河村 勝 kawamura@tech.tokushima-u.ac.jp 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5111780
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	建築製図2[Drawing for Architecture 2]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	本講義では、鉄筋コンクリート造(RC)の建築物を取り上げ、その建築に必要な図面を模写することで、RC造の基礎を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	課題図面を模写する。		
<b>キーワード</b>	建築製図、鉄筋コンクリート構造、図面		
<b>先行科目</b>	『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(1.0)、『建築製図1[Drawing for Architecture 1]』(1.0)		
<b>関連科目</b>	『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	鉄筋コンクリート構造の建築物の図面を描き、内容を理解することができる		
<b>授業の計画</b>	6. 断面図の模写	11. 矩計図の模写	
1. ガイダンス、課題説明	7. 立面図の模写	12. 各部詳細図の模写	
2. 配置図兼1階平面図・2階平面図の模写	8. 立面図の模写	13. 各部詳細図の模写	
3. 配置図兼1階平面図・2階平面図の模写	9. 矩計図の模写	14. 各部詳細図の模写	
4. 配置図兼1階平面図・2階平面図の模写	10. 矩計図の模写	15. 展開図の模写	
5. 断面図の模写			
<b>教科書</b>	初学者の建築講座 建築製図(第3版)/初学者の建築講座編集委員会:市ヶ谷出版		
<b>参考書</b>	コンパクト建築設計資料集成/日本建築学会編:丸善 数多く出版されている有名建築家の作品集、建築関連雑誌(新建築、GA等)を通じて情報収集するだけでなく、現地で多くの建築物を見学することを推奨する。		
<b>成績評価の方法</b>	出欠状況と全ての課題図面で評価し、60点以上を合格とする。トレース課題が仕上がっていないおよび未提出課題が一つでもある場合は不合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	1. 昼間コースの学生については受講者数の制限を行うことがある。 2. 昼間コースの学生は、卒業単位に含まれない。 3. 担当講師より、授業で使用する必要な製図用具の購入を指示する。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(4)に100%対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 河村 勝 A301,088-656-9706 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 河村 勝 kawamura@tech.tokushima-u.ac.jp 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp		

備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	--

開講学期	3年・後期	時間割番号	5111790
科目分野	専門共通科目(選択)		
選必区分	要件外		
科目名	建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]		
担当教員	塚越 雅幸, 工学部非常勤講師 [Masayuki Tsukagoshi]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 本講義では、建築製図1, 2で学んだ製図法と建築空間計画で学んだ計画論の応用として、住宅と幼稚園の設計を行い、図面で表現する技術を学ぶ。

**授業の概要** 本講義では2つの課題が課せられる。第1課題(住宅)、第2課題(幼稚園)とも、最初に課題説明と先進事例の紹介を行い、残りの時間で設計製図を行う。各課題の提出日に発表会と講評を行う。

**キーワード** 建築製図, 建築設計, 図面, 住宅, 幼稚園

**先行/科目** 『建築製図1[Drawing for Architecture 1]』(1.0) 『建築製図2[Drawing for Architecture 2]』(1.0) 『CAD演習[Practice on Computer Aided Design and Drawing]』(1.0)

**到達目標** 住宅と幼稚園を設計し、図面で表現することができる。

<b>授業の計画</b>	6. 立面図の作成	11. エスキス
1. 第1課題説明(住宅), 先進事例紹介	7. 断面図の作成	12. エスキス
2. エスキス	8. 第1課題提出, 発表会, 講評	13. 配置図, 平面図の作成
3. エスキス	9. 第2課題説明(幼稚園), 先進事例紹介	14. 立面図の作成
4. エスキス	10. エスキス	15. 断面図の作成
5. 配置図, 平面図の作成		16. 第2課題提出, 発表会, 講評

**教科書** コンパクト建築設計資料集成第3版/日本建築学会編:丸善

**参考書** 初めての建築計画/建築のテキスト編集委員会:学芸出版社  
建築設計資料/建築思潮研究所編:建築資料研究社  
数多く出版されている有名建築家の作品集, 建築関連雑誌(新建築, GA等)を通じて情報収集するだけでなく、現地で多くの建築物を見学することを推奨する。

**成績評価の方法** 出欠状況と最終成果物(提出図面)で評価し、60点以上を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

1. 受講のためには、建築製図1, 建築製図2, CAD演習を履修していることが必要である。
2. 担当講師より、授業で使用する必要な製図道具の購入を指示する。
3. 昼間コースの学生については受講者数の制限を行うことがある。
4. 昼間コースの学生は、卒業単位に含まれない。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本科目は本学科の教育目標の3(4)に100%対応する。

<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 河村 勝 (A301 088-656-9706 kawamura@tech.tokushima-u.ac.jp)
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	3年・前期	時間割番号	5111800
科目分野	専門共通科目(選択)		
選必区分	要件外		
科目名	CAD演習[Practice on Computer Aided Design and Drawing]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 近年、実務における建築計画及び設計製図では、CAD利用が日常化している。そこで本講義では、比較的事務での利用が多い2D-CADであるJW-CADならびに、3DCGの入門ソフトとしてGoogle SketchUpを取り上げ、建築計画での活用と設計製図における利用法を学ぶ。

**授業の概要** JW-CADを使った建築設計製図のプロセスを習得する。Google SketchUpを用いて、JW-CADのデータから3DCGを起こしていくプロセスとともに、プレゼン技法を習得する。

**キーワード** 建築製図, CADを用いた設計製図プロセス, 2D-CAD, JW-CAD, 3DCG, Google SketchUp, プレゼン技法

**先行/科目** 『建築製図1[Drawing for Architecture 1]』(1.0)

**関連/科目** 『建築製図2[Drawing for Architecture 2]』(0.5) 『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(1.0)

- 到達目標**
1. JW-CADを使って建築製図を書くことができる
  2. Google SketchUpを使って2D図面を3DCGに起こしてプレゼンすることができる

<b>授業の計画</b>	8. CADでの建築設計図面の書き方3・課題8
1. ガイダンス, JW-CADの紹介, JW-CAD基本操作1・課題1	9. CADでの建築設計図面の書き方4・課題9
2. JW-CAD基本操作2・課題2	10. Google SketchUpの紹介, SketchUp基本操作1・課題10
3. JW-CAD基本操作3・課題3	11. SketchUp基本操作2・課題11
4. JW-CAD基本操作4・課題4	12. SketchUp基本操作3・課題12
5. JW-CAD基本操作5・課題5	13. 2DCADデータ3DCGで活用する手法1・課題13
6. CADでの建築設計図面の書き方1・課題6	14. 2DCADデータ3DCGで活用する手法2・課題14
7. CADでの建築設計図面の書き方2・課題7	15. 2DCADデータ3DCGで活用する手法3・課題15

**教科書** Jw\_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013/Jiro Shimizu, Yoshifumi Tanaka:エクスマレッジ  
Google SketchUp パーフェクト基本操作編 バージョン8 無料版/Pro版対応/阿部 秀之:エクスマレッジ

**参考書** 教員より参考書等が示されることがある。

**成績評価の方法** 出欠状況と最終成果物(提出図面)で評価し、60点以上を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 3DCGの講義で利用するパソコンは学生自身が用意すること

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本学科の教育目標の3(4)に100%対応する。

<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎 エコ606,088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	4年・前期	時間割番号	5111810
科目分野	専門共通科目(選択)		
選必区分	要件外		
科目名	建築設計製図2[Design and Drawing for Architecture 2]		
担当教員	渡辺 公次郎 [Kojiro Watanabe]		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)

**授業の目的** 本講義では、建築製図1, 建築製図2で学んだ製図法と建築計画1, 建築計画2で学んだ計画論の応用として、オフィスビルと高齢者福祉施設の設計製図を行う。

**授業の概要** 本講義では2つの課題が課される。第1課題(オフィスビル)、第2課題(高齢者福祉施設)とも、最初に課題説明と先進事例の紹介を行い、残りの時間で設計製図を行う。各課題の提出日に発表会と講評を行う。

**キーワード** 建築設計製図, オフィスビル, 高齢者福祉施設

**先行/科目** 『建築製図1[Drawing for Architecture 1]』(1.0) 『建築製図2[Drawing for Architecture 2]』(1.0) 『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(1.0) 『建築計画1[Architectural Planning 1]』(1.0) 『建築計画2[Architectural Planning 2]』(1.0)

**関連/科目** 『CAD演習[Practice on Computer Aided Design and Drawing]』(1.0) 『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(0.5)

**到達目標** オフィスビルと高齢者福祉施設を設計し、図面として表現できる。



<b>授業の計画</b>	6. 立面図の作成	12. エスキス
1. ガイダンス、第1課題説明(オフィスビル)、先進事例紹介	7. 断面図の作成	13. 配置図、平面図の作成
2. エスキス	8. 第1課題提出、発表会・講評	14. 立面図の作成
3. エスキス	9. 第2課題説明(高齢者福祉施設)、先進事例紹介	15. 断面図の作成
4. エスキス	10. エスキス	16. 第2課題提出、発表会・講評
5. 配置図、平面図の作成	11. エスキス	
<b>教科書</b>	コンパクト建築設計資料集成／日本建築学会編:丸善	
<b>参考書</b>	建築設計資料／建築思潮研究所編:建築資料研究社 数多く出版されている有名建築家の作品集、建築関連雑誌(新建築、GA等)を通じて情報収集するだけでなく、現地で多くの建築物を見学することを推奨する。	
<b>成績評価の方法</b>	出欠状況と最終成果物で評価し、60点以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>	1. 昼間コースの学生については受講者数の制限を行うことがある。 2. 昼間コースの学生は、卒業単位に含まれない。 3. 建築製図1, 建築製図2, CAD 演習, 建築設計製図1を履修していること。 4. 担当講師より授業で使用が必要な道具, 模型材料の購入を指示する。	
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(4)に100%対応する。	
<b>WEBページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) kojiro@tokushima-u.ac.jp	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5111820
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	まちづくり論[Town Planning]		
<b>担当教員</b>	渡辺 公次郎 [Kojiro Watanabe]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本講義の目的は、地区レベルのまちづくりについて、基本的な考え方と実践例を学ぶことである。		
<b>授業の概要</b>	本講義では、まず、まちづくりで扱う対象として、景観、環境、防災を取り上げ、計画策定に関する基本的な考え方と実践例を紹介する。次に、まちづくりを実現するための手段として住民参加、制度、ICTを用いた支援ツールを取り上げ、基本的な考え方と応用例を紹介する。		
<b>キーワード</b>	都市計画、まちづくり		
<b>先行/科目</b>	『都市・交通計画[Urban & Transport Planning]』(1.0)、『計画の論理[Planning Theory]』(1.0)、『参加型デザイン[Participatory Design]』(1.0)、『景観デザイン[Landscape Design]』(1.0)、『建築計画1[Architectural Planning 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(0.5)、『建築計画2[Architectural Planning 2]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	まちづくりに関する計画策定と実現するための手段について、基本的な考え方を理解する。		
<b>授業の計画</b>	3. 環境まちづくり	6. まちづくりを実現するための制度	
1. ガイダンス、都市問題と「まちづくり」	4. 防災まちづくり	7. ICTを用いたまちづくり支援ツール	
2. 景観まちづくり	5. 住民参加とまちづくり	8. 試験	
<b>教科書</b>	なし(資料配付)		
<b>参考書</b>	シリーズ<建築工学>7 都市計画／萩島 哲:朝倉書店 景観まちづくり(まちづくり教科書)／日本建築学会編:丸善 安全・安心のまちづくり(まちづくり教科書)／日本建築学会編:丸善 地球環境時代のまちづくり(まちづくり教科書)／日本建築学会編:丸善 コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる／山崎 亮:学芸出版		
<b>成績評価の方法</b>	試験を行い、60点以上を合格とする。		

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本科目は本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。
<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) kojiro@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5111450
<b>科目分野</b>	専門共通科目(選択)		
<b>選必区分</b>	要件外		
<b>科目名</b>	建築計画2[Architectural Planning 2]		
<b>担当教員</b>	渡辺 公次郎, 工学部非常勤講師 [Kojiro Watanabe]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	建設工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	建築物の設計を行うためには、そこで展開される人々の生活がうまく機能するような空間を計画することが必要である。本講義では、建築計画1の発展として、オフィスビルと高齢者福祉施設の計画論に加え、バリアフリーについて学ぶことで、建築設計に応用するための基礎的知識を得る。		
<b>授業の概要</b>	前半では、オフィスビルと高齢者福祉施設を取り上げ、その計画論について基礎的事項を学ぶ。後半ではバリアフリーを取り上げ、基礎的な考え方に加え、建築計画における応用を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	建築計画、オフィスビル、高齢者福祉施設、バリアフリー		
<b>先行/科目</b>	『建築計画1[Architectural Planning 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『建築計画1[Architectural Planning 1]』(1.0)、『建築設計製図1[Design and Drawing for Architecture]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. オフィスビルと高齢者福祉施設の建築計画に関する基礎知識を理解する。 2. 建築計画におけるバリアフリーについて、基礎知識を理解する。		
<b>授業の計画</b>	9. バリアフリー1 建築空間のバリアフリーの歴史と理念	10. バリアフリー2 身体能力に応じた建築空間の設計方法	
1. ガイダンス、安全性に配慮した建築計画	11. バリアフリー3 バリアフリー整備基準の解説	12. バリアフリー4 バリアフリー体験	
2. オフィスビルの計画1	13. バリアフリー5 先端のバリアフリー環境	14. バリアフリー6 大学キャンパスのユニバーサルデザイン化	
3. オフィスビルの計画2	15. バリアフリー7 身近な環境と住宅のバリアフリー	16. 期末試験	
4. オフィスビルの計画3			
5. 高齢者福祉施設の計画1			
6. 高齢者福祉施設の計画2			
7. 高齢者福祉施設の計画3			
8. 中間試験			
<b>教科書</b>	初めての建築計画／建築のテキスト編集委員会:学芸出版社		
<b>参考書</b>	講義中に適宜紹介する		
<b>成績評価の方法</b>	2回の試験を行い、60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	他学科、他学部学生も履修可能		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標の3(3)に100%対応する。		
<b>WEBページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	4年・後期	時間割番号	5111840																
科目分野	専門共通科目(選択)																		
選必区分	要件外																		
科目名	建築施工[Building Production and Construction Management]																		
担当教員	工学部非常勤講師																		
単位数	2	対象学生・年次	建設工学科(昼間)																
授業の目的	建築物の受注から完成までの施工技術及び各種工事の計画, さらに建築工事の主な管理項目である品質, 原価, 工程, 安全衛生, 環境の重要性を理解すること.																		
授業の概要	長い時間をかけて多様な関連主体の協働によって実施される建築工事について, 施工の流れに沿いながら, 生産方式の具体的内容を解説する.																		
キーワード	建築施工管理, 建築生産																		
先行/科目	『建設マネジメント[Construction Business Management]』(0.5) ,『建築物のしくみ[Introduction of Architecture]』(1.0)																		
関連/科目	『建築設備工学[Building Service Engineering]』(1.0) ,『建築法規[Introduction of Building Code]』(0.5)																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築工事について, 施工の流れに沿いながら生産方式の具体的内容を理解すること.</li> <li>2. 各工事の概要について説明できること.</li> </ol>																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス: 建築生産の基本的概念</td> <td>8. 躯体工事(5): 木造</td> </tr> <tr> <td>2. 施工計画(1)</td> <td>9. 中間まとめ</td> </tr> <tr> <td>3. 施工計画(2)</td> <td>10. 仕上げ・設備工事(1): 屋根・防水工事</td> </tr> <tr> <td>4. 躯体工事(1): 仮設工事・土工</td> <td>11. 仕上げ・設備工事(2): 仕上げ工事</td> </tr> <tr> <td>5. 躯体工事(2): 基礎工事・地業工事</td> <td>12. 仕上げ・設備工事(3): 設備工事</td> </tr> <tr> <td>6. 躯体工事(3): 鉄筋コンクリート造</td> <td>13. 建築生産総論(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 躯体工事(4): 鉄骨造</td> <td>14. 建築生産総論(2)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>			1. ガイダンス: 建築生産の基本的概念	8. 躯体工事(5): 木造	2. 施工計画(1)	9. 中間まとめ	3. 施工計画(2)	10. 仕上げ・設備工事(1): 屋根・防水工事	4. 躯体工事(1): 仮設工事・土工	11. 仕上げ・設備工事(2): 仕上げ工事	5. 躯体工事(2): 基礎工事・地業工事	12. 仕上げ・設備工事(3): 設備工事	6. 躯体工事(3): 鉄筋コンクリート造	13. 建築生産総論(1)	7. 躯体工事(4): 鉄骨造	14. 建築生産総論(2)		15. まとめ
1. ガイダンス: 建築生産の基本的概念	8. 躯体工事(5): 木造																		
2. 施工計画(1)	9. 中間まとめ																		
3. 施工計画(2)	10. 仕上げ・設備工事(1): 屋根・防水工事																		
4. 躯体工事(1): 仮設工事・土工	11. 仕上げ・設備工事(2): 仕上げ工事																		
5. 躯体工事(2): 基礎工事・地業工事	12. 仕上げ・設備工事(3): 設備工事																		
6. 躯体工事(3): 鉄筋コンクリート造	13. 建築生産総論(1)																		
7. 躯体工事(4): 鉄骨造	14. 建築生産総論(2)																		
	15. まとめ																		
教科書	初学者の建築講座 建築施工/中沢 明夫, 角田 誠:市ヶ谷出版社																		
参考書	初めての建築施工/建築のテキスト編集委員会:学芸出版社																		
成績評価の方法	レポート, 小テスト及び授業への参加内容を評価し, 評点が 60%以上を合格とする.																		
再試験の有無																			
受講者へのメッセージ	他学科, 他学部学生も履修可能.																		
JABEE合格																			
学習教育目標との関連	本科目は本学科の教育目標の 3(3)に 100%対応する.																		
WEB ページ																			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 渡辺公次郎 エコ 606,088-656-7612 (メールアドレス) 渡辺公次郎 kojiro@tokushima-u.ac.jp																		
備考	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.																		





## 機械工学科(昼間)

微分方程式 1 [Differential Equations (I)]	機械工学科(昼間)／深貝／2年・前期	52
微分方程式 2 [Differential Equations (II)]	機械工学科(昼間)／深貝／2年・後期	52
ベクトル解析 [Vector Analysis]	機械工学科(昼間)／岡本／2年・前期	53
複素関数論 [Complex Analysis]	機械工学科(昼間)／水野／2年・後期	53
微分方程式特論 [Differential Equations (III)]	機械工学科(昼間)／深貝／3年・前期	53
確率統計学 [Probability and Statistics]	機械工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・前期	54
解析力学 1 [Analytical mechanics 1]	機械工学科(昼間)／中村 他／2年・前期	54
解析力学 2 [Analytical mechanics 2]	機械工学科(昼間)／中村 他／2年・後期	54
基礎波動論 [Fundamentals of Wave Motion]	機械工学科(昼間)／岸本／3年・前期	55
工業物理学実験 [Laboratory in General Physics]	機械工学科(昼間)／中村 他／2年・前期	55
材料・構造力学 [Elementary Strength of Materials]	機械工学科(昼間)／高木 他／2年・前期	55
材料力学 [Strength of Materials]	機械工学科(昼間)／西野 他／2年・後期	56
もの作り創造材料学 [Engineering Materials]	機械工学科(昼間)／高木 他／3年・前期	56
材料科学 [Materials Science]	機械工学科(昼間)／岡田／3年・後期	57
材料強度学 [Strength and Fracture Behavior of Materials]	機械工学科(昼間)／村上／3年・後期	57
計算力学 [Computational Mechanics]	機械工学科(昼間)／大石／3年・後期	58
流体力学 [Fluid Dynamics]	機械工学科(昼間)／福富 他／2年・後期	58
流れ学 [Fluid Dynamics]	機械工学科(昼間)／太田／3年・前期	59
流体機械 [Fluid Machinery]	機械工学科(昼間)／重光／3年・後期	59
工業熱力学 [Engineering Thermodynamics]	機械工学科(昼間)／木戸口 他／2年・通年	59
工業熱力学演習 [Exercise of Engineering Thermodynamics]	機械工学科(昼間)／木戸口 他／ 2年・通年	60
伝熱工学 [Heat Transfer Engineering]	機械工学科(昼間)／出口 他／3年・後期	60
蒸気プラント工学 [Steam Power Plant Engineering]	機械工学科(昼間)／出口 他／4年・前期	61
内燃機関 [Internal Combustion Engine]	機械工学科(昼間)／木戸口／3年・前期	61
機構学 [Mechanism]	機械工学科(昼間)／日野／1年・後期	61
機械設計 [Machine Design]	機械工学科(昼間)／長町／2年・後期	62
設計工学 [Design Engineering]	機械工学科(昼間)／長町／4年・前期	62
振動工学 [Applied Dynamics of Machine]	機械工学科(昼間)／日野 他／2年後期・3年前期	62
振動工学演習 [Exercise of Applied Dynamics of Machine]	機械工学科(昼間)／日野 他／ 2年後期・3年前期	63
生産加工システム [Machining and Introduction to Manufacturing System]	機械工学科(昼間)／ 石田 他／2年・前期	63
精密加工学 [Precision Machining]	機械工学科(昼間)／石田／3年・後期	64
塑性加工学 [Metal Forming and Theory of Plasticity]	機械工学科(昼間)／多田／4年・前期	64
機械計測 [Mechanical Measurement]	機械工学科(昼間)／安井 他／3年・前期	64
科学計測 [Scientific Measurements]	機械工学科(昼間)／米倉／3年・後期	65
自動制御理論 1 [Automatic Control theory 1]	機械工学科(昼間)／小西 他／3年・前期	65
自動制御理論 2 [Automatic Control theory 2]	機械工学科(昼間)／小西／3年・後期	66
制御工学 [Control Engineering]	機械工学科(昼間)／三輪／4年・後期	66
画像処理 [Image Processing]	機械工学科(昼間)／浮田／4年・前期	67
電子回路 [Electronic Circuits]	機械工学科(昼間)／大石／2年・前期	67
メカトロニクス工学 [Mechatronics Engineering]	機械工学科(昼間)／岩田／2年・後期	67
ロボット工学 [Robotics]	機械工学科(昼間)／岩田 他／3年・後期	68
知識ベースシステム [Knowledgebase Systems]	機械工学科(昼間)／伊藤／4年・後期	68
機械工学輪講 [Mechanical Engineering Seminar]	機械工学科(昼間)／工学部機械工学科教員／ 3年・後期	69

C言語実習 [C Language Programming Exercise]	機械工学科(昼間)／浮田 他／1年・後期	69
C A D実習 [Computer Graphics and Computer-Aided Drawing Practice]	機械工学科(昼間)／ 伊藤 他／2年・前期	69
機械数値解析 [Numerical Analysis]	機械工学科(昼間)／草野 他／2年・後期	70
メカトロニクス実習 [Mechatronics Laboratory]	機械工学科(昼間)／岩田 他, 佐藤 克也／ 3年・後期	70
機械工学実験 [Mechanical Engineering Laboratory]	機械工学科(昼間)／工学部機械工学科教員／ 3年・前期	71
機械基礎実習 [Introduction to Mechanical Engineering Laboratory]	機械工学科(昼間)／ 木戸口 他, 西野 秀郎, 園部 元康／1年・前期	71
基礎機械製図 [Fundamental Mechine Drawing]	機械工学科(昼間)／水谷 他, 園部 元康／ 1年・後期	72
機械設計製図 [Design of Machine Elements and Drawing]	機械工学科(昼間)／ 安井 他, 清田 正徳, 工学部非常勤講師／3年・前期	72
創造基礎実習 [Practice of Elementary Machine Creation]	機械工学科(昼間)／伊藤 他, 溝渕 啓／ 1年・前期	73
創造実習 [Machine Creation Laboratory]	機械工学科(昼間)／日下 他, 三輪 昌史／3年・後期	73
自動車工学 [Automotive Engineering]	機械工学科(昼間)／非常勤／4年・後期	74
生産管理 [Production Control]	機械工学科(昼間)／非常勤／4年・後期	74
労務管理 [Personnel Management]	機械工学科(昼間)／非常勤／4年・後期	74
技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics for Engineers]	機械工学科(昼間)／村上 他／4年・前期	75
工業英語 1 [Engineering English 1]	機械工学科(昼間)／ナカガイト 他, 米倉 大介／3年・前期	75
工業英語 2 [Engineering English 2]	機械工学科(昼間)／ナカガイト 他／3年・後期	76
コミュニケーション技法 [Communication Skill]	機械工学科(昼間)／非常勤／3年・前期	76
卒業研究 [Graduation Thesis]	機械工学科(昼間)／工学部機械工学科教員／4年・通年	77
半導体ナノテクノロジー基礎論 [Introduction to Semiconductor Nanotechnology]	機械工学科(昼間)／ 井須 他／3年・後期	77

開講学期	2年・前期	時間割番号	5121010
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
担当教員	深貝 暢良 [Nobuyoshi Fukagai]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	常微分方程式の初等的な解法を修得し、さらに工学の諸分野に現われる微分方程式の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	微分方程式の理論は数理工学的な現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。		
キーワード	微分方程式、求積法、線形方程式、微分積分		
先行／科目	『微分積分学 I [Calculus 1]』(1.0)、『微分積分学 II [Calculus 2]』(1.0)、『線形代数学 I [Linear Algebra 1]』(1.0)、『線形代数学 II [Linear Algebra 2]』(1.0)		
関連／科目	『微分方程式2[Differential Equations (II)]』(0.5)、『微分方程式特論[Differential Equations (III)]』(0.5)、『ベクトル解析[Vector Analysis]』(0.5)、『複素関数論[Complex Analysis]』(0.5)		
到達目標	1. 2 階の定数係数線形常微分方程式が解ける。 2. 簡単な求積法が理解できる。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに</li> <li>変数分離形 ... (教科書, 第 1 章, 求積法)</li> <li>同次形 ... (教科書, 第 1 章, 求積法)</li> <li>1 階線形微分方程式 ... (教科書, 第 1 章, 求積法)</li> <li>完全微分形 ... (教科書, 第 1 章, 求積法)</li> <li>高階微分方程式 ... (教科書, 第 1 章, 求積法)</li> <li>解についての基本定理 ... (教科書, 付録, 解の存在と一意性)</li> <li>マクローリン級数, オイラーの関係式 ... (プリント資料)</li> <li>2 階線形同次微分方程式 ... (教科書, 第 2 章, 線形常微分方程式)</li> <li>非同次微分方程式 ... (教科書, 第 2 章, 線形常微分方程式)</li> <li>微分演算子 ... (教科書, 第 2 章, 線形常微分方程式)</li> <li>定数係数の微分方程式 (1) ... (教科書, 第 2 章, 線形常微分方程式)</li> <li>定数係数の微分方程式 (2) ... (教科書, 第 2 章, 線形常微分方程式)</li> <li>級数解法 ... (教科書, 第 2 章, 線形常微分方程式)</li> <li>まとめ</li> <li>期末試験</li> </ol>		
教科書	工科系のための微分方程式／杉山昌平:実教出版		
参考書	理工系のための微分積分 I, II／鈴木武・柴田良弘ほか:内田老鶴圃 微分方程式／長瀬道弘:裳華房 微分方程式、やさしい解き方／三宅敏恒:培風館 常微分方程式の解法／木村俊房:培風館 微分方程式入門／古屋茂:サイエンス社 ポントリヤーギン『常微分方程式 新版』共立出版		
成績評価の方法	期末試験に基づいて行う。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	《注意 1》●この授業では「微分積分学」の理解を基本としてさらに新たな内容を積み重ねます。毎週の予習と復習が必要です。●授業がはじまるまでに教科書の該当箇所をみておきましょう。とても理解の効率が上がります。そして復習も容易になり、学期末試験の良好な結果が期待されるようになります。《注意 2》●方程式の解法の事後処理として必ず「検算」をするように心がけましょう。検算は求めた解を方程式に代入して具体的に式をみたくことを確かめる作業です。●どのような分野においても「事後検査による信頼性の確保」は極めて重要な手続きとみなされています。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 工学部数学教室 (A 棟 219 室) (オフィスアワー) 木曜日 15:00～16:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5121020
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
担当教員	深貝 暢良 [Nobuyoshi Fukagai]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	連立常微分方程式の解法、ラプラス変換の初歩、そして簡単な偏微分方程式の解法を修得し、より実際的な工学的な問題に応用できるようにする。		
授業の概要	「微分方程式 1」に続いて現代工学すべての基礎として重要な役割を果たしている連立常微分方程式系の基本的な解法を講義する。さらに、簡単な偏微分方程式の解法についても講義する。		
キーワード	微分方程式、連立線形方程式、ラプラス変換、微分積分、線形代数		
先行／科目	『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(1.0)、『微分積分学 I [Calculus 1]』(1.0)、『微分積分学 II [Calculus 2]』(1.0)、『線形代数学 I [Linear Algebra 1]』(1.0)、『線形代数学 II [Linear Algebra 2]』(1.0)		
関連／科目	『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(0.5)、『微分方程式特論[Differential Equations (III)]』(0.5)		
到達目標	1. 簡単な定数係数連立線形常微分方程式が解ける。 2. ラプラス変換とその応用ができる。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>連立線形常微分方程式 ... (教科書, 第 3 章 &amp; 付録)</li> <li>線形代数の復習</li> <li>同次連立微分方程式 ... (教科書, 第 3 章 &amp; 付録)</li> <li>非同次連立微分方程式 ... (教科書, 第 3 章 &amp; 付録)</li> <li>基本行列の構成 ... (教科書, 第 3 章 &amp; 付録, プリント資料)</li> <li>計算例 (1)</li> <li>計算例 (2)</li> <li>ラプラス変換の定義 ... (教科書, 第 4 章, ラプラス変換)</li> <li>ラプラス変換の基本的な性質 ... (教科書, 第 4 章, ラプラス変換)</li> <li>ラプラス逆変換の計算 (1) ... (教科書, 第 4 章, ラプラス変換)</li> <li>ラプラス逆変換の計算 (2) ... (教科書, 第 4 章, ラプラス変換)</li> <li>常微分方程式への応用 ... (教科書, 第 4 章, ラプラス変換)</li> <li>1 階偏微分方程式 ... (教科書, 第 5 章, 偏微分方程式の解法)</li> <li>定数係数の 2 階線形偏微分方程式 ... (教科書, 第 5 章, 偏微分方程式の解法)</li> <li>まとめ</li> <li>期末試験</li> </ol>		
教科書	工科系のための微分方程式／杉山昌平:実教出版		
参考書	理工系のための微分積分 I, II／鈴木武・柴田良弘ほか:内田老鶴圃 線形代数講義／金子晃:サイエンス社 微分方程式、やさしい解き方／三宅敏恒:培風館 微分方程式／長瀬 道弘:裳華房 常微分方程式 新版／ポントリヤーギン:共立出版 木村俊房『常微分方程式の解法』培風館 古屋茂『微分方程式入門』サイエンス社		
成績評価の方法	期末試験に基づいて行う。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	《注意 1》●この授業は「微分積分学」と「線形代数学」の理解を基本としてさらに新たな内容を積み重ねます。毎週の予習と復習が必要です。●授業がはじまるまでに教科書の該当箇所をみておきましょう。とても理解の効率が上がります。そして復習も容易になり、学期末試験の良好な結果が期待されるようになります。《注意 2》●方程式の解法の事後処理として必ず「検算」をするように心がけましょう。検算は求めた解を方程式に代入して具体的に式をみたくことを確かめる作業です。●どのような分野においても「事後検査による信頼性の確保」は極めて重要な手続きとみなされています。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 工学部数学教室 (A 棟 219 室) (オフィスアワー) 木曜日 15:00～16:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5121030
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	ベクトル解析[Vector Analysis]		
担当教員	岡本 邦也 [Kuniya Okamoto]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	工学の解析に必要な不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに、ベクトル場の解析学を通して古典力学、流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的な理解・運用を目標とする。		
授業の概要	三次元空間のベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的效果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微分積分学を展開し、微分積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。		
キーワード	スカラー場・ベクトル場、勾配・発散・回転、グリーンの定理・ガウスの定理・ストークスの定理		
到達目標	1. ベクトル場の微分についての基礎的性質が理解でき、勾配、発散、および回転の基本事項が理解できる。 2. ベクトル場の各種の積分が理解でき、それらに関する基礎的な定理が理解できる。		
授業の計画	5. 曲線	9. ベクトル場の回転	13. 面積分
1. ベクトルの演算	6. 力学への応用	10. 演算子間の関係	14. ガウスの発散定理
2. 内積	7. スカラー場の勾配	11. ポテンシャル	15. ストークスの定理
3. 外積	8. ベクトル場の発散	12. 線積分	16. 期末試験
4. ベクトル値関数			
教科書	『ベクトル解析の基礎』(ライブラリ理工基礎数学 6)/寺田文行・木村宣昭:サイエンス社, 1998		
参考書	寺田文行・福田隆 共著『演習と応用ベクトル解析』(新・演習数学ライブラリ 5), サイエンス社		
成績評価の方法	講義への取り組み状況, 演習の回答, レポート等の平常点(30%)と期末試験の成績(70%)を総合して行う。全体で60%以上で合格とする。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	講義の妨げや他の受講者の迷惑になるので、授業中の私語は厳禁とする。悪質と判断される場合は、平常点や受験資格等について相応の処置を施す。		
JABEE合格	JABEE 合格は単位合格と同一とする。		
学習教育目標との関連	(A)に対応する。		
WEB ページ	http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/		
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡本(A棟212室, TEL/FAX: 088-656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 【WEB 頁】のHPを参照のこと		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5121040
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	複素関数論[Complex Analysis]		
担当教員	水野 義紀 [Yoshinori Mizuno]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微分積分学を修得する。		
授業の概要	微積分で扱う対象を複素数変数の関数にまで広げ、正則関数および有型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。		
キーワード	1.複素数 2.正則関数 3.コーシーの積分定理 4.留数定理		
到達目標	複素数, 複素微分の計算が出来る。正則関数の概要が理解できる。(授業計画1~6と対応し, 期末試験で評価)留数概念の理解とその応用ができる。(授業計画7~14と対応し, 期末試験で評価)		
授業の計画	1. 複素数	5. 正則関数	9. コーシーの積分公式
2. 複素平面	6. コーシー・リーマンの関係式	10. ベキ級数	13. 留数定理
3. 極形式	7. 複素積分	11. テイラー展開	14. 実積分への応用
4. 複素関数	8. コーシーの積分定理	12. ローラン展開	15. 期末試験
			16. 総括

教科書	初歩からの複素解析/香田・小野:学術図書出版社		
参考書	複素関数入門/神保道夫:岩波書店		
成績評価の方法	期末試験 100%		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	時間数の制約から、複素関数の計算を修得するための必要最小限な議論を行なうので、講義内容のすべてを吸収することが理解への早道である。日頃から予習・復習の計画を立てて勉学に勤しんでほしい。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水野 義紀(建設棟A204, E-mail:mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜 17時から18時		
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5121050
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式特論[Differential Equations (III)]		
担当教員	深貝 暢良 [Nobuyoshi Fukaga]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	数理解析学の強力な道具立てとして、フーリエの方法を学ぶ。		
授業の概要	フーリエが導入した三角級数展開およびフーリエ積分変換の理論を講義し、物理・工学に現れる偏微分方程式を初等的に扱うための基礎的な知識を提供する。基本的な説明したあとで理解を深めるための課題が与えられる。		
キーワード	フーリエの方法、三角関数級数、偏微分方程式、初期値境界値問題		
先行/科目	『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(1.0), 『微分方程式2[Differential Equations (II)]』(1.0), 『微分積分学 I [Calculus 1]』(1.0), 『微分積分学 II [Calculus 2]』(1.0)		
関連/科目	『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(0.5), 『微分方程式2[Differential Equations (II)]』(0.5)		
到達目標	1. フーリエ解析の初歩を理解する。 2. フーリエ級数の計算ができる。		
授業の計画	5. パーセバルの等式, 簡単な応用例	11. 偏微分方程式への応用	
1. フーリエ係数, フーリエ級数	6. フーリエ積分	12. 波動方程式	
2. 三角級数の和, ディリクレ核	7. ディリクレ積分公式, フーリエ積分公式	13. 熱伝導方程式	
3. リーマン・ルベグの定理, ベッセルの不等式	8. フーリエ反転公式	14. ラプラス方程式	
4. 展開定理	9. フーリエ変換, 合成積	15. まとめ	
	10. 変換の計算例	16. 期末試験	
教科書	工科大のための微分方程式/杉山昌平:実教出版		
参考書	フーリエの方法/入江昭二・垣田高夫:内田老鶴園 フーリエ解析とその応用/洲之内源一郎:サイエンス社 『フーリエ展開』/竹之内脩:秀潤社 フーリエ解析入門/スタイン、シャカルチ 藤原毅夫・栄伸一郎『フーリエ解析+偏微分方程式』裳華房 壁谷喜継『フーリエ解析と偏微分方程式入門』共立出版		
成績評価の方法	期末試験に基づいて行う。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	高度な内容につながる盛り沢山の講義である。丁寧にノートを読み込んで課題を完成させる。そのための質問をいくらでも受け付けている。使い方を理解するには、実用的な道具と割り切って、多数の計算練習を行なうとよい。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C:◎)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 工学部数学教室 (A棟219室) (オフィスアワー) 木曜日 15:00~16:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		



開講学期	2年・前期	時間割番号	5121060
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	確率統計学[Probability and Statistics]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	確率的な現象の捉え方、考え方を学ぶとともにデータを処理する際に使われる統計手法を習得することを目標とする。		
授業の概要	初めて数理統計を学ぶ初学者のために、統計資料の特徴の解析および確率論の基礎と小数標本論の初歩を解説する。		
キーワード	確率, 統計		
到達目標	1. 基本的な確率の計算ができる。 2. 基本的な分布関数が理解できる。		
授業の計画	5. 確率変数の独立性	9. 様々な連続的確率分布	13. 正規母集団の母平均の検定
1. 事象と確率	6. 確率変数の平均と分散	10. 統計学の考え方	
2. 確率の定義と性質	7. 連続的確率変数	11. 中心極限定理	14. 出現率の検定
3. 確率変数と確率分布	8. 正規分布	12. 仮説検定法の手順	15. 相関関係
4. 2項分布, ポアソン分布		16. 期末試験	
教科書	例題中心 確率・統計入門／坂光一他:学術図書出版社		
参考書	統計学要論／青木利夫, 吉原健一:培風館		
成績評価の方法	期末試験を70%, 講義への取り組み状況を30%として評価し, 全体で60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容が多岐にわたるため, テーマ別に数多くの演習問題をこなすことが望ましい。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A) に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 金 成海(総合科学部 1号館 3109室, TEL:656-7543, e-mail: kin@pm.tokushima-u.ac.jp)		
備考	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5121070
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	解析力学 1[Analytical mechanics 1]		
担当教員	中村 浩一, 工学部機械工学科教員 [Koichi Nakamura]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	基礎物理学で学んだ質点のニュートン力学につなげて, 質点系および剛体の力学, 解析力学の初歩を修得させる。		
授業の概要	まず, 質点の力学の基本的な事柄を整理し, 質点系での運動量や角運動量の概念を解説する。ついで, それを発展させ, 剛体のつりあいと運動の力学を説明する。その過程の中で, 機械力学をはじめ, 材料力学, 流体力学などの力学系科目の基礎原理が共通していることを習得する。		
キーワード	質点の力学, 質点系の力学, 剛体の力学, 解析力学		
到達目標	1. ベクトルと運動, 速度の法則, 運動方程式の基礎と簡単な運動への応用を行う。(授業計画 1 から 6 に対応) 2. 力学的エネルギー, 質点系の運動を理解する。(授業計画 7 から 14 に対応)		
授業の計画	6. 演習	11. 加速度系における運動	
1. 位置, 速度, 加速度	7. 運動エネルギーとポテンシャル	12. 演習	
2. 運動の3法則	8. エネルギー	13. 質点系の運動 I	
3. 演習	9. 力学的エネルギー保存の法則	14. 質点系の運動 II	
4. 運動方程式	10. 演習	15. 演習	
5. 振動	11. 中心力	16. 期末試験	

教科書	力学の基礎／橋本正章, 荒井賢三 共著, 裳華房, 1996, ISBN:9784785320683		
担当教員編	「解析力学演習」		
参考書	力学／原島鮮 著:裳華房, 1985, ISBN:9784785320201		
成績評価の方法	単位の取得:試験 70%(期末試験), 平常点 30%(授業への取り組み)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	基礎物理学の力学を履修しているものとする。微分積分の基礎知識を習得していることが望ましい。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A) 50%, (B)50%に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 建設棟 2F216 号室 TEL:088-656-7577 (メールアドレス) koichi@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 9:00~11:00		
備考	1. 微分積分の基礎知識を要する。 2. 成績評価に対する[平常点]と[期末試験の成績]の割合は 3:7 とする。 3. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5121080
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	解析力学 2[Analytical mechanics 2]		
担当教員	中村 浩一, 工学部機械工学科教員 [Koichi Nakamura]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	解析力学 1 で学んだ質点系の力学につなげて, 剛体の力学, 解析力学の初歩を修得させる。		
授業の概要	まず, 質点系での運動量や角運動量の概念を解説する。ついで, それを発展させ, 剛体のつりあいと運動の力学を説明する。次に, これらの力学的体系を一般化して取扱手法として, 解析力学の初歩を解説する。その過程の中で, 機械力学をはじめ, 材料力学, 流体力学などの力学系科目の基礎原理が共通していることを習得する。		
キーワード	剛体の力学, 解析力学		
先行/科目	『解析力学 1[Analytical mechanics 1]』(1.0)		
到達目標	1. 剛体の運動を理解する。(授業計画 1 から 10 に対応) 2. 解析力学の初歩の概念を理解し, ラグランジュの方程式を簡単な系に応用する。(授業計画 11 から 13 に対応し, 期末テストで評価)		
授業の計画	6. 剛体の平面運動	12. ラグランジュの運動方程式	
1. 剛体の運動	7. 演習	13. 演習	
2. 慣性モーメント I	8. 剛体の空間運動 I	14. まとめ	
3. 演習	9. 剛体の空間運動 II	15. 期末試験	
4. 慣性モーメント II	10. 演習	16. 総括	
5. 演習	11. ラグランジュ形式の基礎		
教科書	力学の基礎／橋本正章, 荒井賢三:裳華房, 1996, ISBN:9784785320683		
担当教員編	「解析力学演習」		
参考書	質点系・剛体の力学／原島鮮:裳華房, 1985, ISBN:9784785321284 工科系のための解析力学／河辺哲次:裳華房, 2012, ISBN:9784785322403		
成績評価の方法	単位の取得:試験 70%(中間, 期末試験), 平常点 30%(授業への取り組み)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	基礎物理学の力学, および解析力学 1 を履修しているものとする。微分積分の基礎知識を習得していることが望ましい。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(A) 50%, (B)50%に対応する。		
WEB ページ			

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中村 浩一:建設棟 2F216 号室 TEL:088-656-7577 村上 理一:(M318), Tel:088-656-7392 福富 純一郎:(M519, Tel:088-656-7367)
	(メールアドレス) 中村 浩一:koichi@pm.tokushima-u.ac.jp 村上 理一:murakami@tokushima-u.ac.jp 福富 純一郎:fukutomi@me.tokushima-u.ac.jp
	(オフィスアワー) 中村 浩一:月曜日 9:00～11:00 村上 理一:毎週月曜日 16:00～M 棟3階 318 室 福富 純一郎:木 17:00～18:00
<b>備考</b>	1. 微分積分の基礎知識を要する。 2. 成績評価に対する[平常点]と[期末試験の成績]の割合は 3:7 とする。 3. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121090
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	基礎波動論[Fundamentals of Wave Motion]		
<b>担当教員</b>	岸本 豊 [Yutaka Kishimoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 波は身近な現象である。ある時刻のある点での状況が別の時刻の別の点に伝わるとき、波の形をとることが多い。波の現象の基礎的内容を講義する。

**授業の概要** まず、単振動、減衰振動、強制振動等の振動体が1つの場合の振動現象を説明し、次に振動体が複数ある場合として連成振動を扱い基準振動、基準座標を導く。さらに連続体の振動を扱う。これらの振動現象の知識に基づいて、波を表す方程式を考え、弾性波を調べる。また、波のエネルギー伝達、反射、透過を考える。

**キーワード**

**到達目標**

1. 振動現象の基礎を理解する。(授業計画 1 から 8 に対応し、期末テストで評価)
2. 波の基本的なしくみ、性質を理解する。(授業計画 9 から 13 に対応し、期末テストで評価)
3. 波の干渉、回折現象などを理解する。(授業計画 14 に対応し、期末テストで評価)

**授業の計画**

1. 単振動, 単振動の運動方程式	6. 連続体の振動, 弦の振動	12. 波のエネルギーとインピーダンス, 波の反射と透過
2. 減衰振動	7. 連続体の振動, 棒の振動	13. うなりと群速度
3. 強制振動	8. 連続体の振動, 膜の振動	14. 波の干渉と回折
4. 振動のエネルギーと強制力の仕事	9. 波, 波動方程式	15. 予備日
5. 連成振動, 基準振動, 基準座標	10. 一次元, 三次元の波. 平面波, 球面波	16. 期末試験
	11. 弾性波	

**教科書** 振動・波動／有山正孝:裳華房, ISBN:9784785321093

**参考書** 振動と波／長岡洋介:裳華房 パークレー物理学コース3 波動(上, 下):丸善  
振動・波動演習／有山正孝・品田正樹・林 信夫:裳華房, ISBN:978-4-7853-2129-

**成績評価の方法** 試験 70%(期末試験), 平常点 30%(授業への取組み状況)として評価し、全体で 60%以上で合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** (A)50%, (B)50%に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
----------------	--

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岸本 豊(A202, 088-656-7548) (メールアドレス) yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp
-------------------------------	--

<b>備考</b>	1. 微分積分の基礎知識を要する。 2. 成績評価に対する[平常点]と[期末試験の成績]の割合は 3:7 とする。 3. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
-----------	---

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5121100
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	工業物理学実験[Laboratory in General Physics]		
<b>担当教員</b>	中村 浩一, 川崎 祐 [Koichi Nakamura, Yu Kawasaki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 物理学の基本概念のさらなる理解、および実験を行なう際の基本事項の修得を目的として、基礎的な物理学実験を行なう。

**授業の概要** 基本測定(統計処理)、力学(ボルダの振り子、角運動量)、物性(ヤング率、単剛性率、表面張力、粘性係数、抵抗の温度変化)、電磁気学(等電位線、磁気モーメント、静電容量、電磁誘導、ダイオード・トランジスタの特性、ホール効果)、熱(比熱、熱伝導率、温度伝導率)、波動(フレネルの複プリズム、分光器と回折格子)、原子物理学(スペクトル、光電効果、プランク・ヘルツの実験)よりテーマを選択し、3～4 名ずつの班ごとに実験を行ない、レポートを作成・提出する。

**キーワード** 物理学実験

**到達目標**

1. 実験を行なう際の基本事項を理解する。(実習で評価)
2. 実験を通して物理現象を理解し、データの解析および考察を行なえるようになる。(実習とレポート内容で評価)
3. レポート作成の技法を修得する。(レポート内容で評価)

**授業の計画**

1. オリエンテーション	5. レポート指導	9. レポート指導	13. 実験第 9 回
2. 実験第 1 回	6. 実験第 4 回	10. 実験第 7 回	14. 実験第 10 回
3. 実験第 2 回	7. 実験第 5 回	11. 実験第 8 回	15. レポート指導(予備日)
4. 実験第 3 回	8. 実験第 6 回	12. レポート指導	16. レポート最終指導・提出

**教科書** 当実験のための教科書「工業物理学実験」を使用する。

**参考書**

**成績評価の方法** 規定回数以上出席し、レポートを期限内に提出した受講者に対し、レポート(提出状況、内容等)70%、平常点(受講姿勢等)30% として評価し、総合で 60% 以上を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 実験レポートを各実験の次回の実験時に提出すること。チェック後再提出を指示する場合がある。その際は提出締め切りまでに提出すること。実験時の安全について受講者は十分に注意すること。

**JABEE合格** 【授業評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** (C) に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
----------------	--

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中村 浩一:建設棟 2F216 号室 TEL:088-656-7577 川崎 祐:(A207, Tel: 088-656-9878, E-mail: yu@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) 中村 浩一:koichi@pm.tokushima-u.ac.jp 川崎 祐:yu@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 中村 浩一:月曜日 9:00～11:00
-------------------------------	--

<b>備考</b>	1. 本講義の受講は、予習により実験内容が理解されている事を前提とする。なお、実験時の安全について受講者各人は十分に注意すること。 2. 本講義の履修には十分な予習と復習が必要である。
-----------	---

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5121110
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	材料・構造力学[Elementary Strength of Materials]		
<b>担当教員</b>	高木 均, 岡田 達也 [Hitoshi Takagi, Tatsuya Okada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 機械や構造物の部材に、様々な形態の外力が作用したとき、各部に生じる応力と変形の解析法を講義し、適宜行う小テストおよび章ごとに与えるレポートを通して、設計に有効な安全な寸法を決定する手法を修得させる。

<b>授業の概要</b> 応力とひずみの概念およびフックの法則を理解させ、常に材料の許容応力と許容変位を念頭において設計に役立てることを主眼に、引張圧縮変形、ねじり変形および曲げ変形中に生じる応力と変位を求める方法を講義し、材料の弾性変形に関する基礎知識を養成する。			
<b>キーワード</b> 応力、ひずみ、フックの法則、不静定問題、ねじり、曲げ			
<b>関連/科目</b> 『材料力学[Strength of Materials]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 応力、ひずみの概念およびフックの法則を理解する。			
2. 引張・圧縮、ねじりおよび曲げ変形において生じる応力、ひずみを導出する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 材料に生じる応力とその定義	9. 真直はりのせん断力と曲げモーメント	10. せん断力線図と曲げモーメント線図(集中荷重)	11. せん断力線図と曲げモーメント線図(分布荷重)
2. 材料に生じるひずみとその定義	12. 真直はりに生じる応力	13. 図心の計算	14. 断面二次モーメントの計算
3. フックの法則と弾性係数	15. はりのたわみ曲線	16. 期末試験	
4. 引張圧縮変形における静定問題			
5. 引張圧縮変形における不静定問題			
6. 熱応力と残留応力			
7. ねじりによる変形と応力			
8. 伝動軸の設計			
<b>教科書</b> 図解でわかるはじめての材料力学／有光隆:技術評論社, 1999, ISBN:4774107255			
<b>参考書</b> 材料力学／黒木剛司郎:森北出版, 1999, ISBN:4627620136 材料力学:考え方解き方 第4版／萩原國雄:東京電機大学出版局, 2010, ISBN:4501418508 材料力学の学び方・解き方:新形式／材料力学教育研究会 編:共立出版, 1994, ISBN:432008103X なっとくする材料力学／辻知章:講談社, 2002, ISBN:4061545396 材料力学の基礎／柴田俊忍 [ほか]共著:培風館, 1991, ISBN:4563034657			
<b>成績評価の方法</b> 中間試験 40 点, 期末試験 60 点の合計 100 点満点で成績評価する。60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は実施しない。			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
2. 授業中に簡単な演習問題を解くことがあるため関数電卓を忘れずに持参すること。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である			
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡田達也 (M616 室), 高木均 (M620 室)		
<b>備考</b>	1. 合格しなかった場合には再受講となることもある。 2. 講義の単位を取得するためには、必ず復習と予習をしなければならないことが前提になっている。 3. レポートの提出期限を厳守する。解けないときには、オフィスアワーを利用して質問すること。 4. 土曜日・日曜日・祝日に補講・試験を行うことがある。		

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5121120
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	材料力学[Strength of Materials]		
<b>担当教員</b>	西野 秀郎, 佐藤 克也 [Hideo Nishino, Katsuya Satoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械や構造物の部材に、様々な形態の外力が作用したとき、各部に生じる応力と変形の解析法を講義し、毎回行う小テストおよび適時与えるレポートを通して、設計に有効な安全な寸法を決定する手法を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	曲げ変形の復習を含めて理解を深めるとともに、複雑な応力とひずみ状態の解析法、ひずみエネルギーの有効な利用法および低い応力で変形してしまう柱の座屈の概念を講義し、常に材料の許容応力と許容変位を念頭において設計に役立てることを主眼に、材料の弾性変形に関する基礎知識を深める。		

<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. 二次元の組合せ応力より主応力、最大せん断応力を導出する。			
2. 弾性ひずみエネルギーの概念とその応用を習得する。			
3. はりのたわみと柱の座屈を理解する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 真直はりのせん断力と曲げモーメント・復習	9. カステリアノの定理	10. マックスウェルの相反定理	11. 組合せはり
2. はりのたわみとたわみの基礎式	12. 連続はり	13. 薄肉曲がりはり	14. 長柱の座屈(オイラーの式)
3. 不静定問題	15. 座屈の境界荷重と細長さ比	16. 定期試験	
4. 平面応力状態(モール円)			
5. 一般化フックの法則			
6. 平面応力状態応用			
7. ひずみエネルギー			
8. 衝撃応力			
<b>教科書</b> 図解でわかるはじめての材料力学／有光隆:技術評論社, 1999, 3, ISBN:4-7741-0725-5			
<b>参考書</b> 材料力学／黒木剛司郎:森北出版, 1999, 5, ISBN:4-627-62013-6 材料力学教育研究会編「材料力学の学び方・解き方」共立出版 柴田・大谷・駒井・井上共著「材料力学の基礎」培風館 鶴戸口・川田・倉西共著「材料力学」裳華房			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 講義中に適宜、必要な資料を配布することがある。			
<b>成績評価の方法</b> 2 年前期と 2 年後期に各 1 回行う期末テストの得点のみで成績評価する。60%以上を合格とする。授業中に毎回行う小テストは、出席の確認に用いる。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は、基本的に行わない。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業中に簡単な演習問題を解くため関数電卓を忘れずに持参すること。2 年前期/2 年後期の通年で成績を評価する。土曜日や祝日に補講・試験を行うことがある。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である			
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 西野 秀郎:(M618, 656-7357) 佐藤 克也:(総合研究実験棟 705, 656-2168) (メールアドレス) 西野 秀郎:hidero.nishino@tokushima-u.ac.jp 佐藤 克也:katsuyas@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 講義の単位を取得するためには、必ず復習と予習をしなければならないことが前提になっているので、レポートの提出期限を厳守する。解けないときには、オフィスアワーを利用して質問することを勧める。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 【授業時間】22.5 時間、【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45 時間		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121130
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	もの作り創造材料学[Engineering Materials]		
<b>担当教員</b>	高木 均, 岡田 達也 [Hitoshi Takagi, Tatsuya Okada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械を構成する部品には金属材料、特に鉄鋼材料が用いられることが圧倒的に多い。本講義では、熱処理による鉄鋼材料の微細組織制御と、それに伴う機械的性質の変化について理解させることを主な目的とする。		
<b>授業の概要</b>	平衡状態図の読み取りを具体例を多く用いて解説した後、鉄鋼材料の組織制御に不可欠な TTT 線図、CCT 線図について説明する。講義の後半では、鉄鋼材料を中心とする各種金属材料について、その性質や用途を概説する。		
<b>キーワード</b>	平衡状態図, 等温変態線図(TTT 線図), 連続冷却変態線図(CCT 線図), 鉄鋼材料, 非鉄材料		
<b>到達目標</b>			
1. 二元合金平衡状態図の読み取りができること。			
2. TTT 線図や CCT 線図を用いて、熱処理に伴う鉄鋼材料の組織変化を理解すること。			
3. 各種鉄鋼材料や非鉄金属材料の性質と用途について説明できること。			



<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>相と状態図</li> <li>状態図の読み取り, 共晶反応</li> <li>共晶合金の組織形成, Fe-Fe<sub>3</sub>C 系状態図</li> <li>鋼の標準組織</li> <li>TTT 線図</li> <li>CCT 線図</li> <li>各種鋼の TTT 線図, CCT 線図</li> <li>材料の機械的性質/中間試験</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>熱処理, 回復と再結晶</li> <li>時効処理, 材料の電気・化学的性質</li> <li>材料の製造と加工</li> <li>構造用鋼</li> <li>ステンレス鋼</li> <li>アルミニウム合金</li> <li>アルミニウム以外の非鉄金属材料</li> <li>期末試験</li> </ol>
<b>教科書</b>	材料の科学と工学/W.D.キャリスター (入戸野修 監訳):培風館, 2002, ISBN:9784563067120	
	機械材料:大学基礎 S1 単行版/門間改三:実教出版, 1993, ISBN:4407023287	
<b>参考書</b>	鉄鋼材料選択のポイント/大和久重雄:日本規格協会, 2000, ISBN:4542303896	
<b>成績評価の方法</b>	中間試験および期末試験の成績をそれぞれ40%, 60%で評価し, 合計で60%以上を合格とする. 講義中に質問に答えた場合は発表点として追加する.	
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしよう。えて授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.</li> <li>ほぼ毎回簡単な演習問題を行う。読み取り問題や計算問題に備えて, 目盛りのついた三角定規と関数電卓は忘れずに持参すること.</li> </ol>	
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である.	
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する.	
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 高木 均 岡田 達也	
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>再試験(全講義範囲)は年度内に1回のみ行う.</li> <li>教科書のうち「材料の科学と工学[1]」は後期開講の「材料科学」においても使用する.</li> </ol>	

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121140
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	材料科学[Materials Science]		
<b>担当教員</b>	岡田 達也 [Tatsuya Okada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 結晶性材料の機械的性質を基礎的な立場から理解させるために, 各種の結晶欠陥や固体内での拡散について解説する.

**授業の概要** 結晶構造や結晶学的指数について解説した後, 材料の微細組織制御において重要な役割を果たす拡散について解説する. また, 材料の機械的性質を支配する転位とすべりの関係についても解説する.

**キーワード** 結晶構造, ミラー・ブラベ指数, 転位, 拡散

到達目標	
No.	到達目標
1	基本的な結晶構造について理解し, 密度の計算ができること.
2	結晶学的な方向や面の指数表示ができること.
3	拡散に関係した基本的な計算ができること.
4	転位とすべりの関係を理解できること.

授業の計画	
回	内容
1	基本的な結晶構造
2	結晶学的方向
3	結晶学的面
4	線密度, 面密度, 理論密度の計算
5	最密充填構造の特徴

6	六方晶の面と方向
7	点欠陥
8	拡散に関する基本的概念/中間試験(1~6週目の内容を講義時間外に試験.)
9	フィックの第1法則
10	質量保存則とフィックの第2法則
11	半無限固体での解
12	拡散係数の温度依存性
13	転位の幾何学
14	転位とすべり
15	結晶と転位
16	期末試験

**教科書** 材料の科学と工学[1]/W.D.キャリスター:培風館, 2002, ISBN:978-4-563-06712

**参考書** 材料の科学と工学[2]/W.D.キャリスター:培風館, 2002, ISBN:4-563-06713-X

**教科書・参考書に関する補足情報** 講義の13回目~15回目は補足プリントをテキストとして使用します.

**成績評価の方法** 中間試験, 期末試験の成績をそれぞれ40%, 60%として評価し, 合計で60%以上を合格とする. 講義中に質問に答えた場合は加点する.

**再試験の有無** 再試験は行わない.

**受講者へのメッセージ** 毎回簡単な演習問題を行うので, 目盛りのついた三角定規と関数電卓を忘れずに持参すること.

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である.

**学習教育目標との関連** (A)50%, (B)50%に対応する.

WEB ページ	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡田 達也(機械棟 M616 室, Tel:088-656-7362) (メールアドレス) tatsuya-okada@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:30~17:30
<b>備考</b>	【授業時間】22.5時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45時間

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121150
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	材料強度学[Strength and Fracture Behavior of Materials]		
<b>担当教員</b>	村上 理一 [Riichi Murakami]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 機械の安全性や健全性を保証するため応力と材料の弾性変形, 塑性変形あるいは破壊挙動との関わりについて講義し, 演習・レポート, テストを実施して機械の安全設計や破壊防止に必要な基礎知識を修得させる.

**授業の概要** 機械を構成する材料の塑性変形と破壊に至る過程を巨視的・微視的な観点から理解させるために材料の塑性変形の機構と転位, 塑性変形と破壊の関わり, 破壊制御の基本概念を講述して機械・構造物の安全性や設計に必要な材料の変形と破壊に関する基礎力の養成を図る.

**キーワード** 塑性変形, 転位, 材料の強度, 材料の破壊, 疲労破壊

到達目標	
1.	材料の塑性変形と転位の関わりを理解する.
2.	材料の強化方法を理解する.
3.	材料の破壊の仕組みを理解する.
4.	破壊力学の基礎を理解する.
5.	金属疲労の基礎を理解する.

<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>材料の弾性変形と塑性変形</li> <li>材料の構造と転位論の基礎</li> <li>材料の構造と転位論の基礎・レポート</li> <li>材料の強化方法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>材料の強化方法と新材料・レポート</li> <li>材料の破壊</li> <li>材料の破壊</li> <li>中間試験</li> <li>切り欠きと応力集中</li> <li>破壊力学の基礎</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>破壊力学の基礎</li> <li>疲労強度</li> <li>疲労強度</li> <li>疲労強度</li> <li>表面現象, 腐食と摩耗・レポート</li> <li>定期試験</li> </ol>
--------------	--	--	---

**教科書** 材料の強度と破壊の基礎/村上理一・金 允海・楠川量啓:ふくろう出版, 2009, ISBN:9784861864049

<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標の5項目がそれぞれ達成されているかを試験70%, 受講姿勢およびレポート30%とし、5項目平均で60%以上であれば合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義の単元が終わるごとにレポートを課し、理解度をチェックするので、毎回の予習・復習は欠かせず行うこと。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.me.tokushima-u.ac.jp/zairyoukyoudo/lecture.htm
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 村上理一(M318), Tel:088-656-7392, E-mail:murakami@tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) murakami@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週月曜日 16:00～17:00
<b>備考</b>	1. 「機械材料学」「材料力学」の履修を前提にして講義を行う。講義の単元が終わるごとにレポートを課し、4 単元が終了すると中間試験を実施する。受講姿勢とは毎回の予習・復習は欠かせず行い、質問にははっきりと回答することを指す。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 3. 授業時間】22.5 時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成、試験準備等)45 時間

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121160
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	計算力学[Computational Mechanics]		
<b>担当教員</b>	大石 篤哉 [Atsuya Ohishi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 今や設計はルールに基づく設計から、解析・シミュレーションに基づく設計へと変わりつつある。解析・シミュレーションによる設計が可能となったのは、差分法や有限要素法など偏微分方程式の離散化解法を中心とする計算力学手法とコンピュータの目覚ましい発展によるところが大きい。本講義では、偏微分方程式の離散化解法解析手法の基礎概念を詳述する。			
<b>授業の概要</b> 最初に差分近似と差分法について解説し、次に重みつき残差法に基づく近似解法、最後に有限要素法の定式化を解説する。			
<b>キーワード</b> 有限要素法, 数値解法			
<b>到達目標</b>			
1. 差分近似と差分法について理解する。(授業計画 1-5)			
2. 重みつき残差法を理解する。(授業計画 6-9)			
3. 有限要素法の定式化を理解する。(授業計画 10-15)			
<b>授業の計画</b>	5. 2次元・3次元における差分近似	11. 形状関数	
1. 1次元熱伝導問題の定式化	6. 試験関数と重みつき残差法	12. 要素間境界における連続性	
2. テーラー展開と差分近似	7. 弱形式とガラーキン法	13. 有限要素法の定式化	
3. 1次元熱伝導問題の差分法による定式化	8. 境界条件	14. 要素行列と全体行列	
4. 境界条件の差分近似	9. ガラーキン法の誤差	15. 有限要素法の誤差	
	10. 区間の分割と有限要素	16. 期末試験	
<b>教科書</b> Finite Elements & Approximation/O.C.Zienkiewicz and K.Morgan:Dover, 2006, ISBN:0-486-45301-4			
<b>参考書</b> 有限要素法概説：理工学における基礎と応用/菊地文雄:サイエンス社, 1999. 4, ISBN:4-7819-0911-6 有限要素法/矢川元基, 吉村忍:培風館, 1991. 7, ISBN:4-563-03376-6 有限要素法入門/三好俊郎:培風館, 1994. 11, ISBN:4-563-03490-8			
<b>成績評価の方法</b> 期末試験(80%)および授業中に複数回行う理解度確認テスト(20%)をもとに総合的に評価し60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 原則として行わない			
<b>受講者へのメッセージ</b> パソコンを利用できることが望ましい。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)20%, (B)80%に対応する。			

<b>WEB ページ</b>	http://www.me.tokushima-u.ac.jp/~oishi/o_e007.htm
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大石篤哉(M622, Tel:656-7365, E-mail: oishi@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) oishi@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 15:00 - 17:00 金曜日 15:00 - 17:00
<b>備考</b>	1. 数学を良く勉強しておいて下さい。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 【授業時間】22.5 時間 【自己学習時間】(予習復習例題・試験準備等)45 時間

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5121170
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	流体力学[Fluid Dynamics]		
<b>担当教員</b>	福富 純一郎, 一宮 昌司 [Junichiro Fukutomi, Masashi Ichimiya]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 水や空気に代表される流体の性質を説明し、その力学的挙動を比較的簡単な理論によって説明し、流体による力、圧力、応力などを求める方法について講義する。			
<b>授業の概要</b> 流体の性質・流れの基礎、静止した流体中にはたらく圧力・浮力、運動する流体の連続の式・エネルギーの釣合、運動量法則と角運動量法則により流体中に置かれた物体に働く力の求め方、圧力・流速・流向・流量の計測法を説明する。講義形式で行う。			
<b>キーワード</b> 流体, 圧力, エネルギー, 運動量, 流体計測			
<b>到達目標</b> 流体の性質、その力学的挙動を理解し、流体による力、圧力、応力などを求めることができるようになること、また圧力・流速・流向・流量の計測法を理解することを目標とする(授業計画 1～15 および期末試験による)。			
<b>授業の計画</b>			
1. 液体の流れと気体の流れ, 粘性と流れ, 粘度・問題演習	9. 一次元流, 連続の式, エネルギーの保存・問題演習	10. 損失, $W=0$ , $EI=0$ の場合・問題演習	
2. 非ニュートン流体, 圧力とせん断応力, 圧縮性・問題演習	11. $W=0$ , $EI \neq 0$ の場合・問題演習	12. $W \neq 0$ , $EI \neq 0$ の場合・問題演習	
3. 体積弾性係数, 密度, 定常流, 層流と乱流・問題演習	13. 運動量法則, 運動量法則の応用例・問題演習	14. 角運動量法則, 角運動量法則の応用例・問題演習	
4. 流脈, 流跡及び流線, 比熱と比熱比, 表面張力・問題演習	15. 圧力測定, 流速測定, 流向測定, 流量測定	16. 定期試験	
5. 圧力の性質, 圧力分布・問題演習			
6. 液柱圧力計, 浮力・問題演習			
7. 水中の面に働く力, 相対的静止・問題演習			
8. これまでのまとめ, 総括, 中間試験			
<b>教科書</b> 流体力学(1)/大橋秀雄:コロナ社, ISBN:9784339040104			
<b>参考書</b> 流体工学/古屋善正・村上光清・山田豊:朝倉書店, ISBN:9784254230346 わかりたい人の流体工学(1)/深野徹:裳華房			
<b>成績評価の方法</b> 講義に対する理解力の評価は、ほとんど毎回行う問題演習(小テストまたはレポート)の提出状況および解答内容、中間試験、期末試験の成績を総合して行う。成績評価は小テストまたはレポート10%, 中間試験45%, 期末試験45%とし、60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 演習を行うので、講義を注意して受講すること。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> (B) に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 福富 純一郎:(M519, Tel: 088-656-7367) 一宮 昌司:(M520, Tel: 088-656-7368) (メールアドレス) 福富 純一郎: fukutomi@tokushima-u.ac.jp 一宮 昌司: ichimiya@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	授業計画1～8の理解度は、中間試験で達成度評価を行う。授業計画9～15の理解度は、期末試験で達成度評価を行う。 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

【授業時間】 2.5時間×15=37.5時間 【自己学習時間】 (演習問題の復習, 中間試験準備, 期末試験準備) 75時間
---

開講学期	3年・前期	時間割番号	5121180
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	流れ学[Fluid Dynamics]		
担当教員	太田 光浩 [Mitsuhiro Ohta]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	流体力学(流れ学)は, 気体と液体に関する力学を取り扱う学問であり, 機械工学だけでなく様々な理工学分野における基礎科目となっている。本授業では, 理想流体の運動を中心として, 流体運動の数理的な基礎知識と流動現象の特徴について習得する。		
授業の概要	流体運動を支配する連続の式および運動方程式と言った流動に関する保存則について説明した後に, 主としてポテンシャル流れについて詳しく述べる。授業を通して, 流体運動の理論的取扱いについて理解を深める。		
キーワード	流体の運動方程式, 理想流体, ポテンシャル流れ		
先行/科目	『流体力学[Fluid Dynamics]』(1.0)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 流体の運動を記述する方程式を理解する。</li> <li>2. 二次元ポテンシャル流れを理解する。</li> <li>3. 翼に働く揚力の発生と算出法を理解する。</li> <li>4. 渦の基本的性質を理解する。</li> </ol>		
授業の計画	9.	ブラジウスの公式とクッタ・ジュコフスキーの定理	
1. 流れ場の未知量, 連続の式	10.	二次元ポテンシャル流れの解法	
2. 変位と変形, 流体の加速度	11.	翼に働く揚力	
3. 運動方程式, 理想流体と実在流体	12.	特異点解法・差分法	
4. 渦なし流れと速度ポテンシャル	13.	三次元ポテンシャル流れ・渦運動	
5. 循環, 複素ポテンシャル	14.	渦糸を持つ流れ	
6. 代表的流れと複素ポテンシャル	15.	不連続面と渦層	
7. 二重吹出し・円筒の周りの流れ・鏡像	16.	定期試験	
8. 中間試験			
教科書	流体力学(1) / 大橋秀雄: コロナ社, 1982, ISBN:9784339040104		
参考書	流れ学 / 谷 一郎: 岩波全書, 1967, ISBN:9784000214315 流体力学(前編) / 今井功: 裳華房, 1974, ISBN:9784785323141 流体力学 / 日野幹雄: 朝倉書店, 1992, ISBN:9784254200669		
成績評価の方法	講義中に行う演習, 中間試験および最終試験の成績を総合して行う。成績評価は, 演習 20%, 中間試験 40%, 期末試験 40%とし, 総合点の 60%以上を合格とする。		
再試験の有無	原則として再試は行わない。		
受講者へのメッセージ	演習を行うので, 講義を注意して受講すること。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(B)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 太田光浩 (M518, Tel: 088-656-7366, E-mail: m-ohta@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) m-ohta@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日(17:00 ~ 18:00)		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画 1~7 の理解度は, 中間試験で達成度評価を行う。授業計画 9~15 の理解度は, 期末試験で達成度評価を行う。</li> <li>2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol> 【授業時間】 1.5 時間×15=22.5 時間 【自己学習時間】 (予習復習, レポート作成, 試験準備等) 45 時間		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5121190
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	流体機械[Fluid Machinery]		
担当教員	重光 亨 [Tohru Shigemitsu]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	流体エネルギー変換機は我々人類にとって古くからなじみのある機械である。この流体機械の作動原理と利用方法の基礎知識を身に付けさせる事を目的とする。		
授業の概要	流体エネルギーと機械的エネルギーの変換機器としての流体機械について, その作動原理, 性能特性, 利用方法と流体機械特有の現象について講義する。		
キーワード	ターボ機械, 羽根車理論, 流動現象, 騒音		
関連/科目	『流体力学[Fluid Dynamics]』(1.0), 『流れ学[Fluid Dynamics]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 流体機械の構造, 作動原理を理解する。</li> <li>2. 流体機械特有の現象を理解する。</li> <li>3. 流体機械の利用方法を理解する。</li> </ol>		
授業の計画	9.	比速度	
1. ターボ機械とは, ターボ機械の分類と流体エネルギー	10.	特性曲線, 運転方法	
2. 角運動量の法則, エネルギー変換, 変換エネルギー成分	11.	キャビテーション, 例題(キャビテーション)	
3. 損失と効率, 遠心羽根車, 例題(ポンプ水車について)	12.	旋回失速とサージング	
4. 構成要素, 例題(遠心羽根車)	13.	水撃現象	
5. 軸流羽根車, 例題(軸流羽根車)	14.	騒音の基礎	
6. 固定流路, 例題(風車について)	15.	送風機の騒音	
7. 相似則, 例題(次元解析)	16.	期末試験	
8. 中間試験と解説			
教科書	ターボ機械協会編「ターボ機械 入門編」日本工業出版		
参考書	大橋秀雄著「流体機械」森北出版		
成績評価の方法	中間試験と期末試験および平常の授業の取り組み状況を総合的に評価する。取り組み状況はレポートで評価し, 試験と取り組み状況の比率は 8:2 とし 60%以上を合格とする。		
再試験の有無	原則として再試は行わない。		
受講者へのメッセージ	講義中に演習を行う場合があるので, 電卓を持参すること。予習・復習を行うこと。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(B)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 重光 亨(M525, Tel: 088-656-9742, E-mail: t-shige@tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 水曜日(17 時~18 時)		
備考	1. 【授業時間】22.5 時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等) 45 時間		

開講学期	2年・通年	時間割番号	5121200
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	工業熱力学[Engineering Thermodynamics]		
担当教員	木戸口 善行, 清田 正徳 [Yoshiyuki Kidoguchi, Masanori Kiyota]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	熱エネルギーの基本法則と熱エネルギーの基本的な利用法について理解させる。さらに機械技術者として, 工業製品や産業界の生産活動への熱エネルギーの有効な利用法についても十分な理解と適切な判断ができることを目的とする。		
授業の概要	エネルギーに関して最も基本的な学問の一つに熱力学がある。その基礎概念, 熱エネルギーの性質, 経験法則, 各種のサイクルについて講述する。講義では熱力学だけでなく周辺分野についても関連事項の解説を行い, 演習の解説は詳しくする。		



<b>キーワード</b>	エネルギー保存, 状態量, 動力, 冷凍機		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>物質の熱的状态量と状態変化を理解する。</li> <li>エネルギー保存則と適用例を理解する。</li> <li>各種の熱機関サイクルを理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	6. 熱力学の第二法則	12. ガスサイクル	
1. 熱力学の基礎事項	7. 有効エネルギー	13. 蒸気動力サイクル	
2. 熱力学の第一法則	8. 中間試験	14. 冷凍サイクル	
3. 理想気体	9. 実在気体	15. 気体の流れ	
4. 理想気体の状態変化	10. 熱力学の一般関係式	16. 期末試験	
5. 湿り空気	11. 燃焼		
<b>教科書</b>	例題でわかる工業熱力学／平田哲夫・田中誠・熊野寛之:森北出版, ISBN:978-4-627-67341-		
<b>参考書</b>	特に指定しない。講義中に演習問題などの補助資料を配布する。		
<b>成績評価の方法</b>	中間試験と期末試験の結果を総合的に評価 60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎時間、関数電卓を持参のこと。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)			
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【授業時間】22.5 時間</li> <li>【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45.0 時間</li> <li>授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで受講すること。予習・復習に利用する課題は講義において指示する。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	2年・通年	<b>時間割番号</b>	5121210
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	工業熱力学演習[Exercise of Engineering Thermodynamics]		
<b>担当教員</b>	木戸口 善行, 清田 正徳 [Yoshiyuki Kidoguchi, Masanori Kiyota]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	技術的な問題に対しては, 状況の理解だけでなく数値的に正確な解答が必要とされる。演習問題を通して具体的な問題に対する解法と演算結果の処理などについての向上を目的とする。		
<b>授業の概要</b>	講義科目「工業熱力学」に準じて, 例題演習の解説を行う。		
<b>キーワード</b>	状態量, エネルギー保存, 動力サイクル, 冷凍機		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>演習により, 物質の熱的状态量とその変化を理解する。</li> <li>演習により, エネルギー保存則とそれらの適用例などを理解する。</li> <li>演習により, 自然現象の不可逆性を理解し, 各種の熱機関サイクルを理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	講義科目「工業熱力学」と同じ。		
<b>教科書</b>	使用しない。講義中にプリント「工業熱力学 演習問題」を配布する。		
<b>参考書</b>	講義科目「工業熱力学」の教科書。		
<b>成績評価の方法</b>	中間試験と期末試験, および平常の授業の取り組み状況とレポート課題の内容を総合的に評価する。評価には試験(中間・期末)と平常点との比率を 8:2 とし 60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	「工業熱力学演習」と連続した時間に講義する。毎回, 電卓が必要である。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する		
<b>WEB ページ</b>			

<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 清田 正徳
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>【授業時間】22.5 時間</li> <li>【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45.0 時間</li> <li>授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで受講すること。予習・復習に利用する課題は講義において指示する。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121220
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	伝熱工学[Heat Transfer Engineering]		
<b>担当教員</b>	出口 祥啓, 草野 剛嗣 [Yoshihiro Deguchi, Kohji Kusano]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	伝熱現象の物理的な説明とともに定式化を示し, 伝熱学の基礎を習得したうえで実際問題に対して解決・応用できることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	熱が移動する基本的な 3 形態の概要説明をした後, それぞれの形態における熱移動の現象と種々の熱・流体力学的条件下で生じる熱移動の因子・法則について講義する。さらに, これらの知識・理解が生産・加工・輸送などの工業および地球環境などの広い分野におけるエネルギー有効利用に最も必要とされていることを説明する。		
<b>キーワード</b>	定常熱伝導, 対流熱伝達, 放射熱伝達, 凝縮および沸騰熱伝達, 熱交換器		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>熱伝導の基礎理論と熱通過を理解する。</li> <li>対流熱伝達の理論と強制・自然対流熱伝達を理解する。</li> <li>熱放射の基本法則と放射熱伝達を理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	第9週 相変化を伴う熱伝達(沸騰熱伝達の概要)、レポート	第10週 相変化を伴う熱伝達(凝縮熱伝達の概要と理論)、レポート	第11週 熱放射の基本法則、レポート
第1週 伝熱工学の概要と基礎事項、レポート	第2週 一次元定常熱伝導の基礎理論、レポート	第3週 平板および円管の熱通過、レポート	第4週 フィンの伝熱、レポート
第5週 対流熱伝達の理論(連続の式, 運動方程式)、レポート	第6週 対流熱伝達の理論(エネルギーの式, 次元解析)、レポート	第7週 熱通過および対流熱伝達の演習	第8週 中間試験
<b>教科書</b>	伝熱学の基礎／吉田駿:理工学社, 1999		
<b>参考書</b>	洋書を含めた参考書については, 各論ごとに講義中に紹介する。		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	基本的に教科書に沿った講義を行う。中間試験、最終試験は教科書、レポートの問題と同等の内容とする。		
<b>成績評価の方法</b>	レポートの回答内容(50%)、中間・最終試験の成績(50%)を総合して評価する。		
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	計算問題が多いので, 計算機の準備が必要。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)90%, (H)10%に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 出口 祥啓(機械棟 523 号室, 088-656-7375, ydeguchi@tokushima-u.ac.jp) 草野 剛嗣(機械棟 528 号室, 088-656-2151, kusano@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ydeguchi@tokushima-u.ac.jp (オフィシアワー) 金曜日 16:00-17:00		
<b>備考</b>	【授業時間】22.5 時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45 時間 (授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である)		

開講学期	4年・前期	時間割番号	5121230
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	蒸気プラント工学[Steam Power Plant Engineering]		
担当教員	出口 祥啓, 草野 剛嗣 [Yoshihiro Deguchi, Kohji Kusano]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	蒸気プラントを構成するボイラ、蒸気タービン、蒸気機関および復水装置などの機器に関して、高性能化、高効率化、高温高圧化などの実際技術を解説し、演習や小テストによって理解を深め、応用できることを目的とする。		
授業の概要	蒸気動力の変遷を説明した後、ボイラ、蒸気タービン、蒸気機関および復水装置などの機器に関して、高性能化、高効率化、高温高圧化などの実際技術がどのような理論に基づいているかについて講義する。		
キーワード	蒸気原動所サイクル、燃焼理論、蒸気タービン		
到達目標	1. 蒸気プラントの熱力学的性質および動力サイクルを理解する 2. 蒸気発生器における熱伝達を理解する 3. タービンにおけるエネルギー変換を理解する		
授業の計画	第9回 タービンによるエネルギー変換 第10回 蒸気タービンの構造 第11回 蒸気タービンの性能 第12回 コンデンサと熱交換 第13回 原子力蒸気機関 第14回 新エネルギーをめざすランキンサイクル機関(1) 第15回 新エネルギーをめざすランキンサイクル機関(2) 第16回 蒸気プラント工学の最終試験		
教科書	新蒸気動力工学／一色尚次, 北山直方: 森北出版		
参考書	各論ごとに講義中に紹介する。		
教科書・参考書に関する補足情報	基本的に教科書に沿った講義を行う。中間試験、最終試験は教科書、レポートの問題と同等の内容とする。		
成績評価の方法	レポートの回答内容(50%)、中間・最終試験の成績(50%)を総合して評価し60%以上を合格とする。		
再試験の有無	原則として再試験は行わない。		
受講者へのメッセージ	計算問題が多いので、計算機の準備が必要。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	(B)90%, (H)10%に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 出口 祥啓(M523, 088-656-7375, ydeguchi@tokushima-u.ac.jp) 草野 剛嗣(M528, 088-656-2151, kusano@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kusano@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週月曜日, 15:00-16:00		
備考	【授業時間】22.5時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45時間 (工業熱力学)「伝熱工学」の履修を前提にして講義を行う。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である)		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5121240
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	内燃機関[Internal Combustion Engine]		
担当教員	木戸口 善行 [Yoshiyuki Kidoguchi]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	自動車、船舶、航空機や産業、建設、農業用などの動力源として広く利用されている内燃機関について、機械工学の立場からその動作原理、構造を理解し、燃料のエネルギー変換過程と大気汚染物質の低減法の基礎知識を修得する。		

授業の概要	燃料の燃焼によるエネルギーを有効に利用し、また大気汚染物質の排出を抑制できる動力源を得るために、内燃機関の熱力学を基本にして、仕事とサイクルと熱効率の関係、また、ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンおよびガスタービンなど各種内燃機関の燃料特性と燃焼方式、およびその特徴を講述する。		
キーワード	原動機、内燃機関、熱効率		
到達目標	熱力学、燃料、燃焼と動力変換との関係を理解して、エネルギー資源の有効利用と大気環境問題を習得する。		
授業の計画	6. 熱力学とサイクルに関する演習	11. 火花点火機関の燃焼	
1. 内燃機関の概要と歴史	7. 燃料および燃焼の基礎	12. 火花点火機関の燃焼技術	
2. 熱力学の基本	8. 機関性能	13. 圧縮着火機関の燃焼	
3. 内燃機関の熱力学	9. 機関性能に関する演習	14. 圧縮着火機関の燃焼技術	
4. サイクル論	10. シリンダ内のガス交換	15. 排気ガスとその低減技術	
5. サイクルと熱効率			
教科書	廣安広之・寶諸幸著「内燃機関」コロナ社		
参考書	古濱庄一著「内燃機関」森北出版最新機械工学シリーズ 河野・角田・藤本・氏家著「最新内燃機関」朝倉書店 長尾不二夫著「内燃機関講義」養賢堂 J.B.Heywood "Internal Combustion Engine Fundamentals" McGraw-Hill		
成績評価の方法	中間試験、学期末試験の成績で100点満点中60点以上を獲得した者を合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	演習を行うので電卓を持参のこと。		
JABEE合格	成績評価の方法と同一		
学習教育目標との関連	学習・教育目標 B-3 に該当する		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 木戸口 善行 (オフィスアワー) 随時		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画の1から7(到達目標:熱力学, 燃料, 燃焼と動力変換との関係を理解)の内容に関する中間試験および8~15(到達目標:エネルギー資源の有効利用と大気環境問題を習得する)の内容に関する期末試験で学習到達度を評価する 3. 「工業熱力学」の受講を前提として講義を行う		

開講学期	1年・後期	時間割番号	5121250
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	機構学[Mechanism]		
担当教員	日野 順市 [Junichi Hino]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)
授業の目的	機械工学の基礎である機構の運動解析に関する基礎知識を習得させる。講義、演習、レポート、小テストを通して機械設計に必要な基礎知識、機構解析方法を学ぶ。		
授業の概要	機構学に関する基本的事項から講義を行い、機械工学の基礎的要素であるリンク機構、巻掛け伝動機構、ころがり伝動機構、歯車機構などの各種機構を解説し、動力伝達機構を理解させる。講義は演習を中心に行い、機構学に対する基礎力の養成を図る。		
キーワード	運動伝達、リンク機構、巻掛け伝動、歯車		
到達目標	基本的な機構の運動解析の習得		
授業の計画	9. 巻掛け伝動機構・ベルト伝動		
1. 総論 機械と機構、運動伝達	10. 巻掛け伝動機構・伝達動力		
2. 総論 連鎖と機構、瞬間中心	11. ころがり接触による伝動機構		
3. 速度と加速度	12. 歯車機構・歯車の種類と歯車各部の名称		
4. リンク機構・リンク機構の種類	13. 歯車機構・歯形の条件		
5. リンク機構・四節回転連鎖	14. 歯車機構、インボリュート歯車、サイクロイド歯車		
6. リンク機構・スライダクランク連鎖	15. 歯車列		
7. リンク機構・両スライダクランク連鎖	16. 定期試験		
8. リンク機構・その他の連鎖			

<b>教科書</b>	機構学／太田博：共立出版，1984，ISBN:4-320-08001-7
<b>参考書</b>	参考資料としてプリントを配布する。参考書については，講義中に紹介する。
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	教科書と配布プリントにより授業を進める。
<b>成績評価の方法</b>	演習により基礎知識の習得を行う。また，演習問題を解くことで解析力を養成する。点数評価は，レポート提出状況(30%)と試験の成績(70%)を合計して行い60%以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	原則として再試は行わない。出席状況等により，次年度での再受験を認めることもある。
<b>受講者へのメッセージ</b>	演習による基礎知識の習得を目的にしているため，授業への取組みと演習や小テストの回答状況を重視する。授業を受ける際には，2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス，オフィスアワー)	(学生用連絡先) 機械工学科棟 M422 室，Tel:088-656-7384 (メールアドレス) hino@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17 時～18 時
<b>備考</b>	1. 演習による解析力および基礎知識の習得を目的にしているため，予習，復習は怠らないこと。 2. 【授業時間】1.5 時間×15=22.5 時間。 3. 【自己学習時間】(予習復習，レポート作成，試験準備等)45 時間。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5121260
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	機械設計[Machine Design]		
<b>担当教員</b>	長町 拓夫 [Takuo Nagamachi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械を設計する上で必要となる一般的な機械要素の働きとその設計法を講義と演習を通して修得する。		
<b>授業の概要</b>	機械要素設計の基礎知識および締結要素・伝達要素の性能・構造ならびに設計方法について解説する。		
<b>キーワード</b>	機械要素 機械設計		
<b>到達目標</b>	機械要素の働きとその設計法を理解する。		
<b>授業の計画</b>	9. 歯車の種類，用語，記号および歯形の性質，レポート	10. 歯車の切下げおよび転位，レポート	
1. 基本設計と機械材料，レポート	11. 歯車の歯の強度計算，レポート	12. ディスククラッチおよびブレーキ，レポート	
2. 最大主応力説と最大せん断応力説，レポート	13. 円すいクラッチおよびブロックブレーキ，レポート	14. バンドブレーキ，レポート	
3. 許容応力および安全率，レポート	15. クラッチの連結時間とつめ車，レポート	16. 期末試験	
4. 静荷重と動荷重，耐久線図，レポート			
5. ねじ，ねじ部品，ねじ継手の種類，レポート			
6. ねじの締付力と締付トルク，レポート			
7. 各荷重条件におけるおねじの強さ，レポート			
8. 中間試験			
<b>教科書</b>	機械要素設計／和田稲苗：実教出版，1984，ISBN:978-4-407-02247，教科書は絶対必要である。教科書がない場合は単位を取得できない。		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	レポート点 50%，定期試験 50%とし，合計 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	中間試験および期末試験を1回ずつ行い，それぞれの再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中に演習問題を解くため関数電卓とレポート用紙を忘れずに持参すること。		
<b>JABEE合格</b>	【授業評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)80%，(D)20%に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス，オフィスアワー)	(学生用連絡先) 長町拓夫 M524，Tel:088-656-9187，E-mail:ngmch@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ngmch@me.tokushima-u.ac.jp		

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には，3 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である。 【授業時間】33.8 時間，【自己学習時間】(予習復習，レポート作成，試験準備等)45 時間
-----------	--

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5121270
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	設計工学[Design Engineering]		
<b>担当教員</b>	長町 拓夫 [Takuo Nagamachi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械を設計する上で必要となる一般的な機械要素の働きとその設計法を講義と演習を通して修得するとともに，機械設計を系統的にとらえる方法論について学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	溶接継手，軸の強度，軸継手，軸受，ばね要素および油圧要素の性能・構造ならびに設計方法について解説する。		
<b>キーワード</b>	機械要素 機械設計		
<b>到達目標</b>	機械要素の働きとその設計法を理解する。		
<b>授業の計画</b>	1. 溶接構造物の特性と溶接継手の種類，レポート	9. すべり軸受の構造，レポート	
2. 溶接継手の強度，レポート	10. すべり軸受の設計，レポート	11. 転がり軸受の構造，レポート	
3. 組合せ荷重を受ける軸，レポート	12. 転がり軸受の選定と寿命，レポート	13. ベルト伝動の種類と構造，レポート	
4. キー，スプラインおよびセレーション，レポート	14. ベルト伝動の伝達動力，レポート	15. 圧縮・引張コイルばねの理論式，レポート	
5. マフ軸継手および摩擦筒形軸継手，レポート	16. 期末試験		
6. フランジ形固定軸継手およびたわみ軸継手，レポート			
7. 不等速形自在軸継手および等速形自在軸継手，レポート			
8. 中間試験			
<b>教科書</b>	機械要素設計／和田稲苗：実教出版，1984，ISBN:978-4-407-02247，教科書は絶対必要である。教科書がない場合は単位を取得できない。		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	レポート点 50%，定期試験 50%とし，合計 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	中間試験および期末試験を1回ずつ行い，それぞれの再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中に演習問題を解くため関数電卓とレポート用紙を忘れずに持参すること。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス，オフィスアワー)	(学生用連絡先) 長町拓夫 M524，Tel:088-656-9187，E-mail:ngmch@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ngmch@me.tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には，2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが，授業の理解と単位取得のために必要である。 【授業時間】22.5 時間，【自己学習時間】(予習復習，レポート作成，試験準備等)45 時間		

<b>開講学期</b>	2年後期・3 年前期	<b>時間割番号</b>	5121280
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	振動工学[Applied Dynamics of Machine]		
<b>担当教員</b>	日野 順市，藤澤 正一郎 [Junichi Hino, Shoichiroh Fujisawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	2 年後期で，質点および剛体の力学，機構の運動解析等の機械力学に関する基礎知識を修得させる。3 年前期で，機械振動の解析と振動制御およびコンピュータを用いた解析方法についての基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	機械工学に関する運動学および力学について基本的なところから述べ，後半では特に機械振動に着目して基礎理論から応用まで説明する。演習は講義に基づいて行う。		



<b>キーワード</b> 力学, 振動	
<b>到達目標</b> 静力学, 動力学および振動工学の基礎知識の理解と応用力の育成	
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1点に働く力 力の合成, 分解</li> <li>2. 力のつりあい, 力のモーメント, 重心</li> <li>3. 点の運動, 運動の法則</li> <li>4. 剛体の運動, 慣性モーメント</li> <li>5. 衝突, 仕事, エネルギー, 動力</li> <li>6. すべり摩擦, ころがり摩擦</li> <li>7. 簡単な機械の力学, てこ, 滑車, 斜面</li> <li>8. 定期試験</li> </ol>
<b>教科書</b>	工業力学/青木弘, 木谷晋 共著: 森北出版, 2010. 12, ISBN:978-4-627-61024- 基礎振動工学/芳村敏夫, 横山隆, 日野順市: 共立出版, 2002. 10, ISBN:4-320-08143-9 2年後期 青木弘, 木谷晋「工業力学」森北出版 3年前期 芳村敏夫・横山隆・日野順市「基礎振動工学」共立出版
<b>参考書</b>	参考書については講義中に紹介する。
<b>成績評価の方法</b>	2年後期と3年前期の通年で, 中間試験, 学期末試験の点数およびレポートおよび演習回答状況等による平常点によって評価する。試験の点数と平常点の比率は 8:2 とし 60%以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	原則として「再試験」は行わず, 「次年度での再受験」とする。
<b>受講者へのメッセージ</b>	機械工学の基礎専門科目として重要であるから, 予習・復習は必ず行うこと。授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 藤澤 正一郎(エコ棟 704) 日野 順市(機械棟 M422) (オフィスアワー) 火曜日 17時~18時, 月曜日 17時~18時
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「振動工学」と「振動工学演習」は基礎知識の理解を深める意味で合わせて受講する必要がある。「解析力学」, 「解析力学演習」, 「微分方程式 1」の履修を前提として授業を行う。</li> <li>2. 【授業時間】45 時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)90 時間。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年後期・3年前期	<b>時間割番号</b>	5121290
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	振動工学演習[Exercise of Applied Dynamics of Machine]		
<b>担当教員</b>	日野 順市, 藤澤 正一郎 [Junichi Hino, Shoichiroh Fujisawa]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	講義の進行にしたがい演習問題を解かせることにより理解を深める。		
<b>授業の概要</b>	「振動工学」の講義の進度に応じて行う。講義の理解を深めさせるために, 教科書演習問題等を課題として演習を実施する。演習問題については, 模範解答を配布するなどして解説する。		
<b>キーワード</b>	力学, 振動		
<b>到達目標</b>	静力学, 動力学および振動工学も基礎知識の理解。		
<b>授業の計画</b>	「振動工学」の講義に準じる。		
<b>教科書</b>	工業力学/青木弘, 木谷晋 共著: 森北出版, 2010. 12, ISBN:978-4-627-61024- 基礎振動工学/芳村敏夫, 横山隆, 日野順市: 共立出版, 2002. 10, ISBN:4-320-08143-9 2年後期 青木弘, 木谷晋「工業力学」森北出版 3年前期 芳村敏夫・横山隆・日野順市「基礎振動工学」共立出版		
<b>参考書</b>	「振動工学」講義中に紹介する。		
<b>成績評価の方法</b>	2年後期と3年前期の通年で, 「振動工学」の試験の点数およびレポートおよび演習回答状況等による平常点により評価し 60%以上を合格とする。成績評価の比率は「振動工学」に準じる。		
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b> 演習問題は必ず事前に解答しておくこと。レポート等でわからないところがあれば, 教員室に質問にすること。授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 藤澤 正一郎(エコ棟 704) 日野 順市(機械棟 M422) (オフィスアワー) 火曜日(17.00-18.00), 月曜日(17.00-18.00)
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「振動工学」と「振動工学演習」は基礎知識の理解を深める意味で合わせて受講する必要がある。</li> <li>2. 「振動工学」と同時に開講する。【授業時間】45 時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)90 時間。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5121300
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生産加工システム[Machining and Introduction to Manufacturing System]		
<b>担当教員</b>	石田 徹, 多田 吉宏 [Tohru Ishida, Yoshihiro Tada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械工作法のうち, 切削加工および鋳造や溶接といった溶融加工の理論と実際について学習するとともに, これらの加工法を実現する工作機械の基礎や製造を効率化する生産システムの概念を学ぶ。力学・材料・制御・計測などと関連づけながら, 今日的高効率・高精度な生産加工技術の基本について理解を深める。		
<b>授業の概要</b>	最近, 情報化や知能化が進み, あらゆる機械がコンピュータを搭載し, システム化やネットワーク化がなされてきている。事実, 生産加工分野においても, 工作機械のNC化が進み, 生産システムも著しい進歩を遂げている。しかし, 機械工作法の本質が変わったわけではない。最先端の生産加工技術を研究開発するにも, その基礎となる理論や技術の習得が必要である。そこで, この授業では, 主要な生産加工技術である切削加工および鋳造や溶接の基礎を中心に解説する。なお, この授業は講義と演習で構成される。		
<b>キーワード</b>	鋳造, 溶接, 切削加工, 工作機械, 生産システム		
<b>先行/科目</b>	『機械基礎実習[Introduction to Mechanical Engineering Laboratory]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『精密加工学[Precision Machining]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鋳造(第1週, 第2週), 溶接(第3週, 第4週), 切削加工(第5週~第14週), および, 生産システム(第15週)について, 概念と基礎を理解, 修得する。</li> <li>2. 講義と演習を通じて, 応用力の涵養を図る。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 砂型鋳造・演習</li> <li>2. 各種の鋳造法・演習 &lt;レポート&gt;</li> <li>3. 被覆アーク溶接</li> <li>4. 各種の溶接法 &lt;レポート&gt;</li> <li>5. 切削加工の基礎</li> <li>6. 切削工具材料, 切削工具形状</li> <li>7. 切りくず生成機構</li> <li>8. 切削抵抗 &lt;レポート&gt;</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 工具寿命, 被削性, 切削油剤 &lt;レポート&gt;</li> <li>10. 旋削加工</li> <li>11. フライス加工</li> <li>12. 各種フライス加工の得失</li> <li>13. 穴あけ加工, 中ぐり加工 &lt;レポート&gt;</li> <li>14. 切断加工, ブローチ加工, 歯切り加工</li> <li>15. NC工作機械と生産システム</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	新編機械加工学/橋本文雄, 山田卓郎: 共立出版, 1990.5, ISBN:4320080556		
<b>参考書</b>	溶融加工学/大中逸雄, 荒木孝雄: コロナ社, 1987.9, ISBN:4339040584 機械加工学/中島利勝, 鳴滝則彦: コロナ社, 1983.10, ISBN:4339040592 図解 よくわかる機械加工/武藤一夫: 共立出版, 2012.4, ISBN:4320081888		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	鋳造や溶接に関しては, 授業の際に参考資料を配布する。切削加工や生産システムに関しては, 主に上記の教科書を利用するが, 適宜, 参考資料も配布する。また, 授業の全般にわたって, 理解を深めるために, 上記の参考書を自主的に参照することが望ましい。		
<b>成績評価の方法</b>	演習やレポートに基づく平常点と定期試験の結果を4:6の比率で総合して評価し, 60%以上を合格とする。		

<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習と復習を行うこと。授業に出席して理解すること。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先)	石田 徹(M321, Tel:088-656-7379)	
		多田吉宏(M319, Tel:088-656-7381)	
	(メールアドレス)	石田 徹:ishidat@me.tokushima-u.ac.jp	
		多田吉宏:tada.yoshihiro@tokushima-u.ac.jp	
	(オフィスアワー)	石田 徹:月曜日 18:00-19:00	
		多田吉宏:月曜日 17:00-18:00	
<b>備考</b>	1. 演習を行うので、A4レポート用紙、関数電卓、定規・物差しなどを持参すること。 2. 【授業時間】34 時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成、試験準備等)68 時間		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121310
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	精密加工学[Precision Machining]		
<b>担当教員</b>	石田 徹 [Tohru Ishida]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	切削加工、研削加工、砥粒加工の学習を通じて、高精度な機械加工技術の基礎を習得するとともに応用力を養う。		
<b>授業の概要</b>	精密加工の意義と効用を示すとともに、精密切削や研削および研磨の各加工法についてそれぞれの原理とメカニズムを解説し、高い精度と表面品位を実現するための要点について解説する。なお、この授業は講義を中心に構成される。		
<b>キーワード</b>	切削加工, 研削加工, 砥粒加工		
<b>先行/科目</b>	『生産加工システム[Machining and Introduction to Manufacturing System]』(1.0)、『基礎機械製図[Fundamental Machine Drawing]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『材料科学[Materials Science]』(0.3)、『材料力学[Strength of Materials]』(0.3)、『振動工学[Applied Dynamics of Machine]』(0.3)、『伝熱工学[Heat Transfer Engineering]』(0.3)、『塑性加工学[Metal Forming and Theory of Plasticity]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 切削加工, 研削加工, 砥粒加工のそれぞれにおける加工メカニズム, および, 工具と被加工物の双方の挙動について理解する。 2. 加工目標(精度, 能率, コスト, 環境など)を達成するためのアプローチの基礎を理解する。		
<b>授業の計画</b>	9.	研削加工の基礎, 研削砥石 <レポート>	
1.	10.	精密加工の意義	
2.	11.	精密加工を実現するための基本原理	
3.	12.	研削加工で発生する諸現象	
4.	13.	研削加工面の精度とその影響因子	
5.	14.	各種研削における精密加工の原理	
6.	15.	各種研削における精密加工の原理	
7.	16.	研磨加工の基礎, ラッピング	
8.		ポリシング	
		定期試験	
<b>教科書</b>	精密機械加工の原理/安永暢男, 高木純一郎:日刊工業新聞社, 2011.2, ISBN:9784526066351 「精密機械加工の原理」(安永暢男, 高木純一郎 著)は, 2002年10月に工業調査会から刊行されたが, 同社が2010年8月に事業を停止したため, 2011年2月に日刊工業新聞社から新たに刊行された。		
<b>参考書</b>	超精密加工の基礎と実際/超精密加工編集委員会:日刊工業新聞社, 2006.2, ISBN:4526055964 精密工作法 第2版 上巻/田中義信, 津和秀夫, 井川直哉:共立出版, 1979.9, ISBN:4320079086 新編機械加工学/橋本文雄, 山田卓郎:共立出版, 1990.5, ISBN:4320080556		
<b>成績評価の方法</b>	レポートに基づく平常点と定期試験の結果を4:6の比率で総合して評価し, 60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	加工学は, 材料工学, 材料力学, 振動工学, 伝熱工学などの知見を結集した学問領域であるので, これらを含めてしっかり予習と復習を行うこと。		

<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先)	石田 徹(M321, Tel:088-656-7379, E-mail:ishidat@me.tokushima-u.ac.jp)	
		(メールアドレス) 石田 徹:ishidat@me.tokushima-u.ac.jp	
		(オフィスアワー) 石田 徹:月曜日 18:00-19:00	
<b>備考</b>	1. 授業時間】22.5 時間、【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45 時間		

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5121320
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	塑性加工学[Metal Forming and Theory of Plasticity]		
<b>担当教員</b>	多田 吉宏 [Yoshihiro Tada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	金属材料の塑性と主要な塑性加工法の概念を理解すると共に, 塑性力学の基礎を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	材料の塑性を利用して所定の形状に加工する加工法を塑性加工という。製品の精度・コストおよび材質面での優位さから, 塑性加工は 今後ますますその重要性を増すものと思われる。様々な塑性加工法の原理とともに, 塑性力学に基づく加工力等の推定方法の基礎を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	圧延, 押し出し, 引抜き, 鍛造, 板成形, 降伏条件式, 応力-歪増分関係式, スラブ法		
<b>到達目標</b>	1. 塑性加工法の概略を理解する。 2. 塑性力学の基礎を理解する。		
<b>授業の計画</b>	9.	圧延の理論,<レポート>	
1.	10.	塑性加工の意義と特徴	
2.	11.	単軸引張り・圧縮における応力とひずみ	
3.	12.	金属材料の降伏条件,<レポート>	
4.	13.	応力-ひずみ関係式 1 相当応力と相当ひずみ	
5.	14.	応力-ひずみ関係式 2 ひずみ増分理論, <レポート>	
6.	15.	鍛造加工	
7.	16.	鍛造の理論,<レポート>	
8.		圧延加工	
<b>教科書</b>	基礎からわかる塑性加工(改訂版)/長田修次, 柳本潤 共著:コロナ社, 2010. 4, ISBN:978-4-339-04604		
<b>参考書</b>	基礎塑性加工学/川並高雄:森北出版, 1995. 4, ISBN:4-627-66310-2 金属塑性加工学/加藤健三:丸善, 1993. 2, ISBN:4-621-03800-1		
<b>成績評価の方法</b>	演習レポート40点と定期試験60点を合計して60点以上得た者を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	専門用語や式の意味を十分に理解するなど, 教科書によく目を通すことが基本となる。		
<b>JABEE合格</b>	60点以上の成績をもってJABEE合格とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	学習教育目標(B)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先)	多田吉宏(M319, Tel:088-656-7381)	
		(メールアドレス) tada.yoshihiro@tokushima-u.ac.jp	
		(オフィスアワー) 月曜日 17-18 時	
<b>備考</b>	【授業時間】22.5 時間、【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45 時間		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121330
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	機械計測[Mechanical Measurement]		
<b>担当教員</b>	安井 武史, 日下 一也 [Takeshi Yasui, Kazuya Kusaka]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 自然の仕組みと社会のニーズを橋渡しするのが工学である。自然の仕組みを理解し、それをを用いて新しいものの開発するために、測定がいかに大切であるかということを学ぶ。正確で精密な測定によって、事実をきちんと事実として見つめられるような技術者になることを目指す。																																			
<b>授業の概要</b> 機械工学における計測の重要性を認識するとともに、機械部品を加工・生産することにおいて重要な関わりのある計測の原理と方法について理解を深める。計測の基礎である誤差についての正しい理解をし、高精度測定、測定の自動化、オンラインデータ処理法などの近代化された生産体系の中に、測定手法がいかに組み込まれているかを学ぶ。授業形式:講義。																																			
<b>キーワード</b> 測定, 誤差, 長さ計測, 自動測定, A-D 変換																																			
<b>関連/科目</b> 『科学計測[Scientific Measurements]』(0.5)																																			
<b>到達目標</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>到達目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>機械工学における計測の重要性を理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>偶然誤差と系統誤差の概念とそれらの処理法を理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>系統誤差の要因を理解する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各種機械計測法の原理を理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>A-D 変換とその具体的方法を理解する。</td> </tr> </tbody> </table>	No.	到達目標	1	機械工学における計測の重要性を理解する。	2	偶然誤差と系統誤差の概念とそれらの処理法を理解する。	3	系統誤差の要因を理解する。	4	各種機械計測法の原理を理解する。	5	A-D 変換とその具体的方法を理解する。																						
No.	到達目標																																		
1	機械工学における計測の重要性を理解する。																																		
2	偶然誤差と系統誤差の概念とそれらの処理法を理解する。																																		
3	系統誤差の要因を理解する。																																		
4	各種機械計測法の原理を理解する。																																		
5	A-D 変換とその具体的方法を理解する。																																		
<b>授業の計画</b>																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>計測の基礎(自然科学と工学技術)</td></tr> <tr><td>2</td><td>計測の基礎(機械工学と計測)</td></tr> <tr><td>3</td><td>偶然誤差と系統誤差</td></tr> <tr><td>4</td><td>測定誤差(平均値, 標準偏差, 信頼限界)</td></tr> <tr><td>5</td><td>測定誤差(最小二乗法)</td></tr> <tr><td>6</td><td>長さの測定</td></tr> <tr><td>7</td><td>形状の測定</td></tr> <tr><td>8</td><td>中間試験</td></tr> <tr><td>9</td><td>角度の測定</td></tr> <tr><td>10</td><td>質量・力・圧力の測定</td></tr> <tr><td>11</td><td>真空の測定</td></tr> <tr><td>12</td><td>温度・湿度の測定</td></tr> <tr><td>13</td><td>時間の測定</td></tr> <tr><td>14</td><td>信号変換と処理(A-D 変換の原理)</td></tr> <tr><td>15</td><td>最近の機械計測技術</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	計測の基礎(自然科学と工学技術)	2	計測の基礎(機械工学と計測)	3	偶然誤差と系統誤差	4	測定誤差(平均値, 標準偏差, 信頼限界)	5	測定誤差(最小二乗法)	6	長さの測定	7	形状の測定	8	中間試験	9	角度の測定	10	質量・力・圧力の測定	11	真空の測定	12	温度・湿度の測定	13	時間の測定	14	信号変換と処理(A-D 変換の原理)	15	最近の機械計測技術	16	期末試験	
回	内容																																		
1	計測の基礎(自然科学と工学技術)																																		
2	計測の基礎(機械工学と計測)																																		
3	偶然誤差と系統誤差																																		
4	測定誤差(平均値, 標準偏差, 信頼限界)																																		
5	測定誤差(最小二乗法)																																		
6	長さの測定																																		
7	形状の測定																																		
8	中間試験																																		
9	角度の測定																																		
10	質量・力・圧力の測定																																		
11	真空の測定																																		
12	温度・湿度の測定																																		
13	時間の測定																																		
14	信号変換と処理(A-D 変換の原理)																																		
15	最近の機械計測技術																																		
16	期末試験																																		
<b>教科書</b> システム計測工学 : ポイントでわかる機械計測の基礎と実践/永井健一, 丸山真一 共著, :森北出版, 2011, ISBN:9784627666917 必要に応じてプリントを配布する																																			
<b>参考書</b> はじめての計測工学 = A 1st Course in Measurement Engineering/南茂夫, 木村一郎, 荒木勉 著, :講談社, 2012, ISBN:9784061565111 絵ときでわかる計測工学/門田和雄 著, :オーム社, 2006, ISBN:4274202399 計測システム工学の基礎/西原主計/共著,山藤和男/共著,松田康広/共著, :森北出版, 2012, ISBN:9784627664432																																			
<b>成績評価の方法</b> 2回のレポートと定期試験の総合点を骨子として評価する。レポートと定期試験の比率は 40:60 とし 60%以上を合格とする。4 回以上の欠席には単位を与えない。																																			
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。																																			
<b>受講者へのメッセージ</b> 受講の前には必ず該当部分の予習が必要です。また、講義中にはメモを取り、それに基づいて自分のノートを作成することが大切です。理解できた部分と理解できなかった部分をはっきりさせ、後者について時をおかず自ら知らべる努力をしよう。																																			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。																																			
<b>学習教育目標との関連</b> (B)70%, (E)15%, (G)15%に対応する。																																			
<b>WEB ページ</b>																																			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 安井(M317, 088-656-7377, yasui.takeshi@tokushima-u.ac.jp) 日下(M322, 088-656-9442, kusaka@me.tokushima-u.ac.jp)																																		
<b>備考</b>	1. 測定系には機械要素, 材料, 電気, 光学, 流体などさまざまな分野が総合的に駆使されて成り立っているので, これらに関する初歩的な知識を要する。また, 講義終了後には講義中のメモに基づいて自分のノートを整理し, 内容のまとめと補完をすることが大切である。																																		

2. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。
3. 【授業時間】22.5時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成、試験準備等)45時間

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121340
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	科学計測[Scientific Measurements]		
<b>担当教員</b>	米倉 大介 [Daisuke Yonekura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 機械材料の性質を知る際、その表面の特性を知ることが重要となる。本講義では表面粗さや硬度等の機械的な測定法の原理に加え、電子線、X線等を用いた表面分析・計測技術の基礎についてその原理を講義し、材料に関する測定・分析の基礎を扱う。			
<b>授業の概要</b> 機械材料を用いる際、その幾何学的・機械的・化学的性質を正しく把握することは重要である。特に固体表面から得られる情報はとりわけ多い。本講義では、表面粗さや硬度等の機械的な測定法の原理に加え、電子線、X線等を用いた代表的な表面分析・計測手法について、測定原理、性能、応用例を講述し、材料開発や機械加工に関する基礎力の養成を図る。			
<b>キーワード</b> 表面分析, 組織, 結晶, 硬度, 表面粗さ, 電子線, X線等			
<b>先行/科目</b> 『機械計測[Mechanical Measurement]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『もの作り創造材料学[Engineering Materials]』(1.0), 『生産加工システム[Machining and Introduction to Manufacturing System]』(0.8)			
<b>到達目標</b> 表面分析・計測技術の基礎を理解する。			
<b>授業の計画</b>			
1. ガイダンス, 表面の特性と表面分析用機器の概要	5. 走査電子顕微鏡	11. オージェ電子分光	
2. 表面粗さの測定法	6. 透過電子顕微鏡	12. X線光電子分光法	
3. 接触面積の測定法	7. 中間試験	13. イオンマイクロアナライザ	
4. 硬さ試験法	8. X線の基礎及び残留応力の測定法 1	14. 加工変質層の各種測定法 1	
	9. X線の基礎及び残留応力の測定法 2	15. 加工変質層の各種測定法 2	
	10. X線マイクロアナライザ	16. 期末テスト	
<b>教科書</b> 表面測定技術とその応用/河村未久, 中村義一:共立出版, 1988, 1, ISBN:4-320-08045-9			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 平常点(受講姿勢, 小レポート), 中間試験, 期末定期試験を総合して評価する。平常点と中間試験と期末試験の比率は 1:4:5 と 60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は行いません。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義を受ける際には, 2時間の講義時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで講義を受けることが, 講義の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)70%, (D)30%に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 米倉大介(M326, Tel: 088-656-9186) (メールアドレス) yonekura@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 17:00-18:00		
<b>備考</b>	1. 平常点には, 受講姿勢に加え演習問題の提出状況と内容も含まれる。 2. 【授業時間】22.5時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成、試験準備等)45時間		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121350
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	自動制御理論1[Automatic Control theory 1]		
<b>担当教員</b>	小西 克信, 三輪 昌史 [Katsunobu Konishi, Masafumi Miwa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)



<b>授業の目的</b> なぜ自動制御が機械工学で必要か、自動制御系設計にはどのような知識が必要なのかについて理解させる。本講義では、線形制御理論に焦点を絞り、時間とともに変動する現象を理解する感覚を養い、自動制御の目的と構成、自動制御系の解析・設計のための基礎理論を講義するとともに、毎時間演習を実施し、自動制御に必要な基礎知識を修得させる。	
<b>授業の概要</b> 自動制御技術は、一般産業機械をはじめロボット、NC 工作機械の基礎技術として応用されており、自動制御なくしては機械の満足な動作は期待できない。そのため線形制御理論に基づき数学的解析法と設計法を解説する。	
<b>キーワード</b> 自動制御、動特性、安定性、制御性能	
<b>到達目標</b> 1. 自動制御の目的と構成を理解する。 2. 自動制御系の解析・設計の基礎理論を修得する。	
<b>授業の計画</b> 1. 自動制御の基礎概念(自動制御の目的、構成) 2. ラプラス変換と微分方程式・演習 3. ラプラス変換と微分方程式・演習 4. 伝達関数とブロック線図・演習 5. 伝達関数とブロック線図・演習 6. 周波数応答・演習 7. 周波数応答・演習 8. 中間試験 9. 制御系の安定・演習 10. 制御系の安定・演習 11. 制御系の安定・演習 12. 制御系の良さ・演習 13. 制御系の良さ・演習 14. 制御系設計の基礎・演習 15. 質問・総括 16. 定期試験	
<b>教科書</b> 自動制御の講義と演習／添田喬，中溝高好：日新出版，1988. 4，ISBN:9784817301376	
<b>参考書</b> 講義中に説明する。	
<b>成績評価の方法</b> 試験(70 点)，レポート点(30 点)とし 60 点以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は，中間試験と定期試験の後，それぞれ1回実施する。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 「微分方程式 1, 2」, 「ベクトル解析」, 「複素関数論」, 「振動工学」, 「電子回路」等の履修を前提にして講義を行う。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) A クラス:小西(M423, 088-656-7383, konishi@me.tokushima-u.ac.jp) B クラス:三輪(M420, 088-656-7387, miw@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) A クラス:konishi@me.tokushima-u.ac.jp B クラス:miw@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) A クラス:小西:水曜日 17:00-18:00 B クラス:三輪:月曜日 17:00-18:00
<b>備考</b>	1. 2 時間の講義の後，毎回 1 時間の演習を行う。予習復習は欠かさず行うこと。 2. 授業時間 33.75 時間，自己学習時間 45 時間。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121360
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	自動制御理論2[Automatic Control theory 2]		
<b>担当教員</b>	小西 克信 [Katsunobu Konishi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 制御理論の中でも比較的新しい現代制御理論と呼ばれる分野の基礎を，体系的にわかりやすく講義する。数値例題を用いて機械システムの制御系設計の基本的概念や考え方を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 人類を月に運んだ技術の一つに自動制御技術があげられ，その中心は現代制御理論である。最近では機械システムの機能を最大限發揮させるためには設計段階から制御理論の導入が必要である。その現代制御理論の基礎概念ならびにアルゴリズムについて解説する。			
<b>キーワード</b> 状態方程式，可制御・可観測，極配置，オブザーバ，最適レギュレータ			
<b>到達目標</b> 現代制御理論の考え方を理解し，その解析手法と設計手法の基礎を習得する。			
<b>授業の計画</b> 1. 現代制御の概念と数学的基礎 2. 動的システムのモデリングと状態方程式 3. 動的システムのモデリングと状態方程式 4. 可制御性と可観測性 5. 可制御性と可観測性 6. 伝達関数行列と状態方程式 7. 制御系の安定性 8. 中間試験 9. 極配置 10. 極配置 11. オブザーバ 12. オブザーバ 13. 最適レギュレータ 14. 最適レギュレータ 15. サーボ系の設計 16. 定期試験			
<b>教科書</b> 例題で学ぶ現代制御の基礎／鈴木隆，板宮敬悦 共著：森北出版，2011. 10，ISBN:9784627920910			

<b>参考書</b> 現代制御論／吉川恒夫，井村順一：昭晃堂，1994. 8，ISBN:4785690496	
<b>成績評価の方法</b> 評価は試験を 70 点，レポート点を 30 点とし，合計 60 点以上を合格とする。試験は中間試験と定期試験の平均とする。レポート点は毎回のレポートの提出回数と内容から評価する。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は，基本的に実施しない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 全回出席することを原則とする。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 小西 (M423, 088-656-7383, konishi@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) konishi@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 17:00～18:00
<b>備考</b>	1. 毎回レポートを課すので，次回の講義の最初に提出すること。現代制御理論は製造業に興味を持つ者には是非学んでもらいたい分野である。 2. 授業時間 22.5 時間，自己学習時間 45 時間。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5121370
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	制御工学[Control Engineering]		
<b>担当教員</b>	三輪 昌史 [Masafumi Miwa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 機械を知能化するためには，その位置や速度および力などの制御が必要である。本講義では，これらの制御を取り扱うサーボ機構の基本構成要素であるアクチュエータの駆動原理および制御技術について論じ，また，レポートを課し，中間試験を実施することにより，機械を知能化する上で必要な基礎知識を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 位置・速度・力などの制御を取り扱うサーボ機構の構成要素である電気・油圧・空気圧アクチュエータや制御弁などの構造・機能およびサーボ系の各種制御法について講義し，その応用事例について論じる。			
<b>キーワード</b> 制御，アクチュエータ，サーボ			
<b>先行科目</b> 『自動制御理論1[Automatic Control theory 1]』(1.0)，『自動制御理論2[Automatic Control theory 2]』(0.6)			
<b>関連科目</b> 『電子回路[Electronic Circuits]』(0.5)，『メカトロニクス工学[Mechatronics Engineering]』(0.5)，『メカトロニクス実習[Mechatronics Laboratory]』(0.5)，『ロボット工学[Robotics]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. アクチュエータや制御弁の駆動原理と制御技術を理解する。 2. サーボ機構の構成と制御法を理解する。			
<b>授業の計画</b> 1. サーボシステムの基本構成 2. システムの動特性 3. コントローラとセンサ・レポート 4. アクチュエータ概論 5. アクチュエータによる制御・レポート 6. 電動アクチュエータ 7. 電気サーボシステム・レポート 8. 中間試験:解説 9. 油圧アクチュエータ 10. 油圧制御弁 11. 油圧サーボシステム・レポート 12. 空気圧アクチュエータ 13. 空気圧制御弁 14. 空気圧サーボシステム・レポート 15. その他のアクチュエータと動作原理 16. 定期試験			
<b>教科書</b> アクチュエータの駆動と制御／武藤高義：コロナ社，2004. 2，ISBN:9784339044065			
<b>参考書</b> サーボアクチュエータとその制御／岡田義二・長坂長彦著：コロナ社，ISBN:9784339041262 油空圧工学／山口博・田中裕久：コロナ社，ISBN:9784339040500 アクチュエータ実用事典：フジ・テク/システム，ISBN:9784938555092			
<b>成績評価の方法</b> 試験(70 点)，レポート(30 点)。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 「電子回路」「振動工学」「メカトロニクス工学」「自動制御理論 1」の履修を前提にして講義を行う。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同じ			
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に関連			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 三輪(M420,656-7387,miw@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) miw@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00-18:00		

備考	1. 【授業時間】22.5時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45時間 2. 単元が終わるごとにレポートを課し, また中間試験を行うので, 予習復習は欠かさず行うこと。
----	--

開講学期	4年・前期	時間割番号	5121380
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	画像処理[Image Processing]		
担当教員	浮田 浩行 [Hiroyuki Ukida]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)

**授業の目的** コンピュータによる画像処理の基本原則と代表的な処理アルゴリズムおよびそれによって組立てられた処理システムまでを学習することにより, 画像処理の基礎及び問題点を概観し, 将来自らの力でより進んだシステムを構築できるようにする。

**授業の概要** 最初に, 画像の内部表現, 表示, 画像のデジタル化について述べる。そして, 基本的な画像処理手法について詳述するとともに, 画像処理のプログラミング手法についてを解説し, 基本的な画像処理システムを作成する。

**キーワード** 画像処理アルゴリズム, パターン計測・認識・理解, コンピュータプログラム

**到達目標**

1. コンピュータでの画像データの取扱い方を理解する。(授業計画 1~2)
2. 基本的な画像処理の手法を理解する。(授業計画 3~7,9~13)
3. 各種手法を組み合わせて目的の処理を達成する技術を修得する。(授業計画 8,14~15)

<b>授業の計画</b>	6. 画質改善	12. 3次元計測
1. 画像処理概要	7. 特徴抽出	13. 画像処理の応用
2. 標本化・量子化	8. 第1回レポート課題	14. 基本的な画像処理システムの構築
3. 2値化	9. カラー画像処理	15. 第2回レポート課題
4. 輪郭抽出	10. 幾何学的変換	16. 期末試験
5. 雑音除去	11. 周波数処理	

**教科書** C言語で学ぶ実践画像処理: Windows/X-Window対応/井上誠喜, 八木伸行, 林正樹, 中須英輔, 三谷公二, 奥井誠人:オーム社, 2008. 11, ISBN:9784274502033

**参考書** OpenCVプログラミングブック: OpenCV 1. 1対応/奈良先端科学技術大学院大学OpenCVプログラミングブック制作チーム:毎日コミュニケーションズ, 2009. 7, ISBN:9784839931599

**成績評価の方法** 2回行レポート課題を50%, 期末試験を50%として成績評価を行い, 60%以上を合格とする。

**再試験の有無** 原則として再試験は行わない。

**受講者へのメッセージ** Visual C++がインストールされているパソコンを利用できることが望ましい。

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** (B)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 浮田浩行(M424, Tel:088-656-9448, E-mail:ukida@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ukida@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 17:00~18:00

**備考** 【授業時間】22.5時間  
【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45時間

開講学期	2年・前期	時間割番号	5121390
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	電子回路[Electronic Circuits]		
担当教員	大石 篤哉 [Atsuya Ohishi]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 急速に発展する「マイクロエレクトロニクス」との融合により「機械」の新たな機能を創造する「メカトロニクス」のための電子回路の基礎知識を習得させる。

**授業の概要** 最初に受動素子の働きとその回路について説明した後, マイクロエレクトロニクスの中心となる半導体電子部品について述べる。後半はデジタル回路に関して各種機能の実現方法を詳述する。

**キーワード** 電子回路, アナログ回路, デジタル回路, メカトロニクス, コンピュータ

**到達目標**

1. 基本的な電子デバイスの機能を定性的かつ定量的に理解する。
2. 基本的なアナログ電子回路の計算方法を習得する。
3. 基本的なデジタル論理回路の設計・解析手法を習得する。

<b>授業の計画</b>	6. 回路シミュレーション	12. 二進法と加算回路
1. オームの法則	7. PN接合とダイオード	13. フリップフロップ
2. 直流と交流	8. トランジスタ増幅回路とオペアンプ	14. カウンタとシフトレジスタ
3. 受動電子部品(CとL)	9. デジタル基本論理回路	15. AD変換とDA変換
4. 回路の過渡現象	10. デジタル回路と真理値表	16. 定期試験
5. 回路の周波数特性	11. ブール代数と論理式	

**教科書** メカトロニクスのための電子回路基礎/西堀賢司:コロナ社, 1993. 7, ISBN:4339043907

**参考書** 図解・わかる電子回路: 基礎からDOS/V活用まで/加藤肇:講談社, 1995. 9, ISBN:406257084  
機械系の電子回路/高橋晴雄, 阪部俊也:コロナ社, 2001. 10, ISBN:4339044601  
インタフェースの電子回路入門/雨宮好文:オーム社, 1999. 8, ISBN:4274086801  
CPUの創りかた: IC10個のお手軽CPU設計超入門 初歩のデジタル回路動作の基本原則と製作/渡部郁:毎日コミュニケーションズ, 2003. 9, ISBN:4839909865

**成績評価の方法** 講義に対する理解力の評価は定期試験により評価し60%以上を合格とする。

**再試験の有無** 原則として再試験は行わない。

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** (B)に対応する

<b>WEB ページ</b>	http://www.me.tokushima-u.ac.jp/~oishi/o_e002.htm
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大石篤哉(M622, Tel:656-7365, E-mail: oishi@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) oishi@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 15:00 - 17:00 金曜日 15:00 - 17:00

**備考**

1. 「メカトロニクス実習」, 「創造実習」の授業は, 本講義の受講を前提として進められる。
2. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

【授業時間】22.5時間  
【自己学習時間】(予習復習・試験準備等)45時間

開講学期	2年・後期	時間割番号	5121400
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	メカトロニクス工学[Mechatronics Engineering]		
担当教員	岩田 哲郎 [Tetsuo Iwata]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)

**授業の目的** メカトロニクスの構成要素として必要不可欠な, 各種のセンサとモータの動作原理, および制御回路の基礎知識を習得させる。

**授業の概要** 最初に, 以後の講義を理解するために必要な, OPアンプ回路と負帰還増幅器の簡単な説明を行なう。その後, 各種のセンサの動作原理と応用回路について講述する。後半では, 各種のモータの動作原理と駆動回路について講述する。

**キーワード** センサ, モータ, オペアンプ, アクチュエータ

**先行/科目** 『電子回路[Electronic Circuits]』(1.0)

**関連/科目** 『メカトロニクス実習[Mechatronics Laboratory]』(1.0), 『ロボット工学[Robotics]』(1.0)

**到達目標**

1. 基本的なセンサの動作原理と駆動回路を理解すること
2. 各種モータの動作原理と駆動回路を理解すること
3. データシートから必要な情報を読み取れるようにすること

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> ホールセンサ	<b>12.</b> DC モータと AC モータ
<b>1.</b> OP アンブ回路の基礎	<b>7.</b> 磁気抵抗素子	<b>13.</b> ステッピングモータ
<b>2.</b> 負帰還増幅器の基礎	<b>8.</b> 圧力センサ	<b>14.</b> PLL 回路
<b>3.</b> 熱電対	<b>9.</b> AC 電流センサ	<b>15.</b> 予備日
<b>4.</b> 白金測温抵抗体	<b>10.</b> 超音波センサ	<b>16.</b> 定期試験
<b>5.</b> フォトセンサ	<b>11.</b> モータの種類と動作原理	
<b>教科書</b> 基礎からのメカトロニクス／岩田哲郎, 荒木勉, 橋本正治, 岡宏一:日新出版, 2007, ISBN:978-4-8173-0231		
<b>参考書</b> センサ応用回路の設計製作／松井邦彦:CQ 出版社, 1990, ISBN:4-7828-3063-2 モータ制御&メカトロ技術入門)トランジスタ技術 SPECIAL NO.61:CQ 出版社 電動機の変速駆動入門／片岡昭雄:森北出版, 2004, ISBN:4-627-74231-2		
<b>成績評価の方法</b> 理解を促すためにレポートを課す場合もあるが、その内容や授業への取組状況と最終試験の成績を総合して判定し60%以上を合格とする。最終試験以外は平常点に含め、平常点と最終試験の比率は3:7とする。		
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b> 毎回の復習を特に重視する。		
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b> (B)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岩田 哲郎	
<b>備考</b>	【授業時間】22.5時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成、試験準備等)45時間 <b>1.</b> メカトロニクスとは、メカニクス、エレクトロニクス、オプティクスの技術融合により高性能・高性能装置を創出する工学であり、制御工学の知識を導入してコンピュータにより機械の知能化をはかる技術分野である。したがって 装置製作、計測といった観点から、全ての科目を総合的に勉強する必要がある。 <b>2.</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようえて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	5121410
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	ロボット工学[Robotics]		
<b>担当教員</b>	岩田 哲郎, 水谷 康弘 [Tetsuo Iwata, Yasuhiro Mizutani]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	<b>機械工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b>	ロボットは産業界だけでなく、生活の中に広く浸透しつつある。このようなロボットを製作し動作させるために必要な基礎知識の習得を目的とする。このため、ロボットの力学と制御等、考え方に重点を置いた講義を行う。		
<b>授業の概要</b>	実用化されているロボットは、本体が土台の上に固定され、関節で接続されたリンクによりハンドが空間中を自由に動く機構が多い。このような産業用ロボットを中心にして、ロボットの運動学と動力学の基礎、位置と姿勢の計算法や運動方程式の導出、ロボットに特有の制御法について講義する。そのために最初に、生体とロボットの関係について紹介し、ロボット工学に特有の数学的事項と解析力学の基本的事項に重点を置いて述べる。		
<b>キーワード</b>	メカトロニクス, 解析力学, 制御		
<b>先行/科目</b>	『メカトロニクス工学[Mechatronics Engineering]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	<b>1.</b> 運動の力学の理解 <b>2.</b> ロボット方程式の理解 <b>3.</b> 代表的な制御法の理解		
<b>授業の計画</b>	<b>9.</b> 解析力学の考え方	<b>10.</b> ロボット運動方程式の導出	<b>11.</b> ロボットマニピュレータの運動学と動力学
<b>1.</b> 生体の機能とロボット工学について	<b>12.</b> ロボットダイナミクスのパラメータ同定について	<b>13.</b> ロボットマニピュレータの運動制御	<b>14.</b> 応用例の紹介
<b>2.</b> フィードバック制御について	<b>15.</b> 質問・総括	<b>16.</b> 定期試験	
<b>3.</b> 機械系のフィードバック制御について			
<b>4.</b> フィードバック制御の実際			
<b>5.</b> 運動学と動力学の考え方			
<b>6.</b> 座標変換と回転行列について			
<b>7.</b> 同時変換行列について			
<b>8.</b> 一般的な運動学の同定手法について			
<b>教科書</b>	ロボット制御入門／川村貞夫:オーム社, 1995, ISBN:4-274-13035-5		

<b>参考書</b>	ロボット工学入門／中野栄二:オーム社 ロボティクス-機構・力学・制御-／J.J.クライグ著 三浦宏文・下山勲 訳:共立出版 ロボット工学／則次ほか共著:朝倉書店 ロボットの力学と制御／有本卓:朝倉書店
<b>成績評価の方法</b>	理解を促すためにレポートを課す場合もあるが、その提出状況と内容、授業への取組状況、中間試験、最終試験などを総合して判定する。最終試験以外は平常点に含め、平常点と最終試験の評価比率は4:6とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	「機械力学」、「機械設計」、「自動制御理論」、「電子回路」、「メカトロニクス工学」を履修していることが望ましい。
<b>JABEE合格</b>	上記の成績評価と同一である。
<b>学習教育目標との関連</b>	学習、教育目標(B)100%に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水谷 康弘, 岩田 哲郎
<b>備考</b>	【授業時間】22.5時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成、試験準備等)45時間 <b>1.</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に、1時間の予習と2時間の復習をしようえて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5121420
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	知識ベースシステム[Knowledgebase Systems]		
<b>担当教員</b>	伊藤 照明 [Teruaki Ito]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	<b>機械工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b>	機械工学分野におけるコンピュータの知的利用のための基礎知識およびその応用による問題解決への考え方を習得させる。		
<b>授業の概要</b>	【講義科目】授業前半では工学分野における知識ベースシステムの位置づけを大局的な観点から捉えらるとともに、人工知能の基本的な手法および知識処理による問題解決を行うエキスパートシステムの概要について講義する。後半ではニューラルネットワークや進化的計算などの人工知能分野の手法、そしてインターネットにおける知識処理などについて講義する。		
<b>キーワード</b>	知識処理, 人工知能, 知識ベース, 知的インタフェース, エキスパートシステム		
<b>到達目標</b>	<b>1.</b> 知識ベースシステムに関する基礎知識を習得する。 <b>2.</b> 機械工学における知識ベースシステムの役割について理解する。 <b>3.</b> レポート課題を通じて知識ベースシステム構築方法の基礎を習得する。		
<b>授業の計画</b>	<b>1.</b> 講義概要, 計算機の歴史 <b>2.</b> 人工知能の歴史(チューリングテスト, GPS, エキスパートシステム, 知識工学) <b>3.</b> 状態空間表現による問題解決法 <b>4.</b> 探索法の基礎と応用(網羅的探索法, 発見的探索法, 縦型・横型探索法, 最良優先探索法, A*アルゴリズム, 山登り法, ゲームにおける探索法) <b>5.</b> 知識表現方法の基礎(プロダクションシステム, 意味ネットワーク, フレーム, 述語論理, ファジィ理論) <b>6.</b> 推論処理の基礎(導出と定理証明, 論理プログラミング) <b>7.</b> 知識ベース推論の概要(演繹推論, 帰納推論, アブダクションと仮説推論, 事例ベース推論) <b>8.</b> エキスパートシステム(前向き推論, 後ろ向き推論, 設計型と分析型) <b>9.</b> 自然言語処理, 機械翻訳(単語解析, 構文解析, 意味解析, 文脈解析) <b>10.</b> 画像認識, 画像理解(画像処理, テンプレートマッチング法, 特徴量抽出法, 線画解釈) <b>11.</b> 機械学習(学習モデル, 演繹学習, 帰納学習, 強化学習) <b>12.</b> ニューラルネットワーク(階層型, パーセプトロン, バックプロパゲーション, ボルツマンマシン) <b>13.</b> 進化的計算(遺伝的アルゴリズム, 遺伝的プログラミング, 進化戦略, 進化的プログラミング) <b>14.</b> 知的エージェント(知的エージェントの構造と動作, マルチエージェント, エージェント指向インタフェース) <b>15.</b> WEB インテリジェンス(Web エージェント, セマンティック Web, Web オントロジー, ユビキタスコンピューティング) <b>16.</b> 期末試験		
<b>教科書</b>	人工知能概論 : コンピュータ知能からWeb知能まで／荒屋真二:共立出版, 2004. 10, ISBN:4-320-12116-3		



<b>参考書</b> 知識システム/渡辺貞一, 南川忠利:電子情報通信学会, 1991. 12, ISBN:4-88552-100-9	
<b>成績評価の方法</b> 課題レポートを60%, 定期試験を40%, として評価し60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。レポートには参考文献を明記すること。盗作等の不正が認められた場合は単位取り消しとなる。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (A)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 伊藤照明 (M316, TEL:088-656-2150, tito@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) tito@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週水曜日 14:00-15:00
<b>備考</b>	1. すべての課題レポートの提出および期末試験の受験が満たされることが単位取得の必要条件となる。 2. 【授業時間】22.5時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45時間

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121430
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	機械工学輪講[Mechanical Engineering Seminar]		
<b>担当教員</b>	工学部機械工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 機械工学に関係する外国語文献の読解能力をつける。	
<b>授業の概要</b> 少人数のグループに分かれて外国語の文献を講読し, 内容を理解すると共に他のメンバーに対してその内容を説明し理解させる。授業は前半と後半に分け, それぞれ別のテーマで合計2テーマについて学習する。	
<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b> 1. 外国語の専門用語を理解する 2. 専門外国語の文献を読むための能力をつける 3. 書かれた内容を要約して説明する能力をつける	
<b>授業の計画</b> 各担当教員による。	
<b>教科書</b> 各教員により異なる。機械工学に関連する分野の参考書, 論文, 雑誌などから選ばれる。	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 試験は実施しない。受講姿勢, 発表態度, 内容の把握の程度を合否の判定基準とし60%以上を合格とする。前半および後半についてそれぞれの担当教員が判定し, 双方ともに合格の場合のみ単位が取得できる。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B), (F)に対応する	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 当該年度の輪講世話役
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5121440
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	C言語実習[C Language Programming Exercise]		
<b>担当教員</b>	浮田 浩行, 草野 剛嗣 [Hiroyuki Ukida, Kohji Kusano]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> C言語による基本的なプログラミング手法について実習を行い, 小・中規模なプログラムの作成能力を修得するとともに, 電子計算機の原理やアルゴリズムの設計方法についての理解を深めることを目的とする。	
<b>授業の概要</b> 各実習時間では, 講義計画に示されている内容について説明を行なった後, 実際にパーソナルコンピュータを用いてプログラム作成の実習を行う。また, 課題プログラミングおよび応用プログラミングの回では, 1人または2~3人のグループで, 与えられたテーマに沿ったプログラムの作成を行い, プログラミング能力の養成を図る。	
<b>キーワード</b> コンピュータ, C言語, プログラミング	
<b>到達目標</b>	
1. C言語の命令と標準的な関数について理解する。	9. 構造体, マクロ
2. プログラム作成のための操作方法を修得する。	10. 課題プログラミング 2(仕様, フローチャートの作成)
3. 計算を行うためのアルゴリズムを理解し, その設計が行えるようにする。	11. 課題プログラミング 2(実装, レポート提出)
4. 小・中規模なプログラムを作成できるようにする。	12. 応用プログラミング(仕様設計)
<b>授業の計画</b>	13. 応用プログラミング(実装 1)
1. 実習概要, システム使用法の説明	14. 応用プログラミング(実装 2)
2. データ型, 変数, 入出力の基本	15. 応用プログラミング(発表)
3. 制御構造 1(条件分岐)	16. 予備日
4. 制御構造 2(反復処理)	
5. 課題プログラミング 1(仕様, フローチャートの作成)	
6. 課題プログラミング 1(実装, レポート提出)	
7. 配列, 文字列, ポインタ	
8. 関数, 引数, ファイル入出力	
<b>教科書</b> 初級C言語: やさしいC/後藤良和, 高田大二, 佐久間修一 著, 箕捷彦 監修.: 実教出版, 2010, ISBN:978440732089	
<b>参考書</b> プログラミング言語C: ANSI規格準拠/B. W. カーニハン, D. M. リッチー: 共立出版, 1989. 6, ISBN:4320024834 独習C/ハーバート・シルト: 翔泳社, 1999. 2, ISBN:488135700	
<b>成績評価の方法</b> 実習時に行う小レポートの提出状況とその解答内容を30点, 小テストを20点, また課題・応用プログラミング時に提出するレポートを試験に相当する成績で50点とする。成績評価は, これらの得点を合計し, 60点以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 本実習では, 無断欠席を3回以上行なった者は, 失格とする。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (B) 50%, (C) 25%, (D) 25% に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 草野 剛嗣: (M528, Tel:088-656-2151) 浮田 浩行: (M424, Tel:088-656-9448) (メールアドレス) 草野 剛嗣: kusano@me.tokushima-u.ac.jp 浮田 浩行: ukida@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 草野 剛嗣: 月曜日 15:00~16:00 浮田 浩行: 金曜日 17:00~18:00
<b>備考</b>	【授業時間】37.5時間 【自己学習時間】(レポート作成等)15時間

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5121450
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	CAD実習[Computer Graphics and Computer-Aided Drawing Practice]		
<b>担当教員</b>	伊藤 照明, 水谷 康弘 [Teruaki Ito, Yasuhiro Mizutani]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 機械製図の基礎知識を前提として3次元形状モデリング法を習得するとともに, グループワークによる協調性を養いながら3次元形状モデリングによる課題作成を行う。			
<b>授業の概要</b> 【実習科目】3次元CADソフトを用いて3次元形状モデリングの基礎演習を行う。さらに, 複数の部品を組み合わせ構成される実際の機械部品を題材として, 実態を表現するために必要なモデリング技術の基礎を習得する。また, 総合課題として行うグループワークを通じて創造性・独創性を養う。			
<b>キーワード</b> CAD, 3次元モデル, 設計, デジタルエンジニアリング, チームワーク型学習			

<b>到達目標</b> 1. 機械製図基礎の確認. 2. 3次元形状モデリング技法の習得. 3. 3次元形状モデリングによる創成課題作成.	
<b>授業の計画</b>	
1. 授業概要説明, グループ演習課題設定	
2. CADシステムの基本操作1(スケッチ操作, モデル表示, フィーチャー作成)	
3. CADシステムの基本操作2(突起, カット, 面取り, 参照, リブ)	
4. CADシステムの基本操作3(スイープ, ブレンド, 回転, シェル, ブレンド)	
5. 機械部品のモデル作成1(図面作成, 穴, パターン, ドラフト, ミラー)	
6. 機械部品のモデル作成2(アセンブリの基礎)	
7. 機械部品のモデル作成3(リム作成, ディスク作成, アセンブリの応用)	
8. 自由課題による基礎演習	
9. 3次元モデリングの応用1(コネクティングロッド作成)	
10. 3次元モデリングの応用2(ピストン, ピン作成)	
11. 3次元モデリングの応用3(クランクシャフト作成)	
12. 3次元モデリングの応用4(エンジンのアセンブリと図面作成)	
13. グループ演習1(部品作成1)	
14. グループ演習2(部品作成2)	
15. グループ演習3(アセンブリ, 完成図面)	
16. 予備日	
<b>教科書</b> Pro/ENGINEER実践3次元CADテキスト: Wildfire4.0対応/上智大学設計製図教育委員会 編:日刊工業新聞社, 2010. 12, ISBN:9784526065774	
<b>参考書</b> Pro/ENGINEER Wildfire 2.0による実践3次元CADテキスト: 基本操作からトップダウン設計まで/上智大学設計製図教育委員会 編:日刊工業新聞社, 2005. 3, ISBN:4526054283 Pro/ENGINEERの基礎から応用へ: 機械系学生・技術者のための3次元CAD(Computer Aided Design). 2/太田幹郎:山海堂, 2001. 10, ISBN:4381088050 JIS機械製図の基礎と演習/熊谷信男:共立出版, 2003. 11, ISBN:4320081463	
<b>成績評価の方法</b> 課題レポート・課題作品を60%, グループワークを20%, 期末試験(実技試験)を20%として評価し, 60%以上を合格とする.	
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は行わない.	
<b>受講者へのメッセージ</b> 全ての課題作品・レポートの提出, および期末試験の受験が単位取得のための必要条件となる.	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である.	
<b>学習教育目標との関連</b> (B) 70%, (D) 10%, (E) 20% に対応する.	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 伊藤 照明(M316, Tel: 088-656-2150) 水谷 康弘:機械棟4階427号室, Tel: 088-656-7210 (メールアドレス) 伊藤 照明:tito@tokushima-u.ac.jp 水谷 康弘:mizutani@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 伊藤 照明:毎週水曜日 14:00-15:00 水谷 康弘:毎日 17:00-18:00 機械棟4階427号室
<b>備考</b>	1. 予習・復習を行い, 演習課題に積極的に取り組むこと. 2. 【授業時間】37.5時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)15時間

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5121460
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	機械数値解析[Numerical Analysis]		
<b>担当教員</b>	草野 剛嗣, 園部 元康 [Kohji Kusano, Motomichi Sonobe]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械工学の分野において必要とされる数値解析手法について演習を行い, 機械工学に生じる問題の定式化, プログラム作成能力を修得し, 問題の解決手法をより実践的に理解をすることを目的とする.		
<b>授業の概要</b>	各講義時間では, 講義計画に示される内容について説明を行った後, 関連する機械工学の問題の定式化, 解決法について実践的な演習を実施し, 総合的な問題解決能力の養成を図る.		

<b>キーワード</b> 数値解析, モデル化, アルゴリズム	
<b>到達目標</b> 1. 数値的方法の一般論. (授業計画1~4) 2. 線形代数の数値的方法. (授業計画5-10) 3. 微分方程式の数値的方法. (授業計画11~16)	
<b>授業の計画</b>	8. 最小2乗法 9. 行列の固有値問題:導入と固有値の範囲 10. 反復法による固有値(累乘法) 11. 常微分方程式の解法 12. 楕円型偏微分方程式の解法 13. ノイマン問題と不規則境界 14. 放物型偏微分方程式の解法 15. 双曲型偏微分方程式の解法
<b>教科書</b> 数値解析基礎/安田仁彦:コロナ社, 2008. 12, ISBN:978-4339060973, Aクラス 数値シミュレーション入門: CとJavaで学ぶ/峯村吉泰:森北出版, 1999. 4, ISBN:978-4627916210, Bクラス	
<b>参考書</b> ニューリカルレシペ・イン・シー: C言語による数値計算のレシペ 日本語版/William H. Press:技術評論社, 1993. 6, ISBN:978-4874085608	
<b>成績評価の方法</b> 毎回の講義で課すレポート課題の合計を各100点とし, 各レポートにおいて60点以上を獲得したものを合格とする.	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義および演習形式で授業を行うため, 無断欠席を3回以上行なった者は, 失格とする.	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である.	
<b>学習教育目標との関連</b> (A) 30%, (B) 20%, (C) 30%, (D) 20%に対応する.	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 草野 剛嗣(M528, 088-656-2151, kusano@me.tokushima-u.ac.jp) 園部 元康(M421, 088-656-7382, sonobe@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) 草野:kusano@me.tokushima-u.ac.jp 園部:sonobe@me.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 草野:月曜日 15:00-16:00 園部:月曜日 17:00-18:00, 火曜日 17:00-18:00
<b>備考</b>	【授業時間】22.5時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成等)30時間.

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5121470
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	メカトロニクス実習[Mechatronics Laboratory]		
<b>担当教員</b>	岩田 哲郎, 藤澤 正一郎, 浮田 浩行, 佐藤 克也 [Tetsuo Iwata, Shoichiroh Fujisawa, Hiroyuki Ukida, Katsuya Satoh]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	メカトロニクスの基本的事項を, 基礎的な実習を通して習得させる. IC トレーニングキット, ワン ボードマイクロコンピュータ, 各種センサと制御用モータが実装された専用の実習用キット, パーソナルコンピュータ(Visual C 搭載), といった教材を順番に使用して実習を進めていく. データシートが読解でき, 与えられた設計 課題に対応できる能力を育成する.		
<b>授業の概要</b>	以下の3部構成とする. (1)電子回路の基礎(特にデジタル回路), (2)ワンボードマイクロコンピュータ, (3)パーソナルコンピュータ(C言語)による装置の制御. (1)では, TTL IC とそのデータシートを与え, その動作確認 を行う. またオシロスコープの使い方をマスターする. 最後に簡単なパルス発生器を設計製作しその動作確認を行う. (2)では, Z80 のアセンブラを習得し, 同時にマイクロコンピュータとその周辺のハードウェアを理解する. ここで最大の目標は, 割込の重要性を認識させることである. (3)ではより複雑な装置制御のプログラムをC言語で作成する.		
<b>キーワード</b>	電子回路, マイクロコンピュータ, センサ, 制御, プログラム		
<b>到達目標</b>	1. 簡単なデジタル IC を使用できるようになること. 2. オシロスコープで波形を観測できるようになること 3. ワンボードマイクロコンピュータとアセンブラ言語を理解すること 4. 割込み処理の重要性を認識し, 簡単な動作確認ができるようになること 5. C言語で装置制御ができるようになること		

<b>授業の計画</b>	8. ワンボードマイコンによるモニタプログラム 9. ワンボードマイコンによる装置の制御 10. ワンボードマイコンによる割込制御 11. C言語によるプログラムの開発 12. C言語による装置の制御(スイッチ, LED) 13. C言語による装置の制御(D/C モータ, ステッピングモータ) 14. C言語による装置の制御(A/D 変換) 15. 様々な制御プログラムの作成
1. ゲートICの動作確認 2. ICトレーナーの構成 3. オシロスコープの使用 4. フリップフロップとカウンタICの使用 5. パルス発生器の設計製作 6. Z80の機械語命令 7. ワンボードマイコンの動作	
<b>教科書</b> 専用のテキストを使用する。	
<b>参考書</b> 「メカトロニクス工学」を参照	
<b>成績評価の方法</b> 全回出席を原則とする。各回毎に、課題達成状況を個別に口頭試問し、さらにレポートを課す。受講姿勢と平常点の比率は6:4とし60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 全回出席を原則とする。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (C)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岩田 哲郎:M427,Tel: 088-656-9743 佐藤 克也:(総合研究実験棟 705, 088-656-2168) 浮田 浩行:(M424, Tel:088-656-9448) 藤澤 正一郎:(エコ棟7階704室, Tel:088-656-7537) (メールアドレス) 岩田 哲郎:iwata@me.tokushima-u.ac.jp 佐藤 克也:katsuyas@tokushima-u.ac.jp 浮田 浩行:ukida@tokushima-u.ac.jp 藤澤 正一郎:s-fuji@eco.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	【授業時間】37.5時間, 【自己学習時間】(レポート作成等)15時間 1. 2名の班ごとに実習を行なう。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121480
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	機械工学実験[Mechanical Engineering Laboratory]		
<b>担当教員</b>	工学部機械工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	機械工学各分野に関連したテーマについて基礎的な実験を行うことにより、現象を理解するとともに、現象に対する法則性を見出す科学的、分析的な態度を養う。		
<b>授業の概要</b>	10人程度の班に分かれて、下記授業計画に記載されているテーマに応じた実験を行う。実験終了時は、結果をレポートにまとめ、発表・提出する。		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	1. 様々な実験を通して、機械工学に関係する原理・法則や物理的現象を体験し、各講義で修得した知識の理解を深める。 2. 実験結果を分析し、考察する能力を身につける。 3. 機械工学に関係する機器や計測装置の使用方法を修得する。 4. レポート作成能力やプレゼンテーション能力を修得する。		
<b>授業の計画</b>	5. ポリユートポンプの性能試験 6. ディーゼル機関の性能試験 7. 応力測定 8. 倒立振子のPID制御実験 9. 材料試験	10. モード解析実験 11. 切削抵抗と切削温度 12. 燃料の発熱量の測定 13. 冷凍機の性能試験	
1. 鋼の焼き入れ性 2. ダイアルゲージの誤差解析 3. 電子回路実験 4. シャルピー衝撃試験			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	最初の時間に「機械工学実験指導書」を配布する。		

<b>成績評価の方法</b>	テーマ毎に実験を行い、各指導教員に実験報告書を提出して、口頭試問を受ける。実験報告書および口頭試問により評価する。設定された全テーマに出席し、レポートの提出が必須である。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	開始日に実験題目と日程についての説明および安全教育を行うので必ず出席すること。実験時は機械類を扱うので指導員の注意を十分に守ること。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	学習・教育目標 (C)実験の計画・遂行 に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先)	当該年度の機械工学実験世話係 それぞれの実験の担当職員	(オフィスアワー) 当該年度の機械工学実験世話係 それぞれの実験の担当職員
<b>備考</b>	【授業時間】37.5時間 【自己学習時間】(レポート作成等)15時間		

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5121490
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	機械基礎実習[Introduction to Mechanical Engineering Laboratory]		
<b>担当教員</b>	木戸口 善行, 小西 克信, 安井 武史, 西野 秀郎, 園部 元康 [Yoshiyuki Kidoguchi, Katsunobu Konishi, Takeshi Yasui, Hideo Nishino, Motomichi Sonobe]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	実際の各種機械に慣れ親しみ、その構成要素、機構、精度、性能などを調べることによって、機械工学や技術と機械との有機的つながりを考える。各種製品の製作を通して具現化の方法、図面の読み方などを体験学習する。これらを通じて機械工学の果たす役割を認識するとともにものづくりの素養を身につける。		
<b>授業の概要</b>	安全についての考え方をまず取り上げ、工作機械類を使用したものづくり、ディーゼルエンジンとサーボモータの分解・組立・運転を実習するとともに、性能試験や材料試験を行い、これから学ぶ機械工学・技術の具現方法の一端を体験する。		
<b>キーワード</b>	工作実習, ディーゼルエンジン, サーボモータ, 引張試験		
<b>到達目標</b>	1. 社会生活の中で機械工学が果たしている役割の一端を理解する。 2. 「ものづくり」の基本を理解する。 3. プレゼンテーションの方法を修得する。		
<b>授業の計画</b>	5. 八角リングを用いた荷重の測定 6. 溶接実習 7. NCプログラミング 8. ディーゼルエンジン分解 9. ディーゼルエンジン組立・運転 10. レポート作成	11. 汎用旋盤による引張り試験片の製作 12. 引張り試験 13. レポート作成 14. サーボモータの分解・組立 15. サーボモータの性能試験 16. レポート作成	
1. 安全教育, 実習の概要 2. MC 工作機械によるマグネットチャッカーの製作 3. レポート作成			
<b>教科書</b>	「機械基礎実習指導書」を配布する。		
<b>参考書</b>	新機械製図／山本外次:綜文館		
<b>成績評価の方法</b>	定期試験は行わない。実習への取り組み態度30点、レポートの提出状況と内容70点とし、合計60点以上を獲得した者を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	積極的に参加すべきであるが、体調が悪いときは必ず申し出る。作業しやすい服装のこと。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(C)80%, (E)20%に対応する		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先)	安井(M317, 088-656-7377, yasui@me.tokushima-u.ac.jp) 小西(M423, 088-656-7383, konishi@me.tokushima-u.ac.jp) 木戸口(エコ 502, 088-656-9633, kidog@eco.tokushima-u.ac.jp) 西野(M618, 088-656-7357, nishino@me.tokushima-u.ac.jp)	



<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導員の指示に従って盲目的に実習するのではなく、研究的態度で臨むことが重要である。ただし、機械 類を扱うので指導員の注意を十分に守ることを忘れてはいけない。</li> <li>2. 平常点とレポートとの比率は、30:70 とする。平常点は出席状況、実習に取り組む態度を含む。</li> <li>3. 【授業時間】37.5 時間、【自己学習時間】(レポート作成等)12.5 時間</li> </ol>
-----------	---

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5121500		
<b>科目分野</b>	専門教育科目				
<b>選必区分</b>	必修				
<b>科目名</b>	基礎機械製図[Fundamental Mechine Drawing]				
<b>担当教員</b>	水谷 康弘, 日下 一也, 溝渕 啓, 園部 元康 [Yasuhiro Mizutani, Kazuya Kusaka, Akira Mizobuchi, Motomichi Sonobe]				
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)		
<b>授業の目的</b>	機械系の学生にとって機械製図の基本は在学中に必ず身につけなければならない事柄である。JIS に基づく機械製図法を十分理解し、図面を正しく判読する力を養うとともに、正確に迅速かつ美しく図面を書く技術を身につける。				
<b>授業の概要</b>	機械製図法に関する規格を理解し、実際に役立つ図面を書く技術を習得するために機械要素部品や歯車ポンプなどのスケッチ製図を行う。				
<b>キーワード</b>					
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. JIS に基づく機械製図法を十分理解できる。</li> <li>2. 図面を正しく判読する力を養うとともに、正確かつ迅速かつ美しく図面を書く技術を身につける。</li> <li>3. 実際の機械部品を正確に図面化できる能力を身につける。</li> </ol>				
<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製図法の解説</li> <li>2. 線と文字の練習</li> <li>3. 投影法、図形の表し方、寸法記入、レポート</li> <li>4. アジャストボルト用ブロックのスケッチ製図</li> <li>5. ボルト・ナットの製図</li> <li>6. 断面図、表面粗さ、レポート</li> <li>7. シャフトホルダのスケッチ製図</li> <li>8. 寸法公差とはめあい、レポート</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 歯車ポンプの軸と軸受のスケッチ製図</li> <li>10. 歯車ポンプの歯車のスケッチ製図</li> <li>11. 歯車ポンプのナットのスケッチ製図</li> <li>12. 歯車ポンプのカバーのスケッチ製図</li> <li>13. 歯車ポンプの本体正面図のスケッチ製図</li> <li>14. 歯車ポンプの本体側面図のスケッチ製図</li> <li>15. 歯車ポンプ組立図の正面図の製図</li> <li>16. 歯車ポンプ組立図の側面図の製図</li> </ol> </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製図法の解説</li> <li>2. 線と文字の練習</li> <li>3. 投影法、図形の表し方、寸法記入、レポート</li> <li>4. アジャストボルト用ブロックのスケッチ製図</li> <li>5. ボルト・ナットの製図</li> <li>6. 断面図、表面粗さ、レポート</li> <li>7. シャフトホルダのスケッチ製図</li> <li>8. 寸法公差とはめあい、レポート</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 歯車ポンプの軸と軸受のスケッチ製図</li> <li>10. 歯車ポンプの歯車のスケッチ製図</li> <li>11. 歯車ポンプのナットのスケッチ製図</li> <li>12. 歯車ポンプのカバーのスケッチ製図</li> <li>13. 歯車ポンプの本体正面図のスケッチ製図</li> <li>14. 歯車ポンプの本体側面図のスケッチ製図</li> <li>15. 歯車ポンプ組立図の正面図の製図</li> <li>16. 歯車ポンプ組立図の側面図の製図</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 製図法の解説</li> <li>2. 線と文字の練習</li> <li>3. 投影法、図形の表し方、寸法記入、レポート</li> <li>4. アジャストボルト用ブロックのスケッチ製図</li> <li>5. ボルト・ナットの製図</li> <li>6. 断面図、表面粗さ、レポート</li> <li>7. シャフトホルダのスケッチ製図</li> <li>8. 寸法公差とはめあい、レポート</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 歯車ポンプの軸と軸受のスケッチ製図</li> <li>10. 歯車ポンプの歯車のスケッチ製図</li> <li>11. 歯車ポンプのナットのスケッチ製図</li> <li>12. 歯車ポンプのカバーのスケッチ製図</li> <li>13. 歯車ポンプの本体正面図のスケッチ製図</li> <li>14. 歯車ポンプの本体側面図のスケッチ製図</li> <li>15. 歯車ポンプ組立図の正面図の製図</li> <li>16. 歯車ポンプ組立図の側面図の製図</li> </ol>				
<b>教科書</b>	初心者のための機械製図第3版／藤本元・御牧拓郎監修:森北出版, 2010. 11				
<b>参考書</b>	JIS にもとづく機械設計製図便覧／大西清:理工学社 JIS 機械製図の基礎と演習／熊谷信男・阿波屋義興・小川徹・坂本勇:共立出版				
<b>成績評価の方法</b>	製図課題 5 題を 80%, レポート等を 20%として合計し、60%以上を合格とする。課題図面の配点は、「線と文字」・「アジャストボルト用ブロック」・「ボルト・ナット」・「シャフトホルダ」がそれぞれ 10%であり、「歯車ポンプ」が 40%である。ただし課題図面すべてを期限内に提出しなければ合格にはならない。				
<b>再試験の有無</b>					
<b>受講者へのメッセージ</b>	製図用具, 教科書を必ず持参すること。				
<b>JABEE 合格</b>	製図課題 5 題を 80%, レポート等を 20%として合計し、60%以上を合格とする。課題図面の配点は、「線と文字」・「アジャストボルト用ブロック」・「ボルト・ナット」・「シャフトホルダ」がそれぞれ 10%であり、「歯車ポンプ」が 40%である。ただし課題図面すべてを期限内に提出しなければ合格にはならない。				
<b>学習教育目標との関連</b>	学習・教育目標 (B)機械工学主要分野関連分野 に対応する。				
<b>WEB ページ</b>					
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 日下一也: (M322, Tel:088-656-9442, E-mail:kusaka@me.tokushima-u.ac.jp) 溝渕 啓: (M325, Tel:088-656-9741, E-mail:a-mizobuchi@tokushima-u.ac.jp) 水谷康弘: (M426, Tel:088-656-7210, E-mail:mizutani@me.tokushima-u.ac.jp) 園部元康: (M421, Tel:088-656-7382, E-mail:sonobe@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) 日下一也:kusaka@me.tokushima-u.ac.jp 溝渕 啓:a-mizobuchi@tokushima-u.ac.jp 水谷康弘:mizutani@me.tokushima-u.ac.jp 園部元康:sonobe@tokushima-u.ac.jp				

	(オフィスアワー) 日下一也:月曜日 16 時 30 分-17 時 30 分 溝渕 啓:月曜日 17-18 時 水谷康弘:月曜日 17-18 時 園部元康:月曜日 17-18 時, 火曜日 17-18 時
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け身ではなく、積極的に取り組むこと。</li> <li>2. 原則として、試験は行わない。</li> </ol> 【授業時間】37.5 時間 【自己学習時間】(レポート作成等)35 時間

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121510		
<b>科目分野</b>	専門教育科目				
<b>選必区分</b>	必修				
<b>科目名</b>	機械設計製図[Design of Machine Elements and Drawing]				
<b>担当教員</b>	安井 武史, 長町 拓夫, 水谷 康弘, 清田 正徳, 工学部非常勤講師 [Takeshi Yasui, Takuo Nagamachi, Yasuhiro Mizutani, Masanori Kiyota]				
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)		
<b>授業の目的</b>	例題として手巻ウインチの設計を取り上げ、各人に与えられた仕様に基づき実際に設計計算および製図を行なう事により、機械設計に関する技術を習得する。				
<b>授業の概要</b>	各人に与えられた設計条件に基づき設計計算を行なう。設計は条件を与えればすぐに適切な解答が与えられるのでなく計算の試行錯誤で寸法が決まってくる事学ぶ。設計計算書は指導教員のチェックをうける。最終的に決まった寸法をもとにして製図を行ない設計図面を完成させる。				
<b>キーワード</b>	ウインチ, 機械要素設計, 設計計画				
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仕様が与えられた時, それを実現するための設計の手順を理解し体得する。</li> <li>2. 設計で得た結果を図面として表し, 全体としての機能を確認することを学ぶ。</li> <li>3. 製図上の約束事を学び, 他の図面を理解する能力を養う。</li> </ol>				
<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手巻ウインチの設計の概要</li> <li>2. ワイヤロープの強度計算と計画図作成</li> <li>3. 巻胴およびワイヤロープ止め金具の強度計算と計画図作成</li> <li>4. 歯車減速比と歯車諸元の決定</li> <li>5. ブレーキ装置の強度計算と計画図作成</li> <li>6. つめ車およびつめの強度計算と計画図作成</li> <li>7. 軸の強度計算と計画図作成</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 軸周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>9. 歯車の強度計算と計画図作成</li> <li>10. ブレーキ周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>11. フレームとフレーム周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>12. 巻胴からブレーキ装置までの部品図の製図</li> <li>13. つめ車からフレームまでの部品図の製図</li> <li>14. 組立図正面図の製図</li> <li>15. 組立図側面図の製図</li> <li>16. 組立図上面図の製図</li> </ol> </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手巻ウインチの設計の概要</li> <li>2. ワイヤロープの強度計算と計画図作成</li> <li>3. 巻胴およびワイヤロープ止め金具の強度計算と計画図作成</li> <li>4. 歯車減速比と歯車諸元の決定</li> <li>5. ブレーキ装置の強度計算と計画図作成</li> <li>6. つめ車およびつめの強度計算と計画図作成</li> <li>7. 軸の強度計算と計画図作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 軸周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>9. 歯車の強度計算と計画図作成</li> <li>10. ブレーキ周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>11. フレームとフレーム周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>12. 巻胴からブレーキ装置までの部品図の製図</li> <li>13. つめ車からフレームまでの部品図の製図</li> <li>14. 組立図正面図の製図</li> <li>15. 組立図側面図の製図</li> <li>16. 組立図上面図の製図</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手巻ウインチの設計の概要</li> <li>2. ワイヤロープの強度計算と計画図作成</li> <li>3. 巻胴およびワイヤロープ止め金具の強度計算と計画図作成</li> <li>4. 歯車減速比と歯車諸元の決定</li> <li>5. ブレーキ装置の強度計算と計画図作成</li> <li>6. つめ車およびつめの強度計算と計画図作成</li> <li>7. 軸の強度計算と計画図作成</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 軸周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>9. 歯車の強度計算と計画図作成</li> <li>10. ブレーキ周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>11. フレームとフレーム周辺部品の強度計算と計画図作成</li> <li>12. 巻胴からブレーキ装置までの部品図の製図</li> <li>13. つめ車からフレームまでの部品図の製図</li> <li>14. 組立図正面図の製図</li> <li>15. 組立図側面図の製図</li> <li>16. 組立図上面図の製図</li> </ol>				
<b>教科書</b>	機械設計製図テキスト 手巻ウインチ／長町拓夫:コロナ社, 2011, ISBN:978-4-339-04620				
<b>参考書</b>					
<b>成績評価の方法</b>	設計計算書 50%, 製図図面 50%として合計 60%以上を合格とする。ただし、計算書および製図図面はそれぞれの提出期限内に提出しなければ合格にはならない。				
<b>再試験の有無</b>					
<b>受講者へのメッセージ</b>	レポート用紙, 方眼紙, 電卓, 製図用具, 基礎機械製図の教科書を持参すること。				
<b>JABEE 合格</b>	【成績評価】と同一である。				
<b>学習教育目標との関連</b>	(C) 80%, (B) 20%に対応する				
<b>WEB ページ</b>					
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 長町 拓夫 (M524, Tel:088-656-9187, E-mail:ngmch@me.tokushima-u.ac.jp) 安井 武史 (M317, Tel:088-656-7377, E-mail:yasui.takeshi@tokushima-u.ac.jp) 清田 正徳 (M522, Tel:088-656-7374, E-mail:kiyota@me.tokushima-u.ac.jp) 水谷 康弘 (M426, Tel:088-656-7210, E-mail:mizutani@me.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) 長町 拓夫:ngmch@me.tokushima-u.ac.jp				
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通の講義と違って学生それぞれが最終図面の完成まで進めてゆくものであるから, それぞれの進行状況 が異なってくるので, 提出期限に合わせるよう自覚して必要な事柄を積み上げて行かなければならない。なお機械要素, 機械材料, 材料力学, 機構学, 加工法, 基礎機械製図など総合的な知識が必要である。</li> </ol> 【授業時間】37.5 時間、【自己学習時間】(レポート作成等)15 時間				

開講学期	1年・前期	時間割番号	5121520																
科目分野	専門教育科目																		
選必区分	必修																		
科目名	創造基礎実習[Practice of Elementary Machine Creation]																		
担当教員	伊藤 照明, 重光 亨, 水谷 康弘, 溝渕 啓 [Teruaki Ito, Tohru Shigemitsu, Yasuhiro Mizutani, Akira Mizobuchi]																		
単位数	1	対象学生・年次	機械工学科(昼間)																
授業の目的	自らの意思と発想により、与えられた課題について着想力と創造力を駆使して問題解決の筋道を模索し、実現するための方法、手段を学ぶ。																		
授業の概要	【実習科目】単純な機能を有する小型構造物を少人数のグループで設計製作し、公開競技会・技術報告会などを通して機構学、解析力学、材料力学等を実践的に習得するとともに工学的な創造性・独創性を養う。具体的には、全員に同一の課題(毎年変更)を与えて、小型構造物(はり、ロボット、ウインチ等)の設計製作を行う。作業中に生じたトラブルとそれをどのように解決したかという作業報告書を提出する。最後に公開競技会および報告会を行う。																		
キーワード	1. 機構学, 解析力学, 材料力学等を実践的に習得する。 2. 工学的な創造性・独創性を養う。 3. グループ内の討論を通して、自己や他人の意見をまとめる能力を養う。 4. レポート作成能力やプレゼンテーション能力を修得する。																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. テーマ1 概念設計 ケント紙を用いた実習</td> <td>8. テーマ2 試作実験 ケント紙を用いた実習</td> </tr> <tr> <td>2. テーマ1 詳細設計 ケント紙を用いた実習</td> <td>9. テーマ2 競技大会 ケント紙を用いた実習</td> </tr> <tr> <td>3. テーマ1 試作実験 ケント紙を用いた実習</td> <td>10. テーマ2 技術報告会 ケント紙を用いた実習</td> </tr> <tr> <td>4. テーマ1 競技大会 ケント紙を用いた実習</td> <td>11. テーマ3 概念設計 LEGO Mindstorms を用いた実習</td> </tr> <tr> <td>5. テーマ1 技術報告会 ケント紙を用いた実習</td> <td>12. テーマ3 詳細設計 LEGO Mindstorms を用いた実習</td> </tr> <tr> <td>6. テーマ2 概念設計 ケント紙を用いた実習</td> <td>13. テーマ3 試作実験 LEGO Mindstorms を用いた実習</td> </tr> <tr> <td>7. テーマ2 詳細設計 ケント紙を用いた実習</td> <td>14. テーマ3 競技大会 LEGO Mindstorms を用いた実習</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. テーマ3 技術報告会 LEGO Mindstorms を用いた実習</td> </tr> </table>			1. テーマ1 概念設計 ケント紙を用いた実習	8. テーマ2 試作実験 ケント紙を用いた実習	2. テーマ1 詳細設計 ケント紙を用いた実習	9. テーマ2 競技大会 ケント紙を用いた実習	3. テーマ1 試作実験 ケント紙を用いた実習	10. テーマ2 技術報告会 ケント紙を用いた実習	4. テーマ1 競技大会 ケント紙を用いた実習	11. テーマ3 概念設計 LEGO Mindstorms を用いた実習	5. テーマ1 技術報告会 ケント紙を用いた実習	12. テーマ3 詳細設計 LEGO Mindstorms を用いた実習	6. テーマ2 概念設計 ケント紙を用いた実習	13. テーマ3 試作実験 LEGO Mindstorms を用いた実習	7. テーマ2 詳細設計 ケント紙を用いた実習	14. テーマ3 競技大会 LEGO Mindstorms を用いた実習		15. テーマ3 技術報告会 LEGO Mindstorms を用いた実習
1. テーマ1 概念設計 ケント紙を用いた実習	8. テーマ2 試作実験 ケント紙を用いた実習																		
2. テーマ1 詳細設計 ケント紙を用いた実習	9. テーマ2 競技大会 ケント紙を用いた実習																		
3. テーマ1 試作実験 ケント紙を用いた実習	10. テーマ2 技術報告会 ケント紙を用いた実習																		
4. テーマ1 競技大会 ケント紙を用いた実習	11. テーマ3 概念設計 LEGO Mindstorms を用いた実習																		
5. テーマ1 技術報告会 ケント紙を用いた実習	12. テーマ3 詳細設計 LEGO Mindstorms を用いた実習																		
6. テーマ2 概念設計 ケント紙を用いた実習	13. テーマ3 試作実験 LEGO Mindstorms を用いた実習																		
7. テーマ2 詳細設計 ケント紙を用いた実習	14. テーマ3 競技大会 LEGO Mindstorms を用いた実習																		
	15. テーマ3 技術報告会 LEGO Mindstorms を用いた実習																		
教科書	授業毎に関連した資料を配布する。																		
参考書	創造力をみがくヒント/伊藤進:講談社, 1998. 6, ISBN:4061494082 モノから学ぶ: 化学的発想の遊び/今坂一郎:裳華房, 1995. 7, ISBN:4785386304 常識破りの成功発想/高橋昌義:共立出版, 1987. 7, ISBN:4320008561 科学と創造: 科学者はどう考えるか/H. F. ジャドソン:培風館, 1983. 12, ISBN:978-4-563-02026- 機構学/安田仁彦:コロナ社, 2005. 4, ISBN:433904069 伊藤進 著「創造力をみがくヒント」講談社 今坂一郎 著「モノから学ぶ-化学的発想の遊び-」裳華房 高橋昌義著「常識破りの成功発想」共立出版 H. F. ジャドソン 著/江沢洋 訳「科学と創造=科学者はどう考えるか」培風館 種田重男 著「機構学」朝倉書房 「モノづくり解体新書」日刊工業新聞社																		
成績評価の方法	作品および報告書(80点), プレゼンテーション(20点), 60%以上を合格とする。																		
再試験の有無	なし																		
受講者へのメッセージ	実習の成果があがるよう、製作には真摯に取り組み、レポートは丁寧に記述すること。																		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。																		
学習教育目標との関連	(D) 80%, (E) 20% に対応する。																		
WEB ページ																			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 伊藤 照明:(M316, Tel: 088-656-2150) 重光 亨:(M525, Tel: 088-656-9742) 溝渕 啓:M棟3階325号室 TEL 088-656-9741 水谷 康弘:機械棟4階427号室, Tel: 088-656-7210 (メールアドレス) 伊藤 照明:tito@tokushima-u.ac.jp 重光 亨:t-shige@tokushima-u.ac.jp 溝渕 啓:a-mizobuchi@tokushima-u.ac.jp 水谷 康弘:mizutani@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 伊藤 照明:毎週水曜日 14:00-15:00 重光 亨:水曜日(17時~18時) 溝渕 啓:毎週月曜日 17-18時 M棟3階325号室 水谷 康弘:毎日 17:00-18:00 機械棟4階427号室																		

備考	1. 予習・復習を行い、演習課題に積極的に取り組むこと。 2. 【授業時間】37.5時間、【自己学習時間】(予習復習、レポート作成等)15時間
----	--

開講学期	3年・後期	時間割番号	5121530
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	創造実習[Machine Creation Laboratory]		
担当教員	日下 一也, 高木 均, 米倉 大介, 三輪 昌史 [Kazuya Kusaka, Hitoshi Takagi, Daisuke Yonekura, Masafumi Miwa]		
単位数	1	対象学生・年次	機械工学科(昼間)

**授業の目的** ある競技課題(毎年変更)を達成するためのプロジェクトを形成し、グループ活動を通してコミュニケーション能力、計画力、設計能力、創造力および問題発見・解決能力を身につける。また、プロジェクトを実践するために必要なプロジェクトマネジメント能力を習得する。

**授業の概要** 3~4人のプロジェクトチームを形成し、チーム一丸となってある競技課題(毎年変更)で優勝するための作品を設計・製作する。競技課題例として「長時間飛行可能な模造紙飛行機を作る」、「バスタで強靱な橋を作る」、「段ボールで人が座っても壊れない椅子を作る」などである。これまでの講義で培ってきた知識を設計に活用し、実際に形あるものを製作して競う。また、プロジェクト活動を通して会議の仕方や計画の立て方について習得する。

**キーワード** プロジェクト, グループ活動, 設計

到達目標	No.	到達目標
	1	1. これまでの知識を駆使して、ものづくりができるようになる。
	2	2. グループ活動の中で自らの意見を述べ、仲間の意見を理解する能力を身につける。
	3	3. 課題の抽出および解決する能力を身につける。
	4	4. プロジェクトの立ち上げから終結までを計画して実行する能力を身につける。

授業の計画	
回	内容
1	オリエンテーション
2	ファシリテーションの講義, 班分け, 計画立案(調査)
3	プロジェクトマネジメントの概要講義, 計画立案(工程表)
4	プレゼンテーション技法, 計画立案(計算書)の作成
5	計算書の作成, 試作機の製作
6	計画発表会
7	概念設計
8	詳細設計1
9	製作1
10	中間発表会
11	詳細設計2
12	製作2
13	製作3
14	公開競技会
15	技術報告会
16	最終報告書の作成

教科書	授業毎に関連した資料を配布する。
参考書	世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント/G. マイケル・キャンベル/著, サニー・ペーカー/著, 中嶋秀隆/訳, : 総合法令出版, 2011, ISBN:9784862802637 演習と実例で学ぶプロジェクトマネジメント入門 = Learning Project Management through Practice and Example/飯尾淳 編著, 中川正樹 監修, : ソフトバンククリエイティブ, 2012, ISBN:9784797367706 エンジニアリング・ファシリテーション : 話し合いをうまくまとめるコミュニケーション・スキル/大石加奈子 著, : 森北出版, 2011, ISBN:9784627973312 ファシリテーション・リーダーシップ : チーム力を最強にする技術/ジョージ・エックス 著, ジェネックスパートナーズ 訳, ジェネックスパートナーズ, : ダイヤモンド社, 2004, ISBN:4478360707
教科書・参考書に関する補足情報	プリントを配布

<b>成績評価の方法</b> 初期計画書:5点, 初期計算書:5点, 試作機評価:10点, 中間報告書:10点, 技術報告会プレゼン:10点, 最終報告書(工程表, 設計書, 計算書含む):15点, 成果物:15点, 個人進捗報告書:7~13週 of 6回分:5点×6回=30点とし, 60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 無	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業計画は課題内容により若干変更することがある。	
<b>JABEE合格</b> 【授業評価】と同一である	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 日下 一也 (M322, 088-656-9442, kusaka@me.tokushima-u.ac.jp) 三輪 昌史 (M420, Tel:088-656-7387, E-mail:miw@tokushima-u.ac.jp) 高木 均:機械棟 6階 M620 室 米倉 大介 (M326, Tel: 088-656-9186, E-mail: yonekura@tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5121540
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	自動車工学[Automotive Engineering]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 自動車工学とは, 自動車の各構成部分の原理, 構造, 設計, 製造にわたる広い範囲についての工学であるが, ここでは生活になくはならなくなった自動車(主に乗用車)を, 主に走行性能を中心にして, 工学的立場から自動車に使われている技術の基礎を習得するとともに, 自動車の性能・社会的位置付けにつき理解を深めることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 自動車の構造概要および動的性能に重要な役割をするエンジン, サスペンション, タイヤ, ブレーキなどの構造の詳細を講義し, 自動車の動的性能である, 「走る」, 「曲がる」, 「止まる」の三要素を理解させる。あわせて, 各国の法規動向, 公害・安全対策の現状と今後の動向を概説し, 自動車の社会的位置付けも理解させる。			
<b>キーワード</b> 自動車, 操縦性能, 安定性能, 操安性, 安全性, 環境対策			
<b>到達目標</b> 自動車の構造の概要を理解する。自動車が, 「走る」, 「曲がる」, 「止まる」時の力学を理解する。現代の自動車の構造を理解するだけでなく, 過去の経緯を踏まえ将来像をも把握できる知識・考え方を身につける。			
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. ブレーキ性能, ABS および TCS・レポート 2</li> <li>10. サスペンション性能(サスペンションの役割と構造)</li> <li>11. タイヤ性能(タイヤの役割と構造)</li> <li>12. 操縦安定性能(操縦安定性の概要と種類)</li> <li>13. 操縦安定性能(操縦安定性の要素と働き)・レポート 3</li> <li>14. 車体構造と安全対策(車体各部の構造と衝突安全対策の基礎)</li> <li>15. ハイブリッド車と電気自動車(ハイブリッド車と電気自動車の構造概要)</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>		
<b>教科書</b>	指定なし。講義時にプリントを配布する。		
<b>参考書</b>	自動車工学概論/竹花有也:理工学社, 2010, ISBN:4-8445-2294-9 機械力学関連書籍, 内燃機関関連書籍		
<b>成績評価の方法</b>	レポート(3回)提出による平常点及び期末試験点数で評価する。評価割合はレポート点(30点), 試験点数(70点)の合計 100 点満点とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義時に配付するプリントは要点のみ記載しているので, 各自事前に参考書などに目を通して講義の概要をあらかじめ把握しておくこと。レポート課題はインターネットを利用しないこと調べにくいものがあるためあらかじめ留意しておくこと。		
<b>JABEE合格</b>	【成績評価】と同一である。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(B)に対応する。		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 島田 清
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の中で 3 回レポートを課すので, 期日に遅れずに提出のこと。平常点の低い(0点)学生は定期試験で 86 点以上取らないと不可の評価となるので注意すること。</li> <li>2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5121550
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生産管理[Production Control]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 企業マネジメント(工業経営)の中で, 「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する。			
<b>授業の概要</b> 「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに, 企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産管理の各手法を概略理解する。</li> <li>2. 企業マネジメントの中で位置づけを概略理解する。</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 品質管理総論</li> <li>4. 工程管理総論</li> <li>5. 工程管理各論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 原価管理</li> <li>7. 安全管理, トヨタ生産方式</li> <li>8. 環境管理</li> </ol>	
<b>教科書</b> 毎講義時に, プリントその他で提示する。			
<b>参考書</b> 「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ) 企業経営通信学院 「生産管理便覧」丸善			
<b>成績評価の方法</b> 毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点 60 点満点・白紙は不可)及びその試問正解点 40 点満点で, 480 点以上を「可」とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 毎講義終了後, 簡単な事前試問(3 問程度)について, 解答ペーパーの提出を求める。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5121560
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	労務管理[Personnel Management]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 企業のグローバル化による競争激化, 企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加, 正規社員の減少, 従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題, 労働トラブルの急増, 少子高齢化時代の到来等これからの労務安全管理の諸問題について理解する。			
<b>授業の概要</b> 採用から退職までの労務安全衛生管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労務安全管理(ヒューマンスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。			



<b>キーワード</b>		
<b>到達目標</b>		
1. 組織の労務安全衛生管理(ヒューマンズスキル)の基本と重要性について認識する。 2. 最新の労働環境の動向を理解する。		
<b>授業の計画</b>	3. 就業規則	6. 退職と解雇
1. 労働基準法の概要	4. 労働時間・休日・休暇	7. さまざまな働き方
2. 応募から入社までの基礎知識	5. 賃金・業務命令等の社内ルール	8. リスクアセスメント(安全衛生管理)
<b>教科書</b> 「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円		
<b>参考書</b> 「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会		
<b>成績評価の方法</b> 出席率, レポートの内容		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業の中でレポート(7 回程度) 作成, 提出すること。		
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑村泰章	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5121570
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics for Engineers]		
<b>担当教員</b>	村上 理一, 安井 武史 [Rüichi Murakami, Takeshi Yasui]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 技術者は個人のレベルにおいて技術に関する知識, 能力の向上がもたらされる。これは産業の高度化や社会の成熟化に伴い, 社会が求める技術の高度化と密接に関係する。また, 社会そのものは多様化・個性化しており, それに対応できる技術者は技術を使う判断基準としての倫理観に裏打ちされた行動規範を持たねばならない。			
<b>授業の概要</b> 工学倫理を必要とする社会の変遷を説明し, 自立した技術者となるために必要な倫理観の確立を促しながら, 公衆を尊重するために必要な技術者としての倫理問題を講述する。工学的失敗の背景と特徴, それを回避するためのリスクマネージメントなどを具体的な事例を挙げながら説明し, クラス討論や事例研究を通じて技術者の倫理の必要性を考えさせる。また, リスク回避のための社会的規制である PL 法を説明し, 事故事例をケーススタディする。			
<b>キーワード</b> 技術者, 企業倫理, 失敗と成功, 生命倫理, 生命倫理法制			
<b>到達目標</b>			
1. 社会の求める工学倫理観の理解 2. リスクマネージメントの理解 3. グループ討論の手法の理解			
<b>授業の計画</b>	6. 事例研究の方法と実際の事例研究(1)	11. 事例研究(2)	
1. 近代社会の特徴	7. 事例研究とグループ討論・発表・レポート	12. グループ討論・発表・レポート	
2. 自己の確立と人権問題	8. 技術者倫理と説明責任	13. 技術と失敗	
3. 技術者の倫理を学習する目的	9. 技術者としてのモラルの発達	14. 製造物責任法・環境倫理	
4. 専門家と消費者との関係	10. 安全とリスク	15. 専門職としての技術者倫理の確立	
5. 法と倫理		16. 期末試験	
<b>教科書</b> 科学技術と倫理/石田三千雄, 宮田憲治, 村上理一, 村田貴信, 山口修二, 山口裕之:ナカニシ出版, 2010, ISBN:9784779501067			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標の 3 項目が達成されているかをグループ討論の内容・方法, レポートおよび期末試験を総合して判定する。3 項目平均して 60%以上であれば合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。			

<b>受講者へのメッセージ</b> 必要に応じてコンピュータ検索の資料を使って事例研究を行う。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (E)20%, (H)70%, (I)10%に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 村上理一(M318), Tel:088-656-7392, E-mail:murakami@tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) murakami@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週月曜日 16:00~
<b>備考</b>	17. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 18. 授業時間】22.5 時間, 【自己学習時間】(予習復習, レポート作成, 試験準備等)45 時間

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5121580
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	工業英語1[Engineering English 1]		
<b>担当教員</b>	ナカガイト アントニオ, 伊藤 照明, 一宮 昌司, 米倉 大介 [Nakagaito, Antonio Norio, Teruaki Ito, Masashi Ichimiya, Daisuke Yonekura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 技術者としての英語による表現力と課題研究を通じたプレゼンテーション能力を養うために演習・レポート, 小テストを行い, 機械技術者に求められるコミュニケーション能力を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 機械技術者に必要な英語による表現力を高めるために高校時代の英文法などの知識を元にして英語の論文のまとめ方や読み方, さらに技術レポートの書き方に関する能力を養成する。また, インターネットを活用しながら海外情報の取得の仕方を体験しながら課題探求を行い, その成果を英語による報告書としてまとめ最後に英語によるプレゼンテーションを実施することにより 技術者に必要な英語によるコミュニケーション能力を体得させる。			
<b>キーワード</b> 発表技術, 情報検索			
<b>到達目標</b>			
1. 工業英語の表現力の養成 2. 機械技術を英語によって理解する。 3. 英語によるプレゼンテーション力の養成。			
<b>授業の計画</b>	9. インターネットによる機械技術の課題探求	10. インターネットによる課機械技術の題探求	
1. 技術英語の文法の基礎(冠詞, 名詞)	11. インターネットによる機械技術の課題探求	12. インターネットによる機械技術の課題探求	
2. 技術英語の文法の基礎(動詞)	13. 英語によるレポートの作り方およびプレゼンテーションの仕方	14. パワーポイントを使った英語によるプレゼンテーション	
3. 技術英語の文法の基礎(前置詞, 形容詞, 副詞, 接続詞)	15. パワーポイントを使った英語によるプレゼンテーション	16. 予備日	
4. 技術英語の文法の基礎(構文)			
5. 技術英語の文法の基礎(構文)			
6. 英語による技術論文の書き方			
7. 英語による技術論文の書き方			
8. 英語による技術論文の書き方			
<b>教科書</b> 科学英語の書き方とプレゼンテーション/日本機械学会:コロナ社, 2004. 6, ISBN:9784339077742			
<b>参考書</b> 理科系の作文技術/木下是雄:中公新書 日本人の英語/マーク・ビーターセン:岩波新書			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 3 項目がそれぞれ達成されているかをレポートの内容, プレゼンテーションの内容および表現力を考慮しながら, 質疑応答と併せて総合的に判定し 60%以上を合格とする。特に授業中の演習に回答することは評価対象となる。英語によるプレゼンテーションとレポートは最終試験に代わるものであるから欠席と未提出は不合格となる。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 課題探求レポートの未提出およびプレゼンテーションに欠席すると不合格になる。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)30%, (F)70%に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 伊藤 照明 一宮 昌司 米倉 大介 ナカガイト アントニオ (オフィスアワー) 毎週月曜日 16:00~17:00\$ 毎週水曜日 14:00~15:00		

備考	1.	この講義は英語によるコミュニケーション能力の向上を目指して各単元ごとに授業中に課題を課すので、毎回の予習・復習を確実に実行し、英語による表現力を向上させるよう努力すること。
	2.	成績評価は、授業中の演習の取り組み、レポートの提出状況および内容を含め、英語によるプレゼンテーションの成績を総合して決める。
	3.	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
	4.	【授業時間】1.5時間×15＝22.5時間
	5.	【自己学習時間】(予習復習、レポート及び発表資料作成)45時間

開講学期	3年・後期	時間割番号	5121590
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	工業英語2[Engineering English 2]		
担当教員	ナカガイト アントニオ, Koinkar Pankaj Madhukar [Nakagaito, Antonio Norio, KOINKA PANKAJI MADOKA]		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)

授業の目的	To improve students' ability to write and speak on technical subjects using English.		
授業の概要			
キーワード	リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング		
到達目標	The goal of this course is to increase the students' technical English vocabulary and confidence communicating in English. By the end of the course students should be able to give an oral presentation and written summary of a technical topic in English.		
授業の計画	8.	Presentation techniques, and practice	
1.	Course outline and self-introductions	9.	More presentation practice
2.	Language for spatial description	10.	Definition and description
3.	Basic numbers in science	11.	Structure, organization, explanation
4.	Body language and presentation practice	12.	Visual aids and science
5.	Scientific units of measurement	13.	Final presentations: assessment
6.	Description and cause-and-effect	14.	Final presentations: assessment
7.	Compare and contrast	15.	Final presentations: assessment
教科書	Technical English 1, David Bonamy, Pearson-Longman		
参考書	Presenting Science (1st and 2nd editions), MacMillan Languagehouse.		
成績評価の方法	Grades will be determined by two assessments: an oral presentation (40%) and a written essay (60%) on a technical topic.		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ			
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) コインカー バンカジ ナカガイト アントニオ ノリオ		
備考	1. An English-Japanese dictionary is also recommended. 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5121600
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	コミュニケーション技法[Communication Skill]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	機械工学科(昼間)

授業の目的	社会人としてあらゆる場面で通用する高度で幅広いコミュニケーション技法を会得する。新聞のコラム書き写し(手書き)をすることにより、文章のまとめ方(起承転結等)を学ぶ。様々なコミュニケーションの形態を学び、演習をすることにより、自分の考えを簡潔で、分かりやすい文章で表現でき、公の場で発表できるスキルを身につける。		
授業の概要	講義により、コミュニケーションの概論等について学ぶ。その後、演習を通して社会における様々な場面(事例)を想定しながら、それぞれについて準備(資料の収集、まとめ)→原稿の作成(スピーチプラン)→発表(プレゼンテーション)→評価というプロセスを各自が実践することにより、多様なコミュニケーションの形態を学び、実社会で通用する高度で幅広い communication skill を身に付ける。また、一方的に講義を受けるのではなく、学生が相互に評価することにより、他人の成果を評価・分析する能力を身に付け、それによって、さらに communication skill を向上させる。		
キーワード	コミュニケーション、プレゼンテーション		
到達目標	1. 社会人としてあらゆる場面で通用する高度で幅広いコミュニケーション技法を会得する。 2. 1. で学んだことをもとに、自分の考えを簡潔で分かりやすい文章・内容で表現でき、公の場で発表できるスキルを身につける。		
授業の計画	1. ガイダンス(全体の説明、授業の進め方、準備、文献等について) 講義:コミュニケーション/communication 論 1 回目(教科書 1~8 ページ Web で確認) 2. 講義:コミュニケーション/communication 論 2 回目(前回の続き) 3. 講義:ビジネス文章(正しい情報の伝え方について学ぶ)1 回目(教科書 9~11 ページ Web で確認). 4. 講義:ビジネス文章 2 回目(前回の続き) 5. 講義・小テスト:4 回にわたる講義の内容についての小テストを行う。 6. 演習:プレゼンテーションの仕方についての説明(教科書 13~14 ページ Web で確認). 4 回にわたる講義の内容をふまえて演習を行う。 7. 自己紹介の準備(スピーチプラン表に記入).(教科書 12 ページ Web で確認) 8. 自己紹介(全員プレゼンテーションする). スピーチプラン表提出。 9. 自己紹介(履修学生の人数により、8 回目で全員がプレゼンテーションできない場合、前回できなかった学生の自己紹介のプレゼンテーションをする). 10. 講義・演習:説明と演習(資料は講義内で配布する). 11. 演習:前回の続きを行う。 12. 発表:グループ発表 13. 発表:同上 14. 発表:同上 15. 講義:全体のまとめ 16. *コラム書き写しは、15 回の講義・演習期間中に 3 本まとめて提出すること。		
教科書	特定の教科書は定めていない。本時用にまとめた資料集を教科書とする(工学部 Web 上に閲覧可能)。加えて、講義内容に応じてプリントを配布し補助資料とする。		
参考書	高橋照男「仕事文の書き方」岩波新書 1997 高橋照男「仕事文をみがく」岩波新書 2002 金田一春彦「日本語 新版(上)」岩波新書 1988 金田一春彦「日本語 新版(下)」岩波新書 1988 辰濃和男「文章の書き方」岩波新書 1994 斉藤由美子「日本語音声表現法」桜楓社、1990 植村勝彦・松本青也・藤井正志「コミュニケーション学入門 心理・言語・ビジネス」ナカニシヤ出版 2000 深田博己「インターネットパーソナルコミュニケーション」北大路書房、1998 林進「コミュニケーション論」有斐閣 S シリーズ、1988 竹内郁朗「マス・コミュニケーションの社会理論」東京大学出版会、1990 D・K・バーロ著 布留武朗/阿久津喜弘 訳「コミュニケーション・プロセス」協同出版株式会社、1972 原岡一馬 若林 編著「組織コミュニケーション」福村出版株式会社、1993 村沢義久「仕事力 10 倍アップのロジカルシンキング入門」毎日新聞社、2008 マジョリー・F・ヴァーカス 石丸正訳「非言語コミュニケーション」新潮選 ]書、1987 年 日本コミュニケーション学会 橋本満弘・北出亮・會澤まりえ編「日本コミュニケーション学会創立 30 周年記念論文集 第 1 巻 日本のレトリックとコミュニケーション」三省堂、2000 年 David L. Protess, Maxwell McCombs “Agenda Setting Readings on Media, Public Opinion and Plicymaking” LAWEWNCE ERBAUM ASSOCIATES, PUBLISHERS, 1991 David L. Protess, Maxwell McCombs “Agenda Setting Readings on Media, Public Opinion and Plicymaking” LAWEWNCE ERBAUM ASSOCIATES, PUBLISHERS, 1991		
成績評価の方法	到達目標の 2 項目が達成されているかを、2 回のプレゼンテーション(70%)、課題提出と小テスト(20%)、コラム書き写し(3 本)(10%)で評価し、総合で 60%以上を合格とする。提出物締切日を厳守すること。提出期限を過ぎたものについては受け付けられないこととする。		

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> コミュニケーションの概要等の講義を受けた後は、その内容をよく復習し理解しておくこと。そしてその理解した内容をプレゼンテーションに活用できるようにしておくこと。プレゼンテーションの前には十分に資料収集をし、スリーチプランの様式に沿って文章をまとめて(予習)プレゼンテーション後提出すること。宿題が課された場合は宿題の提出をもって出席とする。	
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。	
<b>学習教育目標との関連</b> (E)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 村澤善恵 TEL: 090-8282-8724 FAX: 088-686-9623 (メールアドレス) fumie55@white.plala.or.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 受講生の数、進捗状況等により講義や演習の順序や回数を変更することもあり得る。ゲスト・スピーカーを招くこともあり得る。

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5121610
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	卒業研究[Graduation Thesis]		
<b>担当教員</b>	工学部機械工学科教員		
<b>単位数</b>	5	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 卒業研究は学部4年間の学修の集大成である。これまでに勉強して培ってきた知識と知恵を駆使し、それぞれの分野で与えられたテーマについて研究計画を立案し、実行して、得られた結果の意味を考察して卒業論文にまとめ上げる作業である。与えられたテーマの中で何が問題であるかを見極め、解決する方法を考え、その方法にしたがって研究し、結果をまとめて分析し、さらに、それらを正しく第三者に理解させるために発表・表現する技術や能力を養う。卒業研究を実行する過程では、教員や大学院生を含めた同僚と共同作業をしながら研究の方法を学び取ることが大切である。互いに議論して切磋琢磨しあいながら活動する能力を養う。また、受動的な態度ではなく、常に能動的な気構えを持って自らの力でものごとを考えられる能力を養成することを目的とする。

**授業の概要** 教員から提示される研究課題を遂行する。研究目的の理解に始まり、研究計画立案、研究の実施、結果の評価、研究内容のまとめ、研究成果の発表などが一連の活動内容になる。

**キーワード**

**到達目標**

1. 既存の原理や知識を組み合わせて、新しい考え方や新しい物を作る「創造」あるいは「創成」を経験することにより、技術者として活動するために必要な、社会に有用な考え方や物を作り上げる能力を身につける。
2. コストや設備、時間といった制約条件の下、最大の結果を得るための計画を立て、それを実行し、中間的な評価を行い、計画の修正を行うことができる能力を身につける。
3. 教員や同僚との議論を通したコミュニケーション力、共同作業の中でのチームワーク力および研究発表によるプレゼンテーション力を身につける。

**授業の計画**

1. 卒業研究テーマの説明:卒業研究テーマ説明会を開催し、次年度に実施する卒業研究の課題を提示する。その後、研究室訪問の期間が設定されるので積極的に利用して内容の把握に努める。
2. 卒業研究着手資格者の認定:4月初旬の学科会議で卒業研究着手資格者を認定し、各研究室の受け入れ人数を告示する。
3. 研究室配属:原則として希望する研究室を自由に選択できるが、受け入れ人数枠に従って調整を行う。調整がつかない場合は学科長が決定する。最終調整された案を学科会議が承認して配属先が決定される。
4. 研究準備:教員の指導のもとに、本格的に研究を行うために必要な基礎知識、実験ノウハウ等の修得に努める。
5. 研究計画の作成:7月末までに研究計画表を作成し、提出する。
6. 研究:(遅くとも)8月初旬からは本格的な研究を開始する。
7. 中間発表:7月から9月に中間発表を行う。中間発表においては、研究背景および研究計画について説明を行うものとし、結果は必ずしも求めない。
8. 研究計画の見直し:研究の遂行に伴って発生する問題のため通常、研究は計画通りには進められなくなる。適宜、計画の見直しを行い、見直しのプロセスを記録する。
9. 卒業論文作成と卒業論文審査会:研究結果をまとめた論文を作成し、学科会議が設定する日までに提出する。2月末に開催する卒業論文審査会において成果の発表を行う。

10. 研究過程表の作成:実際に研究がどの様に進化したかを、7月末に作成した研究計画表と対比させる研究過程表としてまとめ、自己評価を加えて2月末に提出する。

**教科書**

**参考書**

**成績評価の方法**

- 以下の観点に基づき指導教員が成績評価を行う。
1. 研究課題の理解(10点満点で評価)  
研究の背景を十分理解しているか。(評価資料:中間発表講演概要)
  2. 研究計画(10点満点で評価)  
実現可能性の高い研究計画が立案できていたか。(5点)また、研究途中での現状評価とそれに基づくフィードバックがなされていたか。(5点)  
(評価資料:研究計画表および研究過程表)
  3. 文献調査(10点満点で評価)  
研究室における輪講等において、十分な文献調査を行ったか。  
(評価資料:卒業論文引用文献)
  4. 卒業論文(各項目10点満点、合計60点満点で評価)  
4-1 その研究が技術や社会に対してなしうる貢献について十分記述されているか。  
4-2 研究手法に創意工夫がなされているか。  
4-3 卒業論文として十分な結果が得られているか。  
4-4 得られた研究結果に基づいて、従来の研究との比較や考察が十分になされているか。  
4-5 論理性のある文章で明快に書かれているか。  
4-6 図表は分かりやすく説得力のある体裁をしているか。  
5. 卒論審査会(10点満点で評価)  
聞き手に分かりやすい資料を準備し、内容を十分に伝えることができたか。(5点)また、質疑に適切に回答することができたか。(5点)

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 卒業研究着手資格を得た者は一応1年間の研究に耐えうる能力を最低限有していると考えている。これまでの勉強方針を一度振り返り、自らの意志で積極的に動き出すという姿勢に変革して1年間の研究生生活を行うことを心がけなければならない。1年間を通じて着実に成果を積み上げられるように、しっかりした研究方針を自ら企画して実行すること。

**JABEE合格** 【成績評価】と同一である。

**学習教育目標との関連** (A),(C),(E),(F),(G),(H)に対応する。

**WEB ページ**

**連絡先**(E メールアドレス、オフィスアワー)

(学生用連絡先) 機械工学科の学科長あるいは教務委員

**備考** 卒業研究の目的・目標を達成するために、主体的な学習や自己管理を期待する。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5120620
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択(機械工学科は「要件外」)		
<b>科目名</b>	半導体ナノテクノロジー基礎論[Introduction to Semiconductor Nanotechnology]		
<b>担当教員</b>	井須 俊郎, 北田 貴弘 [Toshiroh Isu, Takahiro Kitada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	機械工学科(昼間)

**授業の目的** 半導体エレクトロニクスの先端分野で用いられているナノテクノロジーについて基礎的な概念を理解する。

**授業の概要** 半導体のナノ構造が生み出す性質を理解するための基礎知識として、半導体の電気的特性、ナノ構造における量子力学的効果など、半導体ナノ構造の特徴について説明する。これらの半導体ナノ構造を用いた各種の電子デバイス、光デバイスについて概説し、さらに半導体ナノ構造の作製の手法とそれらの構造や特性の測定評価方法について解説する。

**キーワード** ナノ量子構造、半導体ナノ物性、電子デバイス、光デバイス

**到達目標** 1. 半導体ナノ構造の特徴と応用例について理解する。

<b>授業の計画</b>	1. 半導体ナノ構造とは	4. 低次元量子構造	8. 半導体ナノ構造の電子物性
	2. 半導体の性質	5. 半導体ナノ構造の光物性	9. 電子デバイス応用(HBT)
	3. 電子状態の量子化	6. 光デバイス応用(受光発光素子)	10. 電子デバイス応用(FET)
		7. 光デバイス応用(光制御素子)	11. 結晶成長法による形成技術



12.	微細加工による形成技術	14.	電気的特性評価	16.	期末試験
13.	ナノ構造測定手法	15.	光学的特性評価		
<b>教科書</b> 特になし。					
<b>参考書</b> 半導体超格子の物理と応用／日本物理学会:培風館, 1984. 11, ISBN:4-563-02162-8 半導体超格子入門／小長井誠:培風館, 1987. 11, ISBN:4-563-03435-5					
<b>成績評価の方法</b> 授業の内容の理解度をレポート(60%)および試験(40%)にて評価し、合わせて 60 点以上を合格とする。					
<b>再試験の有無</b>					
<b>受講者へのメッセージ</b> 量子力学・半導体工学を履修していることが望ましい。					
<b>JABEE合格</b>					
<b>学習教育目標との関連</b>					
<b>WEB ページ</b>					
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)		(学生用連絡先) 井須 俊郎 建設棟224室 Tel:656-7670 北田 貴弘 建設棟224室 Tel:656-7671 (メールアドレス) 井須 俊郎 t.isu@frc.tokushima-u.ac.jp 北田 貴弘 kitada@frc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 井須 俊郎 火-木 10:00-14:00 北田 貴弘 月 10:00-14:00			
<b>備考</b>					

化学応用工学科(昼間)

微分方程式 1 [Differential Equations (I)] … 化学応用工学科(昼間)／今井／2年・前期 ……80

微分方程式 2 [Differential Equations (II)] … 化学応用工学科(昼間)／水野／2年・後期 ……80

複素関数論 [Complex Analysis] … 化学応用工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／2年・後期 ……80

ベクトル解析 [Vector Analysis] … 化学応用工学科(昼間)／水野／2年・前期 ……81

確率統計学 [Probability and Statistics] … 化学応用工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／  
4年・前期 ……81

微分方程式特論 [Differential Equations (III)] … 化学応用工学科(昼間)／深貝／3年・前期 ……81

量子力学 [Quantum Mechanics] … 化学応用工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・前期 ……82

統計力学 [Statistical Mechanics] … 化学応用工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・後期 ……82

化学応用工学基礎 [Introduction to Chemical Science and Technology] … 化学応用工学科(昼間)／  
工学部化学応用工学科教員／1年・前期 ……82

物理化学序論 [Introduction to Physical Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／魚崎／1年・前期 ……83

有機化学序論 [Introduction to Organic Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／河村 他／1年・前期 ……83

化学工学序論 [Introduction to Chemical Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／杉山／1年・前期 ……83

基礎分析化学 [Basic Analytical Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／高柳／1年・前期 ……84

有機化学 1 [Organic Chemistry 1] … 化学応用工学科(昼間)／河村 他／1年・後期 ……84

基礎無機化学 [Basic Inorganic Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／安澤 他／1年・後期 ……85

基礎物理化学 [Basic Physical Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／魚崎 他／1年・後期 ……85

分析化学 [Analytical Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／高柳／2年・前期 ……86

有機化学 2 [Organic Chemistry 2] … 化学応用工学科(昼間)／河村 他／2年・前期 ……86

無機化学 [Inorganic Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／森賀／2年・前期 ……87

物理化学 [Physical Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／金崎／2年・前期 ……87

化学工学基礎 [Chemical Engineering Principles] … 化学応用工学科(昼間)／外輪 他／2年・前期 ……87

材料科学 [Material Science] … 化学応用工学科(昼間)／村井／2年・前期 ……88

有機化学 3 [Organic Chemistry 3] … 化学応用工学科(昼間)／河村 他／2年・後期 ……88

高分子化学 1 [Polymer Chemistry 1] … 化学応用工学科(昼間)／右手 他／2年・後期 ……89

反応工学基礎 [Introduction to Chemical Reaction Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／杉山／  
2年・後期 ……89

分離工学 [Separation Science and Technology] … 化学応用工学科(昼間)／外輪 他／2年・後期 ……90

化学反応工学 [Chemical Reaction Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／杉山／3年・前期 ……90

有機化学 4 [Organic Chemistry 4] … 化学応用工学科(昼間)／西内 他, 荒川 幸弘／3年・前期 ……90

高分子化学 2 [Polymer Chemistry 2] … 化学応用工学科(昼間)／右手／3年・前期 ……91

有機・無機工業化学 [Industrial Organic & Inorganic Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／森賀 他／  
3年・前期 ……91

有機化学 5 [Organic Chemistry 5] … 化学応用工学科(昼間)／南川／3年・後期 ……92

物質合成化学演習 [Exercises in Synthetic Organic Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／西内 他／  
3年・後期 ……92

化学応用工学特別講義 1 [Special Lecture on Chemical Science and Technology 1] … 化学応用工学科(昼間)  
／今田／3年・前期 ……93

物質機能化学演習 [Exercises in Physicochemistry] … 化学応用工学科(昼間)／倉科 他／1年・後期 ……93

溶液化学 [Solution Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／魚崎／2年・後期 ……94

地球環境化学 [Environmental Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／藪谷／3年・前期 ……94

量子化学 [Quantum Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／金崎／3年・前期 ……94

電気化学 [Electrochemistry] … 化学応用工学科(昼間)／安澤／3年・後期 ……95

機器分析化学 [Analytical Instrumentation Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／藪谷 他／3年・後期 ……95

化学応用工学特別講義 2 [Special Lecture on Chemical Science and Technology 2] … 化学応用工学科(昼間)  
／工学部非常勤講師／3年・前期 ……96

材料プロセス工学 [Materials and Process Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／村井／  
2年・後期 ……96

材料物性 [Physical Properties of Materials] … 化学応用工学科(昼間)／森賀／3年・後期 ……97

微粒子工学 [Powder Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／加藤／3年・前期 ……97

自動制御 [Automatic Control] … 化学応用工学科(昼間)／外輪／3年・前期 ……97

化学工学演習 [Exercises in Chemical Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／堀河／3年・前期 ……98

反応工程設計 [Chemical Process Design] … 化学応用工学科(昼間)／外輪／3年・後期 ……98

触媒工学 [Catalytic Science and Technology] … 化学応用工学科(昼間)／杉山／3年・後期 ……98

反応工学演習 [Exercises in Reaction Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／中川／3年・後期 ……99

化学応用工学特別講義 3 [Special Lecture on Chemical Science and Technology 3] … 化学応用工学科(昼間)  
／工学部非常勤講師／3年・前期 ……99

工業物理学実験 [Laboratory in General Physics] … 化学応用工学科(昼間)／岸本 他／2年・前期 ……100

物質機能化学実験 [Experiments of Analytical, Inorganic and Physical Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／  
安澤 他／3年・前期 ……100

物質合成化学実験 [Experiments of Organic and Polymer Chemistry] … 化学応用工学科(昼間)／  
南川 他, 押村 美幸／3年・通年 ……101

化学プロセス工学実験 [Experiments of Chemical Process Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／  
森賀 他／3年・後期 ……102

雑誌講読 [Seminar on Chemical Science and Technology] … 化学応用工学科(昼間)／  
工学部化学応用工学科教員／4年・通年 ……102

卒業研究 [Undergraduate Work] … 化学応用工学科(昼間)／工学部化学応用工学科教員／  
4年・通年 ……102

技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics] … 化学応用工学科(昼間)／教務委員会委員 他／  
3年・前期 ……103

安全工学 [Safety Engineering] … 化学応用工学科(昼間)／教務委員会委員 他／2年・前期 ……103

労務管理 [Personnel Management] … 化学応用工学科(昼間)／非常勤／4年・前期 ……103

生産管理 [Production Control] … 化学応用工学科(昼間)／非常勤／4年・前期 ……104

開講学期	2年・前期	時間割番号	5131010
科目分野	工業数学		
選必区分	必修		
科目名	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
担当教員	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	微分方程式の解法を修得し、さらに工学の諸分野に現われる微分方程式の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	微分方程式の理論は数理工学的な現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。		
キーワード	微分, 積分, 級数		
到達目標	1. 2階の定数係数線形常微分方程式が解ける。 2. 簡単な求積法が理解できる。		
授業の計画	6. 正規形常微分方程式と特異解	12. 記号解法 II: 基礎	
1. 常微分方程式の定義	7. 高階常微分方程式	13. 記号解法 III: 応用	
2. 変数分離形	8. ロンスキー行列式	14. 級数解法	
3. 同次形	9. 2階線形同次微分方程式	15. 通常点における級数解法	
4. 一階線形微分方程式	10. 2階定数係数同次方程式	16. 期末試験	
5. 完全微分形	11. 記号解法 I: 定義		
教科書	工科系のための微分方程式／杉山昌平:実教出版		
参考書	特に指定しない		
成績評価の方法	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	本学科教育目標(C: ◎)に対応する。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C: ◎)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mailでの問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) オフィスアワー:木曜 14:00～15:00		
備考			

開講学期	2年・後期	時間割番号	5131020
科目分野	工業数学		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
担当教員	水野 義紀 [Yoshinori Mizuno]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	連立常微分方程式の解法、ラプラス変換の初歩、簡単な偏微分方程式の解法を修得する。		
授業の概要	「微分方程式1」に続いて現代工学すべての基礎として重要な役割を果たしている連立常微分方程式系の基本的な解法を講義する。行列の指数関数、ラプラス変換について学ぶ。		
キーワード	1.定数係数連立線形常微分方程式 2.ラプラス変換 3.行列の指数関数		
到達目標	1.簡単な定数係数連立線形常微分方程式が解ける。(授業計画1～7と対応し、期末試験で評価) 2.ラプラス変換とその応用ができる。(授業計画8～14と対応し、期末試験で評価)		

授業の計画	6.射影分解による計算法	12.微分方程式への応用
1.行列の指数関数	7.連立微分方程式のまとめ	13.畳み込み
2.斉次連立(固有値が異なる実数)	8.ラプラス変換の定義	14.留数解析によるラプラス逆変換
3.斉次連立(固有値が虚数)	9.ラプラス変換の性質	15.ラプラス変換のまとめ
4.斉次連立(固有値が等しい)	10.ラプラス変換の諸公式	16.期末試験
5.非斉次の連立微分方程式	11.部分分数分解とラプラス逆変換	17.総括
教科書	工科系のための微分方程式／杉山昌平:実教出版	
参考書	特に指定しない	
成績評価の方法	期末試験 100%	
再試験の有無	無	
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。	
JABEE合格	本学科教育目標(C: ◎)に対応する。	
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C: ◎)に対応する。	
WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水野 義紀(建設棟A204, E-mail:mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜 17時から18時	
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

開講学期	2年・後期	時間割番号	5131030
科目分野	工業数学		
選必区分	選択		
科目名	複素関数論[Complex Analysis]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微分積分学を修得させる。		
授業の概要	微積分で扱う対象を複素数変数の関数にまで広げ、正則関数および有型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。		
キーワード	正則関数, 留数定理		
到達目標	1. 複素微分, 正則関数の概要が理解できる。 2. 留数概念の理解とその応用ができる。		
授業の計画	6. 複素積分	12. テイラー展開	
1. 複素数, 複素平面	7. コーシーの積分定理	13. ローラン展開	
2. オイラーの式, 複素関数	8. コーシーの積分公式	14. 極, 留数定理	
3. 初等関数	9. 実積分への応用 1	15. 実積分への応用 2	
4. 複素微分, 正則関数	10. 複素数列, 複素級数	16. 期末試験	
5. コーシー・リーマンの関係式	11. 絶対収束, ベキ級数		
教科書	初歩からの複素解析／香田温人・小野公輔:学術図書出版社		
参考書	マイベルク・ファヘンアウア 共著『関数論』(工科系の数学6), サイエンス社		
成績評価の方法	講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し、総合点 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	時間数の制約から、複素関数の計算を修得するための必要最小限な議論を行なうので、講義内容のすべてを吸収することが理解への早道である。日頃から予習・復習の計画を立てて勉学に勤しんでもらいたい。		
JABEE合格	JABEE合格は単位合格と同一とする。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C: ◎)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)			



備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	---

開講学期	2年・前期	時間割番号	5131040
科目分野	工業数学		
選必区分	選択		
科目名	ベクトル解析[Vector Analysis]		
担当教員	水野 義紀 [Yoshinori Mizuno]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 工学の解析で必要不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに、ベクトル場の解析学を通して古典力学、流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的理解・運用を目標とする。

**授業の概要** ベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的効果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微分積分学を展開し、微分積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。

**キーワード** 1. ベクトルの微積分 2. 勾配, 回転, 発散 3. ストークスの定理, グリーンの定理, ガウスの定理

**到達目標** 1. ベクトルの演算, ベクトル場の微分が理解できる。(授業計画1~10と対応し, 期末試験で評価)  
2. ベクトル場の積分が理解できる。(授業計画11~14と対応し, 期末試験で評価)

<b>授業の計画</b>	5. 曲線	9. 回転	13. ガウスの定理
1. ベクトル	6. 曲面	10. 発散	14. 積分定理の応用
2. 内積	7. スカラー場, ベクトル場	11. ストークスの定理	15. 期末試験
3. 外積	8. 勾配	12. グリーンの定理	16. 総括
4. ベクトル関数			

**教科書** ベクトル解析 / 鶴丸孝司・久野昇司・渡辺敏・志賀野洋:内田老鶴園

**参考書** ベクトル解析演習 / 鶴丸孝司・久野昇司・渡辺敏・志賀野洋:内田老鶴園

**成績評価の方法** 期末試験 100%

**再試験の有無** 無

**受講者へのメッセージ** 講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。

**JABEE合格** JABEE 合格は単位合格と同一とする。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C:◎)に対応する。

WEB ページ	
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水野 義紀 (建設棟A204, E-mail:mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜 17時から18時
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	4年・前期	時間割番号	5131060
科目分野	工業数学		
選必区分	選択		
科目名	確率統計学[Probability and Statistics]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 確率的な現象の捉え方, 考え方を学ぶとともにデータを処理する際に使われる統計手法を習得することを目指す。

**授業の概要** 初めて数理統計を学ぶ初学者のために統計資料の整理から始めて、その資料の特徴の解析, さらに確率論の基礎と小標本論の初歩を解説する。

**キーワード** 平均, 分散, 回帰直線, 二項分布, 正規分布

**到達目標** 1. 基本的な分布関数についての理解 2. 相関関係についての理解

<b>授業の計画</b>	5. 相関係数	9. 基本的分布関数	13. 正規分布 I :定義
1. 変量と平均	6. 数学的確率	10. 平均の性質	14. 正規分布 II :応用
2. 分散, 標準偏差	7. 加法定理	11. 二項分布	15. 中心極限定理
3. チェビシェフの定理	8. 乗法定理	12. ポワソン分布	16. 期末試験
4. 相関関係, 回帰直線			

**教科書** 新訂 確率統計 / 高遠節夫・斉藤齊他:大日本図書

**参考書** 統計学要論 / 青木俊夫, 吉原健一:培風館 数理総論 / 越昭三:学術図書出版社

**成績評価の方法** 講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し, 総合点 60%以上で合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C:◎)に対応する

WEB ページ	
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	
備考	

開講学期	3年・前期	時間割番号	5131050
科目分野	工業数学		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式特論[Differential Equations (III)]		
担当教員	深貝 暢良 [Nobuyoshi Fukagai]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 数理解析学の強力な道具立てとして、フーリエの方法を学ぶ。

**授業の概要** フーリエが導入した三角級数展開およびフーリエ積分変換の理論を講義し、物理・工学に現れる偏微分方程式を初等的に扱うための基礎的な知識を提供する。基本的な説明したあとで理解を深めるための課題が与えられる。

**キーワード** フーリエの方法, 三角関数級数, 偏微分方程式, 初期値境界値問題

**先行/科目** 『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(1.0), 『微分方程式2[Differential Equations (II)]』(1.0), 『微分積分学 I [Calculus I]』(1.0), 『微分積分学 II [Calculus 2]』(1.0)

**関連/科目** 『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(0.5), 『微分方程式2[Differential Equations (II)]』(0.5)

**到達目標** 1. フーリエ解析の初歩を理解する。 2. フーリエ級数の計算ができる。

<b>授業の計画</b>	5. バーゼル等の等式, 簡単な応用例	11. 偏微分方程式への応用
1. フーリエ係数, フーリエ級数	6. フーリエ積分	12. 波動方程式
2. 三角級数の和, ディリクレ核	7. ディリクレ積分公式, フーリエ積分公式	13. 熱伝導方程式
3. リーマン・ルベグの定理, ベッセルの不等式	8. フーリエ反転公式	14. ラプラス方程式
4. 展開定理	9. フーリエ変換, 合成積	15. まとめ
	10. 変換の計算例	16. 期末試験

**教科書** 工科系のための微分方程式 / 杉山昌平:実教出版

**参考書** フーリエの方法 / 入江昭二・垣田高夫:内田老鶴園 フーリエ解析とその応用 / 洲の内源一郎:サイエンス社 『フーリエ展開』 / 竹之内脩:秀潤社 フーリエ解析入門 / スタイン, シヤカルチ 藤原毅夫・栄伸一郎『フーリエ解析+偏微分方程式』裳華房 壁谷喜継『フーリエ解析と偏微分方程式入門』共立出版

**成績評価の方法** 期末試験に基づいて行う。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 高度な内容につながる盛り沢山の講義である。丁寧にノートを読み込んで課題を完成させる。そのための質問をいくらでも受け付けている。使い方を理解するには、実用的な道具と割り切って、多数の計算練習を行なうとよい。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C:◎)に対応する。

WEB ページ	
---------	--

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 工学部数学教室 (A棟 219室) (オフィスアワー) 木曜日 15:00～16:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131070
<b>科目分野</b>	工業物理学		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	量子力学[Quantum Mechanics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 原子分子のミクロな世界の基本法則である量子力学の基礎を修得させる。

**授業の概要** 講義計画に示した項目に従い、前期量子論より始めて、シュレディンガーの波動方程式を導く簡単な例として箱の中の自由粒子、調和振動子を取り上げ、波動関数とエネルギー固有値の意味を解説する。さらに、水素原子の場合について説明し、原子構造、周期律との関連に触れる。

**キーワード** シュレディンガー方程式、波動関数とエネルギー固有値、箱の中の自由粒子、調和振動子、水素原子

**到達目標**

1. 電子や光がもつ粒子性と波動性を理解する。
2. シュレディンガー方程式と波動関数の意味を理解する。
3. 簡単な系のシュレディンガー方程式を解き、波動関数とエネルギー固有値を求めることができる。
4. 水素原子の場合の波動関数とエネルギー固有値の意味を理解する。

<b>授業の計画</b>	6. 定常状態の波動関数とエネルギー固有値	11. 角運動量、球関数
1. 量子論のはじまり	7. 物理量と演算子、期待値	12. 水素原子(1)
2. 光電効果とコンプトン効果	8. 箱の中の自由粒子	13. 水素原子(2)
3. 物質波、ボーアの量子論	9. 調和振動子	14. 原子構造と元素の周期律
4. 不確定性原理	10. 中心力場内の粒子	15. 予備日
5. シュレディンガー方程式		16. 期末試験

**教科書** 量子論／小出昭一郎:裳華房

**参考書** 中嶋貞雄「量子力学Ⅰ」(物理入門コース)岩波書店  
中嶋貞雄「量子力学Ⅱ」(物理入門コース)岩波書店

**成績評価の方法** 単位の取得:試験 70%(期末試験)、平常点 30%(授業への取り組み)として評価し、全体で 60%以上で合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C:◎)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大野 隆(M119, Tel: 088-656-4765)
<b>備考</b>	1. 微分および積分の基礎的知識を前提とする。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5131080
<b>科目分野</b>	工業物理学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	統計力学[Statistical Mechanics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 現代の化学は、原子、分子、電子の微視的立場から現象を理解し、新しい法則を見出して、応用を考えることである。その基礎である統計力学を成り立ちを含め講義する。

**授業の概要** 下記講義計画に従い、統計力学と量子力学の関係、現実の物質と簡単なモデル、カノニカル分布、フェルミ統計、ボーズ統計、ボルツマン分布を講義する。

**キーワード**

**到達目標** 1. 微視的な観点と量子力学の理解 2. 統計力学の概念の理解 3. 統計力学の応用の理解

<b>授業の計画</b>	6. エントロピー	11. ボルツマン統計
1. 統計力学の基礎的な考え	7. ミクロカノニカル分布とカノニカル分布	12. 固体の比熱 (1)
2. 温度と圧力と体積	8. 熱力学の基本法則	13. 固体の比熱 (2)
3. 統計力学と量子力学	9. フェルミ統計	14. 黒体輻射
4. 調和振動子	10. ボーズ統計	15. 予備日
5. 理想気体		16. 定期試験

**教科書** 統計力学／久保 亮五:共立出版

**参考書** 適時紹介する。

**成績評価の方法** 講義への出席状況、演習の回答、レポート評価、試験の成績を総合して評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C:◎)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大野 隆(M119,Tel:088-656-4765)
<b>備考</b>	1. 意欲的に勉強すること。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5131090
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	化学応用工学基礎[Introduction to Chemical Science and Technology]		
<b>担当教員</b>	工学部化学応用工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 高校で修得する化学と専門科目としての化学との間には大きなへだたりがある。本科目は、これからそのへだたりを埋めるためのものであり、化学を科学的に理解するための基礎力の養成を図る。モノを創る課題を行うことにより、情報収集・活用能力、創造力、課題解決能力、グループ活動能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力といった汎用的技能のレベルアップを図る。

**授業の概要** 化学応用工学にはどのような学問分野があり、それが社会とどのようにつながっているか、そして、学部生として何を学ぶかなどについて講述する。また、4～5名の少人数グループ毎に分かれ、具体的なテーマを選定し、調査、結果整理、考察、発表を行う。各グループには、1名の教員が助言および指導を行うが、テーマ選定から発表までを学生が主体的に進める。毎回各教員のもとに集まり、質疑応答等を通じた双方向的な(教員からの一方的な指導のみでなく、学生からの建設的な質疑も含む)やりとりを緊密に行うことで、コミュニケーション能力(議論を通じてお互いを理解する能力)の向上を目指す。また、各教員から情報リテラシー(コンピューターネットワークを利用するうえで注意すべきこと)やプレゼンテーション技法(発表の仕方)についての指導を受ける。テーマ内容の調査は図書館を利用した文献調査およびインターネットを利用した資料の調査によって行う。ただし、インターネットを利用する場合には、必ずその一部を英語サイトからの調査にする。これにより、国際コミュニケーション能力(英語を使って議論をする能力)の向上を目指す。さらに発表の際は英語サイトを利用した調査内容を反映させる。

**キーワード** 化学応用工学、創成型プログラム、プレゼンテーション

**到達目標** 1. 化学の現象を自ら考え、探究して、問題解決する方法を修得する  
2. 情報収集・活用能力、創造力、課題解決能力、グループ活動能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力といった汎用的技能のレベルを高める

<b>授業の計画</b>	5. 実地見学と職務従事者及び学生間の意見交換
1. 「化学応用工学とは」	6. 収集資料の取りまとめとプレゼンテーション概要の立案
2. テーマの設定	7. プレゼンテーション資料の立案及び作成
3. 検討手段とその方法	8. プレゼンテーションとその評価
4. 情報収集とメンバー相互の意見交換	

<b>教科書</b>	徳島大学工学部:「学びの技」はじめの一步
<b>参考書</b>	「わかりやすい説明」の技/藤沢晃治:講談社ブルーバックス プレゼンテーションのノウハウ・ドゥハウ/HR インスティテュート:PHP 研究所 「分かりやすい説明」の技 藤沢晃治著 (ブルーバックス) プレゼンテーションのノウハウ・ドゥハウ HR インスティテュート著(PHP 研究所)
<b>成績評価の方法</b>	講義・グループディスカッションへの参加・取り組み状況とレポート(70%)及びプレゼンテーション評価(30%)を総合して評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(D:◎)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 教務委員
<b>備考</b>	1.

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5131100
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	物理化学序論[Introduction to Physical Chemistry]		
<b>担当教員</b>	魚崎 泰弘 [Yasuhiro Uosaki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	物理化学の入門講義によって、以降の専門科目履修のための基礎学力を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	高校での学習に続いて、気体の状態方程式などの初歩から物理化学、熱力学の基礎について講述し、化学者・化学技術者としての知識や考え方を習得させる。		
<b>キーワード</b>	国際単位系, 気体の性質, 化学熱力学		
<b>関連/科目</b>	『基礎物理化学[Basic Physical Chemistry]』(1.0), 『物質機能化学演習[Exercises in Physicochemistry]』(1.0), 『物理化学[Physical Chemistry]』(1.0), 『溶液化学[Solution Chemistry]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	熱力学を学習するための基礎力をつける		
<b>授業の計画</b>	5. 気体の性質(4)実在気体(臨界現象, 対応状態の原理)		
1. 国際単位系	6. 化学熱力学とは		
2. 気体の性質(1)完全気体(気体の状態, 気体の諸法則)	7. まとめ		
3. 気体の性質(2)実在気体(分子間相互作用, ファンデルワールスの式)	8. 期末試験		
4. 気体の性質(3)実在気体(状態方程式)			
<b>教科書</b>	アトキンス 物理化学(上)第8版/P. W. Atkins, J. de Paula:東京化学同人, 2009, ISBN:9784807906956		
<b>参考書</b>	マッカーリ・サイモン 物理化学(下)/マッカーリ, サイモン:東京化学同人, 2000, ISBN:9784807905096		
<b>成績評価の方法</b>	講義への取り組み状況および小テスト・レポートの内容(40点), 試験の成績(60点)の合計(100点満点)を合計し, 60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	理解不足と思われる場合は, 積極的に質問あるいはオフィスアワーを利用すること。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本科学習・教育目標(D:◎)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 化 510, Tel: 088-656-7417 (メールアドレス) uosaki@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00~18:00		
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5131110
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	河村 保彦, 右手 浩一 [Yasuhiko Kawamura, Kohichi Ute]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	高校で修得する化学と専門科目としての化学との間には大きな溝がある。本講義はその溝を埋めるためのものであり, 化学を科学的に理解するための基礎力の養成を図る。		
<b>授業の概要</b>	有機化学に重点をおき, 有機化合物の基本的な構造・性質について平易に講義する。適宜, 演習を行いながら理解を深め, 応用力を養う。		
<b>キーワード</b>	有機分子の構造, 混成軌道, 有機酸塩基		
<b>関連/科目</b>	『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0), 『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(1.0), 『高分子化学1[Polymer Chemistry 1]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 有機分子の構造と混成軌道の関係について理解する。 2. 有機酸と有機塩基について理解を深める。		
<b>授業の計画</b>	4. 極性共有結合:電気陰性度		
1. 有機化学入門:構造と結合;酸と塩基	5. 酸と塩基:Bronsted-Lowry の定義		
2. 化学結合論の発展, 化学結合の性質, 共有結合の生成: 原子価結合法	6. 酸と塩基:Lewis の定義		
3. 混成:sp <sup>3</sup> 軌道とメタン・エタンの構造, 二重結合と三重結合	7. 教科書第1章の演習		
	8. 期末試験		
<b>教科書</b>	マクマリー 有機化学概説 第6版/J. McMurry, E. Simanek 著, 伊東, 児玉 訳:東京化学同人, 2007, ISBN:9784807906628		
<b>参考書</b>	マクマリー 有機化学概説問題の解き方 第6版/英語版/S. McMurry 著:東京化学同人, 2007, ISBN:9784807906642 Fundamentals of Organic Chemistry/J. McMurry:Thomson Brooks/Cole, 2010, ISBN:1439049718 ボルハルト・ショアー 現代有機化学(第6版)(上)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814729		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	教科書に沿って授業をするので, 毎回持参すること。		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は基本的に最終試験により評価する。合否の判定は, 講義への参加・取り組み状況と小テストまたはレポート(50%)及び最終試験の結果(50%)を総合して評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(D:◎)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 河村 保彦(化 410, 088-656-7401, kawamura@chem.tokushima-u.ac.jp) 右手 浩一(化 406, 088-656-7402, ute@chem.tokushima-u.ac.jp)		
<b>備考</b>	1. (担当) 河村-1A, 右手-1B		

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5131120
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	化学工学序論[Introduction to Chemical Engineering]		
<b>担当教員</b>	杉山 茂 [Shigeru Sugiyama]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	高校までの化学では学習しない化学工学の導入教育として, 基礎となる移動現象論を取り上げ, 化学工学の基礎学力を習得させる。		
<b>授業の概要</b>	高校で学んだ気体の状態方程式等や物質収支をもとに, 流動, 伝熱, 拡散という化学装置を設計する際の基礎となる移動現象論について講述し, 図解, 例題と演習によって, 化学工学の基礎事項を理解させる。		



<b>キーワード</b>	移動現象論, 流動, 伝熱, 拡散, 物質収支			
<b>到達目標</b>	化学工学の基礎となる流動, 伝熱, 拡散などの移動現象論を理解する。			
<b>授業の計画</b>	<b>3.</b>	層流と乱流	<b>6.</b>	伝熱
<b>1.</b>	<b>4.</b>	物質収支と移動現象論概説	<b>7.</b>	拡散
<b>2.</b>	<b>5.</b>	電気の流れ	<b>8.</b>	試験
<b>教科書</b>	「はじめて学ぶ化学工学」草壁克己・外輪健一郎著(丸善出版)			
<b>参考書</b>				
<b>成績評価の方法</b>	1回目～7回目の各化学工学の基礎事項の講義によって到達目標を達成する。到達目標の達成度は基本的に8回目の最終試験により評価する。講義へ取り組み状況および演習・レポートの内容(平常点40点), 小テストと試験の成績(試験点60点)を合計し, それぞれの成績(100点満点)を出し, 60点以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義の開始時に復習を行なうとともに, 当日の講義の要旨を述べる。そのため, 予習復習の状況を重視する。授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b>				
<b>学習教育目標との関連</b>	本科学習・教育目標(D:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>				
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 杉山 茂(化309, 088-656-7432) (メールアドレス) sugiyama@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜, 火曜, 16時～18時, また随時対応します。			
<b>備考</b>				

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5131150
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	基礎分析化学[Basic Analytical Chemistry]		
<b>担当教員</b>	高柳 俊夫 [Toshio Takayanagi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学反応と化学量論を基礎として, 物質が有する質的, 量的情報を得る分析化学の手法を理解する。取扱う化学反応と諸平衡定数から, その反応に関係する化学種とそれらの量(物質質量, 濃度)の関係を的確に把握できる素養を身につける。また, 化学平衡に基づく定量分析に関する基礎的知識とその考え方を習得する。		
<b>授業の概要</b>	測定対象である試料中の目的物質およびその化学種を特定し, その相対量あるいは絶対量を決定するのが化学分析であり, 化学分析を構築するための学問分野が分析化学である。本講義では, 分析化学が扱う基本的な化学平衡として酸塩基平衡, 錯形成平衡をとりあげ, 物質が有する物性と存在化学種との関係を学習する。また, 化学平衡に基づく容量分析による定量操作を学習し, 化学分析に関する理解を深める。		
<b>キーワード</b>	分析化学, 化学分析, 定量分析, 電解質溶液, 酸塩基平衡, 錯形成平衡, 化学計測とその報告		
<b>到達目標</b>	1. 分析化学に関係する化学反応, 化学量論についての理解を深める。 2. 様々な表現される物質の物質質量や濃度を自在に扱えるようになる。 3. 分析化学が扱う基礎的な化学平衡を理解する。 4. 化学平衡式, 平衡定数を用いて, 酸や塩基の存在形態とその量を解析, 計算できるようになる。		
<b>授業の計画</b>	1. 分析化学序論, 溶質の溶解現象と濃度(第1章 p.1～p.9) 2. 水溶液中の酸塩基平衡(1):酸と塩基(第1章 p.9～p.15) 3. 水溶液中の酸塩基平衡(2):化学種と電子構造(第1章 p.15～p.18) 4. 水溶液中の酸塩基平衡(3):酸解離定数と濃度計算(第1章 p.18～p.22) 5. 水溶液中の酸塩基平衡(4):pH緩衝液(第1章 p.22～p.25) 6. 化学分析で用いる器具(付録 p.242～p.244) 7. 水溶液中の酸塩基平衡(5):pH滴定曲線(第1章 p.25～p.27) 8. 水溶液中の酸塩基平衡に関するまとめと演習 9. 計測結果の意味と取り扱い:有効数字(第17章 p.223～p.226) 10. 計測結果の意味と取り扱い:誤差と不確かさ(第17章 p.227～p.232)		

<b>11.</b>	錯形成反応とキレート滴定(1):錯体, キレート, 錯形成反応(第2章 p.29～p.32)
<b>12.</b>	錯形成反応とキレート滴定(2):安定度定数と溶存化学種(第2章 p.32～p.34)
<b>13.</b>	錯形成反応とキレート滴定(3):副反応係数と条件安定度定数(第2章 p.34～p.36)
<b>14.</b>	錯形成反応とキレート滴定(4):キレート滴定(第2章 p.36～p.39)
<b>15.</b>	試料採取と前処理(配付プリント)
<b>16.</b>	定期試験
<b>教科書</b>	ベーシック分析化学/高木誠:化学同人, 2006. 10, ISBN:9784759810660
<b>参考書</b>	基礎からの分析化学/熊丸尚宏, 河野拓治, 田端正明, 中野恵文:朝倉書店, 2007. 3, ISBN:9784254140774 分析化学 基礎編/本水昌二他:東京化学社, 2011. 4, ISBN:9784808230463
<b>成績評価の方法</b>	講義への参加と小テストの状況, レポートの提出状況, 定期試験を通じて授業内容の理解度をはかり, 目標の4項目の達成状況により成績評価とする。それらの比率は概ね, 講義への参加と小テストの状況30点, レポート30点, 定期試験40点の100点満点とし, 60点以上あれば合格とする。なお, 欠席, 遅刻, 早退については減点の対象とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中に随時計算をするので関数電卓を必ず持参すること。授業時間の一部を使い, 授業内容の理解度を量る小テストを毎回実施する。また, 授業で扱った内容に関するレポート課題を適宜課する。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本科学習・教育目標(D:◎)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	大学のi-Collabo上に, 本授業で扱う内容, 小テスト及び解答, レポート課題を掲示する。
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 高柳俊夫(化学生物棟611号室, TEL:088-656-7409) (メールアドレス) takayana@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00～18:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5131160	
<b>科目分野</b>	化学基礎			
<b>選必区分</b>	必修			
<b>科目名</b>	有機化学1[Organic Chemistry 1]			
<b>担当教員</b>	河村 保彦, 今田 泰嗣 [Yasuhiko Kawamura, IMADA, Yasushi]			
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)	
<b>授業の目的</b>	有機化学の基礎を学ぶために有機化学の基本原則と基礎概念を習得させる。			
<b>授業の概要</b>	基本的な有機化合物, 特に脂肪族化合物の構造, 性質, 求電子付加反応, 求核置換反応, 簡単な立体化学について有機化学の基礎を講述する。			
<b>キーワード</b>	共有結合, 炭化水素, アルカン, シクロアルカン, アルケン, アルキン			
<b>先行/科目</b>	『有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]』(1.0)			
<b>到達目標</b>	化学結合と電子の動きを理解し, 脂肪族化合物の合成・反応を理解する。			
<b>授業の計画</b>	<b>6.</b>	シクロアルカンの立体化学	<b>12.</b>	アルケンの反応2
<b>1.</b>	<b>7.</b>	官能基	<b>13.</b>	アルキンの構造, 性質, 命名法
<b>2.</b>	<b>8.</b>	アルカンの化学	<b>14.</b>	アルキンの反応
<b>3.</b>	<b>9.</b>	アルカンの命名法	<b>15.</b>	期末試験
<b>4.</b>	<b>10.</b>	アルカンの立体化学	<b>16.</b>	答案の返却と講評
<b>5.</b>	<b>11.</b>	シクロアルカンの化学		
<b>教科書</b>	マクマリー 有機化学概説 第6版/J. McMurry, E. Simanek 著, 伊東, 児玉 訳:東京化学同人, 2007, ISBN:9784807906628			
<b>参考書</b>	ボルハルト・ショア現代有機化学(第6版)(上)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814729 ボルハルト・ショア現代有機化学(第6版)(下)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814736 マクマリー 有機化学概説 問題の解き方 第6版/英語版/S. McMurry 著:Thomson Brooks/Cole, 2007, ISBN:9784807906642			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は基本的に定期試験により評価する。中間試験(45%)および期末試験(45%)に加えて小テストや課題などの講義への取り組みを総合的に評価する。			

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> JABEE 関連 (任意): □ (英) (日) 本学科教育目標(D:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 河村(化 410, 088-656-7401, kawamura@chem.tokushima-u.ac.jp) 今田(化 612, 088-656-7407, imada@chem.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 河村 毎週火・金 17:00～18:00 今田 毎週火 17:00～18:00
<b>備考</b>	1.

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5131140
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	基礎無機化学[Basic Inorganic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	安澤 幹人, 森賀 俊広 [Mikito Yasuzawa, Toshihiro Moriga]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 無機物質の構造及び性質を理解させるために、原子及び分子の構造、化学結合性を中心に易しく講義する。講義のはじめに適宜レポートを課す。			
<b>授業の概要</b> 無機物質の構造及び性質を理解させるために、原子及び分子の構造、その対称性、化学結合性、反応性を中心に易しく講義する。教科書「シュライバー・アトキンス」無機化学(第4版)の1, 2, 4章を中心に行う。			
<b>キーワード</b> 量子数, パウリの排他原理, 電気陰性度, 混成軌道, 結合性軌道			
<b>関連/科目</b> 『無機化学[Inorganic Chemistry]』(1.0) 『材料科学[Material Science]』(1.0)			
<b>到達目標</b> 1. 元素の性質の周期性について理解する。 2. 酸素・二酸化炭素やメタンなど簡単な化合物の分子構造・対称性を理解する。 3. 共有結合・イオン結合・金属結合の成り立ち・相違点について理解する。 4. 酸・塩基の強さを決定する要因について理解する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 水素型原子の構造	5. 原子パラメーター 電子親和力, 電気陰性度, 分極率	11. 分子軌道理論 異核二原子分子, 結合次数	
2. 原子軌道	6. オクテット則	12. 強い酸・塩基, オキソ酸の強さ	
3. 貫入と遮蔽, 構成原理	7. 構造と結合特性	13. 酸性(塩基性)酸化物, ルイス酸性	
4. 原子パラメーター 原子半径およびイオン半径, イオン化エネルギー	8. VSEPR モデル	14. 硬い酸・塩基(軟らかい酸・塩基)	
	9. 原子価結合理論	15. 最近のトピックス	
	10. 分子軌道理論 入門, 等核二原子分子	16. 最終試験	
<b>教科書</b> 無機化学: シュライバー・アトキンス (第4版) 上/P. Atkins, T. Overton, J. Rourke, M. Weller, F. Armstrong 著, 田中勝久, 平尾一之, 北川進 訳, 東京化学同人, 2008, ISBN:9784807906673			
<b>参考書</b> 基礎無機化学/コットン・ウィルキンソン・ガウス著, 中原訳: 培風館			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標1は、第1回～第5回の講義が、到達目標2は第6回～第11回の講義が、到達目標3は第12回～第14回が関連する。到達目標の達成度は基本的に最終試験により評価する。講義終了後の最終試験により成績を評価(60%), 授業への取り組み状況, レポート演習問題の提出状況を加味し(40%), 100点満点で60点以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b> 本科学習・教育目標(D:◎)に対応する。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(D:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 安澤 幹人 (化 512, 088-656-7421) 森賀 俊広 (M603, 088-656-7423) (メールアドレス) 安澤 幹人(mik@chem.tokushima-u.ac.jp) 森賀 俊広(moriga@chem.tokushima-u.ac.jp)		

	(オフィスアワー) 安澤: 月曜日 16:30 から 17:30 森賀: 金曜日 16:30 から 18:00
<b>備考</b>	1. 2クラスに分け、並立授業を行う。1年A:安澤准教授, 1年B:森賀教授 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5131130
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	基礎物理化学[Basic Physical Chemistry]		
<b>担当教員</b>	魚崎 泰弘, 鈴木 良尚 [Yasuhiro Uosaki, Yoshihisa Suzuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 物質の状態と性質について、エネルギー論をもとに講述し、化学熱力学の基礎を理解させる。			
<b>授業の概要</b> 物質に対して物理化学的に具象化するためには多くの方法論が要求される。大切なことは、ものの見方の基本的な態度であることを講述し、物理化学的に物質をとらえる上で、基礎となる考え方、方法について講義を行う。			
<b>キーワード</b> 熱力学, 熱化学, 相律			
<b>先行/科目</b> 『物理化学序論[Introduction to Physical Chemistry]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『物質機能化学演習[Exercises in Physicochemistry]』(1.0) 『物理化学[Physical Chemistry]』(1.0) 『溶液化学[Solution Chemistry]』(1.0)			
<b>到達目標</b> 化学熱力学の基礎を理解する			
<b>授業の計画</b>			
1.	第一法則(1)基本的な概念(仕事・熱・エネルギー, 内部エネルギー)		
2.	第一法則(2)基本的な概念(膨張の仕事, 熱のやりとり)		
3.	第一法則(3)基本的な概念(エンタルピー, 断熱変化)		
4.	第一法則(4)熱化学(標準エンタルピー変化)		
5.	第一法則(5)熱化学(標準生成エンタルピー, 反応エンタルピーの温度依存性)		
6.	第一法則(6)状態関数と完全微分(完全微分と不完全微分, 内部エネルギーの変化, ジュールトムソン効果)		
7.	中間テスト		
8.	第二法則(1)自発変化の方向(エネルギーの散逸, エントロピー)		
9.	第二法則(2)自発変化の方向(いろいろな過程のエントロピー変化, 熱力学第三法則)		
10.	第二法則(3)系に注目する(ヘルムホルツエネルギーとギブズエネルギー, 標準反応ギブズエネルギー)		
11.	第二法則(4)第一法則と第二法則の結合(基本式, 内部エネルギーの性質)		
12.	第二法則(5)第一法則と第二法則の結合(ギブズエネルギーの性質, 実在気体:フガシティー)		
13.	純物質の物理的な変態(1)相図(相の安定性, 相境界, 相図の典型例3種)		
14.	純物質の物理的な変態(2)相の安定性と相転移(平衡の熱力学的な基準, 安定性のいろいろな条件への依存性)		
15.	純物質の物理的な変態(3)相の安定性と相転移(相境界の位置, エーレンフェストによる相転移の分類)		
16.	期末テスト		
<b>教科書</b> アトキンス 物理化学(上)第8版/P. W. Atkins, J. de Paula:東京化学同人, 2009, ISBN:9784807906956			
<b>参考書</b> マッカーリ・サイモン 物理化学(下)/マッカーリ, サイモン:東京化学同人, 2000, ISBN:9784807905096			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標は、授業計画全体の内容を理解することで達成される。達成度は基本的に各テストおよびレポートによって評価する。講義への取り組み状況および小テスト・レポートの内容(平常点40点), 中間および期末試験の成績(試験点60点)を合計し, 成績(100点満点)を出す。60点以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 同時期(1年後期)開講の「物質機能化学演習」は、基礎物理化学で学習した内容の演習問題を行う。講義内容を深く理解するには、履修することが望ましい。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(D:◎)に対応する			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 魚崎(化 510, Tel: 088-656-7417) 鈴木(化 509, Tel: 088-656-7415) (メールアドレス) uosaki@chem.tokushima-u.ac.jp suzuki@chem.tokushima-u.ac.jp		

	(オフィスアワー) 魚崎:月曜日 17:00~18:00 鈴木:月曜日 17:00~18:00, 21:00~22:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 2クラスに分け、並立授業を行う(1年A:鈴木准教授,1年B:魚崎教授)。

開講学期	2年・前期	時間割番号	5131320
科目分野	物質機能化学		
選必区分	必修		
科目名	分析化学[Analytical Chemistry]		
担当教員	高柳 俊夫 [Toshio Takayanagi]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学反応と化学量論を基礎として、物質が有する質的、量的情報を得る分析化学の手法を理解する。取扱う化学反応と平衡定数、速度定数から、その反応に関係する化学種とそれらの量(物質質量、濃度)の関係を的確に把握できる素養を身につける。また、分析機器を用いる分離分析に関する基礎的知識を習得し、その手法を化学の観点から捉える。		
<b>授業の概要</b>	基礎分析化学の継続講義である。基礎分析化学で学習した酸塩基平衡、錯形成平衡、固液平衡とそれらに基づく定量分析の考え方を発展させる。本講義では、分析化学が扱う基本的な平衡反応として酸化還元平衡を取りあげる。また、分析化学で利用される速度論的な反応を紹介する。さらに、機器分析への接続として、クロマトグラフィーによる分離分析を学習する。		
<b>キーワード</b>	分析化学、沈殿平衡、酸化還元平衡、速度論的分析法、分離分析、クロマトグラフィー、電気泳動		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分析化学における沈殿生成平衡に関する理解を深める。</li> <li>2. 分析化学における分配平衡に関する理解を深める。</li> <li>3. 分析化学における酸化還元平衡に関する理解を深める。</li> <li>4. 分析化学における速度論的反応に関する理解を深める。</li> <li>5. クロマトグラフィーによる分離と定量の原理を理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、基礎分析化学で扱った内容の確認</li> <li>2. 固相平衡とイオン交換反応(1):溶解平衡(第3章 p.40~p.45)</li> <li>3. 固相平衡とイオン交換反応(2):沈殿滴定(第3章 p.45~p.47)</li> <li>4. 固相平衡とイオン交換反応(3):イオン交換(第3章 p.48~p.52)</li> <li>5. 分配平衡と抽出(1):分配平衡と分配係数(第4章 p.53~p.56)</li> <li>6. 分配平衡と抽出(2):物質の溶媒抽出分離(第4章 p.56~p.63)</li> <li>7. 酸化還元反応(1):酸化還元反応とネルンスト式(第5章 p.64~p.70)</li> <li>8. 酸化還元反応(2):ネルンスト式と副反応(第5章 p.64~p.70)</li> <li>9. 酸化還元反応(3):酸化還元滴定(第5章 p.72~p.74)</li> <li>10. クロマトグラフィーと電気泳動(1):クロマトグラフィーによる分離(第7章 p.98~p.102)</li> <li>11. クロマトグラフィーと電気泳動(2):液体クロマトグラフィー(第7章 p.102~p.106)</li> <li>12. クロマトグラフィーと電気泳動(3):ガスクロマトグラフィー(第7章 p.106~p.108)</li> <li>13. クロマトグラフィーと電気泳動(4):電気泳動(第7章 p.109~p.115)</li> <li>14. 速度論的分析法(1):非接触反応</li> <li>15. 速度論的分析法(2):接触反応</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>		
<b>教科書</b>	ベーシック分析化学/高木誠:化学同人, 2006. 10, ISBN:9784759810660		
<b>参考書</b>	基礎からの分析化学/熊丸尚宏, 河野拓治, 田端正明, 中野恵文 編著,板橋英之, 栗原誠, 澤田清, 藤原照文, 山田真吉, 山田碩道, 吉村和久 著,:朝倉書店, 2007, ISBN:9784254140774 分析化学 基礎編/本水昌二他:東京教学社, 2011, ISBN:9784808230463		
<b>成績評価の方法</b>	講義への参加と小テストの状況、レポートの提出状況、定期試験を通じて授業内容の理解度をはかり、目標の4項目の達成状況により成績評価とする。それらの比率は概ね、講義への参加と小テストの状況30点, レポート30点, 定期試験40点の100点満点とし、60点以上あれば合格とする。なお、欠席、遅刻、早退については減点の対象とする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中に随時計算をするので関数電卓を必ず持参すること。授業時間の一部を使い、授業内容の理解度を量る小テストを毎回実施する。また、授業で扱った内容に関するレポート課題を適宜課する。		

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本科学学習・教育目標(D:◎)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	大学のi-Collabo上に、本授業で扱う内容、小テスト及び解答、宿題を掲示する。
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 高柳俊夫(化学生物棟611号室, TEL:088-656-7409) (メールアドレス) takayana@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00~18:00
<b>備考</b>	「基礎分析化学」の履修を前提として講義および演習を行う。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	2年・前期	時間割番号	5131190
科目分野	化学基礎		
選必区分	必修		
科目名	有機化学2[Organic Chemistry 2]		
担当教員	河村 保彦, 今田 泰嗣 [Yasuhiko Kawamura, IMADA, Yasushi]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	有機化学序論、有機化学1で学んだ有機化学の基本原則に基づいて有機立体化学、芳香族化合物、ハロゲン化アルキル、アルコール、フェノール、エーテルについて学習し、それらの知識を応用できることを目指す。		
<b>授業の概要</b>	芳香族化合物の化学、有機立体化学、ハロゲン化アルキルの求核置換反応および脱離反応、アルコール、フェノール、エーテルの化学について講義する。		
<b>キーワード</b>	立体化学、芳香族求電子置換反応、求核置換反応、脱離反応、ハロゲン化アルキル、アルコール、フェノール、エーテル		
<b>先行/科目</b>	『有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]』(1.0)、『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ベンゼンおよびその誘導体の構造・性質・反応について理解する。</li> <li>2. 有機立体化学の基礎を理解する。</li> <li>3. 化学反応における電子の動きとハロゲン化アルキルの特長反応(求核置換および脱離反応、グリニャール反応など)を理解する。</li> <li>4. アルコール、フェノール、エーテルの構造・性質・反応について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 芳香族化合物の概要</li> <li>2. 芳香族化合物の化学:芳香族求電子置換(1)</li> <li>3. 芳香族化合物の化学:芳香族求電子置換(2)</li> <li>4. 芳香族化合物の化学:芳香族求核置換・ベンゼイン・酸化還元</li> <li>5. 有機化合物の立体化学(1)</li> <li>6. 有機化合物の立体化学(2)</li> <li>7. 有機反応の立体化学</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 中間試験</li> <li>9. ハロゲン化アルキルの命名・構造・合成法</li> <li>10. ハロゲン化アルキルの反応(1)</li> <li>11. ハロゲン化アルキルの反応(2)</li> <li>12. ハロゲン化アルキルの反応(3)</li> <li>13. アルコールの合成と反応</li> <li>14. フェノールの合成と反応</li> <li>15. エーテルの合成と反応</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	マクマリー 有機化学概説 第6版/J. McMurry, E. Simanek 著, 伊東, 児玉 訳:東京化学同人, 2007, ISBN:9784807906628		
<b>参考書</b>	ボルハルト・ショアー 現代有機化学(第6版)(上)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814729 ボルハルト・ショアー 現代有機化学(第6版)(下)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814736 マクマリー 有機化学概説 問題の解き方 第6版/英語版/S. McMurry 著:Thomson Brooks/Cole, 2007, ISBN:9784807906642		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は基本的に定期試験により評価する。中間試験(45%), 期末試験(45%), 小テストや課題などの講義への取り組みを総合的に評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			



<b>学習教育目標との関連</b>	JABEE 関連 (任意): □ (英) (日) 本学科教育目標(D:◎)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今田 泰嗣(化 612, 088-656-7407, imada@chem.tokushima-u.ac.jp) 河村 保彦(化 612, 088-656-7407, kawamura@chem.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131180
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	無機化学[Inorganic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	森賀 俊広 [Toshihiro Moriga]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 1年次の基礎無機化学に引き続き、分子・軌道の対称性の理解、無機化合物の各論・演習問題で、基本概念を応用して問題を解決する力を養う。

**授業の概要** 基礎無機化学に引き続き、第7章～第19章及び22章を取り扱う。周期表をsブロック、pブロック、dブロック及びfブロックに分けて体系化した無機化合物各論を通じて無機化合物への理解を深める。

**キーワード** 対称性、配位化合物、元素の周期性、結晶場理論

**先行/科目** 『基礎無機化学[Basic Inorganic Chemistry]』(1.0)

**関連/科目** 『材料科学[Material Science]』(0.5)、『材料物性[Physical Properties of Materials]』(1.0)、『有機・無機工業化学[Industrial Organic & Inorganic Chemistry]』(0.5)

#### 到達目標

1. 簡単な分子の点群・対称要素を理解する。
2. sブロック、pブロック、dブロック、及びfブロック元素の特徴について理解する。
3. 結晶場理論の基礎を理解する。

- 授業の計画**
- |  |   |
|--|---|
| 1. 対称操作と対称要素(第7章)                      | 9. 15族元素の単体と化合物, 16族元素の単体と化合物(第14・15章)  |
| 2. 分子の点群(第7章)                          | 10. 17族元素の単体と化合物, 18族元素(第16・17章)        |
| 3. 対称性の応用1(第7章)                        | 11. dブロック金属元素と化合物(第18章)                 |
| 4. 錯体の構造, 命名法(第8章)                     | 12. 結晶場理論 -八面体錯体, 弱配位子場と強配位子場-(第19章)-1- |
| 5. 異性化とキラリティー(第8章)                     | 13. 結晶場理論 -八面体錯体, 弱配位子場と強配位子場-(第19章)-2- |
| 6. 水素と水素の化合物(第9章)                      | 14. 結晶場理論 -磁気測定, 四面体錯体-(第19章)           |
| 7. 1族元素の単体と化合物, 2族元素の単体と化合物(第10・11章),  | 15. fブロック金属(第22章)                       |
| 8. 13族元素の単体と化合物, 14族元素の単体と化合物(第12・13章) | 16. 最終試験                                |

**教科書** シュライバー・アトキンス 無機化学(上・下) 第4版 東京化学同人

**参考書** 合原真ら共著 無機化学演習 三共出版 ISBN:4-7827-0333-3

**成績評価の方法** 到達目標1は、第1回～第5回の講義が、到達目標2は第6回～第11回及び第15回の講義が、到達目標3は第11回～第14回が関連する。到達目標の達成度は基本的に最終試験により評価する。講義終了後の最終試験により成績を評価(60%)、授業への取り組み状況?演習問題の提出状況を加味し(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 基礎無機化学の履修を前提として講義する。

#### JABEE合格

**学習教育目標との関連** 本学科学習・教育目標(A:○), (B:◎)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森賀俊広(機械棟 603, Tel: 088-656-7423) (メールアドレス) moriga@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:30-18:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131170
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	物理化学[Physical Chemistry]		
<b>担当教員</b>	金崎 英二 [Eiji Kanazaki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 基礎物理化学等で学習した化学熱力学に引き続き、系の平衡状態を記述する方法論の一つである化学統計熱力学の基礎について述べ、3年前期に開講される量子化学への橋渡しを行う。系の巨視的な記述方法である熱力学関数が、微視的な存在である分子の性質をどのように反映しているかを、分配関数の計算を通じて理解し、物質系のマクロスコピックな性質が、物質系を構成するミクロスコピックな分子の性質と密接に結び付いている事を知る事が本講義の目的である。講義では英語の教科書を使用する。英語表記の専門用語に習熟することも本講義の目的である。

**授業の概要** 化学統計熱力学の基礎について述べる。

**キーワード** 分配関数, 熱平衡状態

- 到達目標**
1. 化学統計熱力学の基礎的概念を理解できる
  2. 化学統計熱力学の基礎的概念を用いて簡単な系の記述ができる
  3. 熱力学的諸関数を分配関数を用いて算出できる

- 授業の計画**
- |                                |                                     |                |
|--------------------------------|-------------------------------------|----------------|
| 1. 講義の概要等の説明                   | 6. 内部エネルギーとエントロピー                   | 12. 全分子分配関数    |
| 2. 第15章 統計熱力学の概念, 配置と重み, 瞬間的配置 | 7. カノニカル分配関数                        | 13. 平均エネルギーの計算 |
| 3. ボルツマン分布                     | 8. 独立に運動する分子                        | 14. 残余エントロピー   |
| 4. 分子分配関数とは何か                  | 9. 第16章 化学統計熱力学の方法, 基礎的な関係式, 熱力学的関数 | 15. 平衡定数       |
| 5. 近似と因数分解                     | 10. 再び分子分配関数について                    | 16. 定期試験       |
|                                | 11. 振動運動の寄与                         |                |

**教科書** Atkins' Physical Chemistry, 9th ed./P.W.Atkins & J.Paula: Oxford University Press, 2010, ISBN:0-19-870072-5  
P.W.Atkins & J.Paula, Physical Chemistry, 9th ed., Oxford University Press, 2010.

**参考書** 講義の中で適宜紹介する。

**教科書・参考書に関する補足情報** 予習では、教科書を和訳しノートに書き留め、復習時にはそれを校正すると、定期試験時に役立ちます。講義の際には英和辞典を携帯して下さい。英和辞典は単語の訳語だけでなく、例文が記載されているものが実用的です。専門用語は予め理化学辞典等で下調べしておくとう理解が深まります。四年生での雑誌購読や、大学院入試/就職の際のEOEICのスコアアップのためにも英語の読解力を向上させましょう。

**成績評価の方法** 定期試験と授業の取り組み及びレポート(宿題)により評価。レポート提出期限は次回の講義開始時刻である。期限後に提出されたレポートは評価しない。最終評価における定期試験とそれ以外の割合は60対40である

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 英文の教科書を使用するので予習及び復習すること。パソコンで表計算グラフを作成する準備をしておくこと。講義の理解のためには、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習が必要である。講義中は、講義に集中し、私語等は慎むこと。i-Collaboに講義資料や宿題などを掲載します。講義前に必ず閲覧し、必要な部分を印刷して講義に持参して下さい。

#### JABEE合格

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(A:○), (B:◎)に対応する

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 金崎(化 511, 656-9444, kanazaki@chem.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 年度毎に学科の掲示を参照すること
<b>備考</b>	1. 上記授業計画は変更される場合があります。教科書の改訂版が出版された場合には新しい版を教科書とします。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131200
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	化学工学基礎[Chemical Engineering Principles]		
<b>担当教員</b>	外輪 健一郎, 堀河 俊英 [Kenichiro Sotowa, Toshihide Horikawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 化学工学の学問領域は従来の化学プロセス設計や化学工業の製品生産のみならず環境やバイオテクノロジーの分野にも拡大している。本講義では、広範な化学工学を理解するために必要な化学工学の基礎学力と実際的な問題を解く応用力を養う。	
<b>授業の概要</b> 化学工学とは何か、方法論としての化学工学の役割・領域等を概説し、化学工学の基礎として、物質やエネルギーの出入、流動、伝熱、蒸発などの事項について講述する。	
<b>キーワード</b> 物質収支、エネルギー収支、流動、伝熱、蒸発	
<b>到達目標</b> 1. 化学量論を含む物質収支及び熱収支を理解する。 2. 流動に関して基礎法則を理解し、問題解決に応用できる。 3. 伝熱、蒸発に関して基礎法則を理解し、問題解決に応用できる。	
<b>授業の計画</b>	6. 流れの基礎 12. 放射伝熱
1. 化学工学概説	7. 管内流れ 13. 熱交換器
2. 単位と次元	8. 演習・レポート 14. 蒸発操作
3. 物質収支	9. 中間試験 15. 演習・レポート
4. エネルギー収支	10. 伝熱の基礎 16. 定期試験
5. 流れの物質・エネルギー収支	11. 対流伝熱
<b>教科書</b> ベーシック化学工学／橋本健治：化学同人，2006. 9, ISBN:978-4-7598-1067 「ベーシック化学工学」橋本健治著，化学同人	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 は、第 1 回～第 4 回の講義が、到達目標 2 は第 5 回～第 8 回の講義が、到達目標 3 は第 10 回～第 15 回が関連する。到達目標の 3 項目がそれぞれ達成されているかを試験(中間試験を含む)80%、平常点(演習レポートと講義への取り組み状況)20%で総合評価し、60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE 合格</b> 到達目標の 3 項目がそれぞれ達成されているかを試験 100%で評価し、3 項目ともに 60%以上を合格とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(D:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 外輪(化 312, 656-4440, sotowa@chem.tokushima-u.ac.jp) 堀河(化 311, 656-7426, horikawa@chem.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 外輪 健一郎:月曜 17:00-18:00, 火曜 17:00-18:00 これ以外も空き時間内は対応可能
<b>備考</b>	1. 分離工学および微粒子工学を受講する者は本講義を履修しておくこと。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131400
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	材料科学[Material Science]		
<b>担当教員</b>	村井 啓一郎 [Keichiroh Mura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 本講義は金属・セラミックスの性質を理解する上で重要な、結晶構造の概念およびその構造解析方法の基礎を理解させる。			
<b>授業の概要</b> 本講義では材料の知識を現在の工業に結びつけることを主眼とし、数学的な取り扱いにはできるだけ排する。また、結晶の対称性や結晶構造を取り扱う以上、講義では図や模型を多用し、その空間的なイメージを養うことに重点を置く。			
<b>キーワード</b> 結晶構造、対称操作、X 線回折			
<b>到達目標</b> 1. 簡単な結晶構造および対称性を理解する。 2. X 線回折法の原理と応用を理解する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 結晶の単位格子	5. イオン半径比と構造の予測	9. X 線回折の基礎(X 線の基本的な性質)	
2. 結晶の対称要素	6. 格子エネルギーとマーデルング定数		
3. 球の最密充填でつくられる構造	7. ボルン・ハーバーサイクル		
4. 主要な結晶構造	8. 中間試験		

10. X 線回折の基礎(結晶面及び方位の記述)	14. X 線吸収分光
11. X 線回折の基礎(原子による散乱)	15. その他の特性解析
12. X 線回折の基礎(結晶による回折)	16. 期末試験
13. X 線回折と中性子回折	
<b>教科書</b> ウェスト 固体化学入門 A. R. West 著 遠藤忠ほか訳 講談社	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 は、第 1 回～第 7 回の講義が、到達目標 2 は第 9 回～第 15 回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的に中間試験及び期末試験により評価する。成績は 中間試験(40%)と期末試験(40%)及び授業への取り組み状況(20%)により評価し、60 点以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE 合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(D:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 村井 啓一郎
<b>備考</b>	1. .

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5131260
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	有機化学3[Organic Chemistry 3]		
<b>担当教員</b>	河村 保彦, 今田 泰嗣 [Yasuhiko Kawamura, IMADA, Yasushi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 有機化学序論, 有機化学 1, 有機化学 2 で学習した範囲に加えて、カルボニル化合物, カルボン酸ならびにアミンの化学を学び、それらの知識を応用できることを目指す。			
<b>授業の概要</b> カルボニル化合物, カルボン酸およびその誘導体の求核付加反応, 求核アシル化反応とカルボニル $\alpha$ 置換反応およびカルボニル縮合反応について、化学反応における電子の動きや合成化学への応用の観点から講義する。			
<b>キーワード</b> カルボニル化合物, カルボン酸, カルボン酸誘導体, アミン, 求核付加反応, 縮合反応			
<b>先行/科目</b> 『有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]』(1.0), 『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0)			
<b>到達目標</b> 1. 電子の動きの理解を深め、カルボニル化合物の合成・反応を理解する。 2. カルボン酸誘導体の合成・反応を理解する。 3. アミンの合成・反応を理解する。			
<b>授業の計画</b>			
1. カルボニル化合物の概要	9. カルボニルの $\alpha$ 置換反応と縮合反応(1)	10. カルボニルの $\alpha$ 置換反応と縮合反応(2)	
2. アルデヒドとケトン: 求核付加反応(1)	11. カルボニルの $\alpha$ 置換反応と縮合反応(3)	12. カルボニルの $\alpha$ 置換反応と縮合反応(4)	
3. アルデヒドとケトン: 求核付加反応(2)	13. アミン(1)	14. アミン(2)	
4. アルデヒドとケトン: 求核付加反応(3)	15. アミン(3)	16. 期末試験	
5. カルボン酸とその誘導体(1)			
6. カルボン酸とその誘導体(2)			
7. カルボン酸とその誘導体(3)			
8. 中間試験			
<b>教科書</b> マクマリー 有機化学概説 第6版/J. McMurry, E. Simanek 著, 伊東, 児玉 訳:東京化学同人, 2007, ISBN:9784807906628			
<b>参考書</b> ボルハルト・ショア現代有機化学(第6版)(上)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814729 ボルハルト・ショア現代有機化学(第6版)(下)/K. P. C. Volhard, E. S. Schore 著 古賀, 野依, 村橋 監訳, 大, 小田嶋, 小松, 戸部 訳:化学同人, 2011, ISBN:9784759814736 マクマリー 有機化学概説 問題の解き方 第6版/英語版/S. McMurry 著:Thomson Brooks/Cole, 2007, ISBN:9784807906642			

<b>成績評価の方法</b>	到達目標の達成度は基本的に定期試験により評価する。中間試験(35%)および期末試験(45%)に加えて小テストや課題などの講義への取り組みを総合的に評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科学習・教育目標(D:◎)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 河村 保彦(化 410, 088-656-7401, kawamura@chem.tokushima-u.ac.jp) 今田 泰嗣(化 612, 088-656-7407, imada@chem.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5131240
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	高分子化学1[Polymer Chemistry 1]		
<b>担当教員</b>	右手 浩一, 平野 朋広 [Kohichi Ute, HIRANO, Tomohiro]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	高分子科学の基本概念を理解し、高分子の構造、性質および合成法についての基礎知識を習得する。		
<b>授業の概要</b>	身のまわりにあるいろいろな高分子材料のサンプルに手を触れながら、それぞれの化学構造と性質、合成の方法について述べる。これらの高分子材料が合成された経緯、高分子科学の発展の歴史について説明する。また、重縮合およびラジカル付加重合による高分子合成について、有機反応機構、反応速度論ならびに先端材料物性の立場から平易に解説する。		
<b>キーワード</b>	平均分子量、重縮合、ラジカル重合、ポリアミド、ポリエステル、ポリエチレン、ビニルモノマー		
<b>先行/科目</b>	『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(0.8)、『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(0.8)		
<b>関連/科目</b>	『高分子化学2[Polymer Chemistry 2]』(0.5)、『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(0.5)、『有機化学4[Organic Chemistry 4]』(0.5)、『有機化学5[Organic Chemistry 5]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 高分子の概念、身のまわりの高分子材料について理解を深める。 2. 高分子の合成法や性質に関する基礎知識を身につける。 3. 重縮合およびラジカル付加重合の反応機構と生成ポリマーの化学構造を理解する。		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>高分子科学入門(授業の概要、身のまわりの高分子と先端高分子材料)</li> <li>高分子化学序論1(高分子科学の歴史と発展、分子量の測定法)</li> <li>高分子化学序論2(合成高分子と生体高分子、結合様式による分類)</li> <li>高分子化学序論3(重合反応の分類、代表的な重合反応の特徴)</li> <li>高分子化学序論4(高分子の集合状態と性質、高分子の多様性)</li> <li>重縮合と重付加1(ポリアミドの合成、芳香族ポリアミド、ポリアミド)</li> <li>重縮合と重付加2(ポリエステルの合成、生分解性ポリエステル)</li> <li>重縮合と重付加3(重縮合での平均分子量と分子量分布)</li> <li>不飽和化合物の付加重合1(ラジカル重合の過程、3つの素反応)</li> <li>不飽和化合物の付加重合2(開始反応、アゾ化合物と過酸化開始剤)</li> <li>不飽和化合物の付加重合3(成長および停止反応)</li> <li>不飽和化合物の付加重合4(ラジカル重合の動力学)</li> <li>不飽和化合物の付加重合5(連鎖移動、ポリマーへの連鎖移動と枝分れ)</li> <li>不飽和化合物の付加重合6(禁止剤および抑制剤、ビニル重合における平衡)</li> <li>これまでの講義のまとめ</li> <li>期末試験</li> </ol>		
<b>教科書</b>	高分子化学 第5版/村橋俊介, 小高忠男, 蒲池幹治, 則末尚志: 共立出版, 2007. 9, ISBN:978-4-320-04380-		
<b>参考書</b>	高分子化学/井上賢三: 朝倉書店, 1994. 5, ISBN:978-4-254-14047- 新高分子化学序論/東村敏延: 化学同人, 1995. 3, ISBN:9784759802580 基礎高分子科学/高分子学会: 東京化学同人, 2006. 7, ISBN:9784807906352 基礎高分子科学. 演習編/高分子学会 編: 東京化学同人, 2011. 7, ISBN:9784807907540		

<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	教科書に沿って授業を行うので、毎回必ず持参すること。3年次前期「高分子化学2」および、博士前期課程「高分子化学特論」でも同じ教科書を使用する。
<b>成績評価の方法</b>	第1章の授業内容について中間試験相当のレポートを課す。第2章および第3章の授業内容については期末試験を実施する。到達目標の達成度は、授業への取り組み姿勢を40%、定期試験を60%として評価を行う。授業への出席状況を重視する。
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科学習・教育目標(D:◎)に対応する
<b>WEB ページ</b>	http://poly.chem.tokushima-u.ac.jp
<b>連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 右手 浩一(化 406, 088-656-7402, ute@chem.tokushima-u.ac.jp) 平野 朋広(化 405, 088-656-7403, hirano@chem.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. (担当) 右手 2-A, 平野 2-B

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5131210
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	反応工学基礎[Introduction to Chemical Reaction Engineering]		
<b>担当教員</b>	杉山 茂 [Shigeru Sugiyama]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学反応速度論、反応器の型式、流通式反応器内における流体の流れ等について理解させ、工業用反応器の設計に必要な基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	工業用反応器設計のための反応速度論(定容系および定圧系)を解説し、回分式、連続槽型および管型反応器の設計法の基礎について講述する。		
<b>キーワード</b>	反応速度論、回分式反応器、連続槽型反応器、図解法、管型反応器		
<b>到達目標</b>	1. 定容系の反応速度論を修得する。 2. 定圧系の反応速度論を修得する。 3. 回分式、連続槽型反応器の設計法の基礎を修得する。		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>反応工学とは? 化学反応の種類</li> <li>工業用反応装置 SI 単位系 反応速度</li> <li>反応速度の温度依存性</li> <li>定容系回分反応(1): 0, 1, 2 次反応</li> <li>定容系回分反応(2): 2, 3, n 次反応</li> <li>定容系回分反応(3): 逐次反応, 並発反応, 可逆反応</li> <li>化学反応の速度と平衡</li> <li>定容系の速度解析</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>定容系速度論までの演習と解説</li> <li>定圧系の速度解析: 0, 1, 2 次反応</li> <li>定常状態近似 律速段階近似</li> <li>反応器設計: 回分式反応器</li> <li>反応器設計: 連続槽型反応器(1): 滞留時間と設計基礎式</li> <li>反応器設計: 連続槽型反応器(2): 図解法 過渡挙動</li> <li>反応器設計: 管型反応器</li> <li>期末試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	講義で使う資料は全て前もってU-ラーニングシステムに公開する。		
<b>参考書</b>	橋本健治著「反応工学」培風館 森田徳義著「反応工学要論」積書店 久保田宏・関沢恒夫共著「反応工学概論(第2版)」日刊工業新聞社		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標1は第1回～第9回, 到達目標2は第10回, 到達目標3は第11回～第15回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的には第16回目の期末試験により評価する。小テストを含む授業への取り組み(平常点:40点)、期末試験(試験点:60点)を合計し、100点満点中60点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義の開始時に復習を行なうとともに、当日の講義の要旨を述べる。そのため、予習復習の状況を重視する。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科学習・教育目標(D:◎)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			



<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 杉山(化 309, 088-656-7432) (メールアドレス) sugiyama@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜、火曜、16時～18時。また随時対応します。
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5131230
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	分離工学[Separation Science and Technology]		
<b>担当教員</b>	外輪 健一郎, 加藤 雅裕 [Kenichiro Sotowa, Masahiro Katoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 化学工業をはじめ殆ど全ての生産工程に含まれる単位操作の内の拡散分離操作に重点を置き講義し、演習を通じてこれを習得させ、基礎学力と実際のな問題を解く応用力を養う。

**授業の概要** 代表的な拡散分離操作について、分離理論、分離装置・操作、解析法について講述する。

**キーワード** 拡散分離、物質移動

**到達目標** 1. 物質移動現象論の基礎を理解し、応用ができる。  
2. 授業計画にある各種分離操作の基本原則を理解し、応用できる。

<b>授業の計画</b>	6. 蒸留(演習)	11. ガス吸収(演習)
1. 序論	7. 中間テスト	12. 吸着(吸着平衡)
2. 分離の原理と方法	8. ガス吸収(ガスの溶解度、分子拡散と物質移動)	13. 吸着(吸着速度)
3. 蒸留(気液平衡関係・単蒸留)	9. ガス吸収(界面を通しての物質移動)	14. 吸着(吸着分離操作)
4. 蒸留(精留)	10. ガス吸収(吸収塔の設計)	15. 吸着(演習)
5. 蒸留(特殊蒸留)		16. 期末テスト

**教科書** 分離工学/加藤滋雄:オーム社, 1992. 3, ISBN:4-274-12893-8  
ベーシック化学工学/橋本健治:化学同人, 2006. 9, ISBN:978-4-7598-1067

**参考書**

**成績評価の方法** 到達目標1は第1回～第2回の講義が、到達目標2は第3回～第6回および第8回～第15回が関連する。到達目標の2項目がそれぞれ達成されているかを試験(中間試験を含む)80%,平常点(演習レポートと講義への取り組み状況)20%で総合評価し、60%以上を合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格** 到達目標の2項目が各々達成されているかを試験し、2項目とも60%以上を合格とする。

**学習教育目標との関連** 本学科学習・教育目標(D:◎)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 外輪健一郎(化学生物棟 312号室, Tel: 088-656-4440) 加藤雅裕(化学生物棟 307号室, Tel: 088-656-7429) (メールアドレス) 外輪 健一郎:sotowa@chem.tokushima-u.ac.jp 加藤 雅裕:katoh@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 外輪 健一郎:月曜 17:00-18:00, 火曜 17:00-18:00 これ以外も空き時間内は対応可能 加藤 雅裕:木曜日 16:30～17:30
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131220
<b>科目分野</b>	化学基礎		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	化学反応工学[Chemical Reaction Engineering]		
<b>担当教員</b>	杉山 茂 [Shigeru Sugiyama]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 工業用反応器の設計に必要なとされる反応工学の基礎理論を理解させる。

**授業の概要** 化学プロセスの構成要素、化学プロセスの事例と工業触媒、固体触媒、固定床の化学工学、分散系の反応工学等について講述する。

**キーワード** 物質・エネルギー収支、触媒有効係数、移動現象論、混合特性、吸着理論

**到達目標**

1. 化学プロセスの構成要素、化学プロセスの事例およびプロセスフローシートを理解する
2. 固体触媒の反応過程と触媒有効係数を理解する
3. 固定床の化学工学を理解する
4. 分散系の反応工学を理解する

<b>授業の計画</b>	9. Thiele modulus, 触媒の性能
1. 化学反応工学とは	10. 輸送現象の相似則, 流動問題
2. 化学反応, 反応器と反応操作の分類	11. 管路の流体力学, 充填層圧力損失と触媒有効係数
3. プロセスフローシートの読解	12. 伝熱問題, 輻射, 伝導伝熱
4. 工業触媒を用いた化学プロセスの事例	13. 拡散問題, 充填層の有効拡散定数
5. 吸着理論	14. 分散系の分類, 液分散の最小攪拌速度, 液径分布
6. 多孔質とその空孔組織	15. 液々分散系の速度解析, トレーサー収支
7. 接触反応の解析, 粒内拡散, 触媒有効係数	16. 期末テスト
8. 中間までの演習と解説	

**教科書** 講義に使う資料は全て前もってU-ラーニングシステムに公開する

**参考書** 橋本健治著「反応工学」培風館

**成績評価の方法** 到達目標1は第1回～第4回および第8回の講義が、到達目標2は第5回～第8回の講義が、到達目標3は9回目～13回目の講義が、また到達目標4は第14回～第15回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的に第16回目の期末テストにより評価する。小テストを含む授業への取り組み状況(平常点:40点)、中間および期末試験(試験点:60点)を合計し、100点満点で60点以上を合格とする。

**再試験の有無** 再試験は行わない。

**受講者へのメッセージ** 講義の開始時に復習を行なうとともに、当日の講義の要旨を述べる。そのため、予習復習の状況を重視する。発表を促しながら授業をすすめるので、積極的な参加を希望する。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 杉山 茂(化 309, 088-656-7432) (メールアドレス) sugiyama@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜、火曜、16時～18時、また随時対応します。
<b>備考</b>	1. 進行に応じて小テストを実施する。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131270
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	有機化学4[Organic Chemistry 4]		
<b>担当教員</b>	西内 優騎, 平野 朋広, 押村 美幸, 荒川 幸弘 [Masaki Nishiuchi, HIRANO, Tomohiro, Miyuki Oshimura, Yukihiko ARAKAWA]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 有機化合物の分析法について解説し、構造決定について理解させる。

**授業の概要** 質量分析法、核磁気共鳴法などの分析法について講述する。

**キーワード** 質量分析法, 分光法,

**関連科目** 『有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]』(0.5), 『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(0.5), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(0.5), 『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(0.5)

**到達目標**

1. 有機化合物の分析法について分析機器の理解を深める。
2. 有機化合物の分析法について解析方法の理解を深める。

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 構造解析演習(2)	<b>12.</b> 構造解析演習(8)
<b>1.</b> 質量分析法	<b>7.</b> 構造解析演習(3)	<b>13.</b> 構造解析演習(9)
<b>2.</b> 赤外分光法	<b>8.</b> 構造解析演習(4)	<b>14.</b> 構造解析演習(10)
<b>3.</b> 核磁気共鳴法1	<b>9.</b> 構造解析演習(5)	<b>15.</b> 構造解析演習(11)
<b>4.</b> 核磁気共鳴法2	<b>10.</b> 構造解析演習(6)	<b>16.</b> 定期試験
<b>5.</b> 構造解析演習(1)	<b>11.</b> 構造解析演習(7)	
<b>教科書</b>	有機化学のためのスペクトル解析法：UV,IR,NMR,MSの解説と演習／M.Hesse, H.Meier, B.Zeeh 著,野村正勝 監訳,馬場章夫,三浦雅博 ほか訳.:化学同人,2010,ISBN:978-4759811933	
<b>参考書</b>	有機化合物のスペクトルによる同定法：MS,IR,NMRの併用／Silverstein, Webster, Kiemle 著,荒木峻,益子洋一郎,山本修,鎌田利紘 訳.:東京化学同人,2006,ISBN:4-8079-0633 機器分析のてびき:化学同人,1996,ISBN:4-7598-0292-4 有機化学概説／マクマリー, Eric Simanek [著],伊東[ショウ], 児玉三明 訳.:東京化学同人,2007,ISBN:978-4-8079-0662 ボルハルト・ショア一現代有機化学／K. P. C. Vollhardt [著],N. E. Schore [著],古賀憲司 監訳,野依良治 監訳,村橋俊一 監訳,大藪幸一郎 訳,小田嶋和徳 訳,小松満男 訳,戸部義人 訳.:化学同人,2011,ISBN:4759814728 現代有機化学：問題の解き方(英語版)／ボルハルト 著,ショア一 著.:W. H. Freeman and Company,2001,ISBN:4759808426	
<b>成績評価の方法</b>	到達目標1は,第1回～第4回の講義が,到達目標2は第5回～第15回の講義が関連する。到達目標の達成度は,授業への取り組み姿勢およびレポートを40%,定期試験を60%として評価を行い,合計60点以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には,2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが,授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科学習・教育目標 (A:○),(B:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 平野 朋広(化405,088-656-7403, hirano@chem.tokushima-u.ac.jp) 西内 優騎(化409,088-656-7400, nishiuch@chem.tokushima-u.ac.jp) 押村 美幸(化408,088-656-7404, oshimura@chem.tokushima-u.ac.jp) 荒川 幸弘	
<b>備考</b>	1.	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131250
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	高分子化学2[Polymer Chemistry 2]		
<b>担当教員</b>	右手 浩一 [Kohichi Ute]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	プラスチックやゴム,繊維として衣料や家庭用品に使用される汎用高分子をはじめ,電子機器,自動車,航空機,医療分野などの先端用途に使用される機能性高分子の研究開発は,化学系素材産業の根幹であり,わが国の技術が優れた競争力を有する分野である。この講義では,高分子合成化学における最近の進歩や学術的動向に言及しながら,その理解に不可欠な付加重合と開環重合ならびに高分子反応の基礎概念を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	ラジカル開始剤,アニオン開始剤,カチオン開始剤および遷移金属錯体触媒による付加重合と開環重合の基礎を平易に解説する(テキスト第3章および第4章)。また,高分子の特異性に基づいた機能性の発現とそのメカニズム,先端的なマテリアルサイエンスへの応用例について,各回の講義の中でふれる。加えて,高分子反応の主要な項目のいくつかを解説する(テキスト第5章の一部)。		
<b>キーワード</b>	ラジカル共重合,イオン共重合,遷移金属錯体触媒,リビング重合,開環重合,高分子反応		
<b>先行/科目</b>	『高分子化学1[Polymer Chemistry 1]』(1.0),『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(0.8),『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(0.8),『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(0.8)		
<b>関連/科目</b>	『有機化学4[Organic Chemistry 4]』(0.5),『有機化学5[Organic Chemistry 5]』(0.5),『物質合成化学実験[Experiments of Organic and Polymer Chemistry]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 汎用高分子と機能性高分子の特性を学び,その背景にある化学と技術について理解を深める。 2. モノマーの構造と反応性との関係を知り,重合反応のメカニズムを理解する。 3. 重合活性種(ラジカル,イオン,有機金属結合)の特徴と性質を理解する。		

<b>授業の計画</b>	<b>1.</b> 序論(授業の概要,高分子の化学・技術のトレンド,ビニルモノマーと環状モノマー)
<b>2.</b> ラジカル共重合1(ラジカル重合の復習,共重合組成式)	
<b>3.</b> ラジカル共重合2(モノマー反応性比,Alfrey-PriceのQ-e理論)	
<b>4.</b> イオン重合1(ビニルモノマーの構造と反応性,イオン重合の特徴)	
<b>5.</b> イオン重合2(アニオン重合の開始剤と開始反応)	
<b>6.</b> イオン重合3(アニオンリビング重合とその応用)	
<b>7.</b> イオン重合4(極性モノマーのアニオン重合,アニオン共重合)	
<b>8.</b> イオン重合5(カチオン重合)	
<b>9.</b> 中間試験	
<b>10.</b> 配位重合1(チーグラマー・ナック触媒によるエチレンの重合)	
<b>11.</b> 配位重合2(プロピレンの立体特異性重合)	
<b>12.</b> 配位重合3(メタロセン触媒の発見,開環メタセシス重合)	
<b>13.</b> 開環重合1(環状エーテルの重合)	
<b>14.</b> 開環重合2(ラクトンとラクタムの重合)	
<b>15.</b> 高分子反応(ブロック・グラフトポリマー,側鎖での高分子反応)	
<b>16.</b> 期末試験	
<b>教科書</b>	高分子化学 第5版/村橋俊介他:共立出版,2007,ISBN:9784320043800
<b>参考書</b>	新高分子化学序論/伊勢典夫他:化学同人,1995,ISBN:4759802584 基礎高分子科学/高分子学会編:東京化学同人,2006,ISBN:9784807906352
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	授業には教科書を毎回持参すること。
<b>成績評価の方法</b>	授業への取り組み姿勢およびレポートを40%,期末試験を60%として評価を行う。
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	「高分子化学1」の履修を前提に講義を行うが,本科目を先に履修しても理解できるよう配慮する。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A:○),(B:◎)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	http://poly.chem.tokushima-u.ac.jp/
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 右手 浩一(化学生物棟406号室,088-656-7402) (メールアドレス) ute@chem.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	授業を受ける際には,2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが,授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131290
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	有機・無機工業化学[Industrial Organic & Inorganic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	森賀 俊広,南川 慶二 [Toshihiro Moriga, Keiji Minagawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	有機および無機化学工業の基礎となる化学技術を講述し,各種工業製品や材料の製造法についての基礎と応用を理解させる。		
<b>授業の概要</b>	有機化学工業を有機化学及び高分子化学などの基礎化学技術の観点から講義し,身の回りで実際に役立つ有機材料の基礎と応用について詳述する。無機化学工業の基礎部門として欠くことのできない,無機酸,ソーダ,製塩,肥料を中心に基礎理論を通じての定量的な理解を骨子として講述する。		
<b>キーワード</b>	石油化学,有機材料,無機酸,アンモニア		
<b>先行/科目</b>	『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(0.8),『無機化学[Inorganic Chemistry]』(0.8),『高分子化学1[Polymer Chemistry 1]』(0.8)		
<b>到達目標</b>	1. 有機・無機工業製品の製造に関連する科学技術について理解を深める。 2. 種々の有機材料の合成法や物性,機能を理解する。 3. 無機酸・ソーダおよび派生物・肥料などの製造原理を習得する。		

<b>授業の計画</b>	
1.	総論(化学工業の特徴, 原料およびエネルギー資源, 化学工業と環境)
2.	石油精製
3.	石油化学
4.	高性能高分子材料
5.	機能性高分子材料
6.	生命医療材料
7.	環境材料
8.	リサイクルと環境
9.	硫酸(原料, 製造法, 環境汚染)
10.	硝酸(アンモニア酸化による硝酸製造, 製造法, 装置材料)
11.	塩酸(合成原理, 製造法, 装置材料), リン酸(湿式・乾式製造法, 縮合リン酸)
12.	ソーダ(電解ソーダ法, アンモニアソーダ法, 塩安ソーダ法, 製品の用途)
13.	塩(製塩法, にがり工業, 海水の淡水化法)
14.	アンモニア(用途, 製造工程, 合成理論, 製造条件, 触媒, 装置材料)
15.	肥料(窒素肥料, リン酸肥料, カリ肥料, 複合肥料)
16.	定期試験
<b>教科書</b> 新しい工業化学 環境との調和をめざして/足立吟也・岩倉千秋・馬場章夫:化学同人, ISBN:9784759809558	
<b>参考書</b> 園田昇・亀岡弘編「有機工業化学」(化学同人) 小川俊夫著, 「高分子材料化学」(共立出版) 塩川 二郎編「無機工業化学」化学同人 その他, 講義中に指示する。	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 は, 第 1 回～第 15 回の講義が, 到達目標 2 は第 2 回～第 8 回の講義が, 到達目標 3 は第 9 回～第 15 回の講義が関連する。到達目標が達成されているかを試験 60%, 平常点(授業への取り組み状況, レポート, 小テスト)40%で評価し, 60% 以上あれば合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 多種多様な技術の進歩を取り入れるため, 授業計画の細部は変更の可能性ある。その場合, 掲示または初回講義などで説明する。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森賀 俊広(機械棟 603, Tel: 088-656-7423) 南川 慶二 化 616 Tel: 088-656-9153 (メールアドレス) 森賀 俊広:moriga@chem.tokushima-u.ac.jp 南川 慶二:minagawa@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 森賀 俊広:金曜 16:30-18:00 南川 慶二:月曜 17:00-18:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5131280
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	有機化学5[Organic Chemistry 5]		
<b>担当教員</b>	南川 慶二 [Keiji Minagawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生命の構成要素である生体分子・生体高分子の構造と機能に注目し, 生命の仕組みを理解する。高分子の合成および反応解析の手法を理解する。		
<b>授業の概要</b>	生命はさまざまな有機分子の集合体であり, それらが複雑に相互作用しながら維持・調節されている。一方, 合成高分子は有機分子が重合して形成される巨大分子であり, その物性は集合体としての構造に大きく依存する。本科目では, 生命現象を担う有機分子の構造と機能と有機・高分子化学の立場から理解すること, 高分子の合成や反応解析の手法を理解することを目的とする。生体分子の構造や機能および代謝反応に関する講義に続き, 高分子合成・反応解析などについて演習を行う。講義と演習を通して生体高分子・合成高分子を含む有機分子とその集合体に関する総合的な理解を深める。		

<b>キーワード</b>	糖・脂質, アミノ酸とタンパク質の構造, 核酸の構造と遺伝情報, 代謝, 高分子合成, 高分子構造, 重合反応速度論		
<b>到達目標</b>	1. 生体分子の構造と機能について理解する 2. 遺伝情報の伝達および代謝の概要を理解する 3. 高分子合成および反応解析の手法を理解する		
<b>授業の計画</b>	6. 核酸の構造	12. 高分子演習(ラジカル重合)	
1. 生体分子序論	7. DNA の複製・転写・翻訳	13. 高分子演習(共重合)	
2. 糖の構造と立体化学	8. 遺伝情報伝達と遺伝子工学	14. 高分子演習(イオン重合)	
3. アミノ酸	9. 代謝経路の有機化学 1	15. 高分子演習(配位重合)	
4. ペプチドとタンパク質・酵素	10. 代謝経路の有機化学 2	16. 最終試験	
5. 脂質	11. 高分子演習(重縮合)		
<b>教科書</b>	有機化学概説/マクマリー:東京化学同人, 2007, ISBN:9784807906628 高分子化学 第5版/村橋俊介他:共立出版, 2007, ISBN:9784320043800		
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	必要に応じて生化学や高分子演習等の参考書を使用する。		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1 は, 第 1 回～第 6 回の講義が, 到達目標 2 は第 7 回～第 10 回の講義が, 到達目標 3 は第 11 回～第 15 回の講義が関連する。到達目標の達成度は, 宿題や演習などの平常点(40%)と定期試験の成績(60%)によって評価し, 合計 60%以上の得点で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をした上で授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 化学生物棟 6 階 616 号室 TEL 088-656-9153 (メールアドレス) minagawa@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 17:00-18:00		
<b>備考</b>	1. 特になし		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5131300
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	物質合成化学演習[Exercises in Synthetic Organic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	西内 優騎, 荒川 幸弘 [Masaki Nishiuchi, Yukihiko ARAKAWA]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	有機化学の基礎から応用まで体系的な理解。		
<b>授業の概要</b>	有機化学問題の演習および体系的な復習を行う。授業形態は, 題材となる演習問題の解答・解説の他に, その問題に関連する周辺項目についても双方方向のディスカッション形式で進める。		
<b>キーワード</b>	有機化学, 資格試験		
<b>先行/科目</b>	『有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]』(0.5), 『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(0.5), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(0.5), 『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(0.5), 『有機化学4[Organic Chemistry 4]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『有機化学序論[Introduction to Organic Chemistry]』(0.5), 『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(0.5), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(0.5), 『有機化学3[Organic Chemistry 3]』(0.5), 『有機化学4[Organic Chemistry 4]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	社会ニーズに対する各受講生の有機化学理解達成度の自己認識と社会ニーズを満たす理解度の達成		
<b>授業の計画</b>	6. 低難易度問題の演習(5)	12. 高難易度問題の演習(1)	
1. 資格について	7. 中難易度問題の演習(1)	13. 高難易度問題の演習(2)	
2. 低難易度問題の演習(1)	8. 中難易度問題の演習(2)	14. 高難易度問題の演習(3)	
3. 低難易度問題の演習(2)	9. 中間試験	15. 高難易度問題の演習(4)	
4. 低難易度問題の演習(3)	10. 中難易度問題の演習(3)	16. 定期試験	
5. 低難易度問題の演習(4)	11. 中難易度問題の演習(4)		



<b>教科書</b> マクマリー有機化学(第7版)	
<b>参考書</b> 有機化学概説/マクマリー, Eric Simanek [著],伊東[ショウ], 児玉三明 訳, :東京化学同人, 2007, ISBN:978-4-8079-0662 有機化学演習/吉原正邦 ほか著, :三共出版, 1993, ISBN:4-7827-0297-3 演習で学ぶ有機反応機構 : 大学院入試から最先端まで/有機合成化学協会 編, :化学同人, 2005, ISBN:978-4759810455 有機人名反応/小倉克之 著, :朝倉書店, 1997, ISBN:4-254-14591-8 有機化学演習 : 大学院入試問題を中心に/務台潔 著, :東京化学同人, 1995, ISBN:4-8079-0427-2	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 演習テキストは u-learning システムで配布します。	
<b>成績評価の方法</b> 中間テスト 35%, 期末テスト 35%, レポート 30%	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をした上で授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(B:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 西内 優騎(化学生物棟 409 号室,088-656-7400,nishiuch@chem.tokushima-u.ac.jp 荒川 幸弘
<b>備考</b>	1. 本授業は, 有機化学演習問題を難易度により分類し, 難易度の低い問題から順次, 演習・解説・周辺事項の体系的復習を行い進めていきます。有機化学は暗記の科目と思われがちですが, 幾つかの少ない基本原理を積み重ねることで理解できます。本授業では, 過去問の傾向を知るのではなく, 初めての問題にも対処できる「考える力」を持った学生の育成を目的として行います。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131310
<b>科目分野</b>	物質合成化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	化学応用工学特別講義1[Special Lecture on Chemical Science and Technology 1]		
<b>担当教員</b>	今田 泰嗣, 工学部非常勤講師 [IMADA, Yasushi]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	様々な分野の専門家の講義により, 基礎から最先端までの特徴ある内容を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	物質合成化学に関連する分野について学外より専門家を招聘し, 最新の発展しつつある領域の講義を受講させる。		
<b>キーワード</b>	不斉合成, 有機金属触媒, 光化学反応, 機能性高分子, 精密重合		
<b>到達目標</b>	各分野の専門家による講義を通して, その分野を深く理解する。		
<b>授業の計画</b>	1. (実施例)機能性高分子材料の分子設計(大阪大工)竹本喜一教授 2. (実施例)機能性有機材料の構造と機能発現機構(大阪大工)城田靖彦教授 3. (実施例)芳香族化合物の化学(関西学院大理)鈴木仁美教授		
<b>教科書</b>	講義資料を配布する。		
<b>参考書</b>	適宜紹介する。		
<b>成績評価の方法</b>	講義への取り組みおよび講義内容に関するレポートや小テストなどを総合して評価を行う。その割合を3:7とする		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, その講義時間に相当する時間数の予習と復習をした上で授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(E:◎)に対応する		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 化学応用工学科		
<b>備考</b>	1. 集中講義で行う。講義の予定は掲示等で通知する。		

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5131380
<b>科目分野</b>	物質機能化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	物質機能化学演習[Exercises in Physicochemistry]		
<b>担当教員</b>	倉科 昌, 吉田 健 [Masashi Kurashina, Ken Yoshida]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	1. 基礎物理学で学習した内容で, 理解が不十分なところについて演習を通して復習する。 2. 基礎物理学で学習した内容の理解を, 演習を通して更に深める。 3. 演習の解答を作成し, その説明を他の学生に対して行うことでコミュニケーション能力を含めた汎用的技能を向上させる。		
<b>授業の概要</b>	基礎物理学で学習した内容を元にした演習問題を授業時間内に毎回解き, その解説を行う。解説を詳細に進める際には各履修者が積極的に発言し, 解答を説明することが求められる。他の学生に対して説明することにより, コミュニケーション能力の向上を目指す。授業中に実施する演習問題は採点して翌週に返却される。答案の傾向の講評を解説すること及び疑問点を教員と対話することにより双方向的な学習を行う。科学者・技術者に必須の素養である計算問題の演習ならびに熱力学の論理体系の理解を問う論述問題の演習から, 数学と文章により論理的な説明ができるという科学的なコミュニケーション能力を含めた汎用的技能の習得を目指す。		
<b>キーワード</b>	熱力学, 熱化学, 相律		
<b>先行/科目</b>	『物理化学序論[Introduction to Physical Chemistry]』(1.0) 『基礎物理学[Basic Physical Chemistry]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(0.5) 『物理化学[Physical Chemistry]』(0.5) 『溶液化学[Solution Chemistry]』(0.5) 『物質機能化学実験[Experiments of Analytical, Inorganic and Physical Chemistry]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 気体の性質と熱力学の関係を理解する。 2. 熱力学の基本法則について理解する。 3. 熱力学の化学への応用について理解する。 4. 解答を論理的に他の人に説明できるというコミュニケーション能力を得る。		
<b>授業の計画</b>	1. 物質の状態 2. 熱力学的性質, 状態方程式, 臨界現象, 対応状態の原理 3. 熱力学第一法則 4. Joule-Thomson 効果, 理想気体への適用 5. 熱化学 6. 反応熱の温度変化, 結合エンタルピー 7. 中間試験 8. 熱力学第二法則	9. 熱力学温度目盛, エントロピー, Gibbs エネルギーと Helmholtz エネルギー 10. Maxwell の関係式, 熱力学的関係式 11. 化学ポテンシャル, 熱力学第三法則 12. 状態の変化 13. 相律, 相図, Clapeyron-Clausius 式 14. 総復習 15. 質疑応答 16. 定期試験	
<b>教科書</b>	アトキンス物理化学(上) 第8版/Peter Atkins, Julio de Paula:東京化学同人, 2009. 2, ISBN:978-4807906956		
<b>参考書</b>	化学便覧。基礎編 1/日本化学会:丸善, 2004. 2, ISBN:978-4621073414 化学便覧。応用化学編/日本化学会:丸善, 2003. 1, ISBN:978-4621071380		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1 は, 第 1 回~第 4 回の講義が, 到達目標 2 は, 第 3 回~第 11 回の講義が, 到達目標 3 は第 4 回~第 15 回の講義が, 到達目標 4 は第 1 回~第 6 回及び第 8 回~第 15 回の講義が関連する。到達目標が達成 されているかを, 試験 100%(演習問題:中間テスト:定期試験(期末テスト)) = 1 : 1 : 1 の比率で合計) で評価し, 合計で 60%以上あれば合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	基礎物理学の履修を前提とする。また, 微分方程式 1, 物理学の履修が望ましい。毎回の小テスト, 中間テスト, 定期試験とも全て成績評価対象になるので注意すること。		
<b>JABEE合格</b>	本学科の教育目標(D:◎)に対応する。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科の教育目標(D:◎)に対応する		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 倉科 昌(化学生物棟 516, Tel:088-656-7418) 吉田 健(機械棟 504, Tel:088-656-7669) (メールアドレス) 倉科: kurasina@chem.tokushima-u.ac.jp 吉田: yoshida@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 倉科: 水曜日 17:00~18:00 吉田: 月曜日 17:00~18:00		

備考	2クラスに分け、並立授業を行う。1年A:吉田助教,1年B:倉科助教。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。講義ノート・小テストの解答については、倉科担当は徳島大学LMSからdownloadして利用すること。
----	---

開講学期	2年・後期	時間割番号	5131340
科目分野	物質機能化学		
選必区分	選択		
科目名	溶液化学[Solution Chemistry]		
担当教員	魚崎 泰弘 [Yasuhiro Uosaki]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	溶液が関与する物理化学的現象を熱力学を用いて、学習する。		
授業の概要	溶液の性質を理解することは多くの分野で極めて重要である。溶液が関与する様々な現象を熱力学的に理解でき、説明できるように講述する。		
キーワード	部分モル量, 理想溶液, 非理想溶液, 相平衡		
先行/科目	『物理化学序論[Introduction to Physical Chemistry]』(1.0), 『基礎物理化学[Basic Physical Chemistry]』(1.0), 『物質機能化学演習[Exercises in Physicochemistry]』(1.0), 『物理化学[Physical Chemistry]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 溶液の熱力学的取扱いを理解する。</li> <li>2. 多成分の平衡を理解する。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単純な混合物(1) 部分モル量, 混合の熱力学</li> <li>2. 単純な混合物(2) 液体の化学ポテンシャル</li> <li>3. 単純な混合物(3) 混合液体, 束一的性質</li> <li>4. 単純な混合物(4) 活量(1)</li> <li>5. 単純な混合物(5) 活量(2)</li> <li>6. 相図(1) 定義, 相律</li> <li>7. 中間試験</li> <li>8. 相図(2) 蒸気圧図</li> <li>9. 相図(3) 温度-組成図</li> <li>10. 相図(4) 液体-液体の相図</li> <li>11. 相図(5) 液体-固体の相図</li> <li>12. 化学平衡(1) ギブズエネルギーの極小</li> <li>13. 化学平衡(2) 平衡状態</li> <li>14. 化学平衡(3) 平衡に対する圧力の影響</li> <li>15. 化学平衡(4) 平衡の温度による変化</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>		
教科書	アトキンス 物理化学(上)第8版/P. W. Atkins, J. de Paula:東京化学同人, 2009, ISBN:9784807906956		
参考書	化学便覧など		
成績評価の方法	中間試験 40%, 期末試験 40%, 小テスト 20%の割合で評価する。合計して60%以上の評価を得た場合、合格とする。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	再試験の有無		
JABEE合格	再試験の有無		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(D:◎)に対応する		
WEBページ	再試験の有無		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 化 510, Tel: 088-656-7417 (メールアドレス) uosaki@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00~18:00		
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5131350
科目分野	物質機能化学		
選必区分	選択		
科目名	地球環境化学[Environmental Chemistry]		
担当教員	藪谷 智規 [Tomoki Yabutani]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)

授業の目的	われわれの存在する地球で生じる諸事象を正確に把握するために、化学の知識と経験をもとに取り組む学問が環境化学である。本講義では、環境内の事象への理解を深めるための方法論を論じる。また、地球環境は時々刻々変化している。そこで、現在の「地球」を知りうるために、最新の環境化学に関するトピックスについて確認する。		
授業の概要	地球環境を精確に把握するための方法(データ採取および解析)について講義する。また、最新の環境化学に関するトピックスについて講演する。		
キーワード	環境問題, リサイクル		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球環境に対する理解を深める。(授業計画 1-15 および定期試験による)</li> <li>2. 環境を把握するためのデータの採取, 解析法について理解する。</li> <li>3. 最新の地球環境に関して把握する</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論</li> <li>2. 化学物質の概念(教科書 1-15 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>3. 化学物質の概念(化学物質の有害性, 教科書 1-15 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>4. 地球環境の成立(地球の誕生, 進化, 産業の発展, 教科書 16-25 を参照して予習しておくこと)</li> <li>5. 地球環境の成立(公害問題, 教科書 16-25 を参照して予習しておくこと)</li> <li>6. 気候変動と温暖化(概論, 教科書 35-45 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>7. 気候変動と温暖化(最新のトピックス, 教科書 35-45 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>8. 中間試験(教育目標 1-3 の評価)</li> <li>9. 大気環境科学(オゾンホール, 酸性雨, 教科書 46-64 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>10. 大気環境科学(都市大気汚染, 教科書 46-64 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>11. 水の環境(各論 教科書 68-83 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>12. 土壌と生物の環境科学(概論 教科書 86-103 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>13. 土壌と生物の環境科学(概論 教科書 86-103 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>14. 有害化学物質汚染と環境リスク(ダイオキシン 教科書 106-127 ページを参照して予習しておくこと)</li> <li>15. 環境問題に関するトピックス(適宜資料を配付するとともに教科書を参照する)</li> <li>16. 定期試験(教育目標 1-3 の総合評価)</li> </ol>		
教科書	地球の環境と化学物質/安原昭夫, 小田淳子:三共出版, 2007. 9, ISBN:978-4782705438		
参考書	適宜, プリントを配布する。		
教科書・参考書に関する補足情報	教科書をもとに予習資料(補足資料・演習問題)を配布する。また、今回の授業で行われる内容をあらかじめ熟読しておくこと。		
成績評価の方法	講義に対する理解力は、講義への参加、レポートの提出状況などの「講義の理解への取り組み」ならびに「中間試験」と「定期試験」の成績を総合的に評価することによって判定される。成績評価に対する「講義への参加状況と中間試験の成績」と「定期試験の成績」の割合は4:6とする。到達目標1と到達目標2は、第1回~第13回の講義が、が、到達目標3は第14, 15回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的に中間試験と最終試験により評価する。60点以上を合格とする。		
再試験の有無	再試験は行わない。		
受講者へのメッセージ	予習レポートの提出と授業内で行う小テストを適宜実施する。予習レポートとは次回行う講義の概要について自身で調べて来るものであり、小テストは授業内容に関連した部分を答えるものである。なお、授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	成績評価と同じ。		
学習教育目標との関連	本学科の学習・教育目標のA, B, D, Eに対応する。		
WEBページ	再試験の有無		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 藪谷 智規 (メールアドレス) yabutani@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00-18:00(それ以外の時間でも対応出来る場合があります。)		
備考	1. 環境科学関係(環境行政, 専門家)のゲストスピーカーによる講義を含むことがある。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5131360
科目分野	物質機能化学		
選必区分	選択		
科目名	量子化学[Quantum Chemistry]		
担当教員	金崎 英二 [Eiji Kanazaki]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 系を微視的に記述する方法について述べる。特に、原子や分子の電子構造を記述するための基礎的な方法について述べる。シュレディンガー波動方程式以降の量子論の基礎概念を、一電子原子、多電子原子、二原子分子及び多原子分子と物質系の大きさを順次拡張しながら、それぞれの系における取り扱いを順次段階的に述べる。基礎物理化学、物理化学の後を引き継いで、「物理化学」という巨大な学問体系の中で、最も新しく、且つ、今日活発に進歩し続ける量子化学を理解する為の基礎的な事項について述べる。時間の余裕があれば、電子と電磁波との相互作用或いは分子の対称性についても触れたい。教科書には、この分野で世界的に定評のあるアトキンスの英文原書を用いる。専門知識を英語で理解する力を函養することも本講義の目的の一つである。	
<b>授業の概要</b> 量子化学の基礎について述べる。	
<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b>	
1. 量子化学の基礎概念を理解できる 2. 簡単な系で量子化学的な記述ができる 3. 実在の系での量子化学的推論ができる	
<b>授業の計画</b>	6. 電子遷移の選択則 7. 共有結合と電子対生成 8. 多電子原子 9. 多原子分子 10. 共役二重結合とフロンティア軌道 11. 分子と量子化学 12. 固体での分子軌道 13. 化学結合 14. 定期試験
1. 英語の教科書について 2. 再度英語について。 3. 水素と水素類似原子 4. 原子軌道 5. 量子化された軌道エネルギー	11. 簡単な分子の取扱い
<b>教科書</b> Atkins' Physical Chemistry, 9th ed./P. Atkins and J.Paula:Oxford University Press, 2006, ISBN:0-19-870072-5 P. Atkins et al., Atkins Physical Chemistry, 9th ed., Oxford University Press 2010.	
<b>参考書</b> 講義の中で適宜紹介する。	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 予習では各自英文を翻訳しノートに書き留めること。復習時にはその翻訳文を校正すること。これは、定期試験時に役に立ちます。また、講義には英和辞典を携行してください。	
<b>成績評価の方法</b> 定期試験及び授業への取り組み状況及びレポートにより評価する。レポートの提出期限は次回の講義開始時刻である。期限以降に提出されたレポートは成績評価の対象にしない。最終評価における定期試験とそれ以外との割合は40対60である。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 英文の教科書を使用するので予習をすること。パソコンを使った宿題を出すのでグラフ作成の準備をしておくこと。講義の理解のためには、2時間の講義毎に2時間の予習と2時間の復習が必要である。i-Collaboに講義資料や宿題を掲載します。講義前に閲覧し必要な部分を印刷して出席して下さい。本科目は平成25年度は開講しない。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 金崎英二(工学部化学学生物棟 511、088-656-9444) (オフィスアワー) 年度毎に学科の掲示を参照すること
<b>備考</b>	1. 予習及び復習を欠かさず行なうこと。英和辞典を持参すること。授業計画は変更される場合がある。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5131370
<b>科目分野</b>	物質機能化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電気化学[Electrochemistry]		
<b>担当教員</b>	安澤 幹人 [Mikito Yasuzawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 電気化学の基礎である、溶液論、平衡論、速度論の基礎を修得させ、典型的応用例を理解させる。			
<b>授業の概要</b> 溶液の電導度、平衡電位、電気化学反応速度について講義し、pH測定法、ポーラログラフィー、実用電池、半導体電極など応用面を理解させる。また、生物素子と組み合わせたバイオセンサ等についても講述する。			
<b>キーワード</b> 電導度、電極電位、電池、電気化学センサ			
<b>到達目標</b> 1. イオン電導の概要把握と応用能力の修得する 2. 電極反応速度論の基礎を修得する 3. 実用蓄電池の基礎を修得する			

<b>授業の計画</b>	5. 標準電極電位・ネルンストの式 6. 平衡定数と熱力学量の決定法 7. pHの測定、イオン選択性電極 8. 前半の総括及びテスト 9. 電極界面での電子移動速度 10. ポーラログラフィーとボルタメトリー	11. 乾電池、鉛蓄電池 12. リチウム電池 13. 燃料電池 14. 生物電気化学 15. 酵素電極 16. 期末試験
<b>教科書</b> 電気化学(基礎化学コース)/渡辺 正, 金村聖志, 益田秀樹, 渡辺正義:丸善出版 大塚利行・加納健司・桑畑進著「ベーシック電気化学」化学同人		
<b>参考書</b> ベーシック電気化学/大塚利行, 加納健司, 桑畑進:化学同人 現代電気化学/田村英雄, 松田好晴:培風館 電気化学の基礎/喜多英明, 魚崎浩平:技報堂出版 電気化学:基礎と応用/金村 聖志:化学同人 基礎からわかる電気化学/泉 生一郎, 石川正司, 片倉勝己, 青井芳史, 長尾恭孝, 笹本 忠, 高橋三男		
<b>成績評価の方法</b> 平常点(授業への取り組み, 小テスト, レポート)と試験(中間テストおよび期末試験)の成績を総合して評価する。なお, 平常点と試験成績との割合は3:7とする。		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。		
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 安澤 幹人 (メールアドレス) mik@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:30? 17:30	
<b>備考</b>	1. 関数電卓を持参すること	

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5131330
<b>科目分野</b>	物質機能化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	機器分析化学[Analytical Instrumentation Chemistry]		
<b>担当教員</b>	藪谷 智規, 高柳 俊夫 [Tomoki Yabutani, Toshio Takayanagi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 分析機器は、科学の様々な分野において物質や物性の解析および測定データの収集に非常に重要な役割を果たしている。本講義では、特に化学の領域で普遍的に用いられているいくつかの分析機器をとりあげ、それらの測定原理と装置構成を学習する。物質の有する特性とそれを測定に活用する分析機器の原理を理解する。具体的な測定例を通して、分析機器による定性分析、定量分析を学習する。			
<b>授業の概要</b> 科学の領域で、様々な分析機器が広く用いられている。本講義では、それら分析機器の中で基本的かつ普遍的なものを取りあげ、測定に活用される物質の特性とその特性を測定する分析機器の原理、装置構成を概説する。測定に際して必要となる試料の前処理、誘導体化も併せて学習する。さらに、具体的な測定対象、測定物質を通じて、物質の物性分析、定性分析、定量分析の実際を学習する。理解度を高めるために、ビデオ教材も活用する。発展的に、機器分析に関するトピックス、分析機器の高性能化、高感度化の取り組みについても解説する。			
<b>キーワード</b> 機器分析、分光分析、分析化学、化学分析、定量分析			
<b>到達目標</b> 1. 物質が有する分光学的特性についての理解を深める。 2. 物質が有する特性とその特性を測定する原理を理解する。 3. 分析機器の装置構成を理解する。 4. 各種測定装置の測定データを読み取れるようになる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 機器分析総論:化学計測とは 2. 光と物質の相互作用(第8章 p.116~p.122) 3. 分子分光分析(1):紫外可視吸光度法(第9章 p.123~p.125) 4. 分子分光分析(2):蛍光光度法(第9章 p.125~p.126) 5. 分子分光分析(3):赤外吸収、ラマン分光(第9章 p.126~p.129) 6. 原子分光分析(1):原子吸光分析法(第10章 p.130~p.136) 7. 原子分光分析(2):ICP発光・質量分析法(第10章 p.136~p.140) 8. 分光分析に関するまとめと演習			



9.	X線構造解析(第11章 p.141~p.150)
10.	X線分光分析(第11章 p.150~p.156)
11.	磁気を用いる分析法(第12章 p.157~p.168)
12.	質量分析(第13章 p.169~p.185)
13.	顕微分析(第14章 p.186~p.200)
14.	放射化分析(配付プリント)
15.	タンパク質と核酸の標識(第16章 p.210~p.222)
16.	定期試験
<b>教科書</b> ベーシック分析化学/高木誠:化学同人, 2006. 10, ISBN:9784759810660	
<b>参考書</b> 理工系機器分析の基礎/保母敏行, 小熊幸一:朝倉書店, 2001. 3, ISBN:9784254140569 分析化学 機器分析編/本水昌二他:東京化学社, 2011. 4, ISBN:9784808230470 各種の機器分析手法ごとに、数多くの解説本が出版されているので、必要に応じてそれらを参照すること。	
<b>成績評価の方法</b> 講義への参加と小テストの状況、レポートの提出状況、定期試験を通じて授業内容の理解度をほかり、目標の4項目の達成状況により成績評価とする。それらの比率は概ね、講義への参加と小テストの状況30点、レポート30点、定期試験40点の100点満点とし、60点以上あれば合格とする。なお、欠席、遅刻、早退については減点の対象とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業中に随時計算をするので関数電卓を必ず持参すること。授業時間の一部を使い、授業内容の理解度を量る小テストを毎回実施する。また、授業で扱った内容に関するレポート課題を適宜課する。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 高柳俊夫(化学生物棟 611 号室, TEL:088-656-7409) 藪谷智規(化学生物棟 605 号室, TEL:088-656-7413) (メールアドレス) 高柳俊夫:takayana@chem.tokushima-u.ac.jp 藪谷智規:yabutani@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00~18:00(高柳) 月曜日 17:00~18:00(藪谷:それ以外の時間でも対応出来る場合があります。)
<b>備考</b>	「基礎分析化学」、「分析化学」の履修を前提として講義および演習を行う。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131390
<b>科目分野</b>	物質機能化学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	化学応用工学特別講義2[Special Lecture on Chemical Science and Technology 2]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学(昼間)
<b>授業の目的</b>	様々な分野の専門家の講義により、基礎から最先端までの特徴ある内容を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	物質機能化学に関連する分野について学外より専門家を招聘し、最新の発展しつつある領域の講義を受講させる。		
<b>キーワード</b>	環境化学, 錯体化学, 燃料電池		
<b>到達目標</b>	各分野の専門家による講義を通して、その分野を深く理解する。		
<b>授業の計画</b>	3.	(実施例)溶液の構造と性質	
1. (実施例)双安定状態をもつ金属多核錯体	4.	(実施例)電池及び水素吸蔵合金利用技術	
2. (実施例)元素の組成から見た地球と生物			
<b>教科書</b>	講義資料を配布する。		
<b>参考書</b>	適宜紹介する。		
<b>成績評価の方法</b>	講義への取り組みおよび講義内容に関するレポートや小テストなどを総合して評価を行う。その割合を3:7とする		
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、その講義時間に相当する時間数の予習と復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(E:◎)に対応する	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 化学応用工学
<b>備考</b>	1. 集中講義で行う。講義の予定は掲示等で通知する。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5131410
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	材料プロセス工学[Materials and Process Engineering]		
<b>担当教員</b>	村井 啓一郎 [Keichiroh Murai]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学(昼間)
<b>授業の目的</b> 固体物質の物理的・化学的性質理解させ、その手助けとなる状態図(相図)の見方を習得させる。また、固体工業材料の弾性・応力・ひずみなどの力学的性質を理解させ、その材料からなる構造物や機械要素について、適切な強度設計を行うための基礎を習得させる。			
<b>授業の概要</b> 固体結晶の構造やその構造評価を概説した材料科学に引き続き、その固体結晶やアモルファス材料・薄膜材料の特性や状態図の見方を述べる。また、化学装置設計・材料設計の基礎となり、種々の外力の作用する固体を扱う応用力学の一分野である材料力学について概説する。			
<b>キーワード</b> 固溶体, 相図, 材料力学			
<b>到達目標</b>			
1. 固体物質の物理的・化学的性質の基礎を理解し、相図の読み取り方を習得する。			
2. 外力に伴う材料力学の基礎を習得する。			
<b>授業の計画</b>	6.	侵入型固溶体	12. ひずみの概念と性質
1. 材料科学概論(結晶学)	7.	中間試験	13. はりの変形
2. 材料科学概論(X線回折法)	8.	相律	14. 垂直はり(せん断力と曲げモーメント)
3. 結晶の格子欠陥	9.	相図の解釈	15. 垂直はり(断面2次モーメント)
4. 結晶の不定性比	10.	材料力学概論	16. 期末試験
5. 置換型固溶体	11.	応力の概念と性質	
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標1は、第1回~第7回の講義が、到達目標2は第9回~第15回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的に中間試験及び期末試験により評価する。成績は 中間試験(40%)と期末試験(40%)及び授業への取り組み状況(20%)により評価し、60点以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(E:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 村井 啓一郎		
<b>備考</b>	1.		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5131420																
科目分野	化学プロセス工学																		
選必区分	選択																		
科目名	材料物性[Physical Properties of Materials]																		
担当教員	森賀 俊広 [Toshihiro Moriga]																		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)																
授業の目的	無機材料が示す様々な性質についてその基本を講義し、新素材設計のための基礎を修得させる。																		
授業の概要	同じ性質を持つ材料でもなぜ優劣が出てくるのか、化合物の構造とその基本的な物性とどのように結びつけて考えればよいのかを学ぶ。3-4回ひとまとまりの授業形態をとり、その3-4回の授業のうち、2-3回は講義を中心に、残り1回は演習を中心に理解を深める。																		
キーワード	バンド、結晶場理論、不定比性、電気的性質、磁氣的性質、半導体																		
先行/科目	『材料科学[Material Science]』(1.0)、『無機化学[Inorganic Chemistry]』(1.0)																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 半導体・金属などの電気伝導機構の違いについて理解する。</li> <li>2. 強誘電性・強磁性の発現機構について理解する。</li> <li>3. 材料の不定比性が物性に及ぼす影響について理解する。</li> </ol>																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 無機固体の電気伝導率、バンド構造(第3章)</td> <td>9. 点欠陥および固体電解質に関する演習問題</td> </tr> <tr> <td>2. 半導体(第3章)</td> <td>10. 3d 金属の一酸化物(電気的性質と磁氣的性質)(第23章)</td> </tr> <tr> <td>3. バンド構造および半導体に関する演習問題</td> <td>11. スピネル型化合物の磁氣的性質(第23章)</td> </tr> <tr> <td>4. 結晶場理論 -八面体錯体, 弱配位子場と強配位子場- (第19章)</td> <td>12. ペロブスカイト型化合物と強誘電性・超伝導性(第23章)</td> </tr> <tr> <td>5. 結晶場理論 -磁気測定, 四面体錯体- (第19章)</td> <td>13. 磁氣的性質および強誘電性に関する演習問題(第23章)</td> </tr> <tr> <td>6. 結晶場理論に関する演習問題</td> <td>14. 無機顔料と無機蛍光体(第23章)</td> </tr> <tr> <td>7. 固有点欠陥と外因性点欠陥, 不定比化合物と固溶体(第23章)</td> <td>15. 半導体の化学(第23章)</td> </tr> <tr> <td>8. 固体電解質, 二次電池材料と固体酸化物型燃料電池(第23章)</td> <td>16. 最終試験</td> </tr> </table>			1. 無機固体の電気伝導率、バンド構造(第3章)	9. 点欠陥および固体電解質に関する演習問題	2. 半導体(第3章)	10. 3d 金属の一酸化物(電気的性質と磁氣的性質)(第23章)	3. バンド構造および半導体に関する演習問題	11. スピネル型化合物の磁氣的性質(第23章)	4. 結晶場理論 -八面体錯体, 弱配位子場と強配位子場- (第19章)	12. ペロブスカイト型化合物と強誘電性・超伝導性(第23章)	5. 結晶場理論 -磁気測定, 四面体錯体- (第19章)	13. 磁氣的性質および強誘電性に関する演習問題(第23章)	6. 結晶場理論に関する演習問題	14. 無機顔料と無機蛍光体(第23章)	7. 固有点欠陥と外因性点欠陥, 不定比化合物と固溶体(第23章)	15. 半導体の化学(第23章)	8. 固体電解質, 二次電池材料と固体酸化物型燃料電池(第23章)	16. 最終試験
1. 無機固体の電気伝導率、バンド構造(第3章)	9. 点欠陥および固体電解質に関する演習問題																		
2. 半導体(第3章)	10. 3d 金属の一酸化物(電気的性質と磁氣的性質)(第23章)																		
3. バンド構造および半導体に関する演習問題	11. スピネル型化合物の磁氣的性質(第23章)																		
4. 結晶場理論 -八面体錯体, 弱配位子場と強配位子場- (第19章)	12. ペロブスカイト型化合物と強誘電性・超伝導性(第23章)																		
5. 結晶場理論 -磁気測定, 四面体錯体- (第19章)	13. 磁氣的性質および強誘電性に関する演習問題(第23章)																		
6. 結晶場理論に関する演習問題	14. 無機顔料と無機蛍光体(第23章)																		
7. 固有点欠陥と外因性点欠陥, 不定比化合物と固溶体(第23章)	15. 半導体の化学(第23章)																		
8. 固体電解質, 二次電池材料と固体酸化物型燃料電池(第23章)	16. 最終試験																		
教科書	無機化学：シュライパー・アトキンス（第4版）上/P. Atkins, T. Overton, J. Rourke, M. Weller, F. Armstrong 著, 田中勝久, 平尾一之, 北川進 訳, : 東京化学同人, 2008, ISBN:9784807906673 無機化学：シュライパー・アトキンス（第4版）下/P. Atkins, T. Overton, J. Rourke, M. Weller, F. Armstrong 著, 田中勝久, 平尾一之, 北川進 訳, : 東京化学同人, 2008, ISBN:9784807906680																		
参考書																			
成績評価の方法	到達目標1は、第1回～第3回及び第15回の講義が、到達目標2は第4回～第6回及び第10回～第13回の講義が、到達目標3は第7回～第9回及び第14回が関連する。到達目標の達成度は基本的に最終試験により評価する。講義終了後の最終試験により成績を評価(60%)、授業への取り組み状況、演習問題の提出状況を加味し(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。																		
再試験の有無																			
受講者へのメッセージ																			
JABEE合格																			
学習教育目標との関連	本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。																		
WEB ページ	初回講義時に伝える。																		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森賀俊広(機械棟 603, Tel: 088-656-7423) (メールアドレス) moriga@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:30-18:00																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三角関数, 指数・対数の計算できる機能の付いた関数電卓を持参のこと。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>																		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5131430																		
科目分野	化学プロセス工学																				
選必区分	選択																				
科目名	微粒子工学[Powder Engineering]																				
担当教員	加藤 雅裕 [Masahiro Katoh]																				
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)																		
授業の目的	化学プロセス工学で扱う様々なシステム操作のうち、「流体からの粒子の分離」を理解するために不可欠な粉体のキャラクタリゼーションおよびハンドリングの基礎を講述する。																				
授業の概要	「微粒子工学」では、2年前期に「化学工学基礎」で学んだ流動・伝熱・物質移動の基本原則を、より複雑な(主に固体粒子を分散相とする)不均一系の流れを伴うシステムに適用する。自然・社会環境のみならず、今日の化学プロセスの中間・最終製品として重要な役割を果たす粉体を、物性・測定・操作面からとらえ、その全体像を把握する。																				
キーワード	粒子の物性, 粒子の運動, 流体からの粒子の分離																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 粒子の物性・測定法について理解し、基礎計算ができる。</li> <li>2. 粒子の運動について理解し、特徴を記述できる。</li> <li>3. 気体および液体からの粒子の分離操作について理解し、要点を説明できる。</li> </ol>																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 粒子分散系の分類</td> <td>8. 中間テスト</td> </tr> <tr> <td>2. 粒子の物性(単一粒子の大きさの測定・粒度分布関数と平均径)</td> <td>9. 気体からの粒子の分離(1) 重力分離装置(演習)</td> </tr> <tr> <td>3. 粒度分布および各種平均径の計算(演習)</td> <td>10. 気体からの粒子の分離(2) サイクロン</td> </tr> <tr> <td>4. 単一粒子の運動方程式と流体抵抗</td> <td>11. 気体からの粒子の分離(3) エアフィルター(演習)</td> </tr> <tr> <td>5. 重力下での運動(演習)</td> <td>12. 液体からの粒子の分離(1) ろ過(演習)</td> </tr> <tr> <td>6. 遠心力場および電界中における粒子の運動</td> <td>13. 液体からの粒子の分離(2) 沈降濃縮(演習)</td> </tr> <tr> <td>7. 障害物まわりの粒子の運動・粒子のランダム運動</td> <td>14. 液体からの粒子の分離(3) 遠心分離器(演習)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 新規の分野への適用の展開</td> </tr> <tr> <td></td> <td>16. 期末テスト</td> </tr> </table>			1. 粒子分散系の分類	8. 中間テスト	2. 粒子の物性(単一粒子の大きさの測定・粒度分布関数と平均径)	9. 気体からの粒子の分離(1) 重力分離装置(演習)	3. 粒度分布および各種平均径の計算(演習)	10. 気体からの粒子の分離(2) サイクロン	4. 単一粒子の運動方程式と流体抵抗	11. 気体からの粒子の分離(3) エアフィルター(演習)	5. 重力下での運動(演習)	12. 液体からの粒子の分離(1) ろ過(演習)	6. 遠心力場および電界中における粒子の運動	13. 液体からの粒子の分離(2) 沈降濃縮(演習)	7. 障害物まわりの粒子の運動・粒子のランダム運動	14. 液体からの粒子の分離(3) 遠心分離器(演習)		15. 新規の分野への適用の展開		16. 期末テスト
1. 粒子分散系の分類	8. 中間テスト																				
2. 粒子の物性(単一粒子の大きさの測定・粒度分布関数と平均径)	9. 気体からの粒子の分離(1) 重力分離装置(演習)																				
3. 粒度分布および各種平均径の計算(演習)	10. 気体からの粒子の分離(2) サイクロン																				
4. 単一粒子の運動方程式と流体抵抗	11. 気体からの粒子の分離(3) エアフィルター(演習)																				
5. 重力下での運動(演習)	12. 液体からの粒子の分離(1) ろ過(演習)																				
6. 遠心力場および電界中における粒子の運動	13. 液体からの粒子の分離(2) 沈降濃縮(演習)																				
7. 障害物まわりの粒子の運動・粒子のランダム運動	14. 液体からの粒子の分離(3) 遠心分離器(演習)																				
	15. 新規の分野への適用の展開																				
	16. 期末テスト																				
教科書	微粒子工学/奥山喜久夫:オーム社, 1992. 5, ISBN:4-274-12900-4 ベーシック化学工学/橋本健治:化学同人, 2006. 9, ISBN:978-4-7598-1067																				
参考書	講義中に紹介する。																				
成績評価の方法	到達目標1は第1回～第3回の講義が、到達目標2は第4回～第7回の講義が、到達目標3は第9回～第15回が関連する。到達目標の3項目がそれぞれ達成されているかを試験(中間試験を含む)60%,平常点(演習レポートと講義への取り組み状況)40%で総合評価し、60%以上を合格とする。																				
再試験の有無																					
受講者へのメッセージ	(1)計算機を用意しておくこと。(2)授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。																				
JABEE合格	到達目標の3項目が各々達成されているかを試験し、3項目とも60%以上を合格とする。																				
学習教育目標との関連	本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。																				
WEB ページ																					
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 加藤雅裕(M304, Tel: 088-656-7429) (メールアドレス) katoh@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 16:30～17:30																				
備考	1. 自分の計算機は自由に使えるようにしておくこと。																				

開講学期	3年・前期	時間割番号	5131460
科目分野	化学プロセス工学		
選必区分	選択		
科目名	自動制御[Automatic Control]		
担当教員	外輪 健一郎, 中川 敬三 [Kenichiro Sotowa, Keizo Nakagawa]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	自動制御が化学工場において果たす役割を理解する。装置や制御系の動的挙動をラプラス変換などの数学的手法を利用して表現し、解析するための基礎知識を習得する。さらに制御系設計の基礎的な考え方を理解する。		

<b>授業の概要</b> 自動制御技術は、一般産業機械をはじめ化学プラントの基礎技術として応用されており、自動制御なくしてはこれらプラントの満足な性能を引き出すことは出来ない。化学プラントにおいて制御をうまく活用するには、まず制御しようとする装置の特性をよく理解し、それに適した制御装置を設計せねばならない。本講義では、微分方程式による装置挙動の表現と、ラプラス変換を利用した解析、および制御系設計について解説する。			
<b>キーワード</b> 制御, ラプラス変換, 周波数応答			
<b>到達目標</b> 自動制御の目的, 仕組みを理解し, 自動制御系を解析・設計する基礎知識を取得する			
<b>授業の計画</b>	<b>5.</b> ラプラス変換 2	<b>9.</b> 周波数応答	<b>13.</b> 制御系設計の基礎
<b>1.</b> 自動制御とは何か?	<b>6.</b> 伝達関数 1	<b>10.</b> ボード線図	<b>14.</b> いろいろな制御方法
<b>2.</b> プロセスモデリング 1	<b>7.</b> 伝達関数 2	<b>11.</b> 安定性 1	<b>15.</b> 予備日
<b>3.</b> プロセスモデリング 2	<b>8.</b> ブロック線図	<b>12.</b> 安定性 2	<b>16.</b> 定期試験
<b>4.</b> ラプラス変換 1			
<b>教科書</b> プロセス制御システム／大嶋正裕 著:コロナ社, 2003, ISBN:4339033146			
<b>参考書</b> 講義中に説明する。			
<b>成績評価の方法</b> 小テスト 30 点, 定期試験 70 点とし, 合計 60 点以上を獲得した者を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> ラプラス変換は、この科目を理解する上で欠かせない。授業でもラプラス変換の復習を行うが、理解不足と思われる場合には積極的に質問したり、あるいはオフィスアワーを利用すること。			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 外輪健一郎(化学生物棟 312 号室) (メールアドレス) sotowa@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 17:00-18:00, 火曜 17:00-18:00 これ以外も空き時間内は対応可能		
<b>備考</b>	1. 自動制御の学習の前に、化学工学の基礎に関わる科目を履修しておくことが望ましい。		

<b>開講学期</b>	<b>3年・前期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5131480</b>
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	化学工学演習[Exercises in Chemical Engineering]		
<b>担当教員</b>	堀河 俊英 [Toshihide Horikawa]		
<b>単位数</b>	<b>1</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>化学応用工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b> 化学プロセス工学のうち主に拡散単位操作を移動現象論の見地から講述し、演習を通じてプロセス設計の基本手法を修得させる。本科目において担当教員は受講者の演習問題を解く進行状況に合わせて各受講者が理解できていない点、何が分からないのかを各受講者から汲みあげながら講義を進行する(双方向学習)。			
<b>授業の概要</b> 「化学工学演習」では、「化学工学基礎」・「分離工学」で学んだ流動・伝熱・物質移動の基本原則に基づいて演習することにより、種々の拡散単位操作に関する基礎学力および実プロセスを念頭においた応用力の両面を充実させる。			
<b>キーワード</b> 移動現象論, 拡散単位操作			
<b>到達目標</b> 1. 下記の各拡散単位操作に関連する基本原理を説明できる。 2. 各拡散単位操作に関する基礎計算ができる。 3. 実プロセスへの応用能力を養う。			
<b>授業の計画</b>	<b>4.</b> 円管内流れ	<b>8.</b> ガス吸収 1	<b>12.</b> 抽出 1
<b>1.</b> 単位	<b>5.</b> 熱伝導 1	<b>9.</b> ガス吸収 2	<b>13.</b> 抽出 2
<b>2.</b> 物質収支	<b>6.</b> 熱伝導 2	<b>10.</b> 蒸留 1	<b>14.</b> 吸着 1
<b>3.</b> エネルギー収支	<b>7.</b> 熱交換器・蒸発操作	<b>11.</b> 蒸留 2	<b>15.</b> 吸着 2
<b>教科書</b> 「ベーシック化学工学」橋本健治 著 化学同人 「ヒギナズ化学工学」林 順一・堀河俊英 著 化学同人			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 授業への取り組み状況および授業中の演習レポートの成績により評価し、その割合を 3:7 とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> A4 グラフ用紙, 計算機, 定規(作図用, 15cm 程度)を用意しておくこと。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。本科目は演習科目であるため、講義時間内で演習問題がとぎ終わらない場合は、時間を延長して解けるまで講義を行います。			

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 堀河(化 311, 656-7426, horikawa@chem.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 「化学工学基礎」・「分離工学」で学修したことを十分に復習しておくこと。

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5131440</b>
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	反応工程設計[Chemical Process Design]		
<b>担当教員</b>	外輪 健一郎 [Kenichiro Sotowa]		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>化学応用工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b> 化学プロセスの収支計算および設計計算方法を理解することを目的とする。			
<b>授業の概要</b> プロセス設計の基礎となる収支計算と物性推算に触れる。また、プロセスシミュレータを利用した設計計算を体験する。			
<b>キーワード</b> プロセス設計, 反応工学			
<b>到達目標</b> 1. 簡単な化学プロセスの収支を計算できる。 2. 蒸気圧などの物性を推算できる 3. 反応装置の基礎的な設計計算が行える			
<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 反応器を含むプロセス	<b>12.</b> 触媒プロセスの計算	
<b>1.</b> プロセス設計入門	<b>7.</b> 蒸気圧と沸点の推算	<b>13.</b> プロセスシミュレータの基礎	
<b>2.</b> 単位操作	<b>8.</b> 反応熱と化学平衡の計算	<b>14.</b> プロセスシミュレータによる収支計算	
<b>3.</b> プロセスフロー	<b>9.</b> 相変化に伴う熱	<b>15.</b> プロセスシミュレータによる化学プラント設計	
<b>4.</b> 収支計算の基礎	<b>10.</b> 反応装置設計の基礎	<b>16.</b> 試験	
<b>5.</b> リサイクルのあるプロセス	<b>11.</b> 反応工程の設計計算		
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b> 授業中に紹介する。			
<b>成績評価の方法</b> 小テスト 20 点, 中間試験 30 点, 定期試験 50 点を加算し, 60 点以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b> 【成績評価】と同一である。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 外輪健一郎(化学生物棟 312 号室) (メールアドレス) sotowa@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 17:00-18:00, 火曜 17:00-18:00 これ以外も空き時間内は対応可能		
<b>備考</b>	1. 特に無し。		

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5131450</b>
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	触媒工学[Catalytic Science and Technology]		
<b>担当教員</b>	杉山 茂 [Shigeru Sugiyama]		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>化学応用工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b> この時点までに、多くの基礎および専門科目で習得した、それぞれ独立の概念が、触媒を通じた場合、どのように体系的に利用できるかという点を理解することを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 実際に触媒を合成し反応に供するための、触媒担体選定, 合成法, 物性評価, 活性試験, 最適装置の選定などについて講述する。さらに最近の触媒工学の分野におけるトピックスを概説する。			
<b>キーワード</b> 触媒, 反応装置, キャラクタリゼーション			



<b>到達目標</b>	
1. 反応装置の概要とその装置に相応しい触媒の物性を述べる事ができる。 2. 代表的な触媒の反応性、調製、同定について述べる事ができる。	
<b>授業の計画</b>	
1. 触媒工学の歴史的概略 2. 反応方式(1) 液相均一、液相懸濁 3. 反応方式(2) 固定床触媒反応器、流動床触媒反応器:1-3 回目の講義の反応形式とそれに基づく触媒物性を復習する 4. 触媒各論(1) 酸・塩基に基づく触媒各論 5. 触媒各論(2) 触媒の複合化:複合酸化物および分子次元触媒設計:4-5 回目の講義の触媒各論の復習をする 6. 担体各論 担体の役割、担体-触媒の相互作用および担体各論 7. 触媒調製法 担持触媒、水熱合成法、気相合成法、固相合成法等:6-7 回目の触媒調製法を復習する 8. 触媒調製法までの演習と解説 9. キャラクタリゼーション(1) 表面積、分散度、酸性度、塩基性度の測定法 10. キャラクタリゼーション(2) 赤外吸収スペクトル、電子顕微鏡、X線回折法、ケイ光 X線 11. キャラクタリゼーション(3) X線光電子分光法、X線吸収領域連続微細構造、固体 NMR:9-11 回目の講義のキャラクタリゼーションを復習する 12. 速度論:触媒に特徴的な速度論的取り扱いを復習する 13. 最近のトピックス(1):生産型触媒 14. 最近のトピックス(2):公害抑止型触媒 15. 最近のトピックス(3):13-15 回目の講義で触れた最近の技術を復習するとともに各人の興味あるトピックスを自習する 16. 期末試験	
<b>教科書</b> 講義で使う資料は全て前もって L-ラーニングシステムに公開する。	
<b>参考書</b> 山下弘巳, 田中庸裕等著「触媒・光触媒の科学入門」講談社 触媒学会編「触媒講座」講談社	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 は第 1 回～第 3 回および第 13 回～第 15 回, 到達目標 2 は第 4 回～第 7 回および第 9 回～第 12 回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的に第 16 回目の期末試験により評価する。再試験は行わない。受講姿勢および授業中の質問に対する回答を平常点とし、期末試験と平常点を 60:40 の割合で評価し、100 点満点中合計 60 点以上を獲得したものを合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義の開始時に復習を行なうとともに、当日の講義の要旨を述べる。そのため、予習復習の状況を重視する。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE 合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 杉山 茂(化 309, 088-656-7432) (メールアドレス) sugiyama@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜、火曜、16 時から 18 時、また随時対応します。
<b>備考</b>	1. 触媒工学は、化学の多くの分野が融合していることによって成り立っていることに重きを置いて講義を行う。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5131470
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	反応工学演習[Exercises in Reaction Engineering]		
<b>担当教員</b>	中川 敬三 [Keizoh Nakagawa]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学プロセス工学以外の分野で履修する速度論は、化学反応に対する様々な情報を得ること、また解釈することを目的としているが、本講義では、速度論的解析法を様々な様式のプラントの設計に応用することを理解することに主眼を置く。多くの例題や演習問題について、まず解法の筋道を明確化し、学生に質問を行い、発言を促しながら解答へと誘導する双方向的形式で講義を進める。		
<b>授業の概要</b>	反応器設計への速度論の応用に関する解説を行い、解説に基づく計算演習を行う。英文の問題を利用する。		

<b>キーワード</b> 装置設計、空間時間、速度論	
<b>到達目標</b>	
1. 回分式反応器を通して速度論的解析を習得する(1-7 回目の講義・演習および小テスト)。 2. 管型及び完全混合型反応器設計を行うための基礎知識を演習を通じて理解を深める(8-16 回目の講義・演習および定期試験)。 3. 本演習に関連した質疑応答を行うことによる双方向的学習を通じて、速度論的解析法に対する理解を深める。	
<b>授業の計画</b>	10. 管型反応器に関する演習
1. 定圧および定容回分式反応器-基礎式	11. 管型反応器に関する演習:管型反応器の取り扱いの復習
2. O-n 次反応、可逆反応、逐次反応、併発反応	12. 完全混合型反応器に関する例題
3. 回分式反応器に関する例題	13. 完全混合型反応器に関する演習
4. 定容回分式反応器に関する演習	14. 完全混合型反応器に関する演習:完全混合型反応器の取り扱いの復習
5. 定圧回分式反応器に関する演習	15. 管型及び完全混合型反応器に関する応用問題、及びまとめ
6. 定圧・定容回分式反応装置の取り扱いの復習	16. 1-15 回目の講義・演習をまとめた定期試験
7. 1-6 回目の講義・演習のまとめ、及び小テスト	
8. 管型及び完全混合型反応器 設計基礎式-空間時間、接触時間	
9. 管型反応器に関する例題	
<b>教科書</b> 授業中に配布するプリントを用いて進める:Chemical Reaction Engineering, O. Levenspiel, (2nd Edition), 3. Interpretation of Batch Reaction Data, 5. Single Ideal Reaction	
<b>参考書</b> 反応工学/橋本健治:培風館, 1993. 3, ISBN:4563045187	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 は、第 1-第 7 回目の講義・演習および小テスト, 到達目標 2 は、第 8-第 16 回目の講義・演習および定期試験が関連する。到達目標の達成度は平常点と試験結果により評価する。本講義では多くの演習問題に接するため受講姿勢を重視し、平常点(授業への取り組み、発表回数、授業態度、レポート)を 40 点、小テストと定期試験の合計を 60 点、合計 100 点満点中で 60 点以上を獲得した者を合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 発表を促しながら授業を進めるため、積極的な参加を希望する。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE 合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中川 敬三(化学生物棟 310, Tel:088-656-7430) (メールアドレス) knakagaw@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月・火:16:00 - 17:00, この時間帯以外でも都合がつく時はいつでも対応します
<b>備考</b>	1. 進行に応じてレポート課題を与える。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131490
<b>科目分野</b>	化学プロセス工学		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	化学応用工学特別講義3[Special Lecture on Chemical Science and Technology 3]		
<b>担当教員</b>	外輪 健一郎, 工学部非常勤講師 [Kenichiro Sotowa]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	様々な分野の専門家の講義により、基礎から最先端までの特徴ある内容を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	化学プロセス工学に関連する分野について学外より専門家を招聘し、最新の発展しつつある領域の講義を受講させる。		
<b>キーワード</b>	セラミックス、触媒、単位操作、マイクロリアクター		
<b>到達目標</b>	各分野の専門家による講義を通して、その分野を深く理解する。		
<b>授業の計画</b>			
1.	(実施例)白色 LED の原理と白色 LED 用新規無機蛍光体の開発 (新潟大工)戸田健司准教授		
2.	(実施例)膜分離技術の現状と無機分離膜の進展 (広島大工)都留稔了教授		
3.	(実施例)高分子-溶液系の拡散現象とその応用 (山口大工)佐野雄二教授		
4.	(実施例)向流量型接触装置の開発 (岡山大工)高橋照男教授		
5.	(実施例)分子状態素による芳香族化合物の酸化反応(広島大工)井藤荘太郎教授		

<b>教科書</b>	講義資料を配布する。
<b>参考書</b>	適宜紹介する。
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	講義初日に資料などを配付する。
<b>成績評価の方法</b>	講義への取り組みおよび講義内容に関するレポートや小テストなどを総合して評価を行う。その割合を3:7とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、その講義時間に相当する時間数の予習と復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(E: ◎)に対応する
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 化学応用工学科 連絡教員は開講年度により変更されるので、学科掲示板および初回講義時に確認のこと。
<b>備考</b>	1. 集中講義で行う。講義の予定は掲示等で通知する。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131500
<b>科目分野</b>	実験・実習		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	工業物理学実験[Laboratory in General Physics]		
<b>担当教員</b>	岸本 豊, 川崎 祐 [Yutaka Kishimoto, Yu Kawasaki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	物理学の基本概念をよりよく理解すること、および実験を行なう際の基本事項を習得することを目的として基礎的な物理学実験を行なう。		
<b>授業の概要</b>	統計処理(最小自乗法)、力学(ボルダの振り子、角運動量)、物性(ヤング率、単剛性率、粘性係数、抵抗の温度変化)、電磁気学(等電位線、磁気モーメント、コンデンサ、電磁誘導、トランジスタ特性、ホール効果)、熱(比熱、温度伝導率)、波動(フレネルの複プリズム、分光器と回折格子)、原子物理学(スペクトル、光電効果、フランク・ヘルツの実験)の20テーマから適宜選択した実験を毎回 3~4名ずつの班ごとに行ない、毎回レポートを提出する。		
<b>キーワード</b>	物理学実験		
<b>到達目標</b>	1. 実験を行う際の基本事項や注意事項を理解する。 2. 実験で明らかになる物理現象を理解し、得られた実験データを整理・解析出来るようになる。		
<b>授業の計画</b>	5. 実験 4	9. 実験 7	13. レポート指導 2
1. オリエンテーション	6. 実験 5	10. 実験 8	14. レポート指導 3
2. 実験 1	7. レポート指導 1	11. 実験 9	15. レポート講評
3. 実験 2	8. 実験 6	12. 実験 10	16. 総括
4. 実験 3			
<b>教科書</b>	当実験の為の教科書「物理学実験」		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	平常点(出席状況、実験への取り組み姿勢等)の評価を60%、レポートの内容の評価を40%とし、全体で60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎実験の1週間後にレポートを提出すること。レポートチェック 後再提出を求められることがある。その際には提出締切までに提出。なお、実験時の安全について受講者各人は十分に注意すること。予習・復習を行う事。		
<b>JABEE合格</b>	平常点(出席状況、実験への取り組み姿勢等)の評価を60%、レポートの内容の評価を40%とし、全体で60%以上で合格とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	A		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岸本 豊(A202, 088-656-7548) 川崎 祐(A217, 088-656-9878) (メールアドレス) yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1.		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131510
<b>科目分野</b>	実験・実習		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	物質機能化学実験[Experiments of Analytical, Inorganic and Physical Chemistry]		
<b>担当教員</b>	安澤 幹人, 鈴木 良尚, 蕨谷 智規, 倉科 昌, 吉田 健, 藤永 悦子, 河内 哲史, 上田 昭子, 桑原 知彦, 山下 陽子 [Mikito Yasuzawa, Yoshihisa Suzuki, Tomoki Yabutani, Masashi Kurashina, Ken Yoshida, Etsuko Fujinaga, Satoshi Kawachi, Shoko Ueta, Tomohiko Kuwabara, Yoko Yamashita]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学応用工学科の一連の実験科目の中で先んじて行われる物質機能化学実験は、分析化学、物理化学、電気化学、無機化学に関する実験を通じて、これまでの講義で学んだ理論についての理解を深めることを目指す。本科目では、化学実験における安全確保・各種試料調整、測定に関わる基本的操作など研究実験に対する正しい取り組み方の修得を目指す。さらに、個人あるいは少数のグループにおける実験、ならびに教員・TA・学生間での質疑応答など双方向的な対話を通じて、実験結果をもたらした様々な要因を論理的かつ科学的に解析するのに必要な知識・理論・洞察力を養成する。この質疑応答は、同時にコミュニケーション能力と文章作成能力の鍛錬も兼ねている。具体的には、化学者としての汎用的な技術としての安全かつ正確な実験操作法、データ解析能力、レポートの記述法、プレゼンテーション法、文献の調査法の習得を目指す。		
<b>授業の概要</b>	分析化学・物理化学・電気化学及び無機化学に関する基礎的な実験を行う。始める前に、実験を安全に行うための講習を受ける。期間の前半は分析化学実験、後半は物理化学実験を行う(物理化学実験に電気化学及び無機化学実験も含まれている)。それぞれの実験に関して最初にガイダンスがあるので、どのように行うかよく理解すること。分析化学実験は一度に全員が同じテーマの実験を行う。物理化学実験は数人のグループに分かれて順番に各テーマの実験を行うので、各自の日程及びグループ分けはガイダンスで説明され、掲示板に掲示される。各実験テーマには博士前期課程及び後期課程の学生がTAとして指導にあたるので、指示をよく守り、相談してアドバイスを受けること。各実験テーマの開始前には良く予習して内容を実験ノートに記載し、十分に準備すること。終了後はレポートを作成し、基本的に1週間を期限として提出する。レポートについては1人ずつ質疑応答を受ける。その際、学生諸君からの建設的な提案および議論は大いに推奨されるものである。これらの実験について他の学生に向けてプレゼンテーションを行い、内容について議論する。		
<b>キーワード</b>			
<b>先行/科目</b>	『基礎物理化学[Basic Physical Chemistry]』(1.0)、『基礎分析化学[Basic Analytical Chemistry]』(1.0)、『分析化学[Analytical Chemistry]』(1.0)、『無機化学[Inorganic Chemistry]』(1.0)、『溶液化学[Solution Chemistry]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『物質合成化学実験[Experiments of Organic and Polymer Chemistry]』(0.5)、『化学プロセス工学実験[Experiments of Chemical Process Engineering]』(0.5)、『機器分析化学[Analytical Instrumentation Chemistry]』(0.5)、『電気化学[Electrochemistry]』(0.5)、『地球環境化学[Environmental Chemistry]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 化学実験時の安全に関して確認するとともに、器具・機器の使用に習熟する。 2. 各実験テーマの内容をしっかりと把握し、実験技術を習得する。 3. 各実験テーマの実験結果の解析方法を習得する。 4. 実験内容のプレゼンテーションを適切に行う能力を養う。		
<b>授業の計画</b>	11. 物理化学実験ガイダンス	12. 過冷却水	13. 液体の相互溶解度
1. 実験を安全に行うために	14. 液体の粘性率	15. 無機合成	16. 溶液の電導度
2. 分析化学実験ガイダンス	17. 電導度測定	18. プレゼンテーション	19. プレゼンテーション
3. データ解析	20. レポート・プレゼンテーション講評		
4. データ解析			
5. 重量分析(ろつぼの恒量・沈殿生成)			
6. 重量分析(硫酸イオン・銅イオンの定量)			
7. 沈殿滴定(塩化物イオンの定量)			
8. 沈殿滴定(食塩の製造と塩化物イオンの定量)			
9. キレート滴定(水道水中のCa, Mgの定量)			
10. キレート滴定(しんちゅうに含まれる銅、亜鉛の定量)			
<b>教科書</b>	分析化学実験/梅澤喜夫, 本水昌二, 渡会 仁, 寺前紀夫:東京化学同人, 1999. 4, ISBN:978-4807904815 実験を安全に行うために/化学同人編集部:化学同人, 2006. 3, ISBN:978-4759809589 実験を安全に行うために. 続(基本操作・基本測定編)/化学同人編集部:化学同人, 2007. 2, ISBN:978-4759810813 当学科ホームページより、各自で実験テキスト(PDF ファイル)をダウンロードして使用する。		
<b>参考書</b>	分析化学/赤岩 英夫, 柘植 新, 角田 欣一, 原口 紘吉, 丸善, 1991. 9, ISBN:978-4621036334 キレート滴定/上野景平:南江堂, 1989. 8, ISBN:978-4524420834 ベーシック分析化学/高木誠:化学同人, 2006. 10, ISBN:978-4759810660		



データのとり方とまとめ方：分析化学のための統計学とケモトリックス/James N. Miller, Jane C. Miller:共立出版, 2004. 5, ISBN:978-4320043602	
現代電気化学/田村 英雄, 松田 好晴:培風館, 2000, ISBN:978-4563041182	
外島 忍 著「基礎電気化学」朝倉書店 1965	
978-4765503532 喜多英明, 魚崎浩平 著「電気化学の基礎」技報堂出版1983. 1	
978-4765503563, 978-4765503570 藤嶋 昭, 相澤 益男, 井上 徹 著「電気化学測定法(上)(下)」技報堂出版 1984	
<b>成績評価の方法</b> 受講者は、実験テーマ毎に担当教職員に実験レポートを提出すること。その際に質疑応答を受けることで、コミュニケーション能力とともに、文章作成能力、実験内容の理解度の評価を受ける。また、実験前の予習内容、実験中のデータ等の記録、および実験後の考察などは全て実験ノートに記載して、提出する。さらに、実験内容のプレゼンテーションを最終週に行う(全員必須)。到達目標 1 と到達目標 2 は、計画 1-17 の講義および実験が、到達目標 3 は計画 3,4 のデータ解析が、到達目標 4 は計画 18-20 のプレゼンテーション及び各実験における質疑応答が関連する。成績は、受理されたレポートの内容 80%, 実験ノート 10%, プレゼンテーション成績 10% で評価され、合計 60%以上を獲得したものが合格となる。ただし、以上の評価を受けるためには、全ての実験時間に参加し、かつプレゼンテーションで発表することを前提とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 必修科目であるので必ず受講すること。基礎分析化学, 基礎物理化学, 基礎無機化学, 分析化学, 物理化学, 無機化学, 溶液化学, 物質機能化学演習の履修が望ましい。 化学実験を安全に遂行するためには、実験に対する基本的操作と安全に対する心構えを修得しておくかねばならない。本実験を受講する前に、教科書「分析化学実験」の 1 章, 2 章を熟読しておくこと。また、実験時の安全を確保するために、白衣, 安全めがねの着用を義務づける。実験の予習を行っていない学生は、実験の実施を認めない。実験の予習は必ず行うこと。実験, 考察やレポートの書き方において疑問・質問等あれば授業時間内やオフィスアワーを積極的に利用すること。すべての実験に関して出席し、レポート提出およびプレゼンテーションに参加することが必要条件である。いずれが欠けても単位は認められないので注意すること。 計画 3,4 及び 12-17 の実験実施内容・日程は、各自異なるので十分に注意すること。実験実施内容・日程はガイダンスおよび計画表の掲示によって周知される。	
<b>JABEE合格</b> 本学科教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 倉科 昌(化学生物棟 516, Tel:088-656-7418) 吉田 健(機械棟 504, Tel:088-656-7669) (メールアドレス) 倉科: kurasina@chem.tokushima-u.ac.jp 吉田: yoshida@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 倉科: 水曜日 17:00~18:00 吉田: 月曜日 17:00~18:00
<b>備考</b>	先行科目 5131100 基礎物理化学[Basic Physical Chemistry] 5131150 基礎分析化学[Basic Analytical Chemistry] 5131140 基礎無機化学[Basic Inorganic Chemistry] 5131170 物理化学[Physical Chemistry] 5131320 分析化学[Analytical Chemistry] 5131180 無機化学[Inorganic Chemistry] 5131380 物質機能化学演習[Exercises in Physicochemistry] 5131340 溶液化学[Solution Chemistry]

<b>開講学期</b>	3年・通年	<b>時間割番号</b>	5131520
<b>科目分野</b>	実験・実習		
<b>選必修</b>	必修		
<b>科目名</b>	物質合成化学実験[Experiments of Organic and Polymer Chemistry]		
<b>担当教員</b>	南川 慶二, 平野 朋広, 西内 優騎, 押村 美幸, 荒川 幸弘 [Keiji Minagawa, HIRANO, Tomohiro, Masaki Nishiuchi, Miyuki Oshimura, Yukihiro ARAKAWA]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

**授業の目的** 講義内容の理解を深め、基本的な実験操作を習得し、研究実験に対する安全で正確な実験操作を身につける。得られた実験結果に対する正確な解析方法および論理的考察方法を身につける。

<b>授業の概要</b> 実験科目では自ら手を動かすことが基本である。そのためできるだけ小人数での取り組みが望ましい。本科目では、当該学生を少人数のグループに分け、有機化学および高分子化学分野の実験を行う。また、課題についてプレゼンテーションを行ってグループディスカッション(双方向的学習)をする。実験実施時またはレポート提出の際に教職員およびティーチングアシスタントとのディスカッションを通して、双方向的な学習の機会を増やし、コミュニケーション能力を養い、実験内容の理解度の向上を目指す。	
<b>キーワード</b> 有機化学, 高分子化学	
<b>到達目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>物質合成化学に関する各実験テーマの内容を把握し、使用する器具, 器械の取扱いを習得する。</li> <li>実験結果の解析方法の習得および論理的思考によるデータの考察方法を習得する。</li> <li>実験の内容に関する考察を口頭および文章で表現する能力を養う。</li> </ol>	
<b>授業の計画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>実験の諸注意</li> <li>アルキル化反応</li> <li>アセチル化反応</li> <li>ニトロ化反応</li> <li>ニトロ化反応</li> <li>還元反応</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>酸化反応</li> <li>環状付加反応</li> <li>環状付加反応</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>Grignard 反応</li> <li>核磁気共鳴分光法</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>酢酸ビニルの重合</li> <li>粘度法による高分子の分子量測定</li> <li>粘度法による高分子の分子量測定</li> <li>クロマトグラフィー</li> <li>赤外分光分析</li> <li>未知資料の同定</li> <li>ガラス細工</li> </ol>
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b> 実験を安全に行うために/化学同人編集部:化学同人, 2006. 3, ISBN:9784759809589 実験を安全に行うために. 続(基本操作・基本測定編)/化学同人編集部:化学同人, 2007. 2, ISBN:9784759810813 実験データを正しく扱うために/化学同人編集部:化学同人, 2007. 12, ISBN:9784759811353 有機化学のためのスペクトル解析法(第2版)UV, IR, NMR, MSの解説と演習/M. Hesse 他:化学同人, 2010. 3, ISBN:9784759811933 実験化学講座(日本化学会編・丸善) 化学大辞典(東京化学同人) 化学便覧(日本化学会編・丸善) 有機化学実験のてびき(化学同人) 機器分析のてびき(化学同人) 高分子科学実験法(高分子学会編・東京化学同人)	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 当学科内ホームページより、各自で実験テキスト(PDF ファイル)をダウンロードして使用する。	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 1 および 2 は、第 1 回～第 9 回および第 12 回～第 20 回の実験が、到達目標 3 は第 10 回? 第 11 回のプレゼンテーションが関連する。実験の予習および復習の程度をノートにより評価する。各実験終了後 1 週間以内にレポートを提出させ評価する。その際、口頭試問を行うことで、コミュニケーション能力, 文章作成能力, 実験内容の理解度の評価をおこなう。実験の内容について、プレゼンテーションを行う。到達目標の達成度は、成績評価における比率を、レポート(70%), 実験への取り組み(30%)として評価し、100 点満点中 60 点以上を合格とする。単位取得には、全てのレポートの提出は必須である。また、1 回でも欠席した場合は再受講となる。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 特になし	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 南川 慶二(化616, 088-656-9153, minagawa@chem.tokushima-u.ac.jp) 平野 朋広(化405, 088-656-7403, hirano@chem.tokushima-u.ac.jp) 西内 優騎(化409, 088-656-7400, nishiuchi@chem.tokushima-u.ac.jp) 押村 美幸(化408, 088-656-7404, oshimura@chem.tokushima-u.ac.jp) 荒川 幸弘(化615, 088-656-9704, arakawa@chem.tokushima-u.ac.jp) 藤永 悦子(化211, 088-656-7437, fujinaga@chem.tokushima-u.ac.jp) 河内 哲史(化211, 088-656-7412, kawachi@chem.tokushima-u.ac.jp) 上田 昭子(化211, 088-656-7437, ueta@chem.tokushima-u.ac.jp) 桑原 知彦(化211, 088-656-7428, kuwabara@chem.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 特になし



開講学期	3年・後期	時間割番号	5131530
科目分野	実験・実習		
選必区分	必修		
科目名	化学プロセス工学実験[Experiments of Chemical Process Engineering]		
担当教員	森賀 俊広, 加藤 雅裕, 外輪 健一郎, 村井 啓一郎, 堀河 俊英, 中川 敬三 [Toshihiro Moriga, Masahiro Katoh, Kenichiro Sotowa, Keichiro Murai, Toshihide Horikawa, Keizoh Nakagawa]		
単位数	2	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	多岐にわたる化学プロセス工学大講座の基本となる下記テーマの実験を取り上げ、実験法・解析法を習得するとともに、特に化学プロセス工学特有の概念に具体的に接することを目的とする。講義では受け身になりがちであるが、本実験では、実際に各人が実験を行うことにより自発的に各教員に質問等ができるようになり、実験に対して自分の意見を明確に述べられるようになることを期待する。		
授業の概要	化学プロセス工学大講座の講義に即したテーマについて各人が実験を行い、講義内容の理解を深めるとともに実験技術を習得する。		
キーワード	反応工学, プロセスプログラミング, 管内流れ, 粒度分布, 無機材料, 吸着分離		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学プロセス工学講座の基礎となる実験を行い、実験、解析、考察などの一連のプロセスを理解する。</li> <li>2. 各テーマ担当教員との本実験に関連した討論(双方向学習)を通じて、実験内容における疑問点の整理、および結果に対する考察を更に深める。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実験ガイダンス</li> <li>2. 酸化スズを添加した酸化インジウム焼成体の合成</li> <li>3. 酸化スズを添加した酸化インジウム焼成体の電気・光学特性</li> <li>4. 酸化スズを添加した酸化インジウム焼結体の結晶構造</li> <li>5. プロセスプログラミング(1), 連続精留塔の理論段数</li> <li>6. プロセスプログラミング(2), 連続精留塔の理論段数と還流比の関係</li> <li>7. 回分攪拌吸着による吸着等温線の測定(1), 回分吸着操作</li> <li>8. 回分攪拌吸着による吸着等温線の測定(2), 吸光度測定</li> <li>9. 均一触媒反応(1), 反応率の時間変化</li> <li>10. 均一触媒反応(2), 活性化エネルギー</li> <li>11. 液相沈降法による粒度分布測定(1), 粒度分布測定</li> <li>12. 液相沈降法による粒度分布測定(2), 分散剤添加と粒度分布</li> <li>13. 管路内の流動(1), ハーゲンポアズイユの式</li> <li>14. 管路内の流動(2), 管路サイズと圧力損失</li> <li>15. 数値計算(1), テイラー展開</li> <li>16. 数値計算(2), Newton-Raphson 法と Simpson の式</li> <li>17. レポート講評</li> </ol>		
教科書	下記【WEB ページ】の項に書かれた u-learning の URL にログインして化学プロセス工学実験のページに移動し、【授業計画】の項に書かれた実験課題それぞれの実験テキストをダウンロードして用いる。 「化学応用工学実験」(化学応用工学科編)及び「実験を安全に行うために(正, 統)」(化学同人)		
参考書	特になし。		
成績評価の方法	実験態度および、各テーマ終了毎に担当教員に提出する実験報告書により成績を評価する。やむを得ない場合を除いて、1 回でも欠席した場合は再受講となる。		
再試験の有無	なし		
受講者へのメッセージ	なし		
JABEE 合格	なし		
学習教育目標との関連	本学科学習・教育目標(E:◎)に対応する。		
WEB ページ	<a href="https://uls.is.tokushima-u.ac.jp/u-learning/index.php">https://uls.is.tokushima-u.ac.jp/u-learning/index.php</a>		
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中川(化 310, 088-656-7430, knakagaw@chem.tokushima-u.ac.jp)		
備考	すべての実験に出席し、各テーマ教員とのディスカッション全てに参加すること、およびレポート提出することが必要条件である。いずれが欠けても単位は認められないので注意すること。		

開講学期	4年・通年	時間割番号	5131540
科目分野	実験・実習		
選必区分	必修		
科目名	雑誌講読[Seminar on Chemical Science and Technology]		
担当教員	工学部化学応用工学科教員		
単位数	1	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	卒業研究に関連する外国語の文献を読むことにより、専門分野の知識を深め専門外国語の能力を高める。また、発表や討論によりプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を養う。		
授業の概要	卒論生が配属された各研究室において、卒業研究と関連する専門分野の文献を講読し、その内容を紹介し、討論を行う。		
キーワード	討論, 文献, プレゼンテーション		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究に関連する学術論文等を熟読し専門知識を増やす。</li> <li>2. 発表・討論を通し、プレゼンテーション能力を高める。</li> <li>3. 英文学術雑誌の講読を通じて、化学英語読解力を身につける。</li> </ol>		
授業の計画	卒業研究に着手した学生が、各研究室において指導教員や大学院生と共に少人数のゼミ形式で専門分野の文献を講読する。		
教科書	配属研究室の指示に従うこと。		
参考書	配属研究室の指示に従うこと。		
成績評価の方法	各配属先研究室の担当教員が、発表、討論などを通じて総合的に評価する。雑誌購読の課題を完了したことを前提とする。指導教員が、自身の卒業研究との関連性を把握している(目標 1 に対応)、プレゼンテーションがわかりやすい(目標 2 に対応)、英語の理解度(目標 3 に対応)、積極性など雑誌購読の達成度を評価シートに従って採点し、評価する。以上算出した評点を合計して雑誌購読の評点とし、60 点以上をもって合格とする。		
再試験の有無	なし		
受講者へのメッセージ	配属した研究室の指示に従うこと。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE 合格	なし		
学習教育目標との関連	本学科学習・教育目標(F:◎)に対応する。		
WEB ページ	なし		
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 化学生物棟 3 階 309 号室 TEL 088-656-7432 (メールアドレス) sugiyama@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜, 火曜, 16 時～18 時, また随時対応します。		
備考	なし		

開講学期	4年・通年	時間割番号	5131550
科目分野	実験・実習		
選必区分	必修		
科目名	卒業研究[Undergraduate Work]		
担当教員	工学部化学応用工学科教員		
単位数	9	対象学生・年次	化学応用工学科(昼間)
授業の目的	研究を実施する際には、学生自ら考える力を育成することを重視する。また、論文執筆や口頭発表を通して文章表現力や口頭でのプレゼンテーション能力を高めることも目標とする。		
授業の概要	卒論生は各研究室に配属され、各自の研究テーマにより研究を行う。		
キーワード	研究, 卒業論文		
到達目標	与えられた研究テーマを自らの力で実行し、その結果を論文執筆および卒論発表で報告する。		
授業の計画	卒業研究着手条件を満足した学生は、各研究室に配属され、各自の研究テーマにより研究を行う。1 年間の研究成果を卒業論文としてまとめ、発表会で発表を行う。各研究室の具体的な研究テーマは、卒業研究着手者決定の時期に掲示等で通知される。		
教科書	配属研究室の指示に従うこと。		

<b>参考書</b> 配属研究室の指示に従うこと。	
<b>成績評価の方法</b> 研究への取り組み、並びに卒業研究を実行する中で各研究室において計画される研究討論、中間報告など、さらに、提出された卒業論文と、卒業研究発表会での口頭発表審査によって評価する。卒業論文に必要な手続き(卒業論文提出・卒業論文要旨提出等)を指示通りに行い卒業発表会にて発表を行ったことを前提とする。但し、卒業論文最終提出時まで所定の時間数以上を論文作成のための学習時間として費やしていることを条件とする。指導教員が、研究への取り組み状況など卒業論文の達成度を評価シートに従って評価する。所属大講座教員が、卒業発表会の発表内容、発表技術に対して評価シートに従って評価する。以上算出した評点を合計して卒業論文の評点とし、60点以上をもって合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(F:◎)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 化学生物棟 3階 309号室 TEL 088-656-7432 (メールアドレス) sugiyama@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜、火曜、16時～18時、また随時対応します。
<b>備考</b>	1. 卒業研究発表会の準備・進行は3年生が参加して行う。積極的に参加して配属講座や研究テーマ決定の参考にするのが望ましい。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5131570
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics]		
<b>担当教員</b>	教務委員会委員 化学応用工学科, 工学部非常勤講師 [Kagakuouyoukougakka Kyoumuinkaiin]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 技術者としての意識と誇りを身につけ、工学倫理を守るために必要な知識と知恵を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 技術者に要求される倫理とは何か?比較研究と事例研究を中心に学ぶ。その上で、安全、環境、法規、知的財産権などに関連して、具体的にどのようなことが問題になるのか?実践的のどのように対処すればよいか?講師たちの技術者としての実体験をもとに、出来るだけ双方向的な授業をこころみる。工学倫理というむずかしいテーマにやさしく迫る。			
<b>キーワード</b> 安全, 責任, リスク			
<b>到達目標</b> 1. 工学倫理についての理解 2. 技術者としての誇りと責任感 3. 関連問題についての理解 4. 実践的対応力			
<b>授業の計画</b>			
1. はじめに	6. 安全と工学倫理	11. 製造物責任	
2. 比較論のこころみ	7. 環境・資源問題と工学倫理	12. 知的財産権と工学倫理	
3. 事例研究 1(グループ討議と発表)	8. リスク評価と技術者	13. 事例研究 4(レポートと発表・討議)	
4. 事例研究 2(レポートと小テスト)	9. 事例研究 3(レポートと発表・討議)	14. 国際工学倫理	
5. 技術者倫理と技術倫理	10. 技術者と法規	15. 実践的技術者倫理	
<b>教科書</b> 『技術者による実践的工学倫理 第2版—先人の知恵と戦いから学ぶ—』中村収三, (社)近畿化学工業会 工学倫理研究会 編著(発行所 化学同人)「2009年9月20日改訂 第2版」 全員が教科書を持っていることを前提に授業(レポート, 宿題, 小テストを含む)を行う。			
<b>参考書</b> 適宜紹介する。			
<b>成績評価の方法</b> プレゼンテーション評価 50%, レポート・小テスト 50%			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 各クラス2人の講師が、それぞれ2日(15時間)ずつ計4日(30時間)の授業を行う。全時間の出席を要する。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。全員が教科書を持っていることを前提に授業(レポート, 宿題, 小テストを含む)を行う。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(A:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			

<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 教務委員会委員 化学応用工学科
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5131560
<b>科目分野</b>	工学通論		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	安全工学[Safety Engineering]		
<b>担当教員</b>	教務委員, 工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 化学物質は人間の生活に欠かせないものであるが、取り扱いを誤ると人体や環境を脅かす有害な物質として作用する。安全・健康問題に対して、化学物質の安全からプロセスや機器の安全、化学企業や業界が行う対策まで具体的な事例を通じて理解させる。			
<b>授業の概要</b> 化学物質の安全管理の基本を理解し、世界および日本の化学工業で起きた事故のケーススタディーを中心に安全の原理、原則の理解を進める。また地球環境問題と世界標準について学び、グローバルな視点から安全の背景を概観する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. 化学物質の安全管理の基本を理解する。 2. 化学工業で起きた事故を通して安全の原理・原則を理解する。 3. 地球環境と世界基準について理解を深める。			
<b>授業の計画</b>			
1. 化学物質の安全管理：化学物質の爆発・火災危険性、危険物とその種類、化学物質の爆発・火災危険性の事前評価 2. 化学業界のレスポンス・ケア活動：PRTR, MSDS など 3. 地球環境問題 4. 世界標準：国際標準規格 ISO9000, 14000 を中心に 5. 重大事故に学ぶ：世界と日本の重大事故 6. レポート作成(最終試験)			
<b>教科書</b> 特に使用しない。各種の資料、教材を適宜配布し講義に使用する。			
<b>参考書</b> 化学工場の安全管理総覧(中央労働災害防止協会), 化学安全ガイド(丸善), 第4版, 石油化学工業の現状(石油化学工業協会)など			
<b>成績評価の方法</b> 講義への参加状況(質疑応答:3割)およびレポート(最終試験:7割)の内容を総合して行う。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、その講義時間に相当する時間数の予習と復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> 本科学習・教育目標(D:◎)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 教務委員会委員 化学応用工学科		
<b>備考</b>	1. 一方的な講義ではなく、質問を歓迎し、講師から学生への問いかけ応答を評価する。		

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5131580
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	労務管理[Personnel Management]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 企業のグローバル化による競争激化、企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加、正規社員の減少、従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題、労働トラブルの急増、少子高齢化時代の到来等これからの労働安全管理の諸問題について理解する。	
<b>授業の概要</b> 採用から退職までの労働安全衛生管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労働安全管理(ヒューマンズスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。	
<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b> 1. 組織の労働安全衛生管理(ヒューマンズスキル)の基本と重要性について認識する。 2. 最新の労働環境の動向を理解する。	
<b>授業の計画</b> 1. 労働基準法の概要 2. 応募から入社までの基礎知識 3. 就業規則 4. 労働時間・休日・休暇	5. 賃金・業務命令等の社内ルール 6. 退職と解雇 7. さまざまな働き方 8. リスクアセスメント(安全衛生管理)
<b>教科書</b> 「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円	
<b>参考書</b> 「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会	
<b>成績評価の方法</b> 出席率, レポートの内容	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業の中でレポート(7 回程度) 作成, 提出すること。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5131590
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生産管理[Production Control]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	化学応用工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 企業マネジメント(工業経営)の中で、「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する。			
<b>授業の概要</b> 「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに、企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> 1. 生産管理の各手法を概略理解する。 2. 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する。			
<b>授業の計画</b> 1. 序 2. 生産管理体系	3. 品質管理総論 4. 工程管理総論 5. 工程管理各論	6. 原価管理 7. 安全管理, トヨタ生産方式 8. 環境管理	
<b>教科書</b> 毎講義時に, プリントその他で提示する。			
<b>参考書</b> 「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ)」企業経営通信学院「生産管理便覧」丸善			
<b>成績評価の方法</b> 毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点 60 点満点-白紙は不可)及びその試問正解点 40 点満点で, 480 点以上を「可」とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 毎講義終了後, 簡単な事前試問(3 問程度)について, 解答ペーパーの提出を求める。			



生物工学科(昼間)

微分方程式 1 [Differential Equations (I)]	… 生物工学科(昼間)／水野／2年・前期	106
微分方程式 2 [Differential Equations (II)]	… 生物工学科(昼間)／今井／2年・後期	106
複素関数論 [Complex Analysis]	… 生物工学科(昼間)／今井／3年・後期	107
ベクトル解析 [Vector Analysis]	… 生物工学科(昼間)／今井／3年・前期	107
確率統計学 [Probability and Statistics]	… 生物工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／4年・前期	107
量子力学 [Quantum Mechanics]	… 生物工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・前期	108
統計力学 [Statistical Mechanics]	… 生物工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・後期	108
電子計算機概論及び演習 [Introduction to Digital Computers and Programming Practice]	… 生物工学科(昼間)／非常勤／2年・後期	108
生物統計学 [Biological Statistics]	… 生物工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・前期	109
物理化学 1 [Physical Chemistry 1]	… 生物工学科(昼間)／松木／1年・後期	109
物理化学 2 [Physical Chemistry 2]	… 生物工学科(昼間)／玉井／2年・前期	110
有機化学 1 [Organic Chemistry 1]	… 生物工学科(昼間)／宇都／1年・前期	110
有機化学 2 [Organic Chemistry 2]	… 生物工学科(昼間)／宇都／1年・後期	111
化学英語基礎 [Chemical English]	… 生物工学科(昼間)／問世田 他／2年・前期	112
基礎生物工学 [Basic Bioengineering]	… 生物工学科(昼間)／非常勤／1年・前期	112
生化学 1 [Biochemistry 1]	… 生物工学科(昼間)／湯浅／1年・前期	113
生化学 2 [Biochemistry 2]	… 生物工学科(昼間)／長宗／1年・後期	113
生化学 3 [Biochemistry 3]	… 生物工学科(昼間)／辻／2年・前期	114
分子生物学 [Molecular Biology]	… 生物工学科(昼間)／辻／2年・前期	114
微生物学 1 [Microbiology 1]	… 生物工学科(昼間)／長宗／2年・前期	115
微生物学 2 [Microbiology 2]	… 生物工学科(昼間)／友安／2年・後期	115
微生物工学 [Applied Microbiology]	… 生物工学科(昼間)／問世田／2年・後期	116
応用微生物学 [Applied Microbiology]	… 生物工学科(昼間)／問世田／3年・前期	116
生体高分子学 [Biological Macromolecule]	… 生物工学科(昼間)／松木 他／2年・前期	117
生物物理化学 1 [Biophysical Chemistry 1]	… 生物工学科(昼間)／玉井／2年・後期	117
生物物理化学 2 [Biophysical Chemistry 2]	… 生物工学科(昼間)／松木／3年・前期	118
生物有機化学 [Bioorganic Chemistry]	… 生物工学科(昼間)／堀／2年・後期	118
分析化学 [Analytical Chemistry]	… 生物工学科(昼間)／中村／1年・後期	119
発生工学 [Developmental Bioengineering]	… 生物工学科(昼間)／宮脇／3年・後期	119
タンパク質・酵素工学 [Protein and Enzyme Engineering]	… 生物工学科(昼間)／辻／3年・前期	120
細胞生物学 [Cell Biology]	… 生物工学科(昼間)／大政／2年・後期	120
細胞工学 [Cell Technology]	… 生物工学科(昼間)／大政／3年・前期	121
遺伝子工学 [Genetic Engineering]	… 生物工学科(昼間)／湯浅／2年・後期	121
生物環境工学 [Environmental Bioengineering]	… 生物工学科(昼間)／中村／3年・前期	121
生体組織工学 [Tissue Engineering]	… 生物工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・前期	122
生物機能設計学 [Medicinal Chemistry]	… 生物工学科(昼間)／堀／3年・前期	122
医用工学 [Medical Technology]	… 生物工学科(昼間)／山下 他, 山本 圭／3年・前期	123
免疫工学 [Immunotechnology]	… 生物工学科(昼間)／長宗／3年・後期	123
バイオインフォマティクス [Bioinformatics]	… 生物工学科(昼間)／友安／2年・後期	124
放射化学及び放射線化学 [RadioChemistry and Radiation Chemistry]	… 生物工学科(昼間)／堀 他／2年・後期	124
材料科学 [Material Science]	… 生物工学科(昼間)／工学部非常勤講師／3年・前期	125
専門外国語 [Foreign Language for Engineers]	… 生物工学科(昼間)／生物工学科教員／3年・前期	125
地球環境化学 [Environmental Chemistry]	… 生物工学科(昼間)／藪谷／4年・前期	126
安全工学 [Safety Engineering]	… 生物工学科(昼間)／教務委員会委員 他／4年・前期	126
バイオリアクター工学 [Bioreactor Engineering]	… 生物工学科(昼間)／中村／3年・前期	127

コミュニケーション [Communication]	… 生物工学科(昼間)／中野／2年・前期	127
技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics]	… 生物工学科(昼間)／田中／3年・前期	128
アグリテックサイエンス I [Agritechnological Science (I)]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・前期	128
アグリテックサイエンス II [Agritechnological Science (II)]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	128
生物遺伝育種工学 [Molecular Genetics for Animals and Plants]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／宮脇／3年・後期	129
食品工学 [Food Engineering]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／非常勤／3年・後期	129
作物生産工学 [Agricultural Engineering]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	130
家畜生産工学 [Animal Breeding and Reproduction]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	130
遺伝子解析実習 [Training for Gene Analyses]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・前期	130
食品加工実習 [Food Process Engineering]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・前期	131
地域産業政策論 [Regional Industrial Policy]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	131
経営戦略論 [Strategic Management]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	131
マーケティング論学 [Commercial Marketing]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	132
ベンチャービジネス論 [Venture Business]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	132
会計学 [Accounting]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	132
会計情報学 [Accounting and Information]	… 生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可／工学部非常勤講師／3年・後期	133
雑誌講読 [Seminar on Chemical Science and Technology]	… 生物工学科(昼間)／辻 他／4年・通年	133
学内インターンシップ [Understanding Biological Science and Technology]	… 生物工学科(昼間)／生物工学科教員／2年・前期	133
生物学演習 1 [Exercise of Biological Science and Technology 1]	… 生物工学科(昼間)／堀 他／2年・前期	134
生物学演習 2 [Exercise of Biological Science and Technology 2]	… 生物工学科(昼間)／長宗 他／2年・前期	134
生物学演習 3 [Exercise of Biological Science and Technology 3]	… 生物工学科(昼間)／辻 他／2年・後期	135
生物学演習 4 [Exercise of Biological Science and Technology 4]	… 生物工学科(昼間)／辻 他／2年・後期	135
生物学演習 5 [Exercise of Biological Science and Technology 5]	… 生物工学科(昼間)／松木 他／3年・前期	135
生物学演習 6 [Exercise of Biological Science and Technology 6]	… 生物工学科(昼間)／中村 他／3年・前期	136
生物学演習 7 [Exercise of Biological Science and Technology 7]	… 生物工学科(昼間)／大政 他／3年・後期	136
基礎化学実験 [Experiments for Basic Chemistry]	… 生物工学科(昼間)／生物工学科教員／2年・前期	137
生物学実験 1 [Experiments of Biological Science and Technology 1]	… 生物工学科(昼間)／堀 他／2年・前期	137

生物学実験2 [Experiments of Biological Science and Technology 2] … 生物工学科(昼間)／松木 他／ 2年・後期 ……………	138
生物学実験3 [Experiments of Biological Science and Technology 3] … 生物工学科(昼間)／中村 他／ 2年・後期 ……………	138
生物学実験4 [Experiments of Biological Science and Technology 4] … 生物工学科(昼間)／大政 他／ 3年・前期 ……………	139
生物学実験5 [Experiments of Biological Science and Technology 5] … 生物工学科(昼間)／辻 他／ 3年・前期 ……………	139
生物学実験6 [Experiments of Biological Science and Technology 6] … 生物工学科(昼間)／辻 他／ 3年・前期 ……………	139
生物学実験7 [Experiments of Biological Science and Technology 7] … 生物工学科(昼間)／長宗 他／ 3年・後期 ……………	140
生物学創成実験 [Practice of Creative Bioengineering] … 生物工学科(昼間)／生物工学科教員／ 3年・後期 ……………	140
卒業研究 [Undergraduate Work] … 生物工学科(昼間)／生物工学科教員／4年・通年 ……………	141
生産管理 [Production Control] … 生物工学科(昼間)／非常勤／4年・前期 ……………	141
労務管理 [Personnel Management] … 生物工学科(昼間)／非常勤／4年・前期 ……………	142
半導体ナノテクノロジー基礎論 [Introduction to Semiconductor Nanotechnology] … 生物工学科(昼間)／ 井須 他／1年・後期 ……………	142

開講学期	2年・前期	時間割番号	5141010
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
担当教員	水野 義紀 [Yoshinori Mizuno]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)
授業の目的	微分方程式の解法を修得し、さらに工学の諸分野に現われる微分方程式の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	微分方程式の理論は数理工学的な現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。		
キーワード	1. 求積法 2. 2階定数係数線形常微分方程式		
到達目標	1. 簡単な求積法が理解できる。(授業計画1から6に対応し、期末テストで評価) 2. 2階定数係数線形常微分方程式が解ける。(授業計画7から14に対応し、期末テストで評価)		
授業の計画	6. これまでのまとめ	12. 非斉次2階線形方程式(簡便法2)	
1. この講義の目的	7. 斉次2階線形方程式	13. ここまでのまとめ	
2. 変数分離形	8. 非斉次2階線形方程式(未定係数法)	14. 級数解法	
3. 同次形	9. 非斉次2階線形方程式(定数変化法)	15. 期末試験	
4. 1階線形方程式	10. 非斉次2階線形方程式(記号解法)	16. 総括	
5. 完全微分形	11. 非斉次2階線形方程式(簡便法1)		
教科書	工科系のための微分方程式／杉山昌平:実教出版		
参考書	特に指定しない		
成績評価の方法	期末試験 100%		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。		
JABEE合格	成績評価と同じ。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水野 義紀(建設棟A204, E-mail:mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜 17時から18時		
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5141020
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
担当教員	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)
授業の目的	連立常微分方程式の安定性と簡単な偏微分方程式の解法を修得し、より実際の工学的な問題の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	「微分方程式1」に続いて現代工学すべての基礎として重要な役割を果たしている連立常微分方程式系の基本的な解法を講義する。さらに、簡単な偏微分方程式の解法についても講義する。		
キーワード			
到達目標	1. 簡単な定数係数連立線形常微分方程式が解ける 2. ラプラス変換とその応用ができる		

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 2次元自励系の安定性	<b>12.</b> 偏微分の復習
<b>1.</b> 定数係数連立線形常微分方程式	<b>7.</b> ラプラス変換の定義	<b>13.</b> 1階偏微分方程式
<b>2.</b> 高階微分方程式と連立微分方程式	<b>8.</b> ラプラス変換の性質	<b>14.</b> ラグランジュの偏微分方程式
<b>3.</b> 自励系と強制系	<b>9.</b> ラプラス変換の性質	<b>15.</b> 2階線形偏微分方程式
<b>4.</b> 線形近似	<b>10.</b> 逆ラプラス変換	<b>16.</b> 期末試験
<b>5.</b> 2次元自励系の危点	<b>11.</b> ラプラス変換の応用例	
<b>教科書</b>	工科系のための微分方程式／杉山昌平:実教出版, 1976	
<b>参考書</b>	特に指定しない	
<b>成績評価の方法</b>	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。	
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mailでの問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) 木曜 14:00?15:00	
<b>備考</b>		

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141030</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>複素関数論[Complex Analysis]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>今井 仁司 [Hitoshi Imai]</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b>	複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微分積分学を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	微積分で扱う対象を複素数変数の関数にまで広げ、正則関数および有型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。		
<b>キーワード</b>	正則関数, 留数定理		
<b>到達目標</b>	<b>1.</b> 複素微分, 正則関数の概要が理解できる。 <b>2.</b> 留数概念の理解とその応用ができる。		
<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 複素積分	<b>12.</b> テイラー展開	
<b>1.</b> 複素数, 複素平面	<b>7.</b> コーシーの積分定理	<b>13.</b> ローラン展開	
<b>2.</b> オイラーの式, 複素関数	<b>8.</b> コーシーの積分公式	<b>14.</b> 極, 留数定理	
<b>3.</b> 初等関数	<b>9.</b> 実積分への応用1	<b>15.</b> 実積分への応用2	
<b>4.</b> 複素微分, 正則関数	<b>10.</b> 複素数列, 複素級数	<b>16.</b> 期末試験	
<b>5.</b> コーシー・リーマンの関係式	<b>11.</b> 絶対収束, ベキ級数		
<b>教科書</b>	初歩からの複素解析／香田温人・小野公輔:学術図書出版社		
<b>参考書</b>	マイベルク・ファヘンアウア 共著『関数論』(工科系の数学6), サイエンス社		
<b>成績評価の方法</b>	講義への取り組み状況, 演習の回答, レポート等の平常点(30%)と期末試験の成績(70%)を総合して行う。全体で60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	時間数の制約から、複素関数の計算を修得するための必要最小限な議論を行なうので、講義内容のすべてを吸収することが理解への早道である。日頃から予習・復習の計画を立てて勉学に勤しんでほしい。		
<b>JABEE合格</b>	JABEE合格は単位合格と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/">http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/</a>		

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡本(A棟 212室, TEL/FAX: 088-656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 【WEB頁】のHPを参照のこと
<b>備考</b>	<b>1.</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	<b>3年・前期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141040</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>ベクトル解析[Vector Analysis]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>今井 仁司 [Hitoshi Imai]</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b>	工学の解析で必要不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに、ベクトル場の解析学を通して古典力学, 流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的な理解・運用を目標とする。		
<b>授業の概要</b>	三次元空間のベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的効果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微分積分学を展開し、微分積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。		
<b>キーワード</b>	ベクトル, 内積, 外積, 積分定理		
<b>到達目標</b>	<b>1.</b> ベクトルの微分が理解できる。 <b>2.</b> ベクトルの積分が理解できる。		
<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 空間曲線, フレネ・セレの公式	<b>12.</b> 立体積分	
<b>1.</b> ベクトルとスカラー	<b>7.</b> 力学への応用	<b>13.</b> 積分による定義	
<b>2.</b> ベクトルの演算	<b>8.</b> 勾配, 発散, 回転	<b>14.</b> ガウスの発散定理	
<b>3.</b> 内積	<b>9.</b> 方向微分	<b>15.</b> ストークスの定理, グリーンの定理	
<b>4.</b> 外積	<b>10.</b> 線積分	<b>16.</b> 期末試験	
<b>5.</b> ベクトル値関数の微分・積分	<b>11.</b> 面積分		
<b>教科書</b>	ベクトル解析概論／小川 枝郎:培風館		
<b>参考書</b>	多変数関数の微積分とベクトル解析／加藤 祐輔:講談社 ベクトル解析の基礎と応用 新数理ライブラリ M5／渡辺 正:サイエンス社		
<b>成績評価の方法</b>	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mailでの問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) オフィスアワー:木曜 14:00～15:00		
<b>備考</b>			

<b>開講学期</b>	<b>4年・前期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141050</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>確率統計学[Probability and Statistics]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>工学基礎教育センター教員</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b>	確率的な現象の捉え方, 考え方を学ぶとともにデータを処理する際に使われる統計手法を習得することを目指す。		



<b>授業の概要</b> 初めて数理統計を学ぶ初学者のために統計資料の整理から始めて、その資料の特徴の解析、さらに確率論の基礎と小数標本論の初歩を解説する。	
<b>キーワード</b> 平均, 分散, 回帰直線, 二項分布, 正規分布	
<b>到達目標</b> <b>1.</b> 基本的な分布関数についての理解 <b>2.</b> 相関関係についての理解	
<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 数学的確率
<b>1.</b> 変量と平均	<b>7.</b> 加法定理
<b>2.</b> 分散, 標準偏差	<b>8.</b> 乗法定理
<b>3.</b> チェビシェフの定理	<b>9.</b> 基本的分布関数
<b>4.</b> 相関関係, 回帰直線	<b>10.</b> 平均の性質
<b>5.</b> 相関係数	<b>11.</b> 二項分布
<b>12.</b> ポワソン分布	<b>13.</b> 正規分布 I : 定義
<b>14.</b> 正規分布 II : 応用	<b>15.</b> 中心極限定理
<b>16.</b> 期末試験	
<b>教科書</b> 新訂 確率統計／高遠節夫・斎藤齊他:大日本図書	
<b>参考書</b> 統計学要論／青木俊夫, 吉原健一:培風館 数理総計概論／越昭三:学術図書出版社	
<b>成績評価の方法</b> 講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し, 総合点 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b> 単位の取得をもって JABEE 合格とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	<b>2年・前期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141060</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>量子力学[Quantum Mechanics]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>工学部非常勤講師</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b> ミクロな世界の基礎法則である、量子力学を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 量子力学は原子分子などのミクロな世界の基本法則であり、われわれの身の回りのマクロな世界とは異なる法則に基づいている。量子力学の法則ならびにいくつかの例を講義し、量子力学の基礎的内容を提供する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> シュレディンガー方程式と波動関数の意味を理解し、波動関数や期待値等を計算することができる。			
<b>授業の計画</b>	<b>9.</b> 例題(2)調和振動子		
<b>1.</b> はじめに(1) 光電効果, コンプトン効果	<b>10.</b> 3次元のシュレディンガー方程式		
<b>2.</b> はじめに(2) 水素原子のボーア模型	<b>11.</b> 角運動量		
<b>3.</b> 量子力学の基礎(1)物理量と演算子	<b>12.</b> 例題(3)水素原子(1)		
<b>4.</b> 量子力学の基礎(2)状態と波動関数	<b>13.</b> 例題(3)水素原子(2)		
<b>5.</b> 量子力学の基礎(3)期待値	<b>14.</b> まとめ		
<b>6.</b> 量子力学の基礎(4)シュレディンガー方程式	<b>15.</b> 予備日		
<b>7.</b> まとめ	<b>16.</b> 期末試験		
<b>8.</b> 例題(1)自由粒子			
<b>教科書</b> 量子力学 I(裳華房, 小出昭一郎著)			
<b>参考書</b> 朝永振一郎著 量子力学 I, II みすず書房 P.M.A.Dirac, The Principles of Quantum Mechanics, Oxford シッフ 量子力学 上下 吉岡書店			
<b>成績評価の方法</b> 期末試験の成績(80%)と授業への取組み状況(20%)を総合して行う。全体で 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			

<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大野 隆(M119, Tel: 088-656-4765)
<b>備考</b>	<b>1.</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に2 時間の予習と2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	<b>2年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141070</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>統計力学[Statistical Mechanics]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>工学部非常勤講師</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b> 現代の化学は、原子、分子、電子の微視的立場から現象を理解し、新しい法則を見出して、応用を考えることである。その基礎である統計力学を成り立ちを含め講義する。			
<b>授業の概要</b> 下記講義計画に従い、統計力学と量子力学の関係、現実の物質と簡単なモデル、カノニカル分布、フェルミ統計、ボーズ統計、ボルツマン分布を講義する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> <b>1.</b> 微視的な観点と量子力学の理解 <b>2.</b> 統計力学の概念の理解 <b>3.</b> 統計力学の応用の理解			
<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> エントロピー	<b>12.</b> 固体の比熱 (1)	
<b>1.</b> 統計力学の基礎的な考え	<b>7.</b> ミクロカノニカル分布とカノニカル分布	<b>13.</b> 固体の比熱 (2)	
<b>2.</b> 温度と圧力と体積	<b>8.</b> 熱力学の基本法則	<b>14.</b> 黒体輻射	
<b>3.</b> 統計力学と量子力学	<b>9.</b> フェルミ統計	<b>15.</b> 予備日	
<b>4.</b> 調和振動子	<b>10.</b> ボーズ統計	<b>16.</b> 定期試験	
<b>5.</b> 理想気体	<b>11.</b> ボルツマン統計		
<b>教科書</b> 統計力学／久保 亮五:共立出版			
<b>参考書</b> 適時紹介する。			
<b>成績評価の方法</b> 講義への出席状況、演習の回答、レポート評価、試験の成績を総合して評価する。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大野 隆(M119, Tel: 088-656-4765)		
<b>備考</b>	<b>1.</b> 意欲的に勉強すること。		

<b>開講学期</b>	<b>2年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141080</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>必修</b>		
<b>科目名</b>	<b>電子計算機概論及び演習[Introduction to Digital Computers and Programming Practice]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>工学部非常勤講師</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)</b>
<b>授業の目的</b> プログラミングを通して、論理的な思考能力の修得を目指す。			
<b>授業の概要</b> インターネットやコンピュータを初めとする情報技術(IT)は既にインフラ技術として認知されており、これからの社会には IT の活用が必須となる。JavaScript による Web プログラミングを通して、インターネットの概要や役割、Web アプリケーションの実際を学ぶと共に、実務に役立つデータ処理手法をプログラミング演習形式により修得する。			

<b>キーワード</b>	プログラミング, インターネット, Web アプリケーション		
<b>関連/科目</b>	『生物統計学[Biological Statistics]』(0.5), 『バイオインフォマティクス[Bioinformatics]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの役割を理解する。</li> <li>2. Web アプリケーションのプログラミングを理解する。</li> <li>3. 実務に役立つデータ処理手法を理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インターネットの仕組みと役割</li> <li>2. Web アプリケーションの実際</li> <li>3. HTML によるホームページの作成</li> <li>4. スタイルシートを用いたレイアウトの作成</li> <li>5. 中間試験 1(到達目標 1, 2 の一部評価)</li> <li>6. JavaScript プログラミングの基礎</li> <li>7. 文字列の表示</li> <li>8. 算術演算</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. Window の操作</li> <li>10. 制御構造</li> <li>11. 中間試験 2(到達目標 1, 2 の一部評価)</li> <li>12. フォームによるデータ入出力</li> <li>13. Java アプレット</li> <li>14. レポート(到達目標 2, 3 の一部評価)</li> <li>15. 期末試験(到達目標全ての一部評価)</li> <li>16. まとめ</li> </ol>	
<b>教科書</b>	情報演習 5 ステップ 30 JavaScript ワークブック/相澤 裕介:カットシステム, 2006 補助教材としてオンライン教材を利用する		
<b>参考書</b>	プロジェクト A「標準 HTML, CSS, JavaScript 辞典」インプレス		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 3 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(30%), レポート(30%), 期末試験(40%)で評価する。		
<b>再試験の有無</b>	再試験の有無 原則として再試験はおこなわない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	最新の技術に関する演習であるため, 常日頃から新聞や雑誌などに目を通して IT 関連ニュースに注目すること。		
<b>JABEE 合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 生物事務室(M棟 703)		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 追試験・再試験は行わない。</li> <li>2. この授業は講義と演習が組み合わさったものであるため, 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 3 時間の予習・復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141090
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物統計学[Biological Statistics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物現象の解析, 生物関係の測定結果の解析などに用いる統計学について理解すること。		
<b>授業の概要</b>	統計学の基本について学び, その生物学への応用について講述する。		
<b>キーワード</b>	記述統計, 統計処理, 検定方法, 実験の方法		
<b>先行/科目</b>	『確率統計学[Probability and Statistics]』(1.0) 『電子計算機概論及び演習[Introduction to Digital Computers and Programming Practice]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『卒業研究[Undergraduate Work]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学の基本を理解する(授業計画 1~9)。</li> <li>2. 統計学の応用を理解する(授業計画 10~15)。</li> <li>3. 統計学的処理で得られた結果の判断ができる(授業計画 1~15)。</li> </ol>		

<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学について</li> <li>2. データの変動性をどう処理するか</li> <li>3. 差があるかどうかを検定する t 検定</li> <li>4. 2 標本 t 検定</li> <li>5. 2 つ以上のグループ間の差に対する検定 分散分析 (ANOVA)</li> <li>6. 2 次元分散分析</li> <li>7. データ間の関連の見分け方 相関分析</li> <li>8. 回帰分析 および 中間試験</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. データをカテゴリーに分類して処理する方法 カイ二乗検定</li> <li>10. データの分布を見分ける方法</li> <li>11. 不規則な分布のデータや順位の処理 Mann-Whitney U 検定</li> <li>12. Friedman 検定</li> <li>13. 検定の選び方</li> <li>14. 統計処理の結果を表示する方法</li> <li>15. 実験を立案する方法</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>
<b>教科書</b>	すぐできる生物統計 Roland Ennos (打波, 野地訳) 羊土社	
<b>参考書</b>	バイオ実験室の統計学 M. Bremer and R.W. Doerge, メディカルサイエンスインターナショナル	
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(随時)(40%), 期末試験(60%)で評価する(出席点は加えない)。	
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験はおこなわない。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	統計ソフトが使用できる環境があること, 各自が作成したノートを中心に試験を行う。	
<b>JABEE 合格</b>	成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)	
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>	

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5141100
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	物理化学1[Physical Chemistry 1]		
<b>担当教員</b>	松木 均 [Hitoshi Matsuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	エネルギー論の基礎となる熱力学第一法則および第二法則を理解し, 状態変化や化学反応に伴う熱力学状態関数の変化量が計算できる能力を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	化学熱力学は, 物理的变化や化学的变化を対象とした普遍的なエネルギー論である。自然界の現象を理解し記述する化学熱力学入門について講述する。本講義の前半部分では, 理想気体, 気体分子運動論および実在気体について論じた後, 熱力学第一法則について解説する。後半部分では, 熱力学第二および第三法則と熱力学状態関数について説明し, 閉鎖系の熱力学関係式を導出する。		
<b>キーワード</b>	理想気体, 熱力学第一法則, 熱力学第二法則, 熱力学状態関数		
<b>関連/科目</b>	『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(0.5) 『生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]』(0.5) 『生物物理化学2[Biophysical Chemistry 2]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気体の性質と分子運動論の取り扱いを理解する。</li> <li>2. 熱力学第一法則および第二法則の概念を理解し, 熱力学変化量を計算できる。</li> <li>3. エネルギー問題に関して技術者倫理を認識する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに(科学の構造, もの, エネルギー)</li> <li>2. 気体の性質(1)状態方程式(完全気体, 混合気体)</li> <li>3. 気体の性質(2)気体分子運動論モデル(平均速度, 分子の衝突)</li> <li>4. 気体の性質(3)実在気体(van der Waals の状態方程式, 対応状態の原理)</li> <li>5. 第一法則: 概念(1)基本的概念(仕事・熱・エネルギー, 第一法則)</li> <li>6. 第一法則: 概念(2)仕事と熱 1(完全微分と不完全微分), 中間試験 1(到達目標 1 および 2 の一部評価)</li> <li>7. 第一法則: 概念(3)仕事と熱 2(熱のやりとり, エンタルピー)</li> <li>8. 第一法則: 概念(4)仕事と熱 3(熱容量の差, 断熱変化)</li> </ol>		

9.	第一法則:熱化学(標準生成エンタルピー, 反応エンタルピーの温度依存性)
10.	第一法則:状態関数と完全微分(内部エネルギー変化, ジュール・トムソン効果)
11.	第二法則:自発変化の方向(1)(エントロピー, Carnot サイクル)
12.	第二法則:自発変化の方向(2)(Clausius の不等式, 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価))
13.	第二法則:自発変化の方向(3)(いろいろな過程のエントロピー変化, 熱力学第三法則)
14.	第二法則:系に注目する(Helmholtz および Gibbs エネルギー, 閉鎖系の基本式)
15.	第二法則:第一、二法則の結合(Maxwell の関係式), 物理化学の生命倫理的問題
16.	期末試験(到達目標全ての一部評価)
<b>教科書</b> アトキンス 物理化学(上) 第8版 1-3章 / P. Atkins, J. De Paula (千原秀昭・稲葉 章訳):東京化学同人, 2009	
<b>参考書</b> ムーア 物理化学(上) 第4版 / W. J. Moore (藤代亮一訳):東京化学同人 アルバーティ 物理化学(上) 第7版 / R. A. Alberty (妹尾 学・黒田晴雄訳):東京化学同人 入門化学熱力学 第2版 / D. Everett (玉虫伶太・佐藤 弦訳):東京化学同人 技術者の倫理 入門 / 杉本泰治・高城重厚:丸善	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 簡単な微分学, 積分学を必要とする。対数, 指数計算の可能な関数キー付き電卓を使用する。	
<b>成績評価の方法</b> 出席率 80%以上で, 到達目標 3項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(50%), 期末試験(50%)で評価する(出席点は加えない)。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義中に理解度確認のため中間試験を行うので, 予習と復習をしっかり行うこと。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(A),(C),(D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 松木 均(化生棟 607, 088-656-7513, matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に 2時間の予習と 2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 到達目標 1は授業計画 2-4に, 到達目標 2は授業計画 5-15に, 到達目標 3は全ての授業計画に関係する。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141110
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	物理化学2[Physical Chemistry 2]		
<b>担当教員</b>	玉井 伸岳 [Nobutake Tamai]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 物質の状態に関する重要な物理化学の基礎的事項, 相平衡と溶液について化学熱力学を中心にして講義を行い, それらの基本的な概念を学習する。			
<b>授業の概要</b> 閉鎖系の熱力学関係式を開放系に拡張し, 重要な熱力学量である化学ポテンシャルについて講述する。さらに化学ポテンシャルの平衡式を溶液系に適用し, 物理化学諸量を導出する。本講義の1~4回では, 一成分(純物質)系の状態図並びに相平衡を説明し, 相平衡の条件や相平衡で成立する熱力学関係式を導出する。5~10回では, 多成分系の取り扱い方を論じ, 二成分系の典型例である溶液についてその理想性および束一的性質について講述する。11~15回では, 二成分溶液の様々な相図(気体-液体, 固体-液体, 液体-液体間の相平衡)を取り上げ, その解釈について講述する。			
<b>キーワード</b> 化学ポテンシャル, 相平衡, 部分モル量, 相図, 束一的性質			
<b>先行/科目</b> 『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]』(1.0), 『生物物理化学2[Biophysical Chemistry 2]』(1.0)			
<b>到達目標</b>			
1. 化学ポテンシャルの概念と一成分(純物質)系の相平衡を理解する。 2. 多成分系の熱力学的取り扱い, 理想溶液と理想希薄溶液, 溶液の束一的性質を理解する。			

<b>授業の計画</b>			
1.	純物質の物理的な変態(1)化学熱力学の復習		
2.	純物質の物理的な変態(2)相の安定性と化学ポテンシャル, 相図の典型例		
3.	純物質の物理的な変態(3)相の安定性におよぼす温度・圧力の影響		
4.	純物質の物理的な変態(4)相境界の位置と勾配, 相転移の分類		
5.	中間試験 1(到達目標 1の一部評価); 単純な混合物(1)部分モル量, 化学ポテンシャル		
6.	単純な混合物(2) Gibbs-Duhem の式, 混合の熱力学		
7.	単純な混合物(3)理想溶液と理想希薄溶液		
8.	単純な混合物(4)Raoult の法則, Henry の法則		
9.	単純な混合物(5)束一的性質 1		
10.	単純な混合物(6)束一的性質 2, 実在溶液と活量		
11.	中間試験 2(到達目標 2の一部評価); 相図(1)相, 成分, 自由度, 相律		
12.	相図(2)蒸気圧図, 図の解釈, てこの規則		
13.	相図(3)温度-組成図, 蒸留, 共沸混合物		
14.	相図(4)液体-液体の相図, 相分離		
15.	相図(5)液体-固体の相図, 共融混合物		
16.	期末試験(到達目標全ての一部評価)		
<b>教科書</b> アトキンス物理化学. 上 / Peter Atkins, Julio de Paula:東京化学同人, 2009. 2, ISBN:9784807906956, 6-8章			
<b>参考書</b> 「物理化学(上)」/ R. A. アルバーティ/妹尾 学・黒田晴雄訳:東京化学同人 「入門化学熱力学第2版」/ D.エベレット著/玉虫伶太・佐藤弦訳:東京化学同人			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 補助プリントを配布します。			
<b>成績評価の方法</b> 出席率 80%以上で, 到達目標 2項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(50%), 期末試験(50%)で評価する(出席点は加えない)。			
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は行わない。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義中に理解度確認のため 2回の中間試験を行う。			
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。			
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 玉井(化生棟 609, Tel: 088-656-7520) (メールアドレス) tamai@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 16:20-17:50		
<b>備考</b>	1. 授業計画 1-5 が到達目標 1に対応し, 到達度は中間試験 1 および期末試験の成績により評価する。授業計画 6-15 が到達目標 2に対応し, 到達度は中間試験 2 および期末試験の成績により評価する。 2. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に 2時間の予習と 2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5141120
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	有機化学1[Organic Chemistry 1]		
<b>担当教員</b>	宇都 義浩 [Yoshihiro Uto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 有機化学とは, 有機化合物すなわち炭素化合物に関する学問であり, 物理学とともに生物を理解する上で必要な学問である。なぜなら, 膨大な化学反応の積み重ねの基に生命の営みがあり, 有機化合物の分子構造の理解と化学反応の原理の修得が生命機能を解明するために必要であるからである。よって, 本科目では有機化合物の立体構造と反応性を修得することを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 前半では, 有機化学において最も基礎となる原子の構造と結合, 混成軌道, アルカンやアルケン構造, 性質および反応性について講義する。後半では, 芳香族求電子置換反応, 分子模型を用いた立体化学, 求核置換反応, 脱離反応について講義する。			
<b>キーワード</b> 混成軌道, 分子構造, 反応機構, 立体化学			



<b>関連／科目</b> 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0)、『生物学演習1[Exercise of Biological Science and Technology 1]』(0.5)、『生物学実験1[Experiments of Biological Science and Technology 1]』(0.5)、『生物有機化学[Bioorganic Chemistry]』(0.5)、『生物機能設計学[Medicinal Chemistry]』(0.5)	
<b>到達目標</b> 1. 原子の構造、軌道の概念を理解し、有機化合物の分子構造を正しく記述できる。 2. 極性反応における電子の流れ(反応機構)を正しく記述できる。	
<b>授業の計画</b> 1. 導入教育、有機化学とは(教科書 p.1~2) 2. 原子の構造と結合(教科書 p.3~10) 3. 混成軌道(sp <sup>3</sup> , sp <sup>2</sup> , sp), 酸と塩基(教科書 p.11~25) 4. 官能基, アルカンの構造と性質(教科書 p.34~55) 5. シクロアルカン, アルケンの構造と異性体(教科書 p.55~63, 74~83) 6. 中間試験 1(到達目標 1 の一部評価), 有機反応の機構(教科書 p.83~95) 7. アルケンの反応, ラジカル反応(教科書 p.104~119) 8. 共鳴, アルキンの反応(教科書 p.119~131) 9. ベンゼンの構造, 芳香族求電子置換反応(教科書 p.142~154) 10. 芳香族求電子置換反応における置換基効果(教科書 p.154~165) 11. 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価), 立体化学とは(教科書 p.175~183) 12. 絶対配置, 立体異性体(教科書 p.183~197) 13. ハロゲン化アルキル(教科書 p.207~212) 14. 求核置換反応(SN <sub>2</sub> 及び SN <sub>1</sub> 反応) (教科書 p.212~222) 15. 脱離反応(E <sub>2</sub> 及び E <sub>1</sub> 反応) (教科書 p.222~228) 16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)	
<b>教科書</b> 有機化学概説/マクマリー, Eric Simanek:東京化学同人, 2007. 9, ISBN:9784807906628	
<b>参考書</b> 有機化学. 上/マクマリー:東京化学同人, 2009. 2, ISBN:9784807906987 基本有機化学/加納航治:三共出版, 2009. 12, ISBN:9784782705995 新しい基礎有機化学/合原眞, 磯部信一郎, 伊藤芳雄, 田中紀之, 迎勝也 共著:三共出版, 2009. 1, ISBN:9784782705667 大学生の有機化学/大野惇吉:三共出版, 2002. 11, ISBN:4782704577 これでわかる基礎有機化学/畔田博文, 樋口弘行, 川淵浩之, 高木幸治:三共出版, 2006. 4, ISBN:4782705182	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 2 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。到達度は目標 1 が中間試験 1(30%)及び期末試験(70%)で、目標 2 が中間試験 2(30%)及び期末試験(70%)で評価する(出席点は加えない)。中間試験 1(25%)+中間試験 2(25%)+期末試験(50%)で最終評価とする。ただし出席率 80%以上(12 回以上の出席)を期末試験の受験資格とする。	
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は実施しない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 有機化学を学ぶためには、できるだけ多くの反応機構を記述して覚えることと、分子模型を使って立体的に考えることが不可欠です。このため、分子模型も毎回持参して下さい。また、予習・復習の手助けのために毎回課題を与えるので、各自必ず解いて授業に臨むこと。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	<a href="https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/index.php">https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/index.php</a>
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 宇都義浩(M820, Tel: 088-656-7522, E-mail: uto@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) uto@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 到達目標 1 は授業計画 1~5 と 11~12, 到達目標 2 は授業計画 6~10 と 13~15 の内容がそれぞれ主に対応している。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5141130
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	有機化学2[Organic Chemistry 2]		
<b>担当教員</b>	宇都 義浩 [Yoshihiro Uto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 有機化学とは、有機化合物すなわち炭素化合物に関する学問であり、物理学とともに生物を理解する上で必須な学問である。なぜなら、膨大な化学反応の積み重ねの基に生命の営みがあり、有機化合物の分子構造の理解と化学反応の原理の修得が生命機能を解明するために必要であるからである。よって、本科目では有機化学 1 に引き続き、有機化合物、特にカルボニル化合物の構造と反応性を修得することを目的とする。			
<b>授業の概要</b> ヘテロ原子を有する有機化合物であるアルコール・エーテル・カルボニル化合物・アミンの構造、性質および反応性について講義する。			
<b>キーワード</b> アルコール, エーテル, カルボニル化合物, アミン, 有機反応論			
<b>先行／科目</b> 『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0)			
<b>関連／科目</b> 『生物学演習1[Exercise of Biological Science and Technology 1]』(0.5)、『生物学実験1[Experiments of Biological Science and Technology 1]』(0.5)、『生物有機化学[Bioorganic Chemistry]』(0.5)、『生物機能設計学[Medicinal Chemistry]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. アルコールやエーテル, アミンの構造および反応を正しく記述できる。 2. カルボニル化合物の構造および反応を正しく記述できる。			
<b>授業の計画</b> 1. 有機化学 1 の復習, アルコールの命名と性質(教科書 p.239~246) 2. アルコールの合成と反応(教科書 p.246~254) 3. フェノール, エーテル, エポキシドの合成と反応(教科書 p.254~262) 4. アルデヒドとケトンの命名と合成(教科書 p.272~278) 5. アルデヒドとケトンの求核付加反応:アセタール(教科書 p.279~290) 6. アルデヒドとケトンの求核付加反応:イミン, Grignard, Wittig, 共役付加反応(教科書 p.290~297) 7. 中間試験 1(到達目標 2 の一部評価), カルボン酸の構造と性質(教科書 p.308~316) 8. カルボン酸, 酸ハロゲン化物, 酸無水物の化学(教科書 p.316~329) 9. エステル, アミド, ニトリルの化学(教科書 p.329~341) 10. ケト-エノール互変異性(教科書 p.356~362) 11. エノラートイオンの生成と反応性(教科書 p.362~369) 12. カルボニル縮合反応(教科書 p.369~378) 13. 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価), アミンの命名・構造・性質(教科書 p.389~395) 14. アミンの合成(教科書 p.396~401) 15. アミンの反応, 複素環アミン, アルカロイド(教科書 p.401~408) 16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)			
<b>教科書</b> 有機化学概説/マクマリー, Eric Simanek:東京化学同人, 2007. 9, ISBN:9784807906628			
<b>参考書</b> 有機化学. 中/マクマリー:東京化学同人, 2009. 3, ISBN:9784807906994 新しい基礎有機化学/合原眞, 磯部信一郎, 伊藤芳雄, 田中紀之, 迎勝也 共著:三共出版, 2009. 1, ISBN:9784782705667 大学生の有機化学/大野惇吉:三共出版, 2002. 11, ISBN:4782704577 基本有機化学/加納航治:三共出版, 2009. 12, ISBN:9784782705995 これでわかる基礎有機化学/畔田博文, 樋口弘行, 川淵浩之, 高木幸治:三共出版, 2006. 4, ISBN:4782705182			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標 3 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。到達度は目標 1 が中間試験 1(30%)及び期末試験(70%)で、目標 2 が中間試験 2(30%)及び期末試験(70%)で評価する(出席点は加えない)。中間試験 1(25%)+中間試験 2(25%)+期末試験(50%)で最終評価とする。ただし出席率 80%以上(12 回以上の出席)を期末試験の受験資格とする。			
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は実施しない。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 有機化学を学ぶためには、できるだけ多くの反応機構を記述して覚えることと、分子模型を使って立体的に考えることが不可欠です。このため、分子模型も毎回持参して下さい。また、予習・復習の手助けのために毎回課題を与えるので、各自必ず解いて授業に臨むこと。			
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。			

<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/index.php
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 宇都義浩(M820, Tel: 088-656-7522, E-mail: uto@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) uto@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 到達目標1は授業計画1～3と13～15, 到達目標2は授業計画4～12の内容がそれぞれ主に対応している。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141140
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	化学英語基礎[Chemical English]		
<b>授業タイプ</b>	英語(総合英語)		
<b>担当教員</b>	間世田 英明, 友安 俊文 [Hideaki Maseda, Toshifumi Tomoyasu]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学英語の基本的表現(単位, 数式, 器具, 化合物, 化学式, 図表)について理解, 習得する。		
<b>授業の概要</b>	数式, 化学組成式, 実験器具, 単位の英語表現および科学的データの英語による説明など理科系学生に必要な基礎的英語を, テキストに従って講義する。実際に CD によるヒアリングを行う。		
<b>キーワード</b>	単位, 数式, 化合物, 図表, プレゼンテーション		
<b>関連/科目</b>	『専門外国語[Foreign Language for Engineers]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 化学, 生命科学に関する基本的化学英語を理解できる。 2. 簡単な実験結果, 図表について英語で説明できる。		
<b>授業の計画</b>	1. 導入教育, 講演会のリスニング 2. アミノ酸と核酸の発音, 学会発表:はじめの挨拶 3. Aを含む単語の発音, 学会発表:イントロダクション, レポート1(到達目標1の一部評価) 4. Eを含む単語の発音, 学会発表:結果の説明 5. Gを含む単語の発音, 学会発表:話の展開・転換, レポート2(到達目標1の一部評価) 6. Iを含む単語の発音, 学会発表:強調する 7. Uを含む単語の発音, 学会発表:結論, レポート3(到達目標1の一部評価) 8. Yを含む単語の発音, 学会発表:共同研究者の紹介・謝辞 9. [-some]の発音, 学会発表:おわりの挨拶, レポート4(到達目標2の一部評価) 10. 発音の混用について, 学会発表:質疑応答 11. 元素記号の発音, 学会:シンポジウムで使われる表現, レポート5(到達目標2の一部評価) 12. 培養・分子生物学実験に関連する単語の発音, 学会:質疑応答で使われる表現 13. 試薬の発音, 学会:形式的な発表者の紹介例, レポート6(到達目標2の一部評価) 14. 数字・記号の発音, 学会:正式な発表者の紹介例 15. 期末試験(到達目標1と2の一部評価) 16. 期末試験の解説と講評		
<b>教科書</b>	国際学会のための科学英語絶対リスニング: ライブ英語と基本フレーズで英語耳をつくる! / 山本雅: 羊土社, 2005. 10, ISBN:978-4-89706-487		
<b>参考書</b>	特に指定しない。		
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で, 到達目標2項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(50%), 期末試験(50%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は原則1回行う。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎回宿題を出すので, 復習(ライティング, ヒアリング)を充分に行うこと。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標 (B), (C) に対応する。		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 1~14回目の授業は, 到達目標1と2の内容を含む。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5141150
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	基礎生物工学[Basic Bioengineering]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物工学科では, 物理化学, 有機化学, 分子生物学, 生化学, 微生物学, 生物化学工学, 細胞生物学等を基礎科目として学んだあとに, 創薬, 再生医療, バイオマス利用, 環境浄化保全, 遺伝子組み換え生物利用に関する応用科目を学習できるカリキュラムになっています。この科目では, 生物工学科の新入生に対して, 生物工学を学ぶために必要な基礎知識とバイオテクノロジーの最近のトピックスについて講述し, 皆さんに, より生物工学に対する興味と学習意欲を持っていただくことを目的としています。		
<b>授業の概要</b>	生物を構成する物質, 生物内で行われる化学反応を理解するために, 最低限必要な物理化学, 有機化学, 分子生物学, 生化学, 微生物学, 生物化学工学, 細胞生物学に関する基礎知識と考え方について講述する。また, 生物工学的アプローチによる病気の診断や創薬, バイオマス利用などについても紹介します。		
<b>キーワード</b>	細胞, 生物, 創薬, バイオマス, バイオテクノロジー		
<b>到達目標</b>	1. 生物工学を学ぶための基礎知識を習得する。 2. 最近の生物工学に関するトピックスを簡単に説明できる能力を習得する。		
<b>授業の計画</b>	1. 生物工学概論 2. 生化学とは, 生体構成物質の構造 3. 生化学のヘルスケア, グリーンイノベーションにおける役割 4. 化学工学と生物化学工学 5. 生物反応における単位と物質収支 6. 生体膜の基礎1(脂質の構造) 7. 生体膜の基礎2(脂質の機能) 8. 中間試験1	9. 生物有機化学入門 1: 生物が作り出している有機化合物 10. 生物有機化学入門 2: 生物が有機化合物を作り出す経路 11. バイオマスの現状と有用資源化方法について 12. 汚染環境のバイオレメディエーションについて 13. 微生物概論 14. 免疫学概論 15. 中間試験2 16. 期末試験	
<b>教科書</b>	講義内容に応じた資料を配布		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で, 到達目標各項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(40%), 期末試験(60%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験はおこなわない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習・講義・復習のノートを作成すること。ノートを利用して試験を行なう。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5141160
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	生化学1[Biochemistry 1]		
担当教員	湯浅 恵造 [Keizo Yuasa]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)
授業の目的	バイオテクノロジーの根幹は生命現象の研究であり、生化学は生命を構成する物質の化学である。高度に制御された生物情報システムの理解に必要な生体分子(タンパク質・糖質)の構造と機能に関する基礎知識を習得することを目的とする。		
授業の概要	生命現象の理解のために必要な生化学の基礎について講述した後に、生体を構成する成分であるアミノ酸、タンパク質、糖について講述する。		
キーワード	タンパク質, アミノ酸, 糖質		
関連科目	『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0), 『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0)		
到達目標	1. アミノ酸およびタンパク質の構造と性質を理解する(授業計画 1-10 による)。 2. 糖, 多糖および生体膜の構造と機能を理解する(授業計画 12-15 による)。		
授業の計画	9. タンパク質の分類と機能	10. タンパク質の機能:酵素	
1. 生化学序論	11. 中間試験(到達目標 1 の一部評価)	12. 単糖	
2. 生体高分子化合物の一般的性質	13. 多糖と糖タンパク	14. 脂質と生体膜	
3. アミノ酸の一般的性質	15. 膜輸送	16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)	
4. アミノ酸の構造と性質			
5. アミノ酸の種類とその性質			
6. タンパク質の基本構造(1)一次構造			
7. タンパク質の基本構造(2)二次構造, 三次構造			
8. タンパク質の高次構造に重要な相互作用			
教科書	ヴォート基礎生化学(第3版):東京化学同人		
参考書	ヴォート生化学(上, 下):東京化学同人		
成績評価の方法	到達目標 2 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(50%), 期末試験(50%)で評価する(出席点は加えない)。		
再試験の有無	再試験は原則1回行う。		
受講者へのメッセージ	特になし。		
JABEE合格	【成績評価】と同一である。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C), (D) に対応する		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 湯浅 (化生棟 714, 088-656-7527, yuasa@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) yuasa@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 16:20-17:50		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 1~15回目の授業は、到達目標1と2の内容を含む。		

開講学期	1年・後期	時間割番号	5141170
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	生化学2[Biochemistry 2]		
担当教員	長宗 秀明 [Hideaki Nagamune]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)

授業の目的	生化学とは、生物に含まれる物質の構造、機能、合成と分解反応を明らかにし、生命現象を化学反応によって説明しようとする学問である。生化学はライフサイエンスの基礎科目であり、その知識は、医薬、環境、食品等の全ての分野において必要である。糖質・脂質・アミノ酸は、生命活動のために必要なエネルギー源となるだけでなく、生体構成成分や生理活性物質として種々の生理機能に関わっている。生化学2では、糖質・脂質・アミノ酸の代謝反応やエネルギー産生のメカニズムについて理解することを目的とする。さらに、ホルモンの作用を学習することで、生体内での化学反応の制御機構について、その概念を理解する。
授業の概要	エネルギー産生や生体成分の合成の中心的な役割を担う、糖質・脂質・アミノ酸の異化及び同化代謝反応について、その制御機構も含めて講述する。
キーワード	栄養, 代謝, 糖質, 脂質, アミノ酸, エネルギー, ATP, ホルモン
先行科目	『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)
関連科目	『生化学3[Biochemistry 3]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5)
到達目標	1. 生体内での糖質の代謝について理解する。(授業計画 1-8, 16) 2. 生体内での脂質とアミノ酸の代謝について理解する。(授業計画 9-16)
授業の計画	1. 代謝反応の概説(教科書 14 章) 2. グルコースの異化代謝1:解糖系(教科書 15 章 1-4) 3. グルコースの異化代謝2:グルコース以外のヘキソース代謝とペントースリン酸経路(教科書 15 章 5,6) 4. グリコーゲン代謝(教科書 16 章 1-3) 5. 糖新生や糖鎖生合成系(教科書 16 章 4,5) 6. クエン酸サイクル(教科書 17 章) 7. 電子伝達と酸化的リン酸化(教科書 18 章) 8. 到達目標1に関するまとめと中間試験1・レポート1出題(到達目標 1 の一部評価) 9. 脂質の代謝1:脂質の消化吸収と脂肪酸酸化(教科書 20 章 1-3) 10. 脂質の代謝2:脂質の生合成, コレステロールの代謝(教科書 20 章 4-7) 11. アミノ酸の代謝1:タンパク質分解から尿素サイクル(教科書 21 章 1-4) 12. アミノ酸の代謝2:アミノ酸の生合成と窒素固定(教科書 21 章 5-7) 13. シグナル伝達の生化学(教科書 13 章) 14. ほ乳類燃料分子の代謝(教科書 22 章) 15. 到達目標2に関するまとめと中間試験2・レポート2出題(到達目標 2 の一部評価) 16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)
教科書	ヴォート基礎生化学 第3版/D. Voet, J. Voet, C. Pratt:東京化学同人, 2010, ISBN:9784807907120, 田宮信雄・村松正實・八木達彦・遠藤斗志也 訳
参考書	ヴォート生化学 <上>/D. Voet, J.G. Voet:東京化学同人, 2005, ISBN:9784807906079, 田宮信雄・八木達彦・遠藤斗志也・村松正實・吉田 浩 訳 「ヴォート生化学」上巻 東京化学同人, 教科書のホームページ ( <a href="http://he-cda.wiley.com/WileyCDA/HigherEdTitle/productCd-0471214957.html">http://he-cda.wiley.com/WileyCDA/HigherEdTitle/productCd-0471214957.html</a> )には、学生の理解を助けるために、練習問題とクイズ、コンピューターグラフィクスによる説明、アニメーションによる概念や実験の説明、重要なタンパク質の立体構造が掲載されているので、活用すること。
成績評価の方法	到達目標 2 項目の到達度は試験(中間30%, 期末60%, レポート10%)で評価する。試験は項目毎に中間試験 1 回と期末試験 1 回を行う。2 項目とも到達度 60%以上かつ出席率 80%以上を合格とする。
再試験の有無	再試験は原則1回行う。
受講者へのメッセージ	教科書内の講義範囲を指定しているので、教科書のウェブサイトや章末の練習問題も活用し、毎回の予習と復習を欠かさず行うこと。また本講義においては中間試験及び期末試験を行い総合的に評価することにも留意すること。
JABEE合格	成績評価と同じ。
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C),(D)に対応する。
WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 長宗秀明(化生棟 707, Tel:088-656-7525) (メールアドレス) nagamune@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。



<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141180
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生化学3[Biochemistry 3]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦 [Akihiko Tsuji]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	細胞の中で行われる生命活動に必要な数千種類の化学反応は、個々の反応を特異的に触媒する酵素の作用によって制御統合されており、酵素作用の理解は生命活動の理解に他ならない。酵素は機能分子として、医薬分野、化学・食品産業のバイオテクノロジーに応用され、特に酵素阻害剤の研究は、抗 AIDS 治療薬等新薬の開発に直結している。本講義では、基本的な酵素の性質、触媒分子としての作用、反応制御因子としての役割について講述し、創薬、化学工学、食品工学領域で活躍する生物工学専門家として必要な酵素学の基礎について理解させることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	酵素の触媒分子としての性質、触媒作用の解析方法、反応制御因子としての作用とその制御機構について講義を行うが、反応速度論(ミカエリス定数、最大反応速度、阻害定数)に関しては、計算問題による演習を取り入れ、理解度を深める。生物工学専門家として必要な酵素に関する基礎と応用について学修する。		
<b>キーワード</b>	酵素、触媒、蛋白質、反応速度論		
<b>先行／科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0), 『生体高分子学[Biological Macromolecule]』(1.0)		
<b>関連／科目</b>	『タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]』(0.5), 『医用工学[Medical Technology]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 酵素の触媒特性について説明できる(キーワード:基質特異性, 至適 pH, 至適温度, 熱安定性, 活性基, 基質結合部位, 逐次型反応, 非逐次型反応)(授業計画 1-10 による)。</li> <li>2. 酵素の触媒活性制御機構について説明できる(キーワード:拮抗阻害, 非拮抗阻害, リン酸化, 前駆体と成熟体, カスケードシステム, 酵素量の調節)(授業計画 1-3, 11-14 による)。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 酵素とは? 酵素の発見と研究の歴史(教科書第 11 章)</li> <li>2. 触媒作用による酵素の分類と酵素番号(教科書第 11 章 酵素の命名法)</li> <li>3. 存在様式による酵素の分類, 可溶性酵素と膜結合酵素(教科書第 10 章)</li> <li>4. 酵素の触媒活性測定方法, 合成基質と天然基質(資料配布)</li> <li>5. 酵素活性の計算と演習(資料配布)</li> <li>6. 酵素活性を正確に測定するための要件(資料配布)</li> <li>7. 基質特異性, 補因子の作用</li> <li>8. 酵素反応速度論(ミカエリス-メンテンの式, Km, Vmax の測定)と演習(教科書第 12 章 酵素反応速度論)</li> <li>9. 中間試験(到達目標 1 の一部評価), Lineweaver plot, Hostee plot, Eadie plot, 酵素阻害形式(教科書第 12 章 酵素の阻害)</li> <li>10. 2 基質反応の解析(逐次型反応, 非逐次型反応)(教科書第 12 章 二基質反応)</li> <li>11. 酵素活性制御機構概説とアロステリック酵素(Aspartate carbamoyltransferase), 演習問題 (教科書第 12 章 酵素活性の制御)</li> <li>12. サブユニット間相互作用, リン酸化と脱リン酸化による制御</li> <li>13. 限定分解による酵素の触媒活性制御(教科書 11 章 セリンプロテアーゼ)</li> <li>14. 酵素阻害タンパク質(インヒビター)の役割と創薬(237-238 頁)</li> <li>15. 中間試験 2(触媒活性制御機構に関する問題, 到達目標 2 の一部評価)</li> <li>16. 期末試験(到達目標 2 一部評価)</li> </ol>		
<b>教科書</b>	「ヴォート基礎生化学」東京化学同人, 章の終わりに練習問題があるので, トライしてください。		
<b>参考書</b>	「ヴォート生化学」上巻 東京化学同人, 堀越弘毅ら著「酵素 科学と工学」講談社, 教科書のホームページ ( <a href="http://he-cda.wiley.com/WileyCDA/HigherEdTitle/productCd-0471214957.html">http://he-cda.wiley.com/WileyCDA/HigherEdTitle/productCd-0471214957.html</a> )には, 学生の理解を助けるために, 練習問題とクイズ, コンピューターグラフィクスによる説明, アニメーションによる概念や実験の説明, タンパク質の立体構造が掲載されています。英語ですが, 積極的に活用してください。		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標達成度は, それぞれ中間試験 40%と期末試験 60%で評価し, 2 項目とも 60 点以上あれば合格とする。到達目標 1, 2 の評価点の平均点を最終成績とする。ただし, 出席率 80%以上(12 回以上の出席)を期末試験の受験資格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	教科書内の予習および復習する範囲を毎回指示するので, 勉強しておくこと。また 教科書のウェブサイトをj使って, 学習すること。質問は, オフィスアワーまたは講義終了後に受け付けるので, 不明なまま放置しないこと。		

<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 辻 明彦(化生棟 710, Tel: 088-656-7526) (メールアドレス) tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141190
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	分子生物学[Molecular Biology]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦 [Akihiko Tsuji]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物は遺伝情報に基づき生命を維持している。その基本は遺伝子の発現調節にある。そこで、遺伝子の構造と発現調節のメカニズムを理解し、バイオテクノロジー創成に向けての基盤的素養を身に付けることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	遺伝子の本体である核酸の構造と遺伝子発現(転写, 翻訳)の基本的プロセスと、様々な生命現象を司る転写調節機構について、特に真核生物について重点的に講義する。		
<b>キーワード</b>	DNA, RNA, タンパク質, 転写, 翻訳, 複製		
<b>先行／科目</b>	『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)		
<b>関連／科目</b>	『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5), 『細胞工学[Cell Technology]』(0.5), 『タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゲノム, DNA, RNA の構造と性質を理解する。</li> <li>2. 遺伝情報の複製, 転写, 翻訳システムを理解する。</li> <li>3. 分子生物学の応用を学ぶ。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分子生物学概論</li> <li>2. 核酸の構造と性質, 染色体の構造(教科書Ⅱ-3, V-23)</li> <li>3. DNA の複製(原核細胞)(教科書V-24)</li> <li>4. DNA の複製(真核細胞)と修復(教科書V-24)</li> <li>5. 転写(教科書V-25)</li> <li>6. RNA プロセシング(教科書V-25)</li> <li>7. 転写調節概論(教科書V-27)</li> <li>8. 中間試験(到達目標 1, 2 の一部評価:核酸の構造から転写までの理解度評価)</li> <li>9. タンパク質の合成(翻訳)(教科書V-26)</li> <li>10. タンパク質の局在化とプロセシング(配布資料)</li> <li>11. 核酸の合成(プリンリボヌクレオチド)(教科書IV-22)</li> <li>12. 核酸の合成(ピリミジンリボヌクレオチド)(教科書IV-22)</li> <li>13. 遺伝子工学技術(組み換え, PCR)(配布資料)</li> <li>14. 遺伝子工学の応用(遺伝子診断, 物質生産)(配布資料)</li> <li>15. 中間試験 2(到達目標 2, 3 の一部評価:翻訳, プロセシング, 核酸代謝, 遺伝子工学の理解度評価)</li> <li>16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)/no</li> </ol>		
<b>教科書</b>	ヴォート基礎生化学 / D.Voet, J.G.Voet, C.W.Pratt 著, 田宮信雄, 村松正實, 八木達彦, 遠藤斗志也 訳, :東京化学同人, 2010, ISBN:4807907123 配布資料		
<b>参考書</b>	Molecular biology of the cell / Bruce Alberts ... [et al.] ; with problems by John Wilson, Tim Hunt : Garland Science, 2008, ISBN:0815341059		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 3 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(40%), 期末試験(60%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	原則として, 再試験はおこなわない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習, 復習を行い積極的に学習し, ノートを作成すること。		

<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 辻 明彦(化生棟 710, Tel: 088-656-7526) (メールアドレス) tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:30~18:30
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141200
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	微生物学1[Microbiology 1]		
<b>担当教員</b>	長宗 秀明 [Hideaki Nagamune]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 遺伝子工学や発酵工学に応用される微生物の種類とその一般的な性質についての基礎的知識を修得する。  
**授業の概要** 生物工学領域では生命の仕組みを解明し利用するため、細菌、ウイルス、菌類など多くの微生物を取り扱う。従ってこれらの微生物の特徴を正しく理解することが必要となる。本講義ではこれらの微生物の性質について講義し、また微生物を利用する基本的な手技についても理解を図る。  
**キーワード** 微生物、細菌、ウイルス、真菌、抗生物質  
**先行/科目** 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)  
**関連/科目** 『微生物学2[Microbiology 2]』(1.0), 『微生物工学[Applied Microbiology]』(0.8), 『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.8), 『免疫工学[Immunotechnology]』(0.5), 『生化学3[Biochemistry 3]』(0.8)

到達目標	
No.	到達目標
1	細菌の構造や特徴、また細菌の増殖や代謝反応の特徴を理解する。(授業計画 1-8, 15, 16)
2	ウイルスや真核微生物の構造と特徴を理解する。また微生物制御の基礎を理解する。(授業計画 9-16)

授業の計画	
回	内容
1	微生物と微生物学 (第1章)
2	微生物の構造と特徴 1:細菌の一般構造とグラム陽性菌 (第2, 3章)
3	微生物の構造と特徴 2:グラム陰性菌 (第3章)
4	微生物の栄養と代謝 (第4章)
5	微生物の増殖 (第5章)
6	微生物代謝の多様性 1:光合成, 炭素固定など (第13章)
7	微生物代謝の多様性 2:嫌気呼吸, 発酵など (第14章)
8	到達目標 1 に関するまとめと中間試験1・レポート1出題 (到達目標 1 の一部評価)
9	微生物の構造と特徴 3:ウイルス (第9章)
10	微生物の構造と特徴 4:真核微生物 (第20章)
11	病原微生物:宿主-寄生体(微生物)間の相互作用 (第27章)
12	微生物制御 1:微生物取り扱いの基礎技術と消毒薬 (第26章)
13	微生物制御 2:抗生物質 (第26章)
14	到達目標 2 に関するまとめと中間試験2・レポート2出題 (到達目標 2 の一部評価)
15	中間試験の解説とまとめ
16	期末試験 (到達目標全ての一部評価)

**教科書** Brock Biology of Microorganisms / M. Madigan, J. Martinko, D. Stahl, D. Clark: Pearson Education Inc., 2011, ISBN:978-0321735515, 13th Edition, Global Edition  
**参考書** 必要に応じて講義中に配布あるいは紹介する。  
**成績評価の方法** 各到達目標の到達度は試験(中間 30%, 期末 60%)とレポート(10%)で評価する。項目毎に、試験は中間試験1回と期末試験1回、またレポート提出1回を行う。2項目とも到達度 60%以上かつ出席率 80%以上を合格とする。  
**再試験の有無** 再試験は原則1回行う。

<b>受講者へのメッセージ</b> 本講義では英語教科書を使用する。この教科書出版社(Pearson Education)の学習支援 Web サイトも利用し、授業の理解と単位取得のため、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習を行うこと。Pearson Education社の学習支援Webサイト: <a href="http://www.microbiologyplace.com">http://www.microbiologyplace.com</a> 教科書に綴じ込まれているWebサイトの登録番号を用いて登録すると、学習支援システムが利用できる。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 長宗秀明(化生棟 707, Tel:088-656-7525, E-mail:nagamune@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) nagamune@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	他学科学生も履修可能

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141210
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	微生物学2[Microbiology 2]		
<b>担当教員</b>	友安 俊文 [Toshifumi Tomoyasu]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 微生物の分子遺伝学、遺伝子工学的手法、ゲノム学について理解する。  
**授業の概要** 微生物やそれらが産生する酵素は、医療、醸造、食品、畜産用などの幅広い分野で利用されている。さらに、遺伝子工学的手法を用いることにより、酵素に変異を加えて比活性を上げたり、安定性を高めたり、その精製を容易にする為に細胞内での過剰産生が行われている。このように微生物を有効利用する為には、微生物の分子遺伝学の基礎知識と遺伝子工学的手法を理解することが必須である。そこで、これらについて講義を行う。また、微生物のゲノムプロジェクトの進展によりこれからますます重要になる分野であるゲノム学についても講義する。  
**キーワード** 微生物、ウイルス、遺伝子工学  
**先行/科目** 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5), 『生化学3[Biochemistry 3]』(0.5), 『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)  
**関連/科目** 『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(1.0), 『微生物工学[Applied Microbiology]』(1.0)

到達目標	
1.	微生物の分子生物学に関する基礎知識を身につける。(授業計画 1-8, 15, 16)
2.	ウイルスの複製機構とサブウイルスについて理解する。微生物のゲノムや遺伝子工学の基礎技術について理解する。(授業計画 9-16)

- 授業の計画**
1. 微生物の分子生物学:講義の概要説明
  2. 微生物の分子生物学:DNA 構造とプラスミド(第6章 6.1-6.7を予習のこと)
  3. 微生物の分子生物学:DNA の複製(第6章 6.8-6.11を予習のこと)
  4. 微生物の分子生物学:転写と翻訳(第6章 6.7-6.13を予習のこと)
  5. 古細菌と真核生物の分子遺伝学(第7章を予習のこと) レポート出題(到達目標 1 の一部評価)
  6. 遺伝子発現の制御:DNA 結合タンパク質と転写調節(第8章 8.1-8.6を予習のこと)
  7. 遺伝子発現の制御:転写調節機構(第8章 8.7-8.16を予習のこと)
  8. 到達目標 1 に関するまとめと到達目標 1 に関する中間試験
  9. ウイルスの複製機構とサブウイルスについて(第9章 9.1-9.7, 9.8-9.15を予習のこと)
  10. 細菌と古細菌の遺伝学:突然変異・形質転換・形質導入(第10章を予習のこと)
  11. 遺伝子工学:遺伝操作とクローニングの方法(第11章を予習のこと) レポート出題(到達目標 2 の一部評価)
  12. 微生物のゲノム学:ゲノミクス(第12章 12.1-12.6を予習のこと)
  13. 微生物のゲノム学:ゲノム研究で用いられる手法とゲノム進化について(第12章 12.7-12.13を予習のこと)
  14. 到達目標 2 に関するまとめと到達目標 2 に関する中間試験
  15. 中間試験の解説とまとめ
  16. 期末試験 (到達目標 1 と 2 の一部評価)

**教科書** Brock Biology of Microorganisms / M. Madigan, J. Martinko, D. Stahl, D. Clark: Pearson Education Inc., 2011, ISBN:978-0321735515, 13th Edition, Global Edition

<b>参考書</b>	必要に応じて講義中に配布あるいは紹介する。
<b>成績評価の方法</b>	各到達目標の到達度は試験(中間 40%, 期末 50%)とレポート(10%)で評価する。項目毎に、試験は中間試験 1 回と期末試験 1 回、またレポート提出 1 回を行う。2 項目とも到達度 60%以上かつ出席率 80%以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験は原則 1 回行う。
<b>受講者へのメッセージ</b>	Pearson Education 社の学習支援 Web サイト: <a href="http://www.microbiologyplace.com">http://www.microbiologyplace.com</a> 教科書に綴じ込まれている Web サイトの登録番号を用いて登録すると、学習支援システムが利用できる。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 友安 俊文(化生棟 708, 088-656-9213, <a href="mailto:tomoyasu@bio.tokushima-u.ac.jp">tomoyasu@bio.tokushima-u.ac.jp</a> ) (メールアドレス) <a href="mailto:tomoyasu@bio.tokushima-u.ac.jp">tomoyasu@bio.tokushima-u.ac.jp</a> (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	本講義では英語教科書を使用する。授業の理解と単位取得のため、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習を行うこと。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141230
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	微生物工学[Applied Microbiology]		
<b>担当教員</b>	間世田 英明 [Hideaki Maseda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	食品工業や化学工業に应用される微生物の特徴やその応用技術例を講義し、微生物工業の基礎的知識を修得させる。またその際に問題となる微生物の制御技術に関する知識の修得も目的とする。		
<b>授業の概要</b>	有用物質や食品の生産、また環境浄化などに应用される微生物とその応用技術の現状について講述するとともに、微生物による様々な弊害の理解と微生物を制御する技術についての理解も図る。		
<b>キーワード</b>	微生物、発酵、応用微生物工業		
<b>先行/科目</b>	『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『微生物学2[Microbiology 2]』(0.5), 『応用微生物学[ Applied Microbiology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物と発酵、醸造の関係に対する理解を深める。中間試験 1(60%), 期末試験(40%)</li> <li>2. 微生物の工業的応用の多面性を理解する。中間試験 2(60%), 期末試験(40%)</li> <li>3. 微生物を応用する際の問題点を理解する。レポート(100%)</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 応用微生物工業 3:様々な生理活性物質の生産</li> <li>10. 応用微生物工業 4:微生物育種</li> <li>11. 処理工学 1(物質の循環と廃水処理)</li> <li>12. 処理工学 2(汚染物質の微生物分解)</li> <li>13. 処理工学 3(食品の腐敗と保存)</li> <li>14. 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価)</li> <li>15. 期末試験(到達目標 1,2 の一部評価)</li> <li>16. 期末試験の解説とまとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 中間試験</li> <li>7. 適応・進化:複製</li> <li>8. 適応・進化:プラスミド, フェージ, トランスポゾン</li> <li>9. 適応・進化:変異と獲得形質</li> <li>10. 中間試験</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 抗菌薬耐性</li> <li>12. 微生物浄化</li> <li>13. 微生物の多様性とその解析</li> <li>14. 中間試験</li> <li>15. 期末試験</li> <li>16. 解説とまとめ</li> </ol>
<b>教科書</b>	<b>参考書</b> 応用微生物学/村尾澤夫:培風館 微生物工学/永井和夫:講談社サイエンティフィック, ISBN:4-06-139780-X Brock 微生物学/M.T.Madigan 著, 室伏きみ子・関啓子翻訳:オーム社 ・原則として再試験は実施しない。 ・授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようえて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 ・1~14 回目の授業は、到達目標 1 と 2 の内容を含む。		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 3 項目が各々 60%以上達成されている場合を持って合格とする。出席点は加えない。		
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b>	本講義においては演習及び定期試験を行い総合評価の対象とするため、毎回の予習と復習を欠かさず行うこと。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(D)に対応する
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 間世田(生物棟 817, 088-656-7524, <a href="mailto:maseda@bio.tokushima-u.ac.jp">maseda@bio.tokushima-u.ac.jp</a> ) (オフィスアワー) 金曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として再試験は実施しない。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようえて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>3. 1~14 回目の授業は、到達目標 1 と 2 の内容を含む。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141220
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	応用微生物学[ Applied Microbiology]		
<b>担当教員</b>	間世田 英明 [Hideaki Maseda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	微生物は多様性を持って存在し、その多様性が故に様々な産業に用いられている。一方で感染症をはじめ、有害な作用を発揮し、我々の生命までも脅かす。このような良い面悪い面を理解し、良い面を利用し、悪い面を制御することは基礎的応用的観点から非常に重要である。本講義ではこのような微生物の多様なシステムを分子生物学的に、より深く理解していくことを目標としている。		
<b>授業の概要</b>	前半は基本的な微生物システムについて、後半は特有用な微生物システムについて講義する。		
<b>キーワード</b>	遺伝子、多様性、適応、進化		
<b>先行/科目</b>	『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0), 『微生物学2[Microbiology 2]』(1.0), 『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(1.0), 『微生物工学[Applied Microbiology]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(0.5), 『分子生物学[Molecular Biology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な微生物のシステムについて理解する(授業計画 1~9)</li> <li>2. 特徴ある微生物のシステムや多様性について分子生物学的に理解する(授業計画 10~16)</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 応用微生物学概説</li> <li>2. 転写と翻訳</li> <li>3. 細胞の調節:転写</li> <li>4. 細胞の調節:翻訳</li> <li>5. 細胞の調節:シグナル伝達</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 中間試験</li> <li>7. 適応・進化:複製</li> <li>8. 適応・進化:プラスミド, フェージ, トランスポゾン</li> <li>9. 適応・進化:変異と獲得形質</li> <li>10. 中間試験</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 抗菌薬耐性</li> <li>12. 微生物浄化</li> <li>13. 微生物の多様性とその解析</li> <li>14. 中間試験</li> <li>15. 期末試験</li> <li>16. 解説とまとめ</li> </ol>
<b>教科書</b>	<b>参考書</b> ワトソン組換え DNA の分子生物学第 3 版 遺伝子とゲノム/James D. Watson, Amy A. Caudy, Richard M. Myers, Jan A. Witkowski 著松橋通生・山田正夫・兵頭昌雄・鮎沢大監訳:丸善 遺伝子から見た応用微生物学/熊谷英彦, 加藤暢夫, 村田幸作, 阪井康能:朝倉書店 ワトソン遺伝子の分子生物学 第 6 版/ジェームス.D.ワトソンほか著(著), 中村桂子監訳/滋賀陽子ほか訳:電気大出版局		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(40%), 期末試験(60%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験はおこなわない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習、復習を行い積極的に学習し、ノートを作成すること。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(D)に対応する		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 間世田(生物棟 817, 088-656-7524, <a href="mailto:maseda@bio.tokushima-u.ac.jp">maseda@bio.tokushima-u.ac.jp</a> ) (オフィスアワー) 金曜日 16:20~17:50		



備考	原則として再試験は実施しない。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	--

開講学期	2年・前期	時間割番号	5141240
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	生体高分子学[Biological Macromolecule]		
担当教員	松木 均, 玉井 伸岳 [Hitoshi Matsuki, Nobutake Tamai]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 生体高分子の基礎物性と種々の生体高分子の構造と機能に関する知識を修得する。

**授業の概要** 生命体を構成する生体高分子の中で、特に生命活動に中心的な役割を果たしている多糖類、タンパク質、核酸および脂質に重点をおいて講義を行う。前半では、高分子化学に基づいた生体高分子の基礎物性およびその取り扱い方を解説した後、生体高分子のうち、糖を取り上げ、その構造と機能を講義する。後半では、タンパク質、核酸および脂質の構造と機能について講義する。

**キーワード** 高分子化合物、多糖、タンパク質、核酸、脂質

**先行科目** 『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0)

**関連科目** 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)

**到達目標** 1. 高分子の基礎的物性と多糖類の構造と機能を理解する。

2. タンパク質、核酸、脂質の構造と機能を理解する。

- |  |                                  |
|--|----------------------------------|
| <b>授業の計画</b>                           | 8. 中間試験(到達目標1の評価)                |
| 1. 高分子の基礎(1): 高分子科学の歴史と高分子の特徴          | 9. タンパク質(1): 構造(高次構造と形成原理)       |
| 2. 高分子の基礎(2): 高分子の生成反応                 | 10. タンパク質(2): 機能(活性中心とアロステリック効果) |
| 3. 高分子の基礎(3): 分子量と分子量分布、高分子鎖の形態        | 11. 核酸(1): 構造(らせんおよび超らせん構造)      |
| 4. 高分子の基礎(4): 高分子の物性(力学的性質・熱的性質・光学的性質) | 12. 核酸(2): 機能(タンパク質・薬物との相互作用)    |
| 5. 多糖類(1): 構造(構成単糖の種類と多糖類の分類)          | 13. 脂質(1): 構造(脂質の構造と相転移)         |
| 6. 多糖類(2): 機能(構造多糖類と貯蔵多糖類)             | 14. 脂質(2): 構造(生体膜の動的構造)          |
| 7. 多糖類(3): 物性(ゲル化能と食品添加物としての応用)        | 15. 脂質(3): 機能(膜電位とチャンネル)         |
|  | 16. 期末試験(到達目標2の評価)               |

**教科書** 教科書は使用しない。

**参考書** ライフサイエンス系の高分子化学/宮下徳治 編著:三共出版, 2010, ISBN:978-4-7827-0614  
生命科学のための基礎化学. 有機・生化学編/Molly M. Bloomfield:丸善, 1995, ISBN:4-621-04042-1  
高分子化学の基礎 第2版/高分子学会編:東京化学同人, 1994

**教科書・参考書に関する補足情報** プリントを使用する。次回の講義に使用するプリントを講義の終わりに配布する。

**成績評価の方法** 出席率80%以上で、到達目標2項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は、レポート(10%)、中間試験(40%)、期末試験(50%)で評価する。

**再試験の有無** 再試験有り

**受講者へのメッセージ** 予習・復習をすること。講義で理解しにくい点は、参考書等で学習するとともに直接質問すること。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学教育目標 (C), (D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 松木 均(化生棟 607, 088-656-7513, matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp) 玉井伸岳(化生棟 609, 088-656-7520, tamai@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp tamai@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 松木: 金曜日 16:20-17:50 玉井: 水曜日 16:20-17:50

**備考**

1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。止む無く欠席する場合は、その理由を事前ないしは事後に担当教員まで必ず連絡すること。
2. 1~7回目が到達目標1, 7~15回目が到達目標2の授業である。

開講学期	2年・後期	時間割番号	5141250
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]		
担当教員	玉井 伸岳 [Nobutake Tamai]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 化学平衡の取り扱い方および化学反応の動力学的な側面に関する講義を行い、それらの物理化学的な概念について修得する。

**授業の概要** 化学反応を物理化学的に理解するためには、平衡状態で成り立つ静的条件と、平衡状態までの反応速度や反応機構に関する動的条件の両方を検討する必要がある。本講義の1~4回では、化学平衡が成立するための条件を熱力学的に導出し、平衡定数の意味や平衡定数への熱力学変数の効果を解説する。5~12回では、反応速度や反応の次数の定義について講述し、単純な反応に対する微分方程式の立て方およびその解である速度式の導出について解説する。さらに速度式から得られる化学反応の重要な特徴・性質について解説する。13~15回では、複雑な反応の速度や反応機構に関する理論について簡単に紹介する。

**キーワード** 化学平衡、平衡定数、反応速度、速度式、速度定数

**先行科目** 『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(1.0)

**関連科目** 『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(1.0), 『生物物理化学2[Biophysical Chemistry 2]』(1.0)

**到達目標**

1. 化学平衡の条件と平衡定数の意味について熱力学的に理解する。
2. 反応速度の取り扱いを理解し、重要な反応速度式の導出ができる。
3. 生物物理化学が関与する生命倫理的問題を理解する。

**授業の計画**

1. 化学平衡(1)Gibbs 自由エネルギーの極小
2. 化学平衡(2)熱力学的平衡定数と平衡定数の計算
3. 化学平衡(3)外部条件に対する平衡の応答
4. 化学平衡(4)いろいろな系への応用
5. 中間試験 1(到達目標1の一部評価); 化学反応速度(1)反応速度, 反応の次数
6. 化学反応速度(2)1次反応, 2次反応
7. 化学反応速度(3)2次反応, 平衡に近い反応
8. 化学反応速度(4)速度定数と平衡定数, 化学緩和, 半減期
9. 化学反応速度(5)速度定数の温度依存性
10. 中間試験 2(到達目標2の一部評価); 化学反応速度(6)速度式の解釈, 素反応
11. 化学反応速度(7)逐次素反応, 律速段階, 定常状態近似
12. 化学反応速度(8)酵素反応, 酵素阻害, 生物物理化学の生命倫理的問題
13. 複雑な反応の速度(1)連鎖反応と爆発
14. 複雑な反応の速度(2)重合の速度論, 活性錯合体理論
15. 反応の分子動力学(1) 活性錯合体理論
16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)

**教科書** アトキンス物理化学. 上/Peter Atkins, Julio de Paula:東京化学同人, 2009. 2, ISBN:9784807906956  
アトキンス物理化学. 下/Peter Atkins, Julio de Paula:東京化学同人, 2009. 3, ISBN:9784807906963  
(上)9章, (下)25~27章。

**参考書** 「物理化学(上)および(下)」/R. A. アルバーティ著/妹尾 学・黒田晴雄訳:東京化学同人  
「反応速度論 第2版」/慶井富長著:東京化学同人

**教科書・参考書に関する補足情報** 補助プリントを配布します。

**成績評価の方法** 出席率80%以上で、到達目標3項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は、到達目標1, 2は中間試験(50%)、期末試験(50%)で、到達目標3はレポート(100%)で評価する(出席点は加えない)。

**再試験の有無** 原則として再試験は実施しない。

**受講者へのメッセージ** 講義中に理解度確認のため2回の中間試験を行う。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(A), (C), (D)に対応する。

**WEB ページ**

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 玉井(化生棟 609, Tel: 088-656-7520) (メールアドレス) tamai@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 授業計画 1-4 が到達目標 1 に対応し、到達度は中間試験 1 および期末試験の成績で評価する。授業計画 5-15 が到達目標 2 に対応し、到達度は中間試験 2 および期末試験の成績により評価する。授業計画 12 で到達目標 3 に関する講義を行ない、レポートにより到達度を評価する。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141260
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生物物理化学2[Biophysical Chemistry 2]		
<b>担当教員</b>	松木 均 [Hitoshi Matsuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	細胞膜の構造や生体内反応を理解するための基礎となる界面現象・電解質溶液論の初歩を履修し、生命現象が分子やイオンのレベルで理解できるよう基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	電解質溶液の基本的概念と電極反応の取り扱い方について講述する。さらに界面現象とコロイド溶液の性質についても述べる。本講義の前半部分では、電解質溶液の性質とその熱力学的取り扱いを述べ、電池の概念について説明する。後半部分では、電極電位に基づき、幾つかの電気化学的現象を解説する。次に界面において成立する熱力学関係式を導出し、吸着や会合体形成などの界面が関与する物理化学的現象について事例を挙げて説明する。		
<b>キーワード</b>	イオン溶液, 電極論, コロイドと界面		
<b>先行/科目</b>	『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(1.0), 『生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(1.0), 『生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 電解質溶液の基本的概念と電極反応の熱力学的取り扱い方を理解する。 2. 界面現象とコロイド溶液の性質について理解を深める。		
<b>授業の計画</b>	1. 分子の運動(1)液体中の分子運動 1(モル電導率, イオン独立移動の法則, 弱電解質) 2. 分子の運動(2)液体中の分子運動 2(イオンの移動度, 輸率) 3. 単純な混合物(1)活量 1(溶液中のイオンの活量, 平均活量係数) 4. 単純な混合物(2)活量 2(イオン強度, Debye-Huckel の理論) 5. 化学平衡(1)平衡電気化学 1(半反応と電極), 中間試験 1(到達目標 1 の一部評価) 6. 化学平衡(2)平衡電気化学 2(ガルバニ電池, 電池の種類) 7. 化学平衡(3)平衡電気化学 3(起電力, Nernst の式) 8. 化学平衡(4)平衡電気化学 4(標準電位, 標準電位の応用) 9. 化学平衡(5)平衡電気化学 5(溶解度積, 濃淡電池, 浸透膜平衡) 10. 分子間相互作用(1)気体と液体 1(コロイド状態), 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価) 11. 分子間相互作用(2)気体と液体 2(平面・曲面の表面張力, 毛管作用) 12. 高分子と分子集団(1)自己組織化 1(Kelvin の式, 溶液の表面張力) 13. 高分子と分子集団(2)自己組織化 2(界面の熱力学取り扱い) 14. 高分子と分子集団(3)自己組織化 3(単分子膜, 物理吸着と化学吸着, Langmuir の吸着等温式) 15. 高分子と分子集団(4)自己組織化 4(分子会合体(ミセル, ベシクル), 構造と安定性) 16. 期末試験(到達目標全ての一部評価)		
<b>教科書</b>	アトキンス 物理化学(上) 第 8 版 6, 10 章/P. Atkins, J. De Paula (千原秀昭・稲葉 章訳):東京化学同人, 2009 アトキンス 物理化学(下) 第 8 版 23, 24 章/P. Atkins, J. De Paula (千原秀昭・稲葉 章訳):東京化学同人, 2009		
<b>参考書</b>	ムーア 物理化学(上), (下) 第 4 版/W. J. Moore (藤代亮一訳):東京化学同人 基礎電気化学/A. R. Denaro (本多健一訳):東京化学同人 電気化学 第 2 版/玉虫伶太:東京化学同人 生体膜のダイナミクス/八田一郎・村田昌之編:共立出版		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	物理化学 1, 2 の履修を前提として講義する。		

<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(50%), 期末試験(50%)で評価する(出席点は加えない)。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義中に理解度確認のため 2 回の中間試験を行うので、予習と復習をしっかりと行うこと。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 松木 均(化生棟 607, 088-656-7513, matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) matsuki@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 到達目標 1 は授業計画 1-9 に、到達目標 2 は授業計画 10-15 に関係する。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141270
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物有機化学[Bioorganic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	堀 均 [Hitoshi Hori]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	『動物と植物は共生しなければお互い生きられない』ということを植物化学的視点から捉え、本「生物有機化学」を学修する。そのためには、その生体成分の構造と機能の化学的理解が必須である。本講義では天然物有機化学およびその理論を基礎として、天然(特に植物)由来の有機化合物の分離、構造および生成、さらにそれらの生物活性(特に医薬品としての)について分子レベルで学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	植物や動物の体内には様々な構造をもつ有機化合物が存在する。それら有機化合物の生命現象に関連する反応や機能を「有機化学のことば」で論じるための基礎として、それらの分離、構造および生成、さらに生物活性に関する基本的な問題を説明する。		
<b>キーワード</b>	医薬品植物成分, 天然有機化合物, 生成, 分子構造と生物活性		
<b>先行/科目</b>	『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『生物機能設計学[Medicinal Chemistry]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 天然有機化合物の分子構造, 生成, 生物活性について化学的に説明できる(授業計画 1, 2, 4-11, 12-15 による)。 2. 遺伝子資源としての天然物に関する倫理的問題の理解(授業計画 3 による)。		
<b>授業の計画</b>	1. 生物有機化学とは。天然有機化合物の構造 2. 生成の概要 3. 生成と酵素, 遺伝子, 遺伝子資源の倫理的問題 4. ポリケチドの生成経路。レポート 1 (到達目標 1 と 2 の一部評価) 5. ポリケチド系天然物の化学構造と生物活性 6. イソプレノイドの生成経路。孤独?なセスタテルペン 7. イソプレノイド:モノテルペンとセスキテルペンの化学構造と生物活性 8. イソプレノイド:ジテルペンとセスタテルペンの化学構造と生物活性 9. イソプレノイド:トリテルペンの化学構造と生物活性 10. イソプレノイド:ステロイドとテトラテルペンの化学構造と生物活性。レポート 2(到達目標 1 と 2 の一部評価) 11. 中間試験 (到達目標 1 と 2 の一部評価) 12. フェニルプロパノイドの生成経路 13. フェニルプロパノイド:リグニンとフラボノイド。レポート 3 (到達目標 1 と 2 の一部評価) 14. アルカロイドの生成経路とトリプトファン由来/リジン由来のアルカロイド 15. アルカロイド:ポリケチド由来アルカロイドとニコチン, テトロドトキシシン。レポート 4 (到達目標 1 と 2 の一部評価) 16. 期末試験(到達目標 1 と 2 の一部評価)		
<b>教科書</b>	貫名学ほか著「生物有機化学」三共出版		

<b>参考書</b>	P. M Dewick「Medicinal Natural Products A Biosynthetic Approach」最新版, John Wiley & Sons		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標各項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする. 達成度は到達目標 1 および 2 について, 中間試験(30%), レポート(30%), 期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない).		
<b>再試験の有無</b>	なし		
<b>受講者へのメッセージ</b>	有機化学の教科書の一分冊および分子模型は持参すること. 生化学の教科書も参考にしてほしい.		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A), (C), (D)に対応する.		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 堀 均(M 棟 821, 088-656-7514, hori@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 月曜日 11:55-12:50		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.		

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5141280
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	分析化学[Analytical Chemistry]		
<b>担当教員</b>	中村 嘉利 [Yoshitoshi Nakamura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	分析化学とは, 試料中のある目的成分について, その化学的あるいは物理的性質をもとに, 他成分と区別して認識したり(定性分析), 存在量を決定したり(定量分析)する方法を探究し, 体系化した学問である. 本科目ではその中でも物質の定量に関わる分析法を中心に, その基本的原理と方法論を修得させることを目的とする.		
<b>授業の概要</b>	前半では, 分析化学において最も基礎となる分析データの取り扱い方, 溶液内の化学反応および化学平衡, 各種容量分析法の原理と応用を講義する. 後半では, 機器分析法のうち, 各種分光分析, 電気化学分析, クロマトグラフィーなどの分離分析について講義する.		
<b>キーワード</b>	誤差, 正確さ, 精度, 定量分析法, 機器分析法		
<b>関連/科目</b>	『基礎化学実験[Experiments for Basic Chemistry]』(0.5), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(0.3), 『生物統計学[Biological Statistics]』(0.2), 『生物学演習4[Exercise of Biological Science and Technology 4]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 分析を行う上で基礎となる基本的概念とこれらに基づく容量分析法(滴定)を理解する. 2. 各種の機器分析法の原理と手法を理解する.		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入教育, 序論(教科書 p.1~4)</li> <li>2. 水の性質, 酸-塩基, 化学平衡(教科書 p.5~26)</li> <li>3. 酸-塩基平衡(教科書 p.27~34)</li> <li>4. 沈殿平衡, 酸化還元平衡(教科書 p.34~43)</li> <li>5. 錯形成平衡平衡(教科書 p.43~49)</li> <li>6. 容量分析, 重量分析(教科書 p.51~76)</li> <li>7. 分離と濃縮(教科書 p.77~100)</li> <li>8. 誤差, 正確さと精度, 有効数字(教科書 p.113~119), 中間試験 1(到達目標 1 の一部評価)</li> <li>9. 機器分析(1):機器分析概論, 原子スペクトル分析法(教科書 p.121~147)</li> <li>10. 機器分析(2):核磁気共鳴分光法, 電子スピン共鳴(教科書 p.147~167)</li> <li>11. 機器分析(3):分光光度分析法, 蛍光およびりん光分析法(教科書 p.167~189)</li> <li>12. 機器分析(4):赤外吸収分光法, X線分析法と電子分光法(教科書 p.189~205)</li> <li>13. 機器分析(5):電気化学分析法(教科書 p.205~218)</li> <li>14. 機器分析(6):クロマトグラフィー(教科書 p.218~242), 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価)</li> <li>15. 期末試験(到達目標全ての一部評価)</li> <li>16. 答案の返却と講評</li> </ol>		
<b>教科書</b>	赤岩, 柘植, 角田, 原口著「分析化学」丸善		
<b>参考書</b>	大橋, 小熊, 鎌田, 木原著「分析化学-溶液反応を基礎とする」三共出版 小笠原, 細川, 米山著「化学実験における測定とデータ分析の基本」東京化学同人 庄野, 脇田著「入門機器分析化学」三共出版 分析化学研究会(編著)「定量分析」廣川書店 黒田, 杉谷, 渡川著「分析化学」裳華房		

<b>成績評価の方法</b>	到達目標 2 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする. 到達度は目標 1 が中間試験 1(20%)及び期末試験(80%)で, 目標 2 が中間試験 2(20%)及び期末試験(80%)で評価する(出席点は加えない). 中間試験 1(20%)+中間試験 2(20%)+期末試験(60%)で最終評価とする. ただし出席率 80%以上(12 回以上の出席)を期末試験の受験資格とする.		
<b>再試験の有無</b>	なし		
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義中に計算問題を解くことがあるので, 常に計算機(できれば関数電卓)を持参すること.		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する.		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 中村 嘉利:中村嘉利(機械棟 720, Tel:656-7518) (メールアドレス) 中村 嘉利:ynakamu@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 中村 嘉利:水曜日 17:00-18:00		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.</li> <li>2. 到達目標 1 は授業計画 1-8 に, 到達目標 2 は授業計画 9-14 に関係する.</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141290
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	発生工学[Developmental Bioengineering]		
<b>担当教員</b>	宮脇 克行 [MIYAWAKI KATSUYUKI]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物の多様な形はどのようにしてできるのか. 形態形成の基本となる時間軸にそった遺伝子発現調節の仕組みを知り, その工学的応用と最近の動向を理解する.		
<b>授業の概要</b>	動物の形態形成における遺伝子発現調節機構, 関連する遺伝子産物の役割, 動物における遺伝子操作技術について講義する. 授業前半では, 最近の発生工学に関する倫理問題について受講者自ら問題を提起し, レポートとして各自考えをまとめて提出する.		
<b>キーワード</b>	形態形成メカニズム, 遺伝子発現調節, 発生工学		
<b>先行/科目</b>	『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『分子生物学[Molecular Biology]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5), 『生体組織工学[Tissue Engineering]』(0.5), 『医用工学[Medical Technology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モデル生物の発生について理解する(授業計画 1~10).</li> <li>2. 発生メカニズムの基礎を学ぶ(授業計画 11~14).</li> <li>3. 発生工学における工学および生命倫理問題について認識し考える(授業計画 15).</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要</li> <li>2. 生物の系統と特徴</li> <li>3. 原腸形成</li> <li>4. 器官形成</li> <li>5. ボディープラン(生物の基本軸の決定)</li> <li>6. 発生と再生</li> <li>7. 細胞分化</li> <li>8. 中間評価(到達目標 1 の一部評価)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. モデル生物の研究1 ウニ, 両生類</li> <li>10. モデル生物の研究2 ゼブラフィッシュ, 鳥類</li> <li>11. モデル生物の研究3 昆虫類</li> <li>12. モデル生物の研究4 ほ乳類</li> <li>13. モデル生物の研究5 植物</li> <li>14. 幹細胞とクローン</li> <li>15. 発生工学に関する最近のトピックス</li> <li>16. 期末評価(到達目標全ての一部評価)</li> </ol>	
<b>教科書</b>	ベーシックマスター 発生生物学 (Ohmsha), 東中川, 八杉, 西賀, 共編		
<b>参考書</b>	Molecular Biology of the Cell, 第 5 版, Alberts ら, Garland Science, 2008 年		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 3 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする. 達成度は中間試験(30%), 期末試験(60%), レポート(10%)で評価する(出席点は加えない).		
<b>再試験の有無</b>	原則として, 再試験はおこなわない.		
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習, 復習を行い積極的に学習し, ノートを作成すること. 教科書については講義初日に再確認する.		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.		



<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(A), (C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M703)
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>原則として再試験は実施しない。発生工学関係のゲスト講師による講義を含む。</li> <li>授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141300
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦 [Akihiko Tsuji]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	タンパク質や酵素は、特定の生理機能を有する重要な遺伝子資源である。特に生物工学の分野では、動物、植物、微生物のタンパク質や酵素の医学的な応用(診断や治療薬)、また、化学、食品工業、環境浄化への応用が、21 世紀のバイオテクノロジーとして期待されている。この講義では、タンパク質と酵素の遺伝子工学的改変法と化学的改変法について、基本的原理と方法論を理解させることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	前半は、タンパク質の立体構造と機能、バイオインフォマティクスによるタンパク質機能部位の解析を説明し、タンパク質の構造と活性相関の基礎知識を学修させる。後半は、遺伝子工学的手法を用いた改変技術、バクテリアや動物細胞を用いたタンパク質の大量調製法、化学的手法を用いた改変技術、固定化酵素の利用、ペギレーション酵素の利用について、実例をあげながら説明する。		
<b>キーワード</b>	遺伝子工学、化学修飾、酵素、阻害剤、固定化酵素、ペギレーション		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0), 『生体高分子学[Biological Macromolecule]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>タンパク質の構造と機能相関の予測の基本を理解し、説明できること。</li> <li>タンパク質・酵素の遺伝子工学的改変、化学修飾法の基本を理解し、説明できること。</li> <li>最近のタンパク質・酵素の応用例について理解し、説明できること。</li> <li>タンパク質の遺伝子工学的改変の倫理上の問題について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>講義の説明とタンパク質工学概論(教科書 8.2 タンパク質工学の手法 151-155 頁)</li> <li>タンパク質の基本構造(ペプチド結合、<math>\alpha</math>-ヘリックス構造、<math>\beta</math>-シート構造、モチーフ構造、モジュール、ドメイン構造、教科書 1 章 1-25 頁)</li> <li>タンパク質の構造に関与する化学結合とその性質、ハイドロパシープロット(教科書 142-150 頁)</li> <li>ズブチリン E の cDNA 配列とアミノ酸配列の説明、PCR 法の原理(資料配布と PCR プライマー設計に関する宿題)</li> <li>宿題解説とズブチリン E のアミノ酸変異(教科書 6.4.109 頁、変異体作成に関する宿題)</li> <li>宿題解説と発現ベクターの特徴(資料配布)</li> <li>外来性タンパク質の大腸菌における発現システム、動物培養細胞、酵母による発現と問題点(教科書 7 章 112-141 頁)</li> <li>中間試験(到達目標 1, 2 の一部評価)</li> <li>発現タンパク質の精製法(教科書 2 章 26-33 頁)</li> <li>化学的改変方法概略と固定化酵素</li> <li>酵素の架橋反応と限定分解、糖鎖修飾</li> <li>ペギレーションによる酵素改変</li> <li>最近のタンパク質・酵素の応用例紹介</li> <li>中間試験 2(到達目標 3 の一部評価)</li> <li>タンパク質工学の生命倫理についてグループ討論(到達目標 4 の評価)</li> <li>期末試験(到達目標 1, 2 一部評価)</li> </ol>		
<b>教科書</b>	タンパク質 科学と工学:講談社 資料:Web site: <a href="http://peds.oxfordjournals.org/cgi/reprint/10/9/985">http://peds.oxfordjournals.org/cgi/reprint/10/9/985</a>		
<b>参考書</b>	酵素テクノロジー/上島孝之:幸書房 酵素応用のはなし/軽部征夫:日刊工業新聞社 タンパク質科学入門/有坂文雄 酵素工学概論/田中握夫、松野隆一:コロナ社 学習に役立つ Web site: タンパク質データベース Swiss-Prot <a href="http://peds.oxfordjournals.org/cgi/reprint/10/9/985">http://peds.oxfordjournals.org/cgi/reprint/10/9/985</a> , タンパク質立体構造データベース PDB <a href="http://www.rcsb.org/pdb/home/home.do">http://www.rcsb.org/pdb/home/home.do</a> , DNA データバンク DDBJ		

<a href="http://www.ddbj.nig.ac.jp/Welcome-j.html">http://www.ddbj.nig.ac.jp/Welcome-j.html</a>	
<b>成績評価の方法</b>	到達目標 1, 2, 3 の達成度は 2 回の中間試験(20 点、2 回で計 40 点)と期末試験(50 点)で評価する。到達目標 4 は、レポート、グループ討論の評価点(10 点)を成績とする。2 回の中間試験、レポートと期末試験すべて 60% 以上の評価が必要である。ただし、出席率 80% 以上(12 回以上の出席)を期末試験の受験資格とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	生化学 1, 2, 3、生体高分子学を受講し、単位を取得していること。酵素に関する英語の資料を配布するので、専門英語に親しむこと。質問は、オフィスアワーまたは講義終了後に受け付けるので、不明なままに放置しないこと。
<b>JABEE 合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 辻 明彦(化生棟 710, Tel: 088-656-7526) (メールアドレス) tsuji@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>原則として再試験は実施しない。</li> <li>授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141310
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	細胞生物学[Cell Biology]		
<b>担当教員</b>	大政 健史 [Takeshi Omasa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生化学 1, 2, 3 で学んだ生命科学の基礎に基づき、細胞を単位とした理解に基づいた生体の高次の制御機構を理解することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	生命の基本単位である細胞についての知識とその細胞により構築される組織、器官、身体全体との関わりについて講述する。		
<b>キーワード</b>	細胞、細胞小器官、情報伝達		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(0.5), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5), 『生化学3[Biochemistry 3]』(0.5), 『分子生物学[Molecular Biology]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『細胞工学[Cell Technology]』(1.0), 『生体高分子学[Biological Macromolecule]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>細胞の構造と細胞小器官の基本的性質を理解する(授業計画 1-9 による)。</li> <li>細胞の増殖と分化を調節する情報伝達機構を理解する(授業計画 10-15 による)。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>細胞生物学とは :細胞の多様性と共通性</li> <li>生体膜の構造</li> <li>真核細胞の細胞小器官</li> <li>細胞や細胞内構造の精製</li> <li>細胞構造観察</li> <li>膜や細胞小器官へのタンパク質の輸送</li> <li>タンパク質の修飾、折り畳み、品質管理</li> <li>小胞輸送、分泌</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>中間試験(到達目標 1 の一部評価)</li> <li>細胞のシグナル伝達 I</li> <li>細胞のシグナル伝達 II</li> <li>遺伝子発現を調整するシグナル伝達経路</li> <li>真核細胞における細胞周期の制御</li> <li>細胞の誕生、分化、そして死</li> <li>細胞の構築と運動</li> <li>期末試験(到達目標全ての一部評価)</li> </ol>	
<b>教科書</b>	分子細胞生物学/H. LODISH [ほか著]:東京化学同人, 2010. 11, ISBN:9784807907328 高木睦 著「セルプロセッシング工学—抗体医薬から再生医療まで—」コロナ社(2007)		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80% で、到達目標 2 項目が各々 60% 以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は到達目標 1 については、中間試験(40%)、期末試験(60%)で、到達目標 2 については、期末試験(100%)で評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			

<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 機械棟 813、088-656-7408、omasa@bio.tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) omasa@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 12:00-14:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141320
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	細胞工学[Cell Technology]		
<b>担当教員</b>	大政 健史 [Takeshi Omasa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 基礎科学から産業応用まで様々な利用されている動物細胞を中心に取り扱いや応用技術についての講義を行い、細胞工学の基礎的知識を修得する。

**授業の概要** 生理活性蛋白質や抗体などの有用物質の大量生産、また遺伝子治療や細胞医薬品として用いられる細胞の性質について講述し、細胞を活用するための細胞培養法、解析法、取扱法、産業化技術などの様々な技術についての理解も図る。また細胞を応用するに際しての生命倫理的な側面についても討議する。

**キーワード** 細胞培養、バイオ医薬品、抗体医薬、細胞移植、再生医療、再生医学

**先行/科目** 『生化学1[Biochemistry 1]』(0.5), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5), 『生化学3[Biochemistry 3]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(1.0), 『バイオリアクター工学[Bioreactor Engineering]』(1.0)

**関連/科目** 『タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]』(0.5), 『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5)

**到達目標** 1. 動植物細胞の一般的性質と細胞増殖に必須な要件、細胞の培養技術や設備について理解を深める。(授業計画 1-6 及び中間試験と期末試験による)  
2. 物質生産や医療への細胞応用技術についての理解とその倫理的問題点の理解を深める。(授業計画 7-15 及び中間試験と期末試験による)

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| <b>授業の計画</b>              | 9. 細胞培養の工業化                  |
| 1. 動物細胞の基礎知識              | 10. 中間試験(到達目標 1 および 2 の一部評価) |
| 2. 動物細胞の種類とその応用例          | 11. 移植用細胞分離法                 |
| 3. 抗体とハイブリドーマならびに細胞の入手と保存 | 12. 細胞間伝達因子と共培養              |
| 4. 細胞定量分析方法               | 13. 3 次元培養                   |
| 5. 細胞増殖の速度論と物質収支          | 14. 移植用細胞の産業化技術              |
| 6. 細胞培養プロセスの定量解析          | 15. 細胞治療、再生医学の展望と倫理的側面について   |
| 7. 培地設計・担体設計              | 16. 期末試験(到達目標 1 および 2 の一部評価) |
| 8. 細胞大量技術と溶存酸素制御          |                              |

**教科書** セルプロセッシング工学：抗体医薬から再生医療まで／高木睦：コロナ社，2007．10，ISBN:9784339067392

**参考書** 分子細胞生物学(第 6 版)／Lodish ら：東京化学同人，ISBN:9784807907328

**成績評価の方法** 出席率 80%で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(40%)、期末試験(60%)で評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C), (D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 機械棟 813、088-656-7408、omasa@bio.tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) omasa@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 12:00-13:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141330
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	遺伝子工学[Genetic Engineering]		
<b>担当教員</b>	湯浅 恵造 [Keizo Yuasa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 各分野の研究、産業の発展に用いられている遺伝子工学について理解する。

**授業の概要** 前半は基本的な方法、ベクターとその利用について、後半は遺伝子工学がどのような分野に利用されているかについて講義する。

**キーワード** 遺伝子操作法、タンパク質工学

**先行/科目** 『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)

**関連/科目** 『分子生物学[Molecular Biology]』(0.5), 『応用微生物学[Applied Microbiology]』(0.5)

**到達目標** 1. 遺伝子操作法の基礎を理解する(授業計画 1-7)  
2. タンパク質の発現法と遺伝子工学の応用について理解する(授業計画 8-15)

- |                            |                       |                                |
|----------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| <b>授業の計画</b>               | 6. プラスミド、ファージ、トランスポゾン | 12. 塩基配列の検出と読解および PCR とその応用    |
| 1. 遺伝子工学概説(遺伝子工学で用されている生物) | 7. ベクター、中間試験          | 13. 遺伝子発現と遺伝子産物の解析             |
| 2. DNA の構造と複製              | 8. タンパク質産生制御系         | 14. 遺伝子工学関連技術と医療における利用、および倫理問題 |
| 3. 遺伝子の発現                  | 9. 組換え DNA の作製と細胞への導入 | 15. 中間試験                       |
| 4. 制限酵素、メチラーゼ、リガーゼ         | 10. DNA クローニング        | 16. 期末試験                       |
| 5. 核酸の合成、分解、修飾酵素           | 11. 核酸の取り扱いと分離        |                                |

**教科書** 基礎から学ぶ遺伝子工学／田村隆明：羊土社

**参考書** ワトソン 組換え DNA の分子生物学 第 3 版 遺伝子とゲノム／James D. Watson, Amy A. Caudy, Richard M. Myers, Jan A. Witkowski 著 松橋 通生・山田 正夫・兵頭 昌雄・鮎沢 大 監訳：丸善(株)出版事業部

**成績評価の方法** 出席率 80%以上で、到達目標 6 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(30%)、レポート(30%)、期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない)。

**再試験の有無** 原則として再試験はおこなわない。

**受講者へのメッセージ** 予習、復習を行い積極的に学習し、ノートを作成すること。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(A), (C), (D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 間世田(生物棟 817、088-656-7524、maseda@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 金曜日 16:20 ~ 17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141340
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生物環境工学[Environmental Bioengineering]		
<b>担当教員</b>	中村 嘉利 [Yoshitoshi Nakamura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 地球生態環境を保全および修復するための生物環境工学について講述する。生態系の根幹をなすものは環境微生物であることより、生態環境制御のための環境生態学、環境微生物学、微生物制御工学および化学物質のリスクアセスメントについて最新の基礎知識、環境倫理及び環境経済を修得させる。

**授業の概要** 環境生態学、環境微生物学、環境微生物制御学、環境汚染、化学物質のリスクアセスメント、化学物質の環境中での動態解析、環境保全、環境修復、環境調和型微生物制御剤、環境経済及び環境倫理について講述し、生物環境工学の基礎学力の養成を図る。

<b>キーワード</b>	生態学, 環境生物制御, 環境経済
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境生態学を理解する(授業計画 1-2).</li> <li>2. 環境微生物学を理解する(授業計画 3-6).</li> <li>3. 環境微生物制御工学の原理と方法について理解する(授業計画 7-10).</li> <li>4. 環境保全工学, 環境倫理及び環境経済を理解する(授業計画 11-15).</li> </ol>
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境生態学(動物)</li> <li>2. 環境生態学(植物)</li> <li>3. 環境微生物の分類と役割菌</li> <li>4. 環境微生物学(真菌)</li> <li>5. 環境微生物学(細菌)</li> <li>6. 中間試験 1(到達目標 1,2 の40%を評価), レポート1(到達目標 1,2 の30%を評価)</li> <li>7. 環境微生物制御工学(物理的方法)</li> <li>8. 環境微生物制御工学(化学的方法)</li> <li>9. 環境微生物制御工学(生物的方法)</li> <li>10. 中間試験 2(到達目標 3 の40%を評価), レポート2(到達目標 3 の30%を評価)</li> <li>11. 環境制御汚染化学物質と制御方法</li> <li>12. 環境調和型微生物制御剤の分子設計</li> <li>13. 環境ホルモンと環境汚染化学物質をテーマとした環境保全工学と環境倫理</li> <li>14. 環境制御方法に関する最新のトピックスと生物環境工学と環境経済との関連</li> <li>15. 中間試験 3(到達目標 4 の40%を評価), レポート3(到達目標 4 の30%を評価)</li> <li>16. 期末試験(到達目標全ての30%を評価)</li> </ol>
<b>教科書</b>	高麗寛紀他著「微生物制御工学」講談社サイエンティフィック
<b>参考書</b>	E. P. オダム著/三島次郎訳「オダム基礎生態学」培風館
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で, 到達目標4項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験3回(40%), レポート3回(30%), 期末試験1回(30%)で評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義の単元(1~5, 7~9, 11~14)が終わる毎に3回のレポート及び中間試験を実施するので, 毎回の予習・復習は欠かさずに行うこと。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中村嘉利(機械棟720, Tel:656-7518) (メールアドレス) ynakamu@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 17:00-18:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141350
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生体組織工学[Tissue Engineering]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	医療工学の基礎として, 人体を構成する細胞と組織, 器官と器官系の構造や機能を理解させる。		
<b>授業の概要</b>	細胞の基本的構造, 組織の成り立ちと種類, 器官を構成する組織の組み合わせについて解説し, 人体の基本的構築を理解させる。		
<b>キーワード</b>	人体, 組織, 器官		
<b>先行/科目</b>	『基礎生物工学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5), 『細胞工学[Cell Technology]』(0.5)		

<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療工学の基礎となる, 細胞の基本構造, 組織の成り立ち, 器官の構造を理解する(講義計画 1-15 による)。</li> <li>2. 医療工学の基礎となる, 組織や器官の機能を理解する(講義計画 1-15 による)。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論:細胞と組織(総論)</li> <li>2. 血液と血管</li> <li>3. 循環器</li> <li>4. 呼吸器</li> <li>5. 消化器</li> <li>6. 泌尿生殖器</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>7. 1-6 の総合解説とレポート課題出題 (到達目標 1・2 の一部評価)</li> <li>8. 神経系</li> <li>9. 生体防御系</li> <li>10. 8,9 の総合解説とレポート課題出題 (到達目標 1・2 の一部評価)</li> <li>11. 皮膚</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 骨・軟骨</li> <li>13. 内分泌系(脳, 脳下垂体, 甲状腺)</li> <li>14. 内分泌系(膵臓, 副腎, 卵巣, 精巣, 消化器, 心臓)</li> <li>15. 11-14 の総合解説とレポート課題出題 (到達目標 1・2 の一部評価)</li> <li>16. 期末試験(到達目標 1, 2 の一部評価)</li> </ol>
<b>教科書</b>	受講者に講義資料を配布する。		
<b>参考書</b>	境章著「目で見るからだのメカニズム」医学書院, 三木・井上監訳「からだの構造と機能」西村書店		
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で, 到達目標2項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(50%), 期末試験(50%)で評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	配布する資料を用いて予習・復習を励行すること。授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟703)		
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141360
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生物機能設計学[Medicinal Chemistry]		
<b>担当教員</b>	堀 均 [Hitoshi Hori]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本「生物機能設計学」は, 生物機能性分子としての薬物がどのように設計されるかを中心に化学構造と生物機能活性の相関を研究するメディシナルケミストリーを学修することにより所期の目的を達成する。すなわちメディシナルケミストリーはライフサイエンスの手法により解明された生物機能を, 有機化学的手法および原理を駆使して設計し, より普遍的なもの(物質, 分子)を生み出す創造的学問分野である。また本授業目的として, このような生物活性機能発現を目的に設計された薬物分子の分子構造と活性を分子レベルで考え, それを記述することができるようにする。		
<b>授業の概要</b>	生物機能設計学としてのメディシナルケミストリーの基礎的問題である分子構造と生物活性に関して, 分子標的法や定量的構造活性相関(QSAR)法を学びながら修得させ, ゲノム創薬化学を考える。		
<b>キーワード</b>	メディシナルケミストリー, ドラッグデザイン, 定量的構造活性相関		
<b>先行/科目</b>	『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0), 『生物有機化学[Bioorganic Chemistry]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(0.5), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5), 『生体高分子学[Biological Macromolecule]』(0.5), 『分子生物学[Molecular Biology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物機能分子に関わる問題を有機化学原理で解決できる能力を養う(授業計画 1-5 および 7-14 による)。</li> <li>2. 生物機能分子に関わる問題を分子構造に基づいて分子レベルで研究できる能力を養う(授業計画 3-5 および 7-14 による)。</li> <li>3. 臨床試験, 遺伝子治療の倫理的問題を理解する(授業計画 2, 15 による)。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物機能設計学としてのメディシナルケミストリー</li> <li>2. 薬の発見と開発;バイオアッセイ, リードの探索</li> <li>3. リードを見つける。天然物, 構造活性相関(SAR), 等価性。レポート1(到達目標1と2の一部評価)</li> <li>4. ドラッグデザインと薬物代謝</li> </ol>		



5. ドラッグデザインの鍵(1)構造の Fine-tuning
6. 中間試験(到達目標 1 と 2 の一部評価)
7. ドラッグデザインの鍵(2)X 線構造解析, 分子モデリング
8. ドラッグデザイン: ケーススタディ(最新の新薬開発例), レポート 2(到達目標 1 と 2 の一部評価)
9. QSAR(定量的構造活性相関)(1)疎水性, 電子的パラメータ, 立体的パラメータ
10. QSAR(2) Hansch-Fujita 式, 等価体
11. QSAR(3) ケーススタディ(pyranamine 誘導体). レポート 3(到達目標 1 と 2 の一部評価)
12. コンビナトリアルケミストリー: スキャフォールド(足場, “剣山”)
13. 薬物動態学(1): 薬物動態学を考慮したドラッグデザイン
14. 薬物動態学(2): DDS, プロドラッグ
15. 生命倫理: 医薬品の臨床試験, 遺伝子治療. レポート 4(到達目標 3 の一部評価)
16. 期末試験(全到達目標の一部評価)

**教科書** Graham L. Patrick「An Introduction to Medicinal Chemistry 最新版」Oxford Univ. Press, または日本語版『メイジナルケミストリー』(北川勲, 柴崎正勝, 富岡清 監訳, 丸善株式会社)

**参考書** David A. Williams & Thomas L. Lemke 「Foye's Principles of Medicinal Chemistry, 6th Ed」2008, Lippincott Williams & Wilkins.  
C. G. Wermuth (Ed)「The Practice of Medicinal Chemistry, 2nd Ed」2003, Academic Pr.  
Richard B. Silverman 「The Organic Chemistry of Drug Design and Drug Action, 2nd Ed」2004, Elsevier

**成績評価の方法** 出席率 80%以上で, 到達目標各項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする. 達成度は到達目標各項目について中間試験(30%), レポート(40%), 期末試験(30%)で評価する.

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 有機化学, 生化学の教科書を参考書として用いる. また分子模型の用意.

**JABEE合格** 成績評価と同じ.

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(A), (C), (D)に対応する.

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 堀 均(M 棟 821, 088-656-7514, hori@bio.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない. 2. 授業を受ける際には 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141370
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	医用工学[Medical Technology]		
<b>担当教員</b>	山下 菊治, 太田 雅也, 村松 和明, 山本 圭 [Kikuji Yamashita, Masaya Ohta, Kazuaki Muramatsu, Kei Yamamoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	医用工学の最近の動向を知り, そこで用いられる様々な先端技術や器機の原理及び実際の操作などを理解する. また同時に, 医療領域などの社会に対する生物工学の貢献についても理解する.		
<b>授業の概要</b>	医用工学の最近の動向と実際, またその領域での生物工学の役割と将来性について講義する.		
<b>キーワード</b>	脂質膜, 組織誘導, 医用工学, 再生医療		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0), 『細胞生物学[Cell Biology]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『細胞工学[Cell Technology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 最近の医用工学の進歩における生物工学の役割について理解する(講義計画 1-15 による). 2. バイオテクノロジーにおける最新の分析手法や分析機器の原理と応用例について理解する(講義計画 1-15 による).		
<b>授業の計画</b>	4. 運動器系の医用工学	5. 消化器・循環器系の医用工学	6. 泌尿器・感覚器系の医用工学
1. 脂質膜の構造と機能	2. 脂質膜の環境適応性とその医学・工学的応用	3. 生体組織の修復再生機構	7. 1-6 の総合解説とレポート課題出題(到達目標 1・2 の一部評価)

8. 内分泌系(脳, 脳下垂体, 甲状腺)の医用工学
9. 内分泌系(副腎, 卵巣, 精巣)の医用工学
10. 内分泌系(膵臓, 消化器, 心臓)の医用工学
11. 8-10 の総合解説とレポート課題出題(到達目標 1・2 の一部評価)
12. 皮膚: 構造と再生医療技術
13. 骨: 構造と再生医療技術
14. 軟骨: 構造と再生医療技術
15. 12-14 の総合解説とレポート課題出題(到達目標 1・2 の一部評価)
16. 期末試験(到達目標 1・2 の一部評価)

**教科書** 受講者に講義資料を配布する.

**参考書** 特に指定しない.

**成績評価の方法** 出席率 80%以上で, 到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする. 達成度はレポート(50%), 期末試験(50%)で評価する.

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 各講師の初回授業時に配布する資料を用いて予習・復習を励行すること. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

**JABEE合格** 成績評価と同じ.

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C), (D)に対応する.

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物事務室(M 棟 703)
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない.

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141380
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	免疫工学[Immunotechnology]		
<b>担当教員</b>	長宗 秀明 [Hideaki Nagamune]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 感染症やアレルギー疾患などに深く関与する, 免疫の概念とメカニズムについて分子レベルで理解を深める. また近年多用される, 免疫学的手法に基づく検査法や測定法, 免疫に関連する生理活性分子や免疫細胞の医学・工学的な応用技術についても理解を図る.

**授業の概要** 免疫に関わる様々な分子の構造・機能・連携の説明を通して, 免疫の分子論的な仕組みを解説し, その概念の理解を図る. また免疫の異常による疾患や感染免疫についても解説し, その理解を深める. さらに, 免疫学に基づいた微量物質の定量法や細胞/組織診断法に加え, 抗体や活性化免疫細胞を用いた医薬品や治療法など, タンパク質工学や細胞工学的な応用例についても解説する.

**キーワード** 免疫, 感染, 抗体, 微生物

**先行/科目** 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0), 『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0), 『微生物学1[Microbiology 1]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(1.0)

**関連/科目** 『微生物学2[Microbiology 2]』(1.0), 『細胞工学[Cell Technology]』(1.0)

**到達目標**

1. 免疫の概念や免疫に関わる分子の構造と機能について理解する. 感染症と免疫の関係を理解する.(授業計画 1-9, 15)
2. 免疫学的な検査法や測定法, 免疫関連分子の医学・工学的な応用技術についても理解する.(授業計画 10-16)

**授業の計画**

1. 免疫序論 (第 28 章の I, 第 29 章の I を予習のこと)
2. 感染症の予防 (第 28 章の II を予習のこと)
3. 免疫疾患 (第 28 章の III を予習のこと)
4. パターン 認識受容体など(先天性免疫)(第 30 章の I を予習のこと)
5. 抗体と補体 (第 29 章の IV, 第 30 章の III を予習のこと)
6. 主要組織適合抗原と T 細胞受容体 (第 29 章の II-III, 第 30 章の II, IV を予習のこと)
7. 抗原提示と後天性免疫の誘導 (第 29 章の II-III, 第 30 章の V を予習のこと)
8. サイトカインとケモカイン (第 30 章の V を予習のこと)
9. 到達目標 1 に関するまとめと中間試験及びレポート 1 出題 (到達目標 1 の評価)

10.	感染症の免疫学的検査法など (第 31 章を予習のこと)
11.	免疫化学的な微量物質測定法や診断法 (第 31 章を予習のこと)
12.	ワクチン (第 28 章の II, 配付資料を予習のこと)
13.	抗体やサイトカイン/ケモカインの医薬品への応用 (資料配付を予習のこと)
14.	活性化免疫細胞の医療応用など (資料配付を予習のこと)
15.	講義の総括
16.	期末試験及びレポート2の出題 (到達目標 2 の評価)
<b>教科書</b>	「Brock Biology of Microorganisms」13th Edition, Global Edition / M.T. Madigan, J.M. Martinko, D.A. Stahl, D.P. Clark: Pearson Education Inc., ISBN:978-0321735515
<b>参考書</b>	必要に応じ, 受講者に講義資料を配付あるいは紹介する。
<b>成績評価の方法</b>	到達目標1の到達度は中間試験(90%)とレポート(10%)で, 到達目標2の到達度は期末試験(90%)とレポート(10%)評価する。2項目とも到達度 60%以上かつ出席率 80%以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験は原則 1 回行う。
<b>受講者へのメッセージ</b>	本講義では英語教科書を使用する。この教科書出版社(Pearson Education)の学習支援 Web サイトも利用し, 授業の理解と単位取得のため, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習を行うこと。Pearson Education 社の学習支援 Web サイト: <a href="http://www.microbiologyplace.com">http://www.microbiologyplace.com</a> 教科書に綴じ込まれている Web サイトの登録番号を用いて登録すると, 学習支援システムが利用できる。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 長宗秀明(化生棟 707, Tel:088-656-7525, E-mail:nagamune@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) nagamune@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141390
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	バイオインフォマティクス[Bioinformatics]		
<b>担当教員</b>	友安 俊文 [Toshifumi Tomoyasu]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	バイオインフォマティクスやプロテオミクスについて幅広く理解し修得することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	ゲノムプロジェクトにより人類を含む多くの生命体の遺伝子情報が解読された。その結果, これら膨大な情報を解析する為にバイオインフォマティクス(広義にはプロテオミクスを含む)と呼ばれる学問領域が形成され, ライフサイエンス研究において欠かせない技術になっている。本講義では, バイオインフォマティクスの利用方法について紹介する。		
<b>キーワード</b>	バイオインフォマティクス, プロテオミクス, 遺伝子ネットワーク, タンパク質の相互作用		
<b>先行/科目</b>	『基礎生物工学[Basic Bioengineering]』(0.5), 『生化学1[Biochemistry 1]』(0.5), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『分子生物学[Molecular Biology]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. バイオインフォマティクスの意義とその解析方法について理解する。 2. プロテオミクスの解析方法とその利用法を理解する。		
<b>授業の計画</b>	1. コンピュータ時代の生物学。 2. 生物学的問題のコンピュータ的解法。 3. 生物学研究に役立つウェブ。 4. シークエンス解析・ペアワイズアライメント・データベースサーチ。レポート1 (到達目標 1 の一部評価) 5. マルチプルシークエンスアライメント, 系統樹, プロフィール。 6. プロテオミクスとは? 中間試験 1 (到達目標 1 の一部評価) 7. 情報生物学とプロテオミクス。		

8.	プロテームの可視化と質量分析による同定。
9.	ペプチドマスフィンガープリンティング(PMF)とMS/MSによる配列分析。レポート2 (到達目標 2 の一部評価)
10.	プロテオーム解析の応用。
11.	定量解析・翻訳後修飾の解析。中間試験 2 (到達目標 2 の一部評価)
12.	タンパク質間相互作用の解析。
13.	機能ゲノムにおける新しい技術。
14.	アミノ酸シークエンスからのタンパク質構造, 機能の予測。
15.	質問・総括。
16.	期末試験 (到達目標全ての一部評価)。
<b>教科書</b>	教科書は使用しない。
<b>参考書</b>	基本から先端までの遺伝子工学がわかる / 山本雅: 羊土社, 2001. 11, ISBN:4-89706-990-4 バイオインフォマティクス: ゲノム配列から機能解析へ / デービッド・W. マウント: メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2005. 12, ISBN:4-89592-426-2 プロテオーム解析: 理論と方法 / 平野久: 東京化学同人, 2001. 3, ISBN:4-8079-0542-2 ポストゲノム時代のタンパク質科学: 構造・機能・ゲノミクス / Arthur M. Lesk: 化学同人, 2007. 1, ISBN:978-4-7598-1079
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	プリントを使用する。次の講義に使用するプリントを講義の終わりに配布する。
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は, レポート(10%), 中間試験(40%), 期末試験(50%)で評価する。
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義で理解しにくい点は, 参考書等で学習するとともに直接質問すること。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学教育目標 (C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 友安 俊文(化生棟 708, 088-656-9213, tomoyasu@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) tomoyasu@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。止む無く欠席する場合は, その理由を事前ないしは事後に担当教員まで必ず連絡すること。 2. 1~5 回目が到達目標 1, 6~12 回目が到達目標 2 の授業である。13 と 14 回目の授業は到達目標 1, 2 の内容を含む複合領域である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141400
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	放射化学及び放射線化学[RadioChemistry and Radiation Chemistry]		
<b>担当教員</b>	堀 均, 三好 弘一 [Hitoshi Hori, Hirokazu Miyoshi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	放射線および関連する物質の物理的・化学的性質とその利用, 安全性について理解すること。		
<b>授業の概要</b>	放射線および関連する物質の物理的・化学的性質とその利用にともなう放射線測定, トレーサ技術など放射線を利用した生物学実験法について理解する。放射線の生体への影響について理解する。		
<b>キーワード</b>	放射線, 放射化学, 取扱技術と管理		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 放射性同位元素を利用した実験技術を理解する(授業計画 1~5)。 2. 光を利用した実験技術を理解する(授業計画 6~9)。 3. 放射線の生体への影響について理解する(授業計画 11~15)。		
<b>授業の計画</b>	1. 生物工学と放射線について 放射線の利用概説 2. 原子核の構造, 放射性核種, 核反応, 核分裂, 核融合反応		

3.	$\gamma$ , X, $\beta$ , $\alpha$ 線と物質の相互作用について
4.	RI 研究施設見学
5.	放射線と生体の相互作用, 放射線の管理
6.	核酸の標識方法, ラジオイソトープ法, ラジオオートグラフィ
7.	核酸の標識方法, 蛍光など
8.	タンパク質の蛍光, RI 標識法(タンパク質合成反応を利用した標識)
9.	タンパク質の蛍光, RI 標識法(化学的標識方法)
10.	タンパク質のダイナミクス測定法/中間試験 (到達目標 1,2 の一部評価)
11.	放射線の生体への影響 1:放射線生物学の基礎, 細胞増殖, 細胞死モニター法
12.	放射線の生体への影響 2:放射線腫瘍学の基礎, 細胞の増殖能分析法
13.	放射線の生体への影響 3:低酸素細胞放射線増感剤およびホウ素中性子捕捉療法剤
14.	放射線の生体への影響 4:最近の進歩について 1
15.	放射線の生体への影響 5:最近の進歩について 2
16.	期末試験(到達目標 3 の一部評価)
<b>教科書</b>	受講者に講義資料を配付する予定(教科書を指定する場合もある)。
<b>参考書</b>	特に指定しない。
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上の者に対し, 到達目標の 2 項目がそれぞれ 60%以上達成されている場合をもって合格とする。中間試験 1(30%), 中間試験 2(30%), 期末試験(40%)で評価する。
<b>再試験の有無</b>	原則として, 再試験はおこなわない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	専用のノートを作成すること。ノートを用いた試験を行なう。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 堀 均 (メールアドレス) 堀 均: hori@bio.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。 2. 授業を受ける際には 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141410
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	材料科学[Material Science]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物工学に関係する各種材料の種類, 構造, 機能, 性質, 相互作用に関する知識を修得する。		
<b>授業の概要</b>	各種生物関連材料(有機材料, 生物材料, 無機材料, 高分子材料, 金属材料, 等)の化学的性質, 物理的性質, 生物学的性質並びにその設計方法, 製造方法, 産業応用等について講述する。		
<b>キーワード</b>	生物材料, 有機材料, 高分子材料, 無機材料, 金属材料		
<b>先行/科目</b>	『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 嫌気バイオプロセスの理解を深める(授業計画 1-5 による) 2. 発酵生産と工業化への理解を深める(授業計画 6-10 による) 3. 生体材料の理解を深める(授業計画 11-15 による)		
<b>授業の計画</b>	1. 生物材料概論(乳酸発酵と工業化) 2. 生物材料(嫌気バイオプロセスの基礎) 3. 生物材料(嫌気バイオプロセスの応用) 4. 生物材料(嫌気バイオプロセスの工業化) 5. 中間試験 1(到達目標 1 の 40%を評価), レポート 1(到達目標 1 の 30%を評価) 6. 生物材料概論(発酵生産と工業化)		

7.	生物材料(酒類発酵)
8.	生物材料(食品発酵)
9.	生物材料(発酵工業化)
10.	中間試験 2(到達目標 2 の 40%を評価), レポート 2(到達目標 2 の 30%を評価)
11.	生体材料概論
12.	生体材料(生体適合性材料)
13.	生体材料(細胞シート工学)
14.	生体材料(将来技術と展望)
15.	中間試験 3(到達目標 3 の 40%を評価), レポート 3(到達目標 3 の 30%を評価)
16.	期末試験(到達目標すべての 30%を評価)
<b>教科書</b>	なし
<b>参考書</b>	なし
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標の 3 項目がそれぞれ 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験 3 回(40%), レポート 3 回(30%), 期末試験 1 回(30%)で評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	「有機化学 1」, 「有機化学 2」, 「生化学 1」, 「生化学 2」の知識が不可欠である。「有機化学 1」, 「有機化学 2」, 「生化学 1」, 「生化学 2」の履修を前提として講義を行う。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物事務室(M 棟 703)
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141420
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	専門外国語[Foreign Language for Engineers]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物工学の基礎と応用の研究を進める上で, 英語が基本外国語として使用される。本授業では科学英語, 特に生命科学・生物工学関連の英語能力を高めるため, 英語で学ぶ科学史や歴史的な科学論文例, 英文手紙の書き方, 英語論文の書き方, 専門雑誌への論文投稿法について, 講義による解説及び演習を行う。		
<b>授業の概要</b>	生命科学関連の英語教科書や外国論文などの例を示し, 発音と読解力を養成するために学生に音読, 和訳及び内容の説明などを行わせ, さらに解説を行う。		
<b>キーワード</b>	英語, 論文作成, 論文読解		
<b>先行/科目</b>	『化学英語基礎[Chemical English]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『雑誌講義[Seminar on Chemical Science and Technology]』(1.0), 『コミュニケーション[Communication]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 英語で書かれた科学の歴史や科学の歴史的論文を通し, 生物工学関連の英語論文の読み方を修得する(授業計画 1-5)。 2. 英語での手紙の書き方, インターネット情報と科学論文を通して「知の国」について修得する(授業計画 6-12)。 3. 英語科学論文の読み方・書き方を修得する(授業計画 13-15)。		
<b>授業の計画</b>	1. 英語で学ぶ科学史:一般科学 2. 英語で学ぶ科学史:工業化学, 1-2 に関するレポート課題出題 3. 英語で学ぶ科学史:生命化学 4. 英語で学ぶ科学史:生化学, 3-4 に関するレポート課題出題 5. 英語での手紙や履歴書の書き方 6. 英語論文の構成・規則・書き方, 5-6 に関するレポート課題出題		



7.	歴史的科学論文の例:生化学領域論文
8.	歴史的科学論文の例:免疫学領域論文, 7-8 に関するレポート課題出題
9.	歴史的科学論文の例:有機化学領域論文
10.	歴史的科学論文の例:医薬品化学領域論文, 9-10 に関するレポート課題出題
11.	歴史的科学論文の例:発酵工学領域論文
12.	歴史的科学論文の例:細胞工学領域論文, 11-12 に関するレポート課題出題
13.	英文雑誌の種類や編集・査読制度について
14.	英文雑誌への投稿方法の実際, 13-14 に関するレポート課題出題
15.	総合解説
16.	期末試験 (到達目標 1,2 の一部評価)
<b>教科書</b>	受講者に演習/講義資料を配付する。
<b>参考書</b>	千原秀昭ら著「化学英語の活用辞典」化学同人
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標の 2 項目がそれぞれ 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は期末試験 20%, レポート 80%で評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	本科目は期末試験とレポート課題によって総合評価する。演習を含めた講義形式で行うので, 配布される資料の音読, 和訳, 内容の理解など毎回予習・復習は欠かさず行うこと。授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	1. 英語辞書を持参すること。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5141430
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	地球環境化学[Environmental Chemistry]		
<b>担当教員</b>	藪谷 智規 [Tomoki Yabutani]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	われわれの存在する地球で生じる諸事象を正確に把握するために, 化学の知識と経験をもとに取り組み学習が環境化学である。本講義では, 環境内の事象への理解を深めるための方法論を論じる。また, 地球環境は時々刻々変化している。そこで, 現在の「地球」を知りうるために, 最新の環境化学に関するトピックスについて確認する。		
<b>授業の概要</b>	地球環境を精確に把握するための方法(データ採取および解析)について講義する。また, 最新の環境化学に関するトピックスについて講演する。		
<b>キーワード</b>	環境問題, リサイクル		
<b>到達目標</b>	1. 地球環境に対する理解を深める。(授業計画 1-15 および定期試験による) 2. 環境を把握するためのデータの採取, 解析法について理解する。 3. 最新の地球環境に関して把握する		
<b>授業の計画</b>	1. 総論 2. 化学物質の概念(教科書 1-15 ページを参照して予習しておくこと) 3. 化学物質の概念(化学物質の有害性, 教科書 1-15 ページを参照して予習しておくこと) 4. 地球環境の成立 (地球の誕生, 進化, 産業の発展, 教科書 16-25 を参照して予習しておくこと) 5. 地球環境の成立 (公害問題, 教科書 16-25 を参照して予習しておくこと) 6. 気候変動と温暖化(概論, 教科書 35-45 ページを参照して予習しておくこと) 7. 気候変動と温暖化(最新のトピックス, 教科書 35-45 ページを参照して予習しておくこと) 8. 中間試験(教育目標 1-3 の評価) 9. 大気環境科学 (オゾンホール, 酸性雨, 教科書 46-64 ページを参照して予習しておくこと) 10. 大気環境科学 (都市大気汚染, 教科書 46-64 ページを参照して予習しておくこと)		

11.	水の環境(各論 教科書 68-83 ページを参照して予習しておくこと)
12.	土壌と生物の環境科学(概論 教科書 86-103 ページを参照して予習しておくこと)
13.	土壌と生物の環境科学(概論 教科書 86-103 ページを参照して予習しておくこと)
14.	有害化学物質汚染と環境リスク (ダイオキシン 教科書 106-127 ページを参照して予習しておくこと)
15.	環境問題に関するトピックス(適宜資料を配付するとともに教科書を参照する)
16.	定期試験(教育目標 1-3 の総合評価)
<b>教科書</b>	地球の環境と化学物質/安原昭夫, 小田淳子:三共出版, 2007. 9, ISBN:978-4782705438
<b>参考書</b>	適宜, プリントを配布する。
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	教科書をもとに予習資料(補足資料・演習問題)を配布する。また, 次回の授業で行われる内容をあらかじめ熟読しておくこと。
<b>成績評価の方法</b>	講義に対する理解力は, 講義への参加, レポートの提出状況などの「講義の理解への取り組み」ならびに「中間試験」と「定期試験」の成績を総合的に評価することによって判定される。成績評価に対する「講義への参加状況と中間試験の成績」と「定期試験の成績」の割合は 4:6 とする。到達目標 1 と到達目標 2 は, 第 1 回～第 13 回の講義が, が, 到達目標 3 は第 14, 15 回の講義が関連する。到達目標の達成度は基本的に中間試験と最終試験により評価する。60 点以上を合格とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習レポートの提出と授業内で行う小テストを適宜実施する。予習レポートとは次回行う講義の概要について自身で調べて来るものであり, 小テストは授業内容に関連した部分を答えるものである。なお, 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をした上で授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 藪谷 智規 (メールアドレス) yabutani@chem.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00-18:00(それ以外の時間でも対応出来る場合があります。)
<b>備考</b>	1. 環境科学関係(環境行政, 専門家)のゲストスピーカーによる講義を含むことがある。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5141440
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	安全工学[Safety Engineering]		
<b>担当教員</b>	教務委員会委員 化学応用工学科, 榎 孝政 [Kagakuouyoukougakka Kyomuiinkaiin, MAKI TAKAMASA]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	化学物質は人間の生活に欠かせないものであるが, 取り扱いを誤ると人体や環境を脅かす有害な物質として作用する。安全・健康問題に対して, 化学物質の安全からプロセスや機器の安全, 化学企業や業界が行う対策まで具体的な事例を通じて理解させる。		
<b>授業の概要</b>	化学物質の安全管理の基本を理解し, 世界および日本の化学工業で起きた事故のケーススタディーを中心に安全の原理, 原則の理解を進める。また地球環境問題と世界標準について学び, グローバルな視点から安全の背景を概観する。		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	1. 化学物質の安全管理の基本を理解する。 2. 化学工業で起きた事故を通して安全の原理・原則を理解する。 3. 地球環境と世界基準について理解を深める。		
<b>授業の計画</b>	1. 化学物質の安全管理: 化学物質の爆発・火災危険性, 危険物とその種類, 化学物質の爆発・火災危険性の事前評価 2. 化学業界のレスポンス・ケア活動: PRTR, MSDS など 3. 地球環境問題 4. 世界標準: 国際標準規格 ISO9000, 14000 を中心に 5. 重大事故に学ぶ: 世界と日本の重大事故 6. レポート作成(最終試験)		

<b>教科書</b>	特に使用しない、各種の資料、教材を適宜配布し講義に使用する。
<b>参考書</b>	化学工場の安全管理総覧(中央労働災害防止協会)、化学安全ガイド(丸善)、第4版、石油化学工業の現状(石油化学工業協会)など
<b>成績評価の方法</b>	講義への参加状況(質疑応答:3割)およびレポート(最終試験:7割)の内容を総合して行う。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、その講義時間に相当する時間数の予習と復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 化学応用工学科
<b>備考</b>	1. 一方的な講義ではなく、質問を歓迎し、講師から学生への問いかけ応答を評価する。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141450
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	バイオリアクター工学[Bioreactor Engineering]		
<b>担当教員</b>	中村 嘉利 [Yoshitoshi Nakamura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	酵素反応速度論、リアクター内の物理現象、酵素の固定化法及び固定化酵素の性能変化等を理解させ、バイオリアクターの設計に必要な基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	均相系及び固定化酵素の反応速度論を解説し、酵素反応用バイオリアクター設計の基礎について講述する。		
<b>キーワード</b>	生体触媒、固定化酵素、生物反応器		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)、『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]』(1.0)、『生体高分子学[Biological Macromolecule]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体触媒(酵素)の特性を理解する(授業計画 1-2)。</li> <li>2. 酵素反応速度論を修得する(授業計画 3-7)。</li> <li>3. 酵素の固定化法と固定化酵素の性質を理解する(授業計画 8-15)。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 酵素反応プロセスと生物化学工学</li> <li>2. 酵素反応の特異性</li> <li>3. Michaelis-Menten 式と動力学的定数の算出法</li> <li>4. 阻害剤が存在する場合の速度式</li> <li>5. 多基質反応のメカニズムと速度式</li> <li>6. 阻害剤が存在する場合の酵素反応の経時変化</li> <li>7. 中間試験</li> <li>8. バイオリアクター内の物理現象</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. バイオリアクターの分類と特徴</li> <li>10. 酵素の固定化法</li> <li>11. 固定化酵素の性能に及ぼす諸因子</li> <li>12. 活性・反応特異性に及ぼす因子</li> <li>13. リアクターの性能に及ぼす因子</li> <li>14. バイオリアクターの設計</li> <li>15. 総括</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	海野 肇・中西一弘・白神直弘・丹治保典共著「新版生物化学工学」講談社サイエンティフィック		
<b>参考書</b>	堀越弘毅・虎谷哲夫・北爪智哉・青野力三共著「酵素 科学と工学」講談社サイエンティフィック 山根恒男著「生物反応工学」産業図書		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 3 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。到達度は中間試験(40%)、期末試験(40%)、レポート(20%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	課題レポートが分らない場合は質問をすること(オフィスアワー等を利用)。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(D)に対応する。		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 中村嘉利(機械棟 720, Tel:656-7518) (メールアドレス) ynakamu@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 17:00-18:00
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 成績評価に対する平常点と試験の比率は 50:50 とする。平常点には講義への参加状況、演習への回答及びレポートの提出状況と内容を含み、試験は中間テストと最終試験の成績を含む。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141460
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	コミュニケーション[Communication]		
<b>担当教員</b>	中野 政男		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	工学技術者に要求されるコミュニケーション能力、情報活用能力の基礎を身につける。		
<b>授業の概要</b>	人との話し合いにおいて、成功の大きな要素である「笑顔で自分から情報を発信することの大切さ」を身に付けるとともに、コミュニケーション能力の基礎の習得を図る。また、専門領域に亘る「情報を上手く入手し整理する仕方」について、講師の経験を交えて説明し、実習を通して習熟を図る。		
<b>キーワード</b>	コミュニケーション、笑顔、情報活用能力		
<b>先行/科目</b>	『電子計算機概論及び演習[Introduction to Digital Computers and Programming Practice]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション能力の基礎を身に付ける(授業計画 1-4)。</li> <li>2. 科学文献・情報検索技術の修得(授業計画 5-9)。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの意義</li> <li>2. 対人交流の実際(心の持ちよう・態度、話し方・聞き方、コミュニケーションデザイン)</li> <li>3. 笑いの効能、体験</li> <li>4. 自分スタイルの確立/エニアグラム診断、グループ討議</li> <li>5. 情報検索の意義、心得</li> <li>6. 情報検索の実際(図書館メニュー、各種データベース、特許、インターネットなど)</li> <li>7. 検索実習(J-Dream II, 自由検索/科学技術文献および特許検索など)</li> <li>8. 情報の整理活用術(Excel, 携帯情報端末、カードなど)</li> <li>9. 論文の書き方</li> <li>10. レポート提出(検索関係)</li> <li>11. 発表(笑顔テスト)、試験(対人交流および情報検索)</li> </ol>		
<b>教科書</b>	教材はその都度提供する。		
<b>参考書</b>	ビジネス・コミュニケーション/林 香都恵:生産性出版, 2006 コミュニケーションのノウハウ・ドゥハウ/野口吉昭編 HR インスティテュート著:PHP 研究所, 2005 笑いの健康学/伊丹仁朗:三省堂, 1999 JDream II 検索ガイド/ジーサーチ(G-search) 最新版, Scifinder 検索ガイド(化学情報協会) 最新版		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は①笑顔テスト、②対人交流筆記テスト、③情報検索筆記テスト、④JDream II 検索レポート、および⑤自由検索レポートの 5 種で各 20%、合計 100%で評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	笑顔へのいざない、情報検索、Excel/Word/インターネットの使用		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物事務室(M 棟 703)		

備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ゲストスピーカー(情報検索サービス機関講師)を招聘する予定。</li> <li>2. 授業では、Excel 及び Word に慣れ、徳島大学図書館メニューを下見しておくことが望ましい。</li> <li>3. 授業を受ける際には、1 時間の授業時間毎に 1 時間の予習と 1 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>
----	--

開講学期	3年・前期	時間割番号	5141470
科目分野	学部共通科目		
選必区分	必修		
科目名	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics]		
担当教員	田中 住典 [Suminori Tanaka]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)

授業の目的	技術者としての意識と誇りを身につけ、工学倫理を守るために必要な知識と知恵を学ぶ。		
授業の概要	技術者に要求される倫理とは何か?比較研究と事例研究を中心に学ぶ。その上で、安全、環境、法規、知的財産権などに関連して、具体的にどのようなことが問題になるのか?実践的にどのように対処すればよいか?講師たちの技術者としての実体験をもとに、出来るだけ双方向的な授業をこころみる。工学倫理というむずかしいテーマにやさしく迫る。		
キーワード	安全、責任、リスク		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工学倫理についての理解(授業計画 1-9).</li> <li>2. 技術者としての誇りと責任感(授業計画 10-12).</li> <li>3. 関連問題についての理解(授業計画 13-15).</li> <li>4. 実践的対応力(授業計画 15).</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 比較論のこころみ</li> <li>3. 事例研究 1(グループ討議と発表)</li> <li>4. 事例研究 2(レポートと小テスト)</li> <li>5. 技術者倫理と技術倫理</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 安全と工学倫理</li> <li>7. 環境・資源問題と工学倫理</li> <li>8. リスク評価と技術者</li> <li>9. 事例研究 3(レポートと発表・討議)</li> <li>10. 技術者と法規</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 製造物責任</li> <li>12. 知的財産権と工学倫理</li> <li>13. 事例研究 4(レポートと発表・討議)</li> <li>14. 国際工学倫理</li> <li>15. 実践的技術者倫理</li> </ol>
教科書			
参考書	適宜紹介する。		
成績評価の方法	プレゼンテーション評価 50%, レポート・小テスト 50%		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ			
JABEE合格	成績評価と同じ。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(A)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5141730
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	アグリテクノサイエンス I [Agritechnological Science I]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)/他学部・他学科も履修可
授業の目的	野菜・花きの科学について。		
授業の概要	徳島県において生産されている野菜や花きを中心に、それらの分類、育種、生理、栽培技術などの基本知識およびその事例について講述する。		
キーワード	野菜栽培学、土壤肥料学、病害とその防除、虫害とその防除		

先行/科目	『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0)、『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)、『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)、『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0)、『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)		
関連/科目	『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5)、『分子生物学[Molecular Biology]』(0.5)、『バイオインフォマティクス[Bioinformatics]』(0.5)、『アグリテクノサイエンス II [Agritechnological Science II]』(1.0)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農林水産業について、その産業構造・生産・流通の概要を学ぶ。</li> <li>2. 主要な野菜について、その来歴・育種・生理・生態的特性、さらに最新の栽培技術や土作り技術について学ぶ。</li> <li>3. 野菜の主要な病虫害(ウイルスや細菌による病気・昆虫やダニの害)について、その種類・特徴・発生生態と、病気の診断法・最新の防除・管理技術について学ぶ。</li> <li>4. 花きの植物学的特性や分類・育種・生理、栽培技術について学ぶ。</li> <li>5. 野菜や花きの市場と流通、ブランド戦略について学ぶ。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 徳島県産農林水産物概論</li> <li>2. 農業概論 農業経営 1</li> <li>3. 農業概論 農業経営 2</li> <li>4. 作物の科学 総論</li> <li>5. 野菜の科学 根菜類</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 野菜の科学 葉菜類</li> <li>7. 野菜の科学 果菜類</li> <li>8. 花きの科学 総論</li> <li>9. 野菜の科学 病害 1</li> <li>10. 野菜の科学 病害 2</li> <li>11. 野菜の科学 害虫 1</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 野菜の科学 害虫 2</li> <li>13. 土壤肥料の科学 土壤</li> <li>14. 土壤肥料の科学 肥料</li> <li>15. 農薬の科学 農薬</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>
教科書	資料を配布		
参考書	配布資料に記載		
成績評価の方法	出席率 80%以上で、到達目標 5 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(60%)、期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない)。		
再試験の有無	原則として行わない。		
受講者へのメッセージ	予習、復習を行い積極的に学習し、ノートを作成すること。		
JABEE合格	成績評価と同じ。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C), (D)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として再試験は実施しない。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5141740
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	アグリテクノサイエンス II [Agritechnological Science II]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)/他学部・他学科も履修可
授業の目的	果樹・林産物の科学について。		
授業の概要	徳島県において生産されている果樹やキノコなどの林産物を中心に、それらの分類、育種、生理、栽培技術などの基本知識およびその事例について講述する。		
キーワード	常緑果樹、落葉果樹、病害とその防除、虫害とその防除		
先行/科目	『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0)、『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)、『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)、『アグリテクノサイエンス I [Agritechnological Science I]』(1.0)、『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)		
関連/科目	『生化学3[Biochemistry 3]』(0.5)、『分子生物学[Molecular Biology]』(0.5)、『バイオインフォマティクス[Bioinformatics]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な果樹について、その分類・育種・生理・生態的特性、さらに最新の栽培技術や土作り技術を学ぶ。</li> <li>2. 果樹の主要な病虫害(ウイルスや細菌による病気や昆虫やダニの害)について、その種類・特徴・発生生態と、病気の診断法・最新の防除・管理技術について学ぶ。</li> <li>3. 果樹の市場と流通、ブランド戦略について学ぶ</li> <li>4. 主要な食用キノコについて、その分類・育種・生理・病理、そして最新の培養・栽培技術を学ぶ。</li> </ol>		



<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 畜産物の科学 養豚	<b>12.</b> 水産概論
<b>1.</b> 果樹の科学 常緑果樹	<b>7.</b> 畜産物の科学 肉牛	<b>13.</b> 水産物の科学 海産魚
<b>2.</b> 果樹の科学 落葉果樹	<b>8.</b> 畜産物の科学 飼養管理	<b>14.</b> 水産物の科学 淡水魚
<b>3.</b> 果樹の科学 土壌・肥料	<b>9.</b> 林業概論 林業経営	<b>15.</b> 水産物の科学 海藻類
<b>4.</b> 果樹の科学 病害虫	<b>10.</b> 林産物の科学 キノコ	<b>16.</b> 期末試験
<b>5.</b> 畜産物の科学 養鶏	<b>11.</b> 林産物の科学 木材	
<b>教科書</b>	講義内容に応じて資料を配布	
<b>参考書</b>	配布資料に記載	
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で、到達目標4項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(60%)、期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない)。	
<b>再試験の有無</b>	原則として行わない。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習、復習を行い積極的に学習し、ノートを作成すること。	
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)	
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として再試験は実施しない。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>	

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141750</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>生物遺伝育種工学[Molecular Genetics for Animals and Plants]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>官脇 克行 [MIYAWAKI KATSUYUKI]</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可</b>
<b>授業の目的</b>	生物としての動物・植物の特徴・機能を概説し、特に、遺伝子と育種の観点から、家畜や作物の品種改良の基礎理論およびそれに基づいた実際の手法について講義する。		
<b>授業の概要</b>	生物遺伝育種工学の講義は、動物育種と植物育種の2部構成となっており、遺伝、生殖等について概説したあと、導入育種法や交雑育種法、遺伝子組み換え育種法等について、その基礎となっている理論及び実際の方法について講義する。		
<b>キーワード</b>	動物、植物、育種、遺伝子、遺伝子工学		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 動物と植物の特性・機能を比較しながら理解する</li> <li>2. 動物、植物の遺伝子の特徴と共にその有用性を理解する</li> <li>3. 動物と植物の遺伝子工学の可能性を理解する</li> <li>4. 動物と植物の育種の状況を総合的に理解する</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<b>9.</b> 植物の機能、有効成分		
<b>1.</b> 概要	<b>10.</b> 分化全能性		
<b>2.</b> 遺伝、生殖の仕組み	<b>11.</b> 植物の導入育種法、分離育種法		
<b>3.</b> 動物(昆虫)の機能	<b>12.</b> 植物の交雑育種法、遺伝子組み換え育種法		
<b>4.</b> 家畜改良の歴史(家畜と文明、野生動物の家畜化)	<b>13.</b> 分子育種による花色色変		
<b>5.</b> 家畜育種の方法	<b>14.</b> 分子農業		
<b>6.</b> 動物育種の利用	<b>15.</b> 最近の技術について(マーカーアシスト育種法、ゲノム編集技術)		
<b>7.</b> 実験動物の育種とその目標(マウス、ラット、昆虫、モデル動物)	<b>16.</b> 期末試験		
<b>8.</b> 中間評価(到達目標全ての一部評価)			
<b>教科書</b>	受講者に講義資料を配布する。		
<b>参考書</b>	新家畜育種学／水間豊 [ほか]著; 朝倉書店, 1996, ISBN:4254450133 植物生理学入門:オーム社 植物の分子育種学:講談社, ISBN:978-4061537354		

<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で、評価項目の60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(50%)、期末試験(50%)で評価する。		
<b>再試験の有無</b>	原則として行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として再試験は実施しない</li> <li>2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5141760</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択</b>		
<b>科目名</b>	<b>食品工学[Food Engineering]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>工学部非常勤講師</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可</b>
<b>授業の目的</b>	食品工場における実態を経験の中から体系的に理解する。食品の貯蔵と加工技術について講述し、食品加工学の基礎事項と食品加工産業の最近の動向について理解する。		
<b>授業の概要</b>	原料から製品が加工され客先まで、品質を維持して到着するまでのプロセスおよび各工程における生産技術の実態を広範囲に説明する。加工食品は日常の食生活において重要な地位を占め、食品工業はわが国の製造業のなかで大きな比率をしめる巨大産業に成長している。講義では食品の加工技術、貯蔵技術について講述し、さらに代表的な食品の製造・貯蔵の事例を説明する。		
<b>キーワード</b>	食品、加工、貯蔵、製造		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0), 『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0), 『分子生物学[Molecular Biology]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『アグリテクノサイエンス I [Agritechnological Science I]』(0.5), 『アグリテクノサイエンス II [Agritechnological Science II]』(0.5), 『生物遺伝育種工学[Molecular Genetics for Animals and Plants]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品製造業の実態について理解する。</li> <li>2. 食品工場とはどんなところか? 原料を製品にかえるための変換プロセスの理解する。</li> <li>3. 食品加工の目的について理解する。</li> <li>4. 食品の加工法および保藏法について理解する。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<b>5.</b> 清涼飲料の製造技術	<b>11.</b> 食品製造の副産物(廃棄物)	
<b>1.</b> 食品工学とは	<b>6.</b> 食品衛生法	<b>12.</b> 省エネと環境対策	
<b>2.</b> 豆腐の製造技術	<b>7.</b> 食品の品質管理手法	<b>13.</b> 食品製造機械	
<b>3.</b> 大豆のすべて	<b>8.</b> 食品と微生物	<b>14.</b> 食品の販売と流通	
<b>4.</b> 食品加工の方法(物理的, 化学的, 生物学的)	<b>9.</b> 食品関係法規と表示	<b>15.</b> 食品の加工と栄養	
	<b>10.</b> 食品工場の水	<b>16.</b> 期末試験	
<b>教科書</b>	受講者に講義資料を配布する。		
<b>参考書</b>	新しい食品加工学：食品の保存・加工・流通と栄養／小川正, 的場輝佳 編; 南江堂, 2011, ISBN:9784524262571		
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で、評価項目の60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(50%)、期末試験(50%)で評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			

<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141770
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	作物生産工学[Agricultural Engineering]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** 徳島地域に立脚した商品価値の高い新たな農産物ブランドを、植物飼育施設を用いて作出することをテーマとし、そのために必要な、農学、作物育種学、作物生理・生化学、土壌学、栽培技術、他、を理解させることを目標とする。

**授業の概要** 農学は人類の食糧を確保し、生存環境を整えるため、基盤となる学問であることをまず理解させる。さらに、第一次～第三次を統合した、第六次産業(農工商連携)の意義を述べる。次に、対象とする農作物およびその生産に関し、基盤となる科学を講義する。後半からは、各論として、野菜、園芸植物、果樹について講義する。最後に、栽培条件が整えられた栽培環境(植物工場)を用いた農作物生産の利点と欠点について講義し実習する。

#### キーワード

#### 到達目標

- 徳島地域に立脚した商品価値の高い新たな農産物ブランドを、植物飼育施設を用いて作出する。
- 農学、作物育種学、作物生理・生化学、土壌学、栽培技術を理解する。
- 第一次～第三次を統合した、第六次産業(農工商連携)の意義を理解する。

<b>授業の計画</b>	6. 農作物の栄養科学	12. 特用林産物生産学
1. 農学概論および農工商連携の意義	7. 農作物を造る土壌科学(その1)	13. 植物病理学
2. 農作物生産が人類生存に果たす役割	8. 農作物を造る土壌科学(その2)	14. 農作物生産システム学(その1)
3. 育種の基本原理(その1)	9. 野菜園芸学	15. 農作物生産システム学(その2)
4. 育種の基本原理(その2)	10. 果樹学(その1)	16. 期末試験
5. 農作物生産過程における生理・生化学	11. 果樹学(その2)	

**教科書** 各講義ごとにプリントを配布する。

**参考書** 必要に応じて紹介する。

**成績評価の方法** 出席率80%以上で、到達目標項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(40%)、期末試験(60%)で評価する。

#### 再試験の有無

#### 受講者へのメッセージ

**JABEE合格** 成績評価と同じ

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141780
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	家畜生産工学[Animal Breeding and Reproduction]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** 徳島地域に根差した商品価値の高い新たな畜産物ブランドを、家畜飼育施設を用いて作出することをテーマとし、そのために必要な、畜産学概論、家畜育種学、動物生殖生理学、家畜代謝化学、畜産物加工学、飼育技術、他、を理解させることを目標とする。

**授業の概要** 畜産学は人類の食糧を確保するため、基盤となる学問であることをまず理解させる。さらに、第一次～第三次を統合した、第六次産業(農工商連携)の意義を述べる。次に、畜産物の生産に関し、基盤となる科学、即ち、家畜育種、家畜の生殖・生理・病気、家畜の代謝化学、畜産物の加工方法を講義する。最後に、飼育工場を用いた飼養環境が整えられた条件下での畜産物生産の利点と欠点について講義する。

#### キーワード

#### 到達目標

- 家畜産学概論、家畜育種学、動物生殖生理学、家畜代謝化学、畜産物加工学、飼育技術を理解する。
- 畜産物生産の利点と欠点について理解する。

<b>授業の計画</b>	5. 家畜繁殖学(その1)	11. 畜産加工学(その2)
1. 畜産の現状	6. 家畜繁殖学(その2)	12. 家畜管理学(その1)
2. 畜産物が人類に果たす役割と農工商連携の意義	7. 家畜疾病学	13. 家畜管理学(その2)
3. 家畜育種学(その1)	8. 家畜栄養学(その1)	14. 畜産物生産システム学実習(その1)
4. 家畜育種学(その2)	9. 家畜栄養学(その2)	15. 畜産物生産システム学実習(その2)
	10. 畜産加工学(その1)	16. 期末試験

**教科書** 各講義ごとにプリントを配布する。

**参考書** 必要に応じて紹介する。

**成績評価の方法** 出席率80%以上で、到達目標項目が60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(40%)、期末試験(60%)で評価する。

#### 再試験の有無

#### 受講者へのメッセージ

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141790
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	遺伝子解析実習[Training for Gene Analyses]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** マイクロリットル単位の微量溶液を正確に取り扱え、遺伝子増幅法(PCR法)、制限酵素処理、アガロースゲル電気泳動などを確実に実行できるようになった後に、より実践的な技術を習得する。

**授業の概要** 現在の生命科学研究・医療の現場で必須の技術である、ゲノムの塩基配列に存在する個体差を識別する技術や、組織について遺伝子(RNA)レベルで診断する技術の原理と実際の操作を習得する。

#### キーワード

#### 到達目標

- マイクロリットル単位の微量溶液を正確に取り扱える技術を習得する。
- 遺伝子(RNA)レベルで診断する技術の原理と実際の操作を修得する。

<b>授業の計画</b>	5. 核酸プローブの合成
1. 実験ガイダンス	6. ドットプロット法
2. アガロースゲルからのDNA断片の精製	7. 動物の遺伝子解析(in situ hybridization法)
3. PCR法による半定量的解析	8. まとめ
4. 植物の遺伝子解析(品種識別)	

**教科書** 各実験項目ごとにプリントを配布する。

<b>参考書</b>	必要に応じて紹介する。
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、レポートにより評価する。また実験への参加・寄与を減点法により評価する。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141800
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	食品加工実習[Food Process Engineering]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** 食品製造に必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上をはかる能力と態度を身につける。また、社会のニーズに応えられるように、農産物の特性を活かすオリジナル加工品を思考し、実際に試作する。

**授業の概要** 食品の加工特性と実習内容を理解し、食品工学実験の基本的な操作および実習内容をふまえたレポート作成法を習得する。

**キーワード**

**到達目標** 1. 食品製造に必要な知識と技術を習得する。  
2. 食品の特性と加工の原理を理解し、品質と生産性の向上をはかる能力を身につける。  
3. 農産物の特性を活かすオリジナル加工品を思考し、実際に試作する。

**授業の計画**

1. 実験ガイダンス(食品実験の心得、衛生的な取り扱い方)	5. 農産物の加工4(菓子)
2. 農産物の加工1(ジャム、ゼリーなどイチゴを使ったもの)	6. 農産物の加工5(オリジナル加工品1)
3. 農産物の加工2(ケチャップなどトマトを使ったもの)	7. 農産物の加工6(オリジナル加工品2)
4. 農産物の加工3(佃煮、豆腐など大豆を使ったもの)	8. まとめ(食品加工工場見学)

**教科書** 各実験項目ごとにプリントを配布する。

**参考書** 必要に応じて紹介する。

**成績評価の方法** 出席率 80%以上で、試作品とレポートにより評価する。また実験への参加・寄与を減点法により評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同じ

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141810
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	地域産業政策論[Regional Industrial Policy]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

<b>授業の目的</b>	地域の真の豊かさとは何か。地場産業の現状と今後、高速交通時代と地域産業、ニュービジネスの育成策、地域の産業構造分析等について学習する。		
<b>授業の概要</b>	地域活性化なくして、わが国の発展は考えられない。地域の活性化を支えるのは地域産業である。地域産業の振興を個々の企業の自助努力の側面だけでなく、地域全体の視点から、また政策面からアプローチしていく。		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	1. 地域の真の豊かさとは何かを理解する。	2. 地域の産業について理解する。	
<b>授業の計画</b>	1. 地域産業政策とは	6. 徳島県の産業(2)	11. 中山間地域の活性化
	2. 全国総合開発計画の推移	7. 県内企業の国際化	12. 産業空洞化を考える
	3. 徳島県の経済(1)	8. ベンチャー企業の育成	13. 地域活性化の方策とまとめ(1)
	4. 徳島県の経済(2)	9. 地場産業の振興	14. 地域活性化の方策とまとめ(2)
	5. 徳島県の産業(1)	10. 観光産業の振興	15. 総括
<b>教科書</b>	プリント使用		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	筆記試験		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)		
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141820
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	経営戦略論[Strategic Management]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** グローバルに展開している企業だけではなく、地方での事例も学ぶことで、幅広い知識をもった学生を育成することを目標とする。

**授業の概要** 本講義では前半・後半の2つに分け、前半は方法論・理論を学ぶ。後半は前半に学んだことを踏まえた上で、実践論を学ぶ。学生が研究したい企業等があるならば、積極的に研究していきたいと考えている。

**キーワード**

**到達目標**

1. 経営戦略方法論・理論について修得する。
2. 地域ビジネスについて実践論を修得する。

**授業の計画**

1. 経営戦略とは？	8. 企業事例研究 1(amazon.com)
2. 外部要因・ファイブフォース分析	9. 企業事例研究 2(コーヒーチェーン店)
3. 内部分析・VRIO 分析	10. 商品研究 1(扇風機)
4. SWOT 分析	11. 商品研究 2(クーポン券サイト・グルーボン)
5. 価格とは？	12. 商品研究 3(SNSの活用)
6. 企業の統合と利点	13. 地域ビジネス 1(徳島県上勝町・彩)
7. 前半のまとめ	14. 地域ビジネス 2(高知県馬路村・ごっくん馬路村)
	15. まとめ

**教科書** PPT 資料及びプリント配布

**参考書**

**成績評価の方法** 筆記試験・レポート

**再試験の有無**



<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141830
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	マーケティング論学[Commercial Marketing]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** マーケティングに関する基本的なテーマを重点的に取り上げ、マーケティングに関する基礎知識を修得することを目的とする。

**授業の概要** 私たちは日々、商品(サービスを含む)を購入して生活を充実させています。一方企業は、自らが製造販売した商品が私たちの目に届いて購入してもらえるような様々な「仕掛け」をします。マーケティングとはまさにその「仕掛け」を生み出す強力な手段といえます。この講義では、マーケティングに関する基本的なテーマを重点的に採り上げます。

**キーワード**

**到達目標** マーケティングに関する基礎知識を修得する。

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b>	価格戦略 1	<b>11.</b>	プロモーション戦略 2
1. マーケティングとは	<b>7.</b>	価格戦略 2	<b>12.</b>	サービス・マーケティング 1
2. マーケティングの策定 1	<b>8.</b>	流通戦略 1	<b>13.</b>	サービス・マーケティング 2
3. マーケティングの策定 2	<b>9.</b>	流通戦略 2	<b>14.</b>	ソーシャル・マーケティング
4. 製品戦略 1	<b>10.</b>	プロモーション戦略 1	<b>15.</b>	講義のまとめと補足
5. 製品戦略 2				

**教科書** 使用しない

**参考書**

**成績評価の方法** 小テスト、レポート、期末試験を総合的に評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M 棟 703)
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141840
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	ベンチャービジネス論[Venture Business]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** ベンチャー企業経営の基礎を理解するとともに、将来の創業に活かすことができる実践的な知識を修得することができる。

**授業の概要** ベンチャー企業を中心として、その定義と特徴、創業と会社法、経営戦略、経営組織、人的資源管理及びベンチャー企業支援等について講義を行う。

**キーワード**

**到達目標**

1. ベンチャー企業経営の基礎を理解する。
2. 将来の創業に活かすことができる実践的な知識を修得する。

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b>	ベンチャー企業支援のインフラ整備	<b>11.</b>	ベンチャー企業の成功事例
1. ベンチャー企業の定義と特徴	<b>7.</b>	ベンチャー企業とコミュニティビジネス	<b>12.</b>	創業計画について
2. ベンチャー企業と経営戦略	<b>8.</b>	ベンチャー企業と人的資源管理	<b>13.</b>	創業計画書の作成方法
3. ベンチャー企業と組織マネジメント	<b>9.</b>	ベンチャー企業と会社法	<b>14.</b>	創業計画書の作成演習
4. ベンチャー企業支援と税制	<b>10.</b>	ベンチャー企業と環境経営	<b>15.</b>	期末試験
5. ベンチャー企業と会計				

**教科書** ベンチャー企業経営論/秋山義雄, 松岡弘樹:税務経理教会, ISBN:4419052260

**参考書**

**成績評価の方法** レポート及び期末試験の総合評価とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本科学習目標(D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M 棟 703)
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141850
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	会計学[Accounting]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** 会計の学習を通して、物事を合理的に考察し、正確・迅速に処理する能力や思考力を養う。

**授業の概要** 企業会計原則、会社法等を背景とする企業会計の理論的基礎を学習する。

**キーワード**

**到達目標**

1. 企業会計原則、会社法等を背景とする企業会計の理論的基礎を理解する。
2. 会計の学習を通して、物事を合理的に考察し、正確・迅速に処理する能力や思考力を養う。

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b>	流動資産・固定資産	<b>11.</b>	内部利益控除・特別損失
1. 企業と会計	<b>7.</b>	投資・繰延資産	<b>12.</b>	損益計算書の作成
2. 株式会社の設立、開業と増資	<b>8.</b>	流動負債・固定負債	<b>13.</b>	貸借対照表の作成
3. 利益処分・損出の処理	<b>9.</b>	資本金・剰余金	<b>14.</b>	財務諸表分析
4. 社債	<b>10.</b>	損益計算・経常損益	<b>15.</b>	期末試験
5. 企業会計制度と会計法規				

**教科書** 最新段階式簿記検定問題集全商 1 級会計/渡辺正直:実教出版; 3 訂版, 2011, ISBN:4407324333

**参考書**

**成績評価の方法** 定期試験の成績、受講態度や学習意欲等を総合評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141860
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	会計情報学[Accounting and Information]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)／他学部・他学科も履修可

**授業の目的** 簿記の原理を理解し、実際の社会で行われている会計情報システム上での会計処理の修得を到達目標とする。

**授業の概要** 財務会計のアプリケーションを実際に操作し、会計システムの一巡と構造を理解する。現代企業における会計処理は、コンピューターを利用したシステムによって実施されており、簿記及び会計学で学んだ手作業会計との相違点を把握し、コンピューター会計の利点を理解する。最終的にアプリケーションを利用して、損益計算書・貸借対照表を作成する。

**キーワード**

- 到達目標**
1. 簿記の原理を理解する。
  2. 実際の社会で行われている会計情報システム上での会計処理を修得する。

- 授業の計画**
- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. ガイダンス                    | 8. アプリケーションの環境設定            |
| 2. 会計処理の復習(日商簿記 3 級程度の期中処理) | 9. アプリケーションの基本情報登録          |
| 3. 会計処理の復習(日商簿記 3 級程度の期中処理) | 10. 取引データの作成                |
| 4. 会計処理の復習(日商簿記 3 級程度の期中処理) | 11. 取引データの入力                |
| 5. 会計処理の復習(日商簿記 3 級程度の決算処理) | 12. 取引データの更新によるデータベースへの反映   |
| 6. 会計処理の復習(日商簿記 3 級程度の決算処理) | 13. 決算整理手続きの入力              |
| 7. アプリケーションソフトについて(PCA 会計)  | 14. 決算整理データの更新によるデータベースへの反映 |
|                             | 15. 財務諸表(損益計算書・貸借対照表)の出力    |

**教科書** テキストは使わずレジュメを配布する。

**参考書**

**成績評価の方法** 授業中に指示するレポートと最終課題により評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5141540
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	雑誌講義[Seminar on Chemical Science and Technology]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 各研究室において演習形式により、専門分野の研究論文ならびに参考文献について講読し、その内容について討論することにより、卒業研究に役立てるようその分野の知識を習得させることを目的とする。

<b>授業の概要</b>	各研究室において、専門分野の研究論文ならびに参考文献について講読し、その内容について討論する。
<b>キーワード</b>	雑誌, 英語, 論文読解
<b>先行/科目</b>	『化学英語基礎[Chemical English]』(1.0), 『専門外国語[Foreign Language for Engineers]』(1.0)
<b>関連/科目</b>	『卒業研究[Undergraduate Work]』(1.0), 『コミュニケーション[Communication]』(0.5)

- 到達目標**
1. 専門分野の文献が検索できる(授業計画 1-2)。
  2. 英語で書かれた論文が理解できる(授業計画 3-7)。
  3. 英語で書かれた論文の内容を他者に説明でき、討論を経て内容を評価できる(授業計画 7)。
  4. 専門分野の研究状況を理解できる(授業計画 7)。

- 授業の計画**
- |                            |                                    |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1. 文献検索法(図書館, インターネット利用)   | 5. 専門分野論文についての討論 1(概要プレゼンテーション)    |
| 2. 各種データベースの利用法            | 6. 専門分野論文についての討論 2(内容に関する討論と内容の評価) |
| 3. 専門分野の論文読解               | 7. 専門分野論文と卒業研究内容の関連性評価, 及びその情報活用   |
| 4. 専門分野論文の概要とりまとめと解説用資料の作成 |                                    |

**教科書** 特に指定しない。

**参考書** 適宜紹介する。

**成績評価の方法** 各研究室で行っている定例の専門雑誌抄読会に 80%以上出席し、論文を読み、発表・討論した結果を指導教員が評価する(100%)。

**再試験の有無** 原則的に再試験は実施しない。

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要であり、事前に課題の論文について熟読して内容把握を行うなどの準備を行い、授業後は討論で問題となった論点の取りまとめなどの復習を行うこと。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(B), (C)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141550
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	学内インターンシップ[Understanding Biological Science and Technology]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 各研究室を見学することにより、研究の最前線に触れ、生物工学全般にわたる専門分野の知識の拡充をはかり、専門家としての意識を明確にさせる。

**授業の概要** 学生は 10 名程度のグループに分かれ、生物工学科内の各研究室で early exposure を受ける。

**キーワード** 研究の動向と内容の把握, 英文論文や研究資料の読解法

**関連/科目** 『基礎生物工学[Basic Bioengineering]』(0.5)

- 到達目標**
1. 生物工学分野の総合的理解(授業計画 1-7)。
  2. 生物工学分野におけるコミュニケーション能力(授業計画 1-7)。
  3. 外国語による生物工学の理解(授業計画 8)。

- 授業の計画**
1. 生物工学科研究室の概要説明と学内インターンシップ実施総論
  2. 生物工学科研究室 1 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えられた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。
  3. 生物工学科研究室 2 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えられた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。
  4. 生物工学科研究室 3 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えら

5.	れた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。 生物工学科研究室 4 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えられた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。
6.	生物工学科研究室 5 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えられた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。
7.	生物工学科研究室 6 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えられた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。
8.	生物工学科研究室 7 の研究内容と動向を、英文論文資料や研究資料の解説及び討論を通して学ぶとともに、与えられた課題について自分の考えをまとめて発表/報告し評価を仰ぐ。
<b>教科書</b>	受講者に講義資料を配布する。
<b>参考書</b>	各担当教員から与えられた論文や研究資料等。
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 3 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は授業態度(20%)、課題発表あるいは課題報告書(80%)で評価する。
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は実施しない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要であり、事前に各研究室の研究内容について文献検索などの準備を行い、授業後は課題に関する取りまとめなどの復習を行うこと。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物工学科事務室(M棟 703)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141560
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学演習1[Exercise of Biological Science and Technology 1]		
<b>担当教員</b>	堀 均, 宇都 義浩 [Hitoshi Hori, Yoshihiro Uto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	基本的な機器分析手法の原理・装置・スペクトルの解析法について修得することを目的とする。また、簡単な有機化合物の構造決定を行うことで理解度を深めることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	機器分析は分析化学のみならず有機化学・生化学の分野で非常に重要な役割を果たしている。よって、本演習では基本的分析法についての詳細な解説と演習問題を行うことにより構造解析法を修得する。		
<b>キーワード</b>	紫外可視分光法, 赤外分光法, 核磁気共鳴分光法, 質量分析法		
<b>先行/科目</b>	『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0), 『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0), 『分析化学[Analytical Chemistry]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『生物学実験1[Experiments of Biological Science and Technology 1]』(1.0), 『生物学創成実験[Practice of Creative Bioengineering]』(0.2)		
<b>到達目標</b>	1. 各機器分析法の基本的な原理, 装置, 測定法を理解する。 2. 各スペクトルデータを用いた有機化合物の構造解析法を修得する。		
<b>授業の計画</b>	1. 導入教育, 小テスト1(到達目標 1,2 の一部評価) 2. 紫外可視分光法, 小テスト2(到達目標 1,2 の一部評価) 3. 赤外分光法, 小テスト3(到達目標 1,2 の一部評価) 4. 核磁気共鳴法 1, 小テスト4(到達目標 1,2 の一部評価)	5. 核磁気共鳴法 2, 小テスト5(到達目標 1,2 の一部評価) 6. 質量分析法, 小テスト6(到達目標 1,2 の一部評価) 7. 総合演習, 小テスト7(到達目標 1,2 の一部評価) 8. 期末試験(到達目標 1,2 の一部評価)	
<b>教科書</b>	分析化学/赤岩英夫:丸善, 1991. 9, ISBN:4621036335		
<b>参考書</b>	入門機器分析化学演習/新津利之, 脇田久伸:三共出版, 1999. 10, ISBN:4782704504 10年使える有機スペクトル解析/新津陸士, 海野雅史, 鍵裕之:三共出版, 2005. 4, ISBN:4782705018 はじめてみようスペクトル解析: MS・FTIR・500MHz NMR/柏村成史:三共出版, 2007. 4, ISBN:9784782705339 これならわかるNMR: そのコンセプトと使い方/安藤喬志, 宗宮創:化学同人, 1997. 7, ISBN:475980787		

<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	毎回資料を配布する。
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標 1,2 とも小テスト(70%)及び期末試験(30%)で評価する(出席点は加えない)。
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は実施しない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	この演習で得られる知識は生物学実験1で必要となりますので必ず修得して下さい。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/index.php
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 宇都義浩(M820, Tel: 088-656-7522, E-mail: uto@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) uto@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 到達目標 1 は授業計画 1~7, 到達目標 2 は授業計画 1~7 の内容がそれぞれ対応している。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141570
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学演習2[Exercise of Biological Science and Technology 2]		
<b>担当教員</b>	長宗 秀明, 友安 俊文, 田端 厚之 [Hideaki Nagamune, Toshifumi Tomoyasu, Atsushi Tabata]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生物学演習 2 では、講義(微生物学 1)で学修する微生物学の内容に関連した科学英語を読解することにより、生物学研究に関連した微生物学の基礎知識をさらに充実させると共に、生物学を学んでいく上では欠かせない科学英語の読解能力および英語設問に対する回答能力を習得する。		
<b>授業の概要</b>	授業は演習および講義形式にて行う。授業計画に記載した内容に関連する英文の読解を行い、その内容について解説を行うことにより内容の理解を深める。また、関連した課題に取り組むことにより英語記述能力の向上と講義の復習を行い、その課題と期末試験により習熟度を評価する。		
<b>キーワード</b>	微生物学, 科学英語読解		
<b>先行/科目</b>	『化学英語基礎[Chemical English]』(1.0), 『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『専門外国語[Foreign Language for Engineers]』(0.5), 『微生物学2[Microbiology 2]』(0.5), 『微生物学[Applied Microbiology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 微生物学に関する英語教科書の読解を通し、科学英語特有の表現を学修して専門科学英語の読解力を身につける。 2. 英語で記載された微生物学に関する設問を理解し、英語で回答する能力を身につける。		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス 2. 英文読解および演習(微生物の構造について), 課題 1(到達目標 1, 2 の一部評価) 3. 英文読解および演習(微生物の増殖について), 課題 2(到達目標 1, 2 の一部評価) 4. 英文読解および演習(微生物の遺伝学について), 課題 3(到達目標 1, 2 の一部評価) 5. 英文読解および演習(微生物の制御について), 課題 4(到達目標 1, 2 の一部評価) 6. 英文読解および演習(微生物の病原性について), 課題 5(到達目標 1, 2 の一部評価) 7. 英文読解および演習(微生物の応用について), 課題 6(到達目標 1, 2 の一部評価) 8. 期末試験(到達目標 1, 2 の一部評価)		
<b>教科書</b>	Brock Biology of Microorganisms/Michael T. Madigan:Pearson Educacion, 2011, ISBN:978-0321735515, Global ed of 13th revised ed 版 Michael M. Madigan ら著「Brock Biology of Microorganisms」を指定し、教科書に準拠した資料を用いた講義を行う。		
<b>参考書</b>	生物学英語 入門/大倉 一郎, 北爪 智哉, 中村 聡:講談社, 1996, ISBN:978-4061397811 大倉 一郎・北爪智哉・中村 聡 著「生物学英語 入門」講談社サイエンティフィック		
<b>成績評価の方法</b>	各到達目標について、課題 60 点(10 点×6 回)、期末試験 40 点として評価し、到達目標の 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする(出席点は加えない)。		



<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は実施しない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 英和辞典(電子辞書も可)を各自で準備すること。また、予習・復習を行うこと。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田端 厚之(化学生物棟 709, Tel: 088-656-7521) (メールアドレス) atabata@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。また、原則として再試験は実施しない。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141580
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学演習3[Exercise of Biological Science and Technology 3]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦, 湯浅 恵造 [Akihiko Tsuji, Keizo Yuasa]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	創薬の分子標的のほとんどが膜受容体および酵素をはじめとしたタンパク質である。生化学の講義で学習した知識を基に、実際に用いられている医薬品の標的タンパク質を調査することによりタンパク質の機能について理解を深める。		
<b>授業の概要</b>	各自で医薬品の標的タンパク質について選択し、その構造および機能とともに疾病との関わりについて参考書などを用いて調査を行い、その結果についてパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。		
<b>キーワード</b>	医薬品, 標的タンパク質, 発症メカニズム		
<b>先行/科目</b>	『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『生化学2[Biochemistry 2]』(0.5), 『生化学3[Biochemistry 3]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『細胞生物学[Cell Biology]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 自発的にテーマを選択し、そのテーマについて調査・報告をする能力を習得する(授業計画 1-8 による) 2. 生化学および細胞生物学の基礎的知識を深める(授業計画 1-8 による)		
<b>授業の計画</b>	5. 標的タンパク質の機能に関する調査		
1. 医薬品の標的分子の検索	6. 論文読解		
2. 疾病に関する調査	7. プレゼンテーション用資料の作成, レポート(到達目標全ての一部評価)		
3. 発症メカニズムに関する調査	8. 期末試験(プレゼンテーション)(到達目標全ての一部評価)		
4. 標的タンパク質の構造に関する調査			
<b>教科書</b>	特になし。		
<b>参考書</b>	プリントを配布する。		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標 1, 2 ともにレポート(40%)及び期末試験(60%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	原則として、再試験は行なわない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	基本的にグループ単位で行うが、各自でレポートを作成する。プレゼンテーションにはパワーポイントを用いるためできる限り準備しておくこと。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 湯浅 恵造:湯浅 (化生棟 714, Tel: 088-656-7527) (メールアドレス) 湯浅 恵造:yuasa@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 湯浅 恵造:火曜日 16:20-17:50		
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141590
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学演習4[Exercise of Biological Science and Technology 4]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦, 三戸 太郎 [Akihiko Tsuji, Taroh Mito]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	インターネットを通じた遺伝子情報の収集、データ解析に習熟するとともに、生物の発生に関わる遺伝子について理解を深める。		
<b>授業の概要</b>	遺伝子情報データベースの利用法について演習する。特定の遺伝子について実際にリサーチを行いその結果についてプレゼンテーションを行う。		
<b>キーワード</b>	遺伝子発現調節, シス調節エレメント, トランス転写因子		
<b>先行/科目</b>	『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『分子生物学[Molecular Biology]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5), 『発生工学[Developmental Bioengineering]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 遺伝子情報データベースを活用し、必要な情報の収集とデータ解析を行うことが出来る(授業計画 1-7 による)。 2. 遺伝子の構造や発現に関する基礎を理解し、適切なプレゼンテーションを行うことが出来る(授業計画 1-8 による)。		
<b>授業の計画</b>	1. 遺伝子情報検索法の演習 2. ホモロジーサーチ法の演習 3. ゲノムデータベース利用法の演習, 中間試験 1(到達目標 1 の一部評価) 4. 遺伝子の構造に関するリサーチ 5. 遺伝子発現パターンに関するリサーチ 6. 転写調節に関するリサーチ, 中間試験 2(到達目標 2 の一部評価) 7. 遺伝子産物の構造と機能に関するリサーチ, レポート(到達目標全ての一部評価) 8. 期末試験(プレゼンテーション)(到達目標全ての一部評価)		
<b>教科書</b>	特に使用しない		
<b>参考書</b>	Gilbert 著「Developmental Biology」Sinauer Associates, Inc. 等		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は中間試験(20%), レポート(40%), 期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	原則として、再試験は行なわない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	リサーチ、プレゼンテーションは班単位で行うが、班の成果を十分に理解し、各自でレポートにまとめること。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 三戸 太郎		
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141600
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学演習5[Exercise of Biological Science and Technology 5]		
<b>担当教員</b>	松木 均, 玉井 伸岳, 後藤 優樹 [Hitoshi Matsuki, Nobutake Tamai, Masaki Goto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	生命現象に関する研究を行う上で物理化学は常にその基礎となる。物理化学および生物物理化学の演習問題を通して、生命科学における様々な巨視的現象を物理化学視点から理解し、重要な物理法則を使いこなす能力を培うことを目標とする。
<b>授業の概要</b>	物理化学関連の講義に相応する問題を演習し、内容を解説する。物質の巨視的な性質を記述する厳密な理論体系である化学熱力学に関係する種々の問題を数学的手段をもって解き、基本的事項・法則の理解を深める。さらに講義の進行に併せて、反応速度論、電気化学の演習も行う。
<b>キーワード</b>	熱力学, 相平衡, 溶液化学, 界面化学
<b>先行/科目</b>	『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(1.0), 『生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]』(1.0), 『生物物理化学2[Biophysical Chemistry 2]』(1.0)
<b>関連/科目</b>	『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0), 『物理化学2[Physical Chemistry 2]』(1.0), 『生物物理化学1[Biophysical Chemistry 1]』(1.0), 『生物物理化学2[Biophysical Chemistry 2]』(1.0)
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学熱力学関係式の意味を理解し、正しく記述する。</li> <li>2. 相平衡で成立する関係式を導出し、物理化学現象に適用できるようにする。</li> <li>3. 反応速度論、電気化学の物理化学関係式を習熟する。</li> </ol>
<b>授業の計画</b>	<p>イントロダクション:化学熱力学を学ぶにあたっての準備, 小テスト1(到達目標1の一部評価)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学熱力学関係式1:熱力学第一法則(内部エネルギーとエンタルピー), 小テスト2(到達目標1の一部評価)</li> <li>2. 化学熱力学関係式2:熱力学第二法則(エントロピー), 小テスト3(到達目標1の一部評価)</li> <li>3. 化学熱力学関係式3:自由エネルギー(Helmholtz 関数と Gibbs 関数), 小テスト4(到達目標1の一部評価)</li> <li>4. 相平衡1:化学ポテンシャルと状態変化(相図), 混合の熱力学, 小テスト5(到達目標1, 2の一部評価)</li> <li>5. 相平衡2:溶液の性質(相図および束一的性質), 小テスト6(到達目標1, 2の一部評価)</li> <li>6. 化学平衡(反応), 反応速度論, 電気化学, 小テスト7(到達目標1, 3の一部評価)</li> <li>7. 気体分子運動論:微視的性質と巨視的性質(到達目標1, 3の一部評価)</li> </ol>
<b>教科書</b>	P. W. Atkins 著(千原秀昭・中村亘男訳)「アトキンス物理化学(上)0 ~ 10 章, (下)23 章」東京化学同人
<b>参考書</b>	R. A. アルバーティ著/妹尾 学・黒田晴雄訳「物理化学第7版(上), (下)」東京化学同人 D. エベレット著(玉虫伶太・佐藤弘訳)「入門化学熱力学第2版」東京化学同人 I. Levine「Physical Chemistry」4th Ed., Mac Grow Hill など
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で、到達目標3項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は小テスト(90%), 授業中の演習問題への取り組み(10%)で評価する(出席点は加えない)。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	教科書, 物理化学関連の講義ノート, 対数, 指数計算の可能な関数キー付き電卓を準備しておくこと。化学熱力学の理解をさらに深めるために、統計力学の講義を受講しておくことを勧める。
<b>JABEE合格</b>	出席率80%以上で、到達目標3項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は小テスト(90%), 授業中の演習問題への取り組み(10%)で評価する(出席点は加えない)。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 後藤優樹(化生棟 601, 088-656-7515, goto@bio.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 水曜日 12:00-14:00
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として再試験は実施しない。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習と 1 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141610
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学演習6[Exercise of Biological Science and Technology 6]		
<b>担当教員</b>	中村 嘉利, 佐々木 千鶴 [Yoshitoshi Nakamura, Chizuru Sasaki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	再生産可能な資源である未利用のバイオマスによる循環型社会への移行が急務である。そこでこの演習では、バイオマスに関するキーワードの基礎および利用の現状を学び、さらにはインターネットを利用し自ら抽出したバイオマス利用に関する研究論文を読解することにより、バイオマスを利用した研究について知識を深める。		

<b>授業の概要</b>	バイオマス資源の種類, 利用状況などを各自で調査する。これにより基本的な情報を習得し、続いてバイオマス利用に関する英語の研究論文を熟読し、内容についてパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。
<b>キーワード</b>	環境, バイオマス, 論文検索
<b>先行/科目</b>	『化学英語基礎[Chemical English]』(1.0), 『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0), 『生物環境工学[Environmental Bioengineering]』(1.0)
<b>関連/科目</b>	『化学英語基礎[Chemical English]』(1.0), 『専門外国語[Foreign Language for Engineers]』(1.0), 『生物環境工学[Environmental Bioengineering]』(1.0)
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイオマス利用に関する最新の研究論文およびその他の情報を熟読することにより、バイオマスに関する基礎的知識を身に付ける(授業計画 1-4)。</li> <li>2. インターネットを用いた研究論文の検索法を修得し、今後研究を行ううえでの適切な研究論文の選定の仕方を身に付ける(授業計画 1-4)。</li> <li>3. 課題の発表を通じて、プレゼンテーション能力を養う(授業計画 5-7)。</li> </ol>
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バイオマスに関する調査, レポートおよび小テスト (到達目標 1 の一部評価)</li> <li>2. 研究論文の検索法, 小テスト (到達目標 1,2 の一部評価)</li> <li>3. 班による研究論文の検索および選定</li> <li>4. 研究論文の読解</li> <li>5. 研究論文の読解およびプレゼンテーションの準備</li> <li>6. プレゼンテーションの準備</li> <li>7. プレゼンテーション (到達目標全ての一部評価)</li> </ol>
<b>教科書</b>	特になし。
<b>参考書</b>	必要に応じて資料を配布する。
<b>成績評価の方法</b>	出席率80%以上で、到達目標1, 2, 3 項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標1, 2, 3 とレポートと小テスト(50%)およびプレゼンテーション(50%)で評価し、出席点は加えない。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	研究論文の読解は班で行うが、文章を読み込み、各自が内容全体を充分に理解しておくこと。英和辞典を持参すること。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐々木千鶴(機械棟 719 室, Tel:656-7532) (メールアドレス) 佐々木 千鶴:csasaki@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 佐々木 千鶴:水曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 成績は、出席状況, 演習への回答及びレポートの提出状況と最終発表を含めて評価する。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141620
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物工学演習7[Exercise of Biological Science and Technology 7]		
<b>担当教員</b>	大政 健史, 間世田 英明, 白井 昭博 [Takeshi Omasa, Hideaki Maseda, Akihiro Shirai]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	微生物学1, 微生物学2, 生物工学実験4で学修した微生物学, バイオセーフティー, 特に微生物制御の内容に関連した科学英語を読解することにより、科学英語の読解能力の向上と今後の微生物工学研究, そして細胞工学研究に必須である微生物制御の知識の充実に図る。		
<b>授業の概要</b>	講義・演習形式で行う。微生物制御には物理的制御と化学的制御がある。これら制御法で代表的な各手法についての英文読解, 関連した課題への取り組みを通じ、その内容について知識を深める。習熟度は、課題, 小テストおよび期末試験により評価する。		
<b>キーワード</b>	微生物学, 科学英語読解		

<b>先行/科目</b>	『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0),『微生物学2[Microbiology 2]』(1.0)
<b>関連/科目</b>	『生物学実験4[Experiments of Biological Science and Technology 4]』(0.5),『化学英語基礎[Chemical English]』(0.5),『専門外国語[Foreign Language for Engineers]』(0.5)
<b>到達目標</b>	1. 微生物制御に関する英語書籍の読解を通じ, 科学英語の読解力を身に付ける(授業計画 1-7). 2. 微生物学, バイオセーフティー, 微生物制御の知識とそれらに関連する専門英語に習熟する(授業計画 1-7).
<b>授業の計画</b>	1. Physical sterilization: introduction, wet heat and irradiation, 課題 1(到達目標 1, 2 の一部評価). 2. Chemical sterilization: hydrogen peroxide 1, 小テスト 1(授業計画 1 より出題) (到達目標 1, 2 の一部評価). 課題 2(到達目標 1, 2 の一部評価). 3. Chemical sterilization: hydrogen peroxide 2. 4. Chemical sterilization: quaternary ammonium compounds 1, 小テスト 2(授業計画 2, 3 より出題)(到達目標 1, 2 の一部評価). 課題 3 (到達目標 1, 2 の一部評価). 5. Chemical sterilization: quaternary ammonium compounds 2. 6. Chemical sterilization: sporicidal agents, 小テスト 3(授業計画 4, 5 より出題). 課題 4(到達目標 1, 2 の一部評価). 7. Chemical sterilization: sporostatic agents. 8. 期末試験 (授業計画 1-7 より出題).
<b>教科書</b>	講義資料を配布する.
<b>参考書</b>	DISINFECTION, STERILIZATION, and PRESERVATION fourth edition/S. S. Block Basic Cell Culture Second Edition/J. M. Davis, ISBN:0195676025 微生物制御 : 科学と工学/土戸哲明: 講談社, 2002. 11, ISBN:4061397982
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする. 達成度は課題 (40%), 小テスト (30%), 期末試験 (30%)で評価する (出席点は加えない).
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	英和辞典(電子辞書可)を各自準備すること. 予習, 復習を行うこと.
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する.
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 白井昭博(M816, Tel:088-656-7519) (メールアドレス) 白井 昭博:shirai@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 白井 昭博:金曜日 16:20~17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない. 2. 到達目標 1, 2 は, 授業計画 1-7 の課題, 小テスト, 期末試験の結果より到達度を評価する. 3. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141630
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	基礎化学実験[Experiments for Basic Chemistry]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	定性分析, 容量分析などの基礎分析化学実験, および基礎生化学実験を行い, 実験の基本操作を修得する. 講義で履修した内容の一部分を実験により再度確認し, 理解の助けとする.		
<b>授業の概要</b>	将来, 生物工学分野での技術者・研究者を目指す者が必ず経験しておくべき実験の基本操作である定性・容量分析, および生体高分子の定量・定性に関する実験を行う. また, 顕微鏡などの実験機器の取り扱いについて学ぶ.		
<b>キーワード</b>	定性分析, 容量分析		
<b>到達目標</b>	1. 基本的な化学実験操作の習得 2. 読み易く明解なレポートの作成		

<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス(実験における一般的な注意, 安全教育, レポートの書き方), 実験に関係する原理の説明 2. 実験器具類の名称と取り扱いに関する説明, 小テスト(到達目標 1 の一部評価) 3. 無機定性分析(陽イオンの性質, マスキング, 溶媒抽出), レポート 1(到達目標 1, 2 の一部評価) 4. 中和滴定, レポート 2(到達目標 1, 2 の一部評価) 5. キレート滴定, レポート 3(到達目標 1, 2 の一部評価) 6. 吸光度分析, レポート 4(到達目標 1, 2 の一部評価) 7. 核酸の定量および熱変性, レポート 5(到達目標 1, 2 の一部評価) 8. 顕微鏡の使用法および観察, レポート 6(到達目標 1, 2 の一部評価) 9. タンパク質の定量(Lowry 法), レポート 7(到達目標 1, 2 の一部評価) 10. 脂質の定性, レポート 8(到達目標 1, 2 の一部評価) 11. 期末試験(到達目標 1,2 の一部評価)
<b>教科書</b>	小冊子「基礎化学実験」
<b>参考書</b>	徳島大学工学部編「安全マニュアル」, 化学同人編集部編「実験を安全に行うために」, 化学同人編集部編「続実験を安全に行うために」
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で, 到達目標 1, 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする. 到達目標の達成度は, 小テスト(5%), レポート (80%), および期末試験(15%)により評価する.
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	実験を安全に行うため「安全マニュアル」徳島大学工学部編, 「実験を安全に行うために」「続実験を安全に行うために」化学同人を一読しておくこと. 授業計画 3~10 の実験は, 班別にローテーションで行う.
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する.
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 技術職員・中村真紀(M 棟 709)
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない.

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5141640
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学実験1[Experiments of Biological Science and Technology 1]		
<b>担当教員</b>	堀 均, 宇都 義浩 [Hitoshi Hori, Yoshihiro Uto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生体活性物質の構造と反応を理解し生物機能分子の設計を行うための基礎として, 有機合成反応に関する実習を行う.		
<b>授業の概要</b>	生体活性物質の合成としてペプチド甘味料であるアスパルテームの有機合成実験を行い, 有機合成実験の基本操作と手法を修得する.		
<b>キーワード</b>	生体活性物質, ペプチド甘味料, アスパルテーム		
<b>先行/科目</b>	『生物学演習1[Exercise of Biological Science and Technology 1]』(1.0),『有機化学1[Organic Chemistry 1]』(1.0),『有機化学2[Organic Chemistry 2]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『生物学創成実験[Practice of Creative Bioengineering]』(0.3)		
<b>到達目標</b>	1. 有機合成実験における基本操作, 手法及び反応機構を理解する. 2. 有機合成実験の結果を論理的に考察し発表する能力を身に付ける.		
<b>授業の計画</b>	1. 実習講義:実験の目的・手順・注意事項などに関する説明 2. アスパルテームの合成 1:アスパラギン酸の N 末端の Z 化 3. アスパルテームの合成 2:フェニルアラニンの C 末端のエステル化 4. アスパルテームの合成 3:プロテアーゼを用いたペプチド合成 5. アスパルテームの合成 4:ペプチドの精製 6. アスパルテームの合成 5:ペプチドの脱塩 7. アスパルテームの合成 6:Z 基の脱保護		



8.	アスパルテームの合成 7:アスパルテームの精製
9.	アスパルテームの合成 8:アスパルテームの定量と甘味度試験
10.	実験予備日:レポート・プレゼンテーション資料作成に関する講義
11.	プレゼンテーション(到達目標全ての一部評価)
12.	レポート(到達目標全ての一部評価)
<b>教科書</b>	小冊子「生物工学実験 1」/宇都義浩
<b>参考書</b>	季刊 化学総説 味とにおいの分子認識/日本化学会編:学会出版センター, 1999, ISBN:4762229156 実験を安全に行うために/化学同人編集部:化学同人, 1993. 4, ISBN:4759802444 実験を安全に行うために. 続/化学同人編集部:化学同人, 1987. 12, ISBN:4759801774 研究室で役立つ有機実験のナビゲーター/James W. Zubrick, 上村明男 訳:丸善, 2006
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	小冊子「生物工学実験 1」を配布しますので、必ず予習して実験に臨んで下さい。
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標 1, 2 ともレポート(50%)及びプレゼンテーション(50%)で評価する(出席点は加えない)。
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は実施しない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	事前に配布する実習書をよく読み実験の流れ及び反応を理解しておくこと。有機合成実験及びプレゼンテーションは 4~5 人の班単位で行うが、レポートに関しては各自でまとめるので必ず全員が実験に参加すること。また、各自実験ノートを用意し実験記録をきちんとつけること。
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ。
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。
<b>WEB ページ</b>	<a href="https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/index.php">https://lms90.ait.tokushima-u.ac.jp/lms/index.php</a>
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 宇都 義浩(M820, Tel: 088-656-7522) (メールアドレス) uto@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141650
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物工学実験2[Experiments of Biological Science and Technology 2]		
<b>担当教員</b>	松木 均, 玉井 伸岳, 後藤 優樹 [Hitoshi Matsuki, Nobutake Tamai, Masaki Goto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	物質の様々な物理定数を実験により求めることにより、実験操作の技術と計画法およびデータ処理を会得する。また、得られた実験結果を考察することにより、講義における履修内容を再確認し、物理化学的現象に対する理解を深める。		
<b>授業の概要</b>	化学熱力学、電気化学等の分野から選ばれた基本的な物理化学実験を行う。物理化学実験の操作習得のため、実験には物理化学計測の基本となる科学実験操作(秤量、滴定、温度測定等)を含む。レポート作成を通して、物理化学の重要法則を学習し、研究に対する姿勢を身につける。		
<b>キーワード</b>	溶液物性、界面特性、相平衡、電気化学、高分子希薄溶液		
<b>先行/科目</b>	『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『物理化学1[Physical Chemistry 1]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 物理化学、生物物理化学の講義で学習した概念・法則を実験を通じて理解する。 2. 物理化学的測定を行う上での基本的実験操作および技術を習得する。 3. 実験結果について適切なデータ解析・処理と考察を行い、明解な報告書にまとめる能力を養う。		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス 2. 無機塩水溶液の密度、レポート1(到達目標 1, 3 の一部評価) 3. 界面活性剤水溶液の表面張力、レポート2(到達目標 1, 3 の一部評価) 4. 共融混合物の状態図と凝固点降下、レポート3(到達目標 1, 3 の一部評価) 5. 高分子希薄溶液の粘度、レポート4(到達目標 1, 3 の一部評価) 6. 電位差滴定、レポート5(到達目標 1, 3 の一部評価) 7. 起電力、レポート6(到達目標 1, 3 の一部評価) 8. 創成課題、レポート7(到達目標 1, 3 の一部評価) 9. 期末試験(到達目標全ての一部評価)		

<b>教科書</b>	小冊子「生物工学実験 2」		
<b>参考書</b>	実験を安全に行うために/化学同人編集部:化学同人, 1993. 4, ISBN:4759802444 実験を安全に行うために. 続/化学同人編集部:化学同人, 1987. 12, ISBN:4759801774 「物理化学実験法」/千原秀昭編:東京化学同人 「物理化学実験法」/鮫島実三郎著:裳華房 「安全マニュアル」/徳島大学工学部編		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 3 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は、到達目標 1, 3 はレポート(60%)、期末試験(40%)で、到達目標 2 は期末試験(100%)で評価する(出席点は加えない)。		
<b>再試験の有無</b>	原則として再試験は実施しない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	実験を始める前にあらかじめテキストを熟読しておくこと。実験を安全に行うため白衣の着用を義務付ける。さらに上記参考書を一読しておくこと。		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(C), (D)に対応する。		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 後藤優樹(化生棟 601, 088-656-7515, goto@bio.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) 後藤優樹:goto@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 後藤優樹:水曜日 12:00-14:00		
<b>備考</b>			

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5141660
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物工学実験3[Experiments of Biological Science and Technology 3]		
<b>担当教員</b>	中村 嘉利, 佐々木 千鶴 [Yoshitoshi Nakamura, Chizuru Sasaki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	微生物と酵素を用いたバイオマスの有効利用法の基礎を習得する。		
<b>授業の概要</b>	利活用するバイオマスの構成成分を理解し、酵素による糖化および微生物による発酵の実験を行い培養工学の基礎を学ぶ。さらに、基本的な実験を通じてバイオリファイナリーについての知識を深める。		
<b>キーワード</b>	バイオマス、酵素糖化、発酵		
<b>先行/科目</b>	『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 微生物および酵素の基本的な取り扱いおよび培養工学実験の基礎を身につけ、実験結果の解析方法および考察の仕方を修得する(授業計画 1-7)。 2. 1.で修得した実験方法、解析法をもとにオリジナル実験を立案し、実行する(授業計画 5-7)。 3. 課題の発表を通じて、プレゼンテーション能力を養う(授業計画 8)。		
<b>授業の計画</b>	1. オリエンテーション(実験予定の説明および微生物の取扱いの基礎) 2. セルロース系バイオマスの主成分分析 3. 酵素活性測定、レポート1(到達目標全ての一部評価) 4. セルロース系バイオマスの酵素糖化のための前処理 5. セルロース系バイオマスの酵素糖化実験、レポート2(到達目標全ての一部評価) 6. 糖化率の算出、還元糖量の定量 7. 微生物による発酵基礎実験、レポート3(到達目標全ての一部評価) 8. 期末試験(プレゼンテーション、到達目標全ての一部評価)		
<b>教科書</b>	小冊子「生物工学実験 3」		
<b>参考書</b>	徳島大学工学部編「安全マニュアル」 化学同人編集部編「実験を安全に行うために」 化学同人編集部編「続実験を安全に行うために」 日本生物工学会編「生物工学実験書」培風館		
<b>成績評価の方法</b>	出席率 80%以上で、到達目標 1, 2, 3 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標 1, 2, 3 ともレポート(50%)およびプレゼンテーション(50%)で評価し、出席点は加えない。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	あらかじめテキストをよく読み、予習をしっかり行って、実験を開始すること。実験を安全に行うため「安全マニュアル」徳島大学工学部編、「実験を安全に行うために」、「続実験を安全に行うために」化学同人を一読しておくこと。		

<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐々木千鶴(機械棟 719 室, Tel:656-7532) (メールアドレス) 佐々木 千鶴:csasaki@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 佐々木 千鶴:水曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 成績評価には出席状況、演習への回答及びレポートの提出状況と最終発表を含める。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141670
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学実験4[Experiments of Biological Science and Technology 4]		
<b>担当教員</b>	大政 健史, 間世田 英明, 白井 昭博 [Takeshi Omasa, Hideaki Maseda, Akihiro Shirai]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 微生物の簡易同定, 細菌芽胞実験, 増殖実験およびスクリーニング実験を通じて, 微生物学実験に必要な基本操作に習熟するとともに, 微生物工学的研究をすすめる上で必要な考え方を修得する。

**授業の概要** 実験形式で行う。微生物の働きや性質, 多様性について理解を深め, バイオセーフティの問題について考える。菌種同定, 細菌芽胞実験, 増殖実験を通じて微生物実験の基本操作を学ぶ。さらに, 所期の微生物についてスクリーニング実験を実施, 考察し, その実践方法について理解する。最後に, 実験成果を報告書にまとめて提出するとともに, 定期試験により修得事項の確認を行う。

**キーワード** 微生物, バイオセーフティ, 菌種同定, 微生物制御, スクリーニング

**先行/科目** 『微生物学1[Microbiology 1]』(1.0), 『微生物学2[Microbiology 2]』(1.0), 『基礎化学実験[Experiments for Basic Chemistry]』(0.5)

**関連/科目** 『生物学創成実験[Practice of Creative Bioengineering]』(1.0), 『基礎化学実験[Experiments for Basic Chemistry]』(0.5), 『生物学実験3[Experiments of Biological Science and Technology 3]』(0.5)

#### 到達目標

1. 微生物学実験に必要な正しい基本操作を修得する(授業計画 1-6)。
2. 菌種同定, 微生物制御, 増殖測定, スクリーニングについて理解を深める(授業計画 3-6)。

#### 授業の計画

1. 微生物学の基礎
2. バイオセーフティ, レポート 1(到達目標 1 の一部評価)
3. 微生物の簡易同定, レポート 2(到達目標 2 の一部評価)
4. 細菌芽胞の取扱いと物理的・化学的制御, レポート 3(到達目標 2 の一部評価)
5. 細菌の増殖と世代時間, レポート 4(到達目標 2 の一部評価)
6. スクリーニング実験, レポート 5(到達目標 2 の一部評価)
7. 期末試験(到達目標 1, 2 の一部評価)

**教科書** 小冊子「生物学実験 4」

**参考書** 実験を安全に行うために/化学同人編集部:化学同人, 2006. 3, ISBN:4759809589  
続実験を安全に行うために/化学同人編集部:化学同人, 2007. 2, ISBN:4759810811  
生物学実験書/日本生物工学会:培風館, 2002. 4, ISBN:4563077747  
徳島大学工学部編「安全マニュアル」

**成績評価の方法** 出席率 80%以上で, 到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は, レポート(60%), 期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない)。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 予習, 復習を行うこと。片対数グラフ, 電卓を準備すること。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C), (D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 白井 昭博 (M816, Tel:088-656-7519) (メールアドレス) 白井 昭博:shirai@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 白井 昭博:金曜日 16:20~17:50

<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として再試験は実施しない。</li> <li>2. 到達目標 1 は, 授業計画 1, 2 のレポートおよび期末試験の結果より到達度を評価し, さらに授業計画 3~6 より達成する。</li> <li>3. 到達目標 2 は, 授業計画 3, 4, 5, 6 のレポートおよび期末試験の結果より到達度を評価する。</li> <li>4. 実習を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習と 1 時間の復習をしたうえで実習を受けることが, 実習内容の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>
-----------	--

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141680
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学実験5[Experiments of Biological Science and Technology 5]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦, 三戸 太郎 [Akihiko Tsuji, Taroh Mito]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

**授業の目的** 遺伝子工学の基礎となる分子生物学的実験技術を習得する。

**授業の概要** 核酸の精製, 定量, 制限酵素処理, 大腸菌の形質転換, PCR 法等の基礎的な分子生物学実験を行う。

**キーワード** 遺伝子操作, 核酸の取扱, 動物の取扱

**先行/科目** 『基礎生物学[Basic Bioengineering]』(1.0), 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0), 『分子生物学[Molecular Biology]』(1.0)

**関連/科目** 『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(0.5), 『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5), 『発生工学[Developmental Bioengineering]』(0.5)

- 到達目標**
1. 分子生物学実験の原理を理解し, DNA, RNA を扱う際の基本操作に習熟する(授業計画 1-8 による)。
  2. 組換え DNA 実験のための基本技術を習得する(授業計画 2-8 による)。
  3. レポート作成を通じて, 分子生物学実験の結果の解析, 考察の仕方を習得する(授業計画 1-8 による)。

#### 授業の計画

- |  |   |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分子生物学実験の基礎</li> <li>2. 実験動物の形態観察</li> <li>3. RNA の精製と定量, レポート 1 (到達目標 1, 2 の一部評価)</li> <li>4. PCR 法</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 大腸菌の形質転換</li> <li>6. プラスミドの分離精製</li> <li>7. 制限酵素処理, アガロースゲル電気泳動法</li> <li>8. DNA シーケンス解析, レポート 2 (到達目標 1, 2 の一部評価)</li> <li>9. 期末試験(到達目標全ての一部評価)</li> </ol> |
|--|---|

**教科書** 小冊子「生物学実験 5」

**参考書** 徳島大学工学部編「安全マニュアル」 化学同人編集部編「実験を安全に行うために」  
化学同人編集部編「続実験を安全に行うために」 野地澄晴著「バイオ研究 はじめの一步」羊土社  
Sambrook・Russel 著「Molecular Cloning」Cold Spring Harbor Laboratory Press

**成績評価の方法** 出席率 80%以上で, 到達目標 3 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度はレポート(60%), 期末試験(40%)で評価する(出席点は加えない)。

**再試験の有無** 原則として, 再試験は行わない。

**受講者へのメッセージ** 予習を行い実験操作の原理を理解しておくこと。

**JABEE合格** 成績評価と同じ。

**学習教育目標との関連** 本学科教育目標(C), (D)に対応する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 三戸 太郎
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5141690
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物学実験6[Experiments of Biological Science and Technology 6]		
<b>担当教員</b>	辻 明彦, 湯浅 恵造 [Akihiko Tsuji, Keizo Yuasa]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 生化学実験の基礎を習得する。	
<b>授業の概要</b> 大腸菌を用いて組換え体タンパク質を発現させ、タンパク質の抽出・精製、定量、検出といった生化学の基礎的操作を実習する。また、典型的な酵素の活性を測定し、得られたデータを解析し酵素反応速度論に対する理解を深める。	
<b>キーワード</b> 大腸菌によるタンパク質発現、タンパク質の定量、タンパク質の精製・分離、酵素活性測定	
<b>先行/科目</b> 『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)、『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0)、『遺伝子工学[Genetic Engineering]』(1.0)、『生物工学実験5[Experiments of Biological Science and Technology 5]』(1.0)	
<b>関連/科目</b> 『タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]』(1.0)	
<b>到達目標</b> 1. 生化学実験の概念および基本操作を学習する(授業計画 1-12 による) 2. レポート作成を通じて、実験結果の解析、考察の仕方を習得する(授業計画 1-12 による)	
<b>授業の計画</b>	7. 緩衝液作製
1. ガイダンス	8. 酵素活性測定(反応速度論)
2. 大腸菌によるタンパク質発現	9. 酵素活性測定(阻害活性)
3. アフィニティークロマトグラフィーによるタンパク質の精製	10. 酵素活性測定(至適 pH)
4. Bradford 法によるタンパク質定量	11. データー整理、レポート(到達目標全ての一部評価)
5. SDS-PAGE ゲル作製	12. 期末試験(到達目標全ての一部評価)
6. SDS-PAGE によるタンパク質の分離および検出	
<b>教科書</b> 小冊子「生物工学実験 6」	
<b>参考書</b> 徳島大学工学部編「安全マニュアル」 化学同人編集部編「実験を安全に行うために」 化学同人編集部編「統実験を安全に行うために」	
<b>成績評価の方法</b> 出席率出席率 80%以上で、到達目標 2 項目が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする。達成度は目標 1, 2 ともにレポート(70%)及び期末試験(30%)で評価する(出席点は加えない)。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 実験を始める前にあらかじめテキストを熟読しておくこと。基本的にグループ単位で行うが、グループの実習結果について十分よく理解し、各自でレポートを作成すること。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 湯浅 恵造:湯浅 (化生棟 714, Tel: 088-656-7527) (メールアドレス) 湯浅 恵造:yuasa@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 湯浅 恵造:火曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141700
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物工学実験7[Experiments of Biological Science and Technology 7]		
<b>担当教員</b>	長宗 秀明, 友安 俊文, 田端 厚之 [Hideaki Nagamune, Toshifumi Tomoyasu, Atsushi Tabata]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 生命倫理の観点に基づいて動物実験の意義を理解する。また、動物組織や細胞の観察を行ってその構造を理解すると共に、細胞工学や免疫化学に基づく実験の原理と手法を習得する。			
<b>授業の概要</b> 授業は実習形式にて行い、必要に応じて実習中に講義形式の説明を行う。生命倫理的観点に基づいた動物実験の意義について説明を行い、実験動物の取り扱いや動物個体を構成している組織・細胞の観察を行う。また、実験動物において誘導された免疫応答反応の観察を行うと共に、抗原抗体反応を用いた実験方法について原理と手法を学ぶ。			
<b>キーワード</b> 細胞工学, 免疫化学			
<b>先行/科目</b> 『基礎生物工学[Basic Bioengineering]』(1.0)、『生化学1[Biochemistry 1]』(1.0)、『生化学2[Biochemistry 2]』(1.0)、『生化学3[Biochemistry 3]』(1.0)、『細胞工学[Cell Technology]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『微生物学1[Microbiology 1]』(0.5)、『微生物学2[Microbiology 2]』(0.5)、『細胞生物学[Cell Biology]』(0.5)、『タンパク質・酵素工学[Protein and Enzyme Engineering]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. 細胞工学実験、免疫化学実験の基礎技術および関連する知識を身につけ、実験結果の解析方法および考察の仕方を習得する。(授業計画 1~10) 2. 各自が行った実験について発表を行うことにより、プレゼンテーション技術を高める。(授業計画 3~12)			

<b>授業の計画</b>	
1. ガイダンス	
2. 動物実験と生命倫理	
3. 動物組織の標本作製と観察	
4. 動物細胞の染色体観察、授業計画 2~4 のレポート(到達目標 1 の一部評価)	
5. 実験動物への抗原投与による抗体産生細胞の誘導	
6. 実験動物の解剖と組織の観察	
7. 抗原抗体反応を利用した抗体産生細胞の観察、授業計画 5~7 のレポート(到達目標 1 の一部評価)	
8. 酵素免疫測定法による細菌の免疫学的同定	
9. 電気泳動法によるタンパク質の分離とウェスタンブロッティング	
10. 抗原抗体反応を用いたタンパク質の特異的検出、授業計画 8~10 のレポート(到達目標 1 の一部評価)	
11. プレゼンテーションの準備	
12. 期末試験(プレゼンテーション)(到達目標 1 の一部評価と到達目標 2 の評価)	
<b>教科書</b> 小冊子「生物工学実験7」、教科書はガイダンス時に配布する。	
<b>参考書</b> 「安全マニュアル」/徳島大学工学部編 「実験を安全に行うために」/化学同人編集部編 「統実験を安全に行うために」/化学同人編集部編	
<b>成績評価の方法</b> 出席率 80%以上で、期末試験はプレゼンテーションとする。到達目標 1 の達成度はレポート(80%)およびプレゼンテーション(20%)で評価し、到達目標 2 の達成度はプレゼンテーション(100%)で評価する。両到達目標が各々 60%以上達成されている場合をもって合格とする(出席点は加えない)。	
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は実施しない。	
<b>受講者へのメッセージ</b> あらかじめ教科書(実習書)を熟読し、予習をしっかり行って実験に臨むこと。実験を安全に行うため「安全マニュアル」徳島大学工学部編、「実験を安全に行うために」、「統実験を安全に行うために」化学同人を一読しておくこと。実験終了後は、その内容について復習を行うこと。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価と同じ。	
<b>学習教育目標との関連</b> 本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田端 厚之(化生生物棟 709, Tel: 088-656-7521) (メールアドレス) atabata@bio.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 16:20-17:50
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5141710
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	生物工学創成実験[Practice of Creative Bioengineering]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 自主的に実験課題を設定し、各自が設定した実験計画及び方法に従って研究を行う過程を通し、学生の自主的創造性を引き出すことを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 大きな課題:「新しい生物マテリアルや生命科学領域の新技術の創成」の下で、学生が制作物/技術を自由に着想し、それを得るための実験をデザイン・実施して成果の発表までを行う。まず、教員の各研究グループではどのような実験系を学生に提供可能かを知らせ、学生を数名の班に分けて各研究グループに振り分ける。学生は班ごとに制作課題を設定し、その作製実験の計画を立案しプロトコル原案を策定する。それに基づいて各研究グループの研究室(実習室も使用可)にて実験を行う。最後に班毎の成果について発表会を行い、教員と学生相互による評価を行う。なおその過程で、担当教員は計画立案や実験の補助・助言を行う。			
<b>キーワード</b> 生物工学			
<b>到達目標</b>			
1. 制作対象物/技術を独創的にデザインし、その作成を達成するに適した実験計画立案能力を習得する。 2. 実験計画及び結果について、まとめ・解析・発表する能力を習得すること。			
<b>授業の計画</b>			
1. ガイダンス・班分け:本科目の意図、制作課題の設定、実験の進め方などに関する解説。教員研究グループ毎の提供可能な実験系の解説。学生の希望調整・班分け、及び各研究グループへの配属			



2.	班単位での制作物の設定, 実験の計画立案, プロトコール作成
3.	実験:班単位で実施
4.	制作物発表会:各班の制作物プレゼンテーションと相互評価. コンペ形式でその年の「最優秀創成賞」選定
<b>教科書</b>	指導する教員が指定, あるいは製作・配布する.
<b>参考書</b>	徳島大学工学部編「安全マニュアル」 化学同人編集部編「実験を安全に行うために」 化学同人編集部編「続実験を安全に行うために」
<b>成績評価の方法</b>	出席率は80%以上を必須とする. 到達目標2項目が各々60%以上達成されている場合をもって合格とする. 達成度は目標1, 2ともレポート(50%)及び制作物発表会(期末試験)(50%)で評価する(出席点は加えない).
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	各班が策定した実験計画に基づいてあらかじめ十分に予習と準備を行い, 実験に望むこと. 実験を安全に行うため, 「安全マニュアル」徳島大学工学部編, 「実験を安全に行うために」, 「続実験を安全におこなうために」化学同人を一読しておくこと. また基礎化学実験及び生物学実験1-7の実習書に再度目を通して, これまでに学習してきた実験内容について復習しておくこと.
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(B), (C), (D)に対応する.
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 配属された研究グループの指導教員
<b>備考</b>	1. 原則として再試験は実施しない.

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5141720
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	卒業研究[Undergraduate Work]		
<b>担当教員</b>	工学部生物工学科教員		
<b>単位数</b>	6	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	教員の指導の下で卒業研究のテーマを設定し, 研究目的や方法などを決め, 実験または調査を実際に行い, 得られた成果を考察し, まとめる過程を通して, 創造的な研究を行う能力を養成することを主な目的とする. また, 研究成果を研究会, 学会, 学術論文などで発表するために, 優れた文章の書き方, 表現法, プレゼンテーション法を修得することを目的とする.		
<b>授業の概要</b>	研究指導は研究グループごとに分かれて行う. 研究テーマに関連する専門書, 実験書, 論文などを調査し, 教員の指導の下で実験または調査研究を進める. 定期的に, 研究の進捗状況の報告と, その後の研究計画などをディスカッションして研究を推進する. 優れた研究成果があるときには学会発表を行うとともに, 学術論文に投稿する.		
<b>キーワード</b>	実験研究, プレゼンテーション		
<b>関連/科目</b>	『雑誌講読[Seminar on Chemical Science and Technology]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究に必要な情報を収集し, 実験計画を立てる能力を身につける.</li> <li>2. 計画に従って忍耐強く研究を行う能力を身につける.</li> <li>3. 教員や他の学生とコミュニケーションを取りながら強調して研究する能力を身につける.</li> <li>4. 研究成果をまとめ, 解析し報告できる能力を身につける.</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究テーマ説明: インターンシップやオフィスアワーなどを利用して, 各自で教員の研究内容を把握する. また, 2月下旬に行われる卒業論文, 修士論文の審査会を必ず聴講すること.</li> <li>2. 配属先決定: 3月初旬に, 単位取得状況を掲示により公表する. 卒研着手資格を満たした学生を対象に配属先(教員の希望アンケート)を実施する. アンケート結果をもとに学科会議において配属先を決定し, 掲示により通知する.</li> <li>3. 卒業研究の実施: 各研究室ごとに配属され, 教員の指導のもとで卒業研究を行う.</li> <li>4. 卒業論文の提出と発表: 研究結果をまとめた論文を2月中旬までに提出し, 2月下旬に行われる卒業論文審査会で研究成果を発表する.</li> </ol>		
<b>教科書</b>	なし.		
<b>参考書</b>	各指導教員が指定する.		

<b>成績評価の方法</b>	卒業研究への取り組み姿勢と成果(日頃の実験や調査研究, 成果のとりまとめや発表, などに対する熱意や成績など)と提出された卒業論文の内容を学科教育目標(A-D)を踏まえて評価する(80点満点). また, 卒論発表会における成果発表とプレゼンテーションの能力を評価する(20点満点). 2つの評価点を合わせ, 総合的に100点満点で評価し, 60点以上を合格とする.
<b>再試験の有無</b>	実施しない.
<b>受講者へのメッセージ</b>	生物工学科が定める「卒業研究着手規定」に記載されている要件をすべて満たし, 生物工学科学科会議において承認を得た者のみ卒業研究に着手できる. 履修に当たり, 当初に指導教員と相談の上, 実験研究または調査研究のいずれかを選択すること.
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A), (B), (C), (D)に対応する.
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 生物事務室(M棟703)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5141480
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生産管理[Production Control]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	生物工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	企業マネジメント(工業経営)の中で, 「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する.		
<b>授業の概要</b>	「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに, 企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する.		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産管理の各手法を概略理解する.</li> <li>2. 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する.</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序</li> <li>2. 生産管理体系</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 品質管理総論</li> <li>4. 工程管理総論</li> <li>5. 工程管理各論</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 原価管理</li> <li>7. 安全管理, トヨタ生産方式</li> <li>8. 環境管理</li> </ol>
<b>教科書</b>	毎講義時に, プリントその他で提示する.		
<b>参考書</b>	「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ)」企業経営通信学院 「生産管理便覧」丸善		
<b>成績評価の方法</b>	毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点60点満点-白紙は不可)及びその試問正解点40点満点で, 480点以上を「可」とする.		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎講義終了後, 簡単な事前試問(3問程度)について, 解答ペーパーの提出を求める.		
<b>JABEE合格</b>	成績評価と同じ.		
<b>学習教育目標との関連</b>	本学科教育目標(A), (D)に対応する.		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.		

開講学期	4年・前期	時間割番号	5141490
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	労務管理[Personnel Management]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	生物工学科(昼間)
授業の目的	企業のグローバル化による競争激化, 企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加, 正規社員の減少, 従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題, 労働トラブルの急増, 少子高齢化時代の到来等これからの労務安全管理の諸問題について理解する。		
授業の概要	採用から退職までの労務安全管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労務安全管理(ヒューマンズスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。		
キーワード			
到達目標	1. 組織の労務安全管理(ヒューマンズスキル)の基本と重要性について認識する。 2. 最新の労働環境の動向を理解する。		
授業の計画	3. 就業規則	6. 退職と解雇	
1. 労働基準法の概要	4. 労働時間・休日・休暇	7. さまざまな働き方	
2. 応募から入社までの基礎知識	5. 賃金・業務命令等の社内ルール	8. リスクアセスメント(安全衛生管理)	
教科書	「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円		
参考書	「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会		
成績評価の方法	出席率, レポートの内容		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	授業の中でレポート(7 回程度) 作成, 提出すること。		
JABEE合格	成績評価と同じ。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(A), (C)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑村泰章		
備考	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	1年・後期	時間割番号	5140500
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	半導体ナノテクノロジー基礎論[Introduction to Semiconductor Nanotechnology]		
担当教員	井須 俊郎, 北田 貴弘 [Toshiroh Isu, Takahiro Kitada]		
単位数	2	対象学生・年次	生物工学科(昼間)
授業の目的	半導体エレクトロニクスの先端分野で用いられているナノテクノロジーについて基礎的な概念を理解する。		
授業の概要	半導体のナノ構造が生み出す性質を理解するための基礎知識として, 半導体の電気的特性, ナノ構造における量子力学的効果など, 半導体ナノ構造の特徴について説明する。これらの半導体ナノ構造を用いた各種の電子デバイス, 光デバイスについて概説し, さらに半導体ナノ構造の作製の手法とそれらの構造や特性の測定評価方法について解説する。		
キーワード	ナノ量子構造, 半導体ナノ物性, 電子デバイス, 光デバイス		
到達目標	1. 半導体ナノ構造の特徴と応用例について理解する。		
授業の計画	6. 光デバイス応用(受光発光素子)	12. 微細加工による形成技術	
1. 半導体ナノ構造とは	7. 光デバイス応用(光制御素子)	13. ナノ構造測定手法	
2. 半導体の性質	8. 半導体ナノ構造の電子物性	14. 電気的特性評価	
3. 電子状態の量子化	9. 電子デバイス応用(HBT)	15. 光学的特性評価	
4. 低次元量子構造	10. 電子デバイス応用(FET)	16. 期末試験	
5. 半導体ナノ構造の光物性	11. 結晶成長法による形成技術		
教科書	特になし。		

参考書	半導体超格子の物理と応用/日本物理学会:培風館, 1984. 11, ISBN:4-563-02162-8 半導体超格子入門/小長井誠:培風館, 1987. 11, ISBN:4-563-03435-5		
成績評価の方法	授業の内容の理解度をレポート(60%)および試験(40%)にて評価し, 合わせて 60 点以上を合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	量子力学・半導体工学を履修していることが望ましい。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 井須 俊郎 建設棟224室 Tel:656-7670 北田 貴弘 建設棟224室 Tel:656-7671 (メールアドレス) 井須 俊郎 t.isu@frc.tokushima-u.ac.jp 北田 貴弘 kitada@frc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 井須 俊郎 火-木 10:00-14:00 北田 貴弘 月 10:00-14:00		
備考			

電気電子工学科(昼間)

微分方程式 1 [Differential Equations (I)] … 電気電子工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／  
2年・前期 …………… 144

微分方程式 2 [Differential Equations (II)] … 電気電子工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／  
2年・後期 …………… 144

微分方程式特論 [Differential Equations (III)] … 電気電子工学科(昼間)／香田／3年・前期………… 144

複素関数論 [Complex Analysis] … 電気電子工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／2年・前期… 145

ベクトル解析 [Vector Analysis] … 電気電子工学科(昼間)／香田／2年・後期 …………… 145

数値解析 [Numerical Analysis] … 電気電子工学科(昼間)／今井／3年・前期 …………… 145

確率統計学 [Probability and Statistics] … 電気電子工学科(昼間)／工学基礎教育センター教員／  
3年・後期 …………… 146

解析力学 [Mechanics] … 電気電子工学科(昼間)／工学部非常勤講師／1年・後期 …………… 146

量子力学 [Quantum Mechanics] … 電気電子工学科(昼間)／川崎／2年・前期 …………… 146

熱・統計力学 [Thermodynamics and Statistical Mechanics] … 電気電子工学科(昼間)／川崎／  
2年・後期 …………… 147

基礎固体物性論 [Solid State physics (1)] … 電気電子工学科(昼間)／中村／2年・後期 …………… 147

電気数学演習 [Mathematics for Electrical and Electronic Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／  
宋他／1年・前期………… 148

電気回路 1・演習 [Electrical Circuit Theory (I) and Exercise] … 電気電子工学科(昼間)／島本他／  
1年・後期 …………… 148

電気回路 2・演習 [Electrical Circuit Theory (II) and Exercise] … 電気電子工学科(昼間)／島本他／  
2年・前期 …………… 148

過渡現象 [Transient Analysis] … 電気電子工学科(昼間)／小中他／2年・後期………… 149

電気磁気学 1・演習 [Electromagnetic Theory (I) and Exercise] … 電気電子工学科(昼間)／直井他／  
1年・後期 …………… 149

電気磁気学 2・演習 [Electromagnetic Theory (II) and Exercise] … 電気電子工学科(昼間)／直井他／  
2年・前期 …………… 150

電気電子工学基礎演習 [Fundamentals of Electrical and Electronic Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／  
橋爪他／1年・前期………… 150

プログラミング基礎 [P] … 電気電子工学科(昼間)／宋他／2年・前期………… 151

半導体工学基礎 [Semiconductor Physics] … 電気電子工学科(昼間)／西野／2年・前期 …………… 151

エネルギー工学基礎論 [Fundamentals of Energy Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／下村／  
2年・前期 …………… 152

基礎制御理論 [Basic Control Theory] … 電気電子工学科(昼間)／大屋／2年・前期………… 152

情報通信基礎 [Basic Theory of Electronic Communication] … 電気電子工学科(昼間)／大家／  
2年・後期 …………… 152

電子回路基礎 [Electronic Circuits] … 電気電子工学科(昼間)／橋爪／2年・後期 …………… 153

電気電子工学入門実験 [Electrical and Electronic Engineering Laboratory (Intr.)] … 電気電子工学科(昼間)／  
芥川他, 山中 建二／1年・後期 …………… 153

電気電子工学基礎実験 [Electrical and Electronic Engineering Design Laboratory] … 電気電子工学科(昼間)／  
／西野他, 菟 金平, 永瀬 雅夫, 川上 烈生, 上手 洋子, 大屋 英稔, 富田 卓朗／2年・後期… 154

電気電子工学創成実験 [Electrical and Electronic Engineering Design Laboratory] … 電気電子工学科(昼間)／  
／直井他／3年・前期………… 154

電気電子工学実験 1 [Electrical and Electronic Engineering Laboratory (I)] … 電気電子工学科(昼間)／  
寺西他, 北條 昌秀, 下村 直行／3年・後期………… 155

電気電子工学実験 2 [Electrical and Electronic Engineering Laboratory (2)] … 電気電子工学科(昼間)／  
久保他, 大屋 英稔, 山中 建二／4年・前期………… 155

電気電子工学実験 3 [Electrical and Electronic Engineering Laboratory (3)] … 電気電子工学科(昼間)／  
四柳他, 榎本 崇宏／4年・前期 …………… 156

卒業研究 [Undergraduate Work] … 電気電子工学科(昼間)／工学部電気電子工学科教員／4年・通年 … 156

電気電子工学輪講 [Electrical and Electronic Engineering Seminar] … 電気電子工学科(昼間)／  
工学部電気電子工学科教員／4年・通年 …………… 157

技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics] … 電気電子工学科(昼間)／非常勤／4年・前期 …………… 157

エンジニアリング入門 [Introduction of Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／下村／1年・前期 … 158

エンジニアリングデザイン演習 [Engineering Design Exercise] … 電気電子工学科(昼間)／  
電気電子工学科教員／4年・前期 …………… 158

英語コミュニケーション [Communication in English] … 電気電子工学科(昼間)／上手他／3年・通年 … 158

電気電子工学特別講義 [Special Lectures on Electrical and Electronic Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／  
／工学部非常勤講師／4年・通年 …………… 159

量子工学基礎 [Quantum Mechanics for Semiconductor Physics] … 電気電子工学科(昼間)／菟／  
2年・後期 …………… 159

電子物性工学 [Solid State Physics] … 電気電子工学科(昼間)／直井／3年・前期 …………… 160

電子デバイス [Semiconductor Device Physics] … 電気電子工学科(昼間)／井須／3年・前期 …………… 160

電子物理学 [Electronic Physics] … 電気電子工学科(昼間)／大宅／2年・後期 …………… 160

光デバイス工学 [Photonic Devices] … 電気電子工学科(昼間)／酒井／3年・後期 …………… 161

電気・電子材料工学 [Electrical and Electronic Material Science] … 電気電子工学科(昼間)／永瀬／  
3年・後期………… 161

半導体ナノテクノロジー基礎論 [Introduction to Semiconductor Nanotechnology] … 電気電子工学科(昼間)／  
井須他／3年・後期………… 161

電気機器 1 [Electrical Machines (1)] … 電気電子工学科(昼間)／北條／2年・後期 …………… 161

電気機器 2 [Electrical Machines (2)] … 電気電子工学科(昼間)／安野／3年・前期 …………… 162

パワーエレクトロニクス [Power Electronics] … 電気電子工学科(昼間)／北條／3年・前期 …………… 162

電力系統工学 [Electric Power System Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／川田／2年・後期 …… 163

発電電工学 [Power Generation and Transformation Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／川田／  
3年・前期 …………… 163

照明電熱工学 [Illuminating and Electric Heating Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／下村／  
3年・後期 …………… 163

高電圧工学 [High Voltage Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／下村／3年・後期 …………… 164

機器応用工学 [Applications of Electrical Machines] … 電気電子工学科(昼間)／安野／3年・後期 …… 164

計測工学 [Electrical Measurement and Instrumentation(I)] … 電気電子工学科(昼間)／芥川／2年・後期… 165

制御理論 [Control Theory] … 電気電子工学科(昼間)／久保／2年・後期 …………… 165

通信工学 [Communication Systems] … 電気電子工学科(昼間)／高田／3年・前期 …………… 166

通信応用工学 [Applied Communication Engineering] … 電気電子工学科(昼間)／高田／3年・後期 … 166

デジタル信号処理 [Digital Signal Processing] … 電気電子工学科(昼間)／大家／3年・前期 …… 167

システム解析 [System Analysis] … 電気電子工学科(昼間)／久保／3年・後期………… 167

電磁波工学 [Electromagnetic wave engineering] … 電気電子工学科(昼間)／高田／3年・後期 …… 167

プログラミング演習 [Programming Exercise] … 電気電子工学科(昼間)／島本／3年・前期 …… 168

電子回路設計 [Electronic Circuit Design] … 電気電子工学科(昼間)／橋爪／3年・後期 …… 168

パルス・デジタル回路 [Pulse and Digital Circuits] … 電気電子工学科(昼間)／橋爪／3年・前期 … 169

論理回路 [Logic Circuits] … 電気電子工学科(昼間)／四柳／2年・後期………… 169

集積回路工学 [Integrated Circuits] … 電気電子工学科(昼間)／小中／3年・後期 …………… 170

マイコンシステム設計 [Microcomputer System Design] … 電気電子工学科(昼間)／寺西／3年・後期 170

設計製図 [Design and Drawing] … 電気電子工学科(昼間)／北條他／3年・後期 …………… 170

無線設備管理及び法規 [Electrical Communication Laws] … 電気電子工学科(昼間)／工学部非常勤講師／  
4年・後期 …………… 171

電気施設管理及び法規 [Management and Laws Associated with Electrical Facilities.] … 電気電子工学科(昼間)／  
／工学部非常勤講師／4年・後期 …………… 171

生産管理 [Production Control] … 電気電子工学科(昼間)／非常勤／4年・後期………… 172

労務管理 [Personnel Management] … 電気電子工学科(昼間)／非常勤／4年・後期 …………… 172



開講学期	2年・前期	時間割番号	5151010
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	必修		
科目名	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	微分方程式の解法を修得し、さらに工学の諸分野に現われる微分方程式の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	微分方程式の理論は数理工学的な現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。		
キーワード	求積法, 線形微分方程式		
到達目標	1. 簡単な求積法が理解できる。 2. 2階の定数係数線形常微分方程式が解ける。		
授業の計画	5. 完全微分形	11. 記号解法	
1. 変数分離形	6. クレーローの微分方程式とラグランジュの微分方程式	12. 簡便法	
2. 同次形	7. 高階常微分方程式	13. 級数解法	
3. 一階線形微分方程式	8. 2階線形同次微分方程式(i)	14. 通常点における級数解法	
4. ベルヌーイの微分方程式とリッカチの微分方程式	9. 2階線形同次微分方程式(ii)	15. 確定特異点まわりの級数解法	
	10. 非同次微分方程式	16. 期末試験	
教科書	工科大のための微分方程式／杉山昌平:実教出版 杉山昌平 著「工科大のための微分方程式」, 実教出版		
参考書	特に指定しない		
成績評価の方法	講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し, 総合点 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。		
JABEE合格	.		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 80%, (D)専門基礎 20%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)			
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5151020
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	必修		
科目名	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	連立常微分方程式の安定性と簡単な偏微分方程式の解法を修得し、より実際の工学的な問題の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	「微分方程式1」に続いて現代工学すべての基礎として重要な役割を果たしている連立常微分方程式系の基本的な解法を講義する。さらに、簡単な偏微分方程式の解法についても講義する。		
キーワード	力学系, ラプラス変換, 1階偏微分方程式		
到達目標	1. 簡単な定数係数連立線形常微分方程式が解ける。 2. ラプラス変換とその応用ができる。		
授業の計画	3. 連立線形微分方程式	6. 2次元自励系の安定性(i)	
1. 定数係数連立線形微分方程式	4. 自励系と強制系	7. 2次元自励系の安定性(ii)	
2. 高階微分方程式と連立微分方程式	5. 2次元自励系の危点	8. ラプラス変換の性質	

9. 逆ラプラス変換	12. 1階偏微分方程式(i)	15. 2階線形偏微分方程式
10. ラプラス変換の応用例(i)	13. 1階偏微分方程式(ii)	16. 期末試験
11. ラプラス変換の応用例(ii)	14. ラグランジュの偏微分方程式	
教科書	工科大のための微分方程式／杉山昌平:実教出版 杉山昌平『工科大のための微分方程式』実教出版	
参考書	特に指定しない	
成績評価の方法	講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し, 総合点 60%以上で合格とする。	
再試験の有無		
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。	
JABEE合格		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 80%, (D)専門基礎 20%	
WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

開講学期	3年・前期	時間割番号	5151030
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択必修・分野A		
科目名	微分方程式特論[Differential Equations (III)]		
担当教員	香田 温人 [Atsuhito Kohda]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	数理解析学の強力な道具立てとして、フーリエの方法を修得させる。		
授業の概要	フーリエが導入した三角級数展開およびフーリエ積分変換の理論を講義し、物理・工学に現れる偏微分方程式を初等的に扱うための基礎的な知識を提供する。		
キーワード	フーリエ級数, フーリエ変換		
到達目標	フーリエ解析の初歩的な理論の理解と応用ができる。全ての回の講義が関係する。		
授業の計画	5. 級数展開の具体例	11. フーリエ変換の計算	
1. フーリエ係数, フーリエ級数	6. 変数分離法での解法	12. 偏微分方程式への応用	
2. 三角級数の和, ディリクレ核	7. フーリエ級数とフーリエ積分	13. 波動方程式と熱伝導方程式	
3. リーマン・ルベークの定理, ベッセルの不等式	8. フーリエ積分公式	14. ラプラス方程式	
4. 展開定理	9. フーリエ反転公式	15. 期末試験	
	10. フーリエ変換, 合成積	16. 総括	
教科書	未定		
参考書	工科大のための微分方程式／杉山昌平:実教出版 微分方程式概論／神保秀一:サイエンス社 応用微分方程式／藤本淳夫:培風館		
成績評価の方法	授業への取組み状況, 演習の回答, 小テスト等の平常点 20%, 期末試験 80%で評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	高度な内容につながる盛り沢山の講義である。使い方を理解するには、実用的な道具と割り切って、多数の計算練習を行なうとよい。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%		
WEB ページ	<a href="http://math0.pm.tokushima-u.ac.jp/lec-k/">http://math0.pm.tokushima-u.ac.jp/lec-k/</a>		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 香田温人(A211, kohda@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kohda@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 12:00～13:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5151040
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択必修・分野A		
科目名	複素関数論[Complex Analysis]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微積分学を修得させる。		
授業の概要	微積分で扱う対象を複素数変数の関数にまで広げ、正則関数および有型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。		
キーワード	正則関数、極と位数、留数定理		
到達目標	複素数、正則関数、留数などの概念の理解とその応用ができる。		
授業の計画	6. コーシーの積分定理	12. 極と留数	
1. 複素数、複素平面	7. コーシーの積分公式	13. 留数定理	
2. オイラーの式、複素関数	8. 実積分への応用 1	14. 実積分への応用 2	
3. 正則関数	9. 絶対収束、ベキ級数	15. 期末試験	
4. コーシー・リーマンの関係式	10. テイラー展開	16. 総括	
5. 複素積分	11. ローラン展開		
教科書	初歩からの複素解析／香田・小野：学術図書出版社，2010，ISBN:9784873612836		
参考書			
成績評価の方法	講義への取り組みを30%、期末試験を70%として評価し、総合点60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	時間数の制約から、複素関数の計算を修得するための必要最小限な議論を行なうので、講義内容のすべてを吸収することが理解への早道である。日頃から予習・復習の計画を立てて勉学に勤しんでほしい。		
JABEE合格	到達目標が各々達成されているかを試験100%で評価し60%以上で合格とする。		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎70%、(D)専門基礎30%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)			
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5151050
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択必修・分野A		
科目名	ベクトル解析[Vector Analysis]		
担当教員	香田 温人 [Atsuhito Kohda]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	工学の解析で必要不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに、ベクトル場の解析学を通して古典力学、流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的な理解・運用を目標とする。		
授業の概要	三次元空間のベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的效果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微積分学を展開し、微積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。		
キーワード	ベクトル場、発散定理		
到達目標	ベクトル場などの各種微分演算や積分、発散定理などについての基礎的性質が理解できる。微分演算は講義の3～7回、発散定理などは8～12回が主に対応する。		
授業の計画	6. 勾配、発散	12. 積分定理のまとめ	
1. 内積と外積	7. 回転、ポテンシャル	13. ベクトルポテンシャル	
2. ベクトル値関数、曲線	8. 線積分、面積分	14. 電磁気の話	
3. 空間曲線、フルネセレーの公式	9. ガウスの発散定理	15. 期末試験	
4. 曲面、接平面	10. ガウスの積分、立体角	16. 総括	
5. 曲面積、ベクトル場	11. ストークスの定理		

教科書	ベクトル解析の基礎／寺田文行・木村宣昭：サイエンス社		
参考書	ベクトル解析の基礎／寺田文行・木村宣昭：サイエンス社		
成績評価の方法	授業への取組み状況、レポートの提出状況、小テスト等の平常点20%、期末試験80%で評価し、全体で60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、講義ノートをきちんととり、各自が普段から、自主的な演習を含む、予習復習をすることが必要です。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎70%、(D)専門基礎30%		
WEB ページ	http://math0.pm.tokushima-u.ac.jp/lec-k/		
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 香田温人(A211, kohda@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kohda@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 12:00～13:00		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5151060
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択		
科目名	数値解析[Numerical Analysis]		
担当教員	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	様々な数値計算手法を身につけるとともに、数値解析の基本的な考え方を習得することを目的とする。		
授業の概要	新しい解析手法である数値シミュレーションに関連して、丸め誤差などの数値計算における基礎的知識、連立一次方程式・固有値問題などの基本的数値計算法について述べる。		
キーワード	数値解析、計算機、コンピュータ		
到達目標	1. 数値誤差が理解できる	2. 方程式の数値解法がプログラムできる程度に理解できる	
授業の計画	6. 連立一次方程式の解法:直接法	12. 行列の相似変換	
1. 数値解析の必要性	7. 連立一次方程式の解法:反復法	13. 固有値の解法:ハウスホルダー法	
2. 計算機概論	8. 連立一次方程式の解法:勾配法	14. 固有ベクトルの解法:QR法	
3. 浮動小数	9. 条件数	15. 固有ベクトルの解法:べき乗法、シフト逆復法	
4. 丸め誤差、桁落ち	10. 非線形方程式の解法:二分法		
5. 浮動小数の四則演算	11. 非線形方程式の解法:ニュートン法	16. 期末試験	
教科書	特に指定しない		
参考書	数値解析の基礎／篠原能材：日新出版 線形計算/名取亮：朝倉書店 数値解析／森正武：共立出版 数値解析とその応用/名取亮：コロナ社		
成績評価の方法	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎70%、(D)専門基礎30%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mailでの問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) オフィスアワー:木曜日 14:00～15:00		
備考			

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151070
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択		
科目名	確率統計学[Probability and Statistics]		
担当教員	工学基礎教育センター教員		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	観測, 実験, 調査等を通じて得られた数値データの解析において, 確率統計学は必要不可欠な学問である。確率統計学の応用分野は, 自然・社会・人文科学・工学・医学等ほとんどすべての研究分野にわたっている。本講義では, 確率的な現象の捉え方, 考え方を学ぶとともに統計学における仮説検定法の考え方を習得することを目的とする。		
授業の概要	最初に統計学に必要な確率論および統計学の基礎を解説し, 次いで大量のデータの中から抽出した一部のデータを用いて統計的推論を行う場合の基本的考え方および統計手法について多くの例題を交えて講義する。また, 毎回講義の最後に演習問題を解く時間を設ける。		
キーワード	確率変数, 確率分布, 検定		
到達目標	1. 基本的な確率の計算ができる。 2. 基本的な確率分布が理解できる。		
授業の計画	6. ポアソン分布	12. 様々な連続型確率分布	
1. 様々な確率統計の例	7. 確率変数の平均と分散	13. 中心極限定理	
2. 事象と確率	8. 平均と分散の性質	14. 仮説検定法	
3. 確率の定義と性質	9. 連続的確率変数	15. 相関関係	
4. 確率変数と確率分布	10. 連続的確率分布の平均と分散	16. 期末試験	
5. 2項分布	11. 正規分布		
教科書	確率・統計入門: 例題中心/坂光一, 水原昂廣, 宇野力: 学術図書出版社, 2001. 12, ISBN:9784873612430		
参考書	基礎統計学. 1/東京大学教養学部統計学教室: 東京大学出版会, 1991.7, ISBN:9784130420655		
成績評価の方法	講義への取り組みを30%, 期末試験を70%として評価し, 総合点 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	無		
受講者へのメッセージ	2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習が, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)			
備考	教科書の数表を用いた演習問題を課すことがあるので必ず教科書を用意すること。		

開講学期	1年・後期	時間割番号	5151080
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択		
科目名	解析力学[Mechanics]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	解析力学は理工系専門科目の基礎となるものである。基礎物理学で履修した質点のニュートン力学につなげて, 質点系および剛体の力学, 解析力学の初歩を講義する。		
授業の概要	下記講義計画に示した項目に従い, 質点系の運動について述べ, 運動量や角運動量について講義する。次に, 剛体の運動がこれらの法則で記述されることを述べる。さらに解析力学の基本となる, ハミルトンの原理やラグランジュの運動方程式について講義し, これらがニュートンの運動方程式と同等の意味を持つものあることを理解する。		
キーワード			
到達目標	1. ニュートン力学の概念の再認識 2. 変分原理の理解とともに解析力学を理解する		
授業の計画	4. 剛体の運動のまとめ		
1. 質点系の物理量, 重心, 運動量, 角運動量	5. 解析力学について		
2. 剛体のつりあい	6. 仮想変位の原理		
3. 剛体の慣性モーメント	7. ダランベールの原理		

8. 変分法	13. 簡単な運動の例 2
9. 変分法の例題	14. 解析力学のまとめ
10. ハミルトンの原理とラグランジュの運動方程式	15. 予備日
11. 一般化された座標とラグランジュの運動方程式	16. 定期テスト
12. 簡単な運動の例 1	
教科書	力学/後藤憲一: 学術図書
参考書	力学/原島 鮮: 裳華房 力学/近藤 淳: 裳華房
成績評価の方法	試験 70%(期末試験), 平常点 30%(授業への取り組み, 演習等)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。
再試験の有無	
受講者へのメッセージ	
JABEE合格	
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%
WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大野 隆(M119, Tel: 088-656-4765)
備考	1. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	2年・前期	時間割番号	5151090
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択		
科目名	量子力学[Quantum Mechanics]		
担当教員	川崎 祐 [Yu Kawasaki]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	ミクロな世界の基本法則である量子力学を修得する。		
授業の概要	量子力学は原子分子などのミクロな世界の基本法則であり, われわれの身の回りのマクロな世界とは異なる法則に基づいている。量子力学の法則ならびに基本的な適用例を講義し, トンネル透過現象, 水素原子内の電子分布など工学への応用につながる例を紹介する。		
キーワード			
到達目標	1. シュレディンガー方程式と波動関数の意味を理解する。 2. 波動関数や期待値等を計算することができる。 3. 簡単な系に応用することができる。		
授業の計画	6. 自由空間における物質波	12. 粒子の運動	
1. はじめに	7. 井戸型ポテンシャル	13. 階段ポテンシャル	
2. 光の波動性と粒子性	8. 調和振動子とエルミート多項式	14. トンネル透過現象	
3. 物質波の考え	9. 中心力ポテンシャルと球面調和関数	15. 水素原子内の電子分布	
4. 波動方程式	10. 確率と観測	16. 期末試験	
5. シュレディンガー方程式	11. 波動関数の性質		
教科書	わかりやすい量子力学/青木亮三: 共立出版, 2005. 9, ISBN:4320024443		
参考書			
成績評価の方法	試験 70%, 平常点 30%(レポート課題, 小テストなど)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 川崎 祐 (A207, Tel: 088-656-9878, E-mail: yu@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) yu@pm.tokushima-u.ac.jp		
備考			



開講学期	2年・後期	時間割番号	5151100
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択必修・分野A		
科目名	熱・統計力学[Thermodynamics and Statistical Mechanics]		
担当教員	川崎 祐 [Yu Kawasaki]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	熱力学と統計力学の基本的概念を習得し、その応用例について学ぶ。		
授業の概要	統計力学はわれわれの身の回りにある普通の大きさの(巨視的な)物質の性質を、その原子・分子的(微視的な)構造から説明することを目指す。また、熱力学は巨視的な物質の熱的な性質や現象に関する一般的な法則である。本講義の前半は熱力学を扱い、後半は統計力学を扱う。基礎から出発して、いくつかの応用例を扱いながら基本的枠組みについて習熟する。		
キーワード	熱力学, 統計力学, 量子統計力学		
到達目標	1. 熱力学の概念と応用例を理解する。 2. 統計力学の概念と応用例を理解する。		
授業の計画	5. 熱力学第二法則	9. 古典統計力学	13. 量子統計力学
1. はじめに	6. エントロピー	10. 小正準集団	14. 理想フェルミ気体
2. 温度と熱	7. 熱力学関数	11. 正準集団	15. 理想ボース気体
3. 熱力学第一法則	8. 熱力学の応用例	12. 大正準集団	16. 期末試験
4. カルノーサイクル			
教科書	ゼロからの熱力学と統計力学/和達三樹, 十河清, 出口哲生:岩波書店, 2005. 12, ISBN:400067001		
参考書			
成績評価の方法	試験 70%, 平常点 30%(レポート課題, 小テストなど) として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	有		
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	成績評価の基準と同一。		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 川崎 祐 (A207, Tel: 088-656-9878, E-mail: yu@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) yu@pm.tokushima-u.ac.jp		
備考	1.		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5151110
科目分野	工学基礎科目		
選必区分	選択		
科目名	基礎固体物性論[Solid State physics (1)]		
担当教員	中村 浩一 [Koichi Nakamura]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	電子機器中の半導体素子をはじめ, あらゆる分野で用いられる機能材料は日新月异で開発されている。こうした材料に対する微視的な見方を身につけることを目的として, 固体の物性について初歩的解説を行う。		
授業の概要	固体における原子の幾何学的配列としての結晶格子を説明し, あわせて結晶格子の不完全性が固体の性質に及ぼす変化とその重要性を解説する。結晶を構成する原子間にどのような力が作用し, どのような性質の結晶ができるのかを学び, また, その原子の振動すなわち格子振動が結晶の熱的性質にどのように関わるのかについて説明する。自由電子論の基礎を概観し, 磁性, 超伝導, 誘電体などの固体物性の基礎を講義する。		
キーワード	結晶構造, 格子振動, 自由電子論, 電気伝導		
到達目標	1. 結晶構造を理解する上での基本的な事柄を理解する。(計画 1~4) 2. 身の回りにある材料とその固体物性の基礎を理解する。(計画 5~15)		
授業の計画	4. 固体の結合	8. 演習	12. ホール効果
1. 結晶の基礎	5. 格子振動 1	9. 自由電子論	13. 磁性
2. X線の回折と結晶	6. 格子振動 2	10. バンド理論	14. 誘電体
3. 代表的な物質の結晶構造	7. 比熱理論	11. 電気伝導	15. 演習 16. 期末試験

教科書	固体物理学: 工学のために/岡崎誠:裳華房, 2002. 10, ISBN:9784785322144		
参考書			
成績評価の方法	試験 70%(期末試験), 平常点 30%(授業への取り組み, 演習等)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	有(全範囲を対象とした再試験を実施する。実施日など別途指示する。)		
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。講義内容の理解の手助けとなる演習問題が出題されるので, 復習しながら, 着実に解いてみる必要がある。		
JABEE合格	成績評価の基準と同一。		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 建設棟 2F216 号室 TEL:088-656-7577 (メールアドレス) koichi@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 9:00~11:00		
備考	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5151130
科目分野	専門基礎科目		
選必区分	必修		
科目名	電気数学演習[Mathematics for Electrical and Electronic Engineering]		
担当教員	宋 天, 上手 洋子 [Ten Soh, Yohko Uwate]		
単位数	1	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	電気電子工学の大部分は数式を用いて記述されている。したがって, 電気電子工学を学ぶためには数学を理解し, その基礎知識を持っておくことが必須である。この講義では特に, 1年後期より始まる必修科目の電気回路1・演習を学習するために必要な数学の基礎を解説する。		
授業の概要	高校で学習した数学のうち, 特に電気電子工学で必要となる事柄(2次関数, 三角関数, 微分, 積分)を復習し, さらに, 電気回路を学習する上で基礎となる行列, ベクトル, 複素数, 指数関数, 三角関数, 正弦波などを講義する。		
キーワード	高校数学の復習, 電気回路の基礎数学		
到達目標	1. 高校で学習した数学のうち, 特に, 2次関数・三角関数・微分・積分を十分理解し, それらを用いた種々の問題を解くことができる。 2. 電気回路の基礎となる数学, 特に, 行列・ベクトル・複素数・正弦波等を理解し, それらに関する問題を解くことができる。		
授業の計画	9. 行列式と連立方程式	10. ベクトルと行列	11. 複素数と複素平面
1. はじめに(講義内容・成績評価の説明, 教科書配布等)	12. 複素指数関数と三角関数	13. 正弦波, 位相, 実効値, 合成	14. 複素正弦波
2. 高校数学の復習(2次関数;数 I)	15. 期末試験(到達目標 2 の評価)	16. 期末試験の返却と解説等まとめ	
3. 高校数学の復習(三角関数;数 II)			
4. 高校数学の復習(微分法;数 II)			
5. 高校数学の復習(微分法の応用;数 II, III)			
6. 高校数学の復習(積分法;数 II, III)			
7. 中間試験(到達目標 1 の評価)			
8. 1次関数と行列			
教科書	電気回路の基礎数学: 連立方程式・複素数・微分方程式/川上博, 島本隆 共著, :コロナ社, 2008, ISBN:9784339008012		
参考書			
成績評価の方法	到達目標の2項目がそれぞれ達成されているかを試験 80%, 平常点(演習レポート等)20%で評価し, 2項目平均で 60%以上あれば合格とする。		
再試験の有無	有		
受講者へのメッセージ	講義中はいつでも復習できるよう, 高校数学の教科書や参考書を手元に置くことを勧める。		
JABEE合格	成績評価の基準と同一。		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎 70%, (D)専門基礎 30%		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 宋天(電気棟 D-4, Tel: 088-656-748) 上手洋子(電気棟 D8, Tel: 088-656-7662) (メールアドレス) 宋天:tiansong@ee.tokushima-u.ac.jp 上手 洋子:uwate@ee.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5151140
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]		
<b>担当教員</b>	島本 隆, 西尾 芳文 [Takashi Shimamoto, Yoshifumi Nishio]		
<b>単位数</b>	3	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電気電子工学の重要な基礎科目として、直流通路および交流回路の解析に必要な基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	直流通路においてはオームの法則と2つのキルヒホッフの法則、電圧源および電流源、回路解析について学ぶ。交流回路においては正弦波交流電源や、抵抗、インダクタおよびキャパシタの線形素子からなる回路の定常状態における解析をするため、記号法と呼ばれる手法を学ぶ。さらに、回路解析でよく利用される諸法則について学ぶ。		
<b>キーワード</b>	直流通路, 交流回路, 回路解析		
<b>先行/科目</b>	『電気数学演習[Mathematics for Electrical and Electronic Engineering]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 直流電源、抵抗素子とその直並列接続、オームの法則、キルヒホッフの法則、回路解析手法、重ね合わせの理を理解し、それらを用いて直流通路解析ができる。</li> <li>2. 交流電源(正弦波電源)、キャパシタとインダクタの素子特性、記号法を用いた解析手順を理解し、それらを用いて交流回路解析ができる。また電力の求め方を理解している。</li> <li>3. 等価回路、ブリッジ回路、周波数特性、整合等の回路解析に有用な諸定理を理解し、それらを回路解析に利用できる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抵抗の素子特性、オームの法則、直流電源、抵抗の直並列接続と合成抵抗、電力</li> <li>2. キルヒホッフの電流則と電圧則</li> <li>3. 節点解析・網目解析・混合解析の手順、重ね合わせの理</li> <li>4. 中間試験(到達目標 1 の評価)</li> <li>5. 正弦波、振幅、角周波数、位相、瞬時値、実効値、交流電源</li> <li>6. キャパシタの素子特性、インダクタの素子特性</li> <li>7. 複素指数関数、オイラーの公式、複素数の実部と虚部、複素抵抗</li> <li>8. 記号法の解析手順、複素インピーダンス、記号法を用いた回路解析</li> <li>9. 合成インピーダンス、キルヒホッフの法則・回路解析手法の交流回路への適用</li> <li>10. 瞬時電力、複素電力、有効電力、無効電力、皮相電力、力率</li> <li>11. 中間試験(到達目標 2 の評価)</li> <li>12. 線形性等の回路の性質、交流回路の重ね合わせの理、電力の重ね合わせ</li> <li>13. テブナンの定理と等価回路、ノートンの定理と等価回路、<math>\Delta</math>-Y 変換</li> <li>14. ブリッジ回路と平衡条件、定抵抗回路、共振回路、整合</li> <li>15. 期末試験(到達目標 3 の評価)</li> <li>16. 期末試験の返却と解説等まとめ</li> </ol>		
<b>教科書</b>	川上, 島本, 西尾共著「例題と課題で学ぶ電気回路-線形回路の定常解析-」コロナ社		
<b>参考書</b>	山口勝也 他著「詳解電気回路例題演習(1),(2)」コロナ社		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の3項目が各々達成されているかを試験80%, 平常点(演習レポート等)20% で評価し、3項目平均で60%以上あれば合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	週2回の講義時間があり、1回は主として講義に、もう1回は主として演習に用いる。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	(C)工学基礎30%, (D)[主目標]専門基礎70%		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 島本 隆(電気棟3階南D-5, 088-656-7483, simamoto@ee.tokushima-u.ac.jp) 西尾 芳文(電気棟3階南D-7, 088-656-7470, nishio@ee.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5151150
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]		
<b>担当教員</b>	島本 隆, 西尾 芳文 [Takashi Shimamoto, Yoshifumi Nishio]		
<b>単位数</b>	3	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電気電子工学の重要な基礎科目として、「電気回路1・演習」に引き続き、相互結合素子、2端子対回路、3相交流回路、分布定数回路の解析に必要な基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	まず、新たな回路素子として、相互インダクタやジャイレータ等、1次側と2次側の電圧・電流が相互に影響しあう回路素子の特性を学ぶ。そして、1次側と2次側の電圧・電流の関係式を記述する2端子対回路の考え方を学ぶ。さらに、3つの交流電圧源が印加された3相交流回路の解析方法、素子定数の空間的な広がりを考慮した分布定数回路の解析方法について学ぶ。		
<b>キーワード</b>	2端子対回路, 3相交流回路, 分布定数回路		
<b>先行/科目</b>	『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『過渡現象[Transient Analysis]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相互インダクタ・制御電源等の相互結合素子の特性を理解し、それらを含む回路を解析できる。2端子対回路の考え方を理解し、1次側と2次側の電圧・電流の関係式を記述できる。</li> <li>2. 対称3相交流電源の性質を理解し、その電源に対称あるいは非対称な3相負荷が接続された回路を解析できる。また3相交流回路の電力の求め方を理解している。</li> <li>3. 素子定数の空間的な広がりを考慮した分布定数回路(特に伝送線路)を解析できる。また、無損失等の様々な条件下での特性を理解し、それらを伝送線路解析に利用できる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相互インダクタの素子特性と等価回路、極性の扱い</li> <li>2. 制御電圧源・制御電流源の扱い、理想変成器の素子特性</li> <li>3. ジャイレータの素子特性、相互結合素子のまとめ</li> <li>4. 2端子対回路の考え方、インピーダンス行列・アドミタンス行列の定義と求め方</li> <li>5. 4端子行列(F行列)の定義と求め方、基本回路のF行列と縦続接続</li> <li>6. 相互インダクタ・理想変成器・ジャイレータのF行列と縦続接続、直列接続、並列接続</li> <li>7. 中間試験(到達目標 1 の評価)</li> <li>8. 対称3相電源の性質と<math>\Delta</math>型・Y型の接続、対称3相負荷の接続と解析方法</li> <li>9. 非対称3相負荷の接続と解析方法</li> <li>10. 3相交流回路の複素電力と有効電力、2電力計法の概念と求解法</li> <li>11. 中間試験(到達目標 2 の評価)</li> <li>12. 分布定数回路(伝送線路)の微小区間モデルと回路方程式、伝搬定数と特性インピーダンス</li> <li>13. 無損失線路・無ひずみ線路・無限長線路の条件、伝送線路の電圧・電流・インピーダンス</li> <li>14. 出力端短絡・開放・整合などの条件下での伝送線路の電圧・電流・インピーダンス</li> <li>15. 期末試験(到達目標 3 の評価)</li> <li>16. 期末試験の返却とまとめ</li> </ol>		
<b>教科書</b>	「電気回路1」で使用した教科書; 川上, 島本, 西尾共著「例題と課題で学ぶ電気回路-線形回路の定常解析-」コロナ社; を引き続き使用する。		
<b>参考書</b>	山口勝也 他著「詳解電気回路例題演習(2),(3)」コロナ社		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の3項目が各々達成されているかを試験80%, 平常点(演習レポート等)20% で評価し、3項目平均で60%以上あれば合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	週2回の講義時間があり、1回は主として講義に、もう1回は主として演習に用いる。		

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 島本 隆(電気棟3階南D-5, 088-656-7483, simamoto@ee.tokushima-u.ac.jp) 西尾 芳文(電気棟3階南D-7, 088-656-7470, nishio@ee.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151160
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	過渡現象[Transient Analysis]		
<b>担当教員</b>	小中 信典, 大屋 英稔 [Shinsuke Konaka, Hidetoshi Ohya]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** 過渡状態に関連した諸概念、特に線形回路の動的性質について理解させる。

**授業の概要** 線形回路の状態は、スイッチの開閉後過渡的に変化する状態と十分時間が経過した後の定常状態の和で表現できる。ここでは、前者を解析し、回路の諸特性を明らかにする。まず、素子の性質と回路の接続状況から回路の状態方程式を導き出す方法について述べる。つぎにその状態方程式を解く方法として、直接的な方法とラプラス変換を用いた方法を紹介する。また保存則や状態の拘束を含む場合の回路の解析方法についても講述する。

**キーワード** 回路解析, 過渡状態, 状態方程式, ラプラス変換

**先行/科目** 『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0) 『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0) 『基礎制御理論[Basic Control Theory]』(0.5)

**関連/科目** 『制御理論[Control Theory]』(0.5)

**到達目標**

1. 素子の性質と回路の接続状況から回路の状態方程式を導き出すことができる。保存則や状態の拘束を含む場合も取り扱うことができる。
2. 直接的な方法とラプラス変換を用いた方法により、状態方程式を解くことができる。保存則が成立する場合や強制退化が起こる場合も取り扱うことができる。

**授業の計画**

1. 基本回路素子の性質(R, L, C, 電源)	9. RC 回路の解析
2. 回路素子の接続(キルヒホフの法則)	10. RLC 回路の解析(直流電圧源を印加する場合)
3. RL 回路, RC 回路の回路方程式	11. RLC 回路の解析(交流電圧源を印加する場合)
4. RLC 回路の回路方程式	12. 保存則を持つ回路の解析
5. 保存則と状態の拘束	13. 強制退化の起こる回路の解析
6. 前半試験(到達目標 1 の評価)	14. ラプラス変換を用いた回路解析
7. 線形非同次常微分方程式の解法	15. 後半のまとめ
8. RL 回路の解析	16. 後半試験(到達目標 2 の評価)

**教科書** 電気回路の過渡現象/小林邦博, 川上博:産業図書, 1991. 9, ISBN:4-7828-5534-6

**参考書**

**成績評価の方法** 試験 80%(前半試験 30%, 後半試験 50%), 平常点(演習・レポート等)20%で評価し、全体で60%以上あれば合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 全回出席することを原則とする。授業時間中に随時演習・レポート等を行うので、前回までの講義内容を十分復習した上で出席すること。「電気回路1・演習」、「電気回路2・演習」の履修を前提として講義を行う。

**JABEE合格** 単位取得条件と同一基準で合格とする。

**学習教育目標との関連** (D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 小中信典(E棟 C-2室, +81-88-656-7469, konaka@ee.tokushima-u.ac.jp) 大屋英稔(E棟 C-7室, +81-88-656-7467, hide-o@ee.tokushima-u.ac.jp)

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
-----------	---

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5151170
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]		
<b>担当教員</b>	直井 美貴, 西野 克志, 富田 卓朗 [Yoshiki Naoi, Katsushi Nishino, Takuro Tomita]		
<b>単位数</b>	3	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** 真空中および誘電体中の静電気現象を取り扱う方法を理解し、それを応用できる力を修得する。

**授業の概要** まず電気磁気学に必要な基礎的事項について説明したのち、電界や電位の考え方から出発し、主に静電気現象の理解に重点をおいた講義を行う。必要な数学(ベクトル解析、関数、微分・積分、座標、微分方程式)に関する知識はその都度与えることとし、その際、演習も含めてそれらを使えるように指導する。また、並行して電気磁気学1の内容に関する演習を行い、内容の理解を深めるとともに、応用力を養成する。

**キーワード** 電気磁気学, 電界, 電束, 電位, エネルギー, 電流, 伝導度, ガウスの法則, ベクトル場, スカラー場

**到達目標**

1. 電磁気の基本的な概念を理解する。電気抵抗の考え方を理解する。
2. ガウスの法則を理解して、電界と電位の計算ができる。
3. 電気映像法による静電界の解析方法を理解する。
4. 誘電体の性質を理解し、様々なコンデンサの静電容量、静電エネルギーと応力の計算ができる。

**授業の計画**

1. 電気・磁気とは何か(2週)	6. ガウスの法則(6週)	11. 小テスト3回目
2. 電気抵抗(2週)	7. 小テスト2回目	12. コンデンサ回路(2週)
3. 直流抵抗回路(2週)	8. 電気力線と電位(2週)	13. 静電エネルギーと力(4週)
4. クーロンの法則(1週)	9. 電界中の導体と静電容量(2週)	14. 小テスト4回目
5. 小テスト1回目	10. 誘電分極効果と電束密度(2週)	15. 最終試験

**教科書**

**参考書**

**成績評価の方法** 到達目標が達成されているかを試験 75%, 平常点 25%(レポート, 小テストなど)として評価し、全体で60%以上で合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 講義内容に沿った演習を行う。演習問題を自分で実際に解くことにより、はじめて本当の理解が可能になる。(暗記科目ではない。)

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** (C)工学基礎 30%, (D)[主目標]専門基礎 70%

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 直井:電気電子棟 A-4,088-656-7447,naoi@ee.tokushima-u.ac.jp 西野:電気電子棟 A-5,088-656-7464,nishino@ee.tokushima-u.ac.jp 富田:電気電子棟 A-1,088-656-7445,tomita@ee.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 講義中に出题する宿題や演習問題の理解度を中心に成績の評価を行う。授業内容を理解しつつノートを取ることを推奨する。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5151180
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気磁気学2・演習[Electromagnetic Theory (II) and Exercise]		
<b>担当教員</b>	直井 美貴, 西野 克志 [Yoshiki Naoi, Katsushi Nishino]		
<b>単位数</b>	3	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)



<b>授業の目的</b> 電気磁気学は電気電子工学および関連分野を学ぶ者にとって必須の基礎学問である。本科目では、電気磁気学1・演習で学ぶ静電気現象を除いた電気磁気学の基礎事項を学習する。また、諸法則がマクスウェル方程式により体系づけられることを学ぶ。	
<b>授業の概要</b> 電気電子技術者として十分な理解が要求される電流の概念について復習し、電流により生じる真空中の静電磁界現象について学ぶ。また、電流にはたらく力、インダクタンスや電磁誘導、物質の磁気的性質について学ぶ。最後に、静電界・静磁界に対するマクスウェル方程式を導出し電磁波の基礎について学ぶ。講義を行うとともに演習を実施する。	
<b>キーワード</b> 磁界、インダクタンス、電磁誘導、磁性体、マクスウェル方程式、電磁波	
<b>到達目標</b>	
1. 与えられた電流に対してこれより生じる磁界をアンペアの周回積分の法則または ビオ・サバールの法則を用いて計算できる。(授業計画 1～11 および最終試験)	
2. 物質中の磁束密度、磁性体と磁界の関係を理解できる。(授業計画 12～21 および最終試験)	
3. インダクタンスと電磁誘導の基礎概念が理解できる。(授業計画 22～26 および最終試験)	
4. マクスウェル方程式の導出と電磁波の伝搬の様子が理解できる。(授業計画 27～30 および最終試験)	
<b>授業の計画</b>	11. // 演習
1. 磁場と磁力線	12. 電磁誘導
2. // 演習	13. // 演習
3. ビオ・サバールの法則	14. 磁場中の回転コイルに生じる起電力
4. // 演習	15. // 演習
5. アンペールの法則	16. 自己誘導・相互誘導
6. // 演習	17. 小テスト(2)
7. 小テスト(1)	18. 磁化・磁気回路
8. 電流にはたらく力、電流間にはたらく力	19. // 演習
9. // 演習	20. 磁性体
10. 荷電粒子にはたらく力	21. // 演習
22. 電磁気学の微分形の法則	23. // 演習
24. 変位電流 no)	25. // 演習
26. 小テスト(3)	27. マクスウェル方程式
28. // 演習	29. 波動方程式
30. // 演習	31. 最終試験(定期試験)
<b>教科書</b> :実教出版, 2007	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が達成されているかを試験 75%, 平常点 25%(レポート, 小テストなど)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義内容に沿った演習を行う。演習問題を自分で実際に解くことにより、はじめて本当の理解が可能になる。(暗記科目ではない。)	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 直井:電気電子棟 A-4,088-656-7447,naoi@ee.tokushima-u.ac.jp 西野:電気電子棟 A-5,088-656-7464,nishino@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 17:00～18:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の講義時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしよう。また、2 時間の演習時間毎に 1 時間の予習・復習をしよう。授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5151240
<b>科目分野</b>			
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気電子工学基礎演習[Fundamentals of Electrical and Electronic Engineering]		
<b>担当教員</b>	橋爪 正樹, 直井 美貴 [Masaki Hashizume, Yoshiki Naoi]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 大学は答えの一つでない、もしくは答えのない問題を解く能力を身につけること。それには専門に関する知識の獲得だけでは不十分で、考える力、討論する力、解析する力やもの作り力など種々のスキルが獲得する必要がある。電気電子工学を本学科で本格的に学習し始める前に、電気電子工学を学習し、上記の能力を身につける上で最低限必要な基礎力(知識, スキル)を演習・討論を通して身につける。			

<b>授業の概要</b> 高校の物理 I, II の内容を電気電子工学の立場から講述し、その内容に関する答えのない本学科での専門科目の履修する上での基礎能力を身につける。 本授業では小・中学校の理科で学ぶ内容から始めるので、高校で物理を受講していなくても本科目の受講上の問題は無い。ただ本授業は高校の物理 I・II の復習ではなく、それを電気電子工学分野に発展させるものである。電気電子工学は機械、建設、化学、生物等様々な分野で応用されるので、本科目で講述する内容以外の高校の物理の内容も将来必要となる。そのため高校で物理を受講していない人は「工学基礎物理」を必ず受講すること。	
<b>キーワード</b> 電気電子工学, 物理, 電気エネルギー, 電圧, 電流, 電力	
<b>先行/科目</b> 『大学入門講座(工・電気電子)』[Introduction to University Education]』(1.0)	
<b>関連/科目</b> 『電気電子工学入門実験[Electrical and Electronic Engineering Laboratory (Intr.)]』(1.0) ,『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0) ,『電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]』(1.0) ,『エンジニアリング入門[Introduction of Engineering]』(1.0)	
<b>到達目標</b> 1. 高校の物理 I, II の電気電子工学に関する内容を理解する 2. 理系のレポート作成力を身につける 3. もの作り実習と実験を行うスキルを身につける 4. 専門科目の学習スタイルを身につける	
<b>授業の計画</b>	6. 電流
1. 電気電子工学とは?	7. 電池
2. 電気電子工学で求められるレポートとその書き方	8. 回路
3. 導体・絶縁体	9. 回路設計
4. 電気エネルギーの発生	10. 磁界
5. 電気エネルギーの保管	11. 発電
12. 交流と直流	13. インピーダンス
14. 電力	15. 発振現象
16. 回路シミュレータの利用術	
<b>教科書</b> 毎回プリントを配布し、それをもとに授業を実施する	
<b>参考書</b>	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 授業中適宜紹介	
<b>成績評価の方法</b> 実習課題レポート 80%, 平常点(出席点, 演習) 20%で評価し, 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 無し	
<b>受講者へのメッセージ</b> 大学での勉学は電気電子工学に関する専門的な「知識」の獲得だけが目的ではありません。専門的な知識以外に、それを応用する技能(スキル)、考える力、理解する力が重要です。その基礎力を本授業で演習を通して身につけるので、休まず出席すること。レポート課題を出すのすべて提出すること。	
<b>JABEE合格</b> 単位取得により JABEE 合格	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)[主目標]専門基礎 90%, (C)工学基礎 10%	
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/%7etume/misc/MYCroom/">http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/%7etume/misc/MYCroom/</a>
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	
<b>備考</b>	予習は不要。復習および毎回出る課題レポートを提出すること。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5151190
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	プログラミング基礎[P]		
<b>担当教員</b>	宋 天, 上手 洋子 [Ten Soh, Yohko Uwate]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> プログラミング言語 C(以下, C 言語)を用いたコンピュータプログラミングについて講義し, 演習を行うことで, コンピュータにおけるプログラミングの考え方を理解させるとともに C 言語プログラムの読解力および基本的なプログラム作成技法を習得させる。			
<b>授業の概要</b> 多様な目的を果たすためにコンピュータを用いるには, プログラミングの知識は技術者にとって欠くことのできない要素である。本演習では, 代表的な手続き型プログラミング言語の一つである C 言語について, プログラム開発ツールの使い方を習得させた後, (1)基本的なデータ入出力, (2)条件分岐処理, (3)繰り返し処理, (4)配列を利用するプログラムについて講述し実習を行なう。			
<b>キーワード</b> C 言語, プログラミング書式, 演算子, 制御構造, 配列			
<b>到達目標</b> 1. C 言語の文法を理解する。 2. C 言語プログラムの読解力を習得する。 3. C 言語プログラミング手法を習得する。			

<b>授業の計画</b>	9. 多方向分岐処理(switch 文)
1. UNIXの基本コマンド	10. 繰り返し処理(for 文)
2. プログラム開発環境の操作方法	11. 繰り返し処理(while 文)
3. C言語のプログラム書式	12. 繰り返し処理(continue, break 文)
4. データの型	13. 配列(1 次元)
5. 演算子	14. 配列(2 次元)
6. 入出力関数(scanf, printf 関数)	15. 期末試験(到達目標 1,2,3 の評価)
7. 文字列の構造と入出力	16. 試験の返却と解説等まとめ
8. 条件分岐処理(if 文)	
<b>教科書</b>	講義の最初に配布するプリントを使用する。
<b>参考書</b>	阿曾弘具ほか 共著「UNIXとC」(近代科学社)
<b>成績評価の方法</b>	到達目標の3項目が各々達成されているかを試験70%, 平常点(実習レポートなど)30%とし, 3項目平均で60%以上であれば合格とする。ただし, C言語プログラミング経験者に関しては試験の比率を100%として評価を行なうことがある。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎週の演習では, 前半を講義, 後半を実習形式で行う。実習で作成したプログラムは以降の演習に利用するため, 実習で科されたプログラムは必ず次の演習時間までに完成させておくこと。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	(C)工学基礎 30%, (D)[主目標]専門基礎 70%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 宋天(電気棟 D-4, Tel: 088-656-7484) (メールアドレス) tiansong@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日: 16:00-18:00
<b>備考</b>	1. 卒業研究, 大学院での研究ではコンピュータプログラミングができることが前提となっていることが多い上に, 電気電子工学科卒業生としてコンピュータプログラミングが行える能力を身につけているのが当たり前となっている。必ず受講してプログラミング能力を身につけること。 2. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5151200
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	半導体工学基礎[Semiconductor Physics]		
<b>担当教員</b>	西野 克志 [Katsushi Nishino]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	半導体工学の概要を紹介して理解させること		
<b>授業の概要</b>	この授業では半導体工学の基礎事項を解説する。半導体材料の基礎物性とpn接合ダイオードおよび金属-半導体接触における基礎事項を取り扱う。		
<b>キーワード</b>	半導体のバンド理論, 真性半導体, 外因性半導体, PN接合, ショットキー接合		
<b>到達目標</b>	1. 半導体の帯理論について説明できる 2. 半導体の電気伝導について説明できる 3. PN接合の基礎について説明できる 4. 金属-半導体接触の基礎について説明できる		
<b>授業の計画</b>	6. 半導体中の電気伝導	12. 金属-半導体接触のエネルギー帯図	
1. バンド理論の概略	7. 半導体電気特性の評価	13. ショットキー接合の電流-電圧特性	
2. 半導体中のキャリア濃度	8. PN接合のエネルギー帯図	14. ショットキー接合の空乏層解析	
3. 真性半導体	9. PN接合の電流-電圧特性	15. 金属-半導体接触の評価	
4. 外因性半導体	10. PN接合の空乏層解析	16. 期末テスト	
5. フェルミ準位	11. PN接合の評価		
<b>教科書</b>	「新版基礎半導体工学」岡岡昭夫, 上村喜一著, 朝倉出版, ISBN978-4-254-22138-1		
<b>参考書</b>	Semiconductor Devices, Physics and Technology. S. M. Sze (John Wiley & Sons, Inc. 2nd edition, 2001).		
<b>成績評価の方法</b>	平常点 25%と期末試験 75%で評価する。平常点は演習, レポートの結果を総合して評価する。60%であれば合格する。		

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	本科目を履修後は, 「電子デバイス」, 「集積回路1, 2」, 「光デバイス工学」を順次履修することを想定している。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 西野克志(E棟 2階南 A-5, 088-656-7464, nishino@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) nishino@ee.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5151210
<b>科目分野</b>	専門基礎科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	エネルギー工学基礎論[Fundamentals of Energy Engineering]		
<b>担当教員</b>	下村 直行 [Naoyuki Shimomura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	エネルギー工学の基礎と電気エネルギー利用のための基礎原理を理解するとともに, エネルギー問題と関連の環境問題を理解する。		
<b>授業の概要</b>	講義により, エネルギー工学の基礎と電気エネルギー利用のための基礎原理を解説する。エネルギー問題と関連の環境問題を解説する。		
<b>キーワード</b>	エネルギー, 電気エネルギー, エネルギー問題, 環境問題		
<b>到達目標</b>	1. エネルギー工学の基礎を理解する(1-3) 2. エネルギー問題と関連の環境問題を理解する(3-14) 3. 各エネルギーと電気エネルギーの相互変換を理解する(8-14) 4. 電気エネルギー利用の基礎技術を理解する(2-6,12)		
<b>授業の計画</b>	6. 現代におけるエネルギー使用	12. ヒートポンプと省エネ	
1. エネルギー工学の導入	7. 限りあるエネルギー資源	13. 電池	
2. エネルギー工学の基礎	8. 原子核エネルギー	14. 水素エネルギーと燃料電池	
3. 電気エネルギーの歴史	9. 光と電気のエネルギー相互変換	15. 確認試験	
4. 発電工学・送電工学	10. 熱力学	16. 講義内容の総括とまとめ	
5. 電力利用	11. 火力発電・原子力発電の熱力学		
<b>教科書</b>	基礎エネルギー工学/桂井誠: 理工学社, 2002. 10, ISBN:4901683047		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを, 毎回のレポート課題 80%, 確認試験 20%で評価し, 全体で 60%以上で合格とする。エネルギーに関する基礎的な知識を主に確認試験で判断する。エネルギー工学は広範な知識に基づくもので, かつ環境問題等と併せると単純に解が求まらない事柄も多く, この点については広範でかつ掘り下げた課題を扱うレポートにより判断する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎回の講義でレポート課題を出題する。このレポートは成績の評価に大きなウエイトを占めるので, 別途指示される注意事項を正確に守って提出されたい。また講義への欠席状況がレポートの採点に影響するので, 注意されたい。		
<b>JABEE合格</b>	到達目標の各々が達成されているかをレポート 80%, 試験 20%で評価し, 60%以上で合格とする		
<b>学習教育目標との関連</b>	(A)教養・倫理 20%, (D)[主目標]専門基礎 50%, (E)専門分野 30%		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 下村(E棟 2階北 B-8, 088-656-7463, simomura@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) simomura@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) オフィスアワー: (月) 16:00 - 19:00		
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5151220																		
科目分野	専門基礎科目																				
選必区分	必修																				
科目名	基礎制御理論[Basic Control Theory]																				
担当教員	大屋 英稔 [Hidetoshi Ohya]																				
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)																		
授業の目的	制御工学は、その適用範囲が電気系や機械系のみでなく、社会システムや交通システムに至るまで多岐にわたる横断的な学問である。本講義では、動的システムの表現法(伝達関数表現, 状態方程式表現)を理解する。また、周波数伝達関数と周波数応答, 伝達関数表現に基づいた安定判別法, および制御系設計法の基礎を修得する。																				
授業の概要	本講義では、まず動的システムの伝達関数表現, 状態方程式表現について説明する。次に、ブロック線図を用いてシステムの構造を記述する方法, 周波数伝達関数, 周波数応答, および時間応答について述べる。また、伝達関数表現に基づいたシステムの安定性と安定判別法, およびフィードバック制御系の設計仕様と制御系設計法の基礎的事項について解説する。																				
キーワード	伝達関数表現, 状態方程式表現, 周波数応答, 時間応答, 安定性, 制御系設計																				
先行/科目	『電気数学演習[Mathematics for Electrical and Electronic Engineering]』(1.0)																				
関連/科目	『過渡現象[Transient Analysis]』(0.5), 『制御理論[Control Theory]』(0.5)																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>動的システムの伝達関数表現, 状態方程式表現を理解し, システムの時間応答, 周波数応答を求めることができる。</li> <li>制御系の安定性を調べることができる。また, 制御系設計仕様, および制御系設計の基礎的事項を修得している。</li> </ol>																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. システムの制御と制御工学</td> <td>8. 前半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>2. 動的システムの伝達関数表現と状態方程式表現</td> <td>9. 前半試験</td> </tr> <tr> <td>3. ラプラス変換とその性質</td> <td>10. 制御系の安定性</td> </tr> <tr> <td>4. 伝達関数と周波数伝達関数</td> <td>11. ラウス・フルビッツの安定判別法</td> </tr> <tr> <td>5. 周波数応答</td> <td>12. ナイキストの安定判別法</td> </tr> <tr> <td>6. 基本伝達関数の特性(比例要素, 微分要素, 積分要素)</td> <td>13. 制御系設計仕様(過渡特性と定常特性)</td> </tr> <tr> <td>7. 基本伝達関数の特性(一次遅れ要素, 一次進み要素, 二次要素)</td> <td>14. 制御系設計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>16. 後半試験</td> </tr> </table>			1. システムの制御と制御工学	8. 前半のまとめ	2. 動的システムの伝達関数表現と状態方程式表現	9. 前半試験	3. ラプラス変換とその性質	10. 制御系の安定性	4. 伝達関数と周波数伝達関数	11. ラウス・フルビッツの安定判別法	5. 周波数応答	12. ナイキストの安定判別法	6. 基本伝達関数の特性(比例要素, 微分要素, 積分要素)	13. 制御系設計仕様(過渡特性と定常特性)	7. 基本伝達関数の特性(一次遅れ要素, 一次進み要素, 二次要素)	14. 制御系設計		15. 後半のまとめ		16. 後半試験
1. システムの制御と制御工学	8. 前半のまとめ																				
2. 動的システムの伝達関数表現と状態方程式表現	9. 前半試験																				
3. ラプラス変換とその性質	10. 制御系の安定性																				
4. 伝達関数と周波数伝達関数	11. ラウス・フルビッツの安定判別法																				
5. 周波数応答	12. ナイキストの安定判別法																				
6. 基本伝達関数の特性(比例要素, 微分要素, 積分要素)	13. 制御系設計仕様(過渡特性と定常特性)																				
7. 基本伝達関数の特性(一次遅れ要素, 一次進み要素, 二次要素)	14. 制御系設計																				
	15. 後半のまとめ																				
	16. 後半試験																				
教科書	使用しない。適宜, 資料を配布する。																				
参考書	自動制御理論/樋口竜雄 著, :森北出版, 1989, ISBN:4627726406 制御工学/竹内俱佳, 萩野剛二郎 共著, :培風館, 1996, ISBN:4563036722																				
教科書・参考書に関する補足情報	制御工学のテキストは数多い。参考書としては、伝達関数表現や周波数応答などに関連した書籍であれば、いずれを参考にしても良い。																				
成績評価の方法	試験 80%(前半試験 40%, 後半試験 40%), 平常点 20%(演習・宿題等)で評価し, 全体で 60%以上あれば合格とする。補充試験を行う場合もある。																				
再試験の有無	再試験の有無																				
受講者へのメッセージ	全回出席することを原則とする。講義はすべて板書によって講義を進めるので、ノートをしっかりとのこと。欠席した場合、次の講義までに他の学生のノートを写させてもらっておくこと。また、予習・復習を必ず行うこと。																				
JABEE合格	単位取得条件と同一基準で合格とする。																				
学習教育目標との関連	(D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%																				
WEB ページ																					
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大屋英稔(E 棟 C-7 室, +81-88-656-7467, hide-o@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) hide-o@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日:9時~10時, 水曜日:13時~14時																				
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をした上で授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>制御工学は、横断的学問である。学習するには、広い分野の知識を必要とする。製造関係の企業への職業を選択する場合、身につけておかなければならない学問の一つである。</li> </ol>																				

開講学期	2年・後期	時間割番号	5151690																		
科目分野	専門基礎科目																				
選必区分	必修																				
科目名	情報通信基礎[Basic Theory of Electronic Communication]																				
担当教員	大家 隆弘 [Takahiro Oie]																				
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)																		
授業の目的	情報化社会の中核技術の1つが通信技術であり、電気電子分野で広く活用される技術となっている。ここでは通信技術を正確に理解するための基礎となる理論を解説する。																				
授業の概要	信号を時間領域および周波数領域で解析するための理論, および信号伝送・処理のための手法について講義する。また信号を用いて情報伝送する観点からの基礎理論を講義する。																				
キーワード	フーリエ変換, A/D変換, 標本化定理, パワースペクトル, エントロピー																				
先行/科目	『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0), 『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0), 『過渡現象[Transient Analysis]』(0.5)																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>信号の時間領域, 周波数領域での解析ができる。(授業計画 1-6)</li> <li>信号および情報伝送の基礎理論を修得する。(授業計画 8-14)</li> </ol>																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 時間信号の定義, 内積と相関</td> <td>6. 標本化定理と信号伝送・処理</td> <td>12. 確率と情報</td> </tr> <tr> <td>2. 複素フーリエ級数と信号解析</td> <td>7. 中間試験(到達目標 1. の評価)</td> <td>13. エントロピーと情報伝送, 情報源符号化</td> </tr> <tr> <td>3. フーリエ変換による信号解析</td> <td>8. 通信路の伝送特性</td> <td>14. 通信路容量と通信路符号化</td> </tr> <tr> <td>4. フーリエ変換の性質と通信応用(線形システムと畳み込み積分定理)</td> <td>9. 通信路の歪みとフィルター</td> <td>15. 期末試験(到達目標 2. の評価)</td> </tr> <tr> <td>5. インパルスを用いた信号解析</td> <td>10. パワースペクトル密度とその有用性</td> <td>16. 試験の返却とまとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. 整合フィルタ</td> <td></td> </tr> </table>			1. 時間信号の定義, 内積と相関	6. 標本化定理と信号伝送・処理	12. 確率と情報	2. 複素フーリエ級数と信号解析	7. 中間試験(到達目標 1. の評価)	13. エントロピーと情報伝送, 情報源符号化	3. フーリエ変換による信号解析	8. 通信路の伝送特性	14. 通信路容量と通信路符号化	4. フーリエ変換の性質と通信応用(線形システムと畳み込み積分定理)	9. 通信路の歪みとフィルター	15. 期末試験(到達目標 2. の評価)	5. インパルスを用いた信号解析	10. パワースペクトル密度とその有用性	16. 試験の返却とまとめ		11. 整合フィルタ	
1. 時間信号の定義, 内積と相関	6. 標本化定理と信号伝送・処理	12. 確率と情報																			
2. 複素フーリエ級数と信号解析	7. 中間試験(到達目標 1. の評価)	13. エントロピーと情報伝送, 情報源符号化																			
3. フーリエ変換による信号解析	8. 通信路の伝送特性	14. 通信路容量と通信路符号化																			
4. フーリエ変換の性質と通信応用(線形システムと畳み込み積分定理)	9. 通信路の歪みとフィルター	15. 期末試験(到達目標 2. の評価)																			
5. インパルスを用いた信号解析	10. パワースペクトル密度とその有用性	16. 試験の返却とまとめ																			
	11. 整合フィルタ																				
教科書	自作プリント																				
参考書	わかる情報理論/島田・木内・大松:日新出版 通信工学/田崎・美咲編:朝倉書店																				
成績評価の方法	試験 80%(中間試験 40%, 期末試験 40%), 平常点 20%(レポート, 出席状況等)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。																				
再試験の有無	再試験の有無																				
受講者へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な微分, 積分, 複素数および確率の基礎が理解できていることを前提とし, 「電気回路 1, 2」, 「過渡現象」の内容を復習しておくことが望ましい。</li> <li>配布するプリントには理解を助ける例題が多く掲載されているので, 自分で解いて力をつけてほしい。4週間に1回程度, 演習問題を宿題とする。</li> </ul>																				
JABEE合格	JABEE合格																				
学習教育目標との関連	(D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%																				
WEB ページ	http://cms-ldap.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10729/@University/Lecture/BasicTheoryOfElectronicCommunication/																				
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大家(電気電子棟 C-1, Tel:088-656-7479, E-mail: alex@ee) (メールアドレス) alex@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月:16:20~17:20, 金:18:00~19:30																				
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>さほど予備知識は必要としないが, 新しい考え方, 概念が出てくるので講義には必ず出席してほしい。図を描きながら分かりやすく説明する。またプリントには例題, 演習問題が多く載せてあるので, 自分で解き, 実力をつけてほしい。</li> <li>授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>																				

開講学期	2年・後期	時間割番号	5151230
科目分野	専門基礎科目		
選必区分	必修		
科目名	電子回路基礎[Electronic Circuits]		
担当教員	橋爪 正樹 [Masaki Hashizume]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)



<b>授業の目的</b>	電子機器に不可欠なアナログ信号を増幅・発振させる電子回路についての基礎知識を習得する。
<b>授業の概要</b>	アナログ電子回路素子として使用する場合のダイオード、トランジスタの電気的特性、各種増幅回路の構成法と解析法、発振回路の構成法と解析法について講義する。
<b>キーワード</b>	接合トランジスタ、ダイオード、MOS、増幅回路、発振回路、図式解法、等価回路
<b>先行/科目</b>	『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0)
<b>関連/科目</b>	『パルス・デジタル回路[Digital Circuits]』(0.5)
<b>到達目標</b>	1. ダイオード、トランジスタの動作を説明できる。 2. 基本増幅回路の動作を図式解法、等価回路を用いた解析法で予測できる。 3. 各種増幅回路の回路動作を予測できる。 4. 発振回路の構成法とその発振原理を説明できる。
<b>授業の計画</b>	1. 電子回路とは 2. ダイオードとそれを用いた回路の動作解析法 3. 接合トランジスタとその動作 4. MOS FET とその動作 5. 増幅回路の構成と増幅原理 6. 図式解法による基本増幅回路の電気的特性解析法 7. 等価回路による基本増幅回路の電気的特性解析法 8. RC 結合増幅回路とその動作原理 9. RC 結合増幅回路の設計 10. RC 結合増幅回路の周波数特性 11. 多段増幅回路とその解析 12. 差動増幅回路とその動作原理 13. 電力増幅回路とその動作原理 14. 帰還増幅回路の動作原理とその動作解析 15. 発振回路の発振の原理とその動作解析 16. 期末試験
<b>教科書</b>	二宮保, 小浜輝彦「学びやすいアナログ電子回路」昭晃堂
<b>参考書</b>	齊藤正男「線形電子回路」昭晃堂, 小牧省三「アナログ電子回路」オーム社
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	自作の講義ノートを使って授業を進める。
<b>成績評価の方法</b>	試験 80%, 平常点 20%(レポート)として評価し, 60%以上で合格とする。
<b>再試験の有無</b>	有
<b>受講者へのメッセージ</b>	丸暗記しようせず, 理解するように心がけること。「電気回路1, 電気回路2」を理解していることを前提に講義する。講義後の復習が不可欠。
<b>JABEE合格</b>	単位取得により JABEE 合格
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)[主目標]専門基礎 70%, (E)専門分野 30%
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/~tume/misc/MYCroom/">http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/~tume/misc/MYCroom/</a>
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) D2, Tel:4612
<b>備考</b>	1. 本科目は知能電子回路関連科目(デジタル電子回路, 電子回路設計, 論理回路, 集積回路, マイコンシステム設計など)の基礎重要科目であるので, 必ず受講し単位を取得すること。将来, コンピュータを含むエレクトロニクス機器の開発・研究に携わりたい人は必ず受講しておくこと。学系内共通科目でもある。 2. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5151290
<b>科目分野</b>	実験科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気電子工学入門実験[Electrical and Electronic Engineering Laboratory (Intr.)]		
<b>担当教員</b>	芥川 正武, 宋 天, 富田 卓朗, 山中 建二 [Masatake Akutagawa, Ten Soh, Takuro Tomita, Yamanaka Kenji]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	(1) 電気電子工学の初学者に特別な専門知識を必要とせずに基礎的なことから先端技術まで幅広く体験学習させ, 電気電子工学に興味を抱かせる。(2) 入学後の早い段階で, 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考法と適切な表現能力を育てる。		

<b>授業の概要</b>	電気電子工学に興味を抱かせることを念頭に, 電気電子工学科を構成する物性デバイス, 電気エネルギー, 電気電子システムおよび知能電子回路の4大講座分野に関連した4つのテーマについて, 体験学習形式で実施する。また最終課題に少人数のグループで取り組み, 課題解決及びコミュニケーション能力を養う。
<b>キーワード</b>	電動機, 結晶成長, マイコン, 電子回路
<b>到達目標</b>	1. 知的体験学習を通じて電気電子工学に興味を抱かせる。 2. 知的活動への動機づけを高め, 科学的な思考法と適切な表現能力を育てる。
<b>授業の計画</b>	1. 実験方法説明(1週) 2. 電動機の組立:電動機を組み立て, 回転原理を考える(3週) 3. 発光ダイオード, 光検出器, 太陽電池の特性(3週) 4. マイコンプログラミング:マイコンを使った電子回路を試作し, 動作を確かめる。(3週) 5. 電子回路工作:電子回路部品を使って電子回路を試作し, 動作を確かめる(3週) 6. 最終課題:グループワーク(2週) 7. 総括(1週)
<b>教科書</b>	プリント等
<b>参考書</b>	電気機器学基礎論/多田 限 進, 常広 譲, 石川 芳博:電気学会, 2004, ISBN:9784886862471
<b>成績評価の方法</b>	4分野の演習課題と最終課題のそれぞれについてレポートを提出し, それら全てが受理されることが必要である。4分野の演習課題が各20%, 最終課題が20%で合計評価点が60%以上あれば合格とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	基礎的な実験で電気電子工学に興味を抱かせるなどの多くのプログラムが組まれており, またグループワークも実施するので, 全回出席を原則とする。
<b>JABEE合格</b>	成績評価の方法に基づき, 合格となること。
<b>学習教育目標との関連</b>	(A)[主目標]教養・倫理 40%, (B)社会情報 20%, (D)専門基礎 20%, (F)創成・自律 20%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 宋天: 電気電子棟 D-4, Tel: 088-656-7484, E-mail: tiansong@ee.tokushima-u.ac.jp 芥川正武: 電気電子棟 3階 C-5, Tel: 088-656-7477, makutaga@ee.tokushima-u.ac.jp 山中建二: 電気電子棟 北側 2階 B-6室 088-656-7462 富田卓朗: 電気電子棟南側 2階 A-1 または エコ棟 403, Tel: 088-656-9846, E-mail: tomita@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151300
<b>科目分野</b>	実験科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気電子工学基礎実験[Electrical and Electronic Engineering Design Laboratory]		
<b>担当教員</b>	西野 克志, 大宅 薫, 酒井 士郎, 敷 金平, 永瀬 雅夫, 川上 烈生, 上手 洋子, 大屋 英稔, 富田 卓朗 [Katsushi Nishino, Kaoru Ohya, Shiroh Sakai, Jinpin Ao, Masao Nagase, Retsuo Kawakami, Yohko Uwate, Hidetoshi Ohya, Takuro Tomita]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	実験を通して, 電気磁気および回路の現象を, 電気磁気学や電気回路の知識を用いて解釈・理解できるようにすると共に, 計測機器の取扱い方を修得し, 実験結果を的確な技術報告書としてまとめ報告発表する能力を身につける。		
<b>授業の概要</b>	1. 実施予定表に従い, 各題目について実験をし, 実験の1週間後に報告発表し, 2週間以内に完成したレポートを提出する。報告発表やレポートの内容が不十分な場合は再度の報告発表や再レポートを求められるが, この求めに応じないと単位が出ないことがある。2. 実験が終わったら実験結果データの電子ファイルをつくる。班のメンバーはこれを随時参照して報告発表原稿とレポートを作成する。		
<b>キーワード</b>	電流による磁界, R,L,Cの測定, 共振特性, 過渡現象波形, MOS デジタル回路, 電気電子工学基礎実験, 基礎実験		
<b>到達目標</b>	1. 目的, 原理および方法を理解すること。2. 器具・装置を正しく操作でき, 必要なデータを取れること。 3. データを表や図に整理して, 結果を吟味し, 考察を加え, 独自のレポートにまとめられること。 4. 実験結果についてプレゼンテーションができること。		

<b>授業の計画</b>	
1.	実験の目的・意義, 安全と環境対策, データの取扱い, レポート・プレゼンテーションの作成, に関する講義, および全 5 実験題目の解説(1 週)
2.	電流による磁界(2 週)
3.	R, L, C の測定(2 週)
4.	共振特性(2 週)
5.	過渡現象波形(2 週)
6.	MOS デジタル回路(2 週)
7.	試験(2 週)
8.	ただし, 各題目 2 週の内訳は, 実験に 1 週, 報告発表に 1 週とする. 各班で最初の題目に関してはデータ整理のための 1 週を充てる. 試験は上記の 1. 講義および解説に関して計 2 回行う.
<b>教科書</b>	電気電子工学科教員による指導書「電気電子工学基礎実験」
<b>参考書</b>	各実験題目に関する参考書は上記教科書に記載されている.
<b>成績評価の方法</b>	各題目について, すべての到達目標が達成されている度合を, 報告発表・レポート 90%, 試験 10%として評価し, すべての題目において 60%以上あれば合格とする
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	実験ノート, グラフ用紙, 電卓を各自で用意し, 実験までに十分に予習しておくこと.
<b>JABEE合格</b>	各題目について, すべての到達目標が達成されている度合を, 報告発表・レポート 90%, 試験 10%として評価し, すべての題目において 60%以上あれば合格とする.
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)[主目標]専門基礎 50%, (E)専門分野 30%, (F)創成・自律 20%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 西野 克志 大野 泰夫 (メールアドレス) 西野 克志:nishino@ee.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1.

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151310
<b>科目分野</b>	実験科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気電子工学創成実験[Electrical and Electronic Engineering Design Laboratory]		
<b>担当教員</b>	直井 美貴, 橋爪 正樹, 四柳 浩之, 芥川 正武, 榎本 崇宏, 岡村 康弘 [Yoshiki Naoi, Masaki Hashizume, Hiroyuki Yotsuyanagi, Masatake Akutagawa, Takahiro Emoto, Yasuhiro Okamura]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** 半導体デバイスの作製, 半導体デバイスの応用領域となるアナログ電子回路とデジタル回路の設計と製作を行い, 半導体デバイスからその応用回路までの電子工学に関する専門分野間の関係をつかむと共に, 半導体デバイス, アナログ電子回路, デジタル回路に関する理解を深める.

**授業の概要** 半導体 pn 接合発光ダイオードの試作, アナログ電子回路の設計・試作, および半導体デジタル回路に対する設計・製作に関する実験を行う. また, 報告書の作成を行う.

**キーワード** 半導体デバイス, アナログ電子回路, デジタル電子回路

#### 到達目標

- 半導体デバイスの試作とその試作したデバイスの特性評価を通じて, 半導体プロセスの基本的原理の理解し, プロセス上の問題点の改善策の提起能力を養う. またデバイスの基本動作原理を理解する. (授業計画 2~6:実験実施状況, レポート, 口頭試問による評価)
- 半導体デバイスの入出力特性から得られる回路モデルを用いたアナログ電子回路設計法を理解し, 設計した回路の作製とその特性測定を通して, アナログ電子回路のものの作りを体験する. (授業計画 7~11:実験実施状況, レポート, 口頭試問による評価)
- デジタル IC の動作特性を理解し, FPGA プログラミングによる論理回路合成を通してデジタル回路設計手法を習得する. (授業計画 12~16:実験実施状況, レポート, 口頭試問による評価)

#### 授業の計画

- オリエンテーション(概要説明)
- 半導体を用いた発光・受光素子の試作とその特性評価:概要説明
- 〃 :実験(1)-クリーンルームプロセス, 真空蒸着による薄膜形成

- 〃 :実験(2)-熱拡散によるオーム性接触形成, 配線実装
- 〃 :実験(3)-試作デバイスの電気・光学特性評価
- 〃 :学生によるブリーフィングと教員によるインタビュー
- 光通信アナログ電子回路の設計・製造・検査:概要説明
- 〃 :実験(1)-回路のブレッドボードによる試作
- 〃 :実験(2)-回路のプリント基板への実装・検査
- 〃 :実験(3)-回路シミュレータを用いたアナログ電子回路の設計
- 〃 :学生によるブリーフィングと教員によるインタビュー
- デジタル IC の静特性, 動特性の測定実験および FPGA プログラミング:概要説明
- 〃 :実験(1)-デジタル IC の静特性, 動特性の測定実験
- 〃 :実験(2)-FPGA プログラミング(サンプル回路の製作)
- 〃 :実験(3)-FPGA プログラミング(回路設計および製作:自由課題)
- 〃 :学生によるブリーフィングと教員によるインタビュー

**教科書** 実験指導書および「電子回路」, 「デジタル回路」, 「量子工学基礎」で使用した教科書

#### 参考書

**成績評価の方法** 定期試験は行わず, 提出レポートと口頭試問で評価する. オリエンテーションを含むすべての実験に出席し, すべての実験テーマについてレポートを提出し, 各実験テーマそれぞれについて, レポートと口頭試問の総合評価点数が 60%以上で合格とする.

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 実際の実験実施日以前に, 担当教員から実験内容の説明を受ける. 実験実施前日までに実験方法や原理等に関するレポートを提出すると共に, 実験実施日までに実験回路や被検試料等を準備する. 実験実施後, 6 日以内に実験結果を整理し, 考察を加えた実験報告書を担当教員まで提出する. 実験実施日の次の週に口頭試問を受ける. 本実験では, 実験テーマが同一であっても, 毎週得られる結果は異なるので, 実験結果に関しては十分な考察を加える必要がある.

**JABEE合格** 単位取得条件と同一基準で合格とする.

**学習教育目標との関連** (E)専門分野(物性デバイス, 電気電子システム, 知能電子回路)40%, (F)[主目標]創成・自律 60%

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 直井 美貴:電気電子棟 A-4,088-656-7447,naoi@ee.tokushima-u.ac.jp 橋爪 正樹:電気電子棟 D-2,088-656-7473,tume@ee.tokushima-u.ac.jp 芥川 正武:電気電子棟 C-5,088-656-7477,makutaga@ee.tokushima-u.ac.jp 榎本 崇宏:電気電子棟 C-6,088-656-7476,emoto@ee.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5151320
<b>科目分野</b>	実験科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気電子工学実験1[Electrical and Electronic Engineering Laboratory (I)]		
<b>担当教員</b>	寺西 研二, 川田 昌武, 安野 卓, 北條 昌秀, 下村 直行, 山中 建二 [Kenji Teranishi, Masatake Kawada, Takashi Yasuno, Masahide Hohjoh, Naoyuki Shimomura, Kenji Yamanaka]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** 各テーマに関する実験および口頭試問により, 各実験の基礎的な事項や物理的な意味を理解し, 実際の物としての理解を深め, その考え方を修得する. また, 実験方法と結果の整理方法についても学修する.

**授業の概要** 電気機器関係および電力関係の基礎的な実験として, 下記の 6 テーマについて, 実験内容・実験方法・実験結果を検討・考察し, 各テーマの講義内容と合わせて理解をより一層深める. なお, 実験実施日の前の週に, 各テーマごとの予習事項について, 自ら考え理解しているかに関して, 指導教員から口頭試問を受ける. また, 実験実施日の次の週に, 各テーマごとの実験結果およびその考察に関して, 指導教員からの口頭試問を受ける.

**キーワード** 直流電動機, 変圧器, 誘導電動機, サイリスタ整流回路, 伝達関数, 送電線路, 配電線路

#### 到達目標

- 各実験テーマについて, 次の 4 つの評価目標が達成されることを目標とする.
- 各テーマに対する予習・復習を通して, 自ら調べ, 自ら考え理解する力をつけること.
- 実験対象の特性および原理を理解すること.
- 計画的かつ安全に実験を実行し, 実験対象の特性の検証に必要なデータの収集ができること.
- 図・表による実験方法および実験結果の表現法を修得し, 実験内容に基づいた理論的なレポートとしてまとめられること.



<b>授業の計画</b>	
1. 直流他励電動機に関する実験; 直流他励電動機の無負荷飽和特性試験および実負荷特性試験を行う。これより、直流他励電動機の基礎特性を理解し、さらに電圧制御時および界磁制御時の速度-トルク特性の違いも把握する。	
2. 変圧器および誘導電動機に関する実験; 変圧器の無負荷試験・短絡試験・負荷試験および誘導電動機の無負荷試験・拘束試験を行い、両者の試験結果の相違点の物理的意味を考える。さらに、試験結果から両者の等価回路の回路定数を導出し、これより特性計算を行いその基礎特性を把握する。	
3. サイリスタ整流回路に関する実験; サイリスタ単相全波整流回路について、位相制御特性を実測し理論値と比較検討する。これより、位相制御特性および瞬時値と平均値・実効値の考えを理解する。また、動作波形の観測から整流回路動作の理解を深める。	
4. 伝達関数の測定に関する実験; パソコンを使用して、RC 回路および直流他励電動機の伝達関数を、周波数応答法および過渡応答法により求める。これより、伝達関数の基礎的事項を理解するとともに、非線形摩擦や電機子インダクタンスの影響を考える。また、パソコンを計測に使用する場合の注意点や方法なども理解する。	
5. 模擬送電線路に関する実験; 短距離送電線の電圧降下と、電力円線図に関する実験を行う。交流理論の基礎を再確認するとともに、電力円線図の作成を通して送電線による電力輸送に関して理解を深める。	
6. 模擬配電線路に関する実験; 単相三線式配電方式についての理解を深める。	
<b>教科書</b> 実験のテキスト(プリント)	
<b>参考書</b> 各テーマの内容に関係する講義の教科書および電気工学ハンドブック(オーム社)など。	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が各々達成されているかを各レポートと口頭試問の成績を合わせて100%で評価し、全体平均60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 実験前に必ずレポートの[実験内容、原理および実験方法]の項を記述しておくこと。また、実験実施日の前後の週にある口頭試問に対して、十分に予習復習をしておくこと。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価方法に従った評価によって合格となること。	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 20%, (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)80%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 寺西 研二:寺西 研二 (E 棟 2 階北 B-7, 088-656-7454, teranishi@ee.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. レポートの内容によっては再提出を求められることがある。なお、電気主任技術者の資格申請に必要な科目であり、将来、本資格の取得を考えている者は受講し単位を修得しておく必要がある。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5151330
<b>科目分野</b>	実験科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電気電子工学実験2[Electrical and Electronic Engineering Laboratory (2)]		
<b>担当教員</b>	久保 智裕, 安野 卓, 寺西 研二, 大屋 英稔, 山中 建二 [Tomohiro Kubo, Takashi Yasuno, Kenji Teranishi, Hidetoshi Ohya, Yamanaka Kenji]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	実験を通して、電気電子応用技術に関する理解を深めると共に、技術者として安全管理に配慮した実験機器及び測定機器の取扱い方法を修得し、実験結果を的確な技術報告書としてまとめる能力を身につける。		
<b>授業の概要</b>	電気機器、パワーエレクトロニクス、高電圧、新エネルギー、計測、制御といった専門的な内容について、基礎知識を実験的に検証するとともに、その応用技術に関する理解を深める。受講者はグループ毎に上記分野に関する実験を行い、各自レポートを作成提出する。		
<b>キーワード</b>	電動機、半導体電力変換装置、燃料電池、直流放電特性、シーケンス制御、システム同定		
<b>到達目標</b>	1. 計画的かつ安全に実験を遂行し、実験対象の特性の検証に適切なデータ収集ができること。 2. 実験対象の特性及び原理を理解すること。 3. 理解した事項を実験結果に基づいた論理的なレポートとしてまとめられること。		
<b>授業の計画</b>	1. 直流機ドライブに関する実験; IGBT チョップ回路による直流電動機速度制御システムに対し、チョップ回路動作の確認および直流電動機の速度制御特性を測定する。		

2. 交流機ドライブに関する実験; インバータ回路による電動機駆動システムに対し、回路動作の確認および電動機の駆動方法等をシミュレータを用いて確認する。	
3. 新エネルギー発電の実験; 太陽電池と燃料電池の発電原理と特徴を理解すると共に、これらを含む分散型電源の特徴と今後の電力系統における役割を考える。	
4. 各種ギャップの直流放電特性; 球対球ギャップを用いた直流高電圧の測定を行う。針対平板電極間によりコロナ放電特性、絶縁耐力ならびにフラッシュオーバー特性を測定する。これらを通し、直流高電圧に対する理解を深める。	
5. シーケンス制御; PLC(プログラマブル・ロジック・コントローラ)を用いて、簡単な機器のシーケンス制御を行う。	
6. 状態方程式のパラメータ推定; 実験に基づいて、DC モータ制御系の状態方程式表現の理解を深める。	
<b>教科書</b> 本科目担当教員の作成するテキスト	
<b>参考書</b> 各実験内容の対応する専門科目の教科書がこれにあたる。	
<b>成績評価の方法</b> 必要条件として、すべての実験に出席し、すべての実験課題についてのレポートを提出し、それらすべてが受理されることが必要である。その上で、実験課題毎に到達目標の3項目についてレポート100%で総合的に評価し、すべての実験課題について60%以上であれば合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> レポートの内容によっては再提出を求められることがある。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価方法に従った評価において合格となること。	
<b>学習教育目標との関連</b> (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー、電気電子システム)80%, (F)創成・自律 20%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山中 建二(E 棟 2 階北 B-6 室, Tel: 088-656-7462) (メールアドレス) 大屋 英稔:hide-o@ee.tokushima-u.ac.jp 久保 智裕:kubo@ee.tokushima-u.ac.jp 寺西 研二:teranishi@ee.tokushima-u.ac.jp 安野 卓:yasuno@ee.tokushima-u.ac.jp 山中 建二:yamaken@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 大屋 英稔:月曜日:17時~18時, 水曜日:12時~13時 久保 智裕:月曜日:17時~18時, 水曜日:8時30~9時30 寺西 研二:毎週月曜 17:00~19:00 安野 卓:毎週月曜日 15:00~17:30 山中 建二:随時
<b>備考</b>	1. 本科目は電気主任技術者の資格申請に必要な科目であり、将来、本資格の取得を考えている者は受講し単位を修得しておく必要がある。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5151340
<b>科目分野</b>	実験科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電気電子工学実験3[Electrical and Electronic Engineering Laboratory (3)]		
<b>担当教員</b>	四柳 浩之, 川上 烈生, 敷 金平, 榎本 崇宏 [Hiroyuki Yotsuyanagi, Retsuo Kawakami, Jinpin Ao, Takahiro Emoto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	実験方法や理論の基礎に関する理解を深める。各種電子計測機器の取り扱い方法を取得する。技術ドキュメントの作成に慣れる。		
<b>授業の概要</b>	より専門的な実験課題を取り扱う。その範囲はアナログ電子回路、デジタル電子回路、マイクロ波・光を使った計測回路・通信回路に関するものである。これら科目の現象を実験を通して確認するとともに、その理解を深める。受講者はグループに別れ、課題になった実験を行い、各自実験のレポートを作成提出する。		
<b>キーワード</b>	発振回路、能動フィルタ回路、変復調回路、A/D,D/A 変換回路、マイクロ波計測、半導体の不純物分布測定		
<b>先行/科目</b>	『電子回路基礎[Electronic Circuits]』(1.0), 『通信工学[Communication Systems]』(1.0), 『電磁波工学[Electromagnetic wave engineering]』(1.0), 『電子物性工学[Solid State Physics]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 各実験テーマについてそれぞれ下記を目標とする。1)正弦波発振回路を設計・製作できる能力の養成および動作原理の理解 2)能動フィルタを設計・製作できる能力の養成および動作原理の理解 3)変復調回路の動作原理の理解 4)A/D 変換回路, D/A 変換回路の動作原理の理解 5)マイクロ波計測の基礎原理の理解およびマイクロ波デバイスの設計技術の獲得 6)C-V(容量-電圧)法を用いた半導体の不純物分布測定に関する測定原理の理解および測定技術の獲得(講義計画 1-6 およびレポートによる)		



2.	実験課題の現象とその物理的意味を理解する(講義計画 1-6 およびレポートによる)
3.	実験機器を正しく操作できる(講義計画 1-6 およびレポートによる)
4.	作図, 作表を含め, 技術ドキュメントを作成できる(講義計画 1-6 およびレポートによる)
<b>授業の計画</b>	
1.	正弦波発振回路: 正弦波を発生する正弦波発振回路の設計・製作を行い, その回路の動作原理を理解する。
2.	フィルタ回路: 能動フィルタ回路の設計・製作を行い, その回路の動作原理を理解する。
3.	変復調回路: 「変復調回路」の各種特性を測定し, 変復調回路の動作原理とその特性について理解する。
4.	A/D, D/A 変換回路: アナログ信号をデジタル信号に変換する「A/D 変換回路」, デジタル信号をアナログ信号に変換する「D/A 変換回路」の各種特性を測定し, それらの動作原理について理解する。
5.	マイクロ波に関する実験: クライストロンを用い, その発振特性を測定することにより, マイクロ波の周波数および電力の測定法を理解する実験, あるいは, 半導体マイクロ波デバイスの設計技術を取得するための計算機実験を行う。
6.	C-V 法による半導体不純物分布の測定: C-V(容量-電圧)法を用いた半導体の不純物分布測定に関する実験を行い, IC チップの扱い方, 測定装置の使い方, 測定原理を勉強する。
<b>教科書</b> 本科目担当教員の作成するテキスト	
<b>参考書</b> 各実験内容の対応する専門科目の教科書がこれにあたる	
<b>成績評価の方法</b> 実験課題ごとに到達目標の 4 項目が達成されているかをレポート 100% で総合的に評価し, すべての実験課題について 60% 以上であれば合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE 合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (E)[主目標]専門分野(電気電子システム, 知能電子回路, 物性デバイス)80%, (F)創成・自律 20%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 四柳 浩之
<b>備考</b>	1. レポートの内容によっては再提出を求められることがある。なお, 電気主任技術者の資格申請に必要な科目であり, 将来, 本資格の取得を考えている者は受講し単位を修得しておく必要がある。

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5151360
<b>科目分野</b>	特別教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	卒業研究[Undergraduate Work]		
<b>担当教員</b>	工学部電気電子工学科教員		
<b>単位数</b>	5	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 従来のような講義を学習するというような受身の学習から 1 歩進め, 考える力を育成するためのもの科目で一連の創成科目の仕上げとなるものである。また, 大学院との共同研究等を通じてプロジェクト形の研究能力も養われる。これらの研究過程の中で, 教員と学生が意見交わすことによって科学技術に携わる技術者としての倫理的思考能力を養うことなど, 幅広い教育を行うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 配属された研究室において, 指導教員の下で電気電子工学に関する研究課題について研究し, 学生自身が新しい工夫とかアイデアを自ら発想し, 論文に書き上げることまでを指導する科目である。人数は教員当たり 3~4 名と小人数できめ細かな指導が行われる。研究テーマについては 3 年後期の終わり頃, 電気電子工学科の 4 専門分野の物性デバイス, 電気エネルギー, 電気電子システム, 知能電子回路の各講座に属する研究室, および本学科に関連する工学部共通講座等から発表される。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1.	研究活動を通して, 技術者として社会への貢献と責任, 倫理観について考える。		
2.	研究に必要な文献等(外国語文献を含む)を調査・読解する能力を養う。		
3.	自主的・継続的な学習能力を養う。		
4.	研究を計画的に遂行し, 的確に結果を解析し, 考察する能力を養う。		
5.	研究成果をまとめ, 論文として記述する能力を養う。		
6.	論文内容の適切なプレゼンテーションを行う能力を養う。		

<b>授業の計画</b>	
1.	卒業研究着手条件を満足した学生は, 4 月に各研究室に配属され, 前後期を通じて研究を行う。
2.	研究室で指導教員との定期的な研究打ち合わせや発表会を行う。
3.	卒業論文を提出し, 電気電子工学科の研究発表会で研究成果の発表を行う。
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 以下の条件により, 可否を判定する。1. 指導教員により, 337.5 時間以上の研究を実施していると認められること。2. 各研究室で定められた形式でゼミなどにおける報告を行っていること。3. 定められた様式に従って卒業論文をまとめ, 定められた期日までに提出すること。4. 卒業論文の内容を電気電子工学科の発表会で発表し, 論文・発表に関する審査の結果が合格であること。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 研究室配属は年度開始前に行われるので, 配属研究室希望調査などの掲示に注意すること。研究室配属は配属時点での成績に従って配属される枠と成績によらないで配属される枠がある。研究室での受け入れ枠があるので, 成績が上位のものでも, 必ずしも第一希望の研究室に配属されるとは限らない。従って, 重点的に学習したい分野の教科をおさえた上で, ある程度幅広い科目を履修しておくことを勧める。講義のない時間帯を計画的に用いて研究活動が行われ, 日々の研究活動過程が重要視される。	
<b>JABEE 合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)[主目標]社会情報 30%, (E)[主目標]専門分野 30%, (F)[主目標]創成・自律 30%, (G)プロジェクト型研究 10%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 所属研究室教員
<b>備考</b>	1. 3 年次後期(2 月頃)に行なわれる上級学年の卒業研究発表会を聴講し, 研究室配属希望の参考にすること。

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5151370
<b>科目分野</b>	特別教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気電子工学輪講[Electrical and Electronic Engineering Seminar]		
<b>担当教員</b>	工学部電気電子工学科教員		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 学部における授業は多人数を対象とする講義形式が大半であるが, 本科目は, 卒業研究で配属された研究室において, 比較的小人数を対象としたゼミ形式で行われる授業である。内容は配属された研究室により異なるが, 研究内容に関連した専門分野の英文テキストを, 教員や大学院生と共に輪読する形式で進められることが主である。この輪講を通じて, 指導書に書かれている内容や表現法・専門用語を学び, 専門英語の読解力を養うとともに, 読解した内容のプレゼンテーションについても訓練させることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 配属された研究室において, 指導教員から与えられた電気電子工学(主としてその研究室の専門分野)に関する英文テキストを, 研究室で定めた時間帯において輪読する。本科目はゼミ形式で行われ, 学生の発表内容について, 指導教員から必要に応じて質問や助言がある。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1.	英語の専門用語を学ぶ。		
2.	自主的・継続的な英語学習能力を養う。		
3.	読解した英文テキストの内容についてプレゼンテーションができる。		
4.	指導教員や学生間で発表内容説明に関してコミュニケーションができる。		
<b>授業の計画</b>			
1.	4 月に各研究室に配属された学生は, 前後期を通じて輪講を行う。		
2.	研究室で定められた時間に, 英文テキストを輪読する。		
3.	担当する範囲について, プレゼンテーションを行う。		
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			

<b>成績評価の方法</b> 到達目標が各々達成されているかを、以下の条件により可否を判定する。1. 担当する範囲において、専門用語が獲得できていることが認められること(到達目標 1)。2. 毎回の輪講の内容が理解できているかどうか、指導教員の質問に答えられること(到達目標 2)。3. 文面内容、図面および式の導出などが的確に発表できていることが認められること(到達目標 3)。4. 輪講での内容に関する討論に加わり、意見交換ができること(到達目標 4)	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 発表の際に指導教員から英語の和訳はもちろんのこと、それらに関連した図表の説明や式の導出方法を問われても回答できるよう、前もって十分に調べ、理解しておくことが大切である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (B)[主目標]社会情報 60%, (F)創成・自律 40%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 所属研究室教員
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5151380
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 技術者・科学者に強く要求される倫理的行動についての理解を深める。			
<b>授業の概要</b> 科学技術は人間社会や自然との関係が深い。それは多くの場合には生活を便利で豊かなものにするが、適用を誤れば負の影響も及ぼす。近年その倫理がさまざまな形で重視されるようになってきている。技術者も科学者も多くの場合、一人の人が時に技術し時に科学する。この講義では、技術に関わる者が専門的職業人として実社会で活躍するために必要な倫理的能力を、多くの事例学習を通して身につける。			
<b>キーワード</b> 技術者倫理, 企業倫理, 工学倫理			
<b>到達目標</b>			
1. 倫理的な課題が内在する事例に対し、その課題の存在を把握できるようになる(感受性)			
2. 倫理的課題解決に役立つ知識を獲得する(知識の獲得)			
3. 種々の制約条件の中で複数の解決策を考え、その中から合理的理由付けを行った最適解を提案できるようになる(解のデザイン)			
<b>授業の計画</b>			
1. (序論)学びたいこと、学んでほしいこと、本科目の全体像の確認			
2. (本論)事例学習(I&J), 学生とは(進路)			
3. 倫理とは、学生とは(学びの経路), コピペと著作権(学生の倫理と法)			
4. 大学とは、研究とは、研究者とは、倫理綱領			
5. 専門家とは、技術の専門家とは、研究成果の事業化について			
6. 技術とは、技術を学ぶとは			
7. 今なぜ技術者倫理なのか、技術者倫理事例に学ぶ(1)			
8. 技術者倫理事例に学ぶ(2)			
9. 技術者倫理事例に学ぶ(3)			
10. 知的財産権と倫理			
11. 今なぜ企業倫理なのか、企業倫理事例に学ぶ(1)			
12. 企業倫理事例に学ぶ(2)			
13. 企業倫理と法(1)			
14. 企業倫理と法(2)			
15. 企業倫理事例に学ぶ(3), 本論のまとめ、次に何を学ぶか			
16. レポートの返却とまとめ			
<b>教科書</b> 技術者倫理事例集, 電気学会(オーム社) 講義で配布するプリント			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 到達目標が各々達成されているかを、レポート、グループ討議、宿題で評価し、60%以上あれば合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 到達目標が各々達成されているかを、レポート、グループ討議、宿題で評価し、60%以上あれば合格とする。			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)[主目標]教養・倫理 80%, (B)社会情報 20%			

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 電気電子工学科
<b>備考</b>	1. 夏季休業中に集中して行なう。日程は決まり次第掲示される。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5151410
<b>科目分野</b>	特別教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	エンジニアリング入門[Introduction of Engineering]		
<b>担当教員</b>	下村 直行 [Naoyuki Shimomura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 本学科の卒業生の大部分は電気電子工学のエンジニアになる。本講義ではエンジニアの活動であるエンジニアリングの初歩や基礎的な知識に加え、電気電子工学のエンジニアに必要な基礎知識を学ぶ。同時に電気電子工学のエンジニアになるため4年間の課程で学習する上で、科目の繋がりがなど電気電子工学の体系や学習や研究の手法や技術などを理解し、計画的で円滑な学習を可能にする。			
<b>授業の概要</b> 電気電子工学のエンジニアになるため4年間の課程で学習する上で、高校と大学の学習方法や学習目的の違いを理解して、4年間の学習の方向性やそのための計画を明確にする。そのために、電気電子工学の体系を説明し、また電気電子工学の学習の上でポイントになる点をピックアップし要点を説明する。特にエンジニアリングの基礎といえる数学については、電気電子工学のエンジニアリングと関係の深いものをピックアップし、電気電子工学の視点から平易に説明して、理解を進める。 エンジニアリングデザインを行う上で必要な、データの処理方法、報文の作成技法、コミュニケーションに関連したこと、グループワークの手法などを学習し、さらにその一部は演習して会得する。			
<b>キーワード</b> エンジニアリング, エンジニア, 電気電子工学, エンジニアリングデザイン			
<b>関連科目</b> 『電気電子工学基礎演習[Fundamentals of Electrical and Electronic Engineering]』(0.5)、『エンジニアリングデザイン演習[Engineering Design Exercise]』(0.5)、『(工)電気電子工学概論[Overview of Electrical and Electronic Engineering]』(0.5)、『電気電子工学特別講義[Special Lectures on Electrical and Electronic Engineering]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. 電気電子工学におけるエンジニアリングのための基礎的な知識を理解する 2. エンジニアリングデザインのための技術と手法を理解し、その初歩が実践できる			
<b>授業の計画</b>			
1. 私とエンジニア			
2. エンジニアリングデザインの考え方			
3. 電気磁気学と電気回路論			
4. 電気電子工学の歴史と学問の体系			
5. エンジニアリングと数学(1)			
6. エンジニアリングと数学(2)			
7. エンジニアリングと数学(3)			
8. 実験データの整理と解析			
9. 技術レポートの作成			
10. エンジニアのコミュニケーション 技術とファシリテーション			
11. 情報の発信とプレゼンテーション			
12. グループワークの方法			
13. 問題の発見・解決の方法			
14. 信頼性と安全性			
15. 技術者の倫理			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 講義中に作成する課題レポートおよびその発表内容、ミニテスト、講義外で行う課題レポートなどにより評価する。平常点 100%で評価し、60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 試験は実施せずに、レポートやミニテストなどの平常点により成績は評価するので、予習・復習を行わないと講義の理解、したがって単位の取得はおぼつかない。			
<b>JABEE合格</b> 講義中に作成する課題レポートおよびその発表内容、ミニテスト、講義外で行う課題レポートなどにより評価する。平常点 100%で評価し、60%以上で合格とする。			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)教養・倫理 10%, (B)社会情報 10%, (D)[主目標]専門基礎 40%, (F)創成・自律 30%, (G)プロジェクト型研究 10%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 下村(E 棟 2 階北 B-8, 088-656-7463, simomura@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) simomura@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) オフィスアワー: (月) 16:00 - 19:00		

備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	---

開講学期	4年・前期	時間割番号	5151420
科目分野	特別教育科目		
選必区分	必修		
科目名	エンジニアリングデザイン演習[Engineering Design Exercise]		
担当教員	下村 直行, 工学部電気電子工学科教員 [Naoyuki Shimomura]		
単位数	1	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** エンジニアにとってデザイン能力およびグループワーク能力の獲得は非常に重要である。卒業後の実社会においては、大学で学んだ様々な知識を直接的に使う問題解決できる事は少ない。様々な知識を有機的・横断的に組み合わせ、種々の問題や環境に応じて対処する力が必要である。その一つがデザイン能力やグループワーク能力である。本授業では、これら能力の獲得・向上を目的とする。

**授業の概要** 卒業研究を行う研究室あるいは大講室内の複数の研究室内でチームを組み、卒業研究課題に近いテーマを設定し、これまでに履修した科目の知識を総合的に使いながら独創的な発想のもと現実的な解決方法を自ら探索する。

**キーワード** エンジニアリングデザイン, グループワーク

**到達目標** グループワークを通じた、エンジニアリングデザインの基本能力の獲得

#### 授業の計画

本授業では開講期間中を通して、問題発見型解決型学習方式あるいはプロジェクト型演習方式によってグループワークを通じた学生自身の主体的学習による研修方式により実施する。本科目においては、電気電子創生工学コースが定める標準的研修時間に対して、学生が任意に計画立案して履修する。したがって、初回の説明以外、授業回数は特別に定めない。

授業は、指導教員の指示にしたがって、以下の内容について実施する。

- ・デザイン教育の意義・位置づけの説明, チームによるグループワーク実施方法の説明
- ・デザインすべきテーマの立案
- ・立案テーマに関する知識を収集。
- ・グループワークによるデザイン実施,
- ・状況に応じて、再テーマ立案およびその実施
- ・途中経過を定期的にグループ内で報告しグループ討議を実施
- ・最終的にデザイン成果を学科主催の報告会で発表

**教科書** 担当教員が各テーマ毎に指示する。

#### 参考書

**成績評価の方法** 成績はデザイン成果の完成度、内容、報告会の発表内容、途中経過の報告会発表内容の状況により評価する。

#### 再試験の有無

#### 受講者へのメッセージ

#### JABEE合格

**学習教育目標との関連** (F)創成・自律 30%, (G) [主目標]プロジェクト型研究 70%

WEB ページ	
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	
備考	

開講学期	3年・通年	時間割番号	5151390
科目分野	特別教育科目		
選必区分	必修		
科目名	英語コミュニケーション[Communication in English]		
授業タイプ	英語(総合英語)		
担当教員	上手 洋子, 工学部非常勤講師 [Yohko Uwate]		
単位数	1	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** 国際化、グローバル化した現代では、専門分野の事項についても、英語による情報を取得したり、英語で表現したりする必要性がますます高まってきた。この授業では、電気電子工学における英語の能力を「聞く」「話す」「読む」「書く」の各領域にわたってバランスよく向上させることを図る。

**授業の概要** クラスの半数の学生には、前期に「聞く」「話す」の領域の授業を行い、後期に「読む」「書く」の領域の授業を行う。残りの半数の学生には、前期と後期の内容を入れ替えた授業を行う。「聞く」「話す」の領域の授業は更にクラス分けし、英語のネイティブ・スピーカーの非常勤講師と電気電子工学科教員が共同してあたり、電気電子工学の基礎的事項についての会話・長文聞きとり・スピーチなどを行うための基本的能力を向上させる。「読む」「書く」の領域の授業は、電気電子工学科教員が担当し、専門分野の基礎的事項(電気磁気学・電気回路)の英文テキストを輪読するとともに、それらの英作文の授業も行う。

**キーワード** 英語会話, 専門英語

#### 到達目標

1. 電気電子工学の基礎的事項に関して英語によって会話、聞きとり、スピーチなどを行うための基本的能力を修得する。
2. 電気電子工学の基礎的事項に関する英文読解、英作文のための基本的能力を修得する。

**授業の計画** 1～15 「聞く」「話す」の領域の授業(適宜、到達目標 1 の評価のための小テストを行う)、16 「聞く」「話す」の領域の期末試験(到達目標 1 の評価)、17～31 「読む」「書く」の領域の授業、32 「読む」「書く」の領域の期末試験(到達目標 2 の評価)、または 1～15 「読む」「書く」の領域の授業、16 「読む」「書く」の領域の期末試験(到達目標 2 の評価)、17～31 「聞く」「話す」の領域の授業(適宜、到達目標 1 の評価のための小テストを行う)、32 「聞く」「話す」の領域の期末試験(到達目標 1 の評価)

**教科書** 英語コミュニケーション道場 (Communication Focus)/Mark D.Stafford, Neil Heffernan, 松本広幸, 中山晃 著, :金星堂, 2011, ISBN:9784764739123  
特製テキストを用いる。

#### 参考書

**成績評価の方法** 「聞く」「話す」の領域では小テスト 40%, 期末テスト 40%, 平常点 20% で評価を行う。「読む」「書く」の領域では試験 80%, 平常点 20% で評価を行う。「聞く」「話す」の成績と「読む」「書く」の成績の平均が 60%以上あれば合格とする。

#### 再試験の有無

#### 受講者へのメッセージ

#### JABEE合格

**学習教育目標との関連** (B)[主目標]社会情報 100%

WEB ページ	
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上手 洋子 (D8, Tel: 088-656-7662, E-mail: uwate@ee.tokushima-u.ac.jp)
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	4年・通年	時間割番号	5151400
科目分野	特別教育科目		
選必区分	選択		
科目名	電気電子工学特別講義[Special Lectures on Electrical and Electronic Engineering]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)

**授業の目的** その分野の学内外の第一人者によるホットな研究情報や成果・技術動向の講義を、直接受けることによって通常の講義とは異なった刺激を受け、より視野を広げることが目的とする。

**授業の概要** 学外から電気電子工学分野の複数の専門家を招き、最先端の技術トピックを講義する。この講義を通して、先進的な技術の一端を理解するとともに、これまでに習得してきた専門科目の活用の実際を学習する。また、電気電子技術者としての必要な考え方、心構えについても触れる。

**キーワード** 先端技術, 技術動向, 工学倫理

#### 到達目標

1. 電気電子工学の先進的な技術動向の一端を知る。
2. 先端的技術を支える周辺の専門知識技術等の重要性を知る。
3. 第一人者による専門家の技術開発に取り組む考え方を知る。
4. 社会における電気電子工学の役割や技術者の責任・倫理を自覚する。



<b>授業の計画</b>	毎年、講師によって内容が異なるが、基本的には電気電子工学科の4つの講座の研究室から申請された講師によって講演が行われるので、電気電子工学全般にわたる幅広い分野における最先端の技術トピックの講義講演会が企画される。履修上の注意にも述べたが、企業から来られる講演者の都合により、不定期に行われるので、開催通知の掲示に十分注意しておくこと。
<b>教科書</b>	プリント
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が各々達成されているかを、授業への参加状況 50%、レポート内容 50%で評価し、全体で 60%以上あれば合格とする。
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	時間割通りではなく、企業から来られる講演者の都合により、不定期に行われるので、掲示に十分注意しておくこと。なお、各講演時間の終わりに、講演内容に関しての内容や意見を求めるレポートの提出が求められる。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	(A)教養・倫理 20%, (B)[主目標]社会情報 50%, (E)専門分野 30%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 4年クラス担任
<b>備考</b>	1. 不定期に行なわれるので、掲示に注意すること。 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151450
<b>科目分野</b>	物性デバイス関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野B		
<b>科目名</b>	量子工学基礎[Quantum Mechanics for Semiconductor Physics]		
<b>担当教員</b>	教 金平 [Jimpin Ao]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	半導体材料の性質や半導体デバイスの動作原理を理解するために必要となる半導体内の電子に関する基礎物理概念を修得する。		
<b>授業の概要</b>	半導体材料の性質や半導体デバイスの動作原理を理解するためには、量子力学的基礎に基づいて半導体内の電子の状態を知ることが不可欠となる。授業では、まず簡単なポテンシャル中での電子の状態をシュレディンガーの波動方程式から導き、量子力学に特徴的な現象について述べる。次いで結晶中で電子のとらえる状態について述べた後、半導体のバンド構造について解説し、さらに量子効果の起こるような半導体構造について講義する。		
<b>キーワード</b>	シュレディンガー方程式、エネルギーバンド、半導体、量子井戸構造		
<b>到達目標</b>	1. シュレディンガーの波動方程式から簡単なポテンシャル中での電子のふるまいを知ることができる。(授業計画1~4および最終試験) 2. 結晶内電子のエネルギーバンドの考え方、および状態密度等これに関係する諸概念を理解する。(授業計画5~9および最終試験) 3. 半導体や基本的な半導体デバイスに関する諸概念を理解する。(授業計画10~12および最終試験) 4. 量子効果の現れるような構造を理解する。(授業計画13~14および最終試験)		
<b>授業の計画</b>	1. 量子力学の基礎 2. 井戸型ポテンシャル中の電子 3. 階段状ポテンシャルに入射する電子 4. トンネル効果・水素原子 5. 状態密度	6. フェルミ・ディラックの分布関数 7. クローニッヒ・ペニーのモデル 8. 結晶内における電子の運動 9. 金属、半導体、絶縁体のバンド構造 10. 真性半導体	11. 不純物半導体 12. pn接合 13. 量子井戸構造 14. 超格子 15. 最終試験(定期試験) 16. 試験の返却および解説
<b>教科書</b>	電子物性/松澤剛雄, 高橋清, 斉藤幸喜 共著: 森北出版, 2010. 2, ISBN:978-4-627-77202		
<b>参考書</b>	固体物理学入門. 上/キッテル: 丸善, 2005. 12, ISBN:978-4621076538 固体の電子構造と物性: 化学結合の物理. 上巻/ウォルター・A. ハリソン: 現代工学社, 2001. 7, ISBN:978-4874720981 半導体の基礎/P. Y. ユー, M. カルдна: シュプリンガー・フェアラーク東京, 1999. 5, ISBN:978-4431708100		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを試験 75%, レポート 25%で評価し、あわせて 60%以上あれば合格とする。		

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習・復習を行うこと。
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151460
<b>科目分野</b>	物性デバイス関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野B		
<b>科目名</b>	電子物性工学[Solid State Physics]		
<b>担当教員</b>	直井 美貴 [Yoshiki Naoi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電子物性工学とは、物質の諸性質(電氣的・誘電的・磁氣的性質)を、物質を構成している原子・分子・電子の振る舞いを基礎として微視的立場から考察するものであり、デバイス材料の製造、電子デバイスの設計、デバイス特性改善の基礎となる学問領域である。本科目では、物質の微視的性質を学修し、また巨視的性質との対応を理解することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	トランジスタや集積回路(IC)をはじめとする電子デバイスの動作原理を理解するためには、そのデバイスを構成する物質内の電子等の微視的振る舞いを理解することが不可欠である。この理解があって新デバイスの設計がはじめて可能となる。本講義では、実際のデバイス動作を常に考えながら、物質の誘電的・電氣的・磁氣的性質についての講義を行う。また、講義内容を理解するための演習を講義中に同時に行う。		
<b>キーワード</b>	微視的性質、電気物性、光物性、誘電性、磁性		
<b>到達目標</b>	1. 物質の性質を微視的立場から理解できる。(授業計画1~15および最終試験) 2. 物質の性質を、巨視的・微視的観点両方から相互に関連づけて理解できる。(授業計画1~15および最終試験) 3. 物質量の単位・次元を把握できる。(授業計画1~15および最終試験) 4. 物質の示す誘電的・電氣的・磁氣的・光学的性質などの基礎物理現象が理解できる。(授業計画1~15および最終試験)		
<b>授業の計画</b>	9. 光吸収、発光現象(pp.90-100) 10. 反射、屈折、透過(pp.90-100) 11. 誘電率(pp.101-102) 12. 電気分極(pp.103-108) 13. 誘電分散、誘電損(pp.110-112) 14. 磁性の原因、磁性体(pp.113-124) 15. 超伝導現象(pp.125-137) 16. 最終試験	1. オリエンテーション(授業概要の説明、電子物性工学とは) 2. 物質の構造・化学結合(教科書pp.1-13) 3. 原子密度、格子定数(pp.1-13) 4. 結晶構造解析、結晶成長(pp.1-13) 5. 格子振動(pp.14-22) 6. 固体の熱的性質(pp.23-30) 7. オームの法則(pp.31-37) 8. 電子伝導モデル(pp.31-37)	
<b>教科書</b>	電子物性/松澤, 高橋, 斉藤: 森北出版, 2010, ISBN:4627772025		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを試験 80%, 平常点 20%(レポート, 小テスト等)として評価し、全体で 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義と共に、その内容に関する課題が授業内での小テストあるいはレポートとして与えられる。小テストおよびレポート提出内容は平常点算出の際の資料となる。したがって、講義に欠席した場合、単位取得は困難となる。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 電気電子棟 A-4,088-656-7447, naoi@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日:17:00~18:00		

備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	---

開講学期	3年・前期	時間割番号	5151470
科目分野	物性デバイス関連科目		
選必区分	選択必修・分野B		
科目名	電子デバイス[Semiconductor Device Physics]		
担当教員	井須 俊郎 [Toshiroh Isu]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	半導体電子デバイスの動作およびその原理を理解することを目的とする。
<b>授業の概要</b>	まず電子デバイスの基本となる半導体の基礎的性質および各種接合・界面について解説する。その後、種々の電子デバイスの構造、動作原理、諸特性について述べる。
<b>キーワード</b>	半導体デバイス、ダイオード、バイポーラトランジスタ、MOSトランジスタ
<b>先行/科目</b>	『半導体工学基礎[Semiconductor Physics]』(1.0)、『量子工学基礎[Quantum Mechanics for Semiconductor Physics]』(0.8)、『量子力学[Quantum Mechanics]』(0.8)、『基礎固体物性論[Solid State physics (1)]』(0.7)
<b>関連/科目</b>	『電気・電子材料工学[Electrical and Electronic Material Science]』(0.5)、『電子物性工学[Solid State Physics]』(0.8)、『集積回路工学[Integrated Circuits]』(0.5)

<b>到達目標</b>	1. バイポーラトランジスタの動作原理が理解できる 2. 電界効果トランジスタの動作原理が理解できる																		
<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td>1. デバイスの概念と固体中の電子の振る舞い</td> <td>5. ダイオードの電流電圧特性</td> <td>11. MOS キャパシタ</td> </tr> <tr> <td>2. 半導体中の電子とホール</td> <td>6. 金属と半導体の接合</td> <td>12. MOSトランジスタの諸特性</td> </tr> <tr> <td>3. 半導体中の電気伝導</td> <td>7. バイポーラトランジスタの基本動作</td> <td>13. パワーデバイス</td> </tr> <tr> <td>4. pn接合</td> <td>8. バイポーラトランジスタの動作特性</td> <td>14. 集積回路、メモリ、CCD</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9. MOSトランジスタの動作原理</td> <td>15. 薄膜トランジスタ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10. MOSトランジスタの電流電圧特性</td> <td>16. 定期試験</td> </tr> </table>	1. デバイスの概念と固体中の電子の振る舞い	5. ダイオードの電流電圧特性	11. MOS キャパシタ	2. 半導体中の電子とホール	6. 金属と半導体の接合	12. MOSトランジスタの諸特性	3. 半導体中の電気伝導	7. バイポーラトランジスタの基本動作	13. パワーデバイス	4. pn接合	8. バイポーラトランジスタの動作特性	14. 集積回路、メモリ、CCD		9. MOSトランジスタの動作原理	15. 薄膜トランジスタ		10. MOSトランジスタの電流電圧特性	16. 定期試験
1. デバイスの概念と固体中の電子の振る舞い	5. ダイオードの電流電圧特性	11. MOS キャパシタ																	
2. 半導体中の電子とホール	6. 金属と半導体の接合	12. MOSトランジスタの諸特性																	
3. 半導体中の電気伝導	7. バイポーラトランジスタの基本動作	13. パワーデバイス																	
4. pn接合	8. バイポーラトランジスタの動作特性	14. 集積回路、メモリ、CCD																	
	9. MOSトランジスタの動作原理	15. 薄膜トランジスタ																	
	10. MOSトランジスタの電流電圧特性	16. 定期試験																	

<b>教科書</b>	半導体デバイス入門—その原理と動作の仕組み—/柴田 直:昭晃堂, 2011.10, ISBN:9784785612290
<b>参考書</b>	半導体デバイス/松波弘之, 吉本昌広:共立出版, 2000, ISBN:4320085825 Physics of Semiconductor Devices (Third Edition)/S. M. Sze:John Wiley & Sons, 2007, ISBN:0471143235 Semiconductor Devices: Physics and Technology 3rd Edition/S. M. Sze:John Wiley & Sons, 2012, ISBN:9780470873670 半導体デバイス第2版 基礎理論とプロセス技術/S.M.ジュー著、南日康夫、川辺光央、長谷川文夫 訳:産業図書, 2004, ISBN:9784782855508 参考書4は参考書3の第2版の日本語版である。

<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを、試験75%、レポート25%、として評価し、あわせて60%以上で合格とする
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%

<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 井須俊郎(建設棟224室、Tel:656-7670) (メールアドレス) t.isu@frc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日～木曜日 10:00～17:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	2年・後期	時間割番号	5151480
科目分野	物性デバイス関連科目		
選必区分	選択必修・分野B		
科目名	電子物理学[Electronic Physics]		
担当教員	大宅 薫 [Kaoru Ohya]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	電界中および磁界中の電子の運動を解析でき、代表的なマイクロ波電子管の構造・原理およびプラズマの基礎的性質を理解する。
<b>授業の概要</b>	様々な電界・磁界中の電子の運動方程式を解析し、電子の運動に関わる特徴的な物理現象を示すとともに、静電偏向・磁界偏向、電子レンズについてその原理と特性を理解させる。また、代表的なマイクロ波電子管(クライストロン、進行波管、マグネトロン)の構造と原理について講義する。さらに、最近、様々な工学分野で利用されているプラズマの基礎的性質について述べる。これに続くプラズマの理論的な取り扱いについては大学院にて講義することになる。

<b>キーワード</b>	電子運動論、マイクロ波電子管、プラズマ
<b>先行/科目</b>	『電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気磁気学2・演習[Electromagnetic Theory (II) and Exercise]』(1.0)
<b>到達目標</b>	1. 運動方程式を用いて、電界および磁界中の電子の運動を解析でき、関係する物理現象を理解する。 2. 代表的なマイクロ波電子管の構造と原理が説明でき、プラズマの基礎的性質を理解する。

<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td>1. 電界中の電子の運動解析</td> <td>7. 電子走行時間と誘導電流</td> <td>12. プラズマとは</td> </tr> <tr> <td>2. 磁界中の電子の運動解析</td> <td>8. 中間試験(目標1の評価)</td> <td>13. マックスウェル分布と温度の概念</td> </tr> <tr> <td>3. 電磁界中の電子の運動解析</td> <td>9. マイクロ波電子管1(クライストロン)</td> <td>14. デバイシャヘいとプラズマ振動</td> </tr> <tr> <td>4. 静電偏向と磁界偏向</td> <td>10. マイクロ波電子管2(進行波管)</td> <td>15. プラズマ応用</td> </tr> <tr> <td>5. 電子光学と電子レンズ</td> <td>11. マイクロ波電子管3(クロストフィールドデバイス、マグネトロン)</td> <td>16. 期末試験(目標2の評価)</td> </tr> <tr> <td>6. 空間電荷効果</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	1. 電界中の電子の運動解析	7. 電子走行時間と誘導電流	12. プラズマとは	2. 磁界中の電子の運動解析	8. 中間試験(目標1の評価)	13. マックスウェル分布と温度の概念	3. 電磁界中の電子の運動解析	9. マイクロ波電子管1(クライストロン)	14. デバイシャヘいとプラズマ振動	4. 静電偏向と磁界偏向	10. マイクロ波電子管2(進行波管)	15. プラズマ応用	5. 電子光学と電子レンズ	11. マイクロ波電子管3(クロストフィールドデバイス、マグネトロン)	16. 期末試験(目標2の評価)	6. 空間電荷効果		
1. 電界中の電子の運動解析	7. 電子走行時間と誘導電流	12. プラズマとは																	
2. 磁界中の電子の運動解析	8. 中間試験(目標1の評価)	13. マックスウェル分布と温度の概念																	
3. 電磁界中の電子の運動解析	9. マイクロ波電子管1(クライストロン)	14. デバイシャヘいとプラズマ振動																	
4. 静電偏向と磁界偏向	10. マイクロ波電子管2(進行波管)	15. プラズマ応用																	
5. 電子光学と電子レンズ	11. マイクロ波電子管3(クロストフィールドデバイス、マグネトロン)	16. 期末試験(目標2の評価)																	
6. 空間電荷効果																			

<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	電子管工学/桜庭一郎:森北出版, 1981, ISBN:4629910119 プラズマ物理学入門/Francis F. Chen 著, 内田岱二郎訳:丸善, 1977, ISBN:4621042556
<b>成績評価の方法</b>	目標の2項目が各々達成されているかを試験80%、平常点(提出ノートあるいはレポート)20%で評価し、2項目の平均で60%以上あれば合格とする。
<b>再試験の有無</b>	

<b>受講者へのメッセージ</b>	演習を行いながら授業を進めるので、予習と復習を欠かさないこと。
<b>JABEE合格</b>	目標の2項目が各々達成されているかを試験80%、平常点(提出ノートあるいはレポート)20%で評価し、2項目の平均で60%以上あれば合格とする。

<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%
<b>WEBページ</b>	
<b>連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 大宅薫(E棟2階A-9, Tel:088-632-2481, E-mail:ohya@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 月曜日 17:00-18:00, 水曜日 16:00-17:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151490
科目分野	物性デバイス関連科目		
選必区分	選択必修・分野B		
科目名	光デバイス工学[Photonic Devices]		
担当教員	酒井 士郎 [Shiroh Sakai]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	半導体光応用分野の一つである光半導体デバイスとそれを利用するシステムにわたって基本知識を修得することをとする。
--------------	---

<b>授業の概要</b>	この講義では、半導体を用いた色々な光デバイスについて講義する。ここで講義するデバイスは、半導体レーザー、半導体光検出器、及び半導体撮像デバイスである。まず最初、光デバイスの基礎となる半導体工学、次に光と半導体、最後に光デバイスを学ぶ。
--------------	---

<b>キーワード</b>	半導体、光、MOS
--------------	-----------

<b>到達目標</b>	{1}光半導体デバイスの物理の基礎知識を習得する。 {2}種々の発光、受光、撮像デバイスについて理解する。
-------------	---

<b>授業の計画</b>	<table border="0"> <tr> <td>1. 孤立Si原子</td> <td>3. 半導体における電子と正孔</td> <td>6. PIN光ダイオード</td> </tr> <tr> <td>2. 半導体のバンド</td> <td>4. 半導体における光</td> <td>7. なたれ光ダイオード</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. pn接合受光デバイス</td> <td>8. 中間試験</td> </tr> </table>	1. 孤立Si原子	3. 半導体における電子と正孔	6. PIN光ダイオード	2. 半導体のバンド	4. 半導体における光	7. なたれ光ダイオード		5. pn接合受光デバイス	8. 中間試験
1. 孤立Si原子	3. 半導体における電子と正孔	6. PIN光ダイオード								
2. 半導体のバンド	4. 半導体における光	7. なたれ光ダイオード								
	5. pn接合受光デバイス	8. 中間試験								

9. 半導体における発光とLED	12. MOS デバイスの基礎	15. この授業で習ったことの復習
10. 半導体における光増幅	13. MOS デバイスの応用	16. 試験
11. 半導体レーザー	14. CCD	
<b>教科書</b> プリント		
<b>参考書</b> 末松、伊賀:光ファイバ通信入門、オーム社、2006		
<b>成績評価の方法</b> 講義に対する総合評価は、講義への参加状況20点、レポート提出状況20点、と中間試験(30点)と最終試験(30点)を総合し、60点以上を合格とする。講義が終わることに演習問題やレポートを課す。授業を受ける際には2時間の予習と2時間の復習が必要である。		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>		
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー) (学生用連絡先) 酒井士郎、部屋番号:電気電子棟 A3、Tel:088-656-7446		
<b>備考</b>		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5151500
<b>科目分野</b>	物性デバイス関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野B		
<b>科目名</b>	電気・電子材料工学[Electrical and Electronic Material Science]		
<b>担当教員</b>	永瀬 雅夫 [Masao Nagase]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 電気・電子関係のいろいろな素子や部品および装置に使用されている主要な材料について専門知識を修得する			
<b>授業の概要</b> 電気・電子工学関連の分野で、使用される素子・部品・装置には様々な材料が使われている。従って、各種材料の諸性質に関する基礎知識がないと、使用するに当たって部品や装置を壊すだけでなく、大事故を招き、人命を失うことにもなりかねない。また、卒業後に素子や部品および装置の設計・製作、さらには新材料開発に携わる者も少なくない。このような視点から、上記「講義計画」に示すような主要な材料について、組成・製法・諸性質(電気的・機械的・化学的)・用途などについて解説する。			
<b>キーワード</b> 材料工学、導体(金属、半導体、超伝導体)、誘電体、磁性体			
<b>到達目標</b> 導電体、抵抗体、半導体、超伝導体、磁性体、誘電体の物性と特性を理解し、これらの材料の現在及び未来への応用について理解する。			
<b>授業の計画</b>	5. 半導体について	9. 磁性体材料とは	13. 誘電体の応用
1. 材料科学の基礎	6. 半導体材料	10. 強磁性体	14. 新規電子材料(ナノ材料)
2. 導電性について	7. 半導体デバイス	11. 各種磁性材料	15. 材料評価技術
3. 導電材料	8. 超電導材料	12. 誘電体材料とは	16. 期末テスト(到達目標の評価)
4. 抵抗材料			
<b>教科書</b> 一ノ瀬昇:電気電子機能材料 オーム社			
<b>参考書</b> 平井平八郎 他共編「現代電気電子材料」オーム社 平井平八郎 他共編「大学課程電気電子材料」オーム社 中澤達夫 他共著「電気・電子材料」コロナ社			
<b>成績評価の方法</b> 単位の取得については、到達目標が達成されているかを試験で評価する。各授業ごとの課題レポートを平常点を4割、期末試験を6割、総合で6割以上の達成度を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は第1回の試験で60-40点までの者に対しておこなう。評価点の最高は79点とする。第1回試験において、40点未満の場合は再受講とする。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義では各章ごとにレポート課題またはミニテストをおこない、各章の理解を進める。			
<b>JABEE合格</b> 期末テストで6割以上を合格とする。			
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー) (学生用連絡先) 永瀬雅夫(電気系実験研究棟 2F A-2、Tel:内線 5516、E-mail:nagase@ee)			

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
-----------	--

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5150510
<b>科目分野</b>	物性デバイス関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野B		
<b>科目名</b>	半導体ナノテクノロジー基礎論[Introduction to Semiconductor Nanotechnology]		
<b>担当教員</b>	井須 俊郎、北田 貴弘 [Toshiroh Isu, Takahiro Kitada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 半導体エレクトロニクスの先端分野で用いられているナノテクノロジーについて基礎的な概念を理解する。			
<b>授業の概要</b> 半導体のナノ構造が生み出す性質を理解するための基礎知識として、半導体の電気的特性、ナノ構造における量子力学的効果など、半導体ナノ構造の特徴について説明する。これらの半導体ナノ構造を用いた各種の電子デバイス、光デバイスについて概説し、さらに半導体ナノ構造の作製の手法とそれらの構造や特性の測定評価方法について解説する。			
<b>キーワード</b> ナノ量子構造、半導体ナノ物性、電子デバイス、光デバイス			
<b>到達目標</b> 1. 半導体ナノ構造の特徴と応用例について理解する。			
<b>授業の計画</b>	6. 光デバイス応用(受光発光素子)	12. 微細加工による形成技術	
1. 半導体ナノ構造とは	7. 光デバイス応用(光制御素子)	13. ナノ構造測定手法	
2. 半導体の性質	8. 半導体ナノ構造の電子物性	14. 電気的特性評価	
3. 電子状態の量子化	9. 電子デバイス応用(HBT)	15. 光学的特性評価	
4. 低次元量子構造	10. 電子デバイス応用(FET)	16. 期末試験	
5. 半導体ナノ構造の光物性	11. 結晶成長法による形成技術		
<b>教科書</b> 特になし。			
<b>参考書</b> 半導体超格子の物理と応用/日本物理学会:培風館、1984。11、ISBN:4-563-02162-8 半導体超格子入門/小長井誠:培風館、1987。11、ISBN:4-563-03435-5			
<b>成績評価の方法</b> 授業の内容の理解度をレポート(60%)および試験(40%)にて評価し、合わせて60点以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 量子力学・半導体工学を履修していることが望ましい。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(物性デバイス)70%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー) (学生用連絡先) 井須 俊郎 建設棟224室 Tel:656-7670 北田 貴弘 建設棟224室 Tel:656-7671 (メールアドレス) 井須 俊郎 t.isu@frc.tokushima-u.ac.jp 北田 貴弘 kitada@frc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 井須 俊郎 火-木 10:00-14:00 北田 貴弘 月 10:00-14:00			
<b>備考</b>			

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151550
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	電気機器1[Electrical Machines (1)]		
<b>担当教員</b>	北條 昌秀 [Masahide Hohjoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 電気機器の種類と基本原理および相互関係を体系的に説明した後、変圧器と誘導機について基本構造、基本原理を理解させ、電気的等価回路から基本的な特性が導き出される現実の機器の基本を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 電気機器は電気-機械、電気-電気エネルギー間のエネルギー変換機器として産業分野で広く用いられている。この講義では、先ず各種電気機器の分類を行い、互いの関係等について説明する。その後、電気-電気エネルギー変換装置として交流電圧が高い効率で変換可能な変圧器について講述する。次に電気-機械エネルギー変換機器としての誘導機は非同期機器に属し、安価で丈夫な動力源として広く用いられている。ここでは、主に商用電源を対象に講義を進めるが、			



可変周波数電源が発生できるインバータとの組み合わせによる制御法や応用例の基本についても簡単に述べる。	
<b>キーワード</b> 交流機器	
<b>到達目標</b> 1. 変圧器の基本原則と基本動作および活用法が理解できること。 2. 変圧器の諸特性が計算できること。 3. 誘導機の基本原則と基本動作および活用法が理解できること。 4. 誘導機の諸特性が計算できること。	
<b>授業の計画</b>	
1. 電気機械エネルギー変換と機器の歴史	9. 誘導機の原理と基本構造
2. 変圧器の原理と基本構造	10. 回転磁界と誘導機の基本式
3. 変圧器の基本式	11. 誘導機の等価回路とベクトル図
4. 変圧器の等価回路とベクトル図	12. 誘導電動機の基本特性
5. 変圧器の回路定数と電圧変動率	13. 誘導機の始動法
6. 変圧器の損失と効率	14. 誘導機と速度制御法
7. 変圧器と結線法各種変圧器	15. 各種誘導機
8. 中間試験	16. 定期試験
<b>教科書</b> よくわかる電気機器／森本雅之 著，：森北出版，2012，ISBN:9784627743311	
<b>参考書</b> 演習エネルギー変換工学／柴田岩夫，三澤茂 共著，：森北出版，2002，ISBN:4627711417	
<b>成績評価の方法</b> 前半の変圧器は中間試験結果，後半の誘導機については期末試験結果をもとに，平常点(レポートの提出状況と内容等)20%，試験結果 80%で評価し，合計 60%以上の成績で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 成績評価方法に基づいた判定で，合格となること。	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%，(E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)70%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス，オフィスアワー)	(学生用連絡先) 北條昌秀(E 棟 2 階北 B-2 室, Tel: 088-656-7452) (メールアドレス) hojo@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 居室前に掲示
<b>備考</b>	電気機器の中で「変圧器」，「誘導機」の 2 項目の履修を前提にして講義を行う。毎回の予習・復習は欠かさず行うこと。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151560
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	電気機器2[Electrical Machines (2)]		
<b>担当教員</b>	安野 卓 [Takashi Yasuno]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	直流機および同期機について，構造，原理および制御法等について講述し，両機の基本特性について習得させる。		
<b>授業の概要</b>	本講義の内容は，直流機と同期機であり，直流機は主として電動機として用いられるので，直流電動機を主体に講述する。同期機は主に発電機として用いられるので，同期発電機を取り上げて講述する。		
<b>キーワード</b>	直流電動機，同期機		
<b>先行/科目</b>	『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0)，『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0)，『電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]』(0.5)，『電気磁気学2・演習[Electromagnetic Theory (II) and Exercise]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『電気機器1[Electrical Machines (1)]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 同期発電機の構造，原理，基本特性等について修得する。 2. 直流電動機の構造，原理，基本特性等について修得する。		
<b>授業の計画</b>	4. 電機子反作用と整流	8. 直流機試験	
1. 直流機の定義・原理・構造	5. 直流電動機の基本特性	9. 同期機の定義・原理・構造	
2. 直流機の誘導起電力と発生トルク	6. 直流電動機と速度制御法	10. 同期発電機の種類と特徴	
3. 励磁方式と直流機の種類	7. 復習と演習		

11. 電機子巻線，界磁巻線と集中巻の誘導起電力	13. 電機子反作用とベクトル図	15. 復習と演習
12. 巻線係数と巻線接続率算定法	14. 同期発電機の特性と電圧変動率算定法	16. 同期機試験
<b>教科書</b> よくわかる電気機器／森本雅之 著，：森北出版，2012，ISBN:9784627743311		
<b>参考書</b> 電気機器学基礎論／多田隈 進，石川 芳博，常広 謙：電気学会，2004，ISBN:9784886862471 電気機械工学／天野 寛徳，常広 謙：電気学会，1985，ISBN:9784886861627 実用電気機器学／森安正司 著，：森北出版，2000，ISBN:9784627741010		
<b>成績評価の方法</b> 講義に対する理解力の評価は，レポートの提出状況と内容 20%，直流機および同期機の試験結果 80%を総合して行う。		
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b> 予習・復習を十分行うことを希望する。		
<b>JABEE合格</b> 成績評価方法に従った評価によって合格となること。		
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%，(E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)70%		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス，オフィスアワー)	(学生用連絡先) 安野 卓(E 棟 2 階北 B-5 室, Tel: 088-656-7458) (メールアドレス) 安野 卓:yasuno@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 安野 卓:居室前に掲示	
<b>備考</b>		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151580
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	パワーエレクトロニクス[Power Electronics]		
<b>担当教員</b>	北條 昌秀 [Masahide Hohjoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電力用半導体スイッチング素子を用いた電力変換制御回路の種類と動作原理および基本特性について講義し，電力変換回路の基本動作を理解修得させる。		
<b>授業の概要</b>	電力用半導体素子を用いた電力の変換と制御に関する授業科目で，今日の電気機器の制御性能を高める上で欠くことのできない技術分野であり，各種電力変換制御装置の動作原理と基本特性解析を講述すると共に，講義の進行に併せてシミュレーションソフトを活用した変換回路の基本動作確認の演習を行う。		
<b>キーワード</b>	スイッチング素子，インバータ，整流器，チョップ，電動機制御		
<b>到達目標</b>	1. パワーエレクトロニクス技術の概要が把握できる。 2. 半導体素子の種類と特性およびそれらを活用する上での基本事項を修得する。 3. 半導体スイッチによる各種電力変換回路の基本動作と基本特性が理解できる。 4. 半導体電力変換回路を用いた応用に関する基本動作が理解できる。		
<b>授業の計画</b>	9. 直流電圧制御回路(直流チョップ回路)	10. 方形波インバータ回路	
1. パワーエレクトロニクスの概要	11. 正弦波 PWM インバータ回路	12. 交流電圧制御回路	
2. 半導体素子の種類と構造	13. 電力変換回路の系統連系への応用	14. 電力変換回路の直流・交流電動機制御への応用	
3. 半導体素子の基本特性とドライブ回路	15. 期末試験(到達目標 3, 4 の評価)	16. 試験の返却と解説等まとめ	
4. 交流スイッチ回路と交流位相制御回路			
5. 電源転流単相順逆変換回路			
6. 電源転流三相順逆変換回路			
7. 歪み波有効無効電力と力率，高調波			
8. 中間試験(到達目標 1, 2, 3 の一部の評価)			
<b>教科書</b>	セメスター大学講義 パワーエレクトロニクス／矢野昌雄，打田良平：丸善，2000，ISBN:9784621081617		
<b>参考書</b>	池田・北村・正田著「パワーエレクトロニクスの基礎」電気学会(オーム社) 他		
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを試験 80%(中間試験 40%，期末試験 40%)，平常点(ミニテスト，レポート等)20%で評価し，全体で 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業の進行に合わせて各種回路動作をシミュレーションソフトにより確認させる演習課題が与えられる。レポート提出内容は平常点として加点するので，毎回の予習・復習に加えてレポート提出は欠かさず行うこと。		

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)70%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大西 徳生
<b>備考</b>	1. 本授業科目に関するホームページアドレスは授業で案内する。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151590
<b>科目分野</b>			
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	電力系統工学[Electric Power System Engineering]		
<b>担当教員</b>	川田 昌武 [Masatake Kawada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本授業では、電力系統工学の基礎、電力系統の運用について理解できるようにし、電力系統運用時に発生する問題を解析できるようにする。		
<b>授業の概要</b>	本授業では、電力系統工学の基礎、電力制御、電力機器設備、電力系統運用、電圧・無効電力調整、故障解析、対象座標法について解説する。		
<b>キーワード</b>	送電システム、有効電力、無効電力、電圧・無効電力調整、故障計算		
<b>先行/科目</b>	『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0)、『エネルギー工学基礎論[Fundamentals of Energy Engineering]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『発変電工学[Power Generation and Transformation Engineering]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 電力系統工学の基礎を理解する 2. 電力系統に用いられる構成機器、設備等を理解する 3. 電力系統の電力、周波数制御を理解する 4. 電力系統運用を理解する 5. 故障解析を理解する		
<b>授業の計画</b>	6. 電力システム機器設備の概要	11. 電圧調整法	
1. 送電配電システムの概要	7. 架空送電線と線路定数	12. 電力潮流	
2. 3相システム	8. 中間試験(到達目標 1, 2, の評価)	13. 故障計算	
3. 無効電力	9. 中間試験解答説明、電力・周波数制御	14. 対象座標法	
4. 単位法	10. 電圧・無効電力調整	15. 最終試験(到達目標 3,4,5 の評価)	
5. 電力変換と無効電力	16. 最終試験の解答説明		
<b>教科書</b>	Electric Power Systems Fifth Edition/B.M.Weedy, B.J.Cory, N.Jenkins, J.B. Ekanayake, and G.Strbac:A John Wiley & Sons, 2012, ISBN:9780470682685		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	レポート20% 中間試験30%, 最終試験50% 合格には60%以上が必要。 但し、授業への出席は必須。		
<b>再試験の有無</b>	なし。レポート、中間試験、最終試験と複数回により評価しているため。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	受講要件:電気回路1 演習, 電気回路2 演習, エネルギー工学基礎論 上記科目の単位取得ができていない学生は、本科目を受講できません。		
<b>JABEE合格</b>	レポート20% 中間試験30%, 最終試験50% 合格には60%以上が必要。 但し、授業への出席は必須。		
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)専門分野(電気エネルギー)70%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 川田昌武(電気棟 2F B-10, TEL:088-656-7460) (メールアドレス) kawada@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) (水, 木) 17:30-18:00		
<b>備考</b>	1. 言語: 英語による授業 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151600
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	発変電工学[Power Generation and Transformation Engineering]		
<b>担当教員</b>	川田 昌武 [Masatake Kawada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本授業では、エネルギー資源、各種発電所、発電による環境影響、発電方式、自然エネルギー、変圧器の基礎事項について理解できるようにする。		
<b>授業の概要</b>	本授業では、エネルギー資源、各種発電所、発電による環境影響、発電方式、再生可能エネルギー、変圧器等の基礎事項について説明する。		
<b>キーワード</b>	エネルギー資源、環境影響、発電方式、再生可能エネルギー、変圧器		
<b>先行/科目</b>	『電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気磁気学2・演習[Electromagnetic Theory (II) and Exercise]』(1.0)、『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0)、『エネルギー工学基礎論[Fundamentals of Energy Engineering]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『電力系統工学[Electric Power System Engineering]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. エネルギー資源について理解する。 2. 各種発電所とその発電方式について理解する。 3. 発電による環境への影響を理解する。 4. 再生可能エネルギー発電を理解する。 5. 変圧器を理解する		
<b>授業の計画</b>	6. 水力発電所。	12. 再生可能エネルギー1 (太陽エネルギー)。	
1. 発変電工学への導入。	7. 火力、原子力発電所。	13. 再生可能エネルギー2 (風力、その他エネルギー)	
2. 電力システムの歴史。	8. 中間試験 (到達目標 1, 2 の評価)。	14. 変圧器	
3. 現在、未来の電力システム。	9. 中間試験の解答説明。	15. 最終試験(到達目標 3,4,5 の評価)	
4. 電力システムの基本構成。	10. 原子力発電所の炉心と安全性。	16. 最終試験の解答説明。	
5. エネルギー資源。	11. 発電所の環境影響		
<b>教科書</b>	Electric Energy An Introduction, Third Edition/Mohamed A. El-Sharkawi: CRC Press, 2012, ISBN:9781466503038		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	レポート20%, 中間試験30%, 最終試験50%, 合格には60%が必要。但し、授業への出席は必須。		
<b>再試験の有無</b>	なし。レポート、中間試験、最終試験と複数回により評価しているため。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	受講要件:「電気回路1, 2, 演習」, 「電気磁気学1, 2, 演習」, 「エネルギー工学基礎論」 上記科目の単位取得ができていない学生は、本科目を受講できません。		
<b>JABEE合格</b>	レポート20%, 中間試験30%, 最終試験50%, 合格には60%が必要。但し、授業への出席は必須。		
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)専門分野(電気エネルギー)70%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 川田昌武(電気棟 2F B-10, TEL:088-656-7460) (メールアドレス) kawada@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) (水, 木) 17:30-18:00		
<b>備考</b>	1. 言語: 英語による授業 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5151610
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	照明電熱工学[Illuminating and Electric Heating Engineering]		
<b>担当教員</b>	下村 直行 [Naoyuki Shimomura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	我々の日常生活に密着し、電気エネルギー利用の最も古い歴史を持つ照明と電熱工学について学修する。前者は視覚情報に深く関係しており、また、後者は効果的・効率的な熱エネルギー利用を目指す。これらの事項についての必要な基礎知識を修得する。		

<b>授業の概要</b>	講義により、各種光源の発光機構、照明基礎量、照明計算及び電熱工学における電気エネルギーの基礎と応用に言及する。		
<b>キーワード</b>	電熱、照明設計、視環境		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各種光源の特性が理解でき、屋内外における簡単な照明設計が可能となる。(1-9)</li> <li>2. 各種電熱機器の特徴を理解し、電熱計算が出来る。(10-16)</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 照明理論計算 1</li> <li>7. 照明理論計算 2</li> <li>8. 照明設計計算</li> <li>9. 前半講義のまとめと前半確認試験</li> <li>10. 電気加熱の特徴</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 各種電気加熱方式</li> <li>12. 熱伝達の基礎</li> <li>13. 熱回路理論</li> <li>14. 熱回路の特徴</li> <li>15. 電気加熱の実際</li> <li>16. 後半試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	新しい照明ノート／大山松次郎：オーム社、1996. 3, ISBN:4274130525		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを試験 80%(前半確認試験 45%, 後半試験 35%), 平常点(ミニテスト, レポート等)20%で評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験の有無		
<b>受講者へのメッセージ</b>	我々の日常生活に密着した内容を含んでおり、学修した内容を実際に確かめる習慣と創意工夫が本講義の理解度を高める。講義時間中にミニテストを行うことが多いので、予習・復習は欠かさず行うこと。		
<b>JABEE合格</b>	到達目標が達成されているかを試験 80%(前半確認試験 45%, 後半試験 35%), 平常点(ミニテスト, レポート等)20%で評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)70%		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 下村(E 棟 2 階北 B-8, 088-656-7463, simomura@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) simomura@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) オフィスアワー: (月) 16:00 - 19:00		
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5151620
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	高電圧工学[High Voltage Engineering]		
<b>担当教員</b>	下村 直行 [Naoyuki Shimomura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電力分野にとどまらず、幅広い分野で不可欠な高電圧工学の基礎的知識を修得する。高電圧技術の利用・応用を学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	高電圧や大電流の現象は、低電圧・小電流の現象からは類推できないような場合が多く、電圧や電流の増加によって非線形に変化する現象を取り扱うところに、この科目の意義がある。また電力需要の増加だけでなくさまざまな応用分野で高電圧工学に対する要求が高まっている。講義を通して、高電圧大電流の発生、計測を述べる。応用についてはパルスパワー技術を中心に最近の高電圧・大電流応用等も紹介したい。		
<b>キーワード</b>	高電圧、大電流、電力機器、パルスパワー		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高電圧・大電流現象の基礎現象を理解する。(1-7)</li> <li>2. 高電圧・大電流の発生方法を理解する。(8-10)</li> <li>3. 高電圧・大電流の計測方法、試験法を理解する。(11-13)</li> <li>4. 電力応用、高電圧パルスパワー、その他高電圧・大電流の利用応用を知る。(14,15)</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>5. 高電圧・大電流に関連する物理現象(気体の絶縁破壊)</li> <li>6. 高電圧・大電流に関連する物理現象(絶縁物の特性)</li> <li>7. 高電圧・大電流に関連する物理現象(その他)</li> <li>8. 前半講義のまとめと確認テスト</li> </ol>		

<b>9. 高電圧の発生方法</b>	<b>13. 大電流の測定</b>
<b>10. 大電流の発生方法</b>	<b>14. 高電圧応用(電力機器)</b>
<b>11. 高電圧・大電流の発生方法(パルス)</b>	<b>15. 高電圧応用(パルスパワー応用, 電気集じん器等)</b>
<b>12. 高電圧の測定</b>	<b>16. 期末試験</b>
<b>教科書</b>	高電圧パルスパワー工学／秋山秀典：オーム社、2003. 12, ISBN:4274132927
<b>参考書</b>	高電圧大電流工学／宅間薫・柳父悟：電気学会、ISBN:4886862098
<b>成績評価の方法</b>	到達目標が達成されているかを試験 80%(確認テスト 40%, 期末試験 40%), 平常点(ミニテスト, レポート等)20%で評価し, 全体で 60%以上で合格とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験の有無
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義時間中にミニテストを行うことが多いので、予習・復習は欠かさず行うこと。
<b>JABEE合格</b>	到達目標が達成されているかを試験 80%(確認テスト 40%, 期末試験 40%), 平常点(ミニテスト, レポート等)20%で評価し, 全体で 60%以上で合格とする。
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)70%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 下村(E 棟 2 階北 B-8, 088-656-7463, simomura@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) simomura@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) オフィスアワー: (月) 16:00 - 19:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5151570
<b>科目分野</b>	電気エネルギー関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野C		
<b>科目名</b>	機器応用工学[Applications of Electrical Machines]		
<b>担当教員</b>	安野 卓 [Takashi Yasuno]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	本講義は、モーションコントロールシステムの基本構成、電磁アクチュエータの応答特性、制御システムの構成およびその応用例について習得させる。		
<b>授業の概要</b>	本講義では、まず、産業分野で広く用いられているモーションコントロールシステムの構成要素である各種センサ、各種アクチュエータおよびその動特性等について講述する。次に、アドバンスドモーションコントロールシステムの構成および設計法について解説し、ロボットシステムを中心とした応用例を紹介する。		
<b>キーワード</b>	モーションコントロール、センサ、アクチュエータ、ロボット		
<b>先行科目</b>	『基礎制御理論[Basic Control Theory]』(1.0), 『制御理論[Control Theory]』(1.0), 『電気機器1[Electrical Machines (1)]』(1.0), 『電気機器2[Electrical Machines (2)]』(1.0)		
<b>関連科目</b>	『基礎制御理論[Basic Control Theory]』(1.0), 『制御理論[Control Theory]』(1.0), 『電気機器1[Electrical Machines (1)]』(1.0), 『電気機器2[Electrical Machines (2)]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モーションコントロールシステムの構成要素について把握し、その動特性が理解できる。</li> <li>2. より進んだモーションコントロールシステムや、それらの応用法について理解できる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モーションコントロールの構成要素 1～外界・内界センサ</li> <li>2. モーションコントロールの構成要素 2～電動アクチュエータ</li> <li>3. 直流サーボモータの動特性 1～伝達関数</li> <li>4. 直流サーボモータの動特性 2～時定数・応答特性</li> <li>5. 直流サーボモータのドライブ回路</li> <li>6. 基本制御システム構成～マイナーループの効果</li> <li>7. 交流サーボモータ</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. より進んだモーションコントロールシステム 1:外乱オブザーバ</li> <li>10. より進んだモーションコントロールシステム 2:2 自由度システム</li> <li>11. より進んだモーションコントロールシステム 3:適応システム</li> <li>12. ロボットにおけるモーションコントロールシステム 1:ロボット誕生の背景</li> </ol>		



13.	ロボットにおけるモーションコントロールシステム 2:ロボットの歴史
14.	ロボットにおけるモーションコントロールシステム 3:ロボットの世代論
15.	ロボットにおけるモーションコントロールシステム 4:ロボットの基本構成
16.	期末試験
<b>教科書</b>	機器応用工学テキスト「モーションコントロール」, 鎌野, 安野 共著を使用する.
<b>参考書</b>	制御工学の基礎/堀洋一, 大西公平 共著, :丸善, 1997, ISBN:462104365 応用制御工学/堀洋一, 大西公平 共著, :丸善, 1998, ISBN:462104477
<b>成績評価の方法</b>	試験 80%(中間試験 40%, 期末試験 40%), 平常点 20%(レポート等)として評価し, 総合 60%以上を合格とする.
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない.
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業の進行に合わせて内容確認のためのレポート課題が適宜与えられる. レポートの内容は平常点として加点されるので, 毎回の予習・復習に加えてレポート提出は欠かさず行うこと.
<b>JABEE合格</b>	成績評価方法に従った評価において合格となること.
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)70%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 安野 卓(電気電子棟 2F B-5, Tel:088-656-7458) (メールアドレス) yasuno@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 居室前に掲示
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151670
<b>科目分野</b>	電気電子システム関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野D		
<b>科目名</b>	計測工学[Electrical Measurement and Instrumentation(I)]		
<b>担当教員</b>	芥川 正武 [Masatake Akutagawa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	計測について基本的概念を理解する. また電気磁気現象の測定法の基本的考え方を修得する.		
<b>授業の概要</b>	計測の基礎的概念とともに関連する用語, 測定値の処理, 単位等について述べる. また多くの計測の基礎技術となっている電気及び磁気的現象を利用して, 各種物理量を測定するための方法の基本的考え方について述べる. またこれをもとに直流, 低周波領域, 高周波領域における電気磁気所領の具体的な測定方法を修得する.		
<b>キーワード</b>	計測, 測定, 統計処理, 単位, 電圧, 電流, 電力, 周波数, スペクトル, 高周波		
<b>先行/科目</b>	『工業基礎数学[Industrial Basic Mathematics]』(1.0), 『工業基礎物理[Industrial Basic Physics]』(1.0), 『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0), 『電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『電磁波工学[Electromagnetic wave engineering]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 計測の基本的概念を理解する. 2. 電気諸量の測定標準, 単位を理解する. 3. 電圧・電流の測定方法の基礎を修得する. 4. 電圧・電流のデジタル測定, その他の電気・磁気諸量の測定方法の基礎を修得する. 5. 高周波計測の基礎を理解する.		
<b>授業の計画</b>	1. 計測と測定, 測定方法の分類 2. 測定値の統計的処理 3. 測定誤差の伝搬, 測定値の関係 4. 単位, 測定標準 5. 電圧・電流の測定の基礎	6. 電圧・電流のアナログ測定, 倍率器, 分流器 7. 中間試験 8. 電圧・電流のデジタル測定 9. 抵抗, インピーダンスの測定 10. 電力・力率・電力量の測定	11. 磁気量の測定 12. 波形と周波数の測定 13. スペクトルの測定 14. 分布定数を含む系の測定 15. 期末試験 16. 試験の返却と解説等まとめ
<b>教科書</b>	電気磁気測定の基礎/金井寛:昭晃堂, 1992. 11, ISBN:9784785611859		
<b>参考書</b>	電磁気計測演習/菅野允:コロナ社, 1985, ISBN:9784339002560 高周波・マイクロ波測定/大森俊一 [ほか]共著, :コロナ社, 1992, ISBN:9784339006117		
<b>成績評価の方法</b>	試験 80 点(中間試験 40 点, 期末試験 40 点), 平常点 20 点(毎回の授業時間に行う演習のレポート, 授業への参加状況等を総合)として評価し, 全体で 60 点以上で合格とする.		
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b>	電気磁気学および電気回路に関する基礎的な内容を修得しているものとして講義を行うので, 予め関連科目について十分理解しておくことが望ましい.
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 芥川(電気電子工学科棟 3階 C-5, Tel: 088-656-7477, makutaga@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 木曜日 18:00 - 20:00, 金曜日 17:00 - 18:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151680
<b>科目分野</b>	電気電子システム関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野D		
<b>科目名</b>	制御理論[Control Theory]		
<b>担当教員</b>	久保 智裕 [Tomohiro Kubo]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	状態空間法に基づく制御系の解析法および設計法を修得させる.		
<b>授業の概要</b>	本講義では, まず動的システムの状態の概念について述べた後, 状態方程式とその解について説明する. 次に, 動的システムの安定性, 可制御性, 可観測性を解説する. また, 状態フィードバック制御について述べる.		
<b>キーワード</b>	状態空間法		
<b>先行/科目</b>	『基礎制御理論[Basic Control Theory]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『システム解析[System Analysis]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 動的システムの状態の概念を理解している. また, 状態遷移行列を求め, 動的システムの過渡応答を計算することができる(授業 1 回目~7 回目). 2. 動的システムの安定性を調べることができ, 可制御性, 可観測性といった性質を調べることができる. また, 状態フィードバック制御の概念を理解している(授業 9 回目~15 回目).		
<b>授業の計画</b>	1. 動的システムの状態という概念 2. 動的システムのモデリングと状態方程式 3. 状態方程式と状態遷移行列 4. 状態遷移行列の求め方 5. 状態方程式の解の性質	6. 状態方程式を用いた過渡応答の計算法 7. 前半のまとめ 8. 前半試験 9. 動的システムの安定性 10. 動的システムの安定判別	11. 動的システムの可制御性 12. 動的システムの可観測性 13. 可制御正準形と可観測正準形 14. 状態フィードバック制御 15. 後半のまとめ 16. 後半試験
<b>教科書</b>	使用しない.		
<b>参考書</b>	講義時間中に紹介する.		
<b>成績評価の方法</b>	試験 80%(前半試験 40%, 後半試験 40%)平常点 20%で評価し, 全体で 60%以上あれば合格とする. 補充試験を実施することもある.		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	ノートをしっかりとること. また, 予習・復習を行うこと. 宿題の提出をもって出席とする.		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 久保智裕(E 棟 3階北 C-8, 088-656-7466, kubo@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kubo@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00~18:00, 火曜日 8:30~9:30		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5151700
科目分野	電気電子システム関連科目		
選必区分	選択必修・分野D		
科目名	通信工学[Communication Systems]		
担当教員	高田 篤 [Atsushi Takada]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	通信工学において音声、画像、データなどの信号を遠方どのようにして伝送するかということ学ぶ。それに用いられる通信理論の基礎について講義する。		
授業の概要	3年前期で学んだ「情報通信理論」を用いて、実際に通信を行うための基本的な方法を講義する。前半では放送等に用いられているアナログ通信方式を、後半ではデータ伝送等に用いられているデジタル通信方式を解説する。この講義で通信工学の大きな枠組みを把握できることを目指している。		
キーワード	変復調、アナログ伝送、デジタル伝送		
先行/科目	『情報通信基礎[Basic Theory of Electronic Communication]』(1.0)		
関連/科目	『電磁波工学[Electromagnetic wave engineering]』(0.5)、『デジタル信号処理[Digital Signal Processing]』(0.5)		
到達目標	1. アナログ通信方式の基本を理解する。(授業計画番号 2～7) 2. デジタル通信方式の基本を理解する。(授業計画番号 8～14)		
授業の計画	1. 通信の社会的役割、通信工学の位置づけと授業科目の概要 2. 振幅変調方式(教科書 2 章を中心に) 3. 角度変復調方式(教科書 3 章を中心に) 4. アナログパルス通信方式(教科書 4 章を中心に) 5. 雑音(教科書 5.1 節を中心に) 6. アナログ変調における雑音の影響(教科書 5.2 節を中心に) 7. FM におけるエンファシス、多重通信方式(教科書 5.3 節を中心に)・小テスト 8. PCM 方式とビットレート(教科書 6.1-6.2 節を中心に) 9. 識別再生と符号誤り(教科書 6.3-6.4 節を中心に) 10. 波形等化(教科書 7.1-7.3 節を中心に) 11. 振幅/周波数シフトキーイング(教科書 7.4-7.6 節を中心に) 12. 位相シフトキーイング、直交振幅変調方式(教科書 7.7-7.8 節を中心に) 13. 雑音と符号誤り率(教科書 7.10 節を中心に) 14. 通信ネットワーク、通信機器(教科書 8 章を中心に) 15. 定期試験 16. 総括とまとめ		
教科書	通信工学/田崎, 美咲編:朝倉書店, ISBN:425422608X		
参考書	自作プリント併用		
成績評価の方法	レポート 20%, 試験(小テストと定期試験)80%。全体で 60%以上を合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	教科書の分かりにくいところをプリントで補足する。		
JABEE合格	「成績評価の方法」と同一		
学習教育目標との関連	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 高田 電気電子工学科(E 棟 3 階 C-3,656-7465) (メールアドレス) takada@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) (火)13:30-14:30, (木)16:30-17:30		
備考	1. 講義では「情報通信理論」で学んだ結果を多く引用するので、忘れていた場合は必ず復習をして確認してほしい。またレポートは自分で解き必ず提出すること。質問はオフィスアワーを利用してほしい。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151710
科目分野	電気電子システム関連科目		
選必区分	選択必修・分野D		
科目名	通信応用工学[Applied Communication Engineering]		
担当教員	高田 篤 [Atsushi Takada]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	「通信工学」では通信技術の基礎を学んだ。本科目では、実用に供されている通信システムについてその概要を習得することにより、通信の基本技術が関連技術と組み合わせられてどのような分野にどのように適用されているのか理解する。		
授業の概要	実用に供されている電気通信システムについてその概要を習得することにより、通信の基本技術が関連技術と組み合わせられてどのような分野にどのように適用されているのか理解する。実用システム代表例として、有線通信システムでは基幹系光ファイバ通信システム、アクセスネットワークを、無線通信システムでは移動体通信システム、衛星通信システム等の解説を行う。また、各システム構築に用いられる代表的装置/機器の概要を講述する。		
キーワード	基幹伝送システム、アクセス通信、移動体通信、衛星通信		
先行/科目	『情報通信基礎[Basic Theory of Electronic Communication]』(1.0)、『通信工学[Communication Systems]』(1.0)		
関連/科目	『電磁波工学[Electromagnetic wave engineering]』(0.5)、『計測工学[Electrical Measurement and Instrumentation(I)]』(0.5)、『光デバイス工学[Photonic Devices]』(0.5)、『デジタル信号処理[Digital Signal Processing]』(0.5)		
到達目標	1. 実際の有線通信システムの概要と適用領域を理解する。(授業計画番号 3～6,8) 2. 実際の無線通信システムの概要と適用領域を理解する。(授業計画番号 11～14) 3. 主な通信用装置/機器の概要を理解する。(授業計画番号 4,6,8,10,)		
授業の計画	1. 授業概要・通信ネットワークの基本構成と近年の技術動向 2. 搬送波通信と搬送波周波数及び通信路・媒体による通信システムの分類(プリント) 3. 光ファイバと光ファイバ通信システムの概要(教科書 5 章を中心に) 4. 光変復調・光増幅(教科書 6 章を中心に) 5. 基幹系光通信システム(教科書 7.1 節-7.2 節を中心に) 6. 超大容量光通信(教科書 7.3-7.4 節を中心に) 7. 光ネットワーク・小テスト 8. アクセスシステム(教科書 12 章を中心に) 9. 電磁波の伝搬(教科書 1 章を中心に) 10. アンテナによる電磁波の放射・受信(教科書 2 章を中心に) 11. 衛星通信システム、レーダシステム(教科書 8 章を中心に) 12. スペクトラム拡散と多元接続技術(教科書 4 章を中心に) 13. 移動体通信システム(教科書 9 章を中心に) 14. ローカルエリアネットワーク(教科書 10-11 章を中心に) 15. 定期試験 16. 総括とまとめ		
教科書	新世代工学シリーズ「光・無線通信システム」/木村磐根編:オーム社 プリント		
参考書	田崎 三郎他著「通信工学」朝倉書店		
成績評価の方法	試験(小テストと定期試験)80%, レポート 20%で評価し、全体で 60%以上あれば合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	前半の有線通信方式の講義が終了すれば小テストを行う。レポートは自分で解き毎回提出すること。		
JABEE合格	単位取得条件と同一基準で合格とする。		
学習教育目標との関連	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 高田(E 棟 3FC-3, 656-7465, takada@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) takada@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) (火)13:30-14:30, (木)16:30-17:30		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5151720
科目分野	電気電子システム関連科目		
選必区分	選択必修・分野D		
科目名	デジタル信号処理[Digital Signal Processing]		
担当教員	大家 隆弘 [Takahiro Oie]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	近年、発展の著しいデジタル信号処理の数学的基礎と信号圧縮や信号推定などへの応用手法について理解する。		
授業の概要	デジタル信号処理の基礎から、スペクトル解析、デジタルフィルタとその設計法およびデジタル信号処理の応用までを理解し、デジタル信号処理技術の基礎を修得する。		
キーワード	離散時間信号、スペクトル解析、フーリエ変換、線形予測、デジタルフィルタ、無限インパルス応答フィルタ、有限インパルス応答フィルタ		
先行/科目	『情報通信基礎[Basic Theory of Electronic Communication]』(1.0)、『基礎制御理論[Basic Control Theory]』(1.0)、『制御理論[Control Theory]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スペクトル解析の基礎を修得する。(授業計画 1-6)</li> <li>2. 離散時間信号の考え方とその変換を理解する。(授業計画 8-11)</li> <li>3. デジタル信号処理の手法とその応用例を理解する。(授業計画 12-14)</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 連続時間信号と離散時間信号 (信号の定義、内積と相関)</li> <li>2. 連続時間信号のフーリエ解析 (フーリエ級数展開とフーリエ変換)</li> <li>3. 信号の標準化 (A/D, D/A 変換, サンプリング定理)</li> <li>4. 離散時間信号のフーリエ変換 (離散時間フーリエ変換)</li> <li>5. 離散時間信号のフーリエ変換 (離散フーリエ変換, 窓関数)</li> <li>6. 高速フーリエ変換</li> <li>7. 中間試験</li> <li>8. 離散時間システムの表現 (入出力差分方程式, <math>z</math> 変換)</li> <li>9. 離散時間システム (伝達関数, 安定性)</li> <li>10. デジタルフィルタの設計 (IIR フィルタ, 双一次変換)</li> <li>11. デジタルフィルタの設計 (FIR フィルタ)</li> <li>12. AR モデルとその応用 (確率モデルとスペクトル)</li> <li>13. AR モデルとその応用 (AR スペクトル推定)</li> <li>14. 適応信号処理 (最急降下法と LMS アルゴリズム)</li> <li>15. 期末試験</li> <li>16. 試験の返却とまとめ</li> </ol>		
教科書	:培風館 自作プリント		
参考書	基礎から学ぶ信号処理/飯國 洋二:昭晃堂 わかりやすいデジタル信号処理/森下 徹:産業図書 音声・画像のデジタル処理/有本 卓		
成績評価の方法	到達目標の 3 項目が各々達成されているかを試験 80%, 平常点(レポート等)20%で評価し, 3 項目の平均が 60%以上あれば合格とする。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「情報通信基礎」「基礎制御理論」「制御理論」の講義を履修しておくことが望ましい。</li> <li>● 系統だった学習による理解が必要なので、欠席せずに予習と復習を十分に行うこと。</li> </ul>		
JABEE合格	JABEE合格		
学習教育目標との関連	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%		
WEB ページ	http://cms-ldap.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10729/@University/Lecture/DigitalSignalProcessing/		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大家(電気電子棟 C-1, Tel:088-656-7479, E-mail: alex@ee) (メールアドレス) alex@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月:16:20~17:20, 金:18:00~19:30		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151730
科目分野	電気電子システム関連科目		
選必区分	選択必修・分野D		
科目名	システム解析[System Analysis]		
担当教員	久保 智裕 [Tomohiro Kubo]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	コンピュータを活用して制御系のデザインを行う方法について解説する。また 1 人 1 台ずつコンピュータを割り当てて、実際に制御系デザインを体験してもらう。		
授業の概要	制御系デザインとは、フィードバック制御されたシステムが与えられた仕様を満足するように補償器の特性を定めることである。近年ではコンピュータを用いてこれを行うことが多くなってきた。本講前半ではソフトウェア MATLAB の使用方法について説明する。後半ではマイコン実習室で実際にこれを用い、各自制御系デザイン作業を体験してもらう。一人一人で工夫をこらしながらデザインをしていく過程を通じて、与えられた仕様を満足するデザインの方法は画一的ではないということに気付いて欲しい。(講義を中心とし、演習も行う)		
キーワード	制御系 CAD		
先行/科目	『基礎制御理論[Basic Control Theory]』(1.0)、『制御理論[Control Theory]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な行列演算をプログラミングできるようになる(授業 1 回目~8 回目)。</li> <li>2. コンピュータを利用した制御系の解析および設計の基本を身につける(授業 10 回目~15 回目)。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行列の入力と要素の操作</li> <li>2. ステートメントと変数, 特別な数値</li> <li>3. さまざまな行列演算</li> <li>4. コロン記号の使い方とその応用</li> <li>5. グラフィックス</li> <li>6. コントロール・フロー</li> <li>7. M ファイルの利用</li> <li>8. 前半のまとめ</li> <li>9. 前半試験(到達目標 1 の達成度評価)</li> <li>10. 線形システムの表現</li> <li>11. 時間応答シミュレーション</li> <li>12. 周波数応答シミュレーション</li> <li>13. 制御系の仕様</li> <li>14. 制御系デザイン実習</li> <li>15. 後半のまとめ</li> <li>16. 後半試験(到達目標 2 の達成度評価)</li> </ol>		
教科書	使用しない。		
参考書	MATLAB ユーザーズガイド(オンライン)		
成績評価の方法	試験 90%(前半試験 45%, 後半試験 45%)平常点 10%で評価し, 全体で 60%以上あれば合格とする。補充試験を実施することもある。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	原則としてすべて板書によって授業を進めるので、ノートをしっかりとること。もし欠席してしまったら、次の授業までに他の学生にノートを写させてもらっておくこと。また、予習・復習を行うこと。宿題の提出をもって出席とする。		
JABEE合格	JABEE合格		
学習教育目標との関連	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%		
WEB ページ	WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 久保智裕(E 棟 3 階北 C-8, 088-656-7466, kubo@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) kubo@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 17:00~18:00, 火曜日 8:30~9:30		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151740
科目分野	電気電子システム関連科目		
選必区分	選択必修・分野D		
科目名	電磁波工学[Electromagnetic wave engineering]		
担当教員	高田 篤 [Atsushi Takada]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	近年、電気信号処理速度の高速化に伴い、マイクロ波回路を用いる領域が著しく増大している。有線/無線通信などの遠距離通信システムにおいても、マイクロ波/ミリ波/光波の搬送波としての利用が必須となっている。この講義では、マイクロ波/光波の伝搬、伝送線路、電磁波の放射/受信等の基本理論を理解する。		



<b>授業の概要</b> マイクロ波/ミリ波/光波等の高周波電磁波の伝送回路は分布定数回路としての取扱いが必要である。電磁波伝搬の基礎、伝送路における電磁波の反射/散乱/整合の理論を講述する。次に電磁波伝送に用いられる有線伝送路とその伝送特性、回路素子について述べる。更に、アンテナからの電磁波の放射、電磁波の自由空間伝搬について講述する。また、演習・レポートで理解を深める。数回の授業では授業中に小テストを行う。	
<b>キーワード</b> 分布定数回路、波動、電磁波、同軸線路、光ファイバ、アンテナ、	
<b>先行/科目</b> 『電気磁気学1・演習[Electromagnetic Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気磁気学2・演習[Electromagnetic Theory (II) and Exercise]』(1.0)、『電気回路1・演習[Electrical Circuit Theory (I) and Exercise]』(1.0)、『電気回路2・演習[Electrical Circuit Theory (II) and Exercise]』(1.0)	
<b>関連/科目</b> 『計測工学[Electrical Measurement and Instrumentation(I)]』(0.5)	
<b>到達目標</b> 1. 分布定数回路の基本的性質を理解すること。(授業計画番号 1~2) 2. 伝送線路のインピーダンスを理解し、基本的な計算ができること。(授業計画番号 3~12) 3. ダイポールアンテナ等の原理を理解し、基本的な計算ができること。(授業計画番号 13~14)	
<b>授業の計画</b> 1. 交流信号の複素表現と分布定数回路の基礎(教科書 1.1-1.2 節) 2. 反射と定在波(教科書 1.3 節) 3. 入力インピーダンス(教科書 1.4 節) 4. 4分の1波長線路・整合回路・スミスチャート(教科書 1.5 節) 5. 平面波とその他の電磁波(教科書 2.1-2.3 節) 6. 同軸線路・マイクロストリップ線路(教科書 2.4 節) 7. 導波管伝送路(教科書 2.5 節) 8. 表面波伝送路(教科書 2.6 節) 9. 散乱行列表現・Sパラメータ(教科書 3.1 節) 10. 回路整合・共振回路(教科書 3.2 節) 11. マイクロ波・ミリ波材料の特性(教科書 4.1 節) 12. 可逆回路と非可逆回路(教科書 4.2 節) 13. 電気ダイポールからの放射と開口面からの放射(プリント) 14. アンテナの基本特性とマイクロ波伝送(プリント) 15. 定期試験 16. 試験の返却と解説等まとめ	
<b>教科書</b> マイクロ波・ミリ波工学/内藤 喜之:コロナ社, ISBN:433900037X	
<b>参考書</b>	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> プリントを併用する。	
<b>成績評価の方法</b> 数回の授業では授業中に小テストを行う。定期試験と小テストの成績、演習・レポートの提出状況を総合して評価する。試験(小テストと定期試験)80点、演習・レポートは20%で評価する。合計60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 「電気磁気学1, 2, 3」, 「電気回路1, 2」で学ぶ内容が基礎となるので、これらを十分理解しておくことが望ましい。	
<b>JABEE合格</b> 「成績評価の方法」と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)70%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 高田(E棟 C3, 656-7465, takada@ee.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) takada@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) (火)13:30-14:30, (木)16:30-17:30)
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしながら授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151810
<b>科目分野</b>	知能電子回路関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野E		
<b>科目名</b>	プログラミング演習[Programming Exercise]		
<b>担当教員</b>	島本 隆 [Takashi Shimamoto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	数百~数千行程度の大きなプログラムを作成する上で必要となるプログラミング言語C(以下、C言語)の実用技術について講義し、演習を行なうことで、大規模なコンピュータプログラムを作成する上で必要となる手法を習得させる。		
<b>授業の概要</b>	大規模なコンピュータプログラムを作成する上で、プログラムのブロック化、目的に合わせたデータ構造の定義、ファイルとの入出力の知識は欠くことのできない要素である。本演習ではC言語のポインタの利用方法を習得させた後、関数、構造体を用いたプログラミング技法、データ処理に際して不可欠なファイル入出力プログラミングについて講述し実習を行なう。		

<b>キーワード</b> プログラミング, C言語	
<b>先行/科目</b> 『プログラミング基礎[P]』(1.0)	
<b>到達目標</b> 1. C言語のポインタ、構造体の利用技法を理解する。(授業計画1~15および定期試験による) 2. 関数を用いたC言語プログラム作成手法を習得する。(授業計画4~15および定期試験による) 3. ファイル入出力を用いたC言語プログラム作成手法を習得する。(授業計画13~15および定期試験による)	
<b>授業の計画</b> 1. ポインタを用いたプログラミング 2. ポインタと配列の関係 3. メモリの動的割当を用いたプログラミング 4. 関数を用いたプログラミング 5. 関数の引数の受渡し(call by value) 6. 関数の引数の受渡し(call by reference) 7. 変数のスコープルール 8. 関数の再帰呼び出し	<b>9.</b> 構造体を用いたプログラミング(データの統合) <b>10.</b> 構造体を用いたプログラミング(リンク構造) <b>11.</b> C言語特有の演算子 <b>12.</b> プリプロセッサを用いたプログラミング <b>13.</b> ファイル入出力プログラミング(入力) <b>14.</b> ファイル入出力プログラミング(出力) <b>15.</b> 質問・総括 <b>16.</b> 期末試験(到達目標1,2,3の評価)
<b>教科書</b> 講義の最初に配布するプリントを使用する。	
<b>参考書</b> 阿曾弘具ほか 共著「UNIXとC」(近代科学社)	
<b>成績評価の方法</b> 到達目標の3項目が各々達成されているかを試験70%, 平常点(実習レポートなど)30%とし、3項目平均で60%以上あれば合格とする。ただし、C言語プログラミング経験者に関しては試験の比率を100%として評価を行なうことがある。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 毎週の演習では、前半を講義、後半を実習形式で行う。実習で作成したプログラムは以降の演習に利用するため、実習で科されたプログラムは必ず次の演習時間までに完成させておくこと。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(知能電子回路)70%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 島本 隆(電気棟3階南D-5, 088-656-7483, simamoto@ee.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 卒業研究、大学院での研究ではコンピュータプログラミングができることが前提となっていることが多いので、必ず受講しておくこと。特に情報処理関係だけでなく計測・制御分野の職業につく場合には、規模の大きなプログラムを書く能力を身につけておく必要がある。2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしながら授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5151860
<b>科目分野</b>	知能電子回路関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野E		
<b>科目名</b>	電子回路設計[Electronic Circuit Design]		
<b>担当教員</b>	橋爪 正樹 [Masaki Hashizume]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	様々な電子機器内の電子回路でオペアンプが多用されており、電子回路を応用した製品開発技術者としてオペアンプ回路に関する知識は欠かせない。本授業ではその基本的な知識を獲得するために、オペアンプ回路の設計とそのオペアンプ回路の応用回路の設計技術の習得を目指す。		
<b>授業の概要</b>	オペアンプICの機能およびそのICを用いたアナログ電子回路の設計法、回路シミュレータの使用法とそれを用いた設計法を講義し、オペアンプICを用いた回路、ならびにオペアンプICの設計を行う。		
<b>キーワード</b>	オペアンプ回路、オペアンプIC、MOS、センサ回路		
<b>先行/科目</b>	『電子回路基礎[Electronic Circuits]』(1.0)、『パルス・デジタル回路[Pulse and Digital Circuits]』(0.8)		
<b>関連/科目</b>	『通信工学[Communication Systems]』(0.5)、『パワーエレクトロニクス[Power Electronics]』(0.5)、『マイコンシステム設計[Microcomputer System Design]』(0.8)		
<b>到達目標</b>	オペアンプを用いたアナログ電子回路設計およびオペアンプ回路の設計を行う。		
<b>到達目標</b>	1. オペアンプICの機能を説明できる 2. オペアンプICを用いた回路を設計できる 3. オペアンプ回路を設計できる 4. 回路シミュレータを用いて電子回路設計が行える		

<b>授業の計画</b>		9. オペアンプ IC を用いた回路の製作
1. 回路シミュレータの機能と使用法		10. オペアンプ IC を用いた回路の特性評価
2. 回路シミュレータを用いた回路解析法		11. オペアンプ IC の内部回路
3. 回路シミュレータを用いた増幅回路設計		12. オペアンプ回路の DC 設計
4. 回路シミュレータを用いた発振回路設計		13. オペアンプ回路の AC 設計
5. オペアンプ IC の機能と特長		14. 回路シミュレータを用いたオペアンプ IC の設計
6. オペアンプ IC を用いた加減算回路の設計法		15. 設計したオペアンプ IC の特性評価
7. オペアンプ IC を用いたフィルタ回路設計法		16. 期末試験
8. オペアンプ IC を用いたセンサ回路設計法		
<b>教科書</b>		
<b>参考書</b> CMOS アナログ/デジタル IC 設計の基礎—CMOS 回路は SPICE を使ってトランジスタでこうつくる/泰地 増樹: CQ 出版 CMOS OP アンプ回路 実務設計の基礎/吉澤 浩和: CQ 出版		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 自作の講義ノートにより講義する。		
<b>成績評価の方法</b> 試験 80%, 平常点 20%(レポート)として評価し, 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b> 無		
<b>受講者へのメッセージ</b>		
<b>JABEE合格</b> 単位取得により JABEE 合格		
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(知能電子回路)70%		
<b>WEB ページ</b>	http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/~tume/misc/MYCroom/	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) E 棟 D2, Tel:656-7473	
<b>備考</b>	コンピュータを用いた回路設計演習の課題を毎週出すので, 各自、自宅のパソコンで行うことになる。	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5151820
<b>科目分野</b>	知能電子回路関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野E		
<b>科目名</b>	パルス・デジタル回路[Pulse and Digital Circuits]		
<b>担当教員</b>	橋爪 正樹 [Masaki Hashizume]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> コンピュータなどのデジタル電子機器に不可欠なパルス・デジタル信号を入出力する電子回路についてその基礎知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> デジタル電子回路素子としてダイオード・トランジスタの特性・各種パルス発生・変換器と論理回路の構成法とその動作について講義を行う。			
<b>キーワード</b> トランジスタのスイッチング動作, ダイオード, パルス回路, 論理ゲート回路			
<b>先行/科目</b> 『電子回路基礎[Electronic Circuits]』(1.0), 『論理回路[Logic Circuits]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『電子回路設計[Electronic Circuit Design]』(1.0), 『マイコンシステム設計[Microcomputer System Design]』(1.0)			
<b>到達目標</b> 1. 能動素子をスイッチとして利用できる。 2. 波形整形回路, パルス発生回路の動作を説明できる。 3. 基本論理ゲート回路の動作を説明できる。 4. タイミングチャートで論理回路の動作を表現できる。			
<b>授業の計画</b>		6. 波形整形回路2	12. 論理回路とその内部構成
1. パルス信号		7. 単安定マルチバイプレータ	13. 基本論理ゲート回路とその動作
2. ダイオードのスイッチング特性		8. 単安定・双安定マルチバイプレータ	14. 基本論理ゲート回路の電気的特性
3. 接合トランジスタのスイッチング特性		9. ブロッキング発振器	15. 論理ゲート回路による論理値の記憶
4. MOS のスイッチング特性		10. シュミット回路	16. 期末試験
5. 波形整形回路1		11. 直線波発生回路	
<b>教科書</b> 雨宮好文「現代電子回路学 II」オーム社			
<b>参考書</b> 小柴典居「パルスとデジタル回路」オーム社			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 自作の講義ノートを使って授業を行う			
<b>成績評価の方法</b> 試験 80%, 平常点 20%(レポート等)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b> 無			

<b>受講者へのメッセージ</b> 丸暗記しようとせず, 理解しようとする。それには「電気回路 1, 2」, 「過渡現象」の基本的な問題が解ける必要がある。ダイオード, トランジスタの機能を説明できるようになっておく必要がある。	
<b>JABEE合格</b> 単位取得により JABEE 合格	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(知能電子回路)70%	
<b>WEB ページ</b>	http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/~tume/misc/MYCroom/
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) D2, Tel:4682
<b>備考</b>	1. 本科目は知能電子回路関連科目のデジタル回路関係科目のマイコンシステム設計の基礎となる重要な科目であるので, 必ず受講すること。 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5151830
<b>科目分野</b>	知能電子回路関連科目		
<b>選必区分</b>	選択必修・分野E		
<b>科目名</b>	論理回路[Logic Circuits]		
<b>担当教員</b>	四柳 浩之 [Hiroyuki Yotsuyanagi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> コンピュータを理解する基礎となる論理関数と論理回路, 順序回路の基本的概念と設計法について学ぶ			
<b>授業の概要</b> デジタル符号による情報の表現法, 各種演算, 状態遷移とそれらを実現する論理回路の設計について講義する			
<b>キーワード</b> 論理関数, 論理回路, デジタル回路			
<b>関連/科目</b> 『パルス・デジタル回路[Pulse and Digital Circuits]』(0.5)			
<b>到達目標</b> 1. デジタル符号による情報の表現法, 各種演算について理解する(授業計画 1-4 および定期試験による) 2. 論理関数の表現, 基本法則, 単化, および状態遷移について理解する(授業計画 5-8 および定期試験による) 3. 論理回路の設計法について理解する(授業計画 9-15 および定期試験による)			
<b>授業の計画</b>		6. 論理関数の各種表現	12. カウンタ
1. デジタル符号による情報の表現法		7. 論理関数の単化	13. 順序論理回路の最適化
2. 基数変換		8. 状態遷移	14. 論理回路設計演習
3. 負数・実数の表現		9. 組合せ論理回路	15. 高位設計
4. 2進数の四則演算		10. 組合せ論理回路の設計	16. 期末試験
5. 論理関数		11. 順序論理回路	
<b>教科書</b> 論理回路の設計/浅川毅 著.; コロナ社, 2007, ISBN:4339007889 その他, 講義資料を別途配布する			
<b>参考書</b> 論理設計: スwitching回路理論/笹尾勤 著.; 近代科学社, 2005, ISBN:4764903164			
<b>成績評価の方法</b> 試験 80%, 平常点 20%(レポート等)として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(知能電子回路)70%			
<b>WEB ページ</b>	http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10737/		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 四柳 浩之		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151840
科目分野	知能電子回路関連科目		
選必区分	選択必修・分野E		
科目名	集積回路工学[Integrated Circuits]		
担当教員	小中 信典 [Shinsuke Konaka]		
単位数	2	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	身近の電気製品のほとんどに集積回路が使用されている。その大部分を占める CMOS 集積回路の設計手法を習得する。具体的には、CMOS 回路のプロセス、パタンルールとレイアウト設計、デバイスパラメータと回路設計を理解し、コンピュータ実習を行い、設計手法を習得する。さらに、デジタル動作する論理ゲートの回路動作を理解し、論理設計の基礎を習得する。		
授業の概要	CMOS 論理回路を実現するためのプロセス、MOS トランジスタの電気特性、回路設計、論理設計について講義する。コンピュータ実習でレイアウト設計と回路シミュレーションを実際に経験し、各種 CMOS 論理ゲート回路の設計法とその電気特性の理解を深める。さらに、基本的な CMOS 論理設計法を習得する。		
キーワード	レイアウト設計、CMOS プロセス、CMOS 論理回路、論理回路設計		
先行/科目	『半導体工学基礎[Semiconductor Physics]』(0.5)、『電子回路基礎[Electronic Circuits]』(0.5)、『論理回路[Logic Circuits]』(0.5)		
関連/科目	『パルス・デジタル回路[Pulse and Digital Circuits]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. CMOS プロセスを理解し、レイアウト設計が行える</li> <li>2. レイアウトと MOS トランジスタ特性の関係を理解する</li> <li>3. 基本 CMOS 論理回路のレイアウト設計、回路シミュレーションが行える</li> <li>4. ALU, PLA 等の論理設計が理解できる</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集積回路の概要</li> <li>2. CMOS プロセスとマスクパタン</li> <li>3. レイアウト設計(その 1)設計ツールの使い方</li> <li>4. レイアウト設計(その 2)デザインルール</li> <li>5. CMOS ゲートのレイアウト設計</li> <li>6. CMOS ゲートの回路シミュレーション</li> <li>7. NAND ゲートのレイアウト設計と回路特性</li> <li>8. ゲートアレイでの論理ゲート設計</li> <li>9. 前半試験</li> <li>10. 加算器の論理構成</li> <li>11. ALU の論理構成</li> <li>12. P,G ブロック回路</li> <li>13. 伝送ゲートを用いたフリップフロップ回路</li> <li>14. PLA/ROM の論理構成</li> <li>15. 後半のまとめ</li> <li>16. 後半試験</li> </ol>		
教科書	集積回路設計入門/国枝博昭:コロナ社, 1996. 7, ISBN:9784339006605 国枝博昭「集積回路設計入門」コロナ社		
参考書			
成績評価の方法	到達目標が達成されているかを、平常点(演習, レポート等) 20%, 中間試験 30%, 期末試験 50%で評価し、全体で 60%以上を合格とする		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	コンピュータ実習室で設計演習を行うため、受講制限を行う場合がある。「半導体工学基礎」、「電子回路基礎」、「論理回路」、「パルスデジタル回路」を受講していることが望ましい。		
JABEE合格	単位取得条件と同一基準で合格とする。		
学習教育目標との関連	(D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(知能電子回路)70%		
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 小中 信典(E 棟 3 階北 C-2, Tel:088-656-7469, E-mail:konaka@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 月(12:00-13:00) 木(17:00-18:00)		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子回路は集積回路(IC)内に作られるか、集積回路を使用してボード上に作られることが多い。本講義は CMOS 集積回路設計法に関するものである。電気電子工学科の卒業生として将来、IC を設計する仕事、IC を使用する仕事に就く可能性が高いので、受講をお薦めする。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151850
科目分野	知能電子回路関連科目		
選必区分	選択必修・分野E		
科目名	マイコンシステム設計[Microcomputer System Design]		
担当教員	寺西 研二 [Kenji Teranishi]		
単位数	1	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	知的な動作をする高機能知能電子回路はマイクロプロセッサを用いて作られている。本演習ではそのような電子回路の設計技法の習得を目指す。		
授業の概要	マイクロコンピュータ回路とそれを動作させるためのプログラミング言語(アセンブリ言語について講義した後、マイクロコンピュータ回路に関する設計演習を行う。		
キーワード	マイクロコンピュータ、アセンブリ言語、PIC、計測制御		
先行/科目	『パルス・デジタル回路[Pulse and Digital Circuits]』(1.0)、『電子回路基礎[Electronic Circuits]』(1.0)、『電子回路設計[Electronic Circuit Design]』(1.0)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイクロコンピュータ回路の動作原理を理解する</li> <li>2. マイクロコンピュータ回路を設計できる</li> <li>3. マイクロコンピュータ回路を動作させることができる</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイクロコンピュータ回路の内部構成</li> <li>2. マイクロコンピュータ回路の内部動作</li> <li>3. PIC のアーキテクチャ</li> <li>4. PIC16F84 のデータ転送命令</li> <li>5. PIC16F84 へのデータの入出力命令</li> <li>6. PIC16F84 の演算命令</li> <li>7. PIC16F84 の条件分岐命令</li> <li>8. 繰り返し処理プログラミング</li> <li>9. サブルーチンとそれを用いたプログラミング</li> <li>10. 割り込みプログラミング</li> <li>11. アセンブリ言語開発ツールとその使い方</li> <li>12. マイクロコンピュータ回路の設計</li> <li>13. マイクロコンピュータ回路の製作</li> <li>14. マイクロコンピュータ回路の動作プログラミング</li> <li>15. 自由課題の回路の製作</li> <li>16. 自由課題の回路のプログラミング</li> </ol>		
教科書	本講師作成の講義ノートに従って講義を行う		
参考書	第一回目の講義で紹介		
成績評価の方法	自由課題レポート 80%, 平常点(演習レポート)20%で評価し、全体で 60%以上で合格とする		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	電験科目の一つなので、電験取得を目指す人は受講しておくこと。マイクロコンピュータは多方面で使われているので、卒業後、その開発に携わる可能性が高いため、資格に関係なく受講しておくことをお薦めする。		
JABEE合格	単位取得による		
学習教育目標との関連	(E)専門分野(知能電子回路)30%, (F)[主目標]創成・自律 70%		
WEB ページ	<a href="http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/%7etume/misc/MYCroom/">http://tameone.ee.tokushima-u.ac.jp/%7etume/misc/MYCroom/</a>		
連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 寺西 研二 (E 棟 2 階北 B-7, 088-656-7454, teranishi@ee.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 毎週月曜 17:00~19:00 毎週水曜 18:00~20:00		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータ演習室で設計演習を行う。また各自部品を購入し回路を自宅で組み立て動かす。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5151910
科目分野	工学教養科目		
選必区分	選択		
科目名	設計製図[Design and Drawing]		
担当教員	北條 昌秀, 寺西 研二 [Masahide Hohjoh, Kenji Teranishi]		
単位数	1	対象学生・年次	電気電子工学科(昼間)
授業の目的	前半では、電気機器の設計の基本的な考え方を説明し、変圧器を例とした設計法を演習を通じて修得する。後半では、製図規格の考え方を説明し、具体的な機械製図、電気製図による演習等を通じて製図の基本を修得する。		



<b>授業の概要</b> 前半で、電気機器設計の概論と変圧器を例題とした設計演習を行い、後半で製図に関する各種製図規格と製図演習を行う。それぞれにレポート課題が出される。	
<b>キーワード</b> 工業規格、機械製図、電気用図記号	
<b>到達目標</b> 1. 機器設計の基礎(材料、構成法等)を理解すること。[前半] 2. 変圧器の基本的な設計ができること。[前半] 3. 第三角法による立体表現の基礎を理解すること。[後半] 4. 機械製図ならびに電気製図の基礎を理解すること。[後半]	
<b>授業の計画</b>	
1. 導電、鉄心材料の種類と特性	9. 製図の概要と学ぶ意義
2. 電気機器の装荷分配	10. 製図規格、図面の種類と様式、線と文字
3. 電気機器の寸法と容量	11. 投影法の基礎、正投影図、第三角法による製図演習
4. 変圧器基本設計例(鉄心寸法既知)	12. 寸法と寸法記入法
5. 変圧器の設計手順(一般仕様)	13. 寸法公差とはめあい
6. 設計変圧器の特性計算	14. 電気用図記号 1, 高压受電設備の製図演習
7. 設計演習	15. 電気用図記号 2, 直流安定化電源回路図の製図演習
8. 中間試験(到達目標 1, 2 の評価)	16. 期末試験(到達目標 3, 4 の評価)
<b>教科書</b> 電機設計学：大学課程／竹内寿太郎 原著,磯部直吉 [ほか]共編.:オーム社, 1993, ISBN:4274129276 JIS にもとづく標準製図法／大西清 著.:理工学社, 2010, ISBN:9784844527466 プリント	
<b>参考書</b> 電気学会大学講座 電機設計概論／広瀬 敬一, 炭谷 英夫:電気学会, 2007, ISBN:9784886862624 JIS 電気用図記号:日本規格協会, 1999, ISBN:9784542143166	
<b>成績評価の方法</b> 試験 50%(中間試験 25%, 期末試験 25%) 平常点 50%(レポート等)として評価し、前半と後半共に 50%以上で合計が 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業の進行にあわせてレポート課題が課せられ、レポート提出内容は平常点として加点されるので、毎回の予習・復習に加えてレポート提出は欠かさず行うこと。	
<b>JABEE合格</b> 成績評価方法に基づいた判定で、合格となること。	
<b>学習教育目標との関連</b> (D)専門基礎 20%, (E)[主目標]専門分野(電気エネルギー)50%, (F)創生・自律 30%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 北條 昌秀(E 棟 2 階北 B-2 室, Tel: 088-656-7452) 寺西 研二(E 棟 2 階北 B-7, 088-656-7454) (メールアドレス) 北條 昌秀:hojo@ee.tokushima-u.ac.jp 寺西 研二:teranishi@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 北條 昌秀:居室前に掲示 寺西 研二:毎週月曜 17:00～19:00, 毎週水曜 18:00～20:00
<b>備考</b>	1. 機器設計の基礎の理解度と変圧器の基本的な設計技術については中間試験と前半期のレポート等において、第三角法による立体表現の基礎、機械製図ならびに電気製図の基礎の理解度については期末試験と後半期のレポート等において、それぞれ評価する。なお、授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5151920
<b>科目分野</b>	工学教養科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	無線設備管理及び法規[Electrical Communication Laws]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	無線局を開設、運用するにあたり、その基本となる電波法を解説する。そして無線局の設備管理がどのように行われているのかを習得させると共に、関連の政令、省令についても内容を解説し、具体的な無線局の運用法を習得させる。		
<b>授業の概要</b>	電波法の目的、定義及び無線局の免許、設備に係わる規定など主に第 1 級陸上特殊無線技士及び第 2 級海上特殊無線技士に係わる法規を解説し、無線局を開設、運用管理するための知識を養成する。		
<b>キーワード</b>			

<b>到達目標</b>			
1.	第 2 級海上及び第 1 級陸上特殊無線技士に必要な電波法を理解すること。		
2.	無線局の開設・運用・管理方法を理解すること。		
<b>授業の計画</b>		6.	無線局の運用
1.	電波法の概要	7.	無線局の運用と業務書類
2.	総則	8.	無線設備
3.	無線局の免許	9.	無線設備と監督
4.	免許の手続・変更	10.	電波利用料と罰則
5.	無線従事者	11.	国内関係法令と電気通信事業法規
		12.	電気通信事業法規
		13.	国際法の概要
		14.	国際法規
		15.	期末試験
<b>教科書</b> 法規：第一級陸上特殊無線技士：第二級陸上特殊無線技士：国内電信級陸上特殊無線技士／情報通信振興会 編.:情報通信振興会, 2012, ISBN:9784807606818 法規：第一級海上特殊無線技士：第二級海上特殊無線技士：レーダー級海上特殊無線技士／情報通信振興会 編.:情報通信振興会, 2012, ISBN:9784807606719 使用する教科書は開講時の最新の版を使用する。 講義は非常勤講師が実施する。			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> 講義中に実施した試験の成績の合計が 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)教養・倫理 30%, (D)専門基礎 30%, (E)[主目標]専門分野(電気電子システム)40%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 芥川(電気電子工学科棟 3 階 C-5, Tel: 088-656-7477) (メールアドレス) makutaga@ee.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 18:00 - 20:00, 金曜日 17:00 - 18:00		
<b>備考</b>	1.	3 単元及び 6 単元が終了すると、試験を実施するので、毎回の予習、復習は、欠かさず行うこと。	
	2.	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5151930
<b>科目分野</b>	工学教養科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電気施設管理及び法規[Management and Laws Associated with Electrical Facilities.]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電気施設管理を行うにあたり必要となる電気事業法を理解させるとともに関連の法律、政省令についても内容を解説する。また、電力自由化等、最近の制度改正の動きについても解説する。		
<b>授業の概要</b>	電気事業法の目的、定義並びに電気施設管理に係る規程を解説し、電気施設の工事・維持・運用に必要な法律の知識の知識力を養成するとともに、エネルギーの管理方法についても解説を行い、知識の養成を図る。		
<b>キーワード</b>	電気事業、電力施設および管理、技術基準、架空地中電力線、電力系統運用		
<b>到達目標</b>			
1.	電気事業法および関連の法律を理解する。		
2.	技術基準および規格の基本について理解する。		
3.	電気施設管理の方法について理解する。		
<b>授業の計画</b>		5.	電気に関する標準規格、小テスト5
1.	電気関係法規の概要と電気事業、小テスト1	6.	電気施設管理、小テスト6
2.	電気工作物の保安に関する法規、小テスト2	7.	我が国の再生可能エネルギーの導入状況
3.	電気工作物の技術基準(その1)、小テスト3	8.	最終試験
4.	電気工作物の技術基準(その2)、小テスト4		
<b>教科書</b> 竹野正二著「電気法規と電気施設管理」東京電機大学出版局			
<b>参考書</b> 授業中に紹介する。			

<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 授業ごとに資料を配布する。	
<b>成績評価の方法</b> 授業時の小テスト 40%, 最終試験 60%で評価する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (A)教養・倫理 30%, (D)専門基礎 30%, (E)専門分野(電気エネルギー)40%	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 川田 昌武
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5151940
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生産管理[Production Control]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	企業マネジメント(工業経営)の中で、「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する。		
<b>授業の概要</b>	「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに、企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する。		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	1. 生産管理の各手法を概略理解する。 2. 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する。		
<b>授業の計画</b>	3. 品質管理総論	6. 原価管理	
1. 序	4. 工程管理総論	7. 安全管理, トヨタ生産方式	
2. 生産管理体系	5. 工程管理各論	8. 環境管理	
<b>教科書</b>	毎講義時に、プリントその他で提示する。		
<b>参考書</b>	「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ)」企業経営通信学院「生産管理便覧」丸善		
<b>成績評価の方法</b>	毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点 60 点満点-白紙は不可)及びその試問正解点 40 点満点で、480 点以上を「可」とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	毎講義終了後、簡単な事前試問(3 問程度)について、解答ペーパーの提出を求める。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> (A)[主目標]教養・倫理 60%, (B)社会情報 40%			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5151950
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	労務管理[Personnel Management]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	電気電子工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 企業のグローバル化による競争激化、企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加、正規社員の減少、従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題、労働トラブルの急増、少子高齢化時代の到来等これからの労務安全管理の諸問題について理解する。			
<b>授業の概要</b> 採用から退職までの労務安全衛生管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労務安全管理(ヒューマンスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. 組織の労務安全衛生管理(ヒューマンスキル)の基本と重要性について認識する。 2. 最新の労働環境の動向を理解する。			
<b>授業の計画</b>	3. 就業規則	6. 退職と解雇	
1. 労働基準法の概要	4. 労働時間・休日・休暇	7. さまざまな働き方	
2. 応募から入社までの基礎知識	5. 賃金・業務命令等の社内ルール	8. リスクアセスメント(安全衛生管理)	
<b>教科書</b>	「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円		
<b>参考書</b>	「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会		
<b>成績評価の方法</b>	出席率, レポートの内容		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業の中でレポート(7 回程度)作成, 提出すること。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑村泰章		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

知能情報工学科(昼間)

微分方程式 1 [Differential Equations (I)]	知能情報工学科(昼間)／水野／2年・前期	174
微分方程式 2 [Differential Equations (II)]	知能情報工学科(昼間)／今井／2年・後期	174
複素関数論 [Complex Analysis]	知能情報工学科(昼間)／坂口／2年・前期	174
ベクトル解析 [Vector Analysis]	知能情報工学科(昼間)／深貝／2年・後期	175
確率統計学 [Probability and Statistics]	知能情報工学科(昼間)／竹内／2年・前期	175
数値解析 [Numerical Analysis]	知能情報工学科(昼間)／今井／3年・前期	175
電磁気学 [Electricity and Magnetism]	知能情報工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・通年	176
電磁気学演習 [Exercise in Electricity and Magnetism]	知能情報工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・通年	176
力学系通論 [Mechanics]	知能情報工学科(昼間)／工学部非常勤講師／2年・前期	177
コンピュータ入門 [Introduction to Computer]	知能情報工学科(昼間)／森田 他, 伊藤 桃代／1年・前期	177
プログラミング入門 [Introduction to Programming]	知能情報工学科(昼間)／森田 他, 伊藤 桃代／1年・前期	178
離散数学 [Discrete Mathematics]	知能情報工学科(昼間)／光原／1年・前期	178
グラフ理論 [Graph Theory]	知能情報工学科(昼間)／緒方／1年・前期	179
知能情報工学セミナー [Seminar to Information Science and Systems Engineering]	知能情報工学科(昼間)／福見 他／1年・前期	179
数理論理学 [Mathematical Logic]	知能情報工学科(昼間)／北／1年・後期	179
電気回路及び演習 [Lecture and Exercise in Electric Circuit]	知能情報工学科(昼間)／上田／2年・前期	180
マイクロプロセッサ [Microprocessors]	知能情報工学科(昼間)／福見／2年・後期	180
アルゴリズムとデータ構造 [Data Structures and Algorithms]	知能情報工学科(昼間)／青江／1年・後期	181
アルゴリズムとデータ構造演習 [Exercise in Algorithms and Data Structures]	知能情報工学科(昼間)／青江 他／1年・後期	181
情報数学 [Mathematics in Computer Science]	知能情報工学科(昼間)／吉田／2年・後期	182
電子回路 [Electronic Circuits]	知能情報工学科(昼間)／上田／2年・後期	182
プログラミング方法論 [Programming Methodology]	知能情報工学科(昼間)／下村／2年・前期	182
ソフトウェア工学 [Software Engineering]	知能情報工学科(昼間)／下村／2年・前期	183
線形システム解析 [Linear System Analysis]	知能情報工学科(昼間)／池田／3年・前期	183
数理計画法 [Mathematical Programming]	知能情報工学科(昼間)／池田／2年・後期	184
知識システム [Knowledge Systems]	知能情報工学科(昼間)／小野／2年・後期	184
情報計測工学 [Instrumentation System]	知能情報工学科(昼間)／KARUNGARU／2年・後期	185
情報通信理論 [Information and Communication Theory]	知能情報工学科(昼間)／知能情報工学科教員／3年・前期	185
コンピュータアーキテクチャ [Computer Architecture]	知能情報工学科(昼間)／佐野／3年・前期	185
離散システム解析 [Discrete-Time Systems Analysis]	知能情報工学科(昼間)／福見／3年・前期	186
信号処理 [Signal Processing]	知能情報工学科(昼間)／寺田／2年・後期	186
知能システム [Intelligent Systems]	知能情報工学科(昼間)／小野／3年・前期	187
最適化理論 [Optimization Theory]	知能情報工学科(昼間)／最上／3年・前期	187
コンピュータネットワーク [Computer Network]	知能情報工学科(昼間)／柏原／3年・前期	188
コンピュータネットワーク演習 [Computer Networks]	知能情報工学科(昼間)／柏原／3年・後期	188
オペレーティングシステム [Operating System]	知能情報工学科(昼間)／光原／3年・後期	188
データベース [Database]	知能情報工学科(昼間)／獅々堀／3年・後期	189
自然言語処理 [Natural Language Processing]	知能情報工学科(昼間)／任／3年・後期	189
データマイニング [Data Mining]	知能情報工学科(昼間)／任／4年・前期	190

情報セキュリティ [Information Security]	知能情報工学科(昼間)／松浦／2年・前期	190
画像処理工学 [Image Processing]	知能情報工学科(昼間)／KARUNGARU／3年・後期	191
数値計算法 [Numerical Computation]	知能情報工学科(昼間)／上田／3年・後期	191
オートマトン・言語理論 [Automata and Formal Languages]	知能情報工学科(昼間)／北／3年・前期	191
論理回路設計 [Logic Circuit Design]	知能情報工学科(昼間)／獅々堀／3年・前期	192
プログラミングシステム [Programming Systems]	知能情報工学科(昼間)／泓田／3年・前期	192
集積回路工学 [Integrated Circuits]	知能情報工学科(昼間)／大野(将)／3年・後期	193
生体情報工学 [Biological and Medical Engineering]	知能情報工学科(昼間)／最上 他／4年・前期	193
国際経営論 [Global Business]	知能情報工学科(昼間)／非常勤／4年・前期	194
技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics]	知能情報工学科(昼間)／非常勤／3年・前期	194
専門外国語 [Foreign Language for Information Science]	知能情報工学科(昼間)／非常勤／4年・通年	194
ソフトウェア設計及び実験 [Software design and experiment 1]	知能情報工学科(昼間)／緒方 他／2年・通年	195
システム設計及び実験 [System design and experiment]	知能情報工学科(昼間)／佐野 他／3年・通年	195
パターン認識 [Pattern Recognition]	知能情報工学科(昼間)／寺田／4年・前期	196
コンピュータシステム管理 [System Administration]	知能情報工学科(昼間)／松浦／4年・前期	196
生産管理 [Production Control]	知能情報工学科(昼間)／非常勤／4年・前期	197
労務管理 [Personnel Management]	知能情報工学科(昼間)／非常勤／4年・前期	197
卒業研究 [Bachelor's Thesis]	知能情報工学科(昼間)／知能情報工学科教員／4年・通年	197



開講学期	2年・前期	時間割番号	5161010
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
担当教員	水野 義紀 [Yoshinori Mizuno]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	微分方程式の解法を修得し、さらに工学の諸分野に現われる微分方程式の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	微分方程式の理論は数理工学的な現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。		
キーワード	1. 求積法 2. 2階定数係数線形常微分方程式		
到達目標	1. 簡単な求積法が理解できる。(授業計画1から6に対応し、期末テストで評価) 2. 2階定数係数線形常微分方程式が解ける。(授業計画7から14に対応し、期末テストで評価)		
授業の計画	6. これまでのまとめ	12. 非斉次2階線形方程式(簡便法2)	
1. この講義の目的	7. 斉次2階線形方程式	13. ここまでのまとめ	
2. 変数分離形	8. 非斉次2階線形方程式(未定係数法)	14. 級数解法	
3. 同次形	9. 非斉次2階線形方程式(定数変化法)	15. 期末試験	
4. 1階線形方程式	10. 非斉次2階線形方程式(記号解法)	16. 総括	
5. 完全微分形	11. 非斉次2階線形方程式(簡便法1)		
教科書	工科系のための微分方程式/杉山昌平:実教出版		
参考書	特に指定しない		
成績評価の方法	期末試験 100%		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。		
JABEE合格	成績評価と同じ。		
学習教育目標との関連	本学科教育目標(C)に対応する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 水野 義紀(建設棟A204, E-mail:mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) mizuno@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜 17時から18時		
備考	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5161020
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
担当教員	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	連立常微分方程式の安定性と簡単な偏微分方程式の解法を修得し、より実際の工学的な問題の解法に応用できるようにする。		
授業の概要	「微分方程式1」に続いて現代工学すべての基礎として重要な役割を果たしている連立常微分方程式系の基本的な解法を講義する。さらに、簡単な偏微分方程式の解法についても講義する。		
キーワード			
到達目標	1. 簡単な定数係数連立線形常微分方程式が解ける 2. ラプラス変換とその応用ができる		

授業の計画	6. 2次元自励系の安定性	12. 偏微分の復習
1. 定数係数連立線形常微分方程式	7. ラプラス変換の定義	13. 1階偏微分方程式
2. 高階微分方程式と連立微分方程式	8. ラプラス変換の性質	14. ラグランジュの偏微分方程式
3. 自励系と強制系	9. ラプラス変換の性質	15. 2階線形偏微分方程式
4. 線形近似	10. 逆ラプラス変換	16. 期末試験
5. 2次元自励系の危点	11. ラプラス変換の応用例	
教科書	工科系のための微分方程式/杉山昌平:実教出版	
参考書	特に指定しない	
成績評価の方法	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。	
再試験の有無		
受講者へのメッセージ	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
JABEE合格		
学習教育目標との関連	(C)[主目標]工学基礎80%, (D)専門基礎20%	
WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mailでの問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) 木曜 14:00?15:00	
備考		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5161030
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	複素関数論[Complex Analysis]		
担当教員	坂口 秀雄 [Hideo Sakaguchi]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微分積分学を学ぶ。		
授業の概要	微積分で扱う対象を複素変数関数の関数にまで広げ、正則関数および有理型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。		
キーワード	複素数, 微分積分		
到達目標	1. 複素微分, 正則関数の概要が理解できる。 2. 留数概念の理解とその応用ができる。		
授業の計画	9. 整級数 ... (教科書, 第4章)		
1. 複素数, 複素平面 ... (教科書, 第1章)	10. テイラー展開 ... (教科書, 第5章)		
2. 複素数列 ... (教科書, 第1章)	11. ローラン展開 ... (教科書, 第6章)		
3. 複素変数の関数 ... (教科書, 第2章)	12. 特異点, 留数(りゅうすう) ... (教科書, 第6章)		
4. 複素微分, 正則関数 ... (教科書, 第2章)	13. 定積分の計算(1) ... (教科書, 第6章)		
5. 複素変数の指数関数, 三角関数, 対数関数 ... (教科書, 第2章)	14. 定積分の計算(2) ... (教科書, 第6章)		
6. 複素積分 ... (教科書, 第3章)	15. まとめ		
7. コーシーの積分定理 ... (教科書, 第3章)	16. 期末試験		
8. コーシーの積分公式 ... (教科書, 第3章)			
教科書	複素解析学概説/藤本淳夫:培風館		
参考書	理工系のための微分積分 I, II/鈴木武・柴田良弘ほか:内田老鶴圃 大学演習・関数論/辻正次・小松勇作:裳華房 解析関数(新版)/田村二郎:裳華房 関数論/吉田洋一:岩波書店 複素関数論/岸正倫、藤本坦孝:学術図書出版社 神保道夫『複素関数入門』岩波書店 志賀啓成『複素解析学 I・II』培風館 馬場敬之・高杉豊『複素関数』(キャンパス・ゼミ) マセマ		

<b>成績評価の方法</b> 講義への取組み状況(各回の演習等), 中間試験等の平常点 30%と期末試験の成績 70%を総合的に評価し, 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 《注意1》●この授業は「微積分学」の理解を基本としてさらに新たな内容を積み重ねます。毎週の予習と復習が必要です。●授業がはじまるまでに教科書の該当箇所をみておきましょう。とても理解の効率が上がります。そして復習も容易になり, 学期末試験の良好な結果が期待されるようになります。《注意2》●高等学校で学んだ初歩的な計算(式の整理, 因数分解, 複素数の計算)が必要です。附属図書館に高等学校の教科書を配架してあります。それらを参照して多項式の取り扱いを思い出しておいて下さい。●計算のあとで必ず確認をしましょう。どのような分野においても「事後検査による信頼性の確保」は極めて重要な手続きとみなされています。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 坂口秀雄(A221) (メールアドレス) saka@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 17:00~18:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5161040
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	ベクトル解析[Vector Analysis]		
<b>担当教員</b>	深貝 暢良 [Nobuyoshi Fukaga]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	工学の解析に必要な不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに, ベクトル場の解析学を通して古典力学, 流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的な理解・運用を目標とする。		
<b>授業の概要</b>	三次元空間のベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的效果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微積分学を展開し, 微積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。		
<b>キーワード</b>	ベクトル, 微積分, 3次元空間の図形, 曲線, 曲面, 立体, スカラー場, ベクトル場		
<b>先行/科目</b>	『微積分学 I [Calculus 1]』(1.0), 『微積分学 II [Calculus 2]』(1.0), 『線形代数学 I [Linear Algebra 1]』(1.0), 『線形代数学 II [Linear Algebra 2]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『複素関数論[Complex Analysis]』(0.5), 『電磁気学[Electricity and Magnetism]』(0.5), 『電磁気学演習 [Exercise in Electricity and Magnetism]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. ベクトル場の微分が理解できる。 2. ベクトル場の積分が理解できる。		
<b>授業の計画</b>	6. スカラー場, ベクトル場, 勾配 (教科書 §3)	11. ストークスの定理 (教科書 §5)	
1. はじめに	7. 回転, 発散 (教科書 §3)	12. グリーンの定理 (教科書 §5)	
2. ベクトル (教科書 §1)	8. 線積分 (教科書 §4)	13. ガウスの発散定理 (教科書 §5)	
3. 内積, 外積 (教科書 §1)	9. 重積分 (教科書 §4)	14. 積分定理の応用 (教科書 §6)	
4. ベクトル関数, 曲線 (教科書 §2)	10. 面積分 (教科書 §4)	15. まとめ	
5. 曲面 (教科書 §2)		16. 期末試験	
<b>教科書</b>	ベクトル解析/鶴丸孝司・久野昇司・渡辺敏・志賀野洋:内田老鶴圃		
<b>参考書</b>	ベクトル解析演習/鶴丸孝司・久野昇司・渡辺敏・志賀野洋:内田老鶴圃 理工系のための微積分 I, II/鈴木武・柴田良弘ほか:内田老鶴圃 線形代数講義/金子晃:サイエンス社 ベクトル解析/安達忠次:培風館 ベクトル解析/増田真郎:サイエンス社 寺田文行・福田隆『演習と応用 ベクトル解析』サイエンス社 山内正敏『詳説演習 ベクトル解析』培風館		
<b>成績評価の方法</b>	期末試験に基づいて行う。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	予習と復習が必要です。図形を表現するための数学記号を学び, 多変数関数の微分と積分を計算します。平日頃より問題演習に取り組みましょう。		

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 工学部数学教室 (A 棟 219 室) (オフィスアワー) 木曜日 15:00~16:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5161050
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	確率統計学[Probability and Statistics]		
<b>担当教員</b>	竹内 敏己 [Toshiki Takeuchi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	観測, 実験, 調査等を通じて得られた数値データの解析において, 確率統計学は必要不可欠な学問である。確率統計学の応用分野は, 自然・社会・人文科学・工学・医学等ほとんどすべての研究分野にわたっている。本講義では, 確率的な現象の捉え方, 考え方を学ぶとともに統計学における仮説検定法の考え方を習得することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	最初に統計学に必要な確率論および統計学の基礎を解説し, 次に大量のデータの中から抽出した一部のデータを用いて統計的推論を行う場合の基本的考え方および統計手法について多くの例題を交えて講義する。また, 毎回講義の最後に演習問題を解く時間を設ける。		
<b>キーワード</b>	確率変数, 確率分布, 検定		
<b>到達目標</b>	1. 基本的な確率の計算ができる。 2. 基本的な確率分布が理解できる。		
<b>授業の計画</b>	6. ポアソン分布	12. 様々な連続型確率分布	
1. 様々な確率統計の例	7. 確率変数の平均と分散	13. 中心極限定理	
2. 事象と確率	8. 平均と分散の性質	14. 仮説検定法	
3. 確率の定義と性質	9. 連続的確率変数	15. 相関関係	
4. 確率変数と確率分布	10. 連続的確率分布の平均と分散	16. 期末試験	
5. 2項分布	11. 正規分布		
<b>教科書</b>	確率・統計入門: 例題中心/坂光一, 水原昂廣, 宇野力: 学術図書出版社, 2001. 12, ISBN:9784873612430		
<b>参考書</b>	基礎統計学. 1/東京大学教養学部統計学教室: 東京大学出版会, 1991. 7, ISBN:9784130420655		
<b>成績評価の方法</b>	期末試験を 70%, 講義への取り組み状況を 30%として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	無		
<b>受講者へのメッセージ</b>	2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習が, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 竹内敏己(工学部建設棟 A206, 088-656-7544) (メールアドレス) takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:00~17:00		
<b>備考</b>	教科書の教表を用いた演習問題を課すことがあるので必ず教科書を用意すること。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5161060
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	数値解析[Numerical Analysis]		
<b>担当教員</b>	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)

<b>授業の目的</b>	様々な数値計算手法を身につけるとともに、数値解析の基本的な考え方を習得することを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	新しい解析手法である数値シミュレーションに関連して、丸め誤差などの数値計算における基礎的知識、連立一次方程式・固有値問題などの基本的数値計算法について述べる。		
<b>キーワード</b>	数値解析, 計算機, コンピューター		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数値誤差が理解できる</li> <li>2. 方程式の数値解法がプログラムできる程度に理解できる</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 条件数</li> <li>10. 非線形方程式の解法:二分法</li> <li>11. 非線形方程式の解法:ニュートン法</li> <li>12. 行列の相似変換</li> <li>13. 固有値の解法:ハウスホルダー法</li> <li>14. 固有ベクトルの解法:QR法</li> <li>15. 固有ベクトルの解法:べき乗法, シフト付逆復法</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>		
<b>教科書</b>	特に指定しない		
<b>参考書</b>	数値解析の基礎／篠原能材:日新出版 線形計算／名取亮:朝倉書店 数値解析／森正武:共立出版 数値解析とその応用／名取亮:コロナ社		
<b>成績評価の方法</b>	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば、その点数を成績とする。期末試験の点数が50～59点の場合には、試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし、その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mailでの問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) オフィスアワー:木曜日 14:00～15:00		
<b>備考</b>			

<b>開講学期</b>	2年・通年	<b>時間割番号</b>	5161070
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電磁気学[Electricity and Magnetism]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	力学と並ぶ古典物理学の柱である電磁気学を平易に講義し、身のまわりの電氣的・磁氣的現象や材料物性を理解する上での基礎を解説する。		
<b>授業の概要</b>	静電場・静磁場より始めて、マクスウェル方程式に到る過程を解説し、電磁波の簡単な例を述べる。		
<b>キーワード</b>	電場, 磁場, 電磁誘導, マクスウェルの方程式		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 静電場・静磁場の理解。(授業計画1から5および9から11に対応し、小テストと期末テストで評価)</li> <li>2. 電流と直流・交流回路の理解。(授業計画6から8および14に対応し、小テストと期末テストで評価)</li> <li>3. 電磁誘導の法則の理解(授業計画12から13に対応し、小テストと期末テストで評価)</li> <li>4. 電磁波の理解。(授業計画15に対応し、小テストと期末テストで評価)</li> </ol>		

<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 電流</li> <li>7. 抵抗とオームの法則</li> <li>8. 直流回路</li> <li>9. 静磁場</li> <li>10. ビオ・サヴァールの法則</li> <li>11. アンペールの法則</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. ファラデーの電磁誘導の法則</li> <li>13. インダクタンス</li> <li>14. 交流回路</li> <li>15. マクスウェルの方程式と電磁波</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>
<b>1. クーロンの法則と静電場</b>		
<b>2. ガウスの法則</b>		
<b>3. 静電位</b>		
<b>4. 容量とコンデンサーの接続</b>		
<b>5. 誘電体</b>		
<b>教科書</b>	科学者と技術者のための物理学 III 電磁気学／Raymond A. Serway 著 松村博之 訳 Raymond A. Serway 著 松村博之 訳:学術図書	
<b>参考書</b>	砂川重信 著「電磁気学-初めて学ぶ人のために」培風館	
<b>成績評価の方法</b>	定期試験 70%, 平常点(出席状況等)30%として評価し、総合で 60% 以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>		
<b>JABEE合格</b>	定期試験 70%, 平常点(出席状況等)30%として評価し、総合で 60% 以上を合格とする。	
<b>学習教育目標との関連</b>		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本関数の微分・積分およびベクトル解析の基礎事項を修得していることが望ましい。本講義と併せて「電磁気学演習」を履修することが必要である。</li> <li>2. [平常点と]期末試験の成績の割合は3:7とする。</li> <li>3. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>	

<b>開講学期</b>	2年・通年	<b>時間割番号</b>	5161080
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電磁気学演習[Exercise in Electricity and Magnetism]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	電磁気学の講義内容に即した問題演習を行い、講義の理解を深める。また、講義内容と密接に関連する補足事項の解説を行なう。		
<b>授業の概要</b>	「電磁気学」講義中に指示する方法により、講義内容の理解を深める為の演習問題を受講者に解答・発表してもらい、その講評を行なう。		
<b>キーワード</b>	電場, 磁場, 電磁誘導, マクスウェル方程式, 電磁波		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 静電場・静磁場の理解(問題演習で評価)</li> <li>2. 電流と直流・交流回路の理解(問題演習で評価)</li> <li>3. 電磁誘導の法則の理解(問題演習で評価)</li> <li>4. 電磁波の理解(問題演習で評価)</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 電流</li> <li>7. 抵抗とオームの法則</li> <li>8. 直流回路</li> <li>9. 静磁場</li> <li>10. ビオ・サヴァールの法則</li> <li>11. アンペールの法則</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. ファラデーの電磁誘導の法則</li> <li>13. インダクタンス</li> <li>14. 交流回路</li> <li>15. マクスウェルの方程式</li> <li>16. 電磁波</li> </ol>	
<b>1. クーロンの法則と静電場</b>			
<b>2. ガウスの法則</b>			
<b>3. 静電位</b>			
<b>4. 容量とコンデンサーの接続</b>			
<b>5. 誘電体</b>			
<b>教科書</b>	科学者と技術者のための物理学 III 電磁気学／Raymond A. Serway 著 松村博之 訳:学術図書		
<b>参考書</b>	電磁気学-初めて学ぶ人のために／砂川重信:培風館 ベクトル解析／鶴丸孝司, 久野昇司, 渡部敏, 志賀野洋:内田老鶴園 ベクトル解析演習／鶴丸孝司, 久野昇司, 渡部敏, 志賀野洋:内田老鶴園		
<b>成績評価の方法</b>	講義「電磁気学」の履修を前提として、演習問題解答者に解答内容等 70%, 平常点(出席状況等)30%として評価し、総合で 60% 以上を合格とする。		



<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
JABEE合格 講義「電磁気学」の履修を前提として、演習問題解答者に解答内容等 70%, 平常点(出席状況等)30% として評価し、総合で 60% 以上を合格とする。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	
<b>備考</b>	1. 講義「電磁気学」と併せての履修を要請する。 2. [平常点]と[演習発表の成績]の割合は 3:7 とする。 3. 本講義の履修には十分な予習と復習を必要とする。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5161090
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	力学系通論[Mechanics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	基礎物理学で学んだ「力学」をふまえながら、さらに発展させ、工学上の問題を解くのに、基礎的な法則をどのように適用し、定式化すればよいかを習得する。		
<b>授業の概要</b>	まず、質点の力学の基本的な事柄を整理し、剛体の静力学を解説する。ついで、回転、平面運動、衝撃、振動など剛体の動力学へ発展させる。講義の進展に合わせながら、実際の物体について、振動、機構部品の回転など具体的な例題を数多く示し、どのように法則を適用し、系が従うべき式を見いだせばよいかを解説する。		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	1. 質点の運動について運動方程式を書き、基本的な方程式を解くことができる。 2. 力学的エネルギー、運動量の概念を理解し、実際上の問題に応用できる。 3. 剛体のつり合い、平面運動について解明できる。 4. 力学的振動の基礎を理解する。		
<b>授業の計画</b>	6. 質点の運動学(変位, 速度, 加速度)	11. 剛体の動力学 2(角運動量, 衝撃)	
1. 基本概念	7. 質点の動力学 1(運動の方程式)	12. 力学的振動 1(自由振動, 単振り子)	
2. 質点の静力学	8. 質点の動力学 2(エネルギー, 運動量, 力積)	13. 力学的振動 2(減衰振動, 強制振動)	
3. 剛体のつりあい 1	9. 剛体の運動学(慣性モーメント, 回転)	14. 演習	
4. 剛体のつりあい 2	10. 剛体の動力学 1(固定軸回りの回転, 平面運動)	15. 質疑応答	
5. 重心		16. 定期テスト	
<b>教科書</b>	力学(三訂版)／原島鮮:装華房 ノート講義		
<b>参考書</b>	工学のための力学(上, 下)／ペアー/ジョンストン(長谷川節訳):ブレイン図書		
<b>成績評価の方法</b>	期末試験の成績と授業への取り組み状況を総合して行う。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	期末試験の成績と授業への取り組み状況を総合して行う。		
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森田 和宏(Dr 棟 603, Tel:088-656-7490, E-mail:kam@is.tokushima-u.ac.jp) 松本 和幸(エコ棟 702, Tel:088-656-7654, E-mail:matumoto@is.tokushima-u.ac.jp) 渡辺 峻(C301, Tel:088-656-7487, E-mail:shun-wata@is.tokushima-u.ac.jp) 伊藤 桃代(D208, Tel:088-656-7512, E-mail:momoito@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 森田 和宏:木曜日 16:00~19:00		
<b>備考</b>	1. 「プログラミング入門」と連続して講義および演習を進める。 2. 授業計画 1~15 は、各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。		

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5161100
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	コンピュータ入門[Introduction to Computer]		
<b>担当教員</b>	森田 和宏, 松本 和幸, 渡辺 峻, 伊藤 桃代 [Kazuhiro Morita, Kazuyuki Matsumoto, Shun Watanabe, Momoyo Itoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	UNIX を中心とした基礎的なコンピュータリテラシーを、十分な実習時間をかけて修得させる。		
<b>授業の概要</b>	UNIX はマルチユーザー・マルチタスクのオペレーティングシステム(OS)であり、多くのサーバがこの OS によって運用されている。C 言語とのインターフェースが良く、各種コンパイラ、テキスト処理ツールも豊富に用意されている。また、インターネットとの親和性にも優れ、電子メール、WWW など、多くのネットワークサービスに対する信頼されたサーバとして全世界で稼働している。本講義では、まず UNIX の伝統や哲学を理解し、現在のインターネット環境をふまえたセキュリティ概念を学習する。つぎにファイルシステムやディレクトリ構造を理解し、UNIX コマンドを実習する。これらの学習を通して、各自が UNIX の各ツールを使いこなし、テキスト処理やプログラミングを効率よく行えるようになることを目指す。実習を中心とした講義展開を行なう。		
<b>キーワード</b>	UNIX, 情報セキュリティ, C 言語		
<b>関連科目</b>	『プログラミング入門[Introduction to Programming]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 情報倫理と情報セキュリティが説明できる 2. 基本的なコンピュータの操作(コンピュータを用いた読み書き算)ができる 3. 簡単なプログラムの作成と実行ができる		
<b>授業の計画</b>	9. 組み版システム LaTeX の使用方法	10. シェルとプロセス・環境設定	
1. コンピュータ, インターネットの利用と情報倫理	11. C 言語入門	12. 演算と型	
2. 情報処理基礎知識・電子メールの使用法	13. プログラムの流れの分岐	14. 総括と補足	
3. エディタの使用法	14. 総括と補足	15. オンライン模擬試験	
4. ファイルとディレクトリ操作	15. オンライン模擬試験	16. オンライン単位認定試験	
5. ファイルのアクセス権と保護・ファイルの検索			
6. ファイル内の情報検索			
7. ファイル検索の活用・データのアーカイブ			
8. グラフと図の作成			
<b>教科書</b>	利用の手引き 明解C言語. 入門編／柴田望洋:ソフトバンクパブリッシング, 2004. 8, ISBN:4797327928		
<b>参考書</b>	たのしいUNIX : UNIXへの招待／坂本文:アスキー, 1990. 12, ISBN:4756107850		
<b>成績評価の方法</b>	課題を毎回出題する。試験と課題の達成状況を総合的に判断して評価する。平常点と試験の比率は 5:5 とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	「プログラミング入門」と連続、一貫した授業展開を行う。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森田 和宏(Dr 棟 603, Tel:088-656-7490, E-mail:kam@is.tokushima-u.ac.jp) 松本 和幸(エコ棟 702, Tel:088-656-7654, E-mail:matumoto@is.tokushima-u.ac.jp) 渡辺 峻(C301, Tel:088-656-7487, E-mail:shun-wata@is.tokushima-u.ac.jp) 伊藤 桃代(D208, Tel:088-656-7512, E-mail:momoito@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 森田 和宏:木曜日 16:00~19:00		
<b>備考</b>	1. 「プログラミング入門」と連続して講義および演習を進める。 2. 授業計画 1~15 は、各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5161110
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	プログラミング入門[Introduction to Programming]		
担当教員	森田 和宏, 松本 和幸, 渡辺 峻, 伊藤 桃代 [Kazuhiro Morita, Kazuyuki Matsumoto, Shun Watanabe, Momoyo Itoh]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	UNIX オペレーティングシステムを念頭においた C 言語の基礎を理解し、プログラムを「書く」習慣を身につける。		
授業の概要	UNIX オペレーティングシステムは、それを構成するカーネルやコマンドのソースプログラムはほとんど C 言語で記述されていることはよく知られており、現在に至ってもっとも汎用で小回りの効くプログラミング言語である。C 言語の初歩的な事柄について、実習による裏付けを取りながら理解を深めてゆく。「コンピュータ入門」で培った技術を活用し、プログラミングを効率よく行う方法を学ぶ。		
キーワード	UNIX, C 言語, プログラミング技法		
先行/科目	『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(1.0)		
関連/科目	『アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]』(0.5), 『アルゴリズムとデータ構造演習[Exercise in Algorithms and Data Structures]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なプログラミング法を説明できる。</li> <li>2. C 言語を用いた自律的な思考によるプログラム作成ができる。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 制御構造</li> <li>2. 反復構造</li> <li>3. 配列</li> <li>4. 関数</li> <li>5. 関数と配列, 有効範囲と記憶域期間</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 基本型</li> <li>7. 総合演習</li> <li>8. 中間試験(オンライン)</li> <li>9. 文字と文字列の扱い</li> <li>10. ポインタ基礎</li> <li>11. ポインタと配列</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. ポインタによる文字列の扱い</li> <li>13. 構造体</li> <li>14. ファイル操作</li> <li>15. 総括と補足</li> <li>16. 期末試験(筆記)</li> </ol>
教科書	明解C言語。入門編/柴田望洋:ソフトバンクパブリッシング, 2004. 8, ISBN:4797327928		
参考書	プログラミング言語C : ANSI規格準拠/B. W. カーニハン, D. M. リッチー: 共立出版, 1994. 3, ISBN:4320026926		
成績評価の方法	課題を毎回出題する。試験と課題の提出状況, 受講姿勢を総合して評価する。平常点と試験の比率は4:6とする。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	JABEE合格		
学習教育目標との関連	C		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森田 和宏(Dr 棟 603, Tel:088-656-7490, E-mail:kam@is.tokushima-u.ac.jp) 松本 和幸(エコ棟 702, Tel:088-656-7654, E-mail:matumoto@is.tokushima-u.ac.jp) 渡辺 峻(C301, Tel:088-656-7487, E-mail:shun-wata@is.tokushima-u.ac.jp) 伊藤 桃代(D208, Tel:088-656-7512, E-mail:momoyo@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 森田 和宏:木曜日 16:00~19:00		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「コンピュータ入門」と連続して講義および演習を進める。</li> <li>2. 授業計画 1~8 は、レポート及び中間試験により達成度評価を行なう。</li> <li>3. 授業計画 9~15 は、レポート及び最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5161120
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	離散数学[Discrete Mathematics]		
担当教員	光原 弘幸 [Hiroyuki Mitsuhara]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	計算機科学の基礎である離散数学を工学的立場から講義し、演習・レポートを通して理論と情報処理手法を修得させ、離散的手法の理解と応用力を育成する。		
授業の概要	離散数学は、離散系を扱う数学であり、情報工学、情報科学の基礎分野の一つである。素朴集合論より導入し、関係、関数、グラフなど抽象的表現を用いて物事(問題解決法)を考えるツールとして位置づけて講義し、演習及び例題を解くことによって理解を深めていく。		
キーワード	集合, 関係, 関数, グラフ		
先行/科目	『工業基礎数学[Industrial Basic Mathematics]』(0.5)		
関連/科目	『グラフ理論[Graph Theory]』(1.0), 『アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]』(0.5)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集合の概念及び集合・論理演算や数学的帰納法による問題解決を説明できる。</li> <li>2. 関係の概念を説明でき、関係を幾何学的に表現しながら関係に係わる問題解決を説明できる。</li> <li>3. 関数の概念を説明でき、関数を幾何学的に表現しながら関数に係わる問題解決を説明できる。</li> <li>4. ベクトルと行列の概念を説明でき、図形処理を含めた行列演算による問題解決を説明できる。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 離散数学の概要, 応用例</li> <li>2. 集合と要素, 集合の種類, ベン図, 集合演算</li> <li>3. 集合の類, べき集合, 命題計算, 論理演算</li> <li>4. 数学的帰納法</li> <li>5. 関係, 関係の幾何学的表現</li> <li>6. 逆関係, 関係の合成, 関係の性質</li> <li>7. 分割, 同値関係, 半順序関係</li> <li>8. 全順序関係, ハッセ図</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 束, ブール代数</li> <li>10. 関数, 関数のグラフ, 添数付き集合族, 基数</li> <li>11. 代数系, 半群と群, 環と体</li> <li>12. ベクトルと行列</li> <li>13. 行列演算と図形処理</li> <li>14. 演習問題解答</li> <li>15. 定期試験</li> <li>16. 返却とまとめ</li> </ol>	
教科書	離散数学 : コンピュータサイエンスの基礎数学/Seymour Lipschutz 著,成嶋弘 監訳, :オーム社, 1995, ISBN:4274130053		
参考書			
教科書・参考書に関する補足情報	授業資料(電子ファイル)を事前にダウンロードできるようにする。		
成績評価の方法	評点の割合は、試験70%, 平常点30%とする。平常点はレポートの提出状況と内容、講義中の演習回答状況から算出する。		
再試験の有無	再試験の有無		
受講者へのメッセージ	微分・積分の数学と違い、離散系を扱う数学であり、素朴集合論より導入する。前提とする数学知識は、中学・高校で修得したもので充分である。しかし、従来と違った手法・方法論を学ぶためには、演習及び例題の解法が重要である。よって、講義内で多くの問題を出題し、解いてもらう。		
JABEE合格	JABEE合格		
学習教育目標との関連	C		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(オフィスアワー) 木曜日 16:20-17:50		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 授業計画 1~14 は定期試験(最終試験)により達成度評価を行い、最終授業で達成度を自己確認してもらう。</li> </ol>		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5161130
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	グラフ理論[Graph Theory]		
担当教員	緒方 広明 [Hiroaki Ogata]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 計算機科学の基礎である離散数学とグラフ理論を工学的立場から講義し、演習・レポートを通して理論と情報処理手法を修得させ、離散的手法の理解と応用力を育成する。			
<b>授業の概要</b> グラフ理論は、離散数学を前提とし、エッジ(頂点)とノード(辺)の集合からなるグラフの性質を学ぶ学問である。従来と違った手法・方法論を学ぶためには、演習及び例題の解法が重要である。そこで講義と合わせて演習を行う。			
<b>キーワード</b> グラフ、木、ポーランド記法			
<b>先行科目</b> 『離散数学[Discrete Mathematics]』(0.5)			
<b>関連科目</b> 『離散数学[Discrete Mathematics]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 計算機の基礎としてグラフの用語(次数、オイラーグラフ、木、ポーランド記法など)、概念、手法などを説明できる。			
<b>授業の計画</b>			
1. グラフと多重グラフ	9. 非平面的グラフ、クラフスキの定理		
2. 次数、連結度	10. 彩色グラフ、四色定理		
3. ケーニヒスベルグの橋、周遊可能多重グラフ	11. 木		
4. 行列とグラフ	12. 順序根付き木		
5. ラベル付グラフ	13. ポーランド記法		
6. グラフの同形性	14. 9.~12.の演習問題		
7. 地図、領域、オイラーの公式	15. 演習問題の解法の説明		
8. 1.~7.の演習問題と解法の説明	16. 定期試験		
<b>教科書</b> 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学 (マグローヒル大学演習)/Seymour Lipschutz (著), 成嶋 弘 (翻訳):オーム社, 1995/03, ISBN:978-4274130052			
<b>参考書</b> C.L.リコー 著・成嶋 弘 他訳「コンピュータサイエンスのための—離散数学入門」マグローヒル社			
<b>成績評価の方法</b> 平常点と試験の点=30%:70%(no)で評価し、60%以上を合格とする。但し、これは変更されることがある。試験だけでなく、レポートの提出状況と内容、講義中の質問の回答も評点の対象となる。ただし、これは変更されることがある。			
<b>再試験の有無</b> 再試験・再評価は、行いません。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 予習復習をしっかりとってください。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> 学習教育目標(C)に関連する			
<b>WEB ページ</b>			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 緒方広明(C507, 088-656-7498, ogata@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ogata@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木 17:00~18:00 C507		
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画1~14は、試験およびレポートにより達成度評価を行なう。		

開講学期	1年・前期	時間割番号	5161140
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	知能情報工学セミナー[Seminar to Information Science and Systems Engineering]		
担当教員	福見 稔, 任 福継, 小野 典彦, 獅々堀 正幹, 寺田 賢治, 下村 隆夫, 青江 順一, 北 研二, 上田 哲史 [Minoru Fukumi, Ren Fuji, Norihiko Ono, Masami Shishibori, Kenji Terada, Takao Shimomura, Junichi Aoe, Kenji Kita, Tetsushi Ueta]		
単位数	1	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)

<b>授業の目的</b> 知能情報工学科における教育・研究に関する導入教育を行う。また、計算機に親しむための簡単な実習を課して、知能情報工学科の学生としての自覚を芽生えさせると共に、簡単な研究課題を課して、自発的な情報収集能力やコミュニケーション能力の重要性を認識させる。さらに学生生活の送り方、講義の受講および研究のための心構え、社会人としての常識等のガイダンスを行う。			
<b>授業の概要</b> 受講生を知能情報工学科教授全員にほぼ等分に配属する。授業の内容は教授によって若干異なるが、知能情報工学科の教育・研究内容、学生生活の送り方と心構え、社会人としての常識等についての導入教育が施された後に、計算機を用いた簡単な実習や研究課題が課される。研究課題に関しては、報告書の提出やプレゼンテーションが求められる。			
<b>キーワード</b> プレゼンテーション, 文章作成技法, 情報活用			
<b>到達目標</b>			
1. 導入教育を通して知能情報工学科における学生生活に適應できる。 2. 研究課題の解決を通して自発的に情報を収集できる。 3. 報告書の作成やプレゼンテーションを通して基礎的なコミュニケーションができる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 授業計画は教授によって異なり、その詳細については配属された教授より指示がある。			
<b>教科書</b> 配属された教授より指示がある。			
<b>参考書</b> 配属された教授より指示がある。			
<b>成績評価の方法</b> 実習の成果および研究課題に関する報告書およびプレゼンテーションに基づき成績評価を行う。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> A, B			
<b>WEB ページ</b>			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 任 福継 北 研二 小野 典彦 寺田 賢治 下村 隆夫 青江 順一 獅々堀 正幹 福見 稔 上田 哲史		
備考	1. 配属された教授によって講義計画が異なるので、指示に従うこと。欠席の場合は、単位を認めない。		

開講学期	1年・後期	時間割番号	5161150
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	数理論理学[Mathematical Logic]		
担当教員	北 研二 [Kenji Kita]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 近年、計算機科学の色々な分野で数理論理学が用いられるようになってきている。本講義では、計算機科学を専攻する上で知っておくべき数理論理学の基礎について講述する。			
<b>授業の概要</b> まず数理論理学を学ぶ上で最も基礎になる命題論理について説明し、論理式の真偽、トートロジー、証明可能性等について論じる。その後、命題論理を述語論理へ拡張し、述語論理の論理式、形式的体系等について論じる。			
<b>キーワード</b> 命題論理, 述語論理, 導出原理			
<b>到達目標</b>			
1. 命題論理に対し、論理式の真偽値の計算、命題論理式の基本的な性質を用いた式変形、標準形への変換をすることができる。 2. 述語論理に対し、量記号を含んだ述語論理式の基本的な性質を用いた式変形、各種標準形への変換をすることができる。 3. 反駁導出による論理式の証明ができる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 命題と論理式	6. 命題論理と公理系	12. 述語論理と導出原理 1	
2. 論理式と真偽	7. 命題論理と推論	13. 述語論理と導出原理 2	
3. 命題論理式の性質	8. 述語論理の論理式 1	14. 演習 1	
4. 命題論理式の解釈	9. 述語論理の論理式 2	15. 演習 2	
5. 命題論理式の標準形	10. 述語論理の解釈	16. 定期試験	
	11. 述語論理式の標準形		



<b>教科書</b>	情報の論理数学入門：ブール代数から述語論理まで／小倉久和, 高浜徹行:近代科学社, 1991. 4, ISBN:4-7649-0180-3
<b>参考書</b>	特になし
<b>成績評価の方法</b>	定期試験の成績による。
<b>再試験の有無</b>	再試験は実施しない。
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> C	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 北 研二(総合研究実験棟402, Tel:088-656-7496) (メールアドレス) kita@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 14:35 - 16:05
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 授業計画 1~13 は, 各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5161160
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	電気回路及び演習[Lecture and Exercise in Electric Circuit]		
<b>担当教員</b>	上田 哲史 [Tetsushi Ueta]		
<b>単位数</b>	3	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	コンピュータや通信ネットワークなどの情報システムを扱う情報技術者や研究者に必要な電気回路の基礎を, 講義, 演習・レポート, 定期試験を通して理解・修得させる。		
<b>授業の概要</b>	情報処理技術者として修得すべき電気回路理論の基礎について学ぶ。数理モデルとしての回路トポロジーの重要性, キルヒホッフの法則, フェザー法の原理とインピーダンスの概念, 周期的な信号源の印可とその応答に関する力学的価値観を養う。また, 端子対による回路のパラメタ表現, その組合せや解析法について理解し, 物理対象の系統的取り扱い方法を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	キルヒホッフの法則, フェザー法, 重ね合わせの理		
<b>関連/科目</b>	『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(0.6) ,『線形システム解析[Linear System Analysis]』(0.7) ,『システム設計及び実験[System design and experiment]』(0.5) ,『信号処理[Signal Processing]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活における電気回路実装について意識し, 対象を抽象化, 数理モデル化できる。</li> <li>2. 回路方程式の導出と同時に, 必要な変数について手際よく解く手順を説明できる</li> <li>3. 電力, 効率や要求事項を満たす回路設計について求める指針を説明できる</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. ブリッジ, 整合・演習</li> <li>10. 中間試験</li> <li>11. 回路の定常解析法・演習</li> <li>12. 相互誘導回路と理想変成器・演習</li> <li>13. 制御電源・演習</li> <li>14. 二端子対回路・演習</li> <li>15. 定期試験</li> <li>16. 総括講義</li> </ol>		
<b>1.</b>	基礎的なことから・演習		
<b>2.</b>	キルヒホッフの法則と回路解析初歩・演習		
<b>3.</b>	重ね合わせの理, テブナンおよびノトンの等価回路・演習		
<b>4.</b>	フェザー法基礎 I・演習		
<b>5.</b>	フェザー法基礎 II・演習		
<b>6.</b>	複素インピーダンスとフェザー図・演習		
<b>7.</b>	複素電力・演習		
<b>8.</b>	共振回路・演習		
<b>教科書</b>	電気回路を理解する／小澤孝夫:昭晃堂, 1996		
<b>参考書</b>	電気回路 1 基礎・交流編／小澤 孝夫:昭晃堂, 1978 適宜用意する		
<b>成績評価の方法</b>	受講態度(10%), 定期試験(80%)および黒板板書による演習(10%)の結果にもとづいて成績を評価する。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は実施する。		
<b>受講者へのメッセージ</b>			

<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> B, C	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上田哲史(情報化推進センター棟 507 号室, TEL: 088-656-7501) (メールアドレス) tetsushi@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日午後
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高校物理および要件としてあげた科目の習得を前提として講義を進めるので, 各自がこれらの科目を十分復習することが重要。また, レポート課題は計算機を用いる場合があるので C 言語やグラフ作成ソフトが使いこなせるようにしておくこと。</li> <li>2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>3. 授業計画 1~15 は, 総括講義において中間・期末試験の結果をもとに達成度評価を行なう。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5161170
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	マイクロプロセッサ[Microprocessors]		
<b>担当教員</b>	福見 稔 [Minoru Fukumi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	マイクロプロセッサの基本的な動作原理と内部の情報表現, およびそのプログラミングについて習熟し, マイクロプロセッサを活用するために必要な知識を獲得できることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	4ビットに始まり, 現在までのマイクロプロセッサの開発の歴史を概観し, プロセッサ内部の情報表現と2進数での演算方法を理解した後, 初期のマイクロプロセッサ i4004 のアーキテクチャを学ぶ。次いで, i8080 と Z80 のアーキテクチャを調べ, i8080 の主要マシン命令を用いたアセンブラプログラミングの演習を行う。次に, 16 ビットと 32 ビットのアーキテクチャを学ぶ。また, DSP の特徴や最近の高速化実装技術について学ぶ。		
<b>キーワード</b>	CPU, アセンブラ, 2 進数, 動作原理, 命令セット, 高速化実装技術		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイクロプロセッサの構成と動作原理, 内部の情報表現, およびそのプログラミング(アセンブリ言語)について修得でき, ソフトウェアとハードウェアのバランスのよい学習を行うことができる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マイクロプロセッサ開発の歴史・秘話</li> <li>2. マイクロプロセッサの構成と動作, レポート</li> <li>3. プロセッサ内の情報表現, 2 進数, 10 進数, 16 進数</li> <li>4. 小数点数・データ表現演習, 小テスト</li> <li>5. 2 進数の加減算・割り込み, レポート</li> <li>6. 4 ビットマイクロプロセッサ i4004・開発秘話, 小テスト</li> <li>7. 8 ビットマイクロプロセッサ i8080・Z80 とアセンブラ, 中間テスト</li> <li>8. i8080 のプログラミング・レジスタの役割</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. i8080 プログラミング実習 1・データ転送演習の提出</li> <li>10. i8080 プログラミング・加減算</li> <li>11. i8080 プログラミング実習 2・加減算演習の提出</li> <li>12. DSP とその応用事例, レポート</li> <li>13. 16, 32 ビットマイクロプロセッサ, H8 マイコン</li> <li>14. 高性能化の限界, アドレス空間, メモリの階層性</li> <li>15. 最新のプロセッサ事情, 世界の情勢, 質疑応答</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	マイクロコンピュータ／田丸啓吉・安浦寛人:共立出版 田丸啓吉・安浦寛人 共著「マイクロコンピュータ」共立出版		
<b>参考書</b>	マイクロコンピュータ プログラムの作り方／大川善邦:産報出版 マイクロプロセッサと論理設計／Donald L.Krutz 著・奥川峻史 訳:実教出版 マイクロプロセッサ／楠菊信:丸善 Donald L.Krutz 著・奥川峻史 訳「マイクロプロセッサと論理設計」実教出版 大川善邦 著「マイクロコンピュータプログラムの作り方」産報出版 楠菊信 著「マイクロプロセッサ」丸善		
<b>成績評価の方法</b>	講義に対する理解力の評価は講義への参加状況, 演習への回答, レポートの提出状況と内容, 各小テストと最終試験の成績を総合して行う。平常点と試験の比率は 50:50 である。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> (C)			

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 福見 稔 (オフィスアワー) 水曜日 15 時～17 時
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の単元が終わるごとに演習問題やレポートを課し、数回の小テストを実施する。これらにより、各授業項目の達成度を評価する。詳細は下記参照。</li> <li>2. 成績評価に対する平常点と試験の比率は 50:50 とする。平常点には講義への参加状況、演習への回答及びレポートの提出状況と内容を含み、試験には小テスト及び中間テストと最終試験の成績を含む。</li> <li>3. DSP とその応用に関するゲストスピーカーの講義を含むことがある。</li> <li>4. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>5. マイクロプロセッサの構造(授業計画 1, 2)と動作理解(授業計画 6～12)は、レポートとアセンブラ演習により達成度を評価する。</li> <li>6. 計算機内部の情報表現(授業計画 3, 4, 5)の理解度は、2 進数, 16 進数の演習およびレポートにより達成度評価を行う。</li> <li>7. 他の授業計画(項目)を含めて授業目的の達成度は最終試験により評価する。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5161180
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]		
<b>担当教員</b>	青江 順一 [Junichi Aoe]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	ソフトウェア作法の基礎として、基本的データ構造と実装方法を講義し、基本的アルゴリズムの演習・レポート、小テストを通じて、アルゴリズムの基本手法を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	基本データ構造(配列、リスト、スタックとキュー、木)の実装方法を修得させ、基本的アルゴリズムである探索法、ソート法に関する基礎力の養成を図る。		
<b>キーワード</b>	リスト構造、スタック、キュー、木構造、探索、ソート		
<b>先行科目</b>	『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(1.0)、『プログラミング入門[Introduction to Programming]』(1.0)		
<b>関連科目</b>	『アルゴリズムとデータ構造演習[Exercise in Algorithms and Data Structures]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 種々のプログラミング言語に共通する構造化の概念を説明できる。</li> <li>2. 基本的なアルゴリズムやデータ構造の手法を説明できる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 木の辿り方・レポート</li> <li>7. ハッシュ法(チェーン法)・レポート</li> <li>8. ハッシュ法(オープンアドレス法)・レポート</li> <li>9. 中間試験</li> <li>10. 2分探索・レポート</li> <li>11. 2分探索木・レポート</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. ソート法(バブルソート、クイックソート)・レポート</li> <li>13. ソート法(マージソート)・レポート</li> <li>14. ソート法(基数ソート他)・レポート</li> <li>15. 文字列照合・レポート</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	C プログラマのためのアルゴリズムとデータ構造 / 近藤嘉雪:ソフトバンククリエイティブ, ISBN:4797304952		
<b>参考書</b>	C 言語によるはじめてのアルゴリズム入門 / 河西朝雄:技術評論社, ISBN:4774136182		
<b>成績評価の方法</b>	講義に対する理解力の評価は、レポートの内容を平常点とし、それに中間と最終試験の成績を総合して行う。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 青江順一(Dr.棟 604, Tel: 088-656-7486, E-mail: aoe@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 木曜日 14:00～17:00		

<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「アルゴリズムとデータ構造」は、1 年前期で学習した「プログラミング入門」の C 言語を利用して、各自でアルゴリズムを設計し、プログラムを作成する演習問題を十分に与える。</li> <li>2. 成績評価に対する平常点と試験の比率は 4:6 とする。</li> <li>3. 授業計画 1～8 は、レポート及び中間試験により達成度評価を行なう。</li> <li>4. 授業計画 9～15 は、レポート及び最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>
-----------	---

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5161190
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	アルゴリズムとデータ構造演習[Exercise in Algorithms and Data Structures]		
<b>担当教員</b>	青江 順一、森田 和宏 [Junichi Aoe, Kazuhiro Morita]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	ソフトウェア作法の基礎として、基本的データ構造と実装方法を実際に演習で作成・移動させることで、アルゴリズムの基本手法の理解を深める。		
<b>授業の概要</b>	基本データ構造(配列、リスト、スタックとキュー、木)の演習課題とその模範解答により、探索、ソートアルゴリズムへ拡張できる基礎力の養成を図る。		
<b>キーワード</b>	リスト構造、スタック、キュー、探索、ソート		
<b>先行科目</b>	『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(1.0)、『プログラミング入門[Introduction to Programming]』(1.0)、『アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]』(1.0)		
<b>関連科目</b>	『ソフトウェア設計及び実験[Software design and experiment 1]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なアルゴリズムやデータ構造を実装できる。</li> <li>2. ソースコードレベルで基本的なアルゴリズムの動作を説明できる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 木の辿り方・演習</li> <li>7. 総合演習と補足基礎 1</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. リスト構造応用・演習</li> <li>10. ハッシュ法(チェーン法)・演習</li> <li>11. ハッシュ法(オープンアドレス法)・演習</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 2分探索と2分探索木・演習</li> <li>13. ソート法・演習</li> <li>14. ソート法応用・演習</li> <li>15. 総括と補足</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>	
<b>教科書</b>	C プログラマのためのアルゴリズムとデータ構造 / 近藤嘉雪:ソフトバンククリエイティブ, ISBN:4797304952		
<b>参考書</b>	改訂 C 言語によるはじめてのアルゴリズム入門 / 河西朝雄:技術評論社, ISBN:4774136182 C 言語ポインタ完全制覇 / 前橋和弥:技術評論社, ISBN:4774111422		
<b>成績評価の方法</b>	講義に対する理解力の評価は、レポートの内容を平常点とし、それに中間と最終試験の成績を総合して行う。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 青江順一(Dr.棟 604, Tel: 088-656-7486, E-mail: aoe@is.tokushima-u.ac.jp) 森田 和宏(Dr 棟 603, Tel:088-656-7490, E-mail:kam@is.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 青江 順一:木曜日 14:00～17:00 森田 和宏:木曜日 16:00～19:00		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「アルゴリズムとデータ構造演習」では、1 年前期で学習した「プログラミング入門」の C 言語を利用して、「アルゴリズムとデータ構造」の内容が各自で設計・作成できる演習問題を十分に与える。</li> <li>2. 成績評価に対する平常点と試験の比率は 4:6 とする。</li> <li>3. 授業計画 1～8 は、演習及び中間試験により達成度評価を行なう。</li> <li>4. 授業計画 9～15 は、演習及び最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5161200
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	情報数学[Mathematics in Computer Science]		
担当教員	吉田 稔 [Minoru Yoshida]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	現在のコンピュータや言語処理システム、情報通信で必要かつ不可欠な集合と関係、ブール代数、代数系を、実例を与えながら理論と技術両面から講義を行う。		
授業の概要	現在のコンピュータや言語処理システムで必要かつ不可欠な集合と関係、論理と推論、ブール代数、及び言語と構文解析を、実例を与えながら理論と技術両面から講義を行う。		
キーワード	集合、順序、ブール代数、代数系、群、環、体		
先行/科目	『アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]』(1.0), 『離散数学[Discrete Mathematics]』(1.0), 『グラフ理論[Graph Theory]』(1.0)		
関連/科目	『論理回路設計[Logic Circuit Design]』(0.5), 『情報通信理論[Information and Communication Theory]』(0.5), 『確率統計学[Probability and Statistics]』(0.5)		
到達目標	情報技術に関連する数学的基礎知識を説明できるようにすることを目標とする。		
授業の計画	6. 関数と集合の濃度	12. 環と多項式	
1. ガイダンス、集合論の基本事項	7. 中間試験と解説	13. (有限)体	
2. 同値関係	8. 代数系の基本事項	14. 有限体の応用: 誤り訂正符号	
3. 順序関係	9. 群、置換	15. 期末試験	
4. 束	10. 整数論の基本	16. 期末試験の返却と解説	
5. ブール代数とブール関数の簡易化	11. 整数論の応用: 公開鍵暗号		
教科書	特に指定しない。		
参考書	工学のための応用代数/杉原厚吉, 今井敏行: 共立出版, 1999. 10, ISBN:978-4320016033 あたらしい情報数学/上田徹: 牧野書店, 2004. 2, ISBN:978-4434040870 離散数学: コンピュータサイエンスの基礎数学/Seymour Lipschutz: オーム社, 1995. 3, ISBN:978-4274130052 代数系入門/松坂和夫: 岩波書店, 1976. 5, ISBN:978-4000056342		
成績評価の方法	中間試験(30%), 期末試験(70%)により評価する。		
再試験の有無	再試験を実施する		
受講者へのメッセージ	特になし		
JABEE合格	中間試験, 期末試験の合計が6割以上で合格とする。		
学習教育目標との関連	試験を行うことで、情報技術に関連する数学的基礎知識が習得されているか確認する(C)。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)			
備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5161210
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	電子回路[Electronic Circuits]		
担当教員	上田 哲史 [Tetsushi Ueta]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	増幅回路を中心に、電子回路の基本を習得する。		
授業の概要	半導体の動作原理を理解し、ダイオードの特性、BJT, FET の動作原理を数理的に学ぶ。また、バイアスと小信号等価回路に分離して電子回路を考えることを念頭に、その増幅度や周波数特性、入出力インピーダンスなどの性能を設計する。オペアンプなどの応用回路についても言及する。		
キーワード	半導体, ダイオード, トランジスタ, FET, 増幅回路, オペアンプ		

到達目標	1. ダイオードやトランジスタ, FET などの各デバイスの原理や特徴を定性的に説明できる 2. 各デバイスの数値モデルを示し、特性曲線を描いて説明できる 3. エミッタ接地やソース接地基本増幅回路の小信号等価回路および直流等価回路を導き出して、かつ KVL, KCL を適用、回路方程式を立てられる 4. 自己バイアス増幅回路について、その目的や動作原理を説明できる 5. オペアンプの応用回路について、それらの動作特性を回路方程式をもとに説明できる		
授業の計画	8. 中間試験	9. エミッタ接地増幅回路(バイアスの設定と小信号等価回路)	10. 入出力インピーダンスと整合, FET ソース接地増幅回路
1. 電気回路の復習	11. 電力増幅回路	12. BJT, FET の周波数特性	13. 差動増幅回路とオペアンプ
2. 真性半導体, 不純物半導体とキャリア	14. 帰還増幅の原理と発振回路	15. 期末試験	16. 総括講義
3. PN 接合とダイオード			
4. バイポーラトランジスタ(BJT)および FET の動作原理と特性 I			
5. バイポーラトランジスタ(BJT)および FET の動作原理と特性 II			
6. 脈流とバイアスおよび小信号等価回路			
7. BJT, FET の交流特性と等価回路			
教科書	本質を学ぶためのアナログ電子回路入門, 宮入圭一監修, 阿部克也著, 共立出版		
参考書	随時資料等を授業中に配布する		
成績評価の方法	受講態度(10%), 定期試験(90%) を基準に総合的に評価する。		
再試験の有無	再試験を実施する		
受講者へのメッセージ	教科書の購入は必須である		
JABEE合格	C		
学習教育目標との関連	C		
WEB ページ	http://risa.is.tokushima-u.ac.jp		
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上田 哲史		
備考	1. 「集積回路工学」の基礎的知識を本講義で習得する。また、「システム設計および実験」の応用回路の基礎を本講義で学ぶ 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である 3. 授業計画1~15は、総括講義において、中間期末試験の結果等をもとに達成度評価を行なう		

開講学期	2年・前期	時間割番号	5161220
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	プログラミング方法論[Programming Methodology]		
担当教員	下村 隆夫 [Takao Shimomura]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	品質の高いソフトウェアを効率よく開発するためのプログラミング方法論について講義し、例題、課題を与えて演習を行い、プログラミングに必要な技術を修得させる。		
授業の概要	オブジェクト指向, UML, 例外, スレッド, イベント, GUI, ソケット通信等, インターネットプログラミングに必要な知識, 技術について体系的に解説する。		
キーワード	Java, スレッド, GUI, ネットワーク通信		
到達目標	プログラミング言語に共通の概念や機能を習得させることにより、ソフトウェア開発能力を育成する。(授業計画1~15, および, 定期試験による)		
授業の計画	6. ガソリンスタンド業務プログラムの作成	11. GUI コンポーネント	12. ウィンドウプログラムの作成
1. Java プログラムの構造	7. 入出力と例外処理	13. ネットワークプログラミング	14. アプレットの構成
2. Java プログラムの作成	8. 数式を計算するプログラムの作成	15. アプレットの作成	16. 定期試験
3. クラスの継承	9. スレッドの制御		
4. スーパークラス, サブクラスの作成	10. スレッドの作成		
5. オブジェクト指向言語			



<b>教科書</b>	新訂版Javaによるインターネットプログラミング／下村隆夫:近代科学社, 2010. 3, ISBN:978-4-7649-0379-
<b>参考書</b>	下村隆夫著「新訂版 Java によるインターネットプログラミング」近代科学社 下村隆夫著「上級プログラマへの道」コロナ社
<b>成績評価の方法</b>	授業への参加姿勢, 毎回課すレポート, および, 定期試験の成績を総合して行う. 平常点と定期試験の比率は 3:7 とする.
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	「ソフトウェア工学」と連携して講義および演習を進める.
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	C
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 下村隆夫(C402, 088-656-7503, simomura@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) simomura@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 15:00~18:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である. 2. 授業計画 1 から 15 は, Web レポート提出, および, 最終試験により, 達成度評価を行う.

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5161230
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	ソフトウェア工学[Software Engineering]		
<b>担当教員</b>	下村 隆夫 [Takao Shimomura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	品質の高いソフトウェアを効率よく開発するためのプログラミング方法論について講義し, 例題, 課題を与えて演習を行い, プログラミングに必要な技術を修得させる.		
<b>授業の概要</b>	Web プログラミングに必要な知識, 技術について体系的に解説するとともに, ソフトウェア品質, デザイン・パターンについて講義する.		
<b>キーワード</b>	Web アプリケーション, アプレット, サーブレット, デザインパターン		
<b>到達目標</b>	チームを組んでソフトウェアを創作しスライドを用いて発表することにより, ソフトウェア開発能力, および, プレゼンテーション能力を育成する.(授業計画 1~15, および, プレゼンテーション, 実演による)		
<b>授業の計画</b>	6. デザインパターン	12. XHTML	
1. ソフトウェアの品質とは	7. ソフトウェアの検証とテスト・デバッグ	13. JavaServer Pages	
2. ソフトウェアの要求分析	8. ソフトウェアの保守	14. セッション管理	
3. ソフトウェアの設計	9. ソフトウェアプロセス	15. 創作プログラムのプレゼンテーション	
4. オブジェクト指向設計・分析	10. プロジェクト管理	16. 創作プログラムの実演	
5. UML	11. ソフトウェア開発環境・ツール		
<b>教科書</b>	新訂版Javaによるインターネットプログラミング／下村隆夫:近代科学社, 2010. 3, ISBN:978-4-7649-0379-		
<b>参考書</b>	下村隆夫著「新訂版 Java によるインターネットプログラミング」近代科学社 下村隆夫著「上級プログラマへの道」コロナ社		
<b>成績評価の方法</b>	授業への参加姿勢, 毎回課すレポート, および, 創作ソフトウェア, プレゼンテーションの成績を総合して行う. 平常点と創作プログラムのプレゼンテーション・実演の成績の比率は 3:7 とする.		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	「プログラミング方法論」と連携して講義および演習を進める.		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 下村隆夫(C402, 088-656-7503, simomura@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) simomura@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 15:00~18:00		

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である. 2. 授業計画 1 から 14 は, Web 試験により, 15, 16 は, プレゼンにより, 達成度評価を行う.
-----------	--

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5161240
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	線形システム解析[Linear System Analysis]		
<b>担当教員</b>	池田 建司 [Kenji Ikeda]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	物理システムの解析及び構築技術に不可欠な線形システム解析技術の基本的な考え方を理解させる.		
<b>授業の概要</b>	本講義の前半では, 線形システムの基礎的な自動制御を例にとり, 制御理論を展開する上で重要な役割を果たすラプラス変換, ラプラス逆変換, 微分方程式のラプラス変換による解法, 伝達関数, ブロック線図などの基本概念を述べる. 後半では制御系のステップ応答や周波数応答に関する解析手法, 制御系の安定性の概念, 安定性判別法, および制御系の設計手法の基礎についても触れる. なお, 講義を聴講するだけでは理解の難しいと思われる項目については, 教科書の例題を中心に演習を行う.		
<b>キーワード</b>	古典制御理論, 動的システム, 線形システム, 周波数特性, PID 補償器		
<b>到達目標</b>	1. 物理システムの解析及び構築に不可欠な技術である線形システム解析の基本的な手法を理解し, 応用力をつける. 具体的には次の事項ができるようになること. 2. ラプラス変換を用いて線形微分方程式を解くことができる. 3. ボード線図上で安定余裕を読み取ることができる. 4. 部分的モデルマッチング法によって, I-PD 制御系を設計できる.		
<b>授業の計画</b>	1. 制御の目的と定義, フィードバック制御の概念 2. 動的システムのモデル表現 3. ラプラス変換, 微分方程式の解法 4. 伝達関数の定義, おくれ要素, 次数と過渡応答 5. 演習 1 6. ブロック線図の構成単位と結合, 等価変換 7. 周波数応答の定義, 表現形式 8. 演習 2	9. 内部安定性と入出力安定性 10. Routh-Hurwitz の安定判別法 11. Nyquist の安定判別法, フィードバック系の安定性と安定余裕 12. 制御系設計の基礎, PID 制御 13. 部分的モデルマッチングによる I-PD 制御系の設計 14. 演習 3 15. 模擬試験 2 16. 定期試験	
<b>教科書</b>	自動制御の講義と演習／添田喬, 中溝高好:日新出版, 1988. 4, ISBN:4-8173-0137-6		
<b>参考書</b>	自動制御とは何か／示村悦二郎:コロナ社, 1990. 9, ISBN:978-4339031409 示村悦二郎 著「自動制御とは何か」コロナ社		
<b>成績評価の方法</b>	毎回出題するレポートの結果と定期試験の結果を 10:90 の割合で評価する.		
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない.		
<b>受講者へのメッセージ</b>	システム設計及び実験におけるセンサの周波数特性や直進制御で必要になる基礎的な概念なので, しっかり勉強してください.		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(E メールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 池田建司(C403 号室) (メールアドレス) ikeda@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 随時		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である. 2. 授業は, レポートおよび最終試験により達成度評価を行う.		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5161250
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	数理計画法[Mathematical Programming]		
担当教員	池田 建司 [Kenji Ikeda]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 本講義は2つの部分からなる。前半は線形計画法であり、その理論と計算法について解説する。後半では、ネットワーク上の最適化を論じる。基礎理論を厳密に展開し、理解させることを目的としているが、同時に、理解をより容易にするため、理論の意味を幾何学的に把握できるように配慮している。また、例題を取り上げ、演習を実施している。			
<b>授業の概要</b> 線形計画法とネットワーク最適化について講義している。線形計画法では、その定式化の方法、シンプレックス解法を中心とした計算法、シンプレックス法の有効性を保証する基本定理、理論的背景であり、かつ線形計画法の幾何学的解釈を示している。双対定理とファークスの補題などについて述べる。ネットワーク最適化では、代表的な問題として、最短経路問題、最小木問題、最大流問題を扱う。			
<b>キーワード</b> 線形計画法、双対性、ネットワーク最適化			
<b>到達目標</b>			
1. 数理モデルのもとづくシステマティックな解析・設計能力を養い、最適化理論やシステム工学といった学問体系の基礎となす。			
2. シンプレックス法によって線形計画問題を解くことができる。			
3. 主問題と双対問題との関係を述べることができる。			
4. 最短経路問題、最小木問題、最大流問題を解くことができる。			
5. 最大流・最小カット問題の双対性を説明できる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 線形計画法の導入	6. 双対問題、双対定理、ファークスの補題	12. 最大流・最小カット問題	
2. 図的解法から代数的解法へ	7. 演習 1	13. 最大マッチング・最小カバー定理	
3. 線形計画法の基本定理とシンプレックス法	8. グラフ理論の復習	14. 演習 2	
4. 2段階法	9. 最短経路問題(Dijkstra 法)	15. 模擬試験	
5. 行列表現と改訂シンプレックス法	10. 最小木問題(Kruskal 法)	16. 定期試験	
	11. 最小木問題(Prim 法)		
<b>教科書</b> 特に指定しない。配布資料とスライドによって講義を進める。			
<b>参考書</b> 最適化の手法／茨木俊秀, 福島雅夫: 共立出版, 1993. 7, ISBN:4-320-02664-0 演習グラフ理論／伊理正夫, 白川功, 梶谷洋二, 篠田庄司, ほか: コロナ社, 1983, ISBN:4-339-06045-3 馬場則夫・坂和正敏 著「数理計画法入門」共立出版 今野 浩「線形計画法」日科技連			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> スライドの縮小コピーを最初の回に配布する。Web ページに講義で使用する JAVA アプレットでも掲載しているので参照のこと。			
<b>成績評価の方法</b> 毎回出題するレポートの結果と定期試験の結果を 10:90 の割合で評価する。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は行わない。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 実用上重要なアルゴリズムについて講義するので、効率のよいプログラム作成のためにも、しっかり勉強してください。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> B			
<b>WEB ページ</b>	http://www-b2.is.tokushima-u.ac.jp/~ikeda/suuri/		
<b>連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 池田建司(C403 号室) (メールアドレス) ikeda@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 15:00--18:00		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしよう えて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画 1～15 は、レポートおよび最終試験により達成度評価を行う。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5161260
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	知識システム[Knowledge Systems]		
担当教員	小野 典彦 [Norihiko Ono]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 主として知識に基づく知識システムを構築するために不可欠となる人工知能の要素技術を中心に解説すると共に、課題を通して、それらの応用方法を実践的に理解させることを目指す。			
<b>授業の概要</b> 人工知能研究の流れをその起源から現在までにわたって概説すると共に、主として知識に基づく知識システムの構築のための要素技術を修得させる。本講義の内容は基礎的ではあるが、人工知能の先端技術との関係についても触れる。			
<b>キーワード</b> 人工知能、問題解決、探索、知識表現、導出原理			
<b>先行/科目</b> 『離散数学[Discrete Mathematics]』(1.0)、『グラフ理論[Graph Theory]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『グラフ理論[Graph Theory]』(0.5)、『数理論理学[Mathematical Logic]』(0.5)、『知能システム[Intelligent Systems]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 探索に基づく問題解決の原理および応用方法を説明できる。すなわち、状態空間上の解の探索過程として問題解決を定式化し、基本的な探索手法を用いて問題解決を行う方法を説明できる。			
2. 知識に基づく問題解決の原理および応用方法を説明できる。すなわち、述語論理を用いて知識を表現し、導出原理に基づく定理証明手法を用いて問題解決を行う方法を説明できる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 人工知能概論	9. 論理に基づく問題解決:定理証明		
2. 問題解決	10. 論理に基づく問題解決:導出原理		
3. 探索に基づく問題解決:基本的な探索手法	11. 論理に基づく問題解決:導出原理による解の抽出		
4. 探索に基づく問題解決:ヒューリスティックな探索手法	12. 論理に基づく問題解決:導出原理による計画の立案		
5. 探索に基づく問題解決:最適解の探索手法	13. 様々な知識表現		
6. 中間試験	14. 知識の獲得と学習		
7. 知識の表現と利用	15. 人工知能の最新の話から		
8. 論理に基づく問題解決:述語論理	16. 期末試験		
<b>教科書</b> 人工知能の基礎知識／太原育夫:近代科学社, 1988, ISBN:9784764901452			
<b>参考書</b> エージェントアプローチ 人工知能 第2版/S. Russell, P. Norvig: 共立出版, 2008, ISBN:9784320122154			
<b>成績評価の方法</b> 受講姿勢等の平常点、中間試験および期末試験の成績を総合して行う。その比率は平常点 20%、中間試験 40%、期末試験 40%とし、合計 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 本講義の理解には、離散数学およびグラフ理論に関する基礎知識が必要となる。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> C			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 小野 典彦(D 棟 106, 088-656-7509, ono@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ono@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 15:00~17:30		
<b>備考</b>	1. 講義に関連する資料は徳島大学 LMS を用いて配信する。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしよう えて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 3. 授業計画 1～5 および 7～15 に関しては、中間試験および期末試験により、それぞれ達成度評価を行なう。		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5161270
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	情報計測工学[Instrumentation System]		
担当教員	KARUNGARU STEPHEN GITHINJI		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	人間の五感の働きを、機械に人間同様もしくはそれ以上の能力にて代行させようとする技術が情報計測である。これまでに物理量を検出する多くのセンサと計測技術が開発され、実用化されている。本講義では、物理システムの制御に不可欠な情報計測技術の基礎事項を理解させる。		
授業の概要	情報計測の一般的な流れは、センサを用いて対象の状態を表す物理量を電気信号に変換して計算機に取り込み、人間や機械が計測対象の状態を容易に把握できるデータに変換するものである。本講義では、この一連の処理に用いられる技術、すなわち目的に応じて物理現象や化学現象を利用して作られた各種センサの原理、センサ出力を計測するためのアナログ回路と計算機に取り込むための入力インターフェイス、さらにデジタルデータを人間や機械が計測対象の情報を容易に把握できるように変換する技術などに関して、具体例を示しながら平易に解説する。		
キーワード	センサ, オペアンプ, AD/DA 変換器, 電子計測器		
先行/科目	『電気回路及び演習[Lecture and Exercise in Electric Circuit]』(0.4), 『マイクロプロセッサ[Microprocessors]』(0.2)		
到達目標	情報計測技術の基本的な事項と3年次に開講される「システム設計及び実験」で必要とされる知識を習得することを目標とする。		
授業の計画	6. オペアンプとアナログ演算回路	12. 信号の変換	
1. 計測の基礎	7. AD 変換器	13. 電子計測器(指示計器, 波形表示装置)	
2. 光センサと磁気センサ	8. DA 変換器	14. 電子計測器(波形解析装置, 記録装置)	
3. 圧力センサと温度センサ	9. アナログフィルタ	15. 質問・総括	
4. 位置センサと超音波センサ	10. 入出力インターフェイス	16. 定期試験	
5. 湿度センサとガスセンサ	11. デジタル計測制御システム		
教科書	電子計測と制御/田所嘉昭 著, : 森北出版, 1990, ISBN:4-627-72350-4		
参考書	山崎弘郎著「センサ工学の基礎」昭晃堂		
成績評価の方法	レポート(40%), 中間試験(30%), 期末試験(30%)。		
再試験の有無	なし		
受講者へのメッセージ	システム設計及び実験(3年)に使用されるセンサを勉強します。		
JABEE合格	成績評価と同一である		
学習教育目標との関連	B		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 情報推進センター棟8階801号室 TEL: 088-656-7488 (メールアドレス) karunga@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日2-4時		
備考	1. 確率統計学, 信号処理工学, 線形システム解析および計算機アーキテクチャを履修しておくこと。 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5161280
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	情報通信理論[Information and Communication Theory]		
担当教員	知能情報工学科教員		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	高度情報化社会を支える基盤技術である情報通信, 情報蓄積技術の基礎となる理論について理解する。		

授業の概要	情報理論は、効率的な情報通信, 情報蓄積技術を実現する為の基礎理論である。本講義では, 情報通信, 情報蓄積の効率化, 高信頼性の理論的限界及び具体的な実現方法についての理解を深める。更に, 情報通信理論の実用技術についても学ぶ。		
キーワード	情報源符号化定理, ハフマン符号, 通信路符号化定理, 誤り訂正符号		
到達目標	1. 情報源符号化, 通信路符号化法の概念を理解し, 説明できる。 2. 具体的な情報源符号化, 通信路符号化の方式を知り, 説明できる。		
授業の計画	6. 情報源符号化定理	12. 通信路符号化法	
1. 情報理論概説	7. 情報源符号化法	13. 誤り検出・訂正符号	
2. 情報源のモデル化	8. 情報源符号化法の実用例	14. 通信路復号法	
3. 通信路のモデル化	9. 情報量, エントロピー, 相互情報量	15. 通信路符号化法の実用例	
4. 情報源符号化の基礎概念	10. 通信路符号化の基礎概念	16. 期末試験	
5. ハフマン符号	11. 通信路符号化定理		
教科書			
参考書	情報理論/今井 秀樹:昭晃堂, 1984, ISBN:4785611391 情報・符号・暗号の理論/今井 秀樹:コロナ社, 2004, ISBN:433901835X		
成績評価の方法	期末試験の評価値が60%以上に達した場合に合格とする。		
再試験の有無	再試験は行わない。		
受講者へのメッセージ			
JABEE合格			
学習教育目標との関連	C		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 得重 仁:知能情報工学科 C 棟 303 号室, Tel: 088-656-9447 (メールアドレス) tokusige@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日:17:00~18:00		
備考	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をした上で授業を受ける事が, 授業の理解と単位取得の為に必要である。 2. 授業計画 1~15 は, 各講義で行われる演習および最終試験により達成度評価を行う。		

開講学期	3年・前期	時間割番号	5161290
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	コンピュータアーキテクチャ[Computer Architecture]		
担当教員	佐野 雅彦 [Masahiko Sano]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	1940 年代にフォン・ノイマンにより開発された現在のコンピュータは急速な進歩を遂げている。この講義ではコンピュータアーキテクチャの基本を理解し, 高性能化に不可欠なアーキテクチャの構成方法を修得する。		
授業の概要	ノイマン型のコンピュータの基本概念と, 各種の方式の歴史を踏まえた上で, 計算機本体を構成する基本アーキテクチャを講義する。また, 高性能化のための各種方式について講義し, 計算機の将来について議論する。		
キーワード	コンピュータアーキテクチャ, パイプライン, メモリシステム, 命令セット, 入出力方式		
関連/科目	『マイクロプロセッサ[Microprocessors]』(0.5), 『システム設計及び実験[System design and experiment]』(0.5), 『オペレーティングシステム[Operating System]』(0.5), 『論理回路設計[Logic Circuit Design]』(0.5)		
到達目標	1. コンピュータアーキテクチャの基本を説明できる。 2. コンピュータの高性能化に不可欠な要素技術と課題について説明できる。 3. コンピュータシステム設計・構築のために応用できる。		
授業の計画	5. アドレスの概念と命令実行方式	6. CISC と RISC(その構成概念と相違点)	
1. 計算機の歴史および性能評価法	7. メモリインタフェース, 入出力方式	8. 記憶方式(その概念と支援ハードウェア)	
2. 数値表現形式と演算(2,10,16 進数, 小数, 浮動小数)	9. キャッシュメモリ(代表的なキャッシュメモリの構成方式)		
3. 演算回路の構成(計算のロジック)			
4. アーキテクチャモデル(計算のためのデータフロー)			



10. パイプライン制御(基本構造)	14. 省電力化と今後の動向
11. パイプライン制御の高性能化	15. 定期試験
12. 並列処理(概論と詳細)	16. 回答説明会
13. 並列処理(通信網)	
<b>教科書</b> 指定 URL から講義資料をダウンロード	
<b>参考書</b> 中澤喜三郎「計算機アーキテクチャと構成方式」朝倉書店(1995) 柴山 潔「コンピュータアーキテクチャの基礎」近代科学社(1993) John P.Hayes「 Computer Architecture and Organization」2nd ed. McGraw-Hill (1988)	
<b>成績評価の方法</b> 小テストの実施またはレポートの提出を求めると共に期末試験を実施する。小テスト等(30 点), 定期試験(70 点)とし, 合計 60 点以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> C	
<b>WEB ページ</b>	i-collabo を参照
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 雅彦(情報化推進センター503) (メールアドレス) sano@ipc2.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜, 15:00~17:00
<b>備考</b>	1. 各種の雑誌や書籍に掲載される計算機アーキテクチャを調べることが望ましい。 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5161300
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	離散システム解析[Discrete-Time Systems Analysis]		
<b>担当教員</b>	福見 稔 [Minoru Fukumi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> マイクロプロセッサの発達に伴い, デジタル型の制御装置が広く用いられている。本講義では, デジタルデータの表現, デジタルシステムの表現と解析, 望ましい制御を達成するための設計理論の基礎を修得させることを目的とする。また, 理論的・社会的背景と, それらからの技術を教えることによって, 技術的・社会的変化に対応できることを目指す。			
<b>授業の概要</b> デジタルデータ表現の中心は $z$ 変換であり, ラプラス変換を基礎とした表現方法である。従って前提となる数学的知識としては, ラプラス変換, フーリエ変換, 微分方程式, マトリクス理論などである。本講義では, デジタル型システムを表現するために必要となる状態方程式とパルス伝達関数の概念, 及びそれらを用いたシステム解析手法について演習と例題を中心にデジタルシステムの表現と解析法を修得させる。さらに, 望ましいシステムを構成するための制御系の設計及び, マイクロプロセッサを基本としたデジタル制御系設計の基礎について述べる。			
<b>キーワード</b> デジタル制御, 離散システム, デジタルフィルタ			
<b>到達目標</b> 本講義では, デジタル型システムを表現するために必要となる状態方程式とパルス伝達関数の概念, 離散化の方法, 最小二乗法及びそれらを用いたシステム解析手法について修得できる。さらに, 望ましいシステムを構成するための制御系の設計及び, マイクロプロセッサを基本としたデジタル制御系設計の基礎を修得できる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 離散時間システムの表現	9. $z$ 変換の性質と公式	6. ラプラス変換	12. 離散時間システムのインパルス応答, 周波数特性
2. 連続時間系の基礎と演習・レポート	10. $z$ 変換と信号処理	7. 連続時間システムのインパルス応答, 周波数特性	13. サンプリング定理とナイキスト周波数
3. 連続時間系と離散時間系の関係	11. パルス伝達関数, $z$ 変換の演習, 小テスト	8. 離散時間フーリエ変換	14. フィルタリング
4. デジタル制御系の構成, 最小二乗法	12. 適応デジタルフィルタと学習	9. 離散フーリエ変換	15. 定期試験
5. PID 制御, ロボットの制御インタフェース	13. システム同定	10. 高速フーリエ変換	16. まとめ
6. 連続時間系の離散化, 行列の演算, 小テスト	14. 離散時間系の安定性, レポート	11. $Z$ 変換	
7. $z$ 変換・レポート	15. 極と定常特性, 質疑応答		
8. 逆 $z$ 変換, 中間テスト	16. 定期試験		
<b>教科書</b> 基礎デジタル制御 / 美多勉・原辰次・近藤良共著: コロナ社 美多勉・原辰次・近藤良共著「基礎デジタル制御」コロナ社			
<b>参考書</b> 小郷寛・美多勉共著「システム制御理論入門」実教出版 荒木光彦著「デジタル制御理論入門」朝倉書店			

<b>成績評価の方法</b> 講義に対する理解力の評価は講義への参加状況, 演習の回答, レポートの提出状況と内容, 各小テストと最終試験の成績を総合して行う。平常点と試験の比率は 50:50 である。	
<b>再試験の有無</b> 原則として再試験は行いません。	
<b>受講者へのメッセージ</b> 予習・復習を十分にして下さい。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> (C)	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 福見 稔 (オフィスアワー) 水曜日 15 時~17 時
<b>備考</b>	1. 講義の単元が終わるごとに演習問題とレポートを課し, 数回の小テストを実施するので, 毎回の予習・復習は欠かさず行うこと。 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 3. デジタル制御系の構成法については, 小テストとレポートで達成度を評価する。 4. $z$ 変換の理解度については, 演習問題とレポートで達成度を評価する。 5. その他の各授業項目についても, レポート, 演習で達成度を評価する。 6. 授業目的の達成度は最終試験により評価する。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5161310
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	信号処理[Signal Processing]		
<b>担当教員</b>	寺田 賢治 [Kenji Terada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b> 知能情報工学の分野をはじめ, 電気電子工学及び他の工学諸分野において極めて重要な技術であるアナログおよびデジタル信号処理について講義し, 演習及び小テストを実施して, 工学部出身者として最低限身につけてはおかなければならない信号処理の基礎知識を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 信号と信号処理全般, アナログ信号及びデジタル信号の解析, さらにサンプリング, フィルタリング, 信号の変換など信号処理に関する基礎力を身に付けさせる。			
<b>キーワード</b> 信号処理, 周波数解析, フィルタリング			
<b>先行/科目</b> 『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(1.0), 『複素関数論[Complex Analysis]』(1.0)			
<b>関連/科目</b> 『画像処理工学[Image Processing]』(0.5), 『集積回路工学[Integrated Circuits]』(0.5), 『線形システム解析[Linear System Analysis]』(0.5)			
<b>到達目標</b>			
1. 信号と信号処理の基礎原理が説明できる。			
2. フーリエ解析やシステム解析の原理と応用方法が説明できる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 信号と信号処理	2. 信号の分類と変換	3. 信号とシステム	4. フーリエ級数展開
5. フーリエ変換	6. ラプラス変換	7. 連続時間システムのインパルス応答, 周波数特性	8. 離散時間フーリエ変換
		9. 離散フーリエ変換	10. 高速フーリエ変換
		11. $Z$ 変換	12. 離散時間システムのインパルス応答, 周波数特性
			13. サンプリング定理とナイキスト周波数
			14. フィルタリング
			15. 定期試験
			16. まとめ
<b>教科書</b> よくわかる信号処理 / 浜田望 著, : オーム社, 1995, ISBN:427412990X			
<b>参考書</b> デジタル信号処理 / 貴家仁志 著, : 昭晃堂, 1997, ISBN:4785611944 わかりやすいデジタル信号処理 / 森下巖 著, : 昭晃堂, 1996, ISBN:4785611901			
<b>成績評価の方法</b> 平常点と試験の比率は 3:7 とする。前者には, 講義への参加状況, 演習・小テストの内容, 後者には最終試験の成績が含まれる。			
<b>再試験の有無</b> 再試験はない。			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			

学習教育目標との関連 C	
WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 寺田賢治(Dr.棟 802, 088-656-7499, terada@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) terada@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月, 水曜日 15:00~17:00
備考	1. 再試は一切やらない 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 3. 授業計画 1~15 は, 各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。

開講学期	3年・前期	時間割番号	5161320
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	知能システム[Intelligent Systems]		
担当教員	小野 典彦 [Norihiko Ono]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	知能システムの実現は容易ではなく, 人間を凌駕するような知能を実現できた人工知能の応用領域はかぎられている。本講義では, 知能を計算機上に実現することがいかに困難な作業であるのかを種々の視点から浮き彫りにすると共に, それを克服することを目指して展開されている最近の人工知能技術を理解させることを目指す。		
授業の概要	現実的な知能システムを構築する上で有望な枠組みと考えられる種々の要素技術に焦点を合わせ, それらの原理, 応用および限界について解説する。		
キーワード	人工知能, 機械学習, 最適化, 強化学習, 進化計算		
先行/科目	『知識システム[Knowledge Systems]』(1.0)		
関連/科目	『知識システム[Knowledge Systems]』(0.5), 『最適化理論[Optimization Theory]』(0.5), 『ソフトウェア設計及び実験[Software design and experiment 1]』(0.5), 『システム設計及び実験[System design and experiment]』(0.5)		
到達目標	1. 知能システムのトップダウン的な構築の限界を説明できる。 2. 知能システムの創発的な構築のための要素技術である強化学習, 進化計算および関数近似などの各手法のうち, 代表的な手法の原理, 応用方法および限界を説明できる。		
授業の計画	1. 知能システムの実現はなぜ難しいのか? 2. 知能システムの創発的設計 3. 強化学習の基礎:マルコフ決定過程 4. 強化学習の基礎:動的プログラミング 5. 強化学習の基礎:基本的な学習手法 6. 強化学習に基づく知能システムの設計 7. 中間試験 8. 知能システムと関数近似:行動政策の関数近似	9. 知能システムと関数近似:テーブル表現と CMAC 10. 知能システムと関数近似:ニューラルネット 11. 知能システムと関数近似:ファジィシステム 12. 進化計算に基づく知能システムの設計:進化戦略 13. 進化計算に基づく知能システムの設計:実数値遺伝的アルゴリズム 14. 進化計算に基づく知能システムの設計:遺伝的プログラミング 15. 知能システムの最新の話から	
教科書	特に指定しない。		
参考書	エージェントアプローチ 人工知能 第2版/S. Russell, P. Norvig: 共立出版, 2008, ISBN:9784320122154 学習とニューラルネットワーク/熊沢逸夫: 森北出版, 1998, ISBN:9784627702912 進化論的計算手法/伊庭齊志: オーム社, 2005, ISBN:9784274200182		
成績評価の方法	受講姿勢等の平常点, 中間試験および期末レポートの成績を総合して行う。その比率は平常点 20%, 中間試験 40%, 期末レポート 40%とし, 合計 60%以上で合格とする。		
再試験の有無	再試験は行わない。		
受講者へのメッセージ	本講義の理解には, 人工知能に関する基礎知識が必要となる。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連 C			
WEB ページ			

連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 小野 典彦(D 棟 106, 088-656-7509, ono@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ono@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 15:00~17:30
備考	1. 講義に関連する資料は徳島大学 LMS を用いて配信する。 2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 3. 授業計画 1~6 および 8~15 に関しては, 中間試験および期末レポートにより, それぞれ達成度評価を行なう。

開講学期	3年・前期	時間割番号	5161330
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	最適化理論[Optimization Theory]		
担当教員	最上 義夫 [Yoshio Mogami]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	最適化の概念, 数値処理による最適化, 学習に基づく最適化について講義し, さらに演習を課し試験を行うことにより, 工学諸分野において広く存在する最適化問題を解決するための基礎知識を修得させる。		
授業の概要	最適化は工学諸分野における一般的かつ基礎的な概念であるが, 本講義では数値処理による最適化(非線形計画法)と学習に基づく最適化(学習ユニットによる最適化)とを中心とした講義を行う。また, 数値処理による最適化および学習に基づく最適化についての基礎知識を修得させるために, 演習を行わせる。		
キーワード	非線形計画法, 最適化問題, 学習オートマトン, 学習アルゴリズム, 状況入力を持つ学習ユニット		
先行/科目	『数値計画法[Mathematical Programming]』(1.0)		
関連/科目	『数値計算法[Numerical Computation]』(0.5)		
到達目標	1. 数値モデルで定式化することが可能な最適化問題について, 種々の数値処理による最適化手法を習得する(授業計画 1-7)。 2. 数値モデル化が困難な最適化問題については, それらに対して有効である学習に基づく最適化手法を習得する(授業計画 8-15)。		
授業の計画	1. 最適化の概念および最適化問題の定式化 2. 制約なし最適化問題と降下法 3. 直線探索 4. 最急降下法 5. ニュートン法 6. 準ニュートン法 7. 直接探索法 8. 学習オートマトンによる最適化	9. 学習オートマトンの基本モデル 10. 種々の学習アルゴリズム 11. 学習アルゴリズムの特性 12. 非定常環境 13. 状況入力を持つ学習ユニットと最適化 14. 離散値出力学習ユニット 15. 実数値出力学習ユニット 16. 最終試験	
教科書			
参考書	数値計画法入門/馬場則夫, 坂和正敏: 共立出版 非線形計画法入門/今野 浩, 山下 浩: 日科技連 Learning Automata -- An Introduction/K.S.Narendra and M.A.L.Thathachar: Prentice Hall		
教科書・参考書に関する補足情報	講義資料は, Web 上で閲覧できるようにする。閲覧の方法は, 授業開始時に指示する。		
成績評価の方法	演習レポートの提出状況およびその内容を 30%, 試験の成績を 70%とし, 合計で 60%以上を合格とする。		
再試験の有無	再試験は行わない。		
受講者へのメッセージ	適宜演習を課すので, すべての演習のレポートを必ず提出すること。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連 C			
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 最上義夫(D102, Tel: 088-656-7505, E-mail: moga@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) moga@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 15:00~18:00		

備考	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
----	--

開講学期	3年・前期	時間割番号	5161340
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	コンピュータネットワーク[Computer Network]		
担当教員	柏原 考爾 [Kohji Kashihara]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** 情報流通基盤としての通信ネットワーク全体を体系的に把握し、それを支える基本的な主要技術を理解することができる。

**授業の概要** 本講義では、通信ネットワークの全体像を体系的に把握するために情報流通基盤としてのネットワークの変遷について学ぶ。次に、それらを支える基盤技術について理解を深めるとともに、現在のIPネットワークが抱える問題点とそれを解決するための新しい技術を学ぶ。

**キーワード** 情報ネットワーク、コンピュータ・ネットワーク、IPネットワーク、ネットワーク・アーキテクチャ

**到達目標**  
 1. 通信ネットワークの全体像を体系的に把握し、それらを支える基盤技術を理解することができる。  
 2. 現在のIPネットワークが抱える問題点と、それを解決するための技術を理解することができる。

**授業の計画**

1. 情報通信ネットワークの概要	9. インターネットとIPネットワーク(1)
2. インターネットとコンピュータネットワーク(1)	10. インターネットとIPネットワーク(2)
3. インターネットとコンピュータネットワーク(2)	11. インターネットとIPネットワーク(3)
4. コンピュータネットワークのための伝送網	12. LANと無線ネットワーク
5. 異機種間相互接続	13. ネットワーク機器とブロードバンド・アクセスネットワーク
6. OSI参照モデル(下位層)	14. ネットワークセキュリティ技術
7. OSI参照モデル(上位層)	15. ネットワークシステムの設計・構築・運用
8. TCP/IP	16. 最終試験

**教科書** 使用しない  
**参考書** Behrouz Forouzan, "Introduction to Data Communications and Networking," McGraw-Hill

**成績評価の方法** 授業計画1～15の内容に関し、講義の最後に行なわれる最終試験により達成度評価を行なう。平常点は受講姿勢、小テスト、レポートの総合評価とする。平常点を2割、最終試験を8割として評価する。ネットワークに関する基礎知識(評価に関する総得点が60%以上)を修得した者にのみ単位を与える。

**再試験の有無**  
**受講者へのメッセージ** 講義内容を理解するには、毎回の授業に対して、2時間の予復習が必須となる。

**JABEE合格**  
**学習教育目標との関連** C

WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 柏原考爾 知能情報工学科 D棟 D212 (メールアドレス) kojikasi@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日:16:00-18:00
備考	

開講学期	3年・後期	時間割番号	5161350
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	コンピュータネットワーク演習[Computer Networks]		
担当教員	柏原 考爾 [Kohji Kashihara]		
単位数	1	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** コンピュータネットワークにおける基礎技術やその評価手法を修得することができる。

**授業の概要** コンピュータネットワークに必要な要素技術として、LAN、ネットワーク相互接続技術、ネットワーク管理技術、ネットワーク評価手法について解説する。

**キーワード** コンピュータネットワーク、ネットワークアーキテクチャ、OSI参照モデル

**到達目標** コンピュータネットワークの基礎技術やその評価手法を理解し、応用することができる。

**授業の計画**

1. 電子メールの仕組み(SMTP)	9. ソケットプログラミング(1):HTTP
2. インターネットにおけるプロトコル:PingとICMP	10. ソケットプログラミング(2):ファイル転送
3. ファイル転送プロトコル(FTP)	11. ソケットプログラミング(3):簡易掲示板
4. アドレス解決プロトコル(ARP)	12. 暗号化方式(1):共通鍵暗号方式
5. IPアドレスの種類と通信方式	13. 暗号化方式(2):公開鍵暗号方式
6. DNSとDHCP	14. セキュリティと全体の復習
7. ネットコマンドの理解:host,nslookup,dig	15. 最終試験
8. TCPとUDP	16. まとめ

**教科書** 特に指定しない。適時資料を提供する。  
**参考書** Behrouz Forouzan, "Introduction to Data Communications and Networking," McGraw-Hill

**成績評価の方法** 授業計画1～14の内容に関し、最終試験により達成度評価を行なう。授業計画16で、試験解説とまとめを行う。平常点は、受講姿勢と演習課題による評価とする。平常点を2割、小テスト・期末試験を8割として評価する。

**再試験の有無**  
**受講者へのメッセージ** 演習内容を理解するには、毎回の授業に対して、2時間の予復習が必須となる。

**JABEE合格**  
**学習教育目標との関連** C

WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 柏原考爾 知能情報工学科 D棟 D212 (メールアドレス) kojikasi@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日:16:00-18:00
備考	

開講学期	3年・後期	時間割番号	5161360
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	オペレーティングシステム[Operating System]		
担当教員	光原 弘幸 [Hiroyuki Mitsuahara]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** 計算機を利用する上で必要不可欠な存在であるオペレーティングシステムの仕組みを理解する。  
**授業の概要** 本講義では、プロセスの構造および制御、メモリ管理、I/Oサブシステム、ファイルシステム、セキュリティなどを扱う。さらに、演習問題を解くことによって、オペレーティングシステムの理解を深める。

**キーワード** オペレーティングシステム、プロセス制御、入出力デバイス、メモリ管理、ファイルシステム  
**先行/科目** 『コンピュータアーキテクチャ[Computer Architecture]』(1.0)  
**関連/科目** 『コンピュータシステム管理[System Administration]』(0.5), 『コンピュータネットワーク[Computer Network]』(0.5)

**到達目標**  
 1. コンピュータアーキテクチャに関する用語及び割り込みの仕組みを説明できる。  
 2. プロセスとスレッドの違い及びスケジューリング手法を具体例を示して説明できる。  
 3. 相互排除と同期の必要性及びそのアルゴリズムを説明できる。  
 4. メモリ管理及び仮想記憶に関する用語と仕組みを具体的に説明できる。  
 5. ハードディスクに代表される二次記憶装置及びファイルシステムを具体的に説明できる。  
 6. OSにおけるセキュリティの概念及び暗号通信の仕組みを具体的に説明できる。  
 7. ユーザインターフェイスの設計手法を具体的に説明できる。  
 8. 分散処理の実現方法及びOSの構成法(仮想化などを含む)を説明できる。



<b>授業の計画</b>	6. メモリ管理	12. OS の具体例 (Unix と Windows)
1. オペレーティングシステム概論	7. 仮想記憶	13. 分散処理
2. コンピュータアーキテクチャと割り込み	8. 二次記憶装置	14. OS の構成法
3. プロセスとスレッド	9. ファイルシステム	15. 試験
4. スケジューリング	10. セキュリティ	16. 返却とまとめ
5. 相互排除と同期	11. ユーザインターフェイス	
<b>教科書</b>	特に指定しない。適時資料(事前にダウンロード可能な電子ファイル)を提供する。	
<b>参考書</b>	オペレーティングシステムの仕組み/河野健二 著, 朝倉書店, 2007, ISBN:4254127057 オペレーティングシステム/大澤範高 著, コロナ社, 2008, ISBN:4339027073	
<b>成績評価の方法</b>	レポート, 小テストなどの平常点, および期末試験の成績を総合して行う。平常点と期末試験の比率は 3:7 とする。	
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>		
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>	C	
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(オフィスアワー) 木曜日 16:20-17:50	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画 1~14 は最終試験により達成度評価を行い, 最終授業で達成度を自己確認してもらう。	

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5161370
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	データベース[Database]		
<b>担当教員</b>	獅々堀 正幹 [Masami Shishibori]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	データベース設計, 管理において必要な知識を理解させる。特に, データベース設計過程で重要な概念設計, 論理設計技術, 及びデータベース操作言語を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	講義の前半では, データベースの概念設計, 論理設計に話題を絞り, 関係型データモデル, ER 図の作成方法, 表の正規化等を理解させる。後半では, データベースのプログラミング, 管理に話題を絞り, データ操作言語 SQL, 及びトランザクション処理, DBMS の機能について講述する。		
<b>キーワード</b>	データベースシステム, データベース概念設計, データベース論理設計, データベース操作言語, トランザクション処理		
<b>先行/科目</b>	『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(1.0)、『プログラミング入門[Introduction to Programming]』(1.0)、『アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]』(1.0)、『アルゴリズムとデータ構造演習[Exercise in Algorithms and Data Structures]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『プログラミングシステム[Programming Systems]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. データベースの設計法を習得し, データモデリングについて説明できる。 2. データベース操作言語を習得し, リレーショナルデータベースを設計できる。		
<b>授業の計画</b>	6. 論理設計(第 1, 2, 3 正規形)	12. SQL 言語(SELECT 文・副問合せ)	
1. データベース設計とは?	7. 論理設計の演習	13. SQL 言語(表の更新)	
2. リレーショナルデータモデル	8. 中間試験	14. データベースマネージメントシステム	
3. リレーショナル代数	9. SQL 概要 中間試験模範解答の解説	15. トランザクション処理	
4. リレーショナル代数演習	10. SQL 言語(表の結合)	16. 定期試験	
5. 概念設計(ER 図の作成)	11. SQL 言語(SELECT 文・集約関数等)		
<b>教科書</b>	講義中に資料を配布する。		
<b>参考書</b>	講義中に説明する。		

<b>成績評価の方法</b>	筆記試験(中間試験と定期試験の平均点)80点, 平常点(レポートの内容, 発表回数)20点とし, 合計 60点以上を獲得した者を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	再試験は行わない。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	C		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 獅々堀 正幹 (D214, Tel: 088-656-7508) (メールアドレス) bori@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 17 時~19 時		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画 1~7 は, 中間テストにより達成度評価を行なう。 3. 授業計画 9~15 は, 最終試験により達成度評価を行なう。		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5161380														
<b>科目分野</b>	専門教育科目																
<b>選必区分</b>	選択																
<b>科目名</b>	自然言語処理[Natural Language Processing]																
<b>担当教員</b>	任 福継 [Ren Fuj]																
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)														
<b>授業の目的</b>	自然言語処理で必須な文脈自由文法, そして, 自然言語のコンピュータによる処理における形態素解析, 構文解析, 意味解析, 文脈解析技術を修得させる。																
<b>授業の概要</b>	自然言語の基本性質とモデルから始め, 言語処理における形態素解析と構文解析の基礎, さらに意味解析と文脈解析の課題と解決手法を, 実例を与えながら技術的な観点から講義する。																
<b>キーワード</b>	形態素解析, 構文解析, 自然言語処理, 電子化辞書, 意味解析, 文脈解析																
<b>到達目標</b>	<table border="1"> <tr> <th>No.</th> <th>到達目標</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>自然言語のコンピュータによる処理で必須な形式文法を修得し, 自然言語処理における主要な解析技術を理解できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>形態素解析のアルゴリズムを理解でき, 最長一致法を用い, 形態素解析プログラムを理解できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>構文解析のアルゴリズムを取得し, CKY 解析法を例をもち説明できる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>意味解析の概要を勉強し, 意味解析における問題点を整理でき, その解決方法を理解できる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文脈解析の目的を理解でき, スクリプトを勉強し, 階層的なスクリプト表現の図示ができる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>授業で取上げる内容は, 自然言語処理だけではなく, プログラミング言語処理にも有用な考え方や技法であるが, 言語処理における重要なアルゴリズムを勉強し, 知能情報工学を考える能力を有する。</td> </tr> </table>			No.	到達目標	1	自然言語のコンピュータによる処理で必須な形式文法を修得し, 自然言語処理における主要な解析技術を理解できる。	2	形態素解析のアルゴリズムを理解でき, 最長一致法を用い, 形態素解析プログラムを理解できる。	3	構文解析のアルゴリズムを取得し, CKY 解析法を例をもち説明できる。	4	意味解析の概要を勉強し, 意味解析における問題点を整理でき, その解決方法を理解できる。	5	文脈解析の目的を理解でき, スクリプトを勉強し, 階層的なスクリプト表現の図示ができる。	6	授業で取上げる内容は, 自然言語処理だけではなく, プログラミング言語処理にも有用な考え方や技法であるが, 言語処理における重要なアルゴリズムを勉強し, 知能情報工学を考える能力を有する。
No.	到達目標																
1	自然言語のコンピュータによる処理で必須な形式文法を修得し, 自然言語処理における主要な解析技術を理解できる。																
2	形態素解析のアルゴリズムを理解でき, 最長一致法を用い, 形態素解析プログラムを理解できる。																
3	構文解析のアルゴリズムを取得し, CKY 解析法を例をもち説明できる。																
4	意味解析の概要を勉強し, 意味解析における問題点を整理でき, その解決方法を理解できる。																
5	文脈解析の目的を理解でき, スクリプトを勉強し, 階層的なスクリプト表現の図示ができる。																
6	授業で取上げる内容は, 自然言語処理だけではなく, プログラミング言語処理にも有用な考え方や技法であるが, 言語処理における重要なアルゴリズムを勉強し, 知能情報工学を考える能力を有する。																
<b>授業の計画</b>	6. プロジェクト 1	12. 文脈解析															
1. 自然言語処理の概要	7. 意味解析	13. スクリプト概念と応用															
2. 形態素と形態素解析	8. 意味素による解析	14. 機械翻訳															
3. コスト最小解を求める形態素解析	9. 用例・シソーラスによる解析	15. プロジェクト 2															
4. 文脈自由文法に基づく構文解析	10. 辞書の記述内容	16. 期末試験															
5. CKY 法による構文解析	11. 辞書システムの構築																
<b>教科書</b>	長尾真 編 「自然言語処理」岩波書店。																
<b>参考書</b>	岡田直之 著 「自然言語処理入門」共立出版, 東条敏 著 「自然言語処理入門」近代科学社, 石崎俊 著 「自然言語処理」昭晃堂																
<b>成績評価の方法</b>	講義に対する理解力の評価は講義への参加状況, 演習の回答, レポートの提出状況と内容(35%)及び最終試験成績(65%)を総合して行う。																
<b>再試験の有無</b>																	
<b>受講者へのメッセージ</b>																	
<b>JABEE合格</b>																	
<b>学習教育目標との関連</b>	C																

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 任福継(情報C棟 204 室, Tel:656-9684) (メールアドレス) ren@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日午後 2:00-5:00, 水曜日午後 2:00-5:00
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をし授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 授業計画 1～15 は、各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5161390
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	データマイニング[Data Mining]		
<b>担当教員</b>	任 福継 [Ren Fuji]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** コンピュータによるデータマイニングの基礎知識、知識発見のプロセス、そして様々な学習アルゴリズムを修得させる。さらに自然言語処理技術を生かすテキストマイニング処理および知識の制度評価とアプリケーション技術を修得させる。

**授業の概要** データマイニング、知識発見など基礎概念を始め、決定木とルール学習の方法論と発見アルゴリズム、そしてテキストマイニング手法を、プロジェクトもしながら講義する。

**キーワード**  
データマイニング、知識発見、自然言語処理、発見アルゴリズム、知識の精度評価

**到達目標**

No.	到達目標
1	データマイニングの基礎知識、知識発見のプロセスを修得し、基本的な学習アルゴリズムを応用できる。
2	決定木とルール学習の概念を理解し、決定木のアルゴリズムを開発できる。
3	サポートベクトルマシンを学習し、実際にその応用プログラムを作成できる。
4	テキストマイニングの自然言語処理技術を理解し、その原理を説明できる。
5	感情の分析技術を習得し、テキストの感情認識手法を勉強し、知識の発見手法を実際のアプリケーションに応用できる。

<b>授業の計画</b>	9. テキストマイニングとは
1. データマイニングの概要	10. テキストマイニングの自然言語処理
2. 知識発見のプロセス	11. テキストマイニングにおけるマイニング処理
3. 決定木とルール学習	12. 感情・評価・態度の分析技術
4. ナイーブベイズ学習と関連ルール	13. 知識の精度評価:誤差評価
5. アンサンブル学習	14. 統計学的検定
6. クラスタリング	15. データマイニングから知識の発見
7. サポートベクトルマシン	16. 期末試験
8. 最適関連ルールの発見アルゴリズム	

**教科書** データマイニングの基礎/元田 浩 他:オーム社, 2006 年, ISBN:4-274-20348-4

**参考書** Text Mining -Applications and Theory/Michael W. Berry:WILEY, 2010 年, ISBN:978-0-470-74982-

**教科書・参考書に関する補足情報** データマイニング、そしてテキストマイニングの参考書は多数出版されているので自分の適性に合わせて適宜に購入して利用ください。例えば、テキストマイニングを使う技術/作る技術、東京電機大学出版局、那須川哲哉著。

**成績評価の方法** 講義に対する理解力の評価は講義への参加状況、演習の回答、レポートの提出状況と内容(40%)及び最終試験成績(60%)を総合して行う。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** C

**WEB ページ**

<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 任福継(情報C棟 204 室, Tel:656-9684) (メールアドレス) ren@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日午後 2:00-5:00, 水曜日午後 2:00-5:00
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 授業計画 1～15 は、各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5161400
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	情報セキュリティ[Information Security]		
<b>担当教員</b>	松浦 健二 [Kenji Matsuura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** コンピュータシステムにおけるセキュリティ技術のみならず、総合的な観点から情報セキュリティ知識を習得させる。

**授業の概要** 講義形式で、情報セキュリティに関する企画、マネージメントシステム導入、管理技術等を扱う。さらに、コンピュータシステム技術において必要な情報セキュリティ知識を扱う。

**キーワード** 機密性、完全性、可用性、リスクアセスメント、セキュリティ脅威

**先行/科目** 『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(1.0)

**関連/科目** 『コンピュータシステム管理[System Administration]』(0.5)

**到達目標**

1. 情報セキュリティについて、機密性、完全性、可用性を説明できる。
2. 著作権、プライバシー保護について説明できる。
3. 暗号技術の使い方について、説明できる。
4. 情報セキュリティ管理技術について、説明できる。

<b>授業の計画</b>	6. 共通鍵暗号方式	12. マルウェアとセキュリティソフトウェア
1. 情報セキュリティ管理概論	7. 公開鍵暗号方式	13. IDS と IPS
2. 著作権とプライバシー	8. 認証認可	14. セキュア開発
3. セキュリティポリシー	9. 公開鍵認証基盤	15. 定期試験
4. アクセス制御	10. ネットワークセキュリティ管理	16. まとめと総合演習
5. 暗号方式基礎	11. ファイアウォールとパケットフィルタリング	

**教科書** 特に指定なし。適宜資料配付。

**参考書** 授業内容が多岐に渡るため、これらのトピックに合うものを適宜購入されたい

**成績評価の方法** 授業の最後に課すレポート課題と期末試験を総合して評価する。比率は 5:5 とする。

**再試験の有無** 再試験は原則実施しない。

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** A,B

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 情報化推進センター5階505室 TEL 088-656-9804 (メールアドレス) ma2@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 13:30-15:00 情報化推進センター 501 室または 505 室
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 授業計画 1～14 は、各講義の最後に行なわれるレポート課題および最終試験により達成度評価を行う</li> </ol>

開講学期	3年・後期	時間割番号	5161410																
科目分野	専門教育科目																		
選必区分	選択																		
科目名	画像処理工学[Image Processing]																		
担当教員	KARUNGARU STEPHEN GITHINJI																		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)																
授業の目的	視覚認識技術に不可欠な画像処理の基本的な手法を理解させる。																		
授業の概要	画像処理工学は、医療画像処理、工業用画像処理、視覚パターン処理等の基礎になるデジタル画像処理手法の基本的事項を修得するための講義であり、画像処理の基本概念、2値画像処理、画像の変換と強調、画像の復元、画像の特徴抽出、パターンマッチング、パターン分類、画像処理システム、および工業用画像処理への応用について講述する。なお、工業用画像処理については、その分野の専門家に集中講義を依頼することにより、広い最新情報を修得できるようにしている。																		
キーワード	画像処理、パターン認識																		
先行/科目	『信号処理[Signal Processing]』(0.5)、『線形システム解析[Linear System Analysis]』(0.2)、『マイクロプロセッサ[Microprocessors]』(0.2)																		
到達目標	視覚認識技術に不可欠な画像処理の基本的な手法を理解させる。																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. デジタル画像処理の特徴、画像データの取り扱い</td> <td>9. 画像の復元、画像の再構成、幾何学的変換</td> </tr> <tr> <td>2. ヒストグラム、画像処理アルゴリズムの形態、画像の表現、データ構造</td> <td>10. エッジ検出、線の検出、レポート</td> </tr> <tr> <td>3. 画像の2値化、2値画像の連結性と距離</td> <td>11. 領域分割、テキスト解析</td> </tr> <tr> <td>4. 演習 1</td> <td>12. 演習 3</td> </tr> <tr> <td>5. 連結成分の変形操作、図形の形状特徴、レポート</td> <td>13. マルチスペクトル画像処理、3次元画像処理、動画画像解析</td> </tr> <tr> <td>6. 画像の変換と強調</td> <td>14. パターンマッチング、画像処理システム、レポート</td> </tr> <tr> <td>7. 平滑化と雑音除去</td> <td>15. 演習 4</td> </tr> <tr> <td>8. 演習 2</td> <td>16. 定期試験</td> </tr> </table>			1. デジタル画像処理の特徴、画像データの取り扱い	9. 画像の復元、画像の再構成、幾何学的変換	2. ヒストグラム、画像処理アルゴリズムの形態、画像の表現、データ構造	10. エッジ検出、線の検出、レポート	3. 画像の2値化、2値画像の連結性と距離	11. 領域分割、テキスト解析	4. 演習 1	12. 演習 3	5. 連結成分の変形操作、図形の形状特徴、レポート	13. マルチスペクトル画像処理、3次元画像処理、動画画像解析	6. 画像の変換と強調	14. パターンマッチング、画像処理システム、レポート	7. 平滑化と雑音除去	15. 演習 4	8. 演習 2	16. 定期試験
1. デジタル画像処理の特徴、画像データの取り扱い	9. 画像の復元、画像の再構成、幾何学的変換																		
2. ヒストグラム、画像処理アルゴリズムの形態、画像の表現、データ構造	10. エッジ検出、線の検出、レポート																		
3. 画像の2値化、2値画像の連結性と距離	11. 領域分割、テキスト解析																		
4. 演習 1	12. 演習 3																		
5. 連結成分の変形操作、図形の形状特徴、レポート	13. マルチスペクトル画像処理、3次元画像処理、動画画像解析																		
6. 画像の変換と強調	14. パターンマッチング、画像処理システム、レポート																		
7. 平滑化と雑音除去	15. 演習 4																		
8. 演習 2	16. 定期試験																		
教科書	コンピュータ画像処理/田村秀行 編著、:オーム社、2002、ISBN:4-274-13264-1																		
参考書	高木幹雄・下田陽久 監修「画像解析ハンドブック」東京大学出版会																		
成績評価の方法	レポート、演習、小テスト(40%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)。																		
再試験の有無	無し																		
受講者へのメッセージ	線形システム解析、信号処理工学及び演習、マイクロプロセッサを履修しておくことが望ましい。																		
JABEE合格	成績評価と同一である																		
学習教育目標との関連	C																		
WEB ページ	http://www-b1.is.tokushima-u.ac.jp/~karunga/IP/																		
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 情報推進センター棟8階801号室 TEL: 088-656-7488 (メールアドレス) karunga@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日2-4時																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 確率統計学、信号処理工学、線形システム解析および計算機アーキテクチャを履修しておくこと。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である</li> </ol>																		

開講学期	3年・後期	時間割番号	5161420
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	数値計算法[Numerical Computation]		
担当教員	上田 哲史 [Tetsushi Ueta]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)

授業の目的	計算機における数値表現や計算の手間、反復法の功罪を理解した上で、C言語を用いた数値計算アルゴリズムのコード化技術、および性能評価を学習する。																				
授業の概要	工学における各種設計問題、動力学系の解析、シミュレーションなどには計算機が援用される。MATLABに代表される統合数値解析ツールは、従来の洗練された数値計算パッケージの集大成であるが、それらをブラックボックスとして使うのではなく、数値計算の各要素の基本アルゴリズムと計算機の数値表現を理解した上で、基本的な数値計算アルゴリズムの実現過程と実際の計算動作について経験を積むことが工学者として望ましい。本講義では演習を中心にして、様々な数値計算法についてそのC言語による実現を学習する。																				
キーワード	数値計算、C言語、数値解の評価																				
先行/科目	『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(0.8)、『数値解析[Numerical Analysis]』(0.5)、『アルゴリズムとデータ構造演習[Exercise in Algorithms and Data Structures]』(0.6)																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な解法をおおまかに把握し、C言語でプロトタイプを手早くコーディングできる</li> <li>2. バグに関するさまざまな解決法、回避方法を理解し、課題の取り組みに反映できる</li> <li>3. 求められている要求に対して、適切なアプローチ、結果を提示できる</li> </ol>																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 計算機における数の表現</td> <td>5. コレスキー法と条件数</td> <td>11. 常微分方程式の初期値問題</td> </tr> <tr> <td>2. 数値積分法</td> <td>6. 固有値問題—ヤコビ法</td> <td>12. 総合演習 II</td> </tr> <tr> <td>3. ガウスの消去法とピボidding</td> <td>7. 固有値問題—ハウスホルダー法</td> <td>13. 有限要素法基礎</td> </tr> <tr> <td>4. LU分解(クラウト法)と連立方程式の解法</td> <td>8. 固有値問題—QR法</td> <td>14. 有限要素法応用</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9. 総合演習 I</td> <td>15. 総合演習 III</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10. ニュートン法とその応用</td> <td>16. 総括講義</td> </tr> </table>			1. 計算機における数の表現	5. コレスキー法と条件数	11. 常微分方程式の初期値問題	2. 数値積分法	6. 固有値問題—ヤコビ法	12. 総合演習 II	3. ガウスの消去法とピボidding	7. 固有値問題—ハウスホルダー法	13. 有限要素法基礎	4. LU分解(クラウト法)と連立方程式の解法	8. 固有値問題—QR法	14. 有限要素法応用		9. 総合演習 I	15. 総合演習 III		10. ニュートン法とその応用	16. 総括講義
1. 計算機における数の表現	5. コレスキー法と条件数	11. 常微分方程式の初期値問題																			
2. 数値積分法	6. 固有値問題—ヤコビ法	12. 総合演習 II																			
3. ガウスの消去法とピボidding	7. 固有値問題—ハウスホルダー法	13. 有限要素法基礎																			
4. LU分解(クラウト法)と連立方程式の解法	8. 固有値問題—QR法	14. 有限要素法応用																			
	9. 総合演習 I	15. 総合演習 III																			
	10. ニュートン法とその応用	16. 総括講義																			
教科書	特に指定しない。																				
参考書	篠原能材「数値解析の基礎」日新出版 伊理正夫・藤野和建「数値計算の常識」共立出版 森 正武「数値計算プログラミング」岩波書店																				
成績評価の方法	毎回の実習ごとに提出されるレポート、および、実習態度などにより評価する。実習に関する注意事項を別に配布するので、それに基づいてレポートを作成する。すべてのレポートを提出し、かつ、合格点に達したものに限り単位が与えられる。定期試験は行わない。																				
再試験の有無																					
受講者へのメッセージ																					
JABEE合格																					
学習教育目標との関連	C																				
WEB ページ	http://risa.is.tokushima-u.ac.jp/nc																				
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 上田 哲史																				
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 授業計画1～15はレポートの内容および総括講義により達成度評価を行なう</li> </ol>																				

開講学期	3年・前期	時間割番号	5161430
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択		
科目名	オートマトン・言語理論[Automata and Formal Languages]		
担当教員	北 研二 [Kenji Kita]		
単位数	2	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	情報工学、計算機科学一般において最も中心的な概念であるオートマトンと言語理論について講義し、レポート、小テストを実施して、理論と考え方を習得させる。		
授業の概要	言語の有限的記述の概念から始め、言語の基本的な記述機構としてオートマトン及び形式文法を導入する。また、文法とオートマトンの関係についても説明する。講義では、特に基本的で重要な有限オートマトンと正則文法および文脈自由文法について詳しく述べる。		
キーワード	有限オートマトン、形式言語、正則表現		



<b>到達目標</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>有限オートマトンや正則表現を用いて簡単な言語を記述することができる。</li> <li>有限オートマトンの等価性, 非決定性オートマトンから決定性オートマトンへの変換, オートマトンと正則表現の間の変換などの計算ができる。</li> </ol>	
<b>授業の計画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>基礎的な数学的準備, 言語とその表現</li> <li>順序機械</li> <li>有限オートマトンと正則言語</li> <li>有限オートマトンの等価性</li> <li>有限オートマトンの最簡形</li> <li>非決定性有限オートマトン</li> <li>部分集合構成法</li> <li>ε 動作を持つ有限オートマトン</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>言語演算</li> <li>正則表現 1</li> <li>正則表現 2</li> <li>言語族の閉包性</li> <li>形式文法 1</li> <li>形式文法 2</li> <li>演習</li> <li>定期試験</li> </ol>
<b>教科書</b> オートマトン・言語理論/富田悦次, 横森貴:森北出版, 1992. 5, ISBN:4-627-80550-0	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 最終試験の成績による。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は実施しない。	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> C	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 北 研二(総合研究実験棟402, Tel:088-656-7496) (メールアドレス) kita@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 14:35 - 16:05
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>授業計画 1~14 は, 各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5161440
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	論理回路設計[Logic Circuit Design]		
<b>担当教員</b>	獅々堀 正幹 [Masami Shishibori]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	コンピュータの構成要素である論理演算回路の動作原理であるブール代数の基礎概念を理解し, 与えられた論理式から論理回路を設計する手法を習得する。応用力が身につくように, 各手法の背後にあるアイデアを理解することが目標である。		
<b>授業の概要</b>	数表現, 論理式とその変換法などの基礎事項を教え, 論理式が論理回路を経てデジタル回路として実現できることを理解させる。これらの基礎をもとに, コンパクトな回路を設計するために, 組合せ論理関数の簡単化手法(カルノー図の原理, 手順)を講義する。次に, 順序回路の設計手法について学ぶ。まず, 順序回路を構成する際によく用いられる各種フリップフロップ(SR-FF, D-FF, SR-FF, T-FF)の動作原理について述べる。自動販売機, カウンタ, 系列検出器などを例にとり, これら FF の励起関数を利用し, 順序回路を設計する方法を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	論理式, 論理回路, 組合せ論理関数		
<b>先行/科目</b>	『オートマトン・言語理論[Automata and Formal Languages]』(0.5), 『数理論理学[Mathematical Logic]』(0.5), 『離散数学[Discrete Mathematics]』(0.5)		
<b>関連/科目</b>	『集積回路工学[Integrated Circuits]』(0.5), 『電子回路[Electronic Circuits]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>論理回路をモデル化し, システマティックに論理回路が設計できる。</li> <li>単なるノウハウとしての技術ではなく, 応用力が身につくように各手法の背後にあるアイデアを理解し, 説明できる。</li> </ol>		

<b>授業の計画</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>デジタル回路と論理回路</li> <li>数表現代数, 論理式</li> <li>不完全定義論理関数</li> <li>論理関数(積和標準形と和積標準形)</li> <li>様々な論理関数とその性質</li> <li>論理関数の簡単化(カルノー図)</li> <li>論理関数の簡単化(クワイン・マクラスキー法)</li> <li>複数の論理関数の同時簡単化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>中間試験</li> <li>組合せ論理回路の構成法</li> <li>基本的組合せ論理回路(加算器, 比較器, セレクタ)</li> <li>故障と検査, 遅延による影響</li> <li>順序機械と順序回路</li> <li>状態割り当て, 状態遷移図, 状態遷移表</li> <li>順序回路の設計</li> <li>定期試験</li> </ol>
<b>教科書</b>		講義内で資料を配布する。	
<b>参考書</b>		講義内で説明する。	
<b>成績評価の方法</b>		中間試験 40 点, 期末試験 40 点残りの 20 点は, 演習, レポートの内容を考慮する。	
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>		C	
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 獅々堀 正幹(D214, Tel: 088-656-7508) (メールアドレス) bori@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 水曜日 17 時~19 時		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。授業計画 1 から 9 は, 中間試験とレポートの内容により達成評価を行う。また, 授業計画 10 から 15 は, 定期試験とレポートの内容により評価を行う。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5161450
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	プログラミングシステム[Programming Systems]		
<b>担当教員</b>	泓田 正雄 [Masao Fuketa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	高機能言語によるプログラミングを学ぶことにより, より高度なソフトウェア開発技法を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	Perl 言語を通してスクリプト系言語によるシステムプログラミング用のプログラミング技術を習得する。また, Web アプリケーションの作製法を習得する。単にプログラミング言語の講義だけでなく, 毎回講義の後に演習問題またはレポート課題を出題する。		
<b>キーワード</b>	Perl, CGI, Web アプリケーション		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>構造化や抽象化などの種々のプログラミング言語に共通の概念や機能を習得することができる。</li> <li>Perl を習得することができる。</li> <li>CGI の仕組みを理解できる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Perl・CGI とは</li> <li>スカラー変数・リスト・ハッシュ</li> <li>Web アプリケーション</li> <li>CGI の作成方法</li> <li>ファイル操作</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>文字コード</li> <li>アクセスカウンタの作成</li> <li>モジュール</li> <li>正規表現によるパターンマッチング</li> <li>アンケートページの作成</li> <li>画像操作</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>掲示板の作成</li> <li>クッキー</li> <li>ショッピングカート</li> <li>質問・総括</li> <li>期末試験</li> </ol>
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	講義時にプリントを配布する。		
<b>成績評価の方法</b>	レポート(40%), 期末試験(60%)として評価し, 総合点が 60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は実施しない		

<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> C	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 泓田正雄(Dr.棟 603, Tel: 088-656-7564) (メールアドレス) fuketa@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 木曜日 15:00～18:00
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしよう えて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画 1～14 は、各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度 評価を行なう。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5161460
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	集積回路工学[Integrated Circuits]		
<b>担当教員</b>	大野 将樹 [Masaki Ohno]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	集積回路に関する基本的知識を習得する。半導体や論理回路の知識とあわせ、集積回路の特性や設計に関する基礎知識を習得する。		
<b>授業の概要</b>	MOS-FET を用いた集積回路の動作原理と特性を解説する。トランジスタの復習から始まり、簡単な論理ゲートの実装法、更に複雑な論理回路の設計と動作特性を解説する。また、実装例としてメモリや ALU などの詳細を説明し、集積回路の設計法を学ぶ。		
<b>キーワード</b>	CMOS, 回路設計		
<b>先行/科目</b>	『電子回路[Electronic Circuits]』(0.5), 『論理回路設計[Logic Circuit Design]』(0.5), 『アルゴリズムとデータ構造[Data Structures and Algorithms]』(0.3), 『アルゴリズムとデータ構造演習[Exercise in Algorithms and Data Structures]』(0.3)		
<b>関連/科目</b>	『電気回路及び演習[Lecture and Exercise in Electric Circuit]』(0.5), 『システム設計及び実験[System design and experiment]』(0.5), 『マイクロプロセッサ[Microprocessors]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 集積回路における動作原理を説明できる。 2. 論理回路等の知識とあわせて実際に用いられている集積回路の中身を説明できる。		
<b>授業の計画</b>	6. MOS-FET を用いた論理回路	12. メモリ	
1. 集積回路の概要	7. CMOS によるインバータ	13. ALU の実装	
2. 半導体の物理とダイオード	8. 中間試験	14. PLA の動作原理	
3. トランジスタの構造と動作原理	9. NAND と NOR の実装	15. PLA による論理回路の設計	
4. MOS-FET の電気的特性	10. CMOS による回路設計	16. 定期試験	
5. 基本的な論理ゲートと組み合わせ論理回路	11. ダイナミック論理回路		
<b>教科書</b>	特に指定しない		
<b>参考書</b>	国枝 博昭「集積回路設計入門」		
<b>成績評価の方法</b>	中間試験と定期試験の結果のみで評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義内容を丸覚えするのではなく、理解し、納得すること		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> C			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 鈴木 基之		

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしよう えて授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である 2. 授業計画 1～7 は中間試験で、授業計画 9～15 は定期試験で達成度評価を行う
-----------	---

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5161470
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	生体情報工学[Biological and Medical Engineering]		
<b>担当教員</b>	最上 義夫, 藤澤 正一郎, 伊藤 伸一 [Yoshio Mogami, Shoichiroh Fujisawa, Shinichi Itoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	生体医用工学と知能情報工学との関連と類似性および人工的知能へのアプローチに関する基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	人の運動機能や運動制御, 生体医用工学および細胞工学の概説を行う。その中で、筋骨格系の運動学や人体モデル, 細胞内情報伝達機構, ならびに、脳の構造と情報処理メカニズムおよび脳活動計測法について講義する。さらに、ニューラルネットワークとその応用および自律知能・群知能について講義する。		
<b>キーワード</b>	運動機能, 人体計測, 脳, 脳波, 再生医療, 細胞内情報伝達, ニューロン, ニューラルネットワーク, 自律知能, 群知能		
<b>関連/科目</b>	『最適化理論[Optimization Theory]』(0.5), 『知識システム[Knowledge Systems]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 学際的バイオメカニズムについての基礎と人の運動学や運動制御, 人体計測や歩行分析, 筋骨格系モデルや人体計測についての知識を習得する。また、生体情報と福祉や人間工学とのかかわりを学ぶ(授業計画 1～5)。 2. 主に人間の脳の情報処理メカニズムと脳活動計測法を習得する。また、その応用例を概観することで、人間中心設計のシステム構築に対する問題解決方法を理解する(授業計画 6～10)。 3. 生体・生物の情報処理を模倣した手法の学習とその各種問題への適用例とから、種々の問題を解決するための基礎知識を習得する(授業計画 11～15)。		
<b>授業の計画</b>	8. 五感とこころ	9. 脳波(EEG)および脳波の計測	
1. 運動学と運動制御	10. 脳波インタフェース		
2. 人体計測学と歩行分析	11. ニューロンとニューラルネットワーク		
3. 筋肉の構造と運動学的筋電位	12. 階層型ニューラルネットワークと学習アルゴリズム		
4. 福祉と情報処理	13. 階層型ニューラルネットワークの各種問題への適用		
5. 人間工学と生体情報	14. 多様な自律知能		
6. 脳の神経細胞の構造と動作	15. 群知能		
7. 脳内情報処理メカニズム			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>	神経回路と情報処理/福島邦彦 生体情報工学/樋渡涓二		
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	講義資料は、Web 上で閲覧できるようにする。閲覧の方法は、授業開始時に指示する。		
<b>成績評価の方法</b>	定期試験は行わない。講義中に課す演習のレポートの提出状況およびその内容を 100 点で評価し、60 点以上のものを合格とする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は行わない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	適宜演習を課すので、すべての演習のレポートを必ず提出すること。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> C			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 最上 義夫, D102 室, Tel:088-656-7505 藤澤 正一郎, エコ棟 704 室, Tel:088-656-7437 伊藤 伸一, エコ棟 703 室, Tel:088-656-9858 (メールアドレス) moga@is.tokushima-u.ac.jp s-fuji@eco.tokushima-u.ac.jp s.ito@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 最上 義夫:月曜日 15:00～18:00 藤澤 正一郎:水曜日:18:00～20:00 伊藤 伸一: 月曜日 15:00～18:00		

<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。
-----------	---

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5161480
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	国際経営論[Global Business]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** グローバル化・情報化の大波の中で、グローバル経営を展開する企業が直面する諸問題・課題を最新の事例を基に検討し、その指針・解決策を探る。

**授業の概要** 近年特に、M&A(企業の合併・買収)は経営戦略における有効な選択肢の一つとして、日本でも確実に定着してきている。そこで本講では、M&A の戦略的意義・スキーム(構造)・税務的側面・ビジネスインフラ(関連諸法制)の改善等を中心テーマとして、株式価値の創造という視点から検討する。

**キーワード**

**到達目標**

<b>授業の計画</b>	9. M&A と税務戦略のシミュレーション
1. 変貌する M&A と新たな展開	10. ポスト M&A のリストラと税戦略
2. 経営戦略としての M&A(I)	11. 移転価格と税戦略
3. 経営戦略としての M&A(II)	12. 敵対的 M&A と防衛策
4. M&A プームの背景にあるもの-株式価値の創造	13. M&A と株主価値の創造
5. M&A の戦略構造と株式交換(移転)制度	14. 外国人のもの考え方, 外国人とのつき合い方
6. M&A 関連法制の改善点	15. 質疑応答
7. M&A の手順と進め方	16. 期末試験
8. M&A と税務戦略	

**教科書** プリントと資料を配付する。

**参考書** 片山善行「海外事業展開における税務戦略」中央経済社 服部暁達「M&A 成長の戦略」東洋経済新報社他

**成績評価の方法** 受講姿勢・期末試験の結果を総合的に評価する。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ**

**JABEE合格**

**学習教育目標との関連** A

**WEB ページ**

**連絡先**(E メールアドレス、オフィスアワー)

**備考**

1.	出席を重視するので、必ず出席のこと。
2.	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5161490
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** 技術者としての意識と誇りを身につけ、工学倫理を守るために必要な知識と知恵を学ぶ。

**授業の概要** 技術者に要求される倫理とは何か?比較研究と事例研究を中心に学ぶ。その上で、安全、環境、法規、知的財産権などに関連して、具体的にどのようなことが問題になるのか?実践的にどのように対処すればよいのか?講師たちの技術者としての実体験をもとに、出来るだけ双方向的な授業をこころみる。工学倫理というむずかしそうなテーマにやさしく迫る。

**キーワード**

<b>到達目標</b>
1. 工学倫理について説明できる。
2. 技術者としての誇りと責任感について説明できる。
3. 関連問題について説明できる。
4. 実践的に対応できる。

<b>授業の計画</b>	6. 安全と工学倫理	11. 製造物責任
1. はじめに	7. 環境・資源問題と工学倫理	12. 知的財産権と工学倫理
2. 比較論のこころみ	8. リスク評価と技術者	13. 事例研究 4(レポートと発表・討議)
3. 事例研究 1(グループ討議と発表)	9. 事例研究 3(レポートと発表・討議)	14. 国際工学倫理
4. 事例研究 2(レポートと小テスト)	10. 技術者と法規	15. 実践的技術者倫理
5. 技術者倫理と技術倫理		

**教科書** 『技術者による実践的工学倫理 第2版—先人の知恵と戦いから学ぶ—』中村収三, (社)近畿化学工業会 工学倫理研究会 編著(発行所 化学同人)「2009年9月20日改訂 第2版」  
全員が教科書をもっていることを前提に授業(レポート, 宿題, 小テストを含む)を行う。

**参考書** 適宜紹介する。

**成績評価の方法** プレゼンテーション評価 50%, レポート・小テスト 50%

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 各クラス 2 人の講師が、それぞれ 2 日ずつ計 15 時間の授業を行う。全時間の出席を要する。

**JABEE合格** 到達目標が各々達成されているかを、レポートやグループ討議、最終テストで評価し、60%以上あれば合格とする。

**学習教育目標との関連** A

**WEB ページ**

**連絡先**(E メールアドレス、オフィスアワー)  
(学生用連絡先) 教務委員会委員 知能情報工学科 学務係  
(オフィスアワー) 月曜日から金曜日(8:30 から 17:15)

**備考**

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5161500
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	専門外国語[Foreign Language for Information Science]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)

**授業の目的** 本講義では、英語によるコミュニケーションの能力を修得させること、特に low-Intermediate レベルの学生の能力を intermediate レベルに向上させることを目指す。

**授業の概要** 本講義では、英語によるコミュニケーションの能力を修得させること、特に low-Intermediate レベルの学生の能力を intermediate レベルに向上させることを目指す。

**キーワード**

**到達目標** 国際的に通用するコミュニケーション能力の基礎を育成する。

<b>授業の計画</b>	11. Future plans	22. Clean up your room!
1. Classroom English	12. How often do you exercise?	23. What are you doing?
2. I'd like to check in for flight 229	13. Tag questions	24. What are you doing on Sunday?
3. What did you do last weekend?	14. Directions	25. This is the best!
4. Which is bigger?	15. Fast food	26. If
5. Time	16. Examination	27. What do you think?
6. Hotel check in	17. Alliments,Injuries, &Advice	28. Questions, Questions Questions
7. Prepositions of place	18. Can you speak any other languages?	29. Have you eaten Already? No, Not yet.
8. I like cheese pizza. Me too!	19. May I take your order?	30. It's something for
9. Stolen goods	20. Gestures	31. Have you ever ... ?
10. Gifts	21. Is this a picture of your boyfriend?	32. Examination

**教科書** Practical English University Textbook



<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 受講姿勢および期末試験を総合して評価する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> E	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 矢野 米雄
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講姿勢および中間, 期末試験をそれぞれ 50:25:25 で評価し, 総合成績とする。</li> <li>2. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・通年	<b>時間割番号</b>	5161510
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	ソフトウェア設計及び実験[Software design and experiment 1]		
<b>担当教員</b>	緒方 広明, 泓田 正雄, 森田 和宏, 光原 弘幸, 渡辺 峻, 松本 和幸, 伊藤 桃代 [Hiroaki Ogata, Masao Fuketa, Kazuhiro Morita, Hiroyuki Mitsuhara, Shun Watanabe, Kazuyuki Matsumoto, Momoyo Itoh]		
<b>単位数</b>	6	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	大規模ソフトウェアの作成を通じ, 総合的能力(問題設定, 問題分析, 問題解決, 能動的学習, グループワーク, コミュニケーション技術)および専門的能力(ツール運用, 分析/設計, コーディング, デバッグ手法)を短期間のうちに習得することを目的としている。		
<b>授業の概要</b>	前期は, レポート作成技術を学んだ後, Makefile の作成法, ライブラリ化, ユーザー・インターフェイス, デバッグツールの使用法等, プログラミング手法の基礎的課題に個人単位で取り組む。その後, 個人でゲーム開発を行う。後期は, ネットワーク・プログラミング, 統合・モジュール化手法を個人単位で取り組む。その後, 企画立案ならびにプレゼンテーション技術を学んだ後, メタな課題(例えば, GUI を用いたネットワークプログラミングによる対戦型ゲームの作成)に対して, グループ単位で企画, 立案, ソフトウェア開発を行い, 最終的にコンテストを行う。		
<b>キーワード</b>	プログラム作法, デバッグ手法, グループワーク, ネットワークプログラム, モジュール化		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 抽象的な問題を具体的な問題に分析し, 方針を決め, 適切な手法をとり, 粘り強く問題を解決できる。</li> <li>2. チームで協力しあって企画, スケジュール, 設計, 製作, 評価, 保守などの各プロセスを期限内で遂行できる。</li> <li>3. 成果を口頭または文書により明確かつ論理的に表現でき, プレゼンテーションによって双方向コミュニケーションを行える。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. プログラミング作法</li> <li>3. ライブラリ化</li> <li>4. ユーザインターフェイス 1</li> <li>5. ユーザインターフェイス 2</li> <li>6. ユーザインターフェイス 3</li> <li>7. デバイスプログラミング 1</li> <li>8. デバイスプログラミング 2</li> <li>9. デバッグ</li> <li>10. 個人ゲーム開発の説明, 企画・立案</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. 個人ゲーム開発</li> <li>12. 個人ゲーム開発</li> <li>13. 個人ゲーム開発</li> <li>14. 個人ゲーム開発</li> <li>15. コンテスト</li> <li>16. ゲーム内容のプレゼンテーション, 後期実験の説明</li> <li>17. ネットワークプログラミング</li> <li>18. 統合モジュール化</li> <li>19. バージョン管理</li> <li>20. 企画プレゼン</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>21. グループ開発</li> <li>22. グループ開発</li> <li>23. グループ開発</li> <li>24. グループ開発</li> <li>25. グループ開発</li> <li>26. 予備コンテスト</li> <li>27. グループ開発</li> <li>28. グループ開発</li> <li>29. 最終プレゼンテーション</li> <li>30. コンテスト</li> <li>31. 予備日</li> </ol>
<b>教科書</b>	各実験毎に指定される。		
<b>参考書</b>	各実験毎に指定される。		
<b>成績評価の方法</b>	基礎課題レポート, プレゼンテーション(発表), 総合課題レポートを総合して評価する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	全ての講義に出席し, 全てのレポートならびにプレゼンで合格基準を満たしたら, 合格とする。		

<b>学習教育目標との関連</b> 総合的能力および専門的能力が習得されているか, レポートならびにプレゼンによって判定する。学習教育目標(C), (D), (E)に関連する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 松本 和幸:エコ棟 707, 088-656-7654, matumoto@is.tokushima-u.ac.jp (メールアドレス) 松本 和幸:matumoto@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 松本 和幸:金曜 10 時~11 時半
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無断欠席および遅刻, 期限後の報告提出は一切認められていない。</li> <li>2. 全ての実験と発表をおこない, 全てのレポートを提出することが義務づけられている。その上で, 基礎課題レポート, プレゼンテーション(発表), 総合課題レポートを, 5 対 2 対 3 の比率で評価する。但し, この比率は変更されることがある。</li> <li>3. 授業計画 1~9, 17~19 は, レポートにより達成度評価を行なう。</li> <li>4. 授業計画 10~14, 20~30 は, レポート及びプレゼンテーション発表により達成度評価を行なう。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	3年・通年	<b>時間割番号</b>	5161520
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	システム設計及び実験[System design and experiment]		
<b>担当教員</b>	佐野 雅彦, 池田 建司, 松浦 健二, 最上 義夫, 柏原 考爾, KARUNGARU STEPHEN GITHINJI [Masahiko Sano, Kenji Ikeda, Kenji Matsuura, Yoshio Mogami, Kohji Kashihiro]		
<b>単位数</b>	6	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	ハードウェアに関する個々の要素技術を理解しているだけでは システムを作り上げることはできない。本実験では, ハードウェアに関する個々の要素技術を システムとして統合する能力を養うことを目的としている。		
<b>授業の概要</b>	ハードウェアやそれを駆動するソフトウェアに関する基礎知識を 習得するための個別実験に取り組む。各実験テーマ終了後にレポート提出が課される。		
<b>キーワード</b>	自立移動ロボット, ハードウェア, ソフトウェア		
<b>先行/科目</b>	『情報計測工学[Instrumentation System]』(0.2), 『マイクロプロセッサ[Microprocessors]』(0.2), 『ソフトウェア設計及び実験[Software design and experiment 1]』(0.2), 『電子回路[Electronic Circuits]』(0.2), 『コンピュータアーキテクチャ[Computer Architecture]』(0.2)		
<b>関連/科目</b>	『信号処理[Signal Processing]』(0.2), 『離散システム解析[Discrete-Time Systems Analysis]』(0.2), 『線形システム解析[Linear System Analysis]』(0.2)		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 完全自律型ロボットに必要な各要素技術を説明できる。</li> <li>2. ハードウェアの原理, ソフトウェアの構造を説明できる。</li> <li>3. 与えられた仕様を満たすような完全自律型ロボットを設計できる。</li> <li>4. 与えられた制約条件下で, 計画的に完全自律型ロボットを完成できる。</li> <li>5. 自分の考えを明確かつ論理的に人に伝達でき, 双方向のコミュニケーションができる。</li> <li>6. グループで協調しながら仕事ができる。</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス, アナログ実験の説明</li> <li>2. アナログ回路実験 1</li> <li>3. アナログ回路実験 2</li> <li>4. デジタル回路実験 1</li> <li>5. デジタル回路実験 2</li> <li>6. 基板実装技術 1</li> <li>7. 基板実装技術 2</li> <li>8. センサ製作 1(全体説明, 理解度テスト)</li> <li>9. センサ製作 2</li> <li>10. センサ製作 3</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>11. センサ製作 4</li> <li>12. センサコンテスト</li> <li>13. プログラミング 1</li> <li>14. プログラミング 2</li> <li>15. プログラミング 3</li> <li>16. プログラミング 4</li> <li>17. 制御技術レクチャー, 構想打ち合わせ, ロボット製作 1</li> <li>18. ロボット製作 2</li> <li>19. ロボット製作 3</li> <li>20. ロボット製作 4</li> <li>21. 規定コンテスト</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>22. ロボット製作 5</li> <li>23. ロボット製作 6</li> <li>24. ロボット製作 7</li> <li>25. ロボット製作 8</li> <li>26. 予備コンテスト</li> <li>27. ロボット改良 1</li> <li>28. ロボット改良 2</li> <li>29. ロボット改良 3</li> <li>30. ロボット改良 4</li> <li>31. 最終コンテスト</li> <li>32. 最終プレゼンテーション</li> </ol>
<b>教科書</b>	知能情報工学科編「システム設計及び実験」		
<b>参考書</b>	実験テーマごとに指定される。		
<b>成績評価の方法</b>	実験態度, 理解度テスト, レポート, コンテスト成績を総合して評価する。		

<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b> C、D、E	
<b>WEB ページ</b>	i-collabo を参照のこと
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 最上 義夫 池田 建司 佐野 雅彦 カルンガル ステファン 松浦 健二 柏原 考爾 伊藤 伸一 石田 富士雄 井上 富夫 辻 明典 板東 亘
<b>備考</b>	1. 4 時間の演習毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習を行うことが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 無断欠席および遅刻は一切認められていない。 3. ドライバーなどの工具を各自で用意すること。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5161530
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	パターン認識[Pattern Recognition]		
<b>担当教員</b>	寺田 賢治 [Kenji Terada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	現在、コンピュータの発展に伴い、機械と人間が共生する社会になっている。本講義では、機械が獲得した情報を人間の理解しやすいような情報に変換する技術、すなわちパターン認識について、文字認識、音声認識、画像認識を中心に、応用例をあげながら平易に解説する。		
<b>授業の概要</b>	人間同士が情報の交換や記録に用いているメディア、すなわちパターン情報には、文字、音声、画像などがある。人間のこれらのパターン情報を認識する能力は、本能や幼児からの長年の学習によって高度に発達しているが、これらを機械にやらせることは決して容易ではない。本講義では、多くの研究者の研究成果により、徐々に発展してきたパターン認識について、その基本的な概念から応用例まで、文字認識、音声認識、画像認識を中心に解説していく。		
<b>キーワード</b>	パターン認識論、文字認識、画像認識		
<b>先行/科目</b>	『信号処理[Signal Processing]』(1.0)、『離散システム解析[Discrete-Time Systems Analysis]』(1.0)、『画像処理工学[Image Processing]』(1.0)		
<b>関連/科目</b>	『生体情報工学[Biological and Medical Engineering]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. パターン認識の基礎理論を説明できる。 2. 文字認識、音声認識、画像認識などの原理と応用方法が説明できる。		
<b>授業の計画</b>	9. オンライン手書き文字認識、文字認識応用システム	10. 中間試験	
1. パターン認識の概要	11. 音声パターンとその特徴及び音声認識の基礎	12. 特定話者単語音声認識、不特定話者単語音声認識	
2. 線形識別関数、統計的決定理論	13. 連続音声認識、話者認識、音声認識応用システム	14. 画像パターンとその特徴及び画像認識の基礎	
3. クラスタ解析、識別オートマトン理論	15. 画像認識の応用例	16. 定期試験	
4. サポートベクターマシン			
5. 隠れマルコフモデル			
6. 文字パターンとその特徴及び文字認識の基礎			
7. 英数字カナ文字認識			
8. 漢字認識			
<b>教科書</b>	特に指定しない		
<b>参考書</b>	パターン認識/電子情報通信学会 編著, : 電子情報通信学会, 1988, ISBN:9784885520754		
<b>成績評価の方法</b>	平常点と試験の比率は 3:7 とする。前者には、講義への参加状況、演習・小テストの内容、後者には最終試験の成績が含まれる。		
<b>再試験の有無</b>	再試験はない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> C			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 松浦健二(E-mail:ma2@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ma2@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 13:30-15:00 情報化推進センター 501 室または 505 室		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画 1~14 は、各講義の最後に課されるレポート課題および最終試験により達成度評価を行う		

<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 寺田賢治(Dr.棟 802, 088-656-7499, terada@is.tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) terada@is.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月、水曜日 15:00~17:00
<b>備考</b>	1. 再試は一切やらない。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 3. 授業計画 1~15 は、各講義の最後に行なわれる演習および最終試験により達成度評価を行なう。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5161540
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択		
<b>科目名</b>	コンピュータシステム管理[System Administration]		
<b>担当教員</b>	松浦 健二 [Kenji Matsuura]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	知能情報工学科(昼間)
<b>授業の目的</b>	ネットワークに接続されたコンピュータシステムを管理運用するシステム管理者に必要な知識、技術を、Linux システム管理技術、セキュリティ、認証管理の観点から習得させる。		
<b>授業の概要</b>	複数種のコンピュータシステム管理を行うための必要な技術や知識習得のため、管理に関する各種の基本事項やアプリケーションに関する講義および演習課題を与える。		
<b>キーワード</b>	システム管理, Linux, アプリケーションサービス		
<b>先行/科目</b>	『情報セキュリティ[Information Security]』(0.2)、『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(0.2)、『オペレーティングシステム[Operating System]』(0.2)		
<b>関連/科目</b>	『オペレーティングシステム[Operating System]』(0.5)、『コンピュータ入門[Introduction to Computer]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 基本的なオペレーティングシステムの管理知識と仮想環境について説明できる。 2. 利用頻度の高いサーバソフトウェアのインストール、設定、運用について説明できる		
<b>授業の計画</b>	6. セキュリティ管理	12. LDAP 管理応用	
1. コンピュータシステム管理概論	7. 認証と認可管理	13. アプリケーションへの適用	
2. 種々の OS 管理	8. ウェブサービス管理	14. ログ管理	
3. 仮想化の概念	9. データベース管理	15. 定期試験	
4. 仮想化の実践	10. ディレクトリサービス管理	16. まとめと総合演習	
5. 仮想環境と OS	11. LDAP 管理基礎		
<b>教科書</b>	特に指定しない。資料は適宜配付する。		
<b>参考書</b>	トピックが多岐に渡るため、関連する参考書は任意とする		
<b>成績評価の方法</b>	各回レポート課題および期末試験を総合して評価する。その比率は 5:5 とする。		
<b>再試験の有無</b>	再試験は実施しない。		
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b> C			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 松浦健二(E-mail:ma2@tokushima-u.ac.jp) (メールアドレス) ma2@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 金曜日 13:30-15:00 情報化推進センター 501 室または 505 室		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。 2. 授業計画 1~14 は、各講義の最後に課されるレポート課題および最終試験により達成度評価を行う		

開講学期	4年・前期	時間割番号	5161560
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	生産管理[Production Control]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	企業マネジメント(工業経営)の中で、「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する。		
授業の概要	「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに、企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する。		
キーワード			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産管理の各手法を概略理解する。</li> <li>2. 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する。</li> </ol>		
授業の計画	3. 品質管理総論	6. 原価管理	
1. 序	4. 工程管理総論	7. 安全管理、トヨタ生産方式	
2. 生産管理体系	5. 工程管理各論	8. 環境管理	
教科書	毎講義時に、プリントその他で提示する。		
参考書	「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ)」企業経営通信学院「生産管理便覧」丸善		
成績評価の方法	毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点 60 点満点・白紙は不可)及びその試問正解点 40 点満点で、480 点以上を「可」とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	毎講義終了後、簡単な事前試問(3 問程度)について、解答ペーパーの提出を求める。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	4年・前期	時間割番号	5161570
科目分野	学部共通科目		
選必区分	選択		
科目名	労務管理[Personnel Management]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	企業のグローバル化による競争激化、企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加、正規社員の減少、従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題、労働トラブルの急増、少子高齢化時代の到来等これからの労務安全管理の諸問題について理解する。		
授業の概要	採用から退職までの労務安全衛生管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労務安全管理(ヒューマンスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。		
キーワード			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 組織の労務安全衛生管理(ヒューマンスキル)の基本と重要性について認識する。</li> <li>2. 最新の労働環境の動向を理解する。</li> </ol>		
授業の計画	3. 就業規則	6. 退職と解雇	
1. 労働基準法の概要	4. 労働時間・休日・休暇	7. さまざまな働き方	
2. 応募から入社までの基礎知識	5. 賃金・業務命令等の社内ルール	8. リスクアセスメント(安全衛生管理)	
教科書	「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円		

参考書	「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会		
成績評価の方法	出席率、レポートの内容		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	授業の中でレポート(7 回程度)作成、提出すること。		
JABEE合格			
学習教育目標との関連			
WEB ページ			
連絡先(E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑村泰章		
備考	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

開講学期	4年・通年	時間割番号	5161550
科目分野	専門教育科目		
選必区分	必修		
科目名	卒業研究[Bachelor's Thesis]		
担当教員	工学部知能情報工学科教員		
単位数	6	対象学生・年次	知能情報工学科(昼間)
授業の目的	教室で学んだ知識と勉強の仕方を応用し、課題を解決する経験を与えることにより、社会に出てから自分の力で問題解決を行える能力を養う。また自分の考えを正しく伝えるための文章の書き方、多数の人々に正しく理解して貰うための発表能力を体得する。		
授業の概要	多くの場合、指導教員が取り組んでいる研究課題に関連した課題が与えられ、研究グループに参加して分担する研究を行う。研究指導はそれぞれの研究室独自の方法が採られるが、一般には最初に研究に関連する基礎知識を勉強するための専門書や、研究論文をグループで輪講し、実験設備の使用法を修得した後、文献調査や実験を行う。定期的に研究室のゼミが開かれ、調査や実験の経過を報告しディスカッションを行う。何らかの研究成果が得られた場合には学会に出席して自分で発表することがある。(セミナー、ポートフォリオ形式)		
キーワード	知能情報工学、ソフトウェア工学		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に関する専門知識を修得する。</li> <li>2. 実践的な情報収集・活用能力、問題設定能力、問題解決能力、コミュニケーション能力およびグループ活動能力を養う。</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の選択により、研究室単位で授業を進めるが、授業内容例を以下に示す。</li> <li>2. 中学理科教授学習システムにおける問題文解析モジュールの構築について</li> <li>3. サーチエンジンにおける検索キー・コンプリーションに関する研究</li> <li>4. Earth Mover's Distance に基づく類似音楽検索手法に関する研究</li> <li>5. 近赤外線カメラによる画像を用いた顔の認識システムの構築</li> <li>6. ウィルス感染シミュレータにおける効率的な仮想ウィルス作成環境の構築</li> <li>7. RSS を利用した情報収集および表示システムに関する研究</li> <li>8. インターネットカメラを用いた不審人物の検出</li> <li>9. Web アプリケーション開発を容易にするユーザ誘導方式の研究</li> <li>10. スпамメールの自動検出・自動分類に関する研究</li> <li>11. RFID タグを用いた出席確認による授業支援システム</li> <li>12. PDA での実施を考慮した Web アンケート作成支援</li> <li>13. 帯域制限された音声データの広帯域化法に関する研究</li> <li>14. 字幕画像データからの文字切出し手法に関する研究</li> <li>15. 顔画像のモーフィング</li> <li>16. GP における解構造の爆発的増大を考慮した世代交代モデルに関する研究</li> </ol>		
教科書			
参考書			
成績評価の方法	2 月末の研究発表会での研究発表と、卒業論文の内容を審査して学士の学位の授与に値するかどうかを判定する。		
再試験の有無			



<b>受講者へのメッセージ</b> 研究は教員に言われてやるものではない。自分で主体的に研究に取り組むことが大切である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 知能情報工学科
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 卒業研究着手資格:卒業研究に着手するためには、卒業研究着手要件により指定される単位をすべて修得していなければならない。</li> <li>2. 卒業研究着手資格者の選考:3 月中旬に、次年度の卒業研究着手資格者を選考し、該当する者の名前を知能情報工学科玄関の掲示板に掲示する。ただし、3 月末までに卒業研究着手要件を満たした学生については 4 月に入ってから卒業研究着手資格者となる可能性もある。疑義のある学生は直ちに学科長に申し出ること。</li> <li>3. 卒業研究テーマの説明:3 月中旬に、次年度の卒業研究テーマを提示し説明会を行う。説明会では研究室単位で全教員から研究テーマについて説明し、質問に応じる。</li> <li>4. 研究室配属:学生は希望する研究テーマを自由に選ぶことが出来るが、各研究室ごとに最大の定員が決められているので、学生同士が話し合いで調整し、配属される研究室を決める。(話し合いがつかない場合に限り学科長が決定する。)</li> <li>5. 輪講・研究:研究室では指導教員、大学院生の指導で論文の輪講と研究を行う。</li> <li>6. 卒業論文と研究発表:研究結果をまとめた卒業論文を 2 月下旬までに作成し提出する。また 2 月末に行われる卒業研究発表会において各自の研究成果を発表する。</li> </ol>

光応用工学科

応用光化学 [Applied Photochemistry] … 光応用工学科/田中/2年・後期…………… 200

化学反応論 1 [Chemical Reactions 1] … 光応用工学科/田中/2年・前期…………… 200

化学反応論 2 [Chemical Reactions 2] … 光応用工学科/田中/2年・後期…………… 200

確率統計学 [Probability and Statistics] … 光応用工学科/工学基礎教育センター教員/3年・前期 … 201

画像処理 [Image Processing] … 光応用工学科/仁木/3年・後期 ……………… 201

幾何光学 [Geometrical Optics] … 光応用工学科/陶山/2年・前期…………… 201

企業における光デバイス・システム特論 [Research and Development of Optical Devices / Systems in Corporations] … 光応用工学科/仁木 他/3年・後期 ……………… 201

技術者・科学者の倫理 [Engineering Ethics] … 光応用工学科/河田 他, 小林 基伸/3年・前期 …… 201

基礎光化学 [Basic Photochemistry] … 光応用工学科/橋本/2年・前期…………… 203

光学設計演習 [Exercise in Optical Systems and Equipments Design] … 光応用工学科/陶山 他/3年・後期 ……………… 203

工業物理学実験 [Laboratory in General Physics] … 光応用工学科/中村 他/1年・後期 ……………… 204

光電機器設計及び演習 [Optoelectronic Instruments Design and Exercise] … 光応用工学科/仁木 他/3年・後期 ……………… 204

高分子化学 [Polymer Chemistry] … 光応用工学科/田中 他/3年・後期 ……………… 204

コミュニケーション英語 [English for international communication] … 光応用工学科/河田 他/3年・前期 ……………… 205

コンピュータ入門 [Computer Exercise] … 光応用工学科/河田/1年・後期…………… 205

システム解析 [System Analysis] … 光応用工学科/仁木/2年・後期…………… 206

情報通信理論 [Information Theory] … 光応用工学科/後藤/2年・後期 ……………… 206

信号処理 [Signal Processing] … 光応用工学科/仁木/3年・前期 ……………… 206

数値解析 [Numerical Analysis] … 光応用工学科/竹内/3年・前期 ……………… 207

生産管理 [Production Control] … 光応用工学科/非常勤/4年・後期…………… 207

専門英語 [English for technical communication] … 光応用工学科/工学部光応用工学科教員/4年・後期 ……………… 207

卒業研究 [Graduation study] … 光応用工学科/光応用工学科教員/4年・通年 ……………… 208

電気回路 1 [Electrical Circuit Theory 1] … 光応用工学科/原口/1年・前期…………… 208

電気回路 2 [Electrical Circuit Theory 2] … 光応用工学科/原口/1年・後期…………… 209

電気磁気学 1 [Electricity and Magnetism 1] … 光応用工学科/後藤/2年・前期…………… 209

電気磁気学 2 [Electricity and Magnetism 2] … 光応用工学科/陶山/2年・後期…………… 209

電子回路 [Electrical Circuit Theory] … 光応用工学科/陶山 他/2年・後期…………… 210

データ構造とアルゴリズム演習 [Programming Exercises : An Introduction to Data structures and Algorithms] … 光応用工学科/河田 他/2年・後期…………… 210

統計力学 [Statistical Mechanics] … 光応用工学科/岸本/2年・後期…………… 211

熱力学 [Thermodynamics] … 光応用工学科/森/2年・前期…………… 211

パターン認識 [Pattern Recognition] … 光応用工学科/仁木/4年・前期…………… 212

波動光学 [Wave Optics] … 光応用工学科/森/3年・前期…………… 212

光の基礎 [Basic Properties, Phenomena and Applications of Light ] … 光応用工学科/陶山/1年・前期…………… 213

光・電子物性工学 1 [Optical and Electronic Properties of Materials 1] … 光応用工学科/原口/2年・前期…………… 213

光・電子物性工学 2 [Optical and Electronic Properties of Materials 2] … 光応用工学科/原口/2年・後期…………… 213

光演算処理 [Analog Optical Computing] … 光応用工学科/陶山 他/3年・後期…………… 214

光応用工学計算機実習 [Optical Science and Technology Computation Exercise] … 光応用工学科/手塚 他, 河田 佳樹, 森 篤史, 岡本 敏弘, 丹羽 実輝, 鈴木 秀宣, 柳谷 伸一郎/3年・後期… 214

光応用工学実験 1 [Optical Science and Technology Laboratory 1] … 光応用工学科/手塚 他/3年・前期…………… 216

光応用工学実験 2 [Optical Science and Technology Laboratory 2] … 光応用工学科/河田 他, 岡本 敏弘/3年・後期…………… 216

光応用工学セミナー 1 [Optical Science and Technology Seminar 1] … 光応用工学科/柳谷 他/1年・前期…………… 217

光応用工学セミナー 2 [Optical Science and Technology Seminar 2] … 光応用工学科/森 他/1年・後期…………… 217

光応用工学特別講義 1 [Special Lectures on Optical Science and Technology 1] … 光応用工学科/非常勤/4年・後期…………… 218

光応用工学特別講義 2 [Special Lectures on Optical Science and Technology 2] … 光応用工学科/非常勤/4年・前期…………… 218

光応用数学演習 [drill and practice in engineering mathematics] … 光応用工学科/橋本 他/3年・前期 … 218

光機能材料・光デバイス特別講義 1 [Specical Lectures on Optical Materials and Decices 1] … 光応用工学科/原口/4年・前期…………… 219

光機能材料・光デバイス特別講義 2 [Specical Lectures on Optical Materials and Decices 2] … 光応用工学科/後藤/4年・前期…………… 219

光機能材料・光デバイス特別講義 3 [Specical Lectures on Optical Materials and Decices 3] … 光応用工学科/田中/4年・前期…………… 219

光情報機器 [Optoelectronic Instruments For Information system] … 光応用工学科/陶山/2年・後期… 220

光情報システム特別講義 1 [Specical Lectures on Optical Information Processing 1] … 光応用工学科/工学部非常勤講師/4年・前期…………… 220

光情報システム特別講義 2 [Specical Lectures on Optical Information Processing 2] … 光応用工学科/非常勤/4年・前期…………… 220

光通信方式 [Optical Communications Technology] … 光応用工学科/後藤/3年・前期…………… 221

光デバイス [Optoelectronic Devices] … 光応用工学科/原口 他/3年・後期…………… 221

光導波工学 [Guided-wave optics] … 光応用工学科/後藤/3年・後期…………… 222

微分方程式 1 [Differential Equations (I)] … 光応用工学科/岡本/2年・前期…………… 222

微分方程式 2 [Differential Equations (II)] … 光応用工学科/岡本/2年・後期…………… 222

複素関数論 [Complex Analysis] … 光応用工学科/工学基礎教育センター教員/2年・後期…………… 223

プログラミング言語及び演習 [Programming Languages and Exercise] … 光応用工学科/河田 他/2年・前期…………… 223

分子工学 [Molecular Engineering] … 光応用工学科/手塚/1年・後期…………… 224

分子分光学 [Molecular Spectroscopy] … 光応用工学科/橋本/3年・前期…………… 224

ベクトル解析 [Vector Analysis] … 光応用工学科/今井/2年・前期…………… 224

マイクロ・ナノ光学 [Micro-nano Photonics] … 光応用工学科/橋本/3年・後期…………… 225

量子力学 [Quantum Mechanics] … 光応用工学科/工学部非常勤講師/2年・前期…………… 225

レーザ工学 [Laser Physics and Applications] … 光応用工学科/松尾/3年・前期…………… 226

レーザ計測 [laser measurement] … 光応用工学科/松尾/3年・後期…………… 226

労務管理 [Personnel Management] … 光応用工学科/非常勤/4年・後期…………… 226

半導体ナノテクノロジー基礎論 [Introduction to Semiconductor Nanotechnology] … 光応用工学科(昼間)/井須 他/3年・後期…………… 227

開講学期	2年・後期	時間割番号	5171150																		
科目分野	専門教育科目																				
選必区分	必修																				
科目名	応用光化学[Applied Photochemistry]																				
担当教員	田中 均 [Hitoshi Tanaka]																				
単位数	2	対象学生・年次	光応用工学科																		
授業の目的	有史以来我々の生活を支えてきた光合成はもとより、増感剤、光重合開始剤、光記録メディアなど、光化学反応は我々の身近でさまざまに活用されている。さらに近年のエネルギー・環境問題を解決するためにも光エネルギーの利用は重要性を増している。本講義では、光化学反応の実際とその機構について学び、さらに光エネルギー変換の原理について学ぶ。																				
授業の概要	前半は、光化学の素過程について解説した後、実際の光化学反応の特徴を官能基ごとに分類して解説する。後半は、光エネルギーの利用に焦点を当て、光誘起電子移動の基礎と光合成や光エネルギー変換素子などへの応用について解説する。																				
キーワード	光化学反応、光合成、太陽電池																				
先行/科目	『分子工学[Molecular Engineering]』(1.0)、『基礎光化学[Basic Photochemistry]』(1.0)																				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光化学反応の実際を知り、その過程を解析できる。</li> <li>2. 光合成や光エネルギー変換素子の原理が理解できる。</li> </ol>																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 光化学反応の応用について</td> <td>6. 光化学反応の特徴(1)</td> <td>12. 光合成(2)</td> </tr> <tr> <td>2. 光源の種類</td> <td>7. 光化学反応の特徴(2)</td> <td>13. 光エネルギー変換素子(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 光照射実験の方法</td> <td>8. 中間試験</td> <td>14. 光エネルギー変換素子(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 光化学の素過程(1)</td> <td>9. 光励起と電子移動(1)</td> <td>15. 光エネルギーの貯蔵</td> </tr> <tr> <td>5. 光化学の素過程(2)</td> <td>10. 光励起と電子移動(2)</td> <td>16. 定期試験</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. 光合成(1)</td> <td></td> </tr> </table>			1. 光化学反応の応用について	6. 光化学反応の特徴(1)	12. 光合成(2)	2. 光源の種類	7. 光化学反応の特徴(2)	13. 光エネルギー変換素子(1)	3. 光照射実験の方法	8. 中間試験	14. 光エネルギー変換素子(2)	4. 光化学の素過程(1)	9. 光励起と電子移動(1)	15. 光エネルギーの貯蔵	5. 光化学の素過程(2)	10. 光励起と電子移動(2)	16. 定期試験		11. 光合成(1)	
1. 光化学反応の応用について	6. 光化学反応の特徴(1)	12. 光合成(2)																			
2. 光源の種類	7. 光化学反応の特徴(2)	13. 光エネルギー変換素子(1)																			
3. 光照射実験の方法	8. 中間試験	14. 光エネルギー変換素子(2)																			
4. 光化学の素過程(1)	9. 光励起と電子移動(1)	15. 光エネルギーの貯蔵																			
5. 光化学の素過程(2)	10. 光励起と電子移動(2)	16. 定期試験																			
	11. 光合成(1)																				
教科書																					
参考書																					
教科書・参考書に関する補足情報	井上晴夫他著「光化学 1」丸善																				
成績評価の方法	中間試験 40%、定期試験 40%、講義への取り組み状況 20%として評価し、全体で 60%以上を合格とする。																				
再試験の有無																					
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。																				
JABEE合格	単位合格と同一																				
学習教育目標との関連	光応用工学科の教育目標 B に該当																				
WEB ページ																					
連絡先(E メールアドレス、オフィスアワー)	(オフィスアワー) オフィスアワー:随時																				
備考																					

開講学期	2年・前期	時間割番号	5171300
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択A		
科目名	化学反応論1[Chemical Reactions 1]		
担当教員	田中 均 [Hitoshi Tanaka]		
単位数	2	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	多くの天然および合成物質が世に溢れ、また次から次へと新しい物質が創造されている現在、既存物質の特性を理解するだけでなく物質の本質を化学的に理解することが非常に重要である。本講義では、化学反応は何故起こるのか、反応は何によって支配されているのか、このような素朴な疑問について具体例をもとに基礎から学ぶ。		
授業の概要	化合物の構造、性質、生成、反応の基礎を分子論的に講述する。		
キーワード			

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無機化合物、脂肪族炭化水素、芳香族化合物の生成、反応、機能を理解する。</li> <li>2. 有機ハロゲン化合物、水酸化物の生成、反応を理解し、分子軌道の概念を反応に応用する。</li> </ol>																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 身の回りの化学. 予備知識調べ</td> <td>9. 芳香族化合物. 小テスト 2(到達目標 1 の試験)</td> </tr> <tr> <td>2. 電子、結合</td> <td>10. 分子軌道と協奏反応(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 無機錯体</td> <td>11. 分子軌道と協奏反応(2)</td> </tr> <tr> <td>4. 無機錯体と化学反応</td> <td>12. 有機ハロゲン化合物(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 溶液中の無機化学反応(1)</td> <td>13. 有機ハロゲン化合物(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 溶液中の無機化学反応(2). 小テスト 1(到達目標 1 の試験)</td> <td>14. アルコールとフェノール</td> </tr> <tr> <td>7. アルカンとアルケン化合物</td> <td>15. 期末試験(到達目標 2 の試験)</td> </tr> <tr> <td>8. アルケンとアルキン化合物</td> <td>16. 試験問題の解説、まとめ</td> </tr> </table>			1. 身の回りの化学. 予備知識調べ	9. 芳香族化合物. 小テスト 2(到達目標 1 の試験)	2. 電子、結合	10. 分子軌道と協奏反応(1)	3. 無機錯体	11. 分子軌道と協奏反応(2)	4. 無機錯体と化学反応	12. 有機ハロゲン化合物(1)	5. 溶液中の無機化学反応(1)	13. 有機ハロゲン化合物(2)	6. 溶液中の無機化学反応(2). 小テスト 1(到達目標 1 の試験)	14. アルコールとフェノール	7. アルカンとアルケン化合物	15. 期末試験(到達目標 2 の試験)	8. アルケンとアルキン化合物	16. 試験問題の解説、まとめ
1. 身の回りの化学. 予備知識調べ	9. 芳香族化合物. 小テスト 2(到達目標 1 の試験)																		
2. 電子、結合	10. 分子軌道と協奏反応(1)																		
3. 無機錯体	11. 分子軌道と協奏反応(2)																		
4. 無機錯体と化学反応	12. 有機ハロゲン化合物(1)																		
5. 溶液中の無機化学反応(1)	13. 有機ハロゲン化合物(2)																		
6. 溶液中の無機化学反応(2). 小テスト 1(到達目標 1 の試験)	14. アルコールとフェノール																		
7. アルカンとアルケン化合物	15. 期末試験(到達目標 2 の試験)																		
8. アルケンとアルキン化合物	16. 試験問題の解説、まとめ																		
教科書	「ベーシック有機化学」山口良平他著(化学同人)；準教科書:「基礎無機化学」一國雅己著(掌華房)																		
参考書	「Organic Chemistry」K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore 著(W.H.Freeman & Comp.)																		
補助器具:	「HGS 分子模型」丸善																		
成績評価の方法	単位の取得は、期末試験 40%、小テスト 40%(20% × 2 回=40%)、講義への取り組み状況 20%として評価し、全体で 60%以上で合格とする。																		
再試験の有無																			
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。																		
JABEE合格	単位合格と同一																		
学習教育目標との関連	光応用工学科の教育目標 B に該当																		
WEB ページ																			
連絡先(E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中均 (光応用工学科棟 211 号室, 電話 & Fax: 088-656-9420, E-mail: tanaka@opt.tokushima-u.ac.jp)																		
備考	1. オフィスアワー:随時																		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5171310																
科目分野	専門教育科目																		
選必区分	選択A																		
科目名	化学反応論2[Chemical Reactions 2]																		
担当教員	田中 均 [Hitoshi Tanaka]																		
単位数	2	対象学生・年次	光応用工学科																
授業の目的	氾濫する多くの物質が示す多様な一見複雑そうにみえる挙動も、実はマイクロなレベルから眺めると、案外、規則的に、整然と、単純な分子の挙動に集約されることがある。本講義では、多くの様々な原子、分子が示す化学挙動を系統的に理解する能力を養う。																		
授業の概要	「化学反応論 1」につづき、より広範な様々な化合物の化学構造、性質、生成、反応について、具体例をもとに基礎から学ぶ。																		
キーワード																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エーテル及びカルボニル化合物の生成、反応、構造を理解する。</li> <li>2. アミン類及び生体物質の生成、反応、機能を理解する。</li> </ol>																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. エーテルとエポキシド(1)</td> <td>9. 縮合反応と共役付加反応(1)</td> </tr> <tr> <td>2. エーテルとエポキシド(2)</td> <td>10. 縮合反応と共役付加反応(2). 小テスト 2(到達目標 1 の試験)</td> </tr> <tr> <td>3. アルデヒドとケトン(1)</td> <td>11. アミンとその誘導体(1)</td> </tr> <tr> <td>4. アルデヒドとケトン(2)</td> <td>12. アミンとその誘導体(2)</td> </tr> <tr> <td>5. アルデヒドとケトン(3). 小テスト 1(到達目標 1 の試験)</td> <td>13. 生体物質(1)</td> </tr> <tr> <td>6. カルボン酸</td> <td>14. 生体物質(2)</td> </tr> <tr> <td>7. カルボン酸誘導体(1)</td> <td>15. 期末試験(到達目標 2 の試験)</td> </tr> <tr> <td>8. カルボン酸誘導体(2).</td> <td>16. 試験問題の解説、まとめ</td> </tr> </table>			1. エーテルとエポキシド(1)	9. 縮合反応と共役付加反応(1)	2. エーテルとエポキシド(2)	10. 縮合反応と共役付加反応(2). 小テスト 2(到達目標 1 の試験)	3. アルデヒドとケトン(1)	11. アミンとその誘導体(1)	4. アルデヒドとケトン(2)	12. アミンとその誘導体(2)	5. アルデヒドとケトン(3). 小テスト 1(到達目標 1 の試験)	13. 生体物質(1)	6. カルボン酸	14. 生体物質(2)	7. カルボン酸誘導体(1)	15. 期末試験(到達目標 2 の試験)	8. カルボン酸誘導体(2).	16. 試験問題の解説、まとめ
1. エーテルとエポキシド(1)	9. 縮合反応と共役付加反応(1)																		
2. エーテルとエポキシド(2)	10. 縮合反応と共役付加反応(2). 小テスト 2(到達目標 1 の試験)																		
3. アルデヒドとケトン(1)	11. アミンとその誘導体(1)																		
4. アルデヒドとケトン(2)	12. アミンとその誘導体(2)																		
5. アルデヒドとケトン(3). 小テスト 1(到達目標 1 の試験)	13. 生体物質(1)																		
6. カルボン酸	14. 生体物質(2)																		
7. カルボン酸誘導体(1)	15. 期末試験(到達目標 2 の試験)																		
8. カルボン酸誘導体(2).	16. 試験問題の解説、まとめ																		



<b>教科書</b> 「ベーシック有機化学」山口良平他著(化学同人)	
<b>参考書</b> 「Organic Chemistry」K.P.C.Vollhardt, N.E.Schore 著(W.H.Freeman & Comp.) 「Organic Chemistry」J.McMurry 著(Brooks/Cole) 補助器具:「HGS 分子模型」丸善	
<b>成績評価の方法</b> 単位の取得は、期末試験 40%、小テスト 40%(20% X 2 回=40%)、講義への取り組み状況 20%として評価し、全体で 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE 合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標 B に該当	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中均 (光応用工学科棟 211 号室、電話 & Fax: 088-656-9420, E-mail: tanaka@opt.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. オフィシアワー:随時

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171050
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	確率統計学[Probability and Statistics]		
<b>担当教員</b>	工学基礎教育センター教員		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 確率的な現象の捉え方、考え方を学ぶとともにデータを処理する際に使われる統計手法を習得することを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 初めて数理統計を学ぶ初学者のために統計資料の整理から始めて、その資料の特徴の解析、さらに確率論の基礎と小数標本論の初歩を解説する。			
<b>キーワード</b> 平均、分散、回帰直線、2項分布、正規分布			
<b>到達目標</b>			
1. 基本的な分布関数についての理解 2. 相関関係についての理解			
<b>授業の計画</b>			
1. 変量と平均	6. 数学的確率	12. ボワソン分布	
2. 分散、標準偏差	7. 加法定理	13. 正規分布 I : 定義	
3. チェビシェフの定理	8. 乗法定理	14. 正規分布 II : 応用	
4. 相関関係、回帰直線	9. 基本的分布関数	15. 中心極限定理	
5. 相関係数	10. 平均の性質	16. 期末試験	
11. 二項分布			
<b>教科書</b> 新訂 確率統計／高遠節夫・斉藤齊他:大日本図書			
<b>参考書</b> 統計学要論／青木俊夫, 吉原健一:培風館 数理統計概論／越昭三:学術図書出版社			
<b>成績評価の方法</b> 講義への取り組みを 30%、期末試験を 70%として評価し、総合点 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義内容を確実に理解するには、予習を行い、講義ノートをきちんととり、講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと。それ以上に、各自が普段から自主的に演習に取り組むこと。授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE 合格</b> 単位の取得をもって JABEE 合格とする。			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)			
<b>備考</b>			

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171410
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	画像処理[Image Processing]		
<b>担当教員</b>	仁木 登 [Noboru Niki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 画像処理の基礎知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> 画像処理は、計測、表示、伝送などの技術進歩により新しいデジタル映像環境において重要な役割を果たしている。たとえば、リモートセンシング、医療用 X 線 CT、コンピュータグラフィックス(CG)、バーチャルリアリティ(VR)などのデジタル画像処理システムである。ここでは、デジタル画像の基礎、画像の変換、画像強調、画像復元、画像圧縮、画像セグメンテーション、画像の表現と記述、画像システムについて述べる。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. デジタル画像処理の手法を理解する。 2. デジタル画像処理システム設計法を理解する。			
<b>授業の計画</b>			
1. 視覚モデル、標本化と量子化	9. 画像圧縮モデル、情報理論基礎	10. コーディング、標準化	
2. 画素間の基本的関係、座標変換、フィルム	11. 不連続の検出、境界の検出	12. 閾値処理、領域指向セグメンテーション	
3. 2 次元フーリエ変換、2 次元フーリエ変換の性質	13. 表現の概念、境界記述	14. 領域記述、モルホロジー	
4. 他の直交変換	15. 画像処理システム	16. 定期試験	
5. ポイント処理、空間フィルタリング			
6. フーリエ領域処理、カラー画像処理			
7. 退化モデル、逆フィルタリング			
8. LMS フィルタ、制約付最小二乗法			
<b>教科書</b> コンピュータ画像処理、田村秀行、オーム社			
<b>参考書</b> 画像工学の基礎、安居院猛・中嶋正之共著、昭晃堂 Digital image processing, R.C.Gonzalez and R.E.Woods, Addison Wesley Digital pictures processing 1, 2, A.Rosenfeld and A.C.Kak, Academic Press Inc. Computer Graphics, J.D.Foley, A.Dam, S.K.Feiner and J.F.Hughes, Addison Wesley デジタル画像処理(I),(II), 鳥脇純一郎著、昭晃堂			
<b>成績評価の方法</b> 定期試験(80%)、レポート及び講義への取り組み状況(20%)として評価し、全体で 60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE 合格</b> 単位合格と同一			
<b>学習教育目標との関連</b> B			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)			
<b>備考</b>	1. 試験の採点は厳密に行うために単位を落とすことが十分にある。特に、広範囲にまたがっているののでしっかり勉強する必要がある。講義を復習することは重要である。また、システム解析、信号処理を履修しておく必要がある。		

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171120
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	幾何光学[Geometrical Optics]		
<b>担当教員</b>	陶山 史朗 [Shiro Suyama]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 光産業の基盤技術をなす光応用工学にとって欠かすことのできない幾何光学について講義し、演習・レポート、小テストを実施して光応用工学に必要な基礎知識を修得させる。			

<b>授業の概要</b> 幾何光学の基本法則から、平面鏡、プリズム、レンズなどの光学素子の機能と構造、これらの光学素子を用いた簡単な光学系の設計法およびレンズの収差論の講義を通して、光学システムの設計に関する基礎力の養成を図る。			
<b>キーワード</b> レンズ、プリズム、収差、光線光学、反射鏡、臨界面、球面収差			
<b>到達目標</b>			
1. 幾何光学の基本をなす反射、屈折に関する法則を十分理解できること。 2. レンズの基本的事項を理解し、簡単な光学系の設計ができること。 3. レンズの収差についての知識を習得し、用途に応じたレンズの選択ができること。			
<b>授業の計画</b>			
1. 光学の基礎	9. 厚肉レンズ主面、節点、光学中心、光学系における諸概念	10. ミラー光学系の焦点、焦点距離、結像の公式、倍率	
2. 平面による反射・屈折、臨界面と全反射	11. 光線追跡、簡単な光学系における焦点距離などの計算、作図	12. 収差の概要、球面収差	
3. プリズムの最小偏角、種類、応用	13. 球面収差の解消、コマ収差、非点収差	14. 像面湾曲、歪曲収差、色収差	
4. 単球面の焦点と焦点距離、像の形成、ガウスの式	15. 全体のまとめ、光学系への応用について	16. 定期試験	
5. 光学系の行列表現、レンズのシステム行列			
6. レンズの概要、薄肉レンズにおけるレンズの公式			
7. 薄肉レンズの組み合わせ			
8. 理想光学系の主面、節点			
<b>教科書</b> 教科書を使わずに講義を行う。			
<b>参考書</b> 光学の基礎／左貝潤一著：コロナ社 ヘクト 光学 I / E. Hecht: 丸善 光技術入門／堀内敏行：東京電機大学出版局 光学入門／岸川利郎：オプトロニクス社 基礎からわかる光学部品／中村荘一 他 編：オプトロニクス社 中川治平「レンズ設計光学」(東海大学出版会)			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 教科書を使わずに講義を行う。適宜、レジュメを配布する。但し、レジュメには意図的に空欄があるため、講義中に埋めること。			
<b>成績評価の方法</b> ・講義に対する理解力の評価は、講義への取り組み状況、小テスト・演習・宿題および最終試験の成績を総合して行う。配点の比率 目安として講義への取り組み状況など 15%、小テストなど得点 15%、最終試験得点 70%。合格基準 単位の取得:総合点の60%以上。 ・定期試験の受験資格は、講義への出席が2/3以上であることを基本とする。但し、出席には、小テスト、演習、宿題などの提出を含む。			
<b>再試験の有無</b> 再試験は、定期試験の結果を見て判断し、掲示を行う。			
<b>受講者へのメッセージ</b> ・頻繁に小テスト、演習、宿題を実施するので、毎回の復習を欠かさずに行うこと。 ・行列表現を多用するので、復習しておくこと。 ・定期試験の受験資格は、講義への出席が2/3以上であることを基本とする。但し、出席には、小テスト、演習、宿題などの提出を含む。			
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。			
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標(B)と関連する。			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 陶山 史朗		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171450
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	企業における光デバイス・システム特論[Research and Development of Optical Devices/Systems in Corporations]		
<b>担当教員</b>	仁木 登, 工学部非常勤講師 [Noboru Niki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 光デバイス・システム分野の第一線で活躍している学外の研究者、技術者の学生生活から現在に至るまでの体験談、キャリア形成、高度専門技術者・研究者として参画された研究開発事例について講義、ディスカッションを通じて大学で「学ぶこと」と社会で「働くこと」の意義や関連性を考え、今後の自らのキャリアを考えるきっかけとすることができる。			

<b>授業の概要</b> 光デバイス・システム分野の第一線で活躍している学外の研究者、技術者をゲストスピーカーに招き、学生生活から現在に至るまでの体験談、キャリア形成、高度専門技術者・研究者として参画された研究開発事例について講義していた。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. 大学で「学ぶこと」、社会で「働くこと」の意義や関連性を十分考えることができる。 2. 学外講師の講義に対して積極的に質問することができる。 3. 自らのキャリアをデザインすることができる。			
<b>授業の計画</b>			
1. オリエンテーション(講義概要)	10. 企業における研究開発プロジェクト・マネージングについて	11. 車載用二次電池事業について	
2. 新薬開発におけるコンピュータ利用	12. ICTと情報セキュリティ	13. 光伝送技術の最新動向	
3. ネットワークビジネスの動向	13. 光伝送技術の最新動向	14. マルチメディア通信の最新動向	
4. ストレージデバイスの動向	14. マルチメディア通信の最新動向	15. まとめ(学外講師による講義、ディスカッションなどを総合して自らのキャリアデザインを考えレポートにまとめる。)	
5. 音声処理技術と応用	15. まとめ(学外講師による講義、ディスカッションなどを総合して自らのキャリアデザインを考えレポートにまとめる。)		
6. ランディ・パウシュ『最後の授業』に学ぶ			
7. スマートフォンのセキュリティ脅威の実態と対策			
8. 電気設備メーカーにおけるマルチメディア製品紹介			
9. 医用機器高速演算装置設計と計算方法から学んだこと	(ゲストスピーカーによってテーマ変更の場合がある)		
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b> レポート(100%)により評価し、60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。			
<b>学習教育目標との関連</b> BC			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)			
<b>備考</b>	テキスト 講義資料として講義中に配布。 参考書・参考資料等 講義中に紹介する。		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171520
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	技術者・科学者の倫理[Engineering Ethics]		
<b>担当教員</b>	河田 佳樹, 工学部非常勤講師 [Yoshiki Kawata]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 技術者としての意識と誇りを身につけ、工学倫理を守るために必要な知識と知恵を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 技術者に要求される倫理とは何か?比較研究と事例研究を中心に学ぶ。その上で、安全、環境、法規、知的財産権などに関連して、具体的にどのようなことが問題になるのか?実践的にどのように対処すればよいか?講師たちの技術者としての実体験をもとに、出来るだけ双方向的な授業をこころみる。工学倫理というむずかしいテーマにやさしく迫る。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
1. 工学倫理についての理解 2. 技術者としての誇りと責任感 3. 関連問題についての理解 4. 実践的対応力			
<b>授業の計画</b>			
1. はじめに	6. 安全と工学倫理	11. 製造物責任	
2. 比較論のこころみ	7. 環境・資源問題と工学倫理	12. 知的財産権と工学倫理	
3. 事例研究 1(グループ討議と発表)	8. リスク評価と技術者	13. 事例研究 4(レポートと発表・討議)	
4. 事例研究 2(レポートと小テスト)	9. 事例研究 3(レポートと発表・討議)	14. 国際工学倫理	
5. 技術者倫理と技術倫理	10. 技術者と法規	15. 実践的技術者倫理	

<b>教科書</b> 『技術者による実践的工学倫理 第2版—先人の知恵と戦いから学ぶ—』中村収三, (社)近畿化学工業会 工学倫理研究会 編著(発行所 化学同人)「2009年9月20日改訂 第2版」 全員が教科書をもっていることを前提に授業(レポート, 宿題, 小テストを含む)を行う。	
<b>参考書</b> 適宜紹介する。	
<b>成績評価の方法</b> プレゼンテーション評価 50%, レポート・小テスト 50%, 全体で60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 各クラス2人の講師が, それぞれ2日ずつ計15時間の授業を行う。全時間の出席を要する。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標(E)と関連する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html
<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員 光応用工学科 学務係 (オフィスアワー) 月曜日から金曜日(8:30 から 17:15)
<b>備考</b>	

<b>開講学期</b>	<b>2年・前期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5171140</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>必修</b>		
<b>科目名</b>	<b>基礎光化学[Basic Photochemistry]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>橋本 修一 [Shuichi Hashimoto]</b>		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>光応用工学科</b>
<b>授業の目的</b> 有史以来我々の生活を支えてきた光合成, 生物発光はもとより, 近年進展の著しい機能性光学材料などを分子論的に理解することは, エネルギー・環境問題, 光機能素子の開発等に関連して重要である。本講義では, 光と物質との関わりを基礎を分子論的に学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 本講義では, 光と物質との関わりについて, 特に光化学過程, 光物理過程, 光生物学, 光化学反応などの基礎を分子論的に易しく講述する。			
<b>キーワード</b> 励起状態, 光吸収と発光, 無放射遷移, 反応速度, 電子移動, エネルギー移動, 分光分析			
<b>到達目標</b> 物質による光吸収によって誘起される化学現象を扱う学問である光化学は光合成やナノフォトニクス基礎である。光化学について, 量子理論および熱力学をベースとし, さらに電子励起状態の概念を導入しながらその基本概念を学ぶ。光化学の応用技術, 分光分析, ナノ光学などを学ぶ上での基礎となる。			
<b>授業の計画</b>			
第1回: 導入, 光と分子の量子論	第9回: 反応速度論の初歩, 1次反応と2次反応		
第2回: 分子の電子状態, 分子軌道	第10回: 励起状態の消光, Stern-Volmer の式, Perrin の式		
第3回: 光吸収と電子励起状態の生成, 一重項と三重項	第11回: エネルギー移動, Foerster 型と Dexter 型		
第4回: 電子遷移の選択則, 励起状態の失活過程	第12回: 励起錯体, エキサイマーとエキシプレックス		
第5回: 励起状態分子の発光過程, 蛍光およびりん光	第13回: 光誘起電子移動の基礎		
第6回: 無放射遷移, 重原子効果	第14回: 遷移状態理論		
第7回: 蛍光寿命, 蛍光量子収率	第15回: Marcus 理論		
第8回: まとめと小テスト	定期試験		
<b>教科書</b> 光化学 I/井上晴夫他:丸善, 1999, ISBN:462104656X			
<b>参考書</b> Principles and Application of Photochemistry/B. Walde:Wiley, 2009, ISBN:9780470014943 Modern Molecular Photochemistry/N. J. Turro:Uni. Sci. Books, 1991, ISBN:9780935702712			
<b>成績評価の方法</b> 期末テストを50%とする。他に小テスト(25%)および授業中の演習(25%)を考慮する。全体として60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b> インフルエンザ等やむをえない理由で期末試験を欠席した場合再試験を行う。			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業中は必ずノートを取ること。授業中に演習等を行うので積極的に取り組む。関数機能付き電卓・PCを持って授業に臨むことが望ましい。			
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一			
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標 B に該当			
<b>WEB ページ</b>			

<b>連絡先</b> (Eメールアドレ、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合研究実験棟 405 号室 TEL:088-656-7389 (メールアドレス) E-mail: hashi@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 5-6:30 PM, 月曜日
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5171350</b>
<b>科目分野</b>	<b>専門教育科目</b>		
<b>選必区分</b>	<b>選択A</b>		
<b>科目名</b>	<b>光学設計演習[Exercise in Optical Systems and Equipments Design]</b>		
<b>担当教員</b>	<b>陶山 史朗, 山本 裕紹 [Shiro Suyama, Hirotsugu Yamamoto]</b>		
<b>単位数</b>	<b>1</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>光応用工学科</b>
<b>授業の目的</b> 光応用分野における「ものづくり」では, 光線描画により光学系を設計する力, 図面で記された部品の形状を把握する力, ならびに必要な部品を図面にして伝える力が求められる。これらの3つの分野に関して, 下記を到達目標とした演習を行う。 ・光線を描く力: レンズの薄肉近似を用いて光線を描けること。 ・図面を読む力: 投影図法(第三角法)で記された図面から3次元形状を理解できること。 ・図面を描く力: 3次元形状を投影図法(第三角法)で表現できること。			
<b>授業の概要</b> 3D ディスプレイやステレオカメラなどの3D 映像技術だけでなく, LED 照明などの光学機器に関する「ものづくり」ではアイデアを発想する段階では, レンズの焦点距離と位置, 大きさや光線の拡がりについてノートで光線を描いて概要を考えることが重要である。また, 設計された光学系を実現するためには, 必要な光学部品をカタログ図面から調べる力, さらに, 市販部品がない場合には, 必要な治具を考えて図面で伝える力が必要である。そこで, 薄肉近似下での光線描画の演習, 光学部品の図面と実物の対応を調べる演習, ならびに工業分野で広く用いられている投影図法(第三角法)による図面作成を中心とした演習を行う。			
<b>キーワード</b> 光学設計, 製図, 金属加工			
<b>到達目標</b>			
1. 光線を描く力: レンズの薄肉近似を用いて光線を描けること。 2. 図面を読む力: 投影図法(第三角法)で記された図面から3次元形状を理解できること。 3. 図面を描く力: 3次元形状を投影図法(第三角法)で表現できること。			
<b>授業の計画</b>			
1. ガイダンス(授業の概要, 意義, 到達目標, 評価法)			
2. 見学1(光応用分野での設計実例として, 3D ディスプレイ光学系を中心に光線描画と図面と光学部品の対応, 特注部品とその設計について実地現場を学ぶ。)			
3. 結像の基礎			
4. 現実のレンズ(レンズの分類, 長さの定義, 符号の約束)			
5. 作図による近軸像点の決定			
6. 投影図法(第三角法)			
7. ネジと穴の寸法記入法			
8. 光学部品の形と図面			
9. 見学2(旋盤, ボール盤, フライス盤の見学)			
10. 設計演習1(光学部品の設計と図面作成)			
11. 設計演習2(他の受講者が作成した図面の検討, 不明点のディスカッション)			
12. 製作実習1(旋盤を使った製作)			
13. 製作実習2(ボール盤を使った製作)			
14. 製作実習3(フライス盤を使った製作)			
15. 総括(設計図面と作品を比較して改善討論)			
<b>教科書</b> 結像光学の基礎/本田捷夫 著, :コロナ社, 2008, ISBN:4339018716 JIS にもとづく標準製図法/大西清 著, :理工学社, 2010, ISBN:4844527460			
<b>参考書</b>			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 光学部品メーカーのカタログや web ページにより公開されている光学部品の図面を適宜活用する。			
<b>成績評価の方法</b> 平素の取り組み(60%)とレポート(40%)で評価する。			
<b>再試験の有無</b>			



<b>受講者へのメッセージ</b> 加工実習, 設計製図実習, 製作実習は, 全時間出席すること. 工作機械使用時には安全にこころがけること.	
<b>JABEE合格</b> 単位合格をもって JABEE 合格とする.	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標(B)と関連する.	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑原(光棟 108, 088-656-9436) (メールアドレス) kuwahara@opt.tokushima-u.ac.jp(no-spam).jp
<b>備考</b>	1. 図面の描き方と読み方はものづくりの基本である. 実験系の研究遂行に必要な装置を製作するために本実習の内容は不可欠である. 2. 工学部内の機械実習工場において技術員より実地指導を受ける. 金属加工に適した服装など実習工場利用上の心得に従うこと.

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5171110
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	工業物理学実験[Laboratory in General Physics]		
<b>担当教員</b>	中村 浩一, 川崎 祐 [Koichi Nakamura, Yu Kawasaki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	物理学の基本概念をよりよく理解すること, および実験を行なう際の基本事項を習得することを目的として基礎的な物理学実験を行なう.		
<b>授業の概要</b>	統計処理(最小自乗法), 力学(ボルダの振り子, 角運動量), 物性(ヤング率, 単剛性率, 粘性係数, 抵抗の温度変化), 電磁気学(等電位線, 磁気モーメント, コンデンサ, 電磁誘導, トランジスタ特性, ホール効果), 熱(比熱, 温度伝導率), 波動(フレネルの複プリズム, 分光器と回折格子), 原子物理学(スペクトル, 光電効果, フランク・ヘルツの実験)の 20 テーマから適宜選択した実験を毎回 3~4 名ずつの班ごとに行ない, 毎回レポートを提出する.		
<b>キーワード</b>	物理学実験		
<b>到達目標</b>	1. 実験を行う際の基本事項や注意事項を理解する. 2. 実験で明らかになる物理現象を理解し, 得られた実験データを整理・解析出来るようになる.		
<b>授業の計画</b>	5. 実験 4	9. 実験 7	13. レポート指導 2
1. オリエンテーション	6. 実験 5	10. 実験 8	14. レポート指導 3
2. 実験 1	7. レポート指導 1	11. 実験 9	15. レポート講評
3. 実験 2	8. 実験 6	12. 実験 10	16. 総括
4. 実験 3			
<b>教科書</b>	物理学実験, 徳島大学工学部物理学教室で作成		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	平常点(出席状況, 実験への取り組み姿勢等)の評価を 60%, レポートの内容の評価を 40%とし, 全体で 60%以上で合格とする.		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	定められた期限までにレポートを提出すること. レポートチェック後再提出を求められることがある. その際には提出締切までに提出. なお, 実験時の安全について受講者各人は十分に注意すること. 予習・復習を行う事.		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 川崎 祐 (A207, Tel: 088-656-9878) 中村浩一 (A216, TEL:088-656-7577) (メールアドレス) 川崎 祐:yu@pm.tokushima-u.ac.jp 中村浩一:koichi@pm.tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. .		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171510
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	光電機器設計及び演習[Optoelectronic Instruments Design and Exercise]		
<b>担当教員</b>	仁木 登, 鈴木 秀宜 [Noboru Niki, Hidenobu Suzuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	光デバイス, 電子機器の利用方法を含めた実験技術や, マイクロプロセッサを用いたプログラミングの原理に対して理解を深め, ハードウェアとソフトウェアの基礎技術の修得を目的とする.		
<b>授業の概要</b>	マイクロプロセッサ, IC, インターフェイス回路などに関する講義及びマイクロプロセッサを用いた演習により, ハードウェアとソフトウェア間の構成や動作原理を修得することを目的とする. 授業では Z80 を用いた光素子の発振制御, 16 進スイッチ入力, リレー制御, 割り込み制御, 音声入力・再生処理を実習する. また, 創造性や問題解決能力を養うために設計及び演習を兼ねた応用演習を 6 回を行う.		
<b>キーワード</b>	マイクロプロセッサ Z80, 光素子の発振制御, 割り込み制御, 音声入力・再生, アセンブリ言語		
<b>関連/科目</b>	『プログラミング言語及び演習[Programming Languages and Exercise]』(0.5), 『光応用工学実験2[Optical Science and Technology Laboratory 2]』(0.2)		
<b>到達目標</b>	マイクロプロセッサを用いて, ハードウェアとソフトウェア間の動作原理を理解し, 計算機を有効に活用できる能力を高め, 光技術者として計算機システムの設計能力及び問題解決能力を養うことを目標とする. 基礎技術を習得するための授業を 9 回と, 創造性や問題解決能力を養うために設計及び演習を兼ねた応用演習を 6 回を行う.		
<b>授業の計画</b>	1. Z-80 8255 を用いた機械語・アセンブラ言語・BASIC 言語の基本操作	8. Z-80 PIO の制御	
2. 演算命令とアキュムレータ	3. 応用演習(演算命令とアキュムレータ)	9. Z-80 PIO を用いた SW 入力 LED 点灯プログラムの基本操作	10. 応用演習(SW 入力, チャタリング)
4. LED 点灯プログラムと WAIT サブルーチン	5. フラグレジスタ	11. Z-80 PIO の割り込み制御プログラム	12. 応用演習(割り込み制御)
6. 応用演習(WAIT サブルーチン, フラグレジスタ)	7. チャタリング	13. ACD0809 を用いた音声入出力プログラム	14. 応用演習(複合:Z-80 8255, Z-80 PIO)
		15. 応用演習(複合:Z-80 8255, Z-80 PIO, ACD0809)	
<b>教科書</b>	実習の原理, 方法を示したプリントを配布する.		
<b>参考書</b>	横井与次郎:「デジタル IC 実用回路マニュアル」 上野大平:「確実に動作する電子回路設計」		
<b>成績評価の方法</b>	講義への取り組み状況と応用演習で評価する. 配点の比率は, 講義への取り組み状況 40%, 応用演習 60%である. 単位修得のための合格基準は, 総合評価の 60%である.		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 1 時間の予習と 2 時間の復習をしたらうえて授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.		
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする.			
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の学習・教育目標「(B)基礎的な実験技術の習熟と創造性」に関連する.			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 仁木 登 088-656-9430, niki@opt.tokushima-u.ac.jp 鈴木 秀宜 088-656-9432, hidenobu-s@tokushima-u.ac.jp		
<b>備考</b>	1. 実習機器は故障しやすいので丁寧に扱うこと.		

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171320
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	高分子化学[Polymer Chemistry]		
<b>担当教員</b>	田中 均 [Hitoshi Tanaka], 丹羽 実輝 [Miki Niwa]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	身の回りには古くから様々な天然および合成高分子があるが, 最近, 特に機能材料の一つとして高分子は不可欠なものとなっている. 本講義では, "高分子とは何か"にはじまり, 高分子の生成, 機能等の基礎を電子, 原子, 分子のレベルから学び, 高分子物質をミクロな視点から理解する能力を養う.		

<b>授業の概要</b> 高分子の生成と反応、構造、およびその機能の基礎を実際にサンプル等を提示しながら講述する。	
<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b> 1. 重合反応及び高分子のキャラクタリゼーションの基本を理解する。 2. 高分子の機能化とその材料特性を理解する。	
<b>授業の計画</b> 1. 高分子とは何か?予備知識調べ 2. ラジカル重合(1) 3. ラジカル重合(2) 4. ラジカル重合(3) 5. ラジカル重合(4) 6. ラジカル重合(5).小テスト1(到達目標1の試験) 7. キャラクタリゼーション(1) 8. キャラクタリゼーション(2)	9. イオン重合 10. イオン重合・遷移金属触媒重合 11. 重縮合 12. 重付加・付加縮合.小テスト2(到達目標1の試験) 13. 高分子反応 14. 高分子材料・新素材 15. 期末試験(到達目標2の試験) 16. 試験問題の解説,まとめ
<b>教科書</b> 「高分子合成化学」山下雄也他著(東京電機大学出版局)	
<b>参考書</b> 「オプトエレクトロニクスと高分子材料」井手文雄著(共立出版) 「Principles of Polymer Chemistry」P.J.Flory 著(Cornell Univ. Press)	
<b>成績評価の方法</b> 単位の取得は、期末試験 40%、小テスト 40%(20% X 2 回 = 40%)、講義への取り組み状況 20%として評価し、全体で 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標 B に該当	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中均 (光応用工学科棟 211 号室、電話 & Fax: 088-656-9420, E-mail: tanaka@opt.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. オフィスアワー:随時

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171530
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択B		
<b>科目名</b>	コミュニケーション英語[English for international communication]		
<b>担当教員</b>	河田 佳樹, 工学部非常勤講師 [Yoshiki Kawata]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 基礎的な科学技術関連用語の正確な発音、内容の正確な表現法などを学ぶとともに、日常的な事項も含めて英語を聞き取る能力を高める、英語によるコミュニケーションの能力を育成することを目的とする。目標は、(1)一般向け科学雑誌に現れるレベルの技術英語の正確な理解が行える、(2)技術的及び日常的な問題について簡単なコミュニケーションができる、(3)技術英語は文法的には難しくないことを理解し、技術英語から逃げる意識をなくすことを目標とする。			
<b>授業の概要</b> ネイティブスピーカー(英語を母国語とする人)の非常勤講師のもとで、英会話を中心として、一般向け科学雑誌に現れるレベルの技術用語の正確な発音、内容の正確な表現法などを学ぶ。受講者のより速い英語修得を助けるために、レポートを始めとするホームワーク課題を出す。期末試験も行う。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> 一般向け科学雑誌に現れるレベルの技術英語から、必要な情報を拾い上げることができる。テクニカルな表現を含む簡単な英会話、日常的な簡単な英会話の受け答えができる。			
<b>授業の計画</b> 1. ガイダンス 2~15. 英会話を中心とした科学記事など 16. 定期試験			
<b>教科書</b> 別途、講義資料を配付する。			
<b>参考書</b>			

<b>成績評価の方法</b> 中間試験(50%)、期末試験(50%)により評価し、全体で 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 初回到達目標と授業計画の関係、到達目標ごとの評価方法について説明を受けること。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格をもって JABEE 合格とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標 F に該当する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員
<b>備考</b>	1. 本科目は、参加する姿勢と前向きな努力が大切です。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5171200
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	コンピュータ入門[Computer Exercise]		
<b>担当教員</b>	河田 佳樹 [Yoshiki Kawata]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> コンピュータの基礎知識を習得する。光技術は音楽・映像等の膨大な情報の伝達・処理をリアルタイムに行う IT 技術の基盤であり、次世代ユビキタス情報社会に不可欠な最先端の技術ある。さらに、生体ナノイメージング、分子イメージングなど生体工学、医療分野への応用も期待されている。将来の光技術の開発に向けて、コンピュータの基本構成とその動作原理の理解は必須である。			
<b>授業の概要</b> コンピュータの光技術の研究開発への寄与は大きく、その基礎知識の習得は必須である。コンピュータの基本構成と動作原理、数の表現、論理回路、順序回路、演算回路などを中心に述べる。これらに基づいてコンピュータの構成要素である演算処理装置、記憶装置、入出力装置などの構成方式と動作原理の理解を深めることを目的とする。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> 1. コンピュータの基本構成について理解する。 2. コンピュータの構成要素の動作原理を理解する。			
<b>授業の計画</b> 1. コンピュータ入門(1 章) 2. 数の表現(1)(2 章) 固定小数点表現、浮動小数点表現、補数 3. 数の表現(2)(2 章)進数変換、補数による 2 進数演算、論理演算 4. コンピュータの原理(3 章)コンピュータの構造、動作 5. 論理代数(1)(4 章)組み合わせ回路、ド・モルガンの定理 6. 論理代数(2)(4 章)標準化(主加法標準型、主乗法標準型) 7. 論理式の単純化(5 章)カルノー図、クワイン・マクレスキーの方法 8. 組み合わせ論理回路(6 章)基本回路、加算回路、デコーダ、伝播遅延時間 9. 順序回路(1)(7 章)順序回路、状態遷移図、状態遷移表、状態割当て 10. 順序回路(2)(7 章)順序回路の単純化、順序回路の実現方法 11. フリップフロップ(8 章)RS フリップフロップ、クロック付き RS フリップフロップ、JK フリップフロップ、D フリップフロップ、T フリップフロップ 12. フリップフロップを用いた順序回路の設計(8 章) 13. カウンタ(9 章)非同期カウンタ、同期カウンタ 14. シフトレジスタ(9 章) 15. 組み合わせ回路、順序回路に関する総合演習(6~9 章) 16. 定期試験			
<b>教科書</b> デジタル回路設計/築山修治、神戸尚志、福井正博:コロナ者、2010 コンピュータ基礎工学、曾和将容編著、昭晃堂			
<b>参考書</b> ・計算機方式、高橋義造著、コロナ社。			
<b>成績評価の方法</b> 定期試験(70%)、レポート及び授業への取り組み状況(30%)として評価し、全体で 60%以上を合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			

<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> 学科教育目標 B「系統的な専門教育課程のもとで光技術に関わる課題を創造的に見出し、与えられた制約の下で解決できる能力の育成。」と関連する。特に、光コンピューティング、光通信、信号処理、画像処理システムなどの分野におけるそれぞれの用途に適合した光システム構築に向けた能力の養成に関連する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータに関連する実験・実習はプログラミング言語および演習、光電機器設計と演習、光応用工学実験、光応用計算機実習で行う。</li> <li>2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。</li> </ol>

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171190
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	システム解析[System Analysis]		
<b>担当教員</b>	仁木 登 [Noboru Niki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 線形システムのご概念と解析法について習得する。			
<b>授業の概要</b> システム工学は計算機工学と並んで当学科では基礎科目の一つである。これはシステムの設計に基礎的な知識を提供する。ここでは、基礎的な考え方、基礎的な理論、具体例を示しながら平易に解説する。これらは状態、入力と応答、伝達関数、状態変数の変換、モード、高次系における入力と応答、安定性、可制御性と可観測性について述べる。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 線形システムのご概念について理解する。</li> <li>2. 線形システムの解析法について理解する。</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>9. モード、モード変数、行列関数</li> <li>10. 高次系の応答、応答の計算法</li> <li>11. 高次系の伝達関数</li> <li>12. 平衡状態の安定性</li> <li>13. 安定性の条件、安定性の判定法</li> <li>14. 可制御性、可観測性</li> <li>15. 正準分解</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 状態と状態方程式、状態空間、平衡状態</li> <li>2. 入力、状態および出力、線形系の応答</li> <li>3. 線形性と時不変性、インパルス応答</li> <li>4. ナルフローグラフ、伝達関数</li> <li>5. 周波数応答、周波数特性</li> <li>6. 状態ベクトルと一次変換</li> <li>7. 可制御標準形と可観測標準形</li> <li>8. 状態遷移行列</li> </ol>			
<b>教科書</b> 線形システム解析入門、示村悦二郎著、コロナ社			
<b>参考書</b> フィードバック制御の基礎、片山 徹著、朝倉書店 制御工学、正田 英介著、培風館 Digital Control of Dynamic Systems, G.F.Franklin et al., Addison-Wesley			
<b>成績評価の方法</b> 定期試験(80%)、レポート及び講義への取り組み状況(20%)として評価し、全体で 60%以上を合格 とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一			
<b>学習教育目標との関連</b> B			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)			
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験の採点は厳密に行うために単位を落とすことが十分にある。システム設計の基礎科目となるのでしっかり学習することが必要である。また、信号処理、画像処理の基礎科目にもなる。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171430
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	情報通信理論[Information Theory]		
<b>担当教員</b>	後藤 信夫 [Nobuo Gotoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 通信技術は情報通信システムの基本である。本講義では、有線および無線のアナログとデジタル通信に用いられる変調および復調理論、情報量と符号化、アナログ-デジタル変換などの通信システムに関して基礎知識の習得を目的とする。さらに通信システムの具体例として移動体通信システム、公衆通信ネットワークとインターネット、衛星通信システムなどに関する基礎知識を得る。			
<b>授業の概要</b> 下記授業計画に従って、有線および無線のアナログとデジタル通信に用いられる変調および復調理論、情報量と符号化、アナログ-デジタル変換などの通信システムに関して講義を行う。			
<b>キーワード</b> 通信システム、変調方式			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 信号と周波数スペクトルの関係を理解している。</li> <li>2. 振幅変調方式、周波数変調方式、位相変調方式の基本原則を理解している。</li> <li>3. 情報量の表現と符号化の基礎概念を理解している。</li> <li>4. 通信システム構成について理解している。</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>		<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 周波数変調方式および位相変調</li> <li>7. 周波数変調信号の復調</li> <li>8. 各種変調方式の比較</li> <li>9. 標準化定理</li> <li>10. アナログ-デジタル変換</li> <li>11. デジタル変調方式</li> </ol>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報通信の歴史</li> <li>2. 信号と周波数スペクトル</li> <li>3. 振幅変調方式</li> <li>4. 振幅変調方式における効率改善</li> <li>5. 振幅変調信号の復調</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>12. 符号化と誤り訂正</li> <li>13. 信号の多重化と多元接続</li> <li>14. 移動体通信システム</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>	
<b>教科書</b> 通信工学概論／木村磐根編著:オーム社, 1998			
<b>参考書</b> 通信方式入門／宮内一洋著:コロナ社 情報ネットワーク／樫尾次郎編著:オーム社			
<b>成績評価の方法</b> 講義に対する理解力の評価は講義への参加状況、小テスト、レポートやノートの講義への取り組み状況により総合的に行う。平常点と試験の成績とを 3:7 の比率で評価する。全体で 60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一			
<b>学習教育目標との関連</b> B			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 後藤(光応用棟 4 階 408、Tel:088-656-9415) (メールアドレス) goto.nobuo@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 8:30 - 17:00		
<b>備考</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の単元が終わるごとに小テストやレポートを課す。これらにより、各授業項目の達成度を評価する。</li> </ol>		

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171400
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	信号処理[Signal Processing]		
<b>担当教員</b>	仁木 登 [Noboru Niki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> デジタル信号処理の基礎知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> 情報化社会に伴って音声、画像のデジタル処理技術は求められている。これらは計算機やネットワークの著しい技術進歩とともに利用分野が飛躍的に拡大している。ここでは、高精度、高信頼性、処理の柔軟性の利点を有するデジタル信号処理システムの実現法について述べる。			



<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b>	
1. デジタル信号処理の基礎技術を理解する。 2. デジタル信号処理システムの実現法を理解する。	
<b>授業の計画</b>	
1. 離散時間信号, 離散時間システム 2. 線形時不変システム 3. フーリエ変換 4. 連続時間信号のサンプリング, 標本化定理 5. z 変換 6. 逆 z 変換 7. 線形時不変システムの変換・解析 8. 離散時間システムの構造	9. フィルタ設計技術, IIR 10. フィルタ設計技術, FIR 11. 離散フーリエ変換, 離散フーリエ変換の計算 12. 離散ヒルベルト変換 13. 離散信号解析 14. フーリエ解析, ケプストラム分析 15. デジタル信号処理システム 16. 定期試験
<b>教科書</b> デジタル信号処理の基礎, 樋口龍雄著, 昭晃堂	
<b>参考書</b> Discrete-Time Signal Processing, A.V.Oppenheim and R.W.Schafer, Prentice-Hall, Inc., Fundamentals of Digital Signal Processing, L.C.Ludeman, John Wiley & Sons, Inc. デジタル信号処理, 辻井重男・鎌田一雄共著, 昭晃堂	
<b>成績評価の方法</b> 定期試験(80%), レポート及び講義への取り組み状況(20%)として評価し, 全体で 60%以上を合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> B	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	
<b>備考</b>	1. 試験の採点は厳密に行うために単位を落とすことが十分にある。特に, レポートを提出してしっかり勉強する必要がある。また, システム解析を履修しておく必要がある。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171060
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	数値解析[Numerical Analysis]		
<b>担当教員</b>	竹内 敏己 [Toshiki Takeuchi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 工学の分野では, 様々な現象を数理モデル化し, 計算機を用いた数値計算によって現象の定量的および定性的解析を行うことが多い。企業活動における研究開発の場面においても, 開発コストの削減や開発速度を上げるために計算機を用いたシミュレーションが盛んに行われている。本講義では, 数値解析の基本的な考え方を習得するとともに, 数値計算における基本的な手法を身につけることを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 誤差などの数値計算における基礎的知識, 補間・数値積分・非線形方程式や常微分方程式の数値解法等の基本的な数値計算法について, 計算効率や精度に重点を置いて講義する。また, 毎回講義の最後に演習問題を解く時間を設ける。			
<b>キーワード</b> 誤差, 補間, 数値積分, 非線形方程式, 常微分方程式, 数値計算			
<b>到達目標</b> 1. 数値誤差について理解する。 2. 方程式の数値計算法を習得する。			
<b>授業の計画</b>		6. ラグランジュ補間	
1. 数値計算の例	7. チェビシェフ補間	12. 非線形方程式:ニュートン法	
2. 計算機における誤差	8. 数値積分の考え方	13. 連立非線形方程式に対するニュートン法	
3. 誤差伝播	9. 補間型積分則	14. 常微分方程式:オイラー法	
4. 桁落ち	10. 高精度近似積分	15. 常微分方程式:ルンゲ・クッタ法	
5. テイラー展開法	11. 非線形方程式:2 分法	16. 期末試験	
<b>教科書</b> 数値計算の基礎と応用 : 数値解析学への入門/杉浦洋:サイエンス社, 2009.12, ISBN:9784781912400 杉浦洋『数値計算の基礎と応用[新訂版]』サイエンス社			

<b>参考書</b> 数値解析/森正武:共立出版, 2002. 2, ISBN:4320017013	
<b>成績評価の方法</b> 期末試験を 70%, 講義への取り組み状況を 30%として評価し, 全体で 60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 無	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習が, 授業の理解と単位取得のために必要である。	
<b>JABEE合格</b>	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 竹内敏己(工学部建設棟 A206, 088-656-7544) (メールアドレス) takeuchi@pm.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 16:00~17:00
<b>備考</b>	授業で電卓(四則演算の機能)を使用するので用意しておくこと。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5171630
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択B		
<b>科目名</b>	生産管理[Production Control]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 企業マネジメント(工業経営)の中で, 「生産管理」がどう役割を果たしているかを理解する。			
<b>授業の概要</b> 「生産管理」のツール手法の概略紹介とともに, 企業マネジメントの効率的な遂行の手段としての位置づけについて講義する。			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b> 1. 生産管理の各手法を概略理解する。 2. 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する。			
<b>授業の計画</b>		3. 品質管理総論	
1. 序	4. 工程管理総論	6. 原価管理	
2. 生産管理体系	5. 工程管理各論	7. 安全管理, トヨタ生産方式	
		8. 環境管理	
<b>教科書</b> 毎講義時に, プリントその他で提示する。			
<b>参考書</b> 「(新版)よくわかる生産管理のしくみ」日本能率協会 「生産管理(経営指導者シリーズ)」企業経営通信学院「生産管理便覧」丸善			
<b>成績評価の方法</b> 毎講義時の試問解答ペーパーの提出(出席点 60 点満点-白紙は不可)及びその試問正解点 40 点満点で, 480 点以上を「可」とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 毎講義終了後, 簡単な事前試問(3 問程度)について, 解答ペーパーの提出を求める。			
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 佐野 稔		
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5171540
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択B		
<b>科目名</b>	専門英語[English for technical communication]		
<b>担当教員</b>	工学部光応用工学科教員		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

<b>授業の目的</b> 技術者としての英語によるコミュニケーション能力を養うことを目的とする。	
<b>授業の概要</b> 技術者に必要な英語によるコミュニケーション能力を高めるために、TOEIC 練習問題の演習を行い、リーディング、ライティングの英語の運用能力を向上させる。	
<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b> 1. 技術英文のリーディング、ライティングに通用する基礎文法の運用力を習得すること。 2. 技術英文のリーディング、ライティングに通用する表現力を習得すること。	
<b>授業の計画</b>	
1. 基礎文法演習 1	6. 表現力(語彙, 語法, 慣用表現)演習 1
2. 基礎文法演習 2	7. 表現力(語彙, 語法, 慣用表現)演習 2
3. 基礎文法演習 3	8. 表現力(語彙, 語法, 慣用表現)演習 3
4. 基礎文法演習 4	9. 表現力(語彙, 語法, 慣用表現)演習 4
5. 基礎文法演習 5	10. 表現力(語彙, 語法, 慣用表現)演習 5
11. リーディング演習 1	12. リーディング演習 2
13. リーディング演習 3	14. リーディング演習 4
15. リーディング演習 5	
<b>教科書</b> 授業中に紹介する。	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 演習レポートによって評価する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 単位合格をもって JABEE 合格とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標 F に該当する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 教務委員会委員
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・通年	<b>時間割番号</b>	5171620
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	卒業研究[Graduation study]		
<b>担当教員</b>	光応用工学科教員		
<b>単位数</b>	10	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 社会に貢献できる人材となるべく、自らの知識と能力を活用し、工学倫理、広い視野や使命感を持って問題解決する能力や自らの考えを正しく第三者に理解させるためのプレゼンテーション能力を養うことを目的とする。			
<b>授業の概要</b> 光応用工学科各教員の指導の下、具体的なテーマで卒業研究を行う。研究テーマに関連する専門書、実験書、論文などを調査し、教員の指導の下で実験または調査研究を進める。定期的に、研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などをディスカッションして研究を推進する。最終的に内容をまとめ卒業論文を提出するとともに卒業研究発表を行う。優れた研究成果があるときには学会発表を行うとともに、学術論文に投稿する。なお、本科目は広い意味でのエンジニアリングデザイン科目である。			
<b>キーワード</b> 問題解決能力、エンジニアリングデザイン、工学倫理、プレゼンテーション			
<b>到達目標</b> 1. 履修した科目の内容を課題に取り組み中で総合的に生かすことができる 2. 解決の方針をたてることができる 3. 必要な情報を集め、その内容を課題に取り組み中で生かすことができる 4. 課題の内容・結果について、社会的な位置づけや重要性等を理解している 5. 課題の内容・結果について、科学的・技術的位置づけや重要性を理解している 6. 自分のテーマに積極的にとりくんでいる 7. 工学倫理への配慮がある 8. 課題のデザイン内容を理解しており、その達成内容を明示できる 9. 研究を遂行する上で教員等とコミュニケーションをとることができる 10. 課題の内容を相手に理解させるプレゼンテーションができる			

<b>授業の計画</b>	
1.	4月に卒業研究着手規定を満たした学生を対象に、学年担任による調整配属を経て配属先を決定する。
2.	卒業研究の実施: 各研究室に配属された後、教員と相談の上具体的な研究課題を定める。輪講やセミナーを卒業研究の一部として実施する。
3.	教員の指導のもと、研究課題実施時に生ずる様々な問題に対して、計画、実行、評価、見直しを繰り返す。
4.	中間発表: 研究室内で後学期中に中間発表を実施する。また中間発表の実施時期に卒業研究に関するエンジニアリングデザインの内容を明文化する。
5.	卒業論文の提出と発表: 研究結果をまとめた論文を 2 月中旬までに提出し、2 月下旬までに行われる卒業論文発表会にて内容を発表する。
<b>教科書</b>	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> (あ)研究グループ内で行われる輪講・セミナー等への取り組み状況、(い)卒業研究に関する教員との打ち合わせや中間発表等の内容と状況、(う)提出された卒業研究論文要旨と卒業研究論文、(え)卒業研究発表会におけるプレゼンテーション、により評価を行う。評価対象となるには1項目も欠けてはならない。評価のウェイトの目安は、(あ)25%、(い)25%、(う)25%、(え)25%である。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> B,C,F	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	要件 受講者は、卒業研究着手規定を満たしており、光応用工学科会議において履修の承認を得ていること。 注意 知的財産保全の観点から、研究に関する情報を外部に漏らしてはならない。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5171160
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気回路1[Electrical Circuit Theory 1]		
<b>担当教員</b>	原口 雅宣 [Masanobu Haraguchi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 直流と正弦波交流の違い、正弦波交流回路の現象の理解が明確にできることを目的・目標とする。			
<b>授業の概要</b> 電気回路は、抵抗、キャパシタ、インダクタ、トランス、電源の種々の組み合わせから成り、驚くほど多彩な性質を示す回路である。本講義では、このような電気回路の基本的な性質を直流、正弦波交流回路に対して述べる。			
<b>キーワード</b> 直流回路、交流回路、対称三相回路			
<b>到達目標</b> 1. 直流においては、抵抗、電源の役割が理解でき、電圧・電流の求め方がわかる。 2. 正弦波交流においては、周波数、位相、周期、振幅、インピーダンス、複素電力の概念を説明できる。 3. 共振回路の特性を説明できる。 4. 対称三相交流回路の特徴と結線について説明ができる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 概説、直流回路要素	6. 基本素子の交流回路	12. 交流回路の定理	
2. 直流回路の解析	7. 組み合わせ素子の交流回路	13. 相互誘導回路	
3. 電圧源と電流源	8. 中間テスト、交流での電力の概念	14. 3 相交流電源と結線方式	
4. 正弦波交流回路の基礎	9. 交流の電力	15. 対称三相交流回路	
5. 交流の複素数表示	10. 共振回路	16. 期末テスト	
	11. 回路方程式		
<b>教科書</b> 例題と演習で学ぶ電気回路/服藤憲司 著; 森北出版, 2011, ISBN:9784627735811			
<b>参考書</b> 参考書: 電気回路を理解する(小澤孝夫 単著, 昭晃堂), 電気回路 I および II(2 冊, 小澤孝夫 単著, 昭晃堂)			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 教科書や講義が分かりにくいと感じたら、すぐに図書館等で代わりとなる参考書や電気回路に関する演習書を探して活用すべきである。			

<b>成績評価の方法</b> 講義毎に毎回実施するミニテスト、講義への取り組み状況、中間試験、期末試験によって評価する。ミニテスト;36%、講義への取り組み状況;14%、中間試験;25%、期末試験;25%とする。全体で60%以上を合格とする。なお、ミニテストは、講義の始めに前回と当日の講義内容の重要ポイントを10分で実施する。さらに、講義終了時に、講義で重要と思われた点、わかりにくかった点を提出させ、次回の講義にフィードバックさせる。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を理解するためには予習が必要です！授業を聴いているだけで理解できるとは思わないように。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の学習目標 B	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 原口 雅宣(光棟2F209 号室, tel:088-656-9411) (メールアドレス) haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 16:10～18:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5171170
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気回路2[Electrical Circuit Theory 2]		
<b>担当教員</b>	原口 雅宣 [Masanobu Haraguchi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

<b>授業の目的</b>	電気回路における過渡現象、高周波独特の現象の理解が明確にできることを目的・目標とする。			
<b>授業の概要</b>	電気回路は、抵抗、キャパシタ、インダクタ、トランス、電源の種々の組み合わせから成り、驚くほど多彩な性質を示す回路である。本講義では、このような電気回路の基本的な性質を2端子対回路、歪み波交流、過渡現象、分布定数回路に対して述べる。			
<b>キーワード</b>	2端子対回路、伝送行列、歪み波、フーリエ級数、過渡現象、分布定数			
<b>先行/科目</b>	『電気回路1[Electrical Circuit Theory 1]』(1.0)			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2端子対回路の行列表現ができる。</li> <li>歪み波交流の概要を簡潔に説明できる。</li> <li>RLC 回路の過渡現象の取り扱い方法がわかる。</li> <li>高周波回路である分布定数回路の取り扱い方法が理解でき、集中定数回路との区別ができる。</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>概説、2端子対回路の行列表現</li> <li>2端子対回路の行列変換</li> <li>2端子対回路の接続</li> <li>フーリエ級数</li> <li>フーリエ級数の歪み波交流への応用</li> <li>歪み波交流</li> <li>微分方程式による回路方程式の表現</li> <li>中間試験、光と2端子対回路やフーリエ級数</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>基本回路の過渡現象(RL 回路, RC 回路)</li> <li>複エネルギー回路の過渡現象</li> <li>交流回路の過渡現象(RL 回路, RC 回路)</li> <li>分布定数回路の基礎</li> <li>伝送線路と分布定数回路</li> <li>有限長の伝送線路</li> <li>伝送線路における反射</li> <li>期末試験、光と過渡現象や分布定数回路</li> </ol>		
<b>教科書</b>	例題と演習で学ぶ続・電気回路/服藤憲司 著、:森北出版, 2011, ISBN:9784627735910			
<b>参考書</b>	参考書:電気回路を理解する(小澤孝夫 単著, 昭晃堂), 電気回路 I および II(2 冊, 小澤孝夫 単著, 昭晃堂)			
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b>	教科書や授業が分かりにくと感じたら、図書館等で自分にあった参考書や演習書を探し、活用すべきである。			
<b>成績評価の方法</b>	講義毎に毎回実施するミニテスト、講義への取り組み状況、中間試験、期末試験によって評価する。ミニテスト;36%、講義への取り組み状況;14%、中間試験;25%、期末試験;25%とする。全体で60%以上を合格とする。なお、ミニテストは、講義の始めに前回と当日の講義内容の重要ポイントを10分で実施する。さらに、講義終了時に、講義で重要と思われた点、わかりにくかった点を提出させ、次回の講義にフィードバックさせる。			
<b>再試験の有無</b>				
<b>受講者へのメッセージ</b>	理解のためには予習をしてください。授業だけ聴いていても理解は困難です。			

<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の学習目標 B	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 原口 雅宣(光棟2F 209 号室, tel:088-656-9411) (メールアドレス) haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 16:10～18:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171080
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気磁気学1[Electricity and Magnetism 1]		
<b>担当教員</b>	後藤 信夫 [Nobuo Gotoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

<b>授業の目的</b>	力学とならぶ古典物理学の柱である電磁気学を平易に講義し、身のまわりの電氣的・磁氣的現象や材料物性を理解する上での基礎を解説する			
<b>授業の概要</b>	下記講義計画に従い、電気磁気学で必須のベクトル解析の基礎を解説し、クーロンの法則、ガウスの法則、静電誘導、微分形による法則の表示、静電エネルギー、オームの法則を講義する。			
<b>キーワード</b>	電磁場、電磁誘導			
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ベクトル解析を理解する</li> <li>電界の概念とクーロンの法則を理解する</li> <li>ガウスの法則を理解する</li> <li>電場とエネルギーの概念を理解する</li> </ol>			
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ベクトル解析</li> <li>電荷と電界</li> <li>クーロンの法則</li> <li>ガウスの法則</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>導体と電位</li> <li>誘電体</li> <li>コンデンサー</li> <li>コンデンサー</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>電界の発散</li> <li>ラプラスの方程式</li> <li>電界のエネルギー</li> <li>オームの法則</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>電気回路 1</li> <li>電気回路 2</li> <li>ジュール熱</li> <li>定期テスト</li> </ol>
<b>教科書</b>	基礎電磁気学(改訂版)/山口昌一郎著:電気学会			
<b>参考書</b>	適時紹介する。			
<b>成績評価の方法</b>	講義に対する理解力の評価は講義への参加状況、小テスト、レポートやノートの講義への取り組み状況により総合的に行う。平常点と試験の成績とを3:7の比率で評価する。全体で60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>				
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。			
<b>JABEE合格</b>	単位合格と同一			
<b>学習教育目標との関連</b>	A			
<b>WEB ページ</b>				
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 後藤(光応用棟 4 階 408, Tel:088-656-9415) (メールアドレス) goto.nobuo@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 8:30 - 17:00			
<b>備考</b>	1. 講義の単元が終わるごとに小テストやレポートを課す。これらにより、各授業項目の達成度を評価する。			

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171090
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電気磁気学2[Electricity and Magnetism 2]		
<b>担当教員</b>	陶山 史朗 [Shiro Suyama]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科



<b>授業の目的</b> 力学とならぶ古典物理学の柱である電磁気学を平易に講義し、身のまわりの磁気現象、電気磁気間でのやり取りや材料物性を理解する上での基礎を解説する	
<b>授業の概要</b> 下記講義計画に従い、磁場の概要、ガウスの法則、アンペアの法則、ビオ・サバルの法則、電磁力・ローレンツ力、変位電流、電磁誘導の法則、インダクタンスと磁気エネルギー、磁性体、マクスウェルの方程式、電磁波とポインティングベクトルを講義する。	
<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b> 1. 磁界の概念の理解 2. 静磁界の基本法則:ガウスの法則、アンペアの法則、ビオ・サバルの法則の理解 3. 変位電流、電磁誘導の法則の理解 4. マクスウェルの方程式と電磁波の理解	
<b>授業の計画</b>	
1. 電気磁気学2の概要、必要な概念	9. インダクタンスと磁界のエネルギー
2. 磁場の概要	10. 物質の磁性、磁性体
3. ガウスの法則、アンペアの法則	11. マクスウェルの方程式
4. ビオサバルの法則	12. 電磁ポテンシャル
5. 磁位、ベクトルポテンシャル	13. 電磁波の導出
6. 電磁力・ローレンツ力	14. 電磁波のエネルギーとポインティングベクトル
7. アンペア・マクスウェルの法則、変位電流	15. 全体のまとめと演習
8. ファラデーの電磁誘導の法則	16. 定期試験
<b>教科書</b> 基礎電磁気学(改訂版)/山口昌一郎:電気学会	
<b>参考書</b> 適時紹介する。	
<b>教科書・参考書に関する補足情報</b> 電気磁気学1との関係から教科書を指定しているが、他の参考書なども参考にして、講義は配布するレジメを中心に挙げる。但し、レジメには意図的に空欄があるため、講義中に埋めること。	
<b>成績評価の方法</b> ・講義への取り組み状況と小テスト・演習・宿題などと、定期試験の成績とを3:7の比率で評価する。全体で60%以上で合格とする。 ・定期試験の受験資格は、講義への出席が2/3以上であることを基本とする。但し、出席には、小テスト、演習、宿題などの提出を含む。	
<b>再試験の有無</b> 再試験は、定期試験の結果をもとに判断し、掲示する。	
<b>受講者へのメッセージ</b> ・頻繁に小テスト、演習、宿題を行うので、復習を行うこと。 ・ベクトルの概念が必須なので、復習しておくこと。 ・教科書以外の参考書、文献なども、必要に応じて盛り込んでいくので、注意すること。 ・定期試験の受験資格は、講義への出席が2/3以上であることを基本とする。但し、出席には、小テスト、演習、宿題などの提出を含む。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> A	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 陶山 史朗
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171180
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	電子回路[Electrical Circuit Theory]		
<b>担当教員</b>	山本 裕紹 [Hirosugu Yamamoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 増幅回路をはじめ、いくつかの基礎的な電子回路について講義を行うが、それらを覚えることが目的ではない。本講義を通じて、電子回路の計算法・設計法の“つぼ”が理解できれば良い。			
<b>授業の概要</b> 電子回路技術は多くの分野で利用されているため、その内容はアナログからデジタルまで多岐にわたる。本講義では、アナログ回路とデジタル回路について基礎的な事項を中心として要諦となる考え方を身につけることを主眼として講義を行う。随時、光応用工学に関わるトピックについても学習する機会を設ける。			

<b>キーワード</b>	
<b>到達目標</b> 1. ダイオードやトランジスタなどの半導体素子の動作原理と等価回路を理解すること(1 から 4 回) 2. オペアンプを用いた演算回路の設計と増幅回路を理解すること(5 回から 8 回) 3. デジタル回路を構成するデバイスとシステム設計の基本原則を理解すること(9 回から 13 回) 4. 光応用工学に関わる電子回路技術の基礎を理解すること(8 回, 14 回, 15 回, 随時)	
<b>授業の計画</b>	
1. ガイダンス、電子回路の基礎	9. デジタル回路とブール代数
2. 半導体デバイスの動作原理	10. デジタルデバイスの動作原理
3. 増幅回路の形式と動作原理	11. TTL と CMOS
4. 小信号等価回路	12. 組合せ回路
5. 小信号等価回路による増幅回路の解析	13. 順序回路
6. オペアンプの性質と基本回路	14. DA 変換回路と AD 変換
7. オペアンプを用いた演算回路	15. デジタル回路と光工学
8. アナログ電子回路と光工学	16. 期末試験
<b>教科書</b> 高橋進一, 岡田英史:電子回路(培風館)ISBN978-4-563-03683-6	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 講義への取り組み状況と試験の成績とを4:6の比率で評価する。講義への取り組み状況は毎回のレポート提出で評価される。全体で60%以上で合格とする。到達目標1, 2, 3はレポートと期末試験で評価される。到達目標4はレポートで評価される。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> キルヒホッフの法則やテブナンの定理など、電気回路の基本を復習しておくこと。	
<b>JABEE合格</b> 単位認定と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標(B)と関連する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山本(光棟411, 088-656-9426) (メールアドレス) 山本(yamamoto@opt.tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171340
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	データ構造とアルゴリズム演習[Programming Exercises : An Introduction to Data structures and Algorithms]		
<b>担当教員</b>	河田 佳樹, 柳谷 伸一郎, 鈴木 秀宣 [Yoshiki Kawata, Shinichiroh Yanagiya, Hidenobu Suzuki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> ・実践的なプログラミングの基盤となるデータ構造とアルゴリズムを理解し、アルゴリズム設計・解析の基礎を習得する。 ・C言語の仕様全般を概ね習得し、基本的な言語仕様に関してテキストなどを参照せずに目的に応じたプログラムを設計し、開発することができる。 ・データ構造とアルゴリズムの基礎を理解し、プログラム開発に応用することができる。 ・設計したアルゴリズム、作成したプログラムの仕様を説明する技術を身につける。			
<b>授業の概要</b> データ構造とアルゴリズムを核とする課題に対して各自がアルゴリズム設計・プログラミング(C言語を使用)・プログラム仕様に関するレポート作成を行い、面接員(教員)の試問を受ける。			
<b>キーワード</b>			
<b>先行/科目</b> 『プログラミング言語及び演習[Programming Languages and Exercise]』(1.0)			
<b>到達目標</b> 実践的なプログラミングの基盤となるデータ構造とアルゴリズムを理解し、アルゴリズム設計・解析の基礎を習得する。 ・C言語の仕様全般を概ね習得し、基本的な言語仕様に関してテキストなどを参照せずに目的に応じたプログラムを設計し、開発することができる。 ・データ構造とアルゴリズムの基礎を理解し、プログラム開発に応用することができる。 ・設計したアルゴリズム、作成したプログラムの仕様を説明する技術を身につける。			

<b>授業の計画</b>	
第1回: 演習の進め方に関する概要説明・C言語の復習演習	
第2回: データ型・演算子・式に関する小規模プログラムの作成と動作解析	
第3回: 制御の流れに関する小規模プログラムの作成と動作解析	
第4回: 関数に関する小規模プログラムの作成と動作解析	
第5回: ポインタと配列に関する小規模プログラムの作成と動作解析	
第6回: 構造体に関する小規模プログラムの作成と動作解析	
第7回: 入出力に関する小規模プログラムの作成と動作解析	
第8回: データ構造「スタック」の実装	
第9回: データ構造「スタック」を応用した小規模プログラムの作成と動作解析	
第10回: データ構造「キュー」の実装	
第11回: データ構造「キュー」を応用した小規模プログラムの作成と動作解析	
第12回: データ構造「リスト」の実装	
第13回: データ構造「リスト」を応用した小規模プログラムの作成と動作解析	
第14回: 探索アルゴリズム「2分探索」・「2分探索木」の実装	
第15回: 探索アルゴリズム「2分探索木」を応用した小規模プログラムの作成と動作解析	
第16回: 総復習	
<b>教科書</b> あるごりずむ／広瀬貞樹:近代科学社, 2006 プログラミング言語 C/BW カーニハン/DM リッチー, 石田晴久訳:共立出版, 1989	
<b>参考書</b> プログラミング作法/BW カーニハン/R パイク, 福崎俊博訳:ASCII, 2000	
<b>成績評価の方法</b> 演習は全て出席し, レポートを提出しなければ成績評価の対象外となる。演習レポートの提出状況と内容, 口頭試問の結果を総合して評価する。演習レポートの内容が採点基準に満たない場合, 再提出を求めることがある。成績は演習レポート80%, 口頭試問20%で評価し, 全体で60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b> 無し	
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 学科教育目標 B「系統的な専門教育課程のもとで光技術に関わる課題を創造的に見出し, 与えられた制約の下で解決できる能力の育成, 分類:計算機・画像処理関連の知識」と関連する。	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 柳谷 伸一郎:光応用工学科棟3階310号室 TEL 088-656-9416 鈴木 秀宣:光応用工学科棟5階509号室 TEL 088-656-9432 (メールアドレス) 柳谷 伸一郎:syanagiya@tokushima-u.ac.jp 鈴木 秀宣:hidenubu-s@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171280
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	統計力学[Statistical Mechanics]		
<b>担当教員</b>	岸本 豊 [Yutaka Kishimoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	統計力学は, 熱力学とは対照的に, 原子・分子等の微視的な情報をもとに材料の巨視的な性質を予測するものである。本講義では, 熱平衡状態での物理量の熱平均値を求める際に用いられる統計力学的手法について, 基礎的な概念と知識および応用力を習得させることを目標とする。		
<b>授業の概要</b>	統計力学で用いられる基本的な集団-マイクロカノニカル集団, カノニカル集団, グランドカノニカル集団-の概念を述べ, 熱平衡について講義し, 巨視的物理量が原子・分子の性質から導かれることについて解説する。また, 古典統計と量子統計の相違点についても講義し, 統計力学の応用について解説する。		
<b>キーワード</b>	位相空間, ミクロカノニカル集団, カノニカル集団, グランドカノニカル集団, 分配関数, 自由エネルギー, フェルミ粒子, ボーズ粒子, 平均場, 二次相転移, 臨界指数		

<b>到達目標</b>	
1. 熱平衡および統計集団について理解する。	
2. 温度, エントロピー, 自由エネルギー等を理解する。	
3. 量子統計の特徴を理解する。	
4. 基本的な系へ適用する。	
5. 相転移と臨界現象への適用。	
<b>授業の計画</b>	9. 量子統計(2) ボーズ・アインシュタイン統計
1. はじめに-統計力学とはなにか-	10. 量子統計の応用
2. ミクロカノニカル集団と熱平衡	11. まとめ(1)
3. 温度とエントロピー	12. 相転移と臨界現象 I
4. 熱力学の法則	13. 相転移と臨界現象 II
5. カノニカル集団とボルツマン分布	14. 相転移と臨界現象 III
6. カノニカル集団の応用	15. まとめ(2)
7. グランドカノニカル集団	16. 予備日
8. 量子統計(1) フェルミ・ディラック統計	17. 期末試験
<b>教科書</b>	統計力学／北原和夫・杉山忠男:講談社, 2010, ISBN:9784061572089
<b>参考書</b>	大学演習 熱学・統計力学／久保亮吾(編):裳華房, 昭和36年, ISBN:4785380144
<b>成績評価の方法</b>	試験70%(期末試験), 平常点30%(授業への取り組み状況)として評価し, 全体で60%以上で合格とする。
<b>再試験の有無</b>	再試験によって評価する。
<b>受講者へのメッセージ</b>	
<b>JABEE合格</b> JABEE合格は単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 学習・教育目標 B「系統的な専門教育課程のもとで光技術に関わる課題を 創造的に見出し, 与えられた制約の下で解決できる 能力の育成」	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岸本 豊(A202, 088-656-7548) (メールアドレス) yutaka@pm.tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171270
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	熱力学[Thermodynamics]		
<b>担当教員</b>	森 篤史 [Atsushi Mori]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	2年次前期に初等熱力学を講ずる。本科目は材料系の科目であるが, 熱力学は熱収支などの環境問題の基礎科目でもある。材料の平衡状態での性質を理解するために必須の熱力学の考え方と方法に慣れ親しむ。併せて, 熱力学の基本的な概念と知識のいくつかを学ぶ。		
<b>授業の概要</b>	前半8回(目標1)と後半8回(目標2)それぞれひとまとまりの授業を行う。基礎知識を確かめるような試験を行い, レポートを課す。レポート課題は, 自宅でじっくり考えることを行わせるようなものとする。		
<b>キーワード</b>	熱, 温度, エネルギー, エンタルピー, エントロピー, 自由エネルギー, 化学ポテンシャル		
<b>関連/科目</b>	『統計力学[Statistical Mechanics]』(0.5)		
<b>到達目標</b>	1. 熱力学の原理 2. 熱力学の応用		
<b>授業の計画</b>			
1. 序論:熱力学, 状態量, 温度, 理想気体			
2. 序論:気体分子運動論, 実在気体, 気体の液化;熱力学第一法則:状態量の性質			
3. 熱力学第一法則:仕事と熱, 熱力学第一法則, 準静的過程, エンタルピー, 熱容量			
4. 熱力学第一法則:Joule の実験, 気体の熱容量, 相変化に伴う熱量, 反応熱, 反応熱の温度依存性, 理想気体の断熱変化;熱力学第二法則:Carnot サイクル			
5. 熱力学第二法則:熱力学第二法則, 可逆過程と不可逆過程, 熱機関の効率			
6. 熱力学第二法則:熱力学的温度, Clausius の式, エントロピー, エントロピーの計算, エントロピーの分子論的意味			
7. 試験:熱力学第二法則:熱力学第三法則, 標準エントロピー			

8.	目標 1 の講評, レポートの出題
9.	自由エネルギー-化学平衡:自由エネルギー, 平衡条件, 熱力学の関係式
10.	自由エネルギー-化学平衡:開いた系, 化学ポテンシャルの性質, 理想気体の化学ポテンシャル
11.	自由エネルギー-化学平衡:質量作用の法則, 標準生成 Gibbs エネルギー, 平衡定数の温度変化, 熱力学と平衡定数
12.	相平衡と溶液:相律, 二成分系の相平衡, Clapeyron-Clausius の式
13.	相平衡と溶液:理想溶液, Raoult の法則, 部分モル量
14.	相平衡と溶液:希薄溶液, Henry の法則, 沸点上昇と凝固点降下, 浸透圧
15.	試験:相平衡と溶液:活量
16.	目標 2 の講評, レポートの出題
<b>教科書</b>	化学熱力学/原田義也:裳華房, 1984, ISBN:4785830228
<b>参考書</b>	千原秀昭・稲葉章訳「アトキンス物理化学要論」(東京化学同人)
<b>成績評価の方法</b>	前半(目標 1), 後半(目標 2)ともに, 試験(10 点)と演習(10 点)とレポート(30 点)の 50 点満点づつで評価する。何れの到達目標についても 60%以上で合格とする(合計点で 60%を超えていても, 片方が 60%以下なら, 科目合格とはならない)。
<b>再試験の有無</b>	到達目標ごとに再試験または再レポートによって評価する。
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。両方の目標について, いずれについても出席率が 60%以上を試験の受講資格とする。出席率が 60%未満の場合は, 試験が受けられないだけでなく, レポートの採点もしない。
<b>JABEE 合格</b>	JABEE 合格は単位合格と同一とする。
<b>学習教育目標との関連</b>	学習・教育目標 B [系統的な専門教育のもとで光技術に関わる課題を創造的に見出し, 与えられた制約の下で解決できる能力の養成]
<b>WEB ページ</b>	<a href="http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10802/education/ThDyn-13/index.html">http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10802/education/ThDyn-13/index.html</a>
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>	(学生用連絡先) 森 篤史, 光棟 407 室, 088-656-9417 (メールアドレス) atsushimori@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 掲示の通り
<b>備考</b>	1. 提出物はすべて A4 縦置横書き, 学年番号, 氏名, 質問書の提出日(必要な場合は, 締切日等も)を上部に明記, 必要ならば, 左上をホッチキス留め。 2. 正解待ち症候群を助長することを避けようと思う。 3. オフィスアワーは, 随時とします。超多忙でない限り, 仕事の手を止めて対応します。ただ, 仕事の書類などがテーブルの上に散乱したままでの対応になることは, ご容赦下さい。

<b>開講学期</b>	4年・前期	<b>時間割番号</b>	5171420
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	パターン認識[Pattern Recognition]		
<b>担当教員</b>	仁木 登 [Noboru Nikl]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	パターン認識の手法および実用例を示しながらシステム設計を習得する。		
<b>授業の概要</b>	マシンに認識機構を付けてインテリジェント化することが求められている。このためにパターンを処理・認識する基本的な処理技術を対象にしている。また, インテリジェントなマシンの設計にはセンサー系も大きく依存する。そこで, システム全体を見渡してシステム設計をする必要がある。本講義では, 計測技術, 特徴抽出, 分類などに関する基礎的な理論, 学問的にまた実用的に評価の高い画像認識システムを紹介しながらシステムの考え方についてのべる。		
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>	1. パターン認識の手法を理解する。 2. 画像認識システム設計法を理解する。		
<b>授業の計画</b>	1. 画像認識の概要	6. 特徴量の正規化・選択, KL 展開	12. 構文解析的パターン認識
2. 画像の変換, フィルタリング	7. 最小距離分類	13. パターン記述, 文法生成, 応用例	
3. 2 値画像の技法	8. ベイズの識別規則	14. ニューラルネットワーク, バックプロパゲーション	
4. 濃淡画像解析の技法	9. クラスタリング	15. 画像認識システム	
5. 特徴抽出	10. DP マッチング	16. 定期試験	
<b>教科書</b>	コンピュータ画像処理, 田村秀行, オーム社		

<b>参考書</b>	パターン識別, 尾上守夫監訳, 新技術コミュニケーションズ 画像認識論, 長尾真著, コロナ社 Learning Machines, N.J.Nilsson, Morgan Kaufmann Publishers Inc. Statistical Pattern Recognition, K.Fukunaga, Academic Press, Inc.		
<b>成績評価の方法</b>	定期試験(80%), レポート及び講義への取り組み状況(20%)として評価し, 全体で 60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		
<b>JABEE 合格</b>	JABEE 合格は単位合格と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	B		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)</b>			
<b>備考</b>	1.	試験は知識の確認だけでなくパターン認識システムの設計問題を出し, 興味ある答案を期待している。また, 信号処理, 画像処理, 計算機システム, 計算機の実験・実習を履修しておく必要がある。	

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171130
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	波動光学[Wave Optics]		
<b>担当教員</b>	森 篤史 [Atsushi Mori]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	光を冠した学科出身であることに恥じないレベルとして, 「光が電磁波であることを理解し, そのイメージを持つようにし, 光の波動性に起因する現象について理解する」。		
<b>授業の概要</b>	教科書(梅垣真祐著「フォトニクス基礎」(倍風館))の「マクスウェル方程式と数学」「平面波～等方性均一媒質中の光波(その 1)」「回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2)」の章を, 付録で補いながら, 講ずる予定である。大学院で結晶光学を講じなくなったことから, 近年は「異方性媒質中の光波」についても扱うようにしている。		
<b>キーワード</b>	マクスウェル方程式, 波動方程式, 回折積分, フラウンホーファー回折, フーリエ変換, フレネルの法線方程式, 屈折率楕円体		
<b>先行科目</b>	『電気磁気学2[Electricity and Magnetism 2]』(0.8), 『ベクトル解析[Vector Analysis]』(0.8)		
<b>関連科目</b>	『光導波工学[Guided-wave optics]』(0.7), 『光演算処理[Analog Optical Computing]』(0.7)		
<b>到達目標</b>	1. 電磁波光学 2. 回折, 干渉		
<b>授業の計画</b>	1. マクスウェル方程式と数学 2. マクスウェル方程式と数学 3. マクスウェル方程式と数学, 演習 1 4. 平面波～等方性均一媒質中の光波(その 1) 5. 平面波～等方性均一媒質中の光波(その 1) 6. 平面波～等方性均一媒質中の光波(その 1) 7. 試験 1 8. 試験 1 の解説, レポート 1 の出題	9. 回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2) 10. 回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2), 演習 2 11. 回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2) 12. 回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2) 13. 回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2) 14. 回折する光波～等方性均一媒質中の光波(その 2) 15. 試験 2 16. 試験 2 の解説, レポート 2 の出題	
<b>教科書</b>	フォトニクス基礎/梅垣真祐:培風館		
<b>参考書</b>	和達三樹「物理のための数学」(岩波書店) 大坪順次著「光入門」(コロナ社) 左貝潤一著「光学の基礎」(コロナ社) E, Hecht "Optics"(Addison-Wesley)		
<b>成績評価の方法</b>	二つの目標をそれぞれ 50 点づつとして, いづれも 30 点以上で合格とする。試験(10 点)と演習(10 点)とレポート(30 点)によって採点する。二つの目標のいずれもが合格の場合に科目として合格となる。		
<b>再試験の有無</b>	不合格となった目標についてのみ試験+レポートによって合否を再判定し, いずれの目標もが合格となれば, 科目合格となる。注:年度を越えて到達目標ごとの合格を希望するものは, 既に合格している目標については, 自己申告をすること(ただし, 合格最低点の扱いとします)。		



<b>受講者へのメッセージ</b> 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。先行科目を履修していない学生は、それが授業の大きな支障となるので、他の学生の利益を考え、履修取りやめの指導を行うことがある(工学部規則第4条では、履修科目登録に先立って担当教員の承認が必要と記されている)。	
<b>JABEE合格</b> JABEE合格は単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> B	
<b>WEBページ</b>	http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/DAV/person/S10802/education/WaveOptics-13/index.html
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 森 篤史、光棟 407 室、088-656-9417 (メールアドレス) atsushimori@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 掲示の通り
<b>備考</b>	1. レポート等、提出物はすべて A4 縦置き横書きに限る。また、必要な場合は、左上をホチキス留めすること。 2. 正解待ち症候群を助長することを避けるよう努めます。 3. オフィシアワーは、随時とします。超多忙でない限り、仕事の手を止めて対応します。ただ、仕事の書類などがテーブルの上に散乱したままでの対応は、ご容赦下さい。 4. 教科書に従って進めるようにしたとき、当時の担当教員に『干渉』を『波動光学』ではやらないことに留意して『光の基礎』の該当する部分を講じてもらうように申し入れています。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5171650
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	光の基礎[Basic Properties, Phenomena and Applications of Light ]		
<b>担当教員</b>	陶山 史朗 [Shiro Suyama]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>			
<b>授業の概要</b>			
<b>キーワード</b>			
<b>到達目標</b>			
<b>授業の計画</b>			
<b>教科書</b>			
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	本講義は、共通教育・学部解放科目 B「光の基礎」と同一科目である。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>	B		
<b>WEBページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)			
<b>備考</b>	1. 本講義は、共通教育・学部解放科目 B「光の基礎」と同一科目であるので、そちらの講義概要を参照のこと。 2. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171240
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	光・電子物性工学1[Optical and Electronic Properties of Materials 1]		
<b>担当教員</b>	原口 雅宣 [Masanobu Haraguchi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	電子エネルギー帯の起源、電子エネルギー帯中の電子・正孔の性質、格子振動の性質、格子振動と熱伝導の関係が理解できることを目的・目標とする。		
<b>授業の概要</b>	簡単な量子力学とその応用、結晶構造、電子のエネルギー帯、格子振動と熱伝導について述べる。		
<b>キーワード</b>	シュレーディンガー方程式、電子エネルギー帯、格子振動、熱伝導、電子・正孔		
<b>到達目標</b>	1. 代表的結晶構造と空間格子の考え方を説明できる。 2. 格子振動がどのようなものかを理解できる。 3. 光物性の理解のためにシュレーディンガー方程式の意味と簡単な応用ができる。 4. 電子エネルギー帯の起源が理解できる。 5. 金属と半導体、絶縁体の特性の違いをバンド構造を用いて説明できる。		
<b>授業の計画</b>	1. ガイダンス、光・電子物性工学の重要性 2. 結晶の結合力と空間格子 3. ブラベー格子と代表的な結晶構造 4. 格子振動 5. 2種原子からなる1次元格子振動 6. 固体の熱的性質 7. 古典的電子伝導モデル 8. 中間テスト、量子力学の概念	9. シュレーディンガー波動方程式 10. トンネル効果と水素原子 11. 金属の自由電子モデル 12. 金属の電子密度分布とフェルミレベル 13. クローニヒペニー模型 14. 結晶内における電子の運動 15. 金属、半導体、絶縁体のバンド構造 16. 期末テスト	
<b>教科書</b>	電子物性/松澤剛雄, 高橋清, 齊藤幸喜 共著, :森北出版, 2010, ISBN:9784627772021		
<b>参考書</b>	参考書:固体物理学入門上, 下(2冊, キッテル著, 宇野良清ら訳, 丸善), 固体物性上, 下(2冊, 浜口智尋著, 単著, 丸善), 半導体の物理(御子柴宣夫, 単著, 培風館)		
<b>成績評価の方法</b>	講義毎に毎回実施するミニテスト, 講義への取り組み状況, 中間試験, 期末試験によって評価する。ミニテスト:36%, 講義への取り組み状況:14%, 中間試験:25%, 期末試験:25%とする。全体で60%以上を合格とする。なお, ミニテストは, 講義の始めに当日と前回の講義内容の重要ポイントを10分で実施する。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	馴染みのない言葉や概念が数多く出てくるので, 戸惑うことが多いと思われる。教科書を事前に読みキーワードにアンダーラインを引く等の予習をして言葉や概念に馴染めるよう努力することが必要である。		
<b>JABEE合格</b>	単位合格と同一。		
<b>学習教育目標との関連</b>	光応用工学科の学習目標 B		
<b>WEBページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 光応用工学科棟2F 209号室 TEL:088-656-9411 (メールアドレス) haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 16:10~18:00		
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171250
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	光・電子物性工学2[Optical and Electronic Properties of Materials 2]		
<b>担当教員</b>	原口 雅宣 [Masanobu Haraguchi]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	光吸収・光放出の機構, 光電効果, 自然放出・誘導放出, 電気伝導, 超電導現象, 物質の誘電特性・磁気特性が理解できることを目的・目標とする。		

<b>授業の概要</b> 光・電子物性工学1の内容に基づき、光吸収・光放出・光電効果、誘導放出について述べる。さらに、電気伝導、超電導現象、物質の誘電特性・磁気特性についても述べる。	
<b>キーワード</b> 光吸収・光放出、光電効果、自然放出・誘導放出、超電導現象、誘電特性・磁気特性	
<b>先行/科目</b> 『光・電子物性工学1[Optical and Electronic Properties of Materials 1]』(1.0)	
<b>到達目標</b> 1. 半導体の特徴が説明できる。 2. 半導体での光吸収と発光の概要を説明できる。 3. 光導電効果と光起電力効果を説明できる。 4. 物質の誘電的性質を説明できる。 5. 磁性体や超伝導体の概要を説明できる。	
<b>授業の計画</b> 1. ガイダンス、半導体 2. 真性半導体、不純物半導体 3. 半導体のキャリア密度と電気伝導 4. PN 接合、ダイオード 5. 光の吸収と反射	6. 光導電効果 7. 光起電力効果 8. 中間試験、誘電体の概要 9. 誘電率と分極 10. 分極の機構 11. 誘電分散 12. 磁化率と透磁率 13. 磁性体 14. 超伝導 15. 固体の量子効果 16. 期末試験、試験問題の解説
<b>教科書</b> 電子物性/松澤剛雄, 高橋清, 斉藤幸喜 共著, :森北出版, 2010, ISBN:9784627772021	
<b>参考書</b> 参考書:固体物理学入門上, 下(2冊, キッテル著, 宇野良清ら訳, 丸善), 固体物性上, 下(2冊, 浜口智尋著, 単著, 丸善), 半導体の物理(御子柴宣夫, 単著, 培風館)	
<b>成績評価の方法</b> 講義毎に毎回実施するミニテスト、講義への取り組み状況、中間試験、期末試験によって評価する。ミニテスト;36%, 講義への取り組み状況;14%, 中間試験;25%, 期末試験;25%とする。全体で60%以上を合格とする。なお、ミニテストは、講義の始めに当日と前回の講義内容の重要ポイントを10分で実施する。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 馴染みのない言葉や概念が数多く出てくるので、戸惑うことが多いと思われる。教科書を事前に読みキーワードにアンダーラインを引く等の予習をして言葉や概念に馴染めるよう努力することが必要である。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の学習目標 B	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 光応用工学科棟2F 209号室 TEL:088-656-9411 (メールアドレス) haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜 16:10~18:00
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171370
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	光演算処理[Analog Optical Computing]		
<b>担当教員</b>	山本 裕紹 [Hirosugu Yamamoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	光を用いた演算技術である光コンピューティングのうちアナログ型光コンピューティングの基礎について講義と最先端光技術についての講演聴講、レポートならびに期末試験を実施して光演算処理についての基礎知識を修得させる。		
<b>授業の概要</b>	フーリエ光学の基礎、アナログ型光コンピューティング技術における光学原理、およびアナログ型光演算の応用について論述して光情報処理に関する基礎力の養成を図る。		
<b>キーワード</b>			
<b>先行/科目</b>	『波動光学[Wave Optics]』(1.0), 『幾何光学[Geometrical Optics]』(1.0)		
<b>到達目標</b>	1. 光学的フーリエ変換技術の基本的な事項を理解できること。 2. 2次元線形システムの考え方により光学系を理解できること。 3. アナログ光演算処理の応用技術についての知識を習得できていること。		

<b>授業の計画</b>	9. 光学系の周波数応答と解像力 10. 空間周波数フィルタリング 11. ホログラフィー 12. 相関器 13. 干渉と分光 14. 光コンピューティングの研究事例 15. 最近の光演算システムと今後の展望 16. 定期試験
1. 授業の概要と光学界の動向、フーリエ光学の基礎 2. フーリエ光学の基礎(干渉) 3. フーリエ光学の基礎(回折) 4. フーリエ光学の基礎(フ라운ホーファー回折) 5. フーリエ変換の性質 6. コンボリューション積分と相関関数 7. 線形システム 8. レンズのフーリエ変換作用	
<b>教科書</b> 光とフーリエ変換/谷田貝豊彦 著, :朝倉書店, 1992, ISBN:9784254136258 谷田貝豊彦:光とフーリエ変換(朝倉書店)ISBN978-4-254-13625-8	
<b>参考書</b>	
<b>成績評価の方法</b> 講義に対する理解力の評価は、講義への取り組み状況、レポート提出、および期末試験の成績を総合して行う。配点の比率 講義への取り組み状況 30%, 試験 70% 合格基準 単位の取得:総合点の60%以上	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> フーリエ変換を使うので復習しておくこと	
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b> 光応用工学科の教育目標(B)と関連する。	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山本(光棟 411, 088-656-9426) (メールアドレス) 山本(yamamoto@opt.tokushima-u.ac(no-spam).jp)
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171480
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	光応用工学計算機実習[Optical Science and Technology Computation Exercise]		
<b>担当教員</b>	手塚 美彦, 松尾 繁樹, 山本 裕紹, 河田 佳樹, 森 篤史, 岡本 敏弘, 丹羽 実輝, 鈴木 秀宣, 柳谷 伸一郎 [Yoshihiko Tezuka, Shigeki Matsuo, Hirosugu Yamamoto, Yoshiaki Kawata, Atsushi Mori, Toshihiro Okamoto, Miki Niwa, Hidenobu Suzuki, Shinichiroh Yanagiya]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	計算機はあらゆる分野で不可欠であり、光技術者として計算機を用いた問題解決能力を養うことは重要である。ここでは、光学材料、光デバイスから光情報システムまでの光技術に関する基本的な課題に取り組み、計算機を有効に活用できる能力を高めることを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	以下の課題1, 2, 3から各1題ずつ選択して計3つの課題を行う。各課題は5週間で実施し、初めの5週間(第1期)に課題1, 次の5週間(第2期)に課題2, 最後の5週間(第3期)に課題3の実習を行う。 課題1(a):半導体レーザの設計と基本特性評価(担当:岡本敏弘)。半導体レーザの基本構造である光共振器や光導波路の特性評価用プログラムの作成や、半導体レーザのパルス動作のシミュレーションを行い、光の波としての性質やレーザの基本特性について理解すると共に、科学技術計算プログラムの作成とそれをデバイス設計等に利用するスキルを取得することを目的とする。 課題1(b):Visual C++におけるプログラミングの基礎とPCによる計測器制御(担当:手塚美彦, 丹羽実輝)。現在、ほとんどの計測器がPCと繋がれ、測定データの取り出しはもちろん、PC上のアプリケーションによる自動測定があたりまえとなっている。ここでは、PCと計測器を繋ぐインターフェースについて学び、自作のアプリケーションにより計測器を制御する。 課題1(c):分子シミュレーション入門(担当:森篤史)。材料設計や物性予測に不可欠な手段となっているモンテカルロ(MC)法と分子動力学(MD)法のうち、強磁性体や相分離のモデルとして知られている二次元イジングモデルのMCシミュレーションの実習を行う。 課題2(a):偏光の行列計算(担当:松尾繁樹)。偏光を表現し、またその変化を計算する方法として、ジョーンズ計算法・ミュラー計算法などの行列法が知られている。これを簡易な数式処理ソフトを用いて計算機で計算する方法を習得する。 課題2(b):ESRスペクトルシミュレーション(担当:手塚美彦, 丹羽実輝)。計算機の発達により、分子に固有のスペクトルを量子化学計算により理論的に求めることが容易となった。ここでは、スペクトルシミュレーションが実験値の解釈に必須である電子スピン共鳴(ESR)分光法を例として、与えられたパラメータから分子のスペクトルを計算により求めるプログラムを作成する。 課題2(c):オブジェクト指向言語の演習(担当:河田佳樹, 鈴木秀宣)。オブジェクト指向言語を用いた設計・実装の技術		

習得することを目的とする。設計は統一モデリング言語で行い、実装はC++言語で行う。ここではコンピュータグラフィックスの基礎となる部品群を作成する。

課題3(a):光演算処理の基礎(担当:山本裕紹)。光情報機器や光計測の基礎となる光演算について、計算機を用いて理解することを目的とする。計算機利用の基本スキルの演習の後、空間周波数フィルタリング処理を扱う。これらの計算を通して、光演算処理を理解し、別別に応用課題に取り組む。応用課題については、最後に発表会を行う。

課題3(b):卒業研究のためのPC活用入門(担当:柳谷伸一郎)。コンピュータを使い、実験により得られたデータを解析・加工し、要旨、論文、発表原稿の形に仕上げることを目的とする。

課題3(c):オブジェクト指向言語を用いたコンピュータグラフィックス(担当:河田佳樹,鈴木秀宣)。オブジェクト指向言語を用いてコンピュータグラフィックスの基本的な技術習得することを目的とする。ここでは画像の幾何変換や表示について取り組む。

**キーワード** 計算機プログラミング, 光学材料, 光デバイス, 光情報システム

**先行/科目** 『プログラミング言語及び演習[Programming Languages and Exercise]』(0.5), 『波動光学[Wave Optics]』(0.5), 『レーザ工学[Laser Physics and Applications]』(0.5), 『信号処理[Signal Processing]』(0.5), 『光応用工学実験1[Optical Science and Technology Laboratory 1]』(0.5)

**関連/科目** 『光デバイス[Optoelectronic Devices]』(0.5), 『統計力学[Statistical Mechanics]』(0.5), 『光演算処理[Analog Optical Computing]』(0.5), 『画像処理[Image Processing]』(0.5), 『光応用工学実験2[Optical Science and Technology Laboratory 2]』(0.5)

No.	到達目標
1	光学材料, 光デバイスから光情報システムまでの光技術に関する基本的な課題に取り組み, 計算機を有効に活用できる能力を高め, 光技術者として計算機を用いた問題解決能力を養うことを目標とする。以下に, 各課題に対する到達目標を示す。
2	課題 1(a): 半導体レーザに関わる数式の数値計算プログラムを作成し, それを用いてデバイスの簡単な設計ができる。課題 1(b): Visual C++を用いて計測器を制御するアプリケーションが作れる。課題 1(c): 計算機上で乱数を生じさせ, その性質を把握した上でそれを使えるようにする。強磁性的イジング模型を例に, 次のシミュレーションを実行させる:(1)エネルギーが減少する方向への系の発展(2)トロポリス法に基づいての, ボルツマン重み付きのサンプリング。また, (3)それらの一般的な物理的意味を理解する。
3	課題 2(a): 偏光を表す行列の計算ができる。その計算結果の物理的意味を読み取ることができる。課題 2(b): 与えられた分子の ESR スペクトルが計算できる。課題 2(c): 統一モデリング言語を用いて設計できること。設計仕様書に基づいて C++言語を用いて実装できること。
4	課題 3(a): 計算機を活用するような問題設定を行うこと。設定した問題を解決するアルゴリズムを構築すること。プログラムの目的, 内容, 工夫点を発表できること。課題 3(b): 画像データから, 定量化, 可視化, 発表原稿の作成まで行えるようにする。論文のように構造化された文章について理解し, 自ら作成することができるようにする。課題 3(c): 2次元のグラフィックス関数をオブジェクト指向言語で設計・実装・テストできること。

回	大項目	内容
1	第Ⅰ期-1	課題 1(a)1. C プログラミングの復習 課題 1(b)1. PC による計測器制御とインターフェース(講義) 課題 1(c)1. 乱数の復習, 判定文・繰り返し文(モンテカルロ法による積分)
2	第Ⅰ期-2	課題 1(a)2. 光共振器特性とレーザ特性の関係(繰り返し計算, 判定文) 課題 1(b)2. Visual C++を用いたプログラミング 課題 1(c)2. 標示, 繰り返し文と総和の計算(強磁性イジング模型のエネルギー計算)
3	第Ⅰ期-3	課題 1(a)3. 光導波路のモード分散式, 電界強度分布計算(収束計算, 数値積分法) 課題 1(b)3. 測定器との接続とコマンド送信 課題 1(c)3. 絶対零度の強磁性イジング模型のシミュレーション
4	第Ⅰ期-4	課題 1(a)4. パルス動作のシミュレーション(連立微分方程式の数値解法) 課題 1(b)4. 測定データの受信と PC 上への表示 課題 1(c)4. ボルツマンサンプリング(有限温度のイジング模型のシミュレーション)
5	第Ⅰ期-5	課題 1(a)5. 作成したプログラムを用いた半導体レーザの設計 課題 1(b)5. 作成したプログラムによる直流電流電圧発生器/モニターの制御 課題 1(c)5. 有限温度のイジング模型のシミュレーションとその物理的解釈
6	第Ⅱ期-1	課題 2(a)1. 数式処理ソフトの使用法 課題 2(b)1. 電子スピン共鳴の原理(講義) 課題 2(c)1. オブジェクト指向言語について
7	第Ⅱ期-2	課題 2(a)2. 行列法による偏光の表現 課題 2(b)2. 超微細結合定数によるピークの分裂 課題 2(c)2. 統一モデリング言語について
8	第Ⅱ期-3	課題 2(a)3. 行列法による偏光の計算 課題 2(b)3. ローレンツ関数の適用とピークの重ね合わせ 課題 2(c)3. 統一モデリング言語を用いたソフトウェアの設計

9	第Ⅱ期-4	課題 2(a)4. 偏光子と波長板による偏光の変化の計算 課題 2(b)4. 簡単なラジカル分子の ESR スペクトルシミュレーション 課題 2(c)4. C++言語を用いたソフトウェアの実装
10	第Ⅱ期-5	課題 2(a)5. 偏光子と波長板による偏光の変化の計算 課題 2(b)5. 複雑なラジカル分子の ESR スペクトルシミュレーション 課題 2(c)5. C++言語を用いたコンピュータグラフィックスの基礎
11	第Ⅲ期-1	課題 3(a)1. ガイダンス, 基本スキル演習, グループ分け 課題 3(b)1. ガイダンス, 実験画像データ処理(ImageJ) 課題 3(c)1. C 言語による 2 次元グラフィックス
12	第Ⅲ期-2	課題 3(a)2. Excel を用いた行列計算とフーリエ変換, グループテーマ討論. 課題 3(b)2. 実験画像データ処理(ImageJ) 課題 3(c)2. オブジェクト指向言語による 2 次元グラフィックスの設計
13	第Ⅲ期-3	課題 3(a)3. グループ毎のプログラムモジュールの作成 課題 3(b)3. 数値データ処理(Excel) 課題 3(c)3. オブジェクト指向言語による 2 次元グラフィックスの実装とテスト
14	第Ⅲ期-4	課題 3(a)4. グループ別ソフトウェア実装. 説明資料作成 課題 3(b)4. データの可視化(Excel, グラフ作成ソフト) 課題 3(c)4. 2 次元グラフィックスの応用演習 1
15	第Ⅲ期-5	課題 3(a)5. グループ課題発表審査会 課題 3(b)5. Word による技術文書作成(Word) 課題 3(c)5. 2 次元グラフィックスの応用演習 2
16	予備日	

**教科書**

課題 1(a): 適宜プリントを配布する。  
課題 1(b), 2(b): 適宜プリントを配布する。  
課題 1(c): プログラミング言語および演習の教科書, 統計力学の教科書  
課題 2(a): 適宜プリントを配布する。  
課題 2(c), 3(c): 適宜プリントを配布する。  
課題 3(a): 三田典玄:実習 C 言語(アスキー出版社) 守口繁一, 伊理正夫, 武市正人編:C による算法通論(東京大学出版会)  
課題 3(b): 卒論執筆のための Word 活用術(田中幸夫著, ブルーバックス)

**参考書** 備考

- ・プログラミング言語及び演習のテキスト
- ・課題 1(a):前田三男:量子エレクトロニクス(昭見堂), 末松安晴:光デバイス(コロナ社).
- ・課題 2(a):山口一郎:応用光学(オーム社).
- ・Turbo C による 3D グラフィックス 山岡 祥 著, ・C による CG レイトレーシング 千葉則茂・村岡一信 共著

**成績評価の方法** 実習は課題 1, 2, 3 から各 1 題選択し, 計 3 題行う。1 課題 100 点満点とし, 3 課題に対する評価点の平均値が 60 点以上で合格とする。  
実習中における積極性, 理解度及び, 口頭試問の解答, レポートの提出状況と内容を総合して評価する。定期試験は実施しない。

一度でも欠席したり, レポートを提出しなければ成績評価の対象外となる。  
レポートの内容が採点基準に満たない場合, 再提出を求めることがある。  
平常点は, 実習中における積極性, 理解度及び, 口頭試問の解答, 実習レポートの提出状況と内容を総合して評価する。  
以下に, 各課題に対する評価方法を示す。  
課題 1(a)授業への取り組み状況(40%)及びレポート内容(60%)で評価する。  
課題 1(b), 2(b)授業への取り組み状況 40%, レポート 60%で評価する。  
課題 1(c) 出席(フェイス・トゥー・フェイスの指導の結果)とレポートの割合を 6対4として評価する。実際にパターン発展を見ながら達成度を評価するが, 時間内に課題をこなせなかった場合はプリントアウトされたもので評価する。  
課題 2(a)授業への取り組み状況(40%)及びレポート内容(60%)で評価する。  
課題 2(c), 3(c) 実習中における理解度 20%,提出されたレポート内容 80%。提出レポートに以下の内容が含まれ, その詳細について口頭で説明できることが必要である。 ・開発したソフトウェアについての説明及び, ソフトウェア仕様書。 ・ソフトウェア仕様書に基づいたプログラム及び, 実行例。 ・プログラムのマニュアル。  
課題 3(a)授業への取り組み(40%), グループ課題のレポート発表による報告(60%)で評価する。  
課題 3(b) 授業の取り組み(40%), レポート(60%)

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 実習はすべて出席すること。  
レポートを提出しなければ成績評価の対象外となるので注意すること。  
受講者は上記の先行授業科目, 関連授業科目を履修していることが望ましい。

**JABEE合格** JABEE 合格は単位合格と同一とする。

**学習教育目標との関連** 光応用工学科の学習・教育目標「(B)基礎的実験技術の習熟と創造性」に関連する。

**WEB ページ** <http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html>



<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 手塚 美彦 (光棟 307, 088-656-9423) 松尾 繁樹 (エコ棟 404, 088-656-7538) 山本 裕紹 (光棟 412, 088-656-9426) 河田 佳樹 (光棟 508, 088-656-9431) 森 篤史 (光棟 410, 088-656-9417) 岡本 敏弘 (光棟 207, 088-656-9412) 丹羽 実輝 (光棟 311, 088-656-9424) 鈴木 秀宣 (光棟 509, 088-656-9432) 柳谷 伸一郎 (光棟 310, 088-656-9416)
	(メールアドレス) 手塚 美彦 (ytezuka@tokushima-u.ac.jp) 松尾 繁樹 (matsuo.shigeki@tokushima-u.ac.jp) 山本 裕紹 (yamamoto@opt.tokushima-u.ac.jp) 河田 佳樹 (kawata@tokushima-u.ac.jp) 森 篤史 (atsushimori@tokushima-u.ac.jp) 岡本 敏弘 (toshi-okamoto@tokushima-u.ac.jp) 丹羽 実輝 (niwa.miki@tokushima-u.ac.jp) 鈴木 秀宣 (zuki@opt.tokushima-u.ac.jp) 柳谷 伸一郎 (syonagiya@tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	限られた時間内で実習内容を理解して課題をこなすことは困難であるので、予習をすること。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171460
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	光応用工学実験1[Optical Science and Technology Laboratory 1]		
<b>担当教員</b>	岡本 敏弘, 手塚 美彦, 橋本 修一, 松尾 繁樹, 丹羽 実輝, 柳谷 伸一郎 [Toshihiro Okamoto, Yoshiniko Tezuka, Shuichi Hashimoto, Shigeki Matsuo, Miki Niwa, Shinichiroh Yanagiya]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	光応用工学実験1では、1年生から3年生の間にある光学および光学材料に関する講義への理解を深め、工学的・物理的な発想・考え方を修得することを目的とする。そのため、各講義で取り扱った内容の確認を行う実験を主として行う。また実験データの取り扱いや実験をする上でのマナーを修得する。		
<b>授業の概要</b>	光の基本的性質と各種光学材料の化学合成、光計測と光物性に関する基礎実験を行う。		
<b>キーワード</b>	有機光学物質、高分子半導体、液晶、ナノ粒子、顕微鏡、幾何光学、波動光学		
<b>到達目標</b>	物質合成の技術を学ぶとともに、素反応から化学反応を理解する。微小粒子の作成法を学ぶとともに、顕微鏡による微小物体の計測・解析技術を身に付ける。幾何光学、波動光学の基礎的な事柄(反射・屈折、回折、二光束干渉、偏光)について、物理実験を通してさらに理解を深める。		
<b>授業の計画</b>	1. オリエンテーション1	8. B3) 光の回折を用いた繊維の太さの測定	
	2. A1) 有機光学物質の合成と評価: 光学レンズ材料の合成	9. B4) 微小物体の観察から顕微鏡の分解能について考える	
	3. A2) 高分子半導体の合成と物性評価	10. オリエンテーション2	
	4. A3) 液晶分子の合成と偏光顕微鏡観察	11. C1) 実験Cについてのガイダンス、反射・屈折	
	5. A4) プレゼンテーション: 実験Aについて発表と討論を行う	12. C2) 偏光	
	6. B1) 実験Bについてのガイダンス	13. C3) マイケルソン型干渉計	
	7. B2) 金ナノ粒子の作製・計測・解析	14. C4) レポート口頭試問	
		15. 予備日	
<b>教科書</b>	プリントなどをその都度配布する。		
<b>参考書</b>	幾何光学・波動光学の教科書と参考書、光デバイス1・2の教科書と参考書、分光分析学の教科書と参考書。		
<b>成績評価の方法</b>	各テーマすべてに出席すること。実験中における積極性、理解度および、口頭試問、1週間後に提出する実験報告書によって評価する。なお、実験報告書の内容が採点基準に満たない場合、再提出を求めることがある。平常点60%、レポート点40%。全体で60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	限られた時間内で実習内容を理解して課題をこなすことは困難であるので、予習・復習をすること。		
<b>JABEE合格</b>	JABEE合格は単位合格と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	BF		

<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html (課題1,2担当)http://www.optedu.tokushima-u.ac.jp/expe/
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(メールアドレス) 橋本 修一(hashi@eco.tokushima-u.ac.jp) 松尾 繁樹(matsuo.shigeki@tokushima-u.ac.jp) 手塚 美彦(ytezuka@opt.tokushima-u.ac.jp) 柳谷 伸一郎(syonagiya@tokushima-u.ac.jp) 丹羽 実輝(niwa.miki@tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 予習がなければ、限られた時間内で実験の内容を理解することは困難である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171470
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	光応用工学実験2[Optical Science and Technology Laboratory 2]		
<b>担当教員</b>	河田 佳樹, 山本 裕紹, 鈴木 秀宣 [Yoshiki Kawata, Hirosugu Yamamoto, Hidenobu Suzuki]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	光応用工学実験2では、1年生から3年生の間にある光デバイスおよび光情報システムに関連する講義への理解を深め、工学的・物理的な発想・考え方を修得することを目的とする。また実験ノートの書き方、データの整理手法及び実験技術等、各学生のスキルアップを目的とする。		
<b>授業の概要</b>	光半導体デバイスの特性評価、アナログ回路・デジタル回路・マイクロプロセッサ等の電子回路、光通信・3Dディスプレイ・光学系のコンピュータ制御の基礎的な実験を通して、光デバイス・電子デバイスの動作原理を理解し、光システム・光電システムの設計の基本概念と基礎技術を修得する。		
<b>キーワード</b>	光半導体デバイス、アナログ電子回路、デジタル電子回路、マイクロプロセッサ、光通信、ホログラム、光アナログ情報処理		
<b>到達目標</b>	光デバイス、光情報システムの基本要素となる半導体、電子回路、計算機、光学等の原理を学び、活用するための基礎技術を習得することを目標とする。各実験の到達目標は以下の通りである。光電変換素子の基本特性を理解する。半導体電子素子を用いたアナログ回路の基本特性を理解する。・デジタル回路の基礎知識を学ぶ。・マイクロプロセッサの動作原理を学び、プログラミング法を修得する。・光通信の原理や光ファイバや半導体レーザーの特性を学ぶ。・光の干渉と回折を学び、光コンピューティングの基礎技術を修得する。・光アナログ情報処理の基本技術を修得する。		
<b>授業の計画</b>	1. オリエンテーション1		
	2. A1) ダイオードとトランジスタ:ダイオードやトランジスタの基本的な電気特性の測定		
	3. A2) オペアンプを用いたアナログ演算回路:反転増幅回路の動作実験		
	4. A3) 発光素子の特性:発光ダイオードとレーザーダイオードの電気特性および発光スペクトルの測定		
	5. A4) 受光素子の特性:フォトダイオードの短絡光電流、電圧電圧特性の測定		
	6. B1) 時間周波数と空間周波数:蛍光灯の点滅周波数の測定、光ディスクのトラックピッチの測定を行う。		
	7. B2) 光アナログ情報処理:光フーリエ変換と空間周波数フィルタリングを行う。		
	8. B3) 3D ディスプレイ:LED ディスプレイの点灯制御実験、3D ディスプレイの評価実験を行う。		
	9. B4) 発表討論:実験Bの内容について、各自の考察を中心とした口頭発表と質疑討論を行う。		
	10. オリエンテーション2		
	11. C1) デジタル回路実験1:AND, OR, NOT, NAND, flip-flopなどのICを用いて論理回路を理解する。		
	12. C2) デジタル回路実験2:順序回路、演算回路を設計・実装する。		
	13. C3) マイクロプロセッサ実験1:マイクロプロセッサの基本構成や動作原理を理解する。		
	14. C4) マイクロプロセッサ実験2:機械語とアセンブリ言語を用いてプログラムの設計・実装を行う。		
	15. 予備日		
<b>教科書</b>	実験の原理、方法を示したプリントを配布する。		
<b>参考書</b>	上記に示した関連する講義で使用した教科書		
<b>成績評価の方法</b>	実験は全て出席し、レポートを提出しなければ成績評価の対象外となる。実験中における積極性、理解度及び、口頭試問の解答、レポートの提出状況と内容を総合して評価する。レポートの内容が採点基準に満たない場合、再提出を求めることがある。定期試験は実施しない。平常点は、実験中における積極性、理解度及び、口頭試問の解答、実験レポートの提出状況と内容を総合して評価する。平常点60%、レポート点40%。全体で60%以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	全日程に出席し、かつすべての実験報告書を提出しなければ、成績評価対象外となる。		
<b>JABEE合格</b>	JABEE合格は単位合格と同一とする。		

<b>学習教育目標との関連</b> BF	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(メールアドレス) 河田 佳樹(kawata@tokushima-u.ac.jp) 山本 裕紹(yamamoto@opt.tokushima-u.ac.jp) 岡本 敏弘(okamoto@opt.tokushima-u.ac.jp) 鈴木 秀宣(hidenobu-s@tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	1. 予習がなければ、限られた時間内で実験の内容を理解することは困難である。

<b>開講学期</b>	1年・前期	<b>時間割番号</b>	5171490
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	光応用工学セミナー1[Optical Science and Technology Seminar 1]		
<b>担当教員</b>	柳谷 伸一郎, 岡本 敏弘, 山本 裕紹 [Shinichiroh Yanagiya, Toshihiro Okamoto, Hirotosugu Yamamoto]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 「習うより慣れよ」という諺があるように、光応用工学を学ぶには、「光」を肌で感じる事が大切である。しかし、現在の高等学校教育では簡単な光の実験をする余裕もないのが実状である。そこで、本セミナーでは、レンズ、回折格子、偏光板などを使って、簡単な光の実験を行い、光というものを楽しく理解することを主眼としている。

**授業の概要** (英)(日)凸レンズ、凹レンズ、回折格子、偏光板の光学素子などを使って、ピンホールカメラ、分光器、偏光器などの実験器具を各自製作する。そしてそれを使った簡単な実験を行う。また、グループでの創作、発表会を行う。各テーマの内容を以下に示す。・製図:立体的に理解し易く図示するためのテクニカルイラストレーションとして、投影法を学ぶ。・ピンホールカメラ:ピンホールカメラを製作する。光線と像の対応を理解する。・偏光:(1)偏光について、波の基礎的な概念を身近にある偏光現象や複屈折・旋光度の特性を持った結晶の観察を通して学習する。偏光を利用したステンドグラスを製作する。(2)ガラスのプリズムスター角を利用して偏光器を製作し、偏光と反射・屈折の関係を理解する。・プリズム:アクリル製のプリズムを製作し、光学部品製作工程や評価方法について理解する。プリズムで生じる全反射現象を理解する。・レンズ:(1)パターンをスクリーンに結像することで焦点距離を調べる装置を製作し、結像の式を理解する。(2)レンズを組み合わせた光学系を使った、画像転送実験をする。・グループ製作・発表会:セミナー1で学んだ光学知識・技術を応用した作品をグループ単位で製作する。グループで製作した作品について発表し、それについて審査・討論を行う。・回折格子:スリットと回折格子を組み合わせた簡易スペクトル観察器を製作し、分光について理解する。・分光器:波長読み取り可能な分光器を製作する。製作を通じて、分光器の構造の理解と、工作技術の向上をはかる。・ファイバー光学:光ファイバーを使った情報伝送実験を行う。

**キーワード** 光学, 分光学, 偏光, レンズ, 光ファイバ

**関連/科目** 『光の基礎[Basic Properties, Phenomena and Applications of Light ]』(1.0)

#### 到達目標

1. 光学の基礎である反射, 屈折, 偏光, 回折, 結像を理解できること。
2. 反射, 屈折, 偏光, 回折, 結像を用いた簡単な器具を自分で製作し, レポートで報告できること。
3. 創意, 工夫された器具をグループで製作し, その創意, 工夫点を発表できること。

<b>授業の計画</b>	4. 偏光 1	8. レンズ 2	12. グループ製作, 中間報告
1. ガイダンス	5. レンズ 1	9. 分光器	(web 利用)
2. ピンホールカメラ	6. 回折格子	10. ファイバー光学	13. グループ製作
3. プリズム	7. 偏光 2	11. グループ製作, グループ紹介(web 利用)	14. 製図, 発表資料作成
			15. 発表会

#### 教科書

**参考書** 「光の基礎」の参考書(Paul G. Hewitt 他著, 小出昭一郎監修, 本田健著「電気・磁気と光」共立出版)など

**教科書・参考書に関する補足情報** 教材を使った工作・実験を中心に授業を進める。教材費および必要な道具の購入については、ガイダンスの際にアナウンスする。

**成績評価の方法** 授業への取り組み(積極性, 質疑, 記録ノート)30%, レポート評価 30%, 作製器具の評価 20%, グループ製作・発表 20%. 全体で 60%以上で合格とする。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 成績評価は実験実習科目の規定に従う。欠席、レポート・作品未提出は単位認定の対象外となるので注意すること。

**JABEE合格** JABEE 合格は単位合格と同一とする。

**学習教育目標との関連** 光応用工学科の教育目標(B),(F)と関連する。デザイン科目の1つである。

<b>WEB ページ</b>	http://www2.optedu.tokushima-u.ac.jp/xoops/
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 山本(光棟 411, 088-656-9426) 岡本(光棟 207, 088-656-9412) 柳谷(光棟 310, 088-656-9416) 桑原(光棟 108, 088-656-9436) 横山(光棟 108, 088-656-9436)  (メールアドレス) 山本(yamamoto@opt.tokushima-u.ac(no-spam).jp) 岡本(toshi-okamoto@tokushima-u.ac(no-spam).jp) 柳谷(syanagiya@tokushima-u.ac(no-spam).jp) 桑原(kuwahara@opt.tokushima-u.ac(no-spam).jp) 横山(fujita-t@tech.tokushima-u.ac(no-spam).jp)  (オフィスアワー) 各教職員に従う。
<b>備考</b>	1. 光学素子(凸レンズ, 凹レンズ, 回折格子, 偏光板 etc.)を一括購入し, 教材とする。 2. 実際に手を動かして, 演習, 実験を行うことが重要である。欠席しないこと。 3. 教材を光応用工学セミナー2でも使用することがある。 4. 連絡, レポート・作品提出はオンラインで行うので, 講義期間中はWEBをチェックすること。 5. ゲストスピーカーとして, 板東浩先生に感性教育について講義いただく。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5171500
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	光応用工学セミナー2[Optical Science and Technology Seminar 2]		
<b>担当教員</b>	森 篤史, 手塚 美彦, 丹羽 実輝 [Atsushi Mori, Yoshihiko Tezuka, Miki Niwa]		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 光応用工学セミナー1では光学実験が主であったが、本科目では、デバイスや光材料に関する実験を行い、光工学への関心を高め、グループ活動能力とものづくり能力の基礎を育成することを目的としている。

**授業の概要** (1)グループ活動による有機太陽電池の製作, (2)コロイドフォトリソグラフィ結晶の観察と解析, (3)また身近な化学実験を通じて光化学への導入教育を行う。光工学(専門教育)への導入教育であり, 学科の学習・教育目標 B に大きく関係する。

**キーワード** 太陽電池, コロイド, フォトリソグラフィ結晶, 光化学, 導入教育, 活力教育

#### 到達目標

1. グループ活動の基本が理解できる
2. 与えられた課題に対し能動的に取り組み, 解決する能力を身につける
3. 光化学を体験し, その原理を理解する
4. コロイドフォトリソグラフィ結晶を体験する

#### 授業の計画

1. 光化学セミナーのガイダンス	5. 光学異性体の模型の作成	11. プロジェクトの進め方について
2. ペーパークロマトグラフィーによる物質の分離	6. コロイド科学の基礎とコロイドフォトリソグラフィ結晶	12. 計画書の作成
3. 葉っぱからの蛍光物質の抽出と蛍光観察	7. 脱塩によるコロイド結晶形成の観察	13. 有機太陽電池の作成
4. フォトクロミック反応と光記憶	8. 乾燥によるコロイド結晶形成の観察	14. 有機太陽電池の作成
	9. ゲル固定化コロイド結晶の作製	15. 有機太陽電池の作成
	10. 実験結果の考察	16. 予備日

**教科書** 教材・プリントは適宜配布する

#### 参考書

**成績評価の方法** 出席状況(20%)および作品・レポートの完成度(80%)により評価し, 全体で 60%以上で合格とする。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 全回出席が成績評価の前提である。授業時間だけでは製作物を完成させるのは困難であるテーマもある。また、グループ活動にあたっては、自らが活動に寄与しつつ、最も円滑なグループ活動を行えるよう配慮した行動を心がけること。

**JABEE合格** 単位合格と同一

**学習教育目標との関連** B,F

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先)

フィスアワー)	森 篤史 (光棟 407, TEL:088-656-9417, E-mail: atsushimori@tokushima-u.ac.jp) 手塚 美彦 (光棟 307, TEL:088-656-9423, E-mail: ytezuka@opt.tokushima-u.ac.jp) 丹羽 実輝 (光棟 311, TEL:088-656-9424, E-mail: niwa.miki@tokushima-u.ac.jp) 桑原 稔 (光棟 301-1, TEL:088-656-9793, E-mail: kuwa@tech.tokushima-u.ac.jp) 横山 智弘 (光棟 108, TEL:088-656-9436, E-mail: fujita-t@tech.tokushima-u.ac.jp)
備考	1. オフィスアワー:随時

開講学期	4年・後期	時間割番号	5171600
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択B		
科目名	光応用工学特別講義1[Special Lectures on Optical Science and Technology 1]		
担当教員	仁木 登, 工学部非常勤講師 [Noboru Niki]		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	光応用工学に関連する先端技術に関する知識を深める。		
授業の概要	広い意味で光応用工学に関連した最近のトピックスについて, 最先端で活躍しておられる科学者, 技術者を学外からお招きして, 講義していただく。		
キーワード			
到達目標	光応用工学に関連する先端技術を理解する。		
授業の計画			
教科書			
参考書			
成績評価の方法	レポート(100%)で評価し, 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ			
JABEE合格	JABEE 合格は単位合格と同一とする。		
学習教育目標との関連	BC		
WEB ページ			
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)			
備考			

開講学期	4年・前期	時間割番号	5171610
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択B		
科目名	光応用工学特別講義2[Special Lectures on Optical Science and Technology 2]		
担当教員	仁木 登, 工学部非常勤講師 [Noboru Niki]		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的			
授業の概要	広い意味で光応用工学に関連した最近のトピックスについて, 最先端で活躍しておられる科学者, 技術者を学外からお招きして, 講義していただく。		
キーワード			
到達目標			
授業の計画			
教科書			
参考書			
成績評価の方法	レポート(100%)で評価し, 60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ			

JABEE合格	JABEE 合格は単位合格と同一とする。
学習教育目標との関連	BC
WEB ページ	
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	
備考	

開講学期	3年・前期	時間割番号	5171100
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択A		
科目名	光応用数学演習[drill and practice in engineering mathematics]		
担当教員	橋本 修一, 手塚 美彦, 森 篤史 [Shuichi Hashimoto, Yoshihiko Tezuka, Atsushi Mori]		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	To perform mathematical operation on the following items: differentials and integrals, matrix, statistics, vector analysis, coordinate transformation, special functions.		
授業の概要	光応用工学を学ぶにあたり必要な数学的知識と技術を身につけるために, 自主的に演習を行う。 To make exercises by oneself in order to acquire knowledge and skills necessary for studying Optical Science and Technology		
キーワード	differentials and integrals, matrix, statistics, vector analysis, cylindrical and polar coordinates, Bessel function, differential equation, Fourier analysis, Green's function		
先行科目	『ベクトル解析[Vector Analysis]』(1.0), 『微分方程式1[Differential Equations (I)]』(1.0), 『微分方程式2[Differential Equations (II)]』(1.0), 『確率統計学[Probability and Statistics]』(1.0)		
到達目標	As a requisition for graduation thesis, student acquire fundamentals of mathematics necessary for analyzing experimental data, making computer programs, understanding equations in research papers, making numerical calculations in researches.		
授業の計画	4: statistics 5: examination #1 6: vector analysis #1 7: vector analysis #2 8: cylindrical and polar coordinates 9: Bessel function	10: examination #2 11: differential equation #1 12: differential equation #1 13: Fourier analysis 14: Green's function 15: examination #3	
教科書	工学部で学ぶ数学/千葉逸人:プレアデス出版, 2009 年		
参考書			
成績評価の方法	examination 60% (20% each), attitude in class 40%		
再試験の有無	No re-examination		
受講者へのメッセージ	This is an exercise class. Therefore, student should not regard one way lecture form teacher. Rather, it is a class in which students make exercises by themselves. A notebook and a calculator should be taken.		
JABEE合格	JABEE 合格は単位合格と同一とする。		
学習教育目標との関連	BC		
WEB ページ			
連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) Shuichi Hashimoto 総合研究実験棟 405, Tel:088-656-7389 Yoshihiko Tezuka room #307 on Optical Building, Tel:088-656-9423 Atsushi Mori room #407 on Optical Building, Tel:088-656-9417 (メールアドレス) Shuichi Hashimoto hashichem@tokushima-u.ac.jp Yoshihiko Tezuka ytezuka@tokushima-u.ac.jp Atsushi Mori atsushimori@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) Shuichi Hashimoto Monday 6PM-7:30PM Atsushi Mori as announced on the bulletin board Yoshihiko Tezuka as announced on the bulletin board		
備考	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。		



開講学期	4年・前期	時間割番号	5171550																		
科目分野	専門教育科目																				
選必区分	選択B																				
科目名	光機能材料・光デバイス特別講義1[Special Lectures on Optical Materials and Decices 1]																				
担当教員	原口 雅直 [Masanobu Haraguchi]																				
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科																		
授業の目的	現在、何が光物性・光デバイスについて話題になっているのか、そしてなぜ話題になっているかについての講義を通じて、(1)物性的な理解をするとともに、(2)光物性や光デバイスのおもしろさを感じる、(3)研究・開発に対するモチベーションを高める、ところに本講義の目的がある。																				
授業の概要	集中講義形式で講義する。実際に研究・開発を行っている最新の光物性・光デバイスに関するトピックスおよびその将来展望を講義する。																				
キーワード	光物性, 光デバイス																				
到達目標	本講義にて取り上げた現在話題になっている光物性や光デバイスについて、 1) それらの物理現象の本質は何か、そしてなぜ話題になっているかを簡単に説明できる。 2) それらの将来展望について自分なりの意見を述べる事ができる。																				
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>6. 光学特性の解析方法</td> <td>12. 企業における研究開発の特徴2</td> </tr> <tr> <td>2. 光物性と製品開発</td> <td>7. 現在の光デバイス概要</td> <td>13. 光デバイス開発の特徴</td> </tr> <tr> <td>3. 光物性研究の最新動向:計測法</td> <td>8. 製品開発における問題点の解決事例1</td> <td>14. 光産業に関する世界的動向</td> </tr> <tr> <td>4. 光物性研究の最新動向:材料1</td> <td>9. 製品開発における問題点の解決事例2</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>5. 光物性研究の最新動向:材料2</td> <td>10. 製品開発における問題点の解決事例3</td> <td>16. レポート作成</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11. 企業における研究開発の特徴1</td> <td></td> </tr> </table>			1. イントロダクション	6. 光学特性の解析方法	12. 企業における研究開発の特徴2	2. 光物性と製品開発	7. 現在の光デバイス概要	13. 光デバイス開発の特徴	3. 光物性研究の最新動向:計測法	8. 製品開発における問題点の解決事例1	14. 光産業に関する世界的動向	4. 光物性研究の最新動向:材料1	9. 製品開発における問題点の解決事例2	15. まとめ	5. 光物性研究の最新動向:材料2	10. 製品開発における問題点の解決事例3	16. レポート作成		11. 企業における研究開発の特徴1	
1. イントロダクション	6. 光学特性の解析方法	12. 企業における研究開発の特徴2																			
2. 光物性と製品開発	7. 現在の光デバイス概要	13. 光デバイス開発の特徴																			
3. 光物性研究の最新動向:計測法	8. 製品開発における問題点の解決事例1	14. 光産業に関する世界的動向																			
4. 光物性研究の最新動向:材料1	9. 製品開発における問題点の解決事例2	15. まとめ																			
5. 光物性研究の最新動向:材料2	10. 製品開発における問題点の解決事例3	16. レポート作成																			
	11. 企業における研究開発の特徴1																				
教科書	配付プリント等の資料による。配付物がない場合もありうる。																				
参考書																					
成績評価の方法	講義への取り組み状況、レポートにより評価を行う。評価のウエイトの目安は、講義への取り組み状況30%、レポート70%である。総合評価の60%以上が合格である。																				
再試験の有無																					
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。																				
JABEE合格	単位合格をもってJABEE合格とする。																				
学習教育目標との関連	光応用工学科の学習目標 B に該当する。																				
WEB ページ																					
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) TEL:088-656-9411, E-mail: haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp																				
備考																					

開講学期	4年・前期	時間割番号	5171560
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択B		
科目名	光機能材料・光デバイス特別講義2[Special Lectures on Optical Materials and Decices 2]		
担当教員	後藤 信夫 [Nobuo Gotoh]		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	光情報処理システムや光通信システムにおいて基本構成要素となる光デバイスに関して、基礎となる光波制御のための効果やデバイス動作原理を理解することが重要である。この講義では、受動光デバイスや光回路、物質と光波の相互作用や非線形光学効果について数学的に記述する方法を学び、光デバイスや光回路を設計するための基礎を学ぶ。		
授業の概要	1. 受動的な光回路, 2. 物質と光の相互作用, 3. 光波の制御, 3. 非線形光学効果		
キーワード			
到達目標	1. 光波制御に用いられる物質の数学的記述ができる。 2. 物質と光波の相互作用の説明ができ、物質中における光波の数学的記述により相互作用の解析ができる。 3. 光デバイスや光回路における光波記述と解析の説明ができる。		

授業の計画	3. 結合導波路からなる受動光回路と解析	6. 磁気光学効果と光波制御
1. 光導波路と光波伝搬	4. プラッグ反射導波路の解析	7. 音響光学効果と光波回折
2. 方向性結合導波路の解析	5. 結晶における電気光学効果と光波制	8. 非線形光学効果
教科書		
参考書	光エレクトロニクス/神保孝志編著:オーム社, 1997 光ファイバ通信入門/末松安晴, 伊賀健一:オーム社, 2006 光集積回路/西原浩, 春名正光, 栖原敏明:オーム社, 1985	
成績評価の方法	講義への取り組み状況(40%), レポート(60%)で評価し、全体で60%以上で合格とする。	
再試験の有無		
受講者へのメッセージ		
JABEE合格	B	
学習教育目標との関連	B	
WEB ページ		
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 後藤(光応用棟4階408, Tel:088-656-9415) (メールアドレス) goto.nobuo@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 8:30 - 17:00	
備考	単位合格と同一	

開講学期	4年・前期	時間割番号	5171570
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択B		
科目名	光機能材料・光デバイス特別講義3[Special Lectures on Optical Materials and Decices 3]		
担当教員	田中 均 [Hitoshi Tanaka]		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	天然および合成材料は光などの外部刺激に対して様々な応答、機能を呈する。本講では材料科学の基礎を分子レベルから解説する。		
授業の概要	本講では、分子設計化学の観点から材料科学の基礎を具体的な例を挙げて解説する。		
キーワード	光機能物質		
到達目標	材料科学の基本を分子論的に理解する。		
授業の計画	5. 電気を通す有機物		
1. 材料の性質	6. 有機物を使った太陽電池		
2. 高分子材料の極限を探る加工技術	7. 窓ガラスから光ファイバーまで		
3. 長い分子の不思議	8. 帆船から宇宙船へ(複合材料). 期末試験		
4. 奇妙なかたちの分子たち			
教科書	入野修編「材料科学への招待」培風館。		
参考書	吉田泰彦他著「高分子材料化学」三共出版		
成績評価の方法	成績評価は、期末試験と講義への取り組み状況を総合して行う。評価のウエイトの目安は、講義への取り組み状況20%、期末試験80%で、全体で60%以上で合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ	授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。		
JABEE合格	単位合格と同一		
学習教育目標との関連	光応用工学科の教育目標 B に該当		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 田中 均		
備考	1. オフィシアワー:随時		

開講学期	2年・後期	時間割番号	5171380
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択A		
科目名	光情報機器[Optoelectronic Instruments For Information system]		
担当教員	陶山 史朗 [Shiro Suyama]		
単位数	2	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	レーザープリンターなどの光事務機器, 光ディスクなどの光記録, CCD, ディスプレイなどの画像入出力機器など光産業の中核をなしている光情報機器およびそれに使われている光技術と光機能素子について講義し, 演習・レポート, 小テストを実施して光情報機器に関する基礎知識を修得させる。		
授業の概要	最初に, 光情報機器に使用されている光技術あるいは光機能素子について述べた後, 各種の光情報機器について講述して光情報機器の設計に関する基礎力の養成を図る。		
キーワード			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光情報機器の開発に必要な光学の知識をある程度習得できていること</li> <li>2. 各種の光学素子, 光学機能素子を理解できること</li> <li>3. 光学素子, 光機能素子と, 光情報機器との関係を習得できていること</li> </ol>		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光と情報技術産業</li> <li>2. 光の性質, 光が担う情報</li> <li>3. 発光素子, 受光素子の概要</li> <li>4. 各種光学素子, 光機能素子の概要</li> <li>5. 光学的事務機器: 複写機, レーザープリンターなど</li> <li>6. 光情報記録: 基本原理, 光ピックアップの概要</li> <li>7. 光情報記録: 追記型, 書き換え型</li> <li>8. 光情報記録: 次世代 DVD, 将来的な光記録技術</li> <li>9. 画像入力機器: CCD, CMOS イメージセンサ</li> <li>10. 画像出力機器: 液晶ディスプレイ(LCD)の概要</li> <li>11. 画像出力機器: 液晶ディスプレイ(LCD)の最近の動向</li> <li>12. 画像出力機器: プラズマディスプレイ(PDP)</li> <li>13. 画像出力機器: エレクトロルミネッセンス(EL), フィールドエミッションディスプレイ(FED)</li> <li>14. 画像出力機器: 投射型ディスプレイ, 発光ダイオード(LED)ディスプレイ</li> <li>15. 全体のまとめ, 光技術の市場動向</li> <li>16. 定期試験</li> </ol>		
教科書	教科書を使わずに, 配布するレジメを中心に講義を行う。		
参考書	光情報産業と先端技術/米津宏雄:工学図書 光学系の仕組みと応用:オプトロニクス社 ここまで来た光記録技術/河田 聡:工業調査会 DVD 読本/徳丸春樹など:オーム社 画像入出力デバイスの基礎/藤枝一郎:森北出版 米本和也「CCD/CMOS イメージセンサの基礎と応用」(CQ 出版社) 「シリーズ 先端ディスプレイ技術 1~9」(共立出版) 岩井義弘「フラットパネルディスプレイ最新動向」(工業調査会) 総務省「情報通信白書」(ぎょうせい) 「光技術動向調査報告書」(光産業技術振興協会)		
教科書・参考書に関する補足情報	教科書を使わずに, 配布するレジメを中心に講義を行う。レジメには, 意図的に空欄が設けてあるので, 講義中に埋めること。		
成績評価の方法	・講義に対する理解力の評価は, 講義への取り組み状況, 小テストなど, および最終試験の成績を総合して行う。配点の比率 目安として, 講義への取り組み状況など 15%, 小テストなど 15%, 試験 70% 合格基準 単位の取得:総合点の 60%以上。 ・定期試験の受験資格は, 講義への出席が2/3以上であることを基本とする。但し, 出席には, 小テストなどの提出を含む。		
再試験の有無	再試験は基本的に行わない。		
受講者へのメッセージ	・頻繁に小テストを行うので, 復習を行うこと。 ・基礎的な光の性質に関しては既知とするため, 復習しておくこと。 ・定期試験の受験資格は, 講義への出席が2/3以上であることを基本とする。但し, 出席には, 小テスト, 演習, 宿題などの提出を含む。		
JABEE合格	JABEE 合格は単位合格と同一とする。		
学習教育目標との関連	光応用工学科の教育目標(B)と関連する。		
WEB ページ	<a href="http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html">http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/sdt/class.html</a>		

連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 陶山 史朗
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしながら授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。</li> <li>2. 再試験は基本的に行わない。</li> </ol>

開講学期	4年・前期	時間割番号	5171580
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択B		
科目名	光情報システム特別講義1[Special Lectures on Optical Information Processing 1]		
担当教員	工学部非常勤講師		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的			
授業の概要	光情報処理に関連した最近のトピックスについて, 最先端で活躍しておられる研究者, 技術者を学外からお招きして, 講義していただく。		
キーワード			
到達目標			
授業の計画			
教科書			
参考書			
成績評価の方法	レポート(100%)で評価し, 60%以上を合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ			
JABEE合格	単位合格をもって JABEE 合格とする。		
学習教育目標との関連	光応用工学科の学習目標 B に該当する。		
WEB ページ			
連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)			
備考			

開講学期	4年・前期	時間割番号	5171590
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択B		
科目名	光情報システム特別講義2[Special Lectures on Optical Information Processing 2]		
担当教員	仁木 登, 工学部非常勤講師 [Noboru Niki]		
単位数	1	対象学生・年次	光応用工学科
授業の目的	画像処理に関連する先端技術に関する知識を深める。		
授業の概要	画像処理に関連した最近のトピックスについて, 最先端で活躍しておられる研究者, 技術者を学外からお招きして, 講義していただく。		
キーワード			
到達目標	画像処理に関連する先端技術を理解する。		
授業の計画			
教科書			
参考書			
成績評価の方法	レポート(100%)で評価し, 60%以上を合格とする。		
再試験の有無			
受講者へのメッセージ			
JABEE合格	単位合格をもって JABEE 合格とする。		

学習教育目標との関連 B	
WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	
備考	

開講学期	3年・前期	時間割番号	5171440
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択A		
科目名	光通信方式[Optical Communications Technology]		
担当教員	後藤 信夫 [Nobuo Gotoh]		
単位数	2	対象学生・年次	光応用工学科

**授業の目的** 高速・広帯域ネットワークの基盤を形成する光ファイバ通信システムについて、システム構成要素、ならびにシステム化技術を体系的に理解するとともに、具体的なシステム構成に関する知識を深める。

**授業の概要** 伝送媒体となる光ファイバの原理と特性、半導体光源や受光素子の構造と特徴を光通信システム設計の観点から講義する。また、光通信システムの設計に必須となる、光信号の変復調、分岐挿入や合成分波などのシステム機能要素についてその概要を説明する。その後、これらの知識をベースとして、バックボーン系やアクセス系における具体的なシステム構成とそのシステム化技術について理解を深める。

**キーワード**

- 到達目標**
- システム設計の観点から、光ファイバの基本原則を理解している。
  - システム設計の観点から、光源や受光素子、ならびに主な光回路を理解している。
  - 光通信における変復調方式を理解している。
  - 中継伝送ならびに多重化の基本原則を理解している。
  - アクセス系における種々の方式を比較し、その違いを説明できる。

<b>授業の計画</b>	6. 光回路	12. 中継伝送
1. 光通信の歴史	7. 光通信システムにおける変復調	13. アクセス系とそのシステム化
2. 光ファイバの構造と光の伝搬原理	8. 変復調における S/N	14. フォトニックネットワーク
3. 光ファイバの特性	9. コヒーレント光通信	15. まとめ
4. 光源と受光素子	10. バックボーン系とそのシステム化技術	16. 期末試験
5. 光の増幅	11. 伝送の多重化	

**教科書** 光通信/石尾秀樹:丸善

**参考書** 光ファイバ通信入門(改定4版)/末松安晴,伊賀健一著:オーム社

**成績評価の方法** 講義に対する理解力の評価は講義への参加状況,小テスト,レポートやノートの講義への取り組み状況により総合的に行う。平常点と試験の成績とを3:7の比率で評価する。全体で60%以上で合格とする。

**再試験の有無**

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

**JABEE合格** 単位合格と同一

学習教育目標との関連 B	
WEB ページ	
連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 後藤(光応用棟4階408, Tel:088-656-9415) (メールアドレス) goto.nobuo@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 8:30 - 17:00
備考	1. 情報通信理論を受講しておくことが望ましい。講義の単元が終わるごとに小テストやレポートを課す。これらにより、各授業項目の達成度を評価する。

開講学期	3年・後期	時間割番号	5171260
科目分野	専門教育科目		
選必区分	選択A		
科目名	光デバイス[Optoelectronic Devices]		
担当教員	原口 雅宣, 岡本 敏弘 [Masanobu Haraguchi, Toshihiro Okamoto]		
単位数	2	対象学生・年次	光応用工学科

**授業の目的** 半導体の光物性を理解し、LEDやLD、受光デバイス、太陽電池、撮像素子、電子画像表示素子の動作原理、構造、機能について理解することを目的とする。

**授業の概要** 前半は、半導体の特性を駆使して実現されている発光ダイオード(LED)とレーザダイオード(LD)の機能、構造、動作原理について講義を行う。  
後半は、重要な受光デバイス、太陽電池、撮像素子、電子画像表示素子の特性を述べる。

**キーワード** 量子力学、半導体、PN接合、発光ダイオード(LED)、レーザダイオード(LD)、光伝導素子、フォトダイオード、太陽電池、撮像素子、ディスプレイ

**先行/科目** 『幾何光学[Geometrical Optics]』(1.0)、『波動光学[Wave Optics]』(1.0)、『量子力学[Quantum Mechanics]』(1.0)、『光・電子物性工学1[Optical and Electronic Properties of Materials 1]』(1.0)、『光・電子物性工学2[Optical and Electronic Properties of Materials 2]』(1.0)

**関連/科目** 『レーザ工学[Laser Physics and Applications]』(0.5)、『光導波工学[Guided-wave optics]』(0.5)、『半導体ナノテクノロジー基礎論[Introduction to Semiconductor Nanotechnology]』(0.5)、『光応用工学実験2[Optical Science and Technology Laboratory 2]』(0.5)

到達目標	No.	到達目標
	1	LEDとLDについて、その機能、構造、動作原理の説明ができる。
	2	光伝導素子、フォトダイオード、撮像素子の動作原理を理解できる。
	3	太陽電池の動作原理が理解でき、太陽電池の高効率化の手法が分かる。
	4	LCD等のディスプレイの動作原理が理解できる。

授業の計画	回	内容
	1	ガイダンス、光の性質、光の放射と吸収
	2	半導体の基礎、半導体中の電流とPN接合ダイオード
	3	ルミネッセンス
	4	混晶半導体と材料設計、ヘテロ接合と超格子
	5	発光ダイオードの原理と構造
	6	半導体レーザの原理と構造
	7	発光ダイオード、半導体レーザの特徴、作製方法、用途
	8	中間試験、電子画像表示デバイス(CRT,PDP)の動作原理
	9	電子画像表示デバイス(LCD)の動作原理
	10	電子画像表示デバイス(LCD)の特徴
	11	有機ELと無機ELの動作原理、特徴
	12	光伝導素子の動作原理、特徴
	13	フォトダイオードの動作原理、特徴
	14	太陽電池の動作原理、特徴
	15	固体撮像デバイス(CCDイメージセンサ, CMOSイメージセンサ)
	16	期末試験

**教科書** 光エレクトロニクス/濱川圭弘,西野種夫:オーム社,2001.1,ISBN:9784274132254

**参考書** 光物性・デバイス工学の基礎/中澤叡一郎,鎌田憲彦 共編.:培風館,1999,ISBN:9784563035228  
光デバイス演習/末松安晴,上林利生 共著.:コロナ社,1988,ISBN:9784339002812  
ビジュアルレーザーの科学/レーザー技術総合研究所 編.:丸善,1997,ISBN:978-4621043714  
光エレクトロニクスデバイス/針生尚 著.:培風館,1999,ISBN:9784563033590

**教科書・参考書に関する補足情報** 教科書が分かりにくいと感じたら、すぐに参考になる図書を図書館等で探し、活用すべきである。

**成績評価の方法** 積極性を含む講義への取り組み状況(14%)、講義毎に毎回実施する小テスト(36%)、中間試験(25%)、期末試験(25%)により評価する。総合評価の60%を合格とする。

**再試験の有無**



<b>受講者へのメッセージ</b> 馴染みのない言葉や概念が数多く出てくるので、戸惑うことが多いかもしれない。必ず復習をして言葉や概念に馴染めるよう努力することが必要である。	
<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> 学科の学習目標 B	
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 原口 雅宣 (光棟 209, 088-656-9421) 岡本 敏弘 (光棟 207, 088-656-9412) (メールアドレス) 原口 雅宣 (haraguti@opt.tokushima-u.ac.jp) 岡本 敏弘 (toshi-okamoto@tokushima-u.ac.jp)
<b>備考</b>	授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行う。また教科書は既に読んでいるものとして講義を進めていく。 したがって、授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171360
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	光導波工学[Guided-wave optics]		
<b>担当教員</b>	後藤 信夫 [Nobuo Gotoh]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 光通信において用いられている光ファイバ中を光の通過する領域のサイズは、数ミクロン(1 ミクロンは 1000 分の 1 ミリ)である。このような狭い空間を伝わる光は、空気中のような境界のない空間を伝わる光とは異なる特徴的な振る舞いをする。本講義では、そのような狭い空間に閉じこめられた光の性質を理解し、現在の光通信技術や将来の光計算技術のための基礎的な知識、数学的技術を身につける。

**授業の概要** 光導波路の中を伝搬する光の振舞い方について講義を行う。はじめに、光導波路解析の基礎として Maxwell 方程式から波動方程式、境界条件について復習する。光導波モードの理解のため光波屈折、反射についての解析を行い、モード形成の基礎を学ぶ。光導波路として階段屈折率導波路と分布屈折率導波路に関してモードと Maxwell 方程式による解析を説明する。光ファイバ型の導波路として階段屈折率光ファイバに関して導波モードを解説する。最後に導波路に加えて光通信システムの構成要素である光変調と光検出について説明した後、光通信の現状について学習する。

**キーワード** 光波伝搬, 光導波路, 光ファイバ

#### 到達目標

1. 光導波路解析のための電磁気学的基礎を理解していること。
2. 光導波路のモードと導波条件を理解していること。
3. 2次元導波路におけるモードと Maxwell 方程式による解析手法を理解していること。
4. 光ファイバの導波モードを理解していること。
5. 光通信システムの構成を理解していること。

<b>授業の計画</b>	9. 分布屈折率導波路 2(光線方程式による解析)
1. 光通信の基礎, 光導波路の構成	10. 階段屈折率光ファイバの導波モード 1
2. 光導波路解析のための基礎	11. 階段屈折率光ファイバの導波モード 2
3. 光導波路とモード	12. 光変調の基礎
4. 階段屈折率導波路 1(モードと導波条件)	13. 光検出の基礎
5. 階段屈折率導波路 2(Maxwell 方程式による解析)	14. 光通信の現状
6. 階段屈折率導波路 3(群速度と位相速度)	15. まとめ
7. 分布屈折率導波路 1(モード)	16. 期末試験
8. 分布屈折率導波路 2(Maxwell 方程式による解析)	

**教科書** 光ファイバ通信入門/末松安晴, 伊賀健一著:オーム社

**参考書** 光導波路の基礎/岡本勝就著:コロナ社 光波工学/國分泰雄著:共立出版

**成績評価の方法** 講義に対する理解力の評価は講義への参加状況, 小テスト, レポートやノートの講義への取り組み状況により総合的に行う。平常点と試験の成績とを 3:7 の比率で評価する。全体で 60%以上で合格とする。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>JABEE合格</b> 単位合格と同一	
<b>学習教育目標との関連</b> B	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 後藤(光応用棟 4 階 408, Tel:088-656-9415) (メールアドレス) goto.nobuo@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 8:30 - 17:00
<b>備考</b>	1. 講義の単元が終わるごとに小テストやレポートを課す。これらにより、各授業項目の達成度を評価する。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171010
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	微分方程式1[Differential Equations (I)]		
<b>担当教員</b>	岡本 邦也 [Kuniya Okamoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 単独の常微分方程式について、基礎的事項を理解する。理論体系の理解のみならず、具体的な解法の習得をも目的とする。

**授業の概要** 微分方程式の理論は、自然界に現れる現象の解析に有力な手段を与え、現代工学の基礎として重要な役割を果たしている。その広範な理論の入門段階として、この講義では微分方程式の具体的な解法を中心に講義する。

**キーワード** 求積法, 線形微分方程式, 演算子法

**到達目標** 単独の定数係数線形常微分方程式に関する基本的性質の理解と代表的な解法の習得。

<b>授業の計画</b>	6. 完全形	12. 特殊解の発見法
1. 微分方程式とは	7. 応用例	13. 演算子法(1)
2. 変数分離形(1)	8. 補足	14. 演算子法(2)
3. 変数分離形(2)	9. 線形斉次方程式(1)	15. 境界値問題
4. 一階線形方程式(1)	10. 線形斉次方程式(2)	16. 期末試験
5. 一階線形方程式(2)	11. 線形非斉次方程式	

**教科書** 微分方程式の解法/定松隆・猪狩勝寿:学術図書出版社, 1999

**参考書** マイベルク・ファヘンアウア 共著『常微分方程式』(工科系の数学 5), サイエンス社

**成績評価の方法** 講義への取り組み状況, 演習の回答, レポート等の平常点(30%)と期末試験の成績(70%)を総合して行う。全体で 60%以上で合格とする。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 講義の妨げや他の受講者の迷惑になるので、授業中の私語は厳禁とする。悪質と判断される場合は、平常点や受験資格等について相応の処置を施す。

**JABEE合格** JABEE 合格は単位合格と同一とする。

<b>学習教育目標との関連</b> A	
<b>WEB ページ</b>	http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡本(A 棟 212 室, TEL/FAX: 088-656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 【WEB 頁】の HP を参照のこと
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171020
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	微分方程式2[Differential Equations (II)]		
<b>担当教員</b>	岡本 邦也 [Kuniya Okamoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

<b>授業の目的</b> 連立の微分方程式である微分方程式系について、その解空間の構造解明を目指す。また、ラプラス変換を用いた定数係数微分方程式の解法の習得を目的とする。		
<b>授業の概要</b> 微分方程式系について、特に1階線形微分方程式系の基礎理論を講述する。また、有用な積分変換としてラプラス変換を導入し、この変換による微分方程式の一つの解法を紹介する。		
<b>キーワード</b> 微分方程式系、ラプラス変換		
<b>到達目標</b>		
1. 線形微分方程式系に関する基本的事項の理解。 2. ラプラス変換を用いた線形微分方程式の解法の習得。		
<b>授業の計画</b>		
1. 微分方程式系	6. 自律形	12. ラプラス逆変換(1)
2. 1階線形微分方程式系	7. 相平面と解軌道	13. ラプラス逆変換(2)
3. 解空間の構造	8. 2階線形微分方程式系	14. 微分方程式への応用
4. 行列の固有値問題	9. ラプラス変換	15. デルタ関数
5. 行列の指数関数	10. 基本的性質(1)	16. 期末試験
11. 基本的性質(2)		
<b>教科書</b> 微分方程式の解法／定松隆・猪狩勝寿：学術図書出版社、1999		
<b>参考書</b> マイバベル・ファヘンアウア 共著『常微分方程式』(工科系の数学5)、サイエンス社		
<b>成績評価の方法</b> 講義への取り組み状況、演習の回答、レポート等の平常点(30%)と期末試験の成績(70%)を総合して行う。全体で60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b> 講義の妨げや他の受講者の迷惑になるので、授業中の私語は厳禁とする。悪質と判断される場合は、平常点や受験資格等について相応の処置を施す。		
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b> A		
<b>WEB ページ</b>	http://math9.pm.tokushima-u.ac.jp/lecture/	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 岡本(A棟212室、TEL/FAX: 088-656-9441, E-mail: okamoto@pm.tokushima-u.ac.jp) (オフィスアワー) 【WEB 頁】のHPを参照のこと	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	2年・後期	<b>時間割番号</b>	5171030
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	複素関数論[Complex Analysis]		
<b>担当教員</b>	工学基礎教育センター教員		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 複素関数論への入門講義として、複素変数関数の微分積分学を修得させる。			
<b>授業の概要</b> 微積分で扱う対象を複素数変数の関数にまで広げ、正則関数および有理型関数の理論を展開することにより、実数の世界では困難であったある種の積分計算が複素数の立場からみると簡潔に処理されることを述べる。			
<b>キーワード</b> 正則関数、留数定理			
<b>到達目標</b>			
1. 複素微分、正則関数の概要が理解できる。 2. 留数概念の理解とその応用ができる。			
<b>授業の計画</b>			
1. 複素数、複素平面	6. 複素積分	12. テイラー展開	
2. オイラーの式、複素関数	7. コーシーの積分定理	13. ローラン展開	
3. 初等関数	8. コーシーの積分公式	14. 極、留数定理	
4. 複素微分、正則関数	9. 実積分への応用1	15. 実積分への応用2	
5. コーシー・リーマンの関係式	10. 複素数列、複素級数	16. 期末試験	
11. 絶対収束、ベキ級数			
<b>教科書</b> 初歩からの複素解析／香田温人・小野公輔：学術図書出版社			
<b>参考書</b> マイバベル・ファヘンアウア 共著『関数論』(工科系の数学6)、サイエンス社			

<b>成績評価の方法</b> 講義への取り組みを30%、期末試験を70%として評価し、総合点60%以上で合格とする。	
<b>再試験の有無</b>	
<b>受講者へのメッセージ</b> 時間数の制約から、複素関数の計算を修得するための必要最小限な議論を行なうので、講義内容のすべてを吸収することが理解への早道である。日頃から予習・復習の計画を立てて勉学に勤しんでほしい。	
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。	
<b>学習教育目標との関連</b>	
<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171390
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	プログラミング言語及び演習[Programming Languages and Exercise]		
<b>担当教員</b>	河田 佳樹、鈴木 秀宣 [Yoshiki Kawata, Hidenobu Suzuki]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b> 光技術は音楽・映像等の膨大な情報の伝達・処理をリアルタイムに行うIT技術の基盤であり、次世代ユビキタス情報社会に不可欠な最先端の技術である。さらに、生体ナノイメージング、分子イメージングなど生体工学、医療分野への応用も期待されている。将来の光技術の開発に向け、コンピュータ利用のためのプログラミング技術は必須である。プログラミング言語及び演習では、C言語を用いたプログラミングの基礎知識を習得する。			
<b>授業の概要</b> インターネット及び、プログラミング環境の操作方法とC言語について講義し、実際にコンピュータを使用してインターネット及び、プログラミング環境の操作とC言語プログラミングの演習を行う。			
<b>キーワード</b> コンピュータ、プログラミング、C言語、インターネット			
<b>先行科目</b> 『コンピュータ入門[Computer Exercise]』(1.0)			
<b>到達目標</b>			
1. 光技術に関連したコンピュータの使用・応用が円滑に行える基礎知識を習得する。 2. C言語の基本的な文法を理解し、与えられた課題に対するプログラミングが行える力を養う。			
<b>授業の計画</b>			
1. 1章 プログラミング環境の操作方法について・演習	9. 8章 関数について・演習		
2. 2章 C言語の基本・演習	10. 9章 ポインタについて・演習		
3. 3章 変数について・演習	11. 10章 配列とポインタの関係について・演習		
4. 4章 式と演算子について・演習	12. 11章 構造体について・演習		
5. 5章 場合に応じた処理について・演習	13. 12章 ファイル処理について		
6. 6章 反復処理について・演習	14. 総合演習		
7. 小テスト	15. インターネット操作方法について・演習		
8. 7章 配列について・演習	16. 定期試験		
<b>教科書</b> やさしいC(高橋麻奈著、ソフトバンク)			
<b>参考書</b> B.W.カーニハン、D.M.リッチー 著、石田晴久 訳：プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠(共立出版)			
<b>成績評価の方法</b> 演習は全て出席し、レポートを提出しなければ成績評価の対象外となる。演習レポートの提出状況と内容、定期試験の結果を総合して評価する。演習レポートの内容が採点基準に満たない場合、再提出を求めることがある。成績は演習レポート40%、試験60%で評価し、全体で60%以上で合格とする。			
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b> 演習は全て出席すること。			
<b>JABEE合格</b> JABEE 合格は単位合格と同一とする。			
<b>学習教育目標との関連</b> 学科教育目標B「系統的な専門教育課程のもとで光技術に関わる課題を創造的に見出し、与えられた制約の下で解決できる能力の育成、分類：計算機・画像処理関連の知識」と関連する。特に、光コンピューティング、光通信、信号処理、画像処理システムなどの分野におけるそれぞれの用途に適合した光システム構築に向けた能力の養成に関連する。			
<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html		

<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 河田佳樹 TEL:088-656-9431, E-mail: kawata@opt.tokushima-u.ac.jp オフィスアワー:16:00から17:00 鈴木秀宣 TEL:088-656-9432, E-mail: hiddenobu-s@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には、2時間の授業時間毎に1時間の予習・復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	1年・後期	<b>時間割番号</b>	5171290
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	分子工学[Molecular Engineering]		
<b>担当教員</b>	手塚 美彦 [Yoshihiko Tezuka]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 物質を構成する最小単位である原子および分子の構造について学び、材料をミクロの視点から見る目を養う。また、光と分子とのかかわりやスペクトルに関する基礎知識を身につける。

**授業の概要** 前半は原子スペクトルを元に、量子力学の基礎から原子の電子状態について解説する。後半は分子の電子状態、分子の構造、化学結合の種類について解説し、さらに有機化合物の立体構造と光学活性について解説する。

#### キーワード

**到達目標** 物質の存在状態をそれを構成する分子の構造から予測できる。各原子の性質の違いを電子状態を用いて説明できる。化学結合の種類を挙げ、それぞれの特徴が説明できる。分子の電子状態から分子構造が予測できる。原子や分子と光との相互作用をエネルギー準位を用いて説明できる。分子の極性と分子間の相互作用を説明できる。簡単な構造の有機化合物が命名できる。有機分子の立体構造と光学活性との関係について説明できる。

<b>授業の計画</b>	<b>6.</b>	ヘリウム原子	<b>12.</b>	分子間結合
1. エネルギーと量子論	<b>7.</b>	原子の電子配置	<b>13.</b>	金属と半導体
2. 量子力学の完成まで	<b>8.</b>	中間試験	<b>14.</b>	有機化合物の構造と種類
3. 箱の中の粒子のエネルギー	<b>9.</b>	二原子分子の結合	<b>15.</b>	有機化合物の立体構造とキラリティー
4. 水素原子	<b>10.</b>	分子の構造	<b>16.</b>	期末試験
5. 電子のスピン運動	<b>11.</b>	炭素-炭素結合		

**教科書** 基礎物理化学演習Ⅰー原子・分子の量子論ー/山内 淳:サイエンス社, ISBN:9784781912097  
ベーシック有機化学/山口良平・山本行男・田村 類:化学同人, ISBN:9784759814392

**参考書** 大学生のための物理化学/宮崎榮三:裳華房, ISBN:4785361107

**成績評価の方法** 授業の到達目標が達成され、原子・分子の世界の概念が理解できているかを評価する。配点は中間試験40%、期末試験40%、講義への取り組み状況20%とし、全体で60%以上を合格とする。

#### 再試験の有無

#### 受講者へのメッセージ

**JABEE合格** 単位合格と同一とする。

#### 学習教育目標との関連 B

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 307号室 TEL:088-656-9423, E-mail: ytezuka@tokushima-u.ac.jp
<b>備考</b>	1. 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171330
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	分子分光学[Molecular Spectroscopy]		
<b>担当教員</b>	橋本 修一 [Shuichi Hashimoto]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 物質の構造や性質を調べる手段として、分光学はなくてはならないものとなっている。この講義では、種々の波長の光と物質との相互作用からそれらの波長を用いた分光法の原理を理解し、装置の構成や測定法について学ぶ。さらに演習を通じて、スペクトルから分子の構造決定ができる能力を養う。

**授業の概要** まず分光の基本原則として、光源、分光器、光検出器等について学ぶ。そして、可視紫外分光法、蛍光およびりん光分光法、赤外・ラマン分光法、磁気共鳴法などの個々の分光分析法について原理、方法、応用について学ぶ。

#### キーワード

**到達目標** 各種X線分光法の原理を理解し、分析対象に対して適切な方法を選択することができる。紫外・可視領域の光を用いた分光法の原理を理解し、分子構造の解析や試料の濃度決定に利用することができる。磁場を用いた分光法の原理を量子化学の立場から説明することができる。分光分析に使用されるレーザーの種類を知り、レーザーの基本的な発振原理が説明できる。赤外吸収スペクトル及び核磁気共鳴スペクトルを用いて、単純な有機化合物の構造解析ができる。

<b>授業の計画</b>	第9回:時間分解分光法
第1回:導入、分光測定の基礎	第10回:赤外分光法の原理
第2回:分光のための光源、レーザー	第11回:赤外分光法の応用
第3回:分光器と検出器	第12回:ラマン分光法
第4回:可視紫外吸収分光法の原理	第13回:磁気共鳴の原理
第5回:可視紫外吸収分光法の実際と応用	第14回:磁気共鳴の応用
第6回:蛍光およびりん光分光法の原理	第15回:核磁気共鳴スペクトル解析法
第7回:蛍光量子収率、蛍光寿命の測定法	定期試験
第8回:まとめと小テスト	

**教科書** 分析化学Ⅱ/北村武彦, 宮村一夫:丸善, ISBN:9784621082072

**参考書** 量子化学Ⅱ/中田宗隆:東京化学同人, ISBN:9784807906017  
機器分析のてびき set:化学同人, ISBN:9784759802917

**成績評価の方法** 授業の到達目標が達成され、特に各種分光法の原理が理解できているかどうかを評価する。期末テストを50%とする。他に小テスト(25%)および授業中の演習(25%)を考慮する。全体として60%以上を合格とする。

**再試験の有無** インフルエンザ等やむをえない理由で期末試験を欠席した場合再試験を行う。

**受講者へのメッセージ** 授業中は必ずノートを取る。授業中に演習等を行うので積極的に取り組む。英語辞書、関数機能付き電卓・PCを持って授業に臨むことが望ましい。最新の研究成果を取り入れるため、英語の原著論部を購読することができる。予習等が必須である。

**JABEE合格** JABEE合格は単位合格と同一とする。

#### 学習教育目標との関連 B

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合研究実験棟 405号室 TEL:088-656-7389 (メールアドレス) hashi@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 月曜日 5-6:30PM
<b>備考</b>	1. 「分子工学」及び「光化学」の履修を前提として講義する。 2. 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	2年・前期	<b>時間割番号</b>	5171040
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	ベクトル解析[Vector Analysis]		
<b>担当教員</b>	今井 仁司 [Hitoshi Imai]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	工学の解析で必要不可欠なベクトルの概念と基礎的な性質を学ぶとともに、ベクトル場の解析学を通して古典力学、流体力学や電磁気学に現れる基本的な物理法則の数学的な理解・運用を目標とする。		
<b>授業の概要</b>	三次元空間のベクトルで表される物理量の局所的変化(微分)と大局的效果(積分)を記述する手法としてベクトル場の微分積分学を展開し、微分積分学の基本定理のベクトル場に対する一般化を確立する。		
<b>キーワード</b>	ベクトル, 内積, 外積, 積分定理		
<b>到達目標</b>	1. ベクトルの微分が理解できる。 2. ベクトルの積分が理解できる。		



<b>授業の計画</b>	<b>6.</b> 空間曲線, フレネ・セレの公式	<b>12.</b> 立体積分
<b>1.</b> ベクトルとスカラー	<b>7.</b> 力学への応用	<b>13.</b> 積分による定義
<b>2.</b> ベクトルの演算	<b>8.</b> 勾配, 発散, 回転	<b>14.</b> ガウスの発散定理
<b>3.</b> 内積	<b>9.</b> 方向微分	<b>15.</b> ストークスの定理, グリーンの定理
<b>4.</b> 外積	<b>10.</b> 線積分	<b>16.</b> 期末試験
<b>5.</b> ベクトル値関数の微分・積分	<b>11.</b> 面積分	
<b>教科書</b>	ベクトル解析概論／小川 枝郎:培風館	
<b>参考書</b>	多変数関数の微積分とベクトル解析／加藤 祐輔:講談社 ベクトル解析の基礎と応用 新数理ライブラリ M5／渡辺 正:サイエンス社 加藤 祐輔『多変数関数の微積分とベクトル解析』講談社 渡辺 正『ベクトル解析の基礎と応用』新数理ライブラリ M5 サイエンス社	
<b>成績評価の方法</b>	期末試験の点数が60点以上もしくは49点以下であれば, その点数を成績とする. 期末試験の点数が50～59点の場合には, 試験の点数を80%にしたものと平常点(講義と演習の取り組み具合を評価したもので20点満点)を合計した点数(ただし, その点数が60点以上であれば60点とする)を成績とする.	
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b>	講義内容を確実に理解するには, 予習を行い, 講義ノートをきちんととり, 講義時間内に設けられた演習に積極的に取り組むこと. それ以上に, 各自が普段から自主的に演習に取り組むこと. 授業を受ける際には, 2時間の授業時間毎に2時間の予習と2時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.	
<b>JABEE合格</b>	単位の取得をもってJABEE合格とする.	
<b>学習教育目標との関連</b>		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 今井(A棟 220, 088-656-7541, 携帯電話やE-mail での問い合わせは受け付けない) (オフィスアワー) オフィスアワー:木曜 14:00～15:00	
<b>備考</b>		

<b>開講学期</b>	<b>3年・後期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5171230</b>
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	マイクロ・ナノ光学[Micro-nano Photonics]		
<b>担当教員</b>	橋本 修一 [Shuichi Hashimoto]		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>光応用工学科</b>
<b>授業の目的</b>	21世紀は光の時代といわれ、特に最近の10年におけるナノフォトニクスの発展が著しい。そこで、この20年の間に構築されたマイクロ・ナノスケールの光科学・光技術について学び理解を深める。将来、光技術者として社会で活躍するための基礎技術を身につけることをめざす。		
<b>授業の概要</b>	マイクロ・ナノフォトニクスの基本概念とその応用分野について学ぶ。まず、従来の顕微光学系を用いた遠視野光学と新しい概念である近接場光学について学ぶ。次に、これを応用したレーザートラッピング、レーザーアブレーション、マイクロナノ加工、単一分子分光、超高解像顕微鏡技術について学ぶ。		
<b>キーワード</b>	顕微分光、近接場光学、単一分子分光、レーザートラッピング、超高解像顕微鏡技術		
<b>到達目標</b>	マイクロ・ナノ光学の基本概念に習熟し、その応用技術の現状を把握する。これによって将来、ナノテクノロジーの分野で特に光技術を応用した研究開発を自立して行えるようになることをめざす。		
<b>授業の計画</b>	第6回:レーザートラッピング技術の応用	第12回:単一分子分光の技術の応用	
第1回:導入、顕微光学系	第7回:レーザーアブレーションの原理	第13回:単一微粒子分光	
第2回:顕微分光法	第8回:まとめと小テスト	第14回:超高解像顕微鏡技術の基礎	
第3回:近接場光学	第9回:マイクロナノ加工の原理	第15回:超高解像顕微鏡技術の要素	
第4回:レーザートラッピングの原理	第10回:マイクロナノ加工の実際	技術	
第5回:レーザートラッピングの基礎	第11回:単一分子分光の原理	定期試験	
<b>教科書</b>	化学者のための光科学／長村利彦:講談社, 2011		
<b>参考書</b>			
<b>成績評価の方法</b>	期末テストを50%とする。他に小テスト(25%)および授業中の演習(25%)を考慮する。全体として60%以上を合格とする		

<b>再試験の有無</b>	インフルエンザ等やむをえない理由で期末試験を欠席した場合再試験を行う。		
<b>受講者へのメッセージ</b>	授業中は必ずノートを取る。授業中に演習等を行うので積極的に取り組む。関数機能付き電卓・PCを持って授業に臨むことが望ましい。		
<b>JABEE合格</b>	単位合格と同一		
<b>学習教育目標との関連</b>	光応用工学科の教育目標 B に該当		
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (Eメールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合研究実験棟 405 号室 TEL:088-656-7389 (メールアドレス) E-mail: hashi@eco.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 5-6:30 PM, 月曜日		
<b>備考</b>	授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしたうえで授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である.		

<b>開講学期</b>	<b>2年・前期</b>	<b>時間割番号</b>	<b>5171070</b>
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	量子力学[Quantum Mechanics]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	<b>2</b>	<b>対象学生・年次</b>	<b>光応用工学科</b>
<b>授業の目的</b>	原子や電子等を取扱う際に必要となる, ミクロな世界の基礎法則である量子力学を修得する.		
<b>授業の概要</b>	量子力学は原子分子などのミクロな世界を記述する基本法則であり, われわれの身の回りのマクロな世界を記述するニュートンの運動法則とは異なる法則に基づいている. 量子力学の法則ならびにいくつかの例を講義し, 量子力学の基礎的内容を提供する.		
<b>キーワード</b>	シュレディンガー方程式, 波動関数とエネルギー固有値, 自由粒子, 調和振動子, 水素原子		
<b>到達目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シュレディンガー方程式と波動関数の意味を理解する.</li> <li>2. 波動関数や期待値等を計算することができる.</li> <li>3. 簡単な系に応用することができる.</li> </ol>		
<b>授業の計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 量子力学の誕生と歴史 (教科書第一章)</li> <li>2. ド・ブロイの物質波からシュレディンガー方程式へ</li> <li>3. 波動関数の解釈 (教科書第二章 p.21-40)</li> <li>4. 簡単な例(1) 自由粒子と平面波</li> <li>5. 簡単な例(2) 1次元井戸型ポテンシャル中の粒子 (教科書第二章 p.40-46)</li> <li>6. 簡単な例(3) 1次元調和振動子 (教科書第二章 p.46-53)</li> <li>7. 波動関数と物理量 (教科書第三章 p.54-69)</li> <li>8. 基本事項のまとめ</li> <li>9. 角運動量と座標系の回転</li> <li>10. 中心力場内の粒子 (教科書第四章 p.89-98)</li> <li>11. 水素原子のシュレディンガー方程式</li> <li>12. 水素原子 (教科書第四章 p.98-103)</li> <li>13. 水素原子と一般の原子についてのまとめ</li> <li>14. 摂動論 (教科書第七章)</li> <li>15. 将来への展望</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>		
<b>教科書</b>	量子力学 I / 小出 昭一郎:裳華房		
<b>参考書</b>	バイザー著「現代物理学の基礎」好学社		
<b>成績評価の方法</b>	期末試験の成績(80%)と授業への取り組み状況(20%)を総合して行う。全体で60%以上で合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>			
<b>JABEE合格</b>	JABEE合格は単位合格と同一とする。		
<b>学習教育目標との関連</b>	A		

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 大野隆(M119, Tel: 088-656-4765)
<b>備考</b>	1. 目標 3 は発展的内容である。 2. 授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・前期	<b>時間割番号</b>	5171210
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	必修		
<b>科目名</b>	レーザー工学[Laser Physics and Applications]		
<b>担当教員</b>	松尾 繁樹 [Shigeki Matsuo]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 将来のレーザー技術・装置にも対応できるように、レーザー光の特徴を説明するキーワードであるコヒーレンスと、レーザーを実現するのに不可欠な誘導放出・共振器および、レーザーの基本構造と動作原理の基本的理解を目的とする。また、今後のレーザー光の応用上重要な非線形光学についてその初歩的な内容の理解も目的とする。

**授業の概要** 現在の光産業の中核をなすレーザーは、情報機器、通信回線、精密加工や医療での応用など、様々な分野で使われている。現在、レーザー技術は急激な発展過程にあるため、レーザーに関係する基本的な概念や原理の理解を助けるよう講義を組み立てる。また、将来のレーザー応用上重要であると考えられる、非線形光学についても時間をかける。

**キーワード** 量子力学、光共振器、誘導放出、光学結晶、非線形光学

#### 到達目標

1. コヒーレンス、誘導放出、共振器のキーワードが説明できる
2. キーワードを駆使してレーザーの特徴や基本構造およびその動作原理の説明ができる
3. 高調波発生の原理と応用例について、専門用語を用いて簡単な説明ができる

<b>授業の計画</b>	9. 各種レーザー装置その 2
1. レーザ概論、レーザーの歴史	10. コヒーレント光の変調
2. コヒーレンス	11. 非線形媒質中の光伝搬
3. 光吸収、光放射、光増幅	12. 二次の非線形光学効果と三次の非線形光学効果
4. 光共振器	13. 非線形光学デバイス
5. レーザ発振の条件	14. レーザの応用
6. レーザ動作解析	15. レーザに関する安全
7. 発振周波数特性	16. 期末テスト、試験問題の解説、将来のレーザー
8. 中間テスト、試験問題の解説、各種レーザー装置その 1	

**教科書** 量子エレクトロニクス/後藤俊夫、森正和 共著、昭晃堂、1998、ISBN:4785621516

**参考書** レーザー物理入門/霜田光一:岩波書店、1983、ISBN:4000061631

**成績評価の方法** 講義への取り組み状況(10%)、レポート(6%)、小テスト(24%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)により評価する。総合評価し満点の 60%を合格とする。

#### 再試験の有無

**受講者へのメッセージ** 波動光学、電磁波、材料物性に関する科目を履修していることを前提として講義する。

**JABEE合格** 単位合格と同一である

**学習教育目標との関連** 学科の学習目標 B

<b>WEB ページ</b>	http://www.opt.tokushima-u.ac.jp/std/class.html
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合研究実験棟 4 階 404 号室 TEL 088-656-7538 (メールアドレス) matsuo.shigeki@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週月曜日 16:20-17:50 総合研究実験棟 4 階 404 号室
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5171220
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択A		
<b>科目名</b>	レーザー計測[Laser measurement]		
<b>担当教員</b>	松尾 繁樹 [Shigeki Matsuo]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** レーザを始めとする光学技術は、長さ、距離、形状など、多くの計測に用いられている。各種計測法の原理を学ぶとともに、そこで用いられている技術を理解することで光学の知識を深める。

**授業の概要** 工学において必要となる計測および誤差の概念について学ぶ。そして、計測において基本となる干渉、回折等の光学現象を復習しながら、距離、長さ、形状などのレーザー計測の原理とその光学系を学ぶ。

**キーワード** 計測、誤差、レーザー、干渉、回折

**先行/科目** 『光の基礎[Basic Properties, Phenomena and Applications of Light ]』(1.0)、『波動光学[Wave Optics]』(1.0)

**到達目標** ・計測における誤差の取り扱いを習得する。  
・各種レーザー計測法の原理および光学系の説明ができる。

<b>授業の計画</b>	第6回:干渉法による距離・長さ計測	第12回:速度の計測
第1回:計測の一般論	第7回:その他の方法による距離・長さ計測	第13回:光ファイバ計測(1)
第2回:計測における誤差の取り扱い	第8回:干渉法による形状計測(1)	第14回:光ファイバ計測(2)
第3回:レーザー計測の意義と概要	第9回:光触針法	第15回:光ファイバ計測(3)
第4回:レーダ法による距離計測	第10回:モアレトポグラフィ	第16回:定期試験
第5回:変調法による距離計測	第11回:ホログラフィ	

**教科書** 応用光学：光計測入門/谷田貝豊彦 著、丸善、2005、ISBN:9784621075302

**参考書** 光計測の基礎/藤村貞夫 編著、森北出版、1993、ISBN:9784627913608

**成績評価の方法** 講義への取り組み状況(30%)、期末試験(70%)により評価する。総合評価し満点の 60%を合格とする。

#### 再試験の有無

#### 受講者へのメッセージ

**JABEE合格** JABEE 合格は単位合格と同一とする。

**学習教育目標との関連** 光応用工学科の教育目標(B)と関連する。

<b>WEB ページ</b>	
<b>連絡先</b> (E メールアドレス、オフィスアワー)	(学生用連絡先) 総合研究実験棟 4 階 404 号室 TEL 088-656-7538 (メールアドレス) matsuo.shigeki@tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 毎週月曜日 16:20-17:50 総合研究実験棟 4 階 404 号室
<b>備考</b>	授業を受ける際には、2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが、授業の理解と単位取得のために必要である。

<b>開講学期</b>	4年・後期	<b>時間割番号</b>	5171640
<b>科目分野</b>	学部共通科目		
<b>選必区分</b>	選択B		
<b>科目名</b>	労務管理[Personnel Management]		
<b>担当教員</b>	工学部非常勤講師		
<b>単位数</b>	1	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科

**授業の目的** 企業のグローバル化による競争激化、企業内の派遣社員・契約社員・パート・アルバイト等非正規社員の採用増加、正規社員の減少、従業員の悩み・将来の不安・ストレス等による精神面の健康問題、労働トラブルの急増、少子高齢化時代の到来等これからの労務安全管理の諸問題について理解する。

**授業の概要** 採用から退職までの労務安全衛生管理について講義する。平社員の立場と管理職の立場での労務安全管理(ヒューマンスキル)を講義計画に従い重要項目について最新のトピックスを織り込みながら進める。

#### キーワード

#### 到達目標

1. 組織の労務安全衛生管理(ヒューマンスキル)の基本と重要性について認識する。
2. 最新の労働環境の動向を理解する。

<b>授業の計画</b>	3. 就業規則	6. 退職と解雇
1. 労働基準法の概要	4. 労働時間・休日・休暇	7. さまざまな働き方
2. 応募から入社までの基礎知識	5. 賃金・業務命令等の社内ルール	8. リスクアセスメント(安全衛生管理)
<b>教科書</b> 「よくわかる労働基準法」労働調査会 1600 円		
<b>参考書</b> 「チャート安衛法」労働調査会 「チャート労働基準法」労働調査会		
<b>成績評価の方法</b> 出席率, レポートの内容		
<b>再試験の有無</b>		
<b>受講者へのメッセージ</b> 授業の中でレポート(7 回程度) 作成, 提出すること。		
<b>JABEE合格</b>		
<b>学習教育目標との関連</b>		
<b>WEB ページ</b>		
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 桑村泰章	
<b>備考</b>	1. 授業を受ける際には, 2 時間の授業時間毎に 2 時間の予習と 2 時間の復習をしようとして授業を受けることが, 授業の理解と単位取得のために必要である。	

<b>開講学期</b>	3年・後期	<b>時間割番号</b>	5170660
<b>科目分野</b>	専門教育科目		
<b>選必区分</b>	選択B		
<b>科目名</b>	半導体ナノテクノロジー基礎論[Introduction to Semiconductor Nanotechnology]		
<b>担当教員</b>	井須 俊郎, 北田 貴弘 [Toshiroh Isu, Takahiro Kitada]		
<b>単位数</b>	2	<b>対象学生・年次</b>	光応用工学科
<b>授業の目的</b>	半導体エレクトロニクスの先端分野で用いられているナノテクノロジーについて基礎的な概念を理解する。		
<b>授業の概要</b>	半導体のナノ構造が生み出す性質を理解するための基礎知識として, 半導体の電気的特性, ナノ構造における量子力学的効果など, 半導体ナノ構造の特徴について説明する。これらの半導体ナノ構造を用いた各種の電子デバイス, 光デバイスについて概説し, さらに半導体ナノ構造の作製の手法とそれらの構造や特性の測定評価方法について解説する。		
<b>キーワード</b>	ナノ量子構造, 半導体ナノ物性, 電子デバイス, 光デバイス		
<b>到達目標</b>	1. 半導体ナノ構造の特徴と応用例について理解する。		
<b>授業の計画</b>	6. 光デバイス応用(受光発光素子)	12. 微細加工による形成技術	
1. 半導体ナノ構造とは	7. 光デバイス応用(光制御素子)	13. ナノ構造測定手法	
2. 半導体の性質	8. 半導体ナノ構造の電子物性	14. 電気的特性評価	
3. 電子状態の量子化	9. 電子デバイス応用(HBT)	15. 光学的特性評価	
4. 低次元量子構造	10. 電子デバイス応用(FET)	16. 期末試験	
5. 半導体ナノ構造の光物性	11. 結晶成長法による形成技術		
<b>教科書</b>	特になし。		
<b>参考書</b>	半導体超格子の物理と応用/日本物理学会:培風館, 1984. 11, ISBN:4-563-02162-8 半導体超格子入門/小長井誠:培風館, 1987. 11, ISBN:4-563-03435-5		
<b>成績評価の方法</b>	授業の内容の理解度をレポート(60%)および試験(40%)にて評価し, 合わせて 60 点以上を合格とする。		
<b>再試験の有無</b>			
<b>受講者へのメッセージ</b>	量子力学・半導体工学を履修していることが望ましい。		
<b>JABEE合格</b>			
<b>学習教育目標との関連</b>			
<b>WEB ページ</b>			
<b>連絡先</b> (E メールアドレス, オフィスアワー)	(学生用連絡先) 井須 俊郎 建設棟224室 Tel:656-7670 北田 貴弘 建設棟224室 Tel:656-7671 (メールアドレス) 井須 俊郎 t.isu@frc.tokushima-u.ac.jp 北田 貴弘 kitada@frc.tokushima-u.ac.jp (オフィスアワー) 井須 俊郎 火-木 10:00-14:00 北田 貴弘 月 10:00-14:00		
<b>備考</b>			



